

# 塩 部 遺 跡 III

—学校法人駿台甲府学園駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査報告書—  
(山梨県甲府市塩部二丁目 1962-4 番地他)

2019

学校法人駿台甲府学園  
甲府市教育委員会  
昭和測量株式会社







S16・10 完備状況 北から



S16・10 完備状況 南から



SD1 上層遺物出土状況 北西から



SD1 下層木製品出土状況 南から



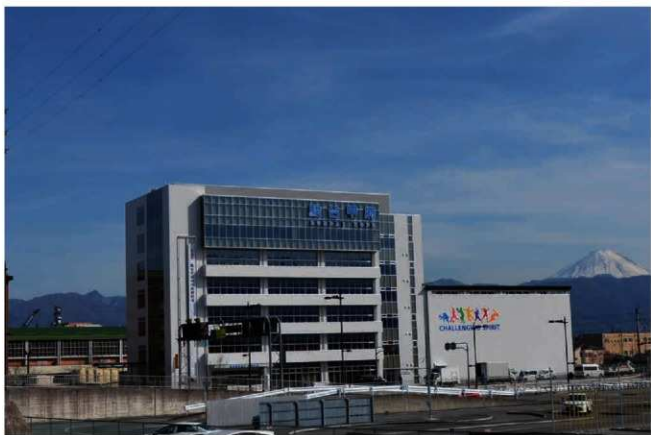
出土遺物 古墳時代前期



出土遺物 古墳時代中期



出土遺物 古墳時代後期



調査後状況（新校舎竣工）西から

## 序

塩部遺跡は、南方に御坂山塊と勇壮な富士山の眺望、西方には甲斐駒ヶ岳と南アルプスの山並みが望まれる相川扇状地扇端部、甲府市塩部地域の約 800 m 四方に広がります。

過去、調査区周辺では本調査が数回実施され、弥生時代後期から古墳時代、さらに平安時代にかけての約一千年以上にわたる生活の痕跡が多数発見されております。特に今回の調査区に隣接する北西側からは、古墳時代初頭の方形周溝墓が検出されるとともに、外来の北陸系及び畿内系土器の出土など、古代から集落が営まれ、遠方との交流が行われていたことが確認されています。

今回の調査区は遺跡範囲の南西側に位置し、古墳時代中期を中心とする竪穴式住居が 30 基以上検出され、勾玉、金環、ガラス玉等の装飾品など遺跡を解明する上で重要な遺構・遺物が多数検出されています。さらに大量に出土した木製品は、古墳時代の木工技術を探る上で希少な発見であります。

本書は、このような貴重な発掘調査の成果を記録保存として公開し、歴史研究の発展に供するとともに、開府 500 年を迎えた甲府市の古代からの歴史文化を未来へ継承する遺産として、活用していただきますことを願います。

最後になりましたが、発掘調査及び整理作業に従事されました方々をはじめ、ご協力をいただきました駿台甲府学園並びに関係各位に心より御礼を申し上げますとともに、本市文化行政に引き続きご助力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

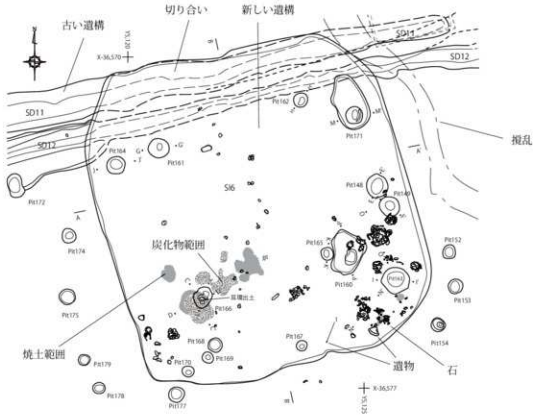
甲府市教育委員会  
教育長 小林 仁

## 例言

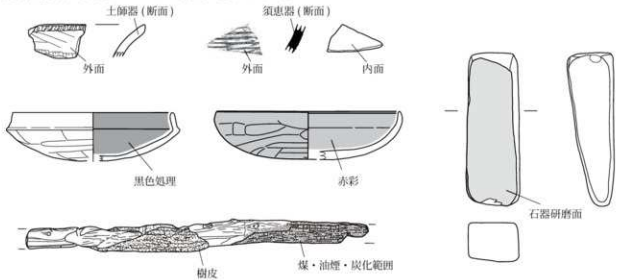
1. 本報告書は、山梨県甲府市塩部二丁目1962-4 他の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は学校法人駿台甲府学園駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査であり、甲府市教育委員会監理の下、昭和測量株式会社が調査を実施した。
3. 調査監理は甲府市教育委員会生涯学習室歴史文化財課の志村憲一が担当し、調査実施は昭和測量株式会社の泉英樹、高野高潔が現地調査及び整理作業を担当した。
4. 本調査に関わる費用は学校法人駿台甲府学園が負担した。
5. 発掘調査は平成28年10月1日～平成29年9月30日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は平成29年10月1日～平成31年3月31日まで実施した。調査面積は2,584㎡である。
6. 発掘調査および本報告書の執筆は、第1章～第3章第1節を高野高潔、第3章第2節を泉英樹、第4章を泉・高野、第6章第1節を高野、第2・3節を泉、第4節を新津健（昭和測量株式会社研究顧問）が担当した。第5章自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。遺物写真は、高野・萩野谷主税（昭和測量株式会社）が撮影を行った。
7. 木製品保存処理・金属製品保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。
8. 挿図使用地図は、図1：大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000地形図甲府近傍七号「松嶋村」（明治42年10月鉄道補測発行）、八号「甲府」（明治43年1月鉄道補測発行）、図2：国土地理院発行（平成14年6月1日発行）の数値地図25000（地図画像）「甲府」所収「甲府北部」、「甲府」である。
9. 遺構平面図のXY座標値は平面直角座標系（世界測地系）第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
10. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々にご指導と御協力を賜った。感謝の意を表したい。石神孝子、大隈清陽、大高正之、河西学、小林健二、佐々木満、田中浩、中山誠二、畑大介、林部光、原正人、平塚洋一、藤澤明、保坂和博、三浦麻衣子、望月健太、山下孝司、学校法人駿台甲府学園、株式会社早野組、株式会社ユニヴァーサル（順不同、敬称略）
11. 本調査における図面・写真・遺物はすべて甲府市教育委員会にて保管している。

## 凡例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各種図中に記載した。
2. 写真図版の縮尺は任意である。
3. 水系レベルの数字は海拔高を示し、単位はメートル (m) である。
4. 土層断面、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 1990 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
5. 遺構実測図の表現については下図の通りである。



6. 遺物実測図の表現については下図の通りである。



# 目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図・表目次	
第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	1
第3章 調査の方法	
第1節 調査の方法	6
第2節 基本順序	8
第4章 調査の成果	
第1節 調査の概要	9
第2節 建物	9
第3節 土坑・ピット	24
第4節 溝・流路	25
遺物観察表	220
第5章 自然科学分析	271
第6章 まとめ	
第1節 塩部遺跡の遺構と遺物	332
第2節 塩部遺跡の焼失建物について	337
第3節 塩部遺跡の木製品について	340
第4節 塩部遺跡出土植物種子とウシ骨についての一所見	341

写真図版



## 挿図目次

第1図	遺跡位置図・・・・・・・・・・	3	第39図	SI 11・・・・・・・・・・	64
第2図	周辺の遺跡分布図・・・・・・・・	4	第40図	SI 12a (1)・・・・・・・・	65
第3図	塩部遺跡既存調査地点・・・・・・・・	5	第41図	SI 12a (2)・・・・・・・・	66
第4図	調査区設定図・・・・・・・・・・	7	第42図	SI 12a (3)・SI 12b・・・・・・・・	67
第5図	遺構全体図 (1)・・・・・・・・・・	30	第43図	SI 13 (1)・・・・・・・・	68
第6図	地形図・・・・・・・・・・	31	第44図	SI 13 (2)・・・・・・・・	69
第7図	遺構全体図 (2)・・・・・・・・・・	32	第45図	SI 14・・・・・・・・	70
第8図	遺構全体図 (3)・・・・・・・・・・	33	第46図	SI 15・16 (1)・・・・・・・・	71
第9図	遺構全体図 (4)・・・・・・・・・・	34	第47図	SI 15・16 (2)・・・・・・・・	72
第10図	遺構全体図 (5)・・・・・・・・・・	35	第48図	SI 15・16 (3)・・・・・・・・	73
第11図	遺構全体図 (6)・・・・・・・・・・	36	第49図	SI 17 (1)・・・・・・・・	74
第12図	遺構全体図 (7)・・・・・・・・・・	37	第50図	SI 17 (2)・・・・・・・・	75
第13図	SI 11 (1)・・・・・・・・・・	38	第51図	SI 17 (3)・・・・・・・・	76
第14図	SI 11 (2)・・・・・・・・・・	39	第52図	SI 18・・・・・・・・	77
第15図	SI 11 (3)・・・・・・・・・・	40	第53図	SI 19・SB 2 (1)・・・・・・・・	78
第16図	SI 11 (4)・・・・・・・・・・	41	第54図	SI 19・SB 2 (2)・・・・・・・・	79
第17図	SI 12・・・・・・・・	42	第55図	SI 20・21 (1)・・・・・・・・	80
第18図	SI 13 (1)・・・・・・・・	43	第56図	SI 20・21 (2)・・・・・・・・	81
第19図	SI 13 (2)・・・・・・・・	44	第57図	SI 22 (1)・・・・・・・・	82
第20図	SI 14・・・・・・・・	45	第58図	SI 22 (2)・・・・・・・・	83
第21図	SI 15・SI 18 (1)・・・・・・・・	46	第59図	SI 23・24・26 (1)・・・・・・・・	84
第22図	SI 15・SI 18 (2)・・・・・・・・	47	第60図	SI 23・24・26 (2)・・・・・・・・	85
第23図	SI 16 (1)・・・・・・・・	48	第61図	SI 25 (1)・・・・・・・・	86
第24図	SI 16 (2)・・・・・・・・	49	第62図	SI 25 (2)・・・・・・・・	87
第25図	SI 16 (3)・・・・・・・・	50	第63図	SI 27・34 (1)・・・・・・・・	88
第26図	SI 17 (1)・・・・・・・・	51	第64図	SI 27・34 (2)・・・・・・・・	89
第27図	SI 17 (2)・・・・・・・・	52	第65図	SI 28 (1)・・・・・・・・	90
第28図	SI 17 (3)・・・・・・・・	53	第66図	SI 28 (2)・・・・・・・・	91
第29図	SI 17 (4)・・・・・・・・	54	第67図	SI 29・30・・・・・・・・	92
第30図	SI 17 (5)・・・・・・・・	55	第68図	SI 31・38・・・・・・・・	93
第31図	SI 17 (6)・・・・・・・・	56	第69図	SI 32 (1)・・・・・・・・	94
第32図	SI 17 (7)・・・・・・・・	57	第70図	SI 32 (2)・・・・・・・・	95
第33図	SI 19 (1)・・・・・・・・	58	第71図	SI 33・・・・・・・・	96
第34図	SI 19 (2)・・・・・・・・	59	第72図	SI 35・36・44 (1)・・・・・・・・	97
第35図	SI 10a (1)・SD 13・・・・・・・・	60	第73図	SI 35・36・44 (2)・・・・・・・・	98
第36図	SI 10a (2)・・・・・・・・	61	第74図	SI 35・36・44 (3)・・・・・・・・	99
第37図	SI 10a (3)・・・・・・・・	62	第75図	SI 37 (1)・・・・・・・・	100
第38図	SI 10b・・・・・・・・	63	第76図	SI 37 (2)・・・・・・・・	101

第 77 図	SI 39 (1) ·····	102	第 113 図	SI 6 (1) 出土遺物 ·····	138
第 78 図	SI 39 (2) ·····	103	第 114 図	SI 6 (2) 出土遺物 ·····	139
第 79 図	SI 40 (1) ·····	104	第 115 図	SI 7a (1) 出土遺物 ·····	140
第 80 図	SI 40 (2) ·····	105	第 116 図	SI 7a (2) 出土遺物 ·····	141
第 81 図	SI 43 ·····	106	第 117 図	SI 7a (3) 出土遺物 ·····	142
第 82 図	SB1 ·····	107	第 118 図	SI 7a (4) SI 7b 出土遺物 ···	143
第 83 図	SB3 · 4 (1) ·····	108	第 119 図	SI 7 Pit 出土遺物 ·····	144
第 84 図	SB3 · 4 (2) ·····	109	第 120 図	SI 8 · SI 9 (1) 出土遺物 ···	145
第 85 図	SX3 (1) ·····	110	第 121 図	SI 9 (2) 出土遺物 ·····	146
第 86 図	SX3 (2) ·····	111	第 122 図	SI 9 (3) 出土遺物 ·····	147
第 87 図	SX3a ·····	112	第 123 図	SI 9 (4) · SI 10 (1) 出土遺物 ·····	148
第 88 図	SX3b ·····	113	第 124 図	SI 10 (2) · SI 11 · SI 12 (1) 出土遺物 ·····	149
第 89 図	SD1 (1) ·····	114	第 125 図	SI 12 (2) 出土遺物 ·····	150
第 90 図	SD1 (2) ·····	115	第 126 図	SI 12 (3) · SI 13 · SI 14 (1) 出土遺物 ·····	151
第 91 図	SD1 (3) ·····	116	第 127 図	SI 14 (2) 出土遺物 ·····	152
第 92 図	SD1 (4) ·····	117	第 128 図	SI 15 · SI 16 (1) 出土遺物 ·	153
第 93 図	SD2 · 4 · 5 · 6 (1) ·····	118	第 129 図	SI 16 (2) · SI 17 · SI 18 出土遺物 ·····	154
第 94 図	SD2 · 4 · 5 · 6 (2) ·····	119	第 130 図	SI 19 出土遺物 ·····	155
第 95 図	SD10 · 11 · 12 ·····	120	第 131 図	SI 20 (1) 出土遺物 ·····	156
第 96 図	SD13 ·····	121	第 132 図	SI 20 (2) 出土遺物 ·····	157
第 97 図	SD11 · 12 · 14 · 17 · 27 · 28 · 30 · 32 (1) ·····	122	第 133 図	SI 20 (3) · SI 21 出土遺物 ·	158
第 98 図	SD11 · 12 · 14 · 17 · 27 · 28 · 30 · 32 (2) ·····	123	第 134 図	SI 22 (1) 出土遺物 ·····	159
第 99 図	SD11 · 12 · 14 · 17 · 27 · 28 · 30 · 32 (3) ·····	124	第 135 図	SI 22 (2) 出土遺物 ·····	160
第 100 図	SD11 · 12 · 14 · 17 · 27 · 28 · 30 · 32 (4) ·····	125	第 136 図	SI 22 (3) 出土遺物 ·····	161
第 101 図	SD11 · 12 · 14 · 17 · 27 · 28 · 30 · 32 (5) ·····	126	第 137 図	SI 22 (4) 出土遺物 ·····	162
第 102 図	SD33 · SX2 (1) ·····	127	第 138 図	SI 22 (5) · SI 23 (1) 出土遺物 ·····	163
第 103 図	SD33 · SX2 (2) ·····	128	第 139 図	SI 23 (2) 出土遺物 ·····	164
第 104 図	SD33 · SX2 (3) ·····	129	第 140 図	SI 24 · SI 25 (1) 出土遺物 ·	165
第 105 図	SD33 · SX2 (4) ·····	130	第 141 図	SI 25 (2) · SI 26 · SI 27 (1) 出土遺物 ·····	166
第 106 図	SD33 · SX2 (5) ·····	131	第 142 図	SI 27 (2) 出土遺物 ·····	167
第 107 図	SI 1 出土遺物 ·····	132	第 143 図	SI 27 (3) 出土遺物 ·····	168
第 108 図	SI 2 出土遺物 ·····	133	第 144 図	SI 28 出土遺物 ·····	169
第 109 図	SI 3 出土遺物 ·····	134	第 145 図	SI 29 · SI 30 (1) 出土遺物 ·	170
第 110 図	SI 4 · SI 5 (1) 出土遺物 ···	135	第 146 図	SI 30 (2) · SI 31 (1) 出土遺物 ·····	171
第 111 図	SI 5 (2) 出土遺物 ·····	136			
第 112 図	SI 5 (3) 出土遺物 ·····	137			

第 147 図	S I 31 (2)・S I 32 (1) 出土遺物・……………172	第 175 図	SD1 (14) 出土遺物・……………200
第 148 図	S I 32 (2)・S I 33 (1) 出土遺物・……………173	第 176 図	SD1 (15) 出土遺物・……………201
第 149 図	S I 33 (2) 出土遺物・……………174	第 177 図	SD2・SD5・SD6・SD11 出土遺物・……………202
第 150 図	S I 33 (3)・S I 34 出土遺物・……………175	第 178 図	SD12・SD13・SD14・SD28 出土遺物・……………203
第 151 図	S I 35 (1) 出土遺物・……………176	第 179 図	SD17 (1) 出土遺物・……………204
第 152 図	S I 35 (2)・S I 36 出土遺物・……………177	第 180 図	SD17 (2) 出土遺物・……………205
第 153 図	S I 37 (1) 出土遺物・……………178	第 181 図	SD17 (3) 出土遺物・……………206
第 154 図	S I 37 (2)・S I 38 (1) 出土遺物・……………179	第 182 図	SD17 (4) 出土遺物・……………207
第 155 図	S I 38 (2)・S I 39 (1) 出土遺物・……………180	第 183 図	SD17 (5) 出土遺物・……………208
第 156 図	S I 39 (2) 出土遺物・……………181	第 184 図	SD17 (6) 出土遺物・……………209
第 157 図	S I 39 (3)・S I 40 (1) 出土遺物・……………182	第 185 図	SD17 (7) 出土遺物・……………210
第 158 図	S I 40 (2)・S I 43 出土遺物・……………183	第 186 図	SD17 (8) 出土遺物・……………211
第 159 図	S I 44・S X2 出土遺物・……………184	第 187 図	SD17 (9) 出土遺物・……………212
第 160 図	S X3 出土遺物・……………185	第 188 図	SD17 (10) 出土遺物・……………213
第 161 図	S K 34・S K 36・S K 37 (1) 出土遺物・……………186	第 189 図	SD17 (11) 出土遺物・……………214
第 162 図	S K 37 (2)・Pit・SD1 (1) 出土遺物・……………187	第 190 図	SD17 (12) 出土遺物・……………215
第 163 図	SD1 (2) 出土遺物・……………188	第 191 図	SD17 (13) 出土遺物・……………216
第 164 図	SD1 (3) 出土遺物・……………189	第 192 図	SD32・SD33 (1) 出土遺物・……………217
第 165 図	SD1 (4) 出土遺物・……………190	第 193 図	SD33 (2) 出土遺物・……………218
第 166 図	SD1 (5) 出土遺物・……………191	第 194 図	遺構外出土遺物・……………219
第 167 図	SD1 (6) 出土遺物・……………192	第 195 図	古墳時代土師器 (1)・……………334
第 168 図	SD1 (7) 出土遺物・……………193	第 196 図	古墳時代土師器 (2)・……………335
第 169 図	SD1 (8) 出土遺物・……………194	第 197 図	遺構変遷図・……………336
第 170 図	SD1 (9) 出土遺物・……………195		
第 171 図	SD1 (10) 出土遺物・……………196		
第 172 図	SD1 (11) 出土遺物・……………197		
第 173 図	SD1 (12) 出土遺物・……………198		
第 174 図	SD1 (13) 出土遺物・……………199		

## 表目次

表 1	遺物観察表・……………220
-----	----------------



## 第1章 調査に至る経緯

学校法人駿台甲府学園が甲府市塩部二丁目1962-4 他において中学校移転に伴う校舎建設事業実施を決定した。平成27年12月24日、学校法人駿台甲府学園が文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘届を山梨県教育委員会に提出した。平成28年1月4日、山梨県教育委員会が教文学第3029号文書で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について学校法人駿台甲府学園に通知した。

平成28年1月21日から2月23日、甲府市教育委員会生涯学習歴史文化財課が試掘調査を実施し、遺跡の時代・内容、遺構の残存状況などの把握を行った。試掘調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての遺構・遺物が確認された。関係部局と協議を行い開発により遺跡に重大な影響を与える範囲を対象として本調査を実施することを決定した。本調査に際し、学校法人駿台甲府学園は昭和測量株式会社と埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を交わした。また、学校法人駿台甲府学園、甲府市教育委員会、昭和測量株式会社の三者は、平成28年9月1日付けで三者協定を締結した。本調査は甲府市教育委員会の指導監督の下、昭和測量株式会社が主体となり実施することが決定した。

平成28年9月1日、昭和測量株式会社が文化財保護法第92条に基づく埋蔵文化財発掘届を山梨県教育委員会に提出した。平成28年9月5日、山梨県教育委員会が教文学第1903号文書で周知の埋蔵文化財発掘調査について昭和測量株式会社に通知した。

本調査は平成28年10月1日から平成29年9月30日の期間において甲府市教育委員会の指導監督の下、昭和測量株式会社が主体となり実施した。

調査終了後は山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課に出土遺物および調査記録図面を移動して整理作業及び報告書作成を実施した。整理作業及び報告書作成業務は、平成29年10月1日から平成31年3月31日まで実施した。

なお本調査の際は、駿台甲府高校の学生を対象とした見学会を平成29年1月16日・17日に、体験発掘を平成29年7月6日・7日に実施した。一般を対象とした見学会を平成29年7月22日に実施した。甲府市教育委員会が小学生体験発掘を平成29年7月28日に実施した。

## 第2章 遺跡の立地と歴史的環境

調査対象の塩部遺跡は山梨県甲府市の中央部に位置し、甲府盆地の北縁にあたる。北方には関東山地の主要部である標高2,000～2,500m級の秩父山地がある。調査地点は秩父山地山中の太良峠の南方を源とする相川により形成された扇状地扇端部の緩傾斜面上に立地している。相川中流域の右岸に面し、標高は約280mである。

塩部遺跡の遺跡範囲は東西約500m、南北約700mの規模で周知されている。塩部遺跡では現在までも別地点での発掘調査が実施されている。従前の報告ではまず県立甲府工業高等学校校庭出土土器として古墳時代の遺物が昭和43年の山本寿々雄氏の著作に見られる。平成6・7年に山梨県埋蔵文化財センターが調査した県立甲府工業高等学校改築に伴う発掘調査地点(2)では弥生時代～古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構・遺物が出土している。遺構は方形周溝墓、住居、用水路、旧河道などがある。平成13～14年に甲府市教育委員会が調査した「塩部町開国橋線」道路改良工事に伴う発掘調査地点(3)では主に弥生時代から古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。遺物には縄文土器も出土している。平成14～16年に甲府市教育委員会が調査した「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う発掘調査地点(4)では弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。平成20年に甲府市教育委員会が調査した店舗建設に伴う発掘調査地点(5)では弥生時代～平安時代の遺構・遺物が出土している。遺構は住居、溝などがある。以上から塩部遺跡では縄文時代から人の活

動が認められ、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代を通して集落が営まれていたといえる。

その後の中世では塩部郷と呼ばれ、平安時代末期の塩部郷の領主は武田有義であったとされている。有義の子有信以後は塩部氏の本地地であったと推定されている。また文治二(1186)年の醍醐寺文書目録(醍醐雜事記)には「甲斐国巨摩郡塩部庄」がみえるが、詳細は不明とされる。

永正十六(1519)年武田信虎の拠点移転に伴い築かれた戦国期の武田城下町では、塩部遺跡は城下町の西の出入口付近に位置することとなる。

近世では塩部村と呼ばれ甲府城下町の西側に隣接している。文禄年間(1592～1596年)には塩部村民が甲府城下町内の上府中横沢町周辺へ移住させられ、村民の居住地が田畑から離されることになったが、天明年間(1781～1789年)に帰村が許されたとされている。帰村後の塩部村の集落は関屋往還に沿って形成されている。以上のように塩部遺跡では平安時代以後も中世・近世を通して集落が営まれ、武田信虎の拠点移転以後は城下町に隣接する集落となっていったことがわかる。

次に、塩部遺跡周辺を時代を追って見ると、古くは旧石器時代の様子を伝えるものとして、相川の河床からナウマンゾウの臼歯の化石が出土している。続く縄文時代の遺跡として緑が丘一丁目遺跡(6)、宝町遺跡(7)、榎田遺跡(8)から縄文時代前期の遺物が出土している。上石田遺跡(9)では縄文時代中期の遺構が確認されている。その他にも縄文時代の遺跡として緑が丘二丁目遺跡(10)、金塚西遺跡(11)、音羽遺跡(12)、西大阪A遺跡(13)、西河原遺跡(14)、宮北遺跡(15)、食糧工場遺跡(16)、居村村上遺跡(17)などが知られている。

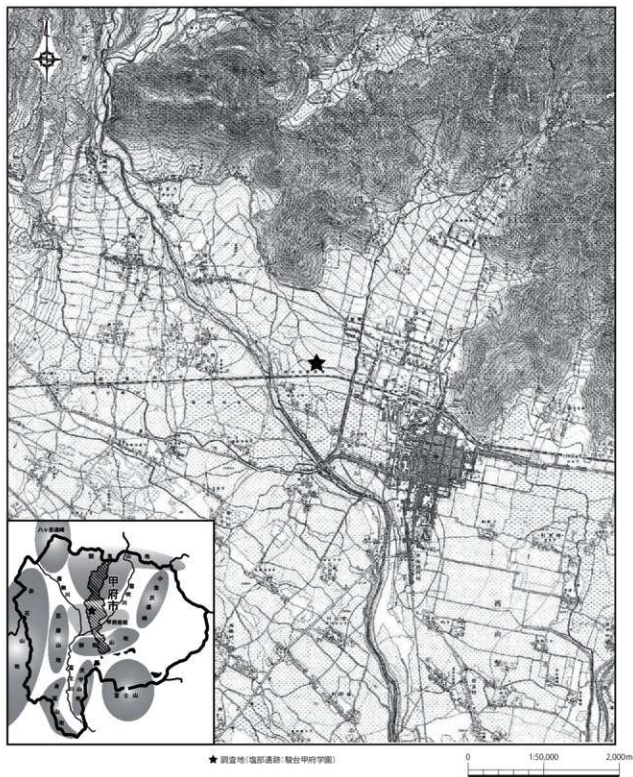
弥生時代から古墳時代の遺跡としては榎田遺跡(8)、音羽遺跡(12)、富士見遺跡(18)、青沼遺跡(19)、平石遺跡(20)、向田A遺跡(21)、三光寺山遺跡(22)、八幡東遺跡(23)、神田遺跡(24)、跡部遺跡(25)、天神北遺跡(26)、伊勢町遺跡(27)、湯田町遺跡(28)などがある。榎田遺跡(8)、音羽遺跡(12)、青沼遺跡(19)では弥生時代から平安時代までの集落が出土している。富士見遺跡(18)では古墳時代前期の水田跡が検出されている。また、榎田遺跡(8)では古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。

また塩部遺跡の北側の湯村山周辺、北西側の千塚地域では古墳時代後期の大型の古墳が多く確認、もしくは存在していたことが推定されている。6世紀中葉の築造と考えられ初期横穴式石室を持つ円墳の万寿森古墳(東西約31m、南北約38m、高さ約5m)(29)、6世紀後半の築造と考えられ石室全長16.75mという大型の横穴式石室を持つ円墳の加牟那塚古墳(直径約45m、高さ約7m)(30)などが代表とされる。その他にも横穴式石室を持つ円墳の湯村山一号墳(直径約15m、高さ約2.5m)(31)、円墳の湯村山二号墳(直径約14.5m、高さ約5.5m)(32)、円墳の湯村山三号墳(直径約15.3m、高さ約2.5m)(33)、円墳の湯村山四号墳(直径約14.3m、高さ約2.5m)(34)、円墳の湯村山五号墳(直径約13m)(35)、円墳の湯村山六号墳(直径約10.4m)(36)、円墳の大平一号墳(直径約20m)(37)、円墳の大平二号墳(直径約15.9m、高さ約2.2m)(38)などがある。また塩部遺跡西側の荒川河畔にも穴塚古墳(39)がある。

山梨県内で3位の石室規模を誇る万寿森古墳(29)、2位の加牟那塚古墳(30)のほか多くの大型古墳が存在する本地域は、甲府盆地東部の御坂町井之上に所在する、県内で1位の姥塚古墳(6世紀後半築造、円墳、直径約40m、高さ約10m、石室全長17.54m)を代表とする錦生古墳群の地域とともに、甲府盆地を東西に二分する勢力が存在した地域といえる。

奈良・平安時代の遺跡として榎田遺跡(8)、音羽遺跡(12)、青沼遺跡(19)、平石遺跡(20)、秋山氏館跡(40)、村之内遺跡(41)、永井遺跡(42)、十二天遺跡(43)、天神平遺跡(44)、若宮前遺跡(45)、御蔵遺跡(46)、西大阪B遺跡(47)、前田遺跡(48)、南河原A遺跡(49)、南河原B遺跡(50)、南河原C遺跡(51)、南河原D遺跡(52)、村西遺跡(53)がある。

中世の遺跡として秋山氏館跡(40)、武田氏館跡(54)、湯村山城(55)、法泉寺山の烽火台(56)、小松山の烽火台(57)、武田城下町遺跡(58)がある。近世の遺構として甲府城下町遺跡(59)がある。武田信虎の拠点移転以後、本地域が甲斐国の中心地としての役割を担うことになったといえる。



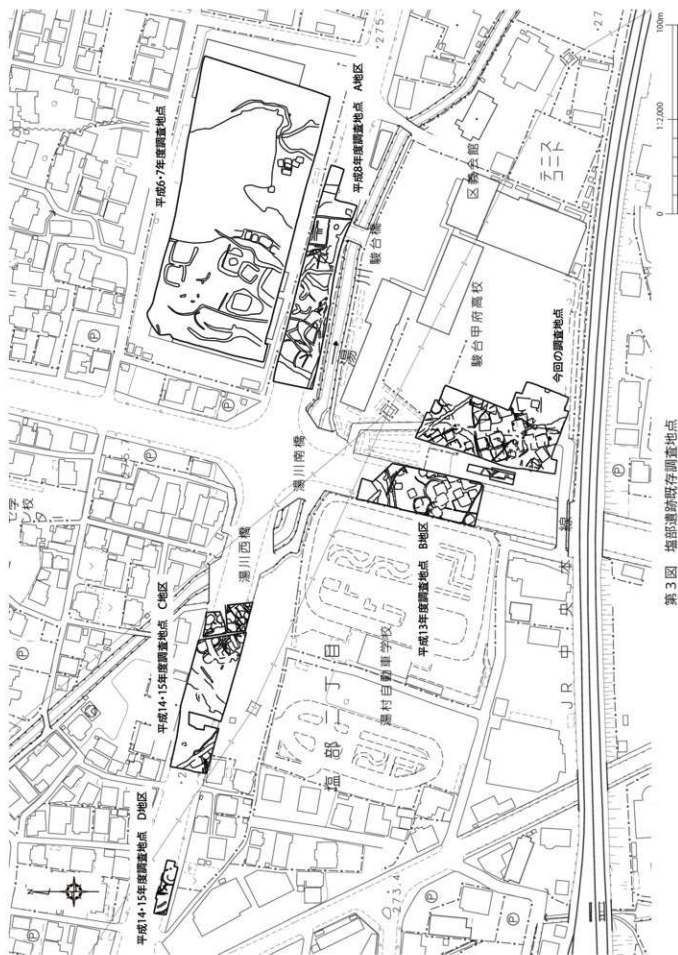
第1図 遺跡位置図



- |                    |                  |                 |                 |                 |                 |
|--------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ★ 1 塩部遺跡(弥台平野層)    | 11 金塚西遺跡(縄文・古墳)  | 21 向田A遺跡(弥生～古墳) | 31 湯村山一号墳(古墳)   | 41 村之内遺跡(古墳～平安) | 51 南河原C遺跡(平安)   |
| 2 塩部遺跡(8・7年調査)     | 12 香川遺跡(縄文～平安)   | 22 三美寺山遺跡(古墳)   | 32 湯村山二号墳(古墳)   | 42 永井遺跡(古墳～平安)  | 52 南河原B遺跡(平安)   |
| 3 塩部遺跡(11・14年調査)   | 13 西大飯A遺跡(縄文)    | 23 八幡堂遺跡(弥生～古墳) | 33 湯村山三号墳(古墳)   | 43 十二天遺跡(平安)    | 53 村西遺跡(縄文～平安)  |
| 4 塩部遺跡(14～16年調査)   | 14 西河原遺跡(縄文・平安)  | 24 神田遺跡(弥生～平安)  | 34 湯村山四号墳(古墳)   | 44 天神平遺跡(平安)    | 54 箕田氏館跡(中世)    |
| 5 塩部遺跡(20年調査)      | 15 荒北遺跡(縄文・平安)   | 25 跡部遺跡(古墳)     | 35 湯村山五号墳(古墳)   | 45 若宮町遺跡(平安)    | 55 湯村山城(中世)     |
| 6 時在(一丁目)遺跡(縄文～平安) | 16 倉野下遺跡(縄文～平安)  | 26 天神平遺跡(古墳・平安) | 36 湯村山六号墳(古墳)   | 46 御成遺跡(古墳・平安)  | 56 塩山寺山の烽火台(中世) |
| 7 堂所遺跡(縄文・平安)      | 17 原科村上遺跡(縄文・平安) | 27 伊勢町遺跡(古墳)    | 37 大平一号墳(古墳)    | 47 西大飯B遺跡(平安)   | 57 小松山の烽火台(中世)  |
| 8 榎田遺跡(縄文～平安)      | 18 富士見遺跡(古墳～平安)  | 28 湯田町遺跡(古墳)    | 38 大平二号墳(古墳)    | 48 前田遺跡(平安)     | 58 箕田城下町遺跡(中世)  |
| 9 上石田遺跡(縄文)        | 19 青沼遺跡(古墳～平安)   | 29 万壽寺古墳(古墳)    | 39 穴塚古墳(古墳)     | 49 南河原A遺跡(平安)   | 59 甲府城下町遺跡(近世)  |
| 10 緑が丘二丁目遺跡(縄文～平安) | 20 平石遺跡(弥生～平安)   | 30 加年郡塚古墳(古墳)   | 40 秋山氏館跡(平安～伊勢) | 50 南河原B遺跡(平安)   | ※ 1～5 〇 6～10 □  |

第2図 周辺の遺跡分布図





第3図 塩部遺跡既存調査地点

## 第3章 調査の方法

### 第1節 調査の方法

発掘調査は平成28年10月1日に開始し、平成29年9月30日に終了した。調査面積は2,584㎡である。調査は学校法人駿台甲府学園による駿台甲府中学校の校舎建設に伴うものである。校舎建設は中学校を甲府市上今井町の今井キャンパスから駿台甲府高等学校のある甲府市塩部の塩部キャンパスに移転するものである。発掘調査前の新校舎建設位置の現況は駐車場・駐輪場、道路、校庭であり、発掘調査の範囲は新校舎建設範囲と道路の付け替え及びマンホール設置範囲である。調査は現況の駐車場・駐輪場範囲から着手し、次に道路・校庭範囲を実施した。調査は解体工事・建設工事と並行して行われ、駐車場・駐輪場範囲は4区画に分けて調査を行い、道路・校庭範囲は埋戻しを2区画に分けて行った。以下に、作業期間と内容を示す。

9月28日基準点測量。9月30日調査区位置出し。10月3日ハウス設置。10月4日重機表土除去開始。10月6日人力掘削開始。S11からS14、SD1などを検出。12月6日重機埋戻し開始。12月9日重機表土除去開始。12月12日人力掘削開始。S15からS12などを検出。12月28日SD1拡張部重機埋戻し開始。1月16日・17日駿台甲府高等学校生徒現場見学会。2月16日ドローン空中写真撮影。2月21日重機埋戻し開始。2月27日重機表土除去開始。S113からS118、SD17などを検出。4月19日重機埋戻し開始。4月21日重機表土除去開始。4月25日人力掘削開始。S119からS144、SD33などを検出。7月6日・7日駿台甲府高等学校生徒体験発掘。7月22日現場見学会。7月24日一部重機埋戻し開始。7月28日甲府市教育委員会小学生体験発掘。9月14日重機埋戻し開始。9月30日現場終了。10月6日埋蔵物発見届提出。遺構や遺物出土地点等の記録作業は、写真撮影、実測、測量等により適宜実施した。空中写真撮影は調査区が鉄道線路や高圧電線に隣接するためドローンの飛行に制約があったが1回実施した。

遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションシステムを使用して位置を計測し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」および Agisoft 社製「PhotoScan Professional」を使用した。写真測量ではボール撮影および空中撮影による写真を使用した。「遺構くん」、「PhotoScan Professional」により作成した図面および補正した写真から adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」を使用して全体図、個別図、土層断面図を作成した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手描きで行い、実測図をスキャナーでデジタルデータに変換した。トレースから調査報告書の版下データ作成までは adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」を使用してデジタルデータで行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

#### 調査体制

調査顧問 新津健

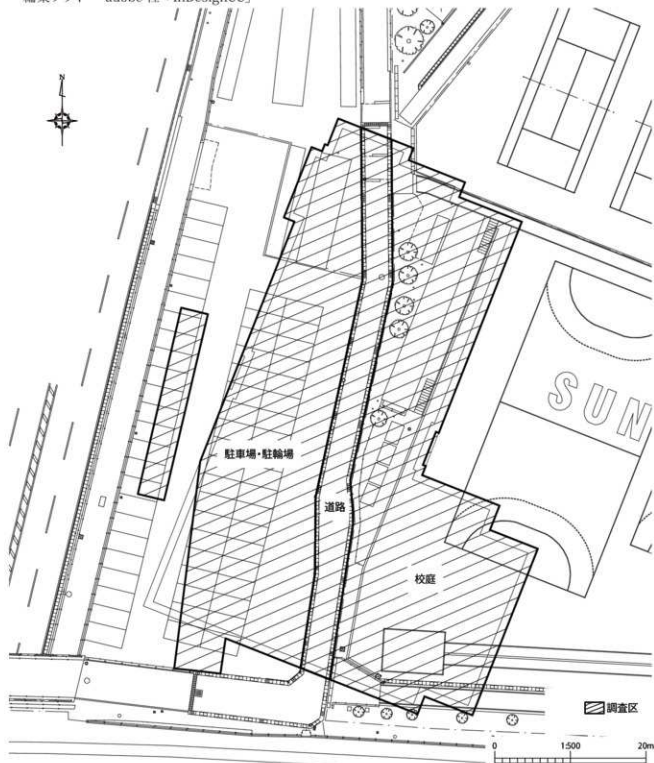
調査担当者 現場・整理作業担当者：泉英樹、高野高潔、基準点測量担当者：米山広男、相川喜美雄、空中撮影担当者：石原圭、堀内太一、吉田奏司、赤池直樹

発掘調査者：青柳正史、浅川晃一、飯沼源治、上島光子、長田秋文、小澤美幸、北野礼子、北村透江、齋藤功記、齋藤里美、近山辰男、土屋常子、出井光、内藤敏夫、中澤保、原田隆邦、広瀬ありさ、松本栄一、三木一恵、宮原雄二、望月一正、横内光夫、横山忠一、渡辺智之、渡邊麗子

整理作業者：浅川悠起子、今福ともみ、尾川正美、小澤美幸、垣内律子、北野礼子、栗田かず子、小宮山みや子、齋藤里美、流石利枝子、佐野香織、土屋常子、広瀬ありさ、藤原由香、藤巻浩太郎、三木一恵、渡邊樹里、渡邊麗子

## 使用システム

- トータルステーション TOPCON SOKKIA CX-105
- 電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19
- 遺構実測支援ソフト CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応
- 写真測量ソフト Agisoft 社「PhotoScan Professional」
- デザインソフト adobe 社「illustratorCC」
- 写真ソフト adobe 社「PhotoshopCC」
- 編集ソフト adobe 社「InDesignCC」



第4図 調査区設定図

## 第2節 基本層序

遺構検出面の標高は272.0m～273.7mを測る(第6図)。調査区全体としては北から南へ向かって低く傾斜する地形である。また調査区南半部では、西側に古墳時代後期の流路SD1、東側で平安時代に埋没したとみられる流路SD33を検出しており、これを反映して東西両側が低くなる地形となっている。今回の調査で検出した古墳時代前期から後期にかけての集落はこれらの流路に挟まれた微高地上に立地するといえる。

基本層序は調査区の壁面で観察記録した。概ねⅠ層：現代の表土・造成土、Ⅱ層：近現代の水田層、Ⅲ層：古墳時代遺物包含層、Ⅳ層：地山(自然堆積層)とし、必要に応じて小文字のアルファベットを付与して細分した。

調査区西端では調査前の現況地盤から40cmほどの碎石の造成土がⅠ層である。Ⅱ層は厚さ50cmで、オリブ黒色粘土や灰色粘土を基調とする。Ⅲ層は上下2層に分層した。上層のⅢa層は厚さ15～40cmで、南側に向かって厚く堆積する。灰黄褐色粘土質シルトを基調とする。下層のⅢb層は厚さ15cmで、黒褐色粘土質シルトを基調とする。Ⅳ層も上下2層に分層した。Ⅳa層は黒褐色砂質シルトで、砂礫や泥岩を含む。Ⅳb層は南側のSD1に向かって地形が低くなる地点で露出した層で、黄灰色砂に砂礫・泥岩を含む。遺構検出はⅢ層を剥いだⅣa層またはⅣb層の上面で行った(第93図)。

調査区南端では調査前の現況地盤から80cmほどがⅠ層の造成土である。Ⅱ層は水田層で厚さ20cmである。Ⅲa層は厚さ20cmで、黒褐色粘土質シルトに炭化物と砂礫を少量含む。下層のⅢb層は厚さ10cmで、黒褐色砂質シルトを基調とする。Ⅳa層は厚さ10cmで、灰黄褐色粘土質シルトで褐色粗砂を含む。Ⅳb層は厚さ10～15cmで、黒褐色粘土を基調とする。Ⅳc層は黒褐色粘土質シルトで泥岩粒を含む。遺構検出はⅢb層上面で行い、遺構を確認できない場合はⅣa層またはⅣb層上面まで掘り下げた(第17図)。

調査区中央ではⅠ層は造成土で、現況地盤から40cm堆積する。Ⅱ層は厚さ15cmの水田層である。Ⅲa層は厚さ16cmで、黒褐色粘土に炭化物と砂礫を少量含む。Ⅲb層は厚さ24cmで、黒褐色粘土質シルトに径1～2mmの砂礫と泥岩粒を含む。Ⅳa層は厚さ18cmで、黒褐色粘土を基調とする。Ⅳc層は黒色粘土質シルトで泥岩を粒状に含む。Ⅳb層は調査区の中央以南に堆積するが、以北では確認されず、Ⅳa層下にⅣc層が堆積する。遺構検出はⅢa層を剥いだⅢb層上面で試みたが、遺構の重複が多くほとんど遺構を把握できなかった。最終的にⅣa層上面まで掘り下げて確認している(第95図)。

調査区北側ではⅠ層の碎石造成土や攪乱が、深いところで現況地盤下60cmまで及んでおり、Ⅰ層直下がⅢ層の遺物包含層となる。Ⅲ層は厚さ18cmで、黒褐色砂質シルトを基調とする。Ⅳa層は厚さ10cmの黒褐色粘土で、その下に泥岩粒を含む黄褐色粘土のⅣb層が堆積する。遺構検出はⅣa層上面まで掘り下げた(第100図)。

調査区南東端では調査前の現況地盤から110cmほどがⅠ層の造成土である。造成土を5層に分けられるのは調査区東側の校庭範囲が駿台甲府高等学校開校以前の1950年代から学校の敷地として利用されてきたためと思われる。Ⅱ層は水田層で厚さ40cmである。水田床土下の造成土も含めて4層に分けられる。黄褐色粘土や黄褐色粘土を基調とする。遺構検出はⅡ層直下の黒褐色砂質シルトを基調とする厚さ20cmのⅣ層：地山(自然堆積層)上面で行った。調査区南東端では更に下に流路の砂礫層が堆積し地下水の流れを検出した(106図)。

## 第4章 調査の成果

### 第1節 調査の概要（第5～12図、図版1）

発掘調査では主に古墳時代前期から後期の遺構・遺物が出土した。検出された遺構は建物52軒、（S11～40・43・44、SX3、SB1～4）、土坑48基（SK1～48）、ピット616基（Pit1～616）、溝・流路33条（SD1～33）である。建物内、竪穴建物44軒、掘立柱建物2軒、平地建物6軒である。遺物は主として古墳時代の土師器が出土し、古墳時代前期から後期まで見られる。土師器、須恵器に伴い、金属製品、ガラス製品、石製品、土製品、木製品、動植物遺体などが出土している。その他には縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・石製品、平安時代の土師器などが少量出土している。以下に各遺構を出土遺物とともに詳述する。

### 第2節 建物

#### S11（第13～16・107図、図版2・45）

調査区南側に位置する竪穴建物である。S14と重複し、切り合いでは新しい。平面形は隅丸方形を呈し規模は6.5m×6.4mを測る。主軸方向はN-17°-Wである。遺構検出面からの深さは10cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが炭化物範囲や袖を構築していたとみられる粘土塊を検出している。周溝は東壁沿いを除いては検出できなかった。貼床は建物の南西部で部分的に検出した。柱穴はPit80・85・424・419の4基である。平面形の形状はそれぞれ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、Pit80・85では底面に皿状に黄灰色粘土を検出している。遺構検出面からの深さはPit80が44cm、Pit85が38cm、Pit419が58cm、Pit424が66cmと、東側に位置する二基の方が深い。柱間は芯々距離でPit80・85が3.3m、Pit85・424が3.0m、Pit424・419が3.0m、Pit419・80が2.9mである。

出土遺物のうち18点を図示した。1～14は土師器である。1～3は環である。環蓋を逆転した形がやや扁平化している。4～6・8・9は鉢で8は有孔鉢と思われる。7は高環、10は壺、11～14は甕である。15～17は須恵器である。15は高環と思われる。16は蓋、17は甕である。18は砥石と思われる。上面が摩耗している。

#### S12（第17・108図、図版3・45・46）

調査区南側に位置する竪穴建物である。SD8と重複し、切り合いでは新しい。建物の南半部が調査区外に延びるため平面形の全容は不明であるが約5m四方の隅丸方形を呈すとみられる。主軸方向はN-28°-Wである。遺構検出面からの深さは22cmで覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。

炉はPit92・123の間に位置する。周溝はない。柱穴はPit123・92・122の3基を検出したが他の1基は調査区外である。平面形はそれぞれ円形に近い楕円形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは52～60cmの間に収まる。柱間はPit123・92が2.0m、Pit92・122が2.1mを測る。

出土遺物のうち16点を図示した。1～16は土師器である。1～3は環、4・5は高環、6は壺、7～15は甕、16は台付甕である。

#### S13（第18・19・109図、図版4・46）

調査区南西部に位置する。検出時は不整形な平面形からSX1としたが炉とみられる焼土と柱穴3基を検出したため建物とし、あらためて遺構番号を付した。壁面の立ち上がりを確認できなかったため削平された竪穴

建物かあるいは平地建物とも考えられる。主軸方向はN-40°-Eである。

炉は建物中央よりやや東寄りに位置する。焼土を棒状の石が囲み、その前面に炭化物範囲を検出した。柱穴はPit138・77・79の3基を検出し他の1基は調査区外である。柱穴の平面形はPit79がやや不整形な他は円形である。覆土はPit77・138が黒褐色砂質シルト、Pit79が黒褐色粘土質シルトを基調とする。深さはPit77が38cm、Pit79が74cm、Pit138が66cmである。Pit138の覆土中位から残りの良い高坏や台付甕などがまとまって出土しており、建物廃絶後に柱を抜き取り埋納した可能性がある。柱間はPit138・77が3.6m、Pit77・79が4.0mである。SK4はPit77に隣接し建物の東壁寄りに位置する。S13に伴う遺構が確認できなかったが、出土遺物に時期差はあまりなく、貯蔵穴と推測している。平面形の形状は楕円形で、長径84cm、短径62cm、深さ32cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、粒状の炭化物と土器小片を含む。

出土遺物のうち23点を図示した。1～22は土師器である。1・2は坏、3～8・19・20は高坏、9は鉢、10は有孔鉢、11～13は壺、14～17は甕、18は甕の模倣のような形態で櫛描波状文を有する。21は器台、22は台付甕である。23は石製品で管玉である。

#### S14 (第20・110図、図版5・6・46)

調査区南側に位置する。S11・SX3aと重複し、切り合いではS11に先行し、SX3aより新しい。遺構検出時には平面形の形状は把握できなかったが炉とみられる焼土を検出し、S14の遺構番号を付して調査を進めた。多くのPitを検出したが、堅穴建物と判断できるような床面や壁面の立ち上がりは確認できなかった。Pitの完掘後に柱穴を検討して2軒の建物を推定した。Pit23・75・125を柱穴とする建物をS14aとし、Pit130・99・143を柱穴とする建物をS14bとした。

S14aの主軸方向はN-15°-Wである。炉はPit23・75の間に位置する。炉を断ち割ったところ遺存状態が良好で焼土層の下に炭化材を含む炭化物層を検出した。さらに掘り進めると炉の炭化物層の直下でPitを検出した。S14aに先行する建物の柱穴とみられPit127とした。この柱穴が属する建物はSX3aとして後述する。S14aの柱穴の平面形はほぼ円形である。覆土はPit23・75が黒褐色粘土質シルト、Pit125は黒褐色砂質シルトを基調とする。柱間はPit23・75が2.2m、Pit75・125が2.0mである。

S14bの主軸方向はN-32°-Wである。炉と判断できる焼土はなかった。柱穴の平面形は楕円形で、覆土はPit99・130が黒褐色砂質シルト、Pit143は黒褐色粘土質シルトを基調とする。柱間はPit130・99が2.35m、Pit130・143が2.7mである。

切り合いではS14aのPit125がS14bのPit143を切っており、S14bが先行する。他の遺構ではS14に伴う遺構が不明だが、Pit140の底面でミニチュアの壺が出土している。

出土遺物のうち11点を図示した。1～11は土師器である。1～4は高坏、5は器台と思われる。6～8は壺である。8は模倣土師製甕のような形態である。9～11は甕である。

#### S15 (第21・22・110～112図、図版6・47・48)

調査区北側に位置する堅穴建物である。S18・SD32と重複し、切り合いでは新しい。平面形は隅丸方形を呈し、規模は4.3m×4.0mを測る。主軸方向はN-20°-Wである。遺構検出面からの深さは10cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

炉は建物中央から南西寄りに位置し、周溝は北東隅部で部分的に検出した。床面上では広い範囲に炭化物が粒状に散っており、西半部を中心として板状の炭化材やまとまった量の土器も出土した。焼失堅穴建物である。板状の炭化材は炉の上で検出したが、その炭化材の上に重なって遺物が出土しており、建物が焼失した後に土器が投棄されたものと考えられる。炉を持つ建物だが出土遺物の中には甕が複数みられる。また建物内で3基のPitを検出したが散在している。

出土遺物のうち 65 点を図示した。1～54 は土師器である。1～22 は坏である。半球形の深めのもが主体を占める。23～32 は高坏である。29 は内面に粘土が貼り付けられて高台状を呈している。33・34 は鉢、35～48 は甕、49～52 は甗、53・54 は多孔の有孔鉢である。55 はガラス玉である。56～65 は石製模造品で滑石製の白玉である。

#### S16 (第 23～25・113・114 図、図版 6～8・48～50)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SD 11・12・32 と重複し、切り合いではそれぞれより新しい。平面形は隅丸方形を呈し、規模は 6.7m × 6.5m を測る。主軸方向は N-22°-W である。遺構検出面からの深さは 20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

枡は建物中央からやや南西寄りに位置しており、周りに炭化物範囲を検出した。周溝は確認できない。柱穴は Pit161・162・166・160 の 4 基である。柱穴の平面形は Pit161・171 が円形で、Pit166・160 はやや不整形である。覆土は Pit160・162 が黒褐色粘土質シルト、Pit161 が黒褐色砂質シルト、Pit166 が暗褐色砂質シルトを基調とする。柱穴の深さは建物の東半部に位置する Pit160・162 が約 60cm を測るのに対し、西半部の Pit161・166 では約 30cm と浅い。Pit166 の上面では焼土と炭化物の塊を検出しており、この中から金環が出土している。柱間は Pit161・162 が 3.15m、Pit166・160 が 3.3m、Pit161・166 が 3.4m、Pit162・160 が 3.45m である。他の遺構では Pit163 は S16 に伴うか不明だが、覆土に柱痕が残り、柱根についても一部炭化して遺存していた。また建物の南半部を中心に大小様々な大きさの台付裏が出土しており、復元図化したもので 9 点を数える。遺存状態も良いが、柱穴の上で出土しているものもあり、建物の廃絶後に投棄された可能性が高い。南東隅部ではこれらの土器の下の床面上に小礫が固まって検出されている。

出土遺物のうち 22 点を図示した。1～20 は土師器である。1 は高坏、2 は器台、3・4 は丸底の鉢、5・6 は有孔鉢、7・8 は甗、9～11 は甕、12～20 は台付裏である。12～19 は S 字状口縁をもち、肩部には横走するハケ目がない。21 は鉄鏝と思われる。22 は金環である。

#### S17 (第 26～32・115～119 図、図版 8～10・50～53)

調査区中央に位置する。遺物の出土が多く土器集中地点も検出したが、掘乱や他遺構との重複、建物の東半部が反転調査となったこともあり、遺構検出時には平面形を把握できなかった。土層観察用のサブレンチを設定したところ、竪穴建物の床面と推定できる硬化面やその上面に堆積する炭化物層を検出し、その下層にも遺構を確認した。そこで硬化面より上層を S17a、下層を S17b として暫定的に調査を進め、S17b でも新たな炭化材や焼土を検出した。また調査終了後の検討から S17b で 2 軒の建物が推定できたため、それぞれ S17b ①、S17b ②とした。

S19・10 と重複し、切り合いでは S17a・b とともに S19 に先行する。また S17a は S110 より新しいが、S17b は S110 に先行する。

S17a では北側で複数の壁面の立ち上がりを検出したが、他の壁面の立ち上がりは確認できず、調査後の検討でも柱穴を確定できなかった。このため平面形も推定できないが、サブレンチで観察した床面を検出し、その直上で炭化材や多くの遺物が出土している。遺構検出面からの深さは 20cm で、覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。炭化材は床面直上で出土しており、S17a は焼土建物とみられる。また土器の多くは炭化材の上に乗るように出土しており、建物焼後に投棄された状況を推測する。炭化材出土地点の南側では土器集中部を検出した。甕や高坏など多量の土器が出土したが、割れているものの接合可能な個体が多く、やはり建物の廃絶後にまとめて投棄されたとみられる。土器集中部下の床面上では径 3～10cm の小礫が約 60cm 四方に渡って出土している。炭化材出土地点の北側では俵形の石が複数固まって出土した他、Pit181 の上面で完形に近い甗が出土している。

S17b は S17a の床面を掘り下げて検出した。壁面の立ち上がりは明確ではなかったが、新たに検出した

焼土、炭化材の範囲、柱穴を根拠として S17b とした。また調査終了後に、反転調査を行った東側の成果を踏まえて検討したところ、新たに別の1軒の竪穴建物が推定できたため、これを S17b ②とし、先に検出した1軒を S17b ①とした。S17b ①の規模は南北 4.6m を測り、主軸方向は N-23°-W と推定する。遺構検出面からの深さは 24cm を測り、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉は建物東半部のやや南寄りであるが位置関係から S17b ②に伴う可能性もある。床面では数カ所にわたって焼土塊を検出し、炭化材も出土することから焼失建物とみている。柱穴は Pit195・189・229・205 である。柱穴の平面形は楕円形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトまたは暗褐色砂質シルトを基調とする。Pit195 では柱痕を検出しており、幅 16cm を測る。柱間は Pit195・189 が 2.3m、Pit189・205 が 2.9m、Pit205・229 が 2.4m、Pit229・195 が 2.9m である。

S17b ②の規模は 7.2m × 7.2m を測り、主軸方向は N-23°-W である。遺構検出面からの深さは 28cm を測り、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。柱穴は Pit197・184・584・245 である。柱穴の平面形は Pit245 が不整形で他は楕円形を呈する。柱穴の覆土は黒褐色砂質シルトまたは暗褐色砂質シルトを基調とする。Pit245 では柱痕を検出しており、幅 14cm を測る。柱間は Pit197・184 が 4.7m、Pit184・584 が 3.9m、Pit584・245 が 4.4m、Pit245・197 が 4.1m である。また Pit184 の上に重複して検出した Pit180 は 3層に土器片を多く含んでいた他、炭化物を多く検出しており、サンプルを採取して自然科学分析を行った。

S17a は出土遺物のうち 42 点を図示した。1～39 は土師器である。1～5 は環である。4 は壙形の環である。6・7 は手握土器で高環と思われる。8～17 は高環、18 は器台、19 は蓋、20～22 は鉢、23 は有孔鉢、24・27 は甕、25・26・28～31 は壺で丸底である。32～39 は甕で球胴形のものが主体を占める。40 は須恵器の甕である。41 は磨石、42 は石製模造品の滑石製剣形である。

S17b は出土遺物のうち 13 点を図示した。1～12 は土師器である。1・3 は器台、2 は高環、4～6 は壺、7～11 は台付甕である。7 は S 字状口縁をもち、肩部には横走るハケ目がない。12 は甕である。13 は須恵器の甕である。

S17 のピットは出土遺物のうち 17 点を図示した。1～17 は土師器である。1～3 は高環、4・5 は器台、6 は蓋、7・8・11～14・16 は甕、9・10・15 は台付甕、17 は甕である。

#### S18 (第 21・22・120 図、図版 10・53)

調査区北側に位置する竪穴建物である。S15・SD32 と重複し、切り合いでは S15 に先行し、SD32 より新しい。建物の西半部が調査区外に延びるため平面形の全容は不明であるが、一辺約 5m の隅丸方形を呈すとみられる。主軸方向は N-18°-E である。遺構検出面からの深さは 40cm である。覆土は上層で黒褐色粘土質シルト、中層で黒褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂が堆積する。炭化物を粒状に含む黒褐色粘土質シルトを基調とする。

炉とみられる焼土を建物の中央よりやや南とみられる位置で検出したが半分は調査区外である。また Pit336 は、対となる Pit がなく柱穴かどうか不明である。周溝は建物東側で部分的に検出した。

出土遺物のうち 15 点を図示した。1～15 は土師器である。1・2 は高環、3 は器台、4 は鉢、5 は壺と思われる。肩部に櫛波状文を有する。6～8 は壺、9・13～15 は甕、10～12 は台付甕である。10 は肩部に横走るハケ目をもつ。

#### S19 (第 33・34・120～123 図、図版 10・11・53～55)

調査区中央に位置する竪穴建物である。検出地点一帯は包含層掘削時より遺物、焼土、炭化物の検出が顕著で竪穴建物の存在が十分に予想された。カマド上面もすぐに露出したため、遺構検出作業は平面と断面を精査しつつ慎重に進めたものの、他遺構の重複や攪乱も多く建物の平面形を把握できなかった。壁面の立ち上がりも東側の一辺を部分的に検出したのみである。現場調査時はカマドとカマド前面で集中的に土器が出土



した範囲を、便宜上、S19として調査を進めた。S17・10・12、SD13と重複し、切り合いではこれより新しい。東側の壁面やカマドの向きから推定される建物の規模は一辺が約7.5mで、主軸方向はN-2°-Eである。遺構検出面からの深さは15cmを測り、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

カマドは北壁中央に位置し遺存状態が良い。天井部は崩落していたが、カマド前面両側の袖石と支柱石は原位置をほぼ保った状態で遺存していた。煙道もよく残っており、カマドの前面から煙道北端までの長さは1.7mを測る。カマド周りでは灰層や炭化物範囲も検出しており、サンプルを採取して自然科学分析を行っている。

出土遺物のうち42点を図示した。1～34は土師器である。1～11は坏である。4・7～9は扁平で幅広である。12・13は手捏土器、14～16は高坏、17は蓋、18は鉢、19～23は壺、24～33は甕である。長胴化したものが主体を占める。34は甕と思われる。35・36は須恵器の甕である。37～41は土玉で、39は凍玉である。42は台石で上面が摩耗している。

#### SI10 (第35～38・123・124図、図版11～13・55)

調査区中央に位置する堅穴建物である。S17・9・12・SD13と重複し、切り合いではS17a・9・SD13に先行し、S17bより新しい。SI12との新旧関係は不明である。平面形は隅丸方形を呈し、規模は7.8m×7.8mを測る。主軸方向はN-21°-Wである。遺構検出面からの深さは35cmで、覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。

炬は建物中央からやや北西寄りに位置する。床面上では多量の炭化物を検出した。炭化物は建物の壁面に沿うように幅1～1.5mの範囲で広がっており、焼失建物である。現場観察では柱や屋根の梁・桁となるような太い材はほとんど残っておらず、繊維状の植物が炭化したものが多くみられた。樹種同定を行ったところ、イネ科草本の稈が検出された。屋根材や壁材の可能性が指摘されている。柱穴はPit201・202・203a・204で、これらが伴う建物をSI10aとした。Pit201は円形で径60cm、深さ44cm、Pit202は楕円形で長径90cm、短径55cm、深さ54cm、Pit203aは円形で径68cm、深さ44cm、Pit204は楕円形で長径78cm、短径70cm、深さ52cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。いずれも炭化物が多量に含まれており、特にPit201では底面に、Pit203aでは覆土中にそれぞれ明瞭な炭化物層が堆積する。現場観察では床面上とPit内の炭化物が類似しており、柱根を除去した後に柱穴が開いた状態で建物が焼失した可能性がある。柱間はPit202・201が4.0m、Pit204・203aが4.1m、Pit202・204が4.6m、Pit201・203aが4.7mである。周溝は幅10～20cmで全周巡る。SK25は南西隅部に位置する。平面形はやや不整形な楕円形を呈し、長軸170cm、短軸86cm、深さ35cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、上層に炭化物層が堆積することからSI10aの焼失時に埋没した土坑とみられる。またSK25に隣接した床面上で小礫の集中する範囲を検出している。径3～5cmのものが多く炭化物に重なっている。

SI10bはPit210a・211・230・259を柱穴とする堅穴建物と推測する。Pit210aとPit211はSI10a内の床面上で検出したが、SI10aの建物外で検出したPit230・259と軸線・柱間が一致した。また、SI10aの柱穴ではそれぞれ炭化物を多量に検出したが、SI10bの柱穴では炭化物が含まれていないか、含まれていても少量であったため別時期の建物と推定した。想定されるSI10bの平面形の大部分はSI10aと重複していたとみられ、堅穴の堀方は検出できなかった。切り合いも確認できなかったが、SI10bが先行する建物で、床面はSI10aより高い位置にあったと推測する。Pit210aは隅丸方形で長軸84cm、短軸80cm、深さ60cm、Pit211は楕円形で長径80cm、短径60cm、深さ75cm、Pit230は楕円形で長径70cm、短径60cm、深さ80cm、Pit259は楕円形で長径80cm、短径60cm、深さ55cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトまたは砂質シルトを基調とする。Pit230には柱痕が残り、柱の太さは径20cmほどであったとみられる。柱間はPit210a・211が4.5m、Pit230・259が4.6m、Pit210a・230が3.9m、Pit211・259が3.8mである。出土遺物は帰属を分けて取り上げられていないが、SI10として取り上げた遺物にあまり時期差がなく建物の

規模もほぼ同等であることから、S I 10bの建て替えがS I 10aであった可能性がある。

出土遺物のうち25点を図示した。1～25は土師器である。1・2は坏、3～6は高坏、7・8は蓋、9・10は鉢、11・12は有孔鉢、13～21は甕である。15・17・18は幅広有段口縁甕である。22・23は台付甕である。22は肩部に横走するハケ目をもつ。23は口縁部に刺突文をもつ。24・25は甕である。

#### S I 11 (第39・124図、図版14・56)

調査区中央のS I 10の南側に位置する。遺構検出面での平面形は不明瞭で、壁面の立ち上がりも明確ではなかったが、Pit238・239・241を柱穴とする建物を想定しS I 11とした。S I 10b・S I 12aと重複する。それぞれ切り合い関係は確認できなかったがS I 12aの推定範囲内にS I 11が丸ごと取まっており、S I 12aに削平された可能性もある。主軸方向はN-4°-Eである。遺構検出面からの深さは7cmで、覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。

炉・カマドを推定できる焼土はない。柱間はPit238・239が3.8m、Pit239・241が4.1mである。Pit241では柱根がわずかに遺存していたが、腐食して土壌化したとみられる柱痕部分を含めても6cm程度と細いものである。

出土遺物のうち6点を図示した。1～5は土師器である。1～3は坏である。3は扁平で幅広化している。4・5は甕、6は須恵器甕である。

#### S I 12 (第40～42・124～126図、図版14～16・56)

調査区中央のS I 10の南側に位置する。S I 7・9・10・11、S D 13など多数の遺構と重複しており、S I 9・S D 13に先行するが、S I 7・10・11との切り合いは確認できなかった。遺構検出面では平面形を把握できず、完掘後の柱穴の検討と北東部分のみ検出した壁面の立ち上がりを根拠にS K 27・Pit248・270・265を柱穴とする竪穴建物を推定しS I 12とした。その後、遺構図の検討からS I 12の範囲内でさらに別の小規模な建物を推定し、こちらをS I 12b、前者はS I 12aとした。このため現場でS I 12として取り上げた遺物はわずかである。

S I 12aの推定規模は8.8m×8.3mで、主軸方向はN-21°-Wである。遺構検出面からの深さは18cmで、覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。炉とみられる焼土をS K 28の東に近接する位置で検出している。周溝は北東部で部分的に検出した。柱穴ではS K 27はやや不整形な円形を呈し、径88cm、深さ42cmを測る。覆土は上層に暗褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂質シルトが堆積する。下層では径3～5cmの礫が多く出土する。Pit248は円形で径60cm、深さ44cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とし、中央に幅20cmの柱痕が確認でき底面には腐食した柱根が遺存する。Pit265は円形で長径50cm、短径48cm、深さ80cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、上層では焼土・炭化物粒を含む。Pit270は不整形で、長径85cm、短径65cm、深さ50cmを測る。覆土は暗褐色粘土質シルトを基調とする。柱間はS K 27・Pit248が5.6m、Pit270・265が5.1m、S K 27・Pit270が4.0m、Pit248・265が3.5mである。

土坑では中央にS K 28、南東部にS K 31が位置する。S K 28は遺構検出面では平面形を検出できなかった。楕円形の範囲内に大量の土器が出土したため、断割確認したところ堀方の底面の形状が確認できたため土坑とした。想定される平面形の形状は楕円形で長径76cm、短径72cm、深さ20cmを測る。覆土は黒褐色砂質シルトにぶい黄褐色粘土のブロックが混入する。S K 31は楕円形を呈し、長径108cm、短径78cm、深さ48cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。覆土上層の壁面沿いに径5～10cmの礫が多く出土した。S K 28・31がS I 12aに伴う遺構か確認できなかったが、柱穴のPit270の出土遺物とはそれぞれ時期差がみられる。

S I 12bはS I 12aの東半部に位置する。遺構検出時は平面形を把握できず、竪穴としての堀方も確認できなかった。完掘後に柱穴を検討し、位置関係からPit255・244・257・250を柱穴とする建物を推定した。

Pit244・250の間では半分攪乱されているものの炉とみられる焼土も検出している。柱間は Pit255・244 が 1.6m、Pit257・250 が 1.7m、Pit255・257 が 1.6m、Pit244・250 が 1.8m である。

出土遺物のうち 13 点を図示した。1～13 は土師器である。1 は環、2・12 は高環、3・4 は壺、5～10 は甕、11 は甗、13 は器台である。

#### SI 13 (第 43・44・126 図、図版 16・17・57)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SD 14・32 と重複し、切り合いでは SI 13 が一番新しく、SD 14、SD 32 の順に古くなる。現況の駐車場・駐輪場と道路にまたがっているため東側に側溝やマンホールなどの攪乱を多く受けている。平面形は隅丸方形を呈し規模は 4.1m × 4.0m を測る。主軸方向は N-32°-W である。遺構検出面からの深さは 25～35cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くなく細かい攪乱がおよんでいるが、内壁の焼土範囲と火床部の炭化物範囲を検出している。周溝はない。柱穴は Pit311・321 の 2 基を検出した。平面形の形状はそれぞれ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit311 が 30cm、Pit321 が 50cm である。柱間は 1.8m である。SI 13 周辺ではピットが複数検出されており SI 13 と重複している。周辺南側の Pit284 頸部に櫛描波状文・籠状文を持つ壺破片が出土している。

出土遺物のうち 12 点を図示した。1～8 は土師器である。1 は環、2～4 は高環、5 は有孔鉢、6・7 は壺、8 は甕である。9～11 は須恵器の甕である。12 は台石で上面が摩耗している。

#### SI 14 (第 45・126・127 図、図版 17・57・58)

調査区北側に位置する竪穴建物である。西側を攪乱に切れ、北側は調査区外へ続いている。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。残存する規模は 5.7m × 4.6m を測る。主軸方向は N-28°-W である。遺構検出面からの深さは 20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出できていない。床面から盛り上がり焼土が 5 か所に散在する。炭化物も検出しているが、焼け落ちた柱材が炭化した状況ではない。東壁と南壁沿いに周溝と間仕切り溝を検出した。溝幅は 10～20cm である。柱穴は Pit349 の 1 基のみ検出できた。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは 70cm である。

出土遺物のうち 28 点を図示した。1～28 は土師器である。1～10 は高環、11～18 は壺、19・23～28 は甕、20～22 は台付甕である。

#### SI 15 (第 46～48・128 図、図版 18・19・58)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SI 16 と重複し、切り合いでは SI 15 が古い。現況の駐車場・駐輪場と道路にまたがるため東側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。残存する規模は 3.9m × 1.2m を測る。主軸方向は N-20°-W である。遺構検出面からの深さは 10cm で、重複する SI 16 よりも浅い。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉は東側ほぼ中央に位置する。炉は Pit319・322 と重複し、切り合いでは炉が Pit319 より古く、Pit322 よりも新しい。炉の内面では焼土範囲を検出している。炉石は検出していない。周溝はない。柱穴は検出できていない。炉の北側では壺の口縁が逆位で潰れた状態で出土している。

出土遺物のうち 9 点を図示した。1～9 は土師器である。1 は高環、2 は鉢、3・4 は壺、5・8・9 は甕、6・7 は台付甕である。

#### SI 16 (第 46～48・128・129 図、図版 18・19・58)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SI 15、SD 14・15 と重複し、切り合いでは SI 16 が SI 15、SD 14・15 より新しい。平面形は隅丸方形を呈し規模は 4.9m × 4.5m を測る。主軸方向は N-25°-W であ

る。遺構検出面からの深さは20～25cmでS I 15よりも深い。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉は中央よりやや東よりに位置する。炉の焼土範囲を検出したが、炉石は検出していない。炉の南側で検出した石は攪乱内の石であった。周溝は幅10～20cmで南西角のみで検出した。柱穴はPit325・332・339・341の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit339のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit325が65cm、Pit332が40cm、Pit339が60cm、Pit341が70cmである。柱間はPit325・332が2.3m、Pit325・339が3.1m、Pit332・341が3.4m、Pit339・341が2.4mである。Pit324は南壁脇中央で検出した。平面形の形状は円形で、深さは30cmである。完形の小型の壺、小型の甕が拳大の礫とともに出土している。

出土遺物のうち15点を図示した。1～15は土師器である。1～6は高坏、7・8は線刻で模様を描かれている。破片の形状から壺と思われる。9・10は壺である。11～15は甕である。

#### S I 17 (第49～51・129図、図版19・20・59)

調査区北側に位置する竪穴建物である。S D 14と重複する。切り合いではS I 17が新しい。平面形は隅丸方形を呈し規模は5.3m×4.6mを測る。主軸方向はN-34°-Wである。遺構検出面からの深さは15～20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマド・炉は検出していないが、散在する焼土を検出した。周溝はない。柱穴はPit352・362・368・373の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit362のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit352が30cm、Pit362が40cm、Pit368が30cm、Pit373が20cmである。柱間はPit352・362が2.9m、Pit352・373が2.2m、Pit362・368が2.2m、Pit368・373が1.9mである。

出土遺物のうち16点を図示した。1～15は土師器である。1～7は高坏、8～9は鉢、10・11は壺、12～15は甕である。16は砥石である。

#### S I 18 (第52・129図、図版20・59)

調査区北側に位置する。周溝と柱穴のみ検出した。S D 17と重複していたと考えられるがS I 18の方が浅いため直接的な切り合いは確認できていない。検出した周溝は南西の角と東側のみであるが、平面形は隅丸方形と思われる。規模は5.5m×3.0mを測る。主軸方向はN-42°-Eである。周溝の幅は20～40cmである。柱穴はPit358の1基を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは20cmである。

出土遺物のうち4点を図示した。1～4は土師器である。1～3は高坏、4甕である。

#### S I 19 (第53・54・130図、図版20・59)

調査区北側に位置する竪穴建物である。S B 32・S D 32と重複し、切り合いではS D 32が古い。北側・東側は調査区外へ続いている。現況の道路と校庭にまたがるため西側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈し規模は4.5m×1.7mを測る。主軸方向はN-32°-Wである。遺構検出面からの深さは30cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマド・炉は検出していない。周溝・柱穴は検出していない。

出土遺物のうち14点を図示した。1～14は土師器である。1～4は坏、5は高坏、6～13は甕である。8・9は下膨れて長胴化している。14は甗である。

#### S I 20 (第55・56・131～133図、図版20・60・61)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S I 21・22、S D 33と重複し、切り合いではS I 20がS I 22より古く、S I 21・S D 33より新しい。西側はS I 22に切られ、南側は調査区外へ続いている。検出範囲から平面形は隅丸方形を呈すると思われる。検出できた規模は8.2m×2.4mを測る。主軸方向はN-15°-Wで

ある。遺構検出面からの深さは20～40cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。明確な炉・カマドは検出できていないが、東壁近くに焼土範囲が2箇所ある。南側の焼土は礫を伴っていた。焼土範囲がカマドであった可能性がある。周溝・柱穴は検出していない。東壁脇でSK 47とSK 48を検出した。SK 47の平面形は隅丸長方形を呈す。規模は0.8m×0.7mを測る。深さは20cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。ほぼ完形の土師器甕が出土している。SK 48の平面形は楕円形を呈す。規模は1m×0.6mを測る。深さは20cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。完形の土師器鉢が出土している。

出土遺物のうち63点を図示した。1～62は土師器である。1～3は高坏、4は手捏土器、5～25は高坏、26は蓋、27・29は有孔鉢、28は鉢、30～48は壺である。丸底の壺が主体を占める。49～61は甕、62は甕である。63は砥石である。

#### SI 21 (第55・56・133図、図版20・61)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 20・22・28、SD 33と重複し、切り合いではSI 21がSI 20・22・28より古く、SD 33より新しい。南側をSI 20に切られ、西側をSI 22に切られている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は3.9m×3.5mを測る。主軸方向はN-15°-Wである。遺構検出面からの深さは15～25cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝は幅10cmで北壁の一部のみで検出した。柱穴はPit616の1基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは35cmである。

出土遺物のうち17点を図示した。1～16は土師器である。1～3は高坏、4は蓋、5は鉢、6は壺、7は台付甕、8～16は甕である。17は石製品管玉である。

#### SI 22 (第57・58・134～138図、図版21・61～63)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 1・20・21、SD 33と重複し、切り合いではSI 22がSI 1より古く、SI 20・21・SD 33より新しい。北側をSI 1に切られ、南側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は7.3m×4.0mを測る。主軸方向はN-5°-Wである。遺構検出面からの深さは20～40cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、内面の焼土範囲と支柱石を検出している。周溝、柱穴は検出していない。北壁よりでSK 32を検出した。平面形の形状は不正な方形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。規模は1.7m×1.5mを測る。深さは20cmである。

出土遺物のうち64点を図示した。1～62は土師器である。1～10は坏、11～32は高坏である。21～23は低脚である。33は鉢、34～37は壺、38～59は甕、60～62は甕である。63は鉄製品鎌、64は石製模造品有孔円盤である。

#### SI 23 (第59・60・138・139図、図版22・63)

調査区南側に位置する建物である。SI 24・26と重複し、切り合いではSI 23がSI 26より新しく、SI 24より古い。また、SI 23はSI 24・26よりも床面が高い。表土除去直下の浅い遺構で平面形などを検出できていない。遺構検出面からの深さは5cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉と思われる焼土範囲を検出している。周溝・柱穴はない。

出土遺物のうち24点を図示した。1～18は土師器である。1～3は坏である。半球形の深めの坏が主体を占める。4～9は高坏、10は壺、11～17は甕である。18は甕と思われる。19～22は須恵器である。19は坏、20は高坏、21・22は甕である。23は鉄製品刀子、24は鉄製品鎌と思われる。

#### SI 24 (第59・60・140図、図版22～24・64)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S I 23・S D 13 と重複し、切り合いでは S I 24 が S I 23・S D 13 より新しい。北側と東側は攪乱されている。平面形は方形を呈すと思われる。検出した規模は 1.9m × 1.8m を測る。主軸方向は N-9°-W である。遺構検出面からの深さは 15 ~ 20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。周溝・柱穴はない。南壁脇で S K 35 を検出した。平面形の形状は隅丸長方形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。規模は 72cm × 44cm を測る。深さは 40cm である。土師器が出土している。

出土遺物のうち 12 点を図示した。1~9 は土師器である。1・2 は坏である。3 は把手付碗の把手と思われる。4 は高坏、5 は鉢、6 は壺、7・8 は甕、9 は甗である。10 ~ 12 は石製模造品の滑石製白玉である。

#### S I 25 (第 61・62・140・141 図、図版 23・64)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S D 17・27 と重複し、切り合いでは S I 25 が新しい。東側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すと思われる。検出した規模は 6.5m × 4.3m を測る。主軸方向は N-20°-E である。遺構検出面からの深さは 20 ~ 30cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、内面の焼土範囲と袖石を検出している。周溝は幅 10 ~ 15cm で検出範囲では全周している。また、壁から 1m ほど内側に周溝状の溝があり建物の建て替えの可能性がある。柱穴は Pit519・540 の 2 基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit519 が 60cm、Pit540 が 50cm である。柱間は 3.5m である。S I 25 中央で S K 43 を検出した。平面形の形状は隅丸長方形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。規模は 1.3m × 0.9m を測る。深さは 20cm である。

出土遺物のうち 17 点を図示した。1 ~ 16 は土師器である。1 ~ 3 は坏、4・5 は高坏、6 は器台、7 ~ 14 は甕である。15・16 は甗と思われる。17 は砥石である。

#### S I 26 (第 59・60・141 図、図版 24・64)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S I 23 と重複し、切り合いでは S I 26 が S I 23 より古い。南側は攪乱されている。検出した平面形は隅丸方形を呈し規模は 5.0m × 2.0m を測る。主軸方向は N-14°-W である。遺構検出面からの深さは 10cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝はない。柱穴は Pit459 の 1 基を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは 32cm である。

出土遺物のうち 5 点を図示した。1 ~ 5 は土師器である。1・2 は高坏、3 は蓋、4・5 は甕である。

#### S I 27 (第 63・64・141 ~ 143 図、図版 24・25・64 ~ 66)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S I 34・S D 25・33 と重複し、切り合いでは S I 27 が新しい。平面形は方形を呈し規模は 5.6m × 5.5m を測る。西側は攪乱を受けている。主軸方向は N-18°-W である。遺構検出面からの深さは 30 ~ 40cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、内壁の焼土範囲と焼土化した支柱を検出している。周溝はない。柱穴は Pit482・487・499・522 の 4 基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit499 のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit482 が 55cm、Pit487 が 55cm、Pit499 が 70cm、Pit522 が 45cm である。柱間は Pit482・499 が 2.8m、Pit482・487 が 3.1m、Pit487・522 が 2.9m、Pit499・522 が 3.2m である。北壁脇で S K 38 を検出した。平面形の形状は長方形を呈す。規模は 1.2m × 0.9m を測る。深さは 40 ~ 60cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。土師器(完形)の小型で扁平な半球形の坏が出土している。南壁脇で S K 39 を検出した。平面形の形状は方形を呈す。規模は 0.8m × 0.7m を測る。深さは 40cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 42 点を図示した。1 ~ 36 は土師器である。1 ~ 6 は坏である。6 は扁平な半球形で小型で

ある。7～15は高坏、16～22は鉢、23は有孔鉢、24は壺、25～36は甕である。37は須恵器坏、38・39は須恵器甕である。40は土製品の足と思われる。41・42は石製品管玉である。

#### SI 28 (第65・66・144図、図版25・66・67)

調査区南側に位置する建物である。SI 21・SD 33と重複し、切り合いではSI 28が新しい。東側と西側は攪乱されている。平面形は検出していないが、柱穴の方向から推定すると主軸方向はN-2°-Wである。遺構検出面からの深さは20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドと思われる焼土範囲を柱穴北側に検出した。周溝はない。柱穴はPit465・466・483・484の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit483のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit465が70cm、Pit466が55cm、Pit483が60cm、Pit484が50cmである。柱間はPit465・466が2.4m、Pit465・484が2.5m、Pit466・483が2.4m、Pit483・484が2.6mである。

出土遺物のうち14点を図示した。1～13は土師器である。1～3は坏、4・5は高坏、6～8は鉢で、7には底部に焼成前に穿孔された孔がある。9～13は甕である。14は須恵器甕である。

#### SI 29 (第67・145図、図版26・67)

調査区南側に位置する竈穴建物である。SD 13・33と重複し、切り合いではSD 13より古く、SD 33より新しい。西側はSD 13に切られ、南側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈すると思われる。検出した規模は1.5m×0.7mを測る。主軸方向はN-20°-Wである。遺構検出面からの深さは5cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。周溝・柱穴は検出していない。

出土遺物のうち13点を図示した。1～13は土師器である。1・2は坏、3は高坏、4～6は壺、7～13は甕である。

#### SI 30 (第67・145・146図、図版26・67・68)

調査区南側に位置する竈穴建物である。SD 13・25・33と重複し、SI 30がSD 13より古く、SD 25・33より新しい。北側はSD 13に切られ、南東は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈すると思われる。検出した規模は2.6×2.3mを測る。主軸方向はN-19°-Eである。遺構検出面からの深さは10～15cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。周溝は検出していない。柱穴はPit480の1基を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは22cmである。

出土遺物のうち15点を図示した。1～15は土師器である。1は手握土器、2・3は高坏、4～6は鉢、7～9は壺、10は台付甕、11～13は甕、14は口縁部と胸部に櫛波状文、頸部に麁状文を有する。弥生土器甕と思われる。15は鉄製品鎌と思われる。

#### SI 31 (第68・146・147図、図版26・68)

調査区中央に位置する竈穴建物である。SI 37・38・40・SD 30と重複し、切り合いではSI 31がSI 37・38・40・SD 30より古い。北側をSI 37に、南側をSI 37に、西側をSI 40に切られる。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は5.0m×3.5mを測る。主軸方向はN-39°-Wである。遺構検出面からの深さは10cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝はない。柱穴はPit565を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは20cmである。

出土遺物のうち18点を図示した。1～18は土師器である。1は高坏、2・3は鉢、4～9は壺、10～17は台付甕、18は甕である。

#### SI 32 (第69・70・147・148図、図版27・68)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SI 38・40、SD 26・33と重複し、切り合いではSI 32が新しい。東側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は6.8m×6.6mを測る。主軸方向はN-18°-Wである。遺構検出面からの深さは5～30cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが、中央北よりで炭化物が散布していた。周溝はない。柱穴はPit525・550の2基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit525が70cm、Pit550が60cmである。柱間は3.4mである。南壁脇中央でPit554を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは60cmである。

出土遺物のうち25点を図示した。1～24は土師器である。1～2は坏、3～11は高坏、12は器台、13・14は蓋、15～19は壺、20は台付甕、21～24は甕、25は砥石である。

#### SI 33 (第71・148～150図、図版27・69・70)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 34・35と重複し、切り合いではSI 33が新しい。南側は攪乱されている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は5.8m×4.3mを測る。主軸方向はN-35°-Wである。遺構検出面からの深さは10～20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが中央部で炭化物を検出している。周溝・柱穴はない。

出土遺物のうち36点を図示した。1～36は土師器である。1は手捏土器、2～14は高坏、15は器台、16～21は壺、22は鉢、23～36は甕である。

#### SI 34 (第63・64・150図、図版27・70)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 27・33、SD 25・26・33と重複し、切り合いではSI 34がSI 27・33、SD 26より古く、SD 25・33より新しい。北東側はSI 27に切られている。南側は浅くなり南壁を検出できていない。平面形は方形を呈すると思われる。北東側に重複する壁があり建て替えの可能性がある。規模は6.6m×5.5mを測る。主軸方向はN-13°-Wである。遺構検出面からの深さは40cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝は幅20cmで北東角でのみ検出した。柱穴はPit485・489・491の3基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit485が60cm、Pit489が40cm、Pit491が58cmである。柱間はPit485・489が3.9m、Pit489・491が2.5mである。

出土遺物のうち14点を図示した。1～14は土師器である。1～5は高坏、6～10は壺、11は壺と思われる。弥生時代の可能性もある。12～14は甕である。

#### SI 35 (第72～74・151・152図、図版28・70・71)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 33・SD 33と重複し、切り合いではSI 35がSI 33より古く、SD 33より新しい。南側は浅くなり南壁を検出できていない。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は7.4m×6.9mを測る。主軸方向はN-5°-Eである。遺構検出面からの深さは5～25cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝は幅10～15cmで東壁の一部でのみ検出した。柱穴はない。北壁脇中央で長さ20cm位の礫9点がまとまって出土している。

出土遺物のうち36点を図示した。1～35は土師器である。1～4は坏、5～15は高坏である。16は器台と思われる。17は蓋、18～27は壺、28～35は甕である。36は鉄製品鏝と思われる。

#### SI 36 (第72～74・152図、図版28・71)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 44・SD 33と重複し、切り合いではSI 36が新しい。平面



形は隅丸方形を呈し、規模は3.8m×3.8mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。遺構検出面からの深さは15~20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが、北西角の壁脇で焼土と少量の白色粘土を検出した。周溝は検出していない。柱穴はPit530・531・534・541の4基を検出した。平面形の形状はPit531・541は円形、Pit530・534は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit530が10cm、Pit531が40cm、Pit534が20cm、Pit541が25cmである。柱間はPit530-531が2.5m、Pit530・541が2.5m、Pit531・534が2.1m、Pit534・541が2.5mである。中央部でSK41を検出した。平面形の形状は円形を呈す。規模は0.8m×0.8mを測る。深さは46cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。中央部東よりでSK42を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。規模は0.8m×0.7mを測る。深さは62cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。土師器高環が出土している。

出土遺物のうち11点を図示した。1~10は土師器である。1~2は坏、3~6は高環、7は鉢、8~10は甕である。11は土製品土玉である。断面が角張るため白玉状の可能性がある。

#### SI 37 (第75・76・153・154図、図版29・71・72)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SI31・39、SD30と重複し、切り合いではSI37がSI39より古く、SI31・SD30より新しい。平面形は方形を呈し、規模は6.2m×6.0mを測る。主軸方向はN-27°-Wである。遺構検出面からの深さは15~30cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は悪く、北側の袖と内面の焼土範囲のみ検出した。周溝はない。柱穴はPit543・549・561・579の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit561のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit543が55cm、Pit549が55cm、Pit561が70cm、Pit579が60cmである。柱間はPit543・549が3.3m、Pit543・579が3.1m、Pit549・561が3.2m、Pit561・579が3.5mである。東壁脇でPit574を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは20cmである。

出土遺物のうち29点を図示した。1~27は土師器である。1~6は坏、7~12は高環、13は有孔鉢、14~17は壺、18~24は甕、25~27は甗である。28は須恵器蓋、29は磨石である。

#### SI 38 (第68・154・155図、図版29・73)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SI31・32・40、SD30と重複し、切り合いではSI38がSI32より古く、SI31・40、SD30より新しい。南側をSI32に切られ、東側は調査区外へ続いている。南側をSI32に切られ、東側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は5.3m×4.0mを測る。主軸方向はN-23°-Eである。遺構検出面からの深さは20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。中央部北よりに広がる焼土範囲を検出した。炉の可能性が考えられる。周溝はない。柱穴はPit566・569の2基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit566が30cm、Pit569が45cmである。柱間は2.3mである。

出土遺物のうち32点を図示した。1~30は土師器である。1~8は坏、9~17は高環、18は器台、19は鉢、20~24は壺、25~29は甕、30は甗である。31は須恵器蓋、32は須恵器甕である。

#### SI 39 (第77・78・155~157図、図版30・73・74)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SI37・40と重複し、切り合いではSI39が新しい。平面形は方形を呈し、規模は5.8m×5.7mを測る。主軸方向はN-3°-Wである。遺構検出面からの深さは10~15cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、焼土範囲と袖石を検出している。周溝はない。柱穴はPit562・570・571・572の4基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit562が35cm、Pit570

が35cm、Pit571が60cm、Pit572が40cmである。柱間はPit562・571が2.8m、Pit562・572が2.7m、Pit570・571が2.9m、Pit570・572が2.8mである。北壁脇東よりでPit577を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは52cmである。土師器帯が出土している。

出土遺物のうち26点を図示した。1～24は土師器である。1～7は坏、8～10は高坏、11～24は甕である。25は須恵器蓋、26は須恵器甕である。

#### SI 40 (第79・80・157・158図、図版30・74・75)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SI 32・38・39と重複し、切り合いではSI 40が古い。南側をSI 32に切れ、東側はSI 38に切られている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は6.0m×5.5mを測る。主軸方向はN-13°-Wである。遺構検出面からの深さは10～25cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。中央部北よりに新旧の炉を検出した。西側の炉が新しく、東側の炉が古い。周溝は幅15～20cmで北壁の全部と東壁・南壁の一部で検出した。柱穴はPit580・583・585・588の4基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit580が60cm、Pit583が60cm、Pit585が65cm、Pit588が55cmである。柱間はPit580・583が3.0m、Pit580・588が3.2m、Pit583・585が3.2m、Pit585・588が3.1mである。南周溝脇中央でPit590を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは48cmである。南周溝脇でSK 46を検出した。平面形の形状は長方形を呈す。規模は0.7m×0.6mを測る。深さは28cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち22点を図示した。1～22は土師器である。1～4は高坏、5～8は鉢、9～15は壺、16～22は台付甕である。

#### SI 43 (第81・158図、図版30・75)

調査区中央に位置する建物である。SI 7と重複し、切り合いではSI 43が新しい。また、SI 43はSI 7よりも床面が高い。西側をSI 7と攪乱に切れ、東側も攪乱され、平面形は検出できていない。検出した規模は6.3m×2.1mを測る。遺構検出面からの深さは5cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。西壁脇で焼土範囲を検出した。周溝・柱穴は検出できていない。

出土遺物のうち10点を図示した。1～9は土師器である。1・2は坏、3・4は高坏、5～9は甕である。10は砥石である。

#### SI 44 (第72～74・159図、図版75)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 36・SD 33と重複し、切り合いではSI 44がSI 36より古く、SD 33より新しい。東側をSI 36に切れ、西側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈し、規模は3.8m×3.8mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。遺構検出面からの深さは15～20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが、北西角の壁脇で焼土と少量の白色粘土を検出した。周溝は検出していない。柱穴はPit530・531・534・541の4基を検出した。平面形の形状はPit531・541は円形、Pit530・534は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit530が10cm、Pit531が40cm、Pit534が20cm、Pit541が25cmである。柱間はPit530・531が2.5m、Pit530・541が2.5m、Pit531・534が2.1m、Pit534・541が2.5mである。

出土遺物のうち6点を図示した。1～5は土師器である。1・2は高坏、3～5は甕である。6は須恵器甕である。

#### SB1 (第82図、図版31)

調査区南側のSI 2の北側に位置する。5間×3間の掘立柱建物で、平面形の規模は桁行7.0m、梁行5.0

～5.3mを測る。建物の南東角がS I 1と重複していたとみられるが、その部分の柱穴は検出できなかった。主軸方向はN-38°-Wである。柱穴はPit45・49・1・17～20・8～12・52・2・6・55・27である。柱穴の覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。遺構検出面からの堀方の深さは30cm前後を中心として20～40cmの間に収まる。堀方の深さに柱の根入れの深さがどの程度残るかは不明である。建物内の平面に床面の痕跡は検出できなかった。桁行の間は1.3～1.5m、梁行は1.65m～1.8mである。

#### SB2 (第53・54図、図版32)

調査区北側に位置する掘立柱建物である。S I 19・SD 32と重複し、切り合いではSD 32が古い。建物の南西角にあたり、柱穴は南北方向に2本、東西方向に3本検出した。北側・東側は調査区外へ続いている。規模は5.3m×2.9mを測る。主軸方向はN-4°-Eである。柱穴はPit406・416・417・420の4基を検出した。平面形の形状はそれぞれ円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit406が40cm、Pit416が50cm、Pit417が40cm、Pit416が40cmである。柱間はPit406・420が0.9m、Pit420・417が0.9m、Pit417・416が0.8mである。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

#### SB3 (第83・84図、図版32)

調査区北側に位置する建物である。西側に隣接する平成13年度調査区地点で検出されている周溝付平地建物と類似するものと思われる。同様の遺構であるSB4と接続している。また、SD 32と重複し、切り合いではSB3が新しい。北側は調査区外へ続いている。平面形は円形を呈する。検出した規模は6.7m×4.5mを測る。炬は検出していない。Pitは散在するが柱穴は不明である。溝の覆土は黒色砂質シルトを基調とする。幅30～40cm、深さ15cmで断面形は台形を呈す。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

#### SB4 (第83・84図、図版32)

調査区北側に位置する建物である。西側に隣接する平成13年度調査区地点で検出されている周溝付平地建物と類似するものと思われる。同様の遺構であるSB3と接続している。また、SD 32と重複し、切り合いではSB4が新しい。北側は調査区外へ続き、東側は攪乱されている。平面形は円形を呈する。検出した規模は6.3m×1.6mを測る。炬・柱穴は検出していない。溝の覆土は黒色砂質シルトを基調とする。幅30cm、深さ10cmで断面形は台形を呈す。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

#### SX3 (第85～88・160図、図版34～36・76)

調査区南側に位置する。S I 4と重複し、切り合いでは先行する。検出地点では広範囲にわたる焼土・炭化物を検出し、その下で浅い不整形な溝状遺構や土坑、Pitを検出した。この焼土範囲と溝状遺構などを含めてSX3とした。さらに完掘後の検討でSX3の範囲から検出したPitを柱穴とする建物を2軒推定し、それぞれSX3a、SX3bとした。SX3内で堅穴の堀方は確認できず、掘立柱建物などの平地建物であった可能性がある。

SX3aはSK 14・9・Pit127・103を柱穴とする。主軸方向はN-27°-Wである。焼土範囲は検出しているが、炬と判断できるものはない。柱穴の平面形は楕円形または不整形で、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは40cmから50cmの間に収まるがSK 14では24cmと浅い。柱間はSK 14・9間が2.6m、Pit127・103間が2.9m、Pit127・SK 14間が3.8m、Pit103・SK 9間が3.8mである。Pit127はS I 4の炬の下で検出しており、切り合いではS I 4に先行する。

SX3bはSX3aの北西側に隣接し、Pit69・SK16・3・13を柱穴とする。主軸方向はN-28°-Wである。埴はない。柱穴の平面形は楕円形または不整形である。SK13・16ではそれぞれ浅い落ち込みの中で柱穴状の堀方を検出している。覆土は黒褐色粘土質シルトや黒色粘土質シルトを基調とする。深さはSK3が18cm、Pit69が30cm、SK13が50cm、SK16が44cmである。柱間はPit69・SK16が2.6m、SK3・13が3.0m、SK3・Pit69が2.2m、SK13・16が2.5mである。

現場観察では焼土が部分的に集中して検出される範囲はあるものの途切れなく広く散っており、同時期に堆積したものと考えられた。また焼土はSX3a・bとした建物の柱穴の上面に覆い被さっており、柱穴の覆土内にはほとんど混入していない。少なくともSX3の範囲で何かが燃えた際に建物の柱は残っていないとみられる。SK8はSX3内で検出した平面形が不整形な土坑で、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは4cmと浅い。堀方内で検出した小Pitは別遺構と推測するが切り合いは不明である。この厚さ4cmの覆土中から勾玉が出土している。

出土遺物のうち22点を図示した。1～21は土師器である。1～4は坏、5～11は高坏、12は鉢、13は有孔鉢、14～16は壺、17～21は甕、22は滑石製の勾玉である。

### 第3節 土坑・ピット

#### SK34 (第59・161図、図版36・76)

調査区南側のS126の北側に位置する土坑である。平面形の形状は不整な長方形を呈す。規模は44cm×40cmを測る。深さは49cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器鉢である。

#### SK36 (第65・66・161図、図版36・76)

調査区南側のS11の東側に位置する土坑である。平面形の形状は隅丸長方形を呈す。規模は48cm×38cmを測る。深さは28cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器高坏で短脚である。

#### SK37 (第83・84・161・162図、図版36・76・77)

調査区北側のSB4の南側に位置する土坑である。東側を擾乱されている。平面形の形状は円形を呈すと思われる。検出した規模は1.6m×0.4mを測る。深さは20cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち15点を図示した。1～15は土師器である。1～2は坏である。埴形の坏で2は平底である。3～6は高坏で3～6は緩やかに外反する脚、7は有段の脚である。7～9は壺、丸底である。10～15は甕である。10・14は球形、15やや長胴形である。

#### Pit12 (第17・162図、図版77)

調査区南側のS12の北側に位置する。平面形は円形を呈し規模は50cm×50cmを測る。深さは25cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器坏である。須恵器蓋坏を逆転した形で深めである。

#### Pit61 (第7・162図、図版77)

西側のトレンチ状調査区の北端部に位置する。西側は調査区外へ続いている。平面形は円形を呈すと思われる。検出した規模は50cm×35cmを測る。深さは18cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち2点を図示した。1は土師器坏である。口縁部が小さく外反する平底の埴形の坏である。2

は土師器高坏である。緩やかに外反する脚で短脚である。

#### Pit105 (第 85・86・162 図、図版 77)

調査区南側の S X 3 の南側に位置する。平面形は円形を呈し規模は 30cm × 30cm を測る。深さは 30cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器壺である。丸底である。

#### Pit284 (第 43・162 図、図版 77)

調査区北側の S I 13 の南側に位置する。S D 32 と重複し、切り合いでは Pit284 が新しい。平面形は円形を呈し規模は 45cm × 41cm を測る。深さは 49cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器壺である。頸部に櫛描波状文・簾状文をもつ。

#### Pit291 (第 95・162 図、図版 77)

調査区中央の S D 12 の北側に位置する。S D 32 と重複し、切り合いでは Pit291 が新しい。平面形は円形を呈し規模は 60cm × 50cm を測る。深さは 38cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器で把手の付け根部分と思われる。土師器で模倣した把手付碗の可能性はある。

#### Pit292 (第 95・162 図、図版 77)

調査区中央の S D 12 の北側に位置する。S D 32 と重複し、切り合いでは Pit292 が新しい。平面形は円形を呈し規模は 30cm × 20cm を測る。深さは 46cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器甕である。口唇部に刻みをもつ。

## 第 4 節 溝・流路

### S D 1 (第 89～92・162～176 図、図版 37・38・78～84)

西側のトレンチ状調査区の南端部で検出した流路である。S K 1、S D 2 と重複し、切り合いでは新しい。流路の方向は北西から南東方向へ走る。しかし約 4m 隔てた東側の調査区では、S D 1 の方向へ向かって緩やかな傾斜を検出したものの流路の本体は検出できなかった。このため北西から南東方向へ流れを進めてきた S D 1 がこの地点で大きく湾曲して南方向へ流れを変えたと推測する。下層で出土した木製品も南東方向を向くものが多いが、南端部で出土したものは南方向へと向きを変えている。流路の規模は調査区内で検出したのが北肩のみで南肩を検出できなかったため確定できないが、土層断面の観察から推定した流路幅は約 5m である。最深部の深さは調査前の現況地盤から 3.5m、遺構検出面から 1.8m である。覆土は検出面上面付近では黒褐色粘土質シルトである。上層部分は黒褐色砂質シルト (4 層)、黒褐色砂 (5 層)、黒褐色粗砂 (6 層) などが堆積し、下層 (7～11 層) は腐食した植物遺体を含む黒色粘土と灰色砂の互層となる。

堆積状況から、下層では水が流れる時期と淀む時期を繰り返し、上層では水勢を得て短期間で砂層が堆積し、上面で水勢を失った後は窪地となってゆっくりと埋没していったと推測する。また遺物は木製品については主に下層の 8・9 層から出土した。土器は下層でも出土するが、7 層より上位で多く出土し、流路の北肩に沿った地点に集中する。ただし上層と下層で土器の時期差はあまりない。また、土器の割れ口が比較的鋭く、完形遺物こそないものの、出土時点で一見して接合する個体も多かったことから、原位置を保った状態と考えられた。以上から何らかの理由で木製品が流されてきて流路の湾曲部で滞留して溜まり、流れが止まったところで多量の土器が流路の北側から投棄された状況を推測する。出土遺物から流路の存続期間は古墳時代後期の限

られた期間とみられる。また、SD1の上面から底面にかけて層位ごとに土壌サンプルを採取し自然科学分析を試みている。

出土遺物のうち139点を図示した。1～57は土師器である。1は鉢と思われる。2～9は坏、10・11は手捏土器、12～19は高坏、20・21・23・27～30・32～45・47～52は甕、24～26は壺、31・46は台付甕、53・54・56・57は甗、22は単孔の有孔鉢、55は多孔の有孔鉢、58～65は須恵器である。58～60は蓋、61～63は坏、64・65は甕である。66は石製模造品剣形である。67は弥生時代の磨製石磯と思われる。68は砥石である。69～139は木製品である。69は槽、70は横槌、71は椅子、72～75は曲物側板、76は曲物底板、77は弓状木製品である。78・79は栓と思われる部材、80・81は着柄軸と思われる。82・83・91～108・123・134は棒状木製品、84～90は齋串、109～114・116～122・136は板状木製品、115は舟形状木製品、124・125・135は杭、126～132・137～139は部材、133は木樋である。

#### SD2 (第93・94・177図、図版38・85)

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北東から南西方向に走り、南西側はSD1に切られて終わる。北東側は約4m隔てて検出したSD12とつながり、同一遺構である可能性が高い。SD1・4・5と重複し、切り合いではそれぞれに先行する。溝幅は150cmで、底面までの深さは68cmを測る。覆土は粗砂と粘土が互層となりレンズ状に堆積する。上層の黒褐色砂(1層)と黒褐色粘土質シルト(2層)にそれぞれ土器片が混入するが、下層ではほとんど出土しなかった。

出土遺物のうち6点を図示した。1～5は土師器である。1・2は坏、3は高坏、4は甕、5は甗である。6は上面に研磨面を持つ砥石と思われる。

#### SD4 (第93・94図)

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北西から南東方向へ走り、両端は調査区外へ延びる。SD2・5、SK1と重複し、切り合いではそれぞれより新しい。溝幅は70cmで、深さは40cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトや黒色粘土を基調とする。SD1とほぼ併走しており、同時期に機能していた可能性もあるが出土遺物はほとんどない。

#### SD5 (第93・94・177図、図版38・85)

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北東から南西方向へ走り、南西側はSD4に切られて終わる。北東側はSD11につながり同一遺構となる可能性がある。SD2・4・6と重複し、切り合いではSD2より新しく、SD4・6に先行する。溝幅は60cmで、深さは30cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。SD2と併走しており東側の調査区のSD11と同一遺構の可能性が高い。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器環である。

#### SD6 (第93・94・177図、図版39・85)

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北西から南東方向へ走り、両端は調査区外へと延びる。SD5と重複し、切り合いでは新しい。溝幅は50cmで、深さは24cmを測る。覆土は上層に黒褐色砂、下層に黒褐色粘土が堆積する。東側の調査区のSD13と同一遺構である可能性が高い。

出土遺物のうち4点を図示した。1～3は土師器である。1は高坏、2は台付甕、3は甕である。4は須恵器蓋である。

#### SD10 (第95図、図版39)

調査区南側に位置する。調査区の西壁から東方向へ走り、短く延びて終わる溝である。重複する遺構はない。

溝幅は70cmで、深さは14cmを測る。覆土は上層に褐灰色粘土、下層に黒褐色粘土が堆積する。出土遺物はない。

#### SD 11 (第95・97～101・177図、図版39・85)

調査区中央をSD 12と併走しながら東西方向に走る溝である。東側はS I 6の北側付近で途切れるが、西側はSD 5につながり同一遺構となる可能性がある。S I 6、SD 32と重複し、切り合いではS I 6に先行しSD 32より新しい。溝幅は80cm、深さ32cmを測る。覆土は上層に黒褐色砂質シルト、下層に黒色砂質シルトが堆積する。

出土遺物のうち6点を図示した。1は縄文土器深鉢である。2～5は土師器である。2は台付甕、3～5は甕である。6は縄文時代の凹石と思われる。

#### SD 12 (第95・97～101・178図、図版39・85)

調査区中央をSD 11と併走しながら東西方向に走る溝である。東側は調査区の東端部に位置するS I 25下まで延びる。西側は約4m隔てたSD 2につながり同一遺構となる可能性が高い。S I 6・25、SD 30・32と重複し、切り合いではS I 6・25、SD 30に先行し、SD 32より新しい。溝幅は120cm、深さ44cmを測る。覆土は上層に黒褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂が堆積する。

出土遺物のうち8点を図示した。1は縄文時代後期堀之内式の注口土器と思われる。2～8は土師器である。2・3は壺である。2は櫛描波状文、3はボタン状貼付文をもつ。4～8は甕である。

#### SD 13 (第96・178図、図版40・85)

調査区中央から南側にかけて位置する溝である。S I 9・10・24・29・30、SD 33と重複し、切り合いではSD 13がS I 9・24・29より古く、S I 10・30、SD 33より新しい。規模は長さ30.1m、幅0.4～1.1m。深さ0.5mを測る。主軸方向はN-45°-Wである。断面形は方形で、一部で底面に段を持つ。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち7点を図示した。1～7は土師器である。1は環、2・3は高環、4は頸部に穴のある短頸の壺、5・6は甕、7は甗である。

#### SD 14 (第97～101・178図、図版41・85)

調査区北側に位置する溝である。S I 13・16・17、SD 15・32と重複し、切り合いではSD 14がS I 13・16・17、SD 15より古く、SD 32より新しい。西側は調査区外へ続いている。東側はS I 13内で途切れるが、SD 28へと続くものと思われる。検出した規模は長さ17.0m、幅0.3～0.5m。深さ0.3～0.4mを測る。主軸方向はN-25°-Wである。断面形は方形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち2点を図示した。1は土師器壺である。2は鉄製品鎌である。

#### SD 17 (第97～101・179～191図、図版41～43・85～93)

調査区北側に位置する溝。S I 25、SD 32と重複し、切り合いではSD 17がS I 25より古く、SD 32より新しい。規模は長さ37.0m、幅1.6～1.9m。深さ0.3～0.6mを測る。主軸方向はN-35°-Wである。断面形は方形または半円形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。土器溜まりのように多数の遺物が出土している。形状が復元できるものも多く土器が溝に廃棄されたと考えられる。

出土遺物のうち177点を図示した。1～172は土師器である。1～43は高環、44～50は器台、51～57は蓋、58～69は鉢、70・71は有孔鉢である。72は丸底に高台状の張り出しを貼り付けてある鉢と思われる。73・74は丸底の鉢、75～104は壺、105～144は台付甕、145～170は甕、171は甗把手、172は手焙形土

器である。173は叩き石、174・175は砥石である。176は鉄製品鎌である。177は黒曜石の石鎌である。

#### SD 28 (第97～101・178図、図版41・85)

調査区中央に位置する溝である。SD 12と重複し、切り合いではSD 28がSD 12より古い。北側は途切れているがSD 14へ続くものと思われる。南側はSD 30とは接続している。規模は長さ3.4m、幅0.5m。深さ0.2mを測る。主軸方向はN-0°-Wである。断面形は方形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器甕である。

#### SD 30 (第97～101図、図版41)

調査区中央に位置する溝である。SI 31・37・38、SD 12と重複し、切り合いではSD 30がSI 37・38、SD 12より古く、SI 31より新しい。東側は調査区外へ続いている。西側はSD 28と接続している。検出した規模は長さ15.5m、幅0.3～0.5m。深さ0.1mを測る。主軸方向はN-55°-Wである。断面形は台形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

#### SD 32 (第97～101・192図、図版43・94)

調査区中央から北側にかけて位置する流路である。SI 5・6・8・13・19、SB 2・3・4、SD 11・12・14・17と重複し、切り合いではSD 32が古い。北側と西側で調査区外へ続いている。北側から流れてきた2本の流路が合流して西側へ流れている。検出した規模は長さ34m、幅2～4m。深さ1mを測る。主軸方向はN-58°-Eで、N-4°-Wから合流している。断面形は台形である。覆土は細砂と粗砂が互層となる砂礫層である。覆土には遺物がほとんど含まれず、縄文時代の遺物がわずかに出土している。SD 32は古墳時代以前に埋没していたと考えられる。古墳時代の遺構は埋没したSD 32を地山として掘り込んで構築されている。SD 32は現在は水がしみ出してくる程度の流路である。

出土遺物のうち4点を図示した。1は縄文土器深鉢である。2は打製石斧、3は黒曜石の石鎌、4は黒曜石の原石である。

#### SD 33 (第102～106・192・193図、図版44・94)

調査区南側に位置する流路である。SI 20・21・22・27・28・29・30・32・33・34・35・36・44、SD 13・25・26と重複し、切り合いではSD 33が古い。北側と東側、南側の3方向で調査区外へ続いている。検出した規模は長さ30m、幅21m。深さ1.4mを測る。主軸方向はN-22°-Eである。覆土は細砂と粗砂が互層となる砂礫層である。トレンチを設定して掘り下げた結果、幅21mの中で蛇行して流路が移動している様子が観察できた。流路は時代とともに東から西へ移り、最終的にまた東へ戻っている。古墳時代後期から平安時代には流路は東端を流れており、その後更に東側の調査区外へと移動していったと思われる。覆土には縄文時代から平安時代の遺物が含まれている。トレンチの西側から縄文時代の遺物が出土している。中央部に古墳時代の遺物が多く、東側から平安時代遺物が出土している。縄文時代・平安時代の遺物は少量で主体は古墳時代の遺物である。SD 33は現在でも常に地下水が流れ続ける流路である。北側に位置する平成6・7年度調査区地点でも川、沼が検出されているが、この川の下流域の流路となりつながることも考えられる。

出土遺物のうち23点を図示した。1・2は縄文土器深鉢である。3は撚形の打製石斧である。4～21は土師器である。4～11は環、12は平安時代の高台が削り出された環、13は器台、14～16は高環、17は鉢、18は台付甕、19～21は甕である。22は須恵器環である。23は青銅製品の鈴と思われる。馬鈴の可能性も考えられる。



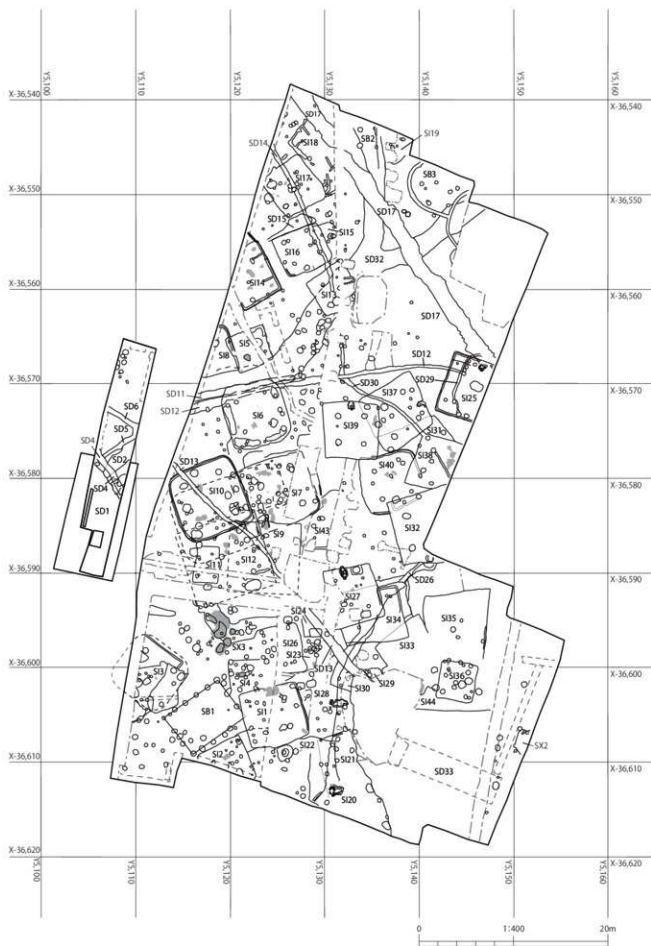
## SX2 (第102～106・159図、図版33・76)

調査区南側に位置する。東側は調査区外へ続いている。平面形は不整な方形を呈し、検出した規模は2.8m×1mを測る。遺構検出面からの深さは15cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。点在する炭化物範囲と小破片ではあるが平安時代の遺物を検出した。その後、周辺にトレンチを設定しSD33との関係を検討した結果、調査区内でSX2およびその周辺でのみ平安時代の遺物が分布することが分かった。平安時代の遺物はSD33に設定したトレンチ東端で砂礫層の中からもわずかに出土したが、多くは砂礫層上の粘土質の層から出土している。平安時代後半から末には調査区の東端もSD33の西側の川縁となっており、強い水流を伴う砂礫層上に土層が堆積し始めていたと考えられる。

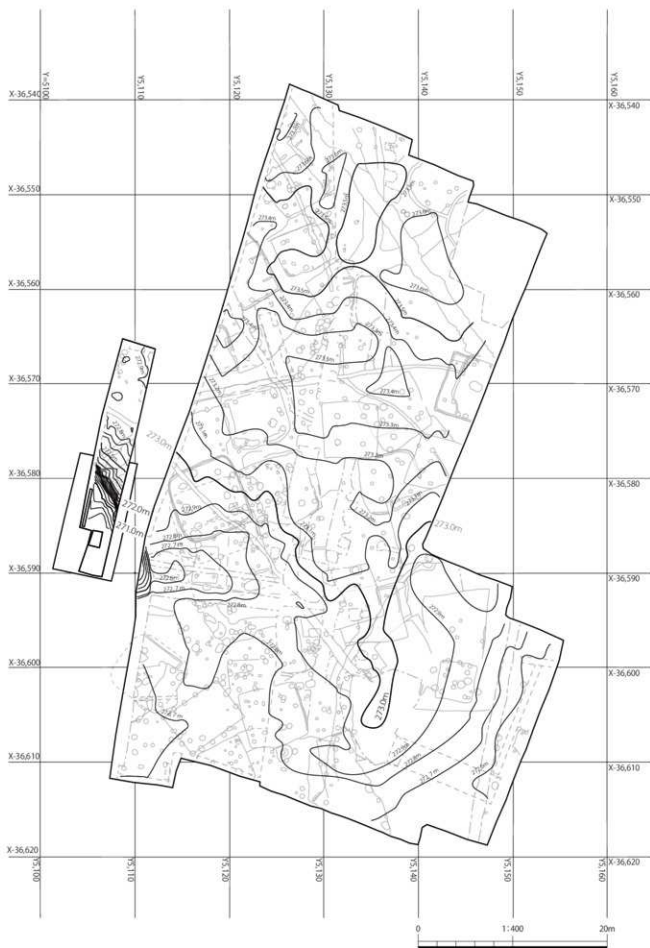
出土遺物のうち10点を図示した。1～5は平安時代の土師器環、6は小皿である。4は底部に高台が削り出されている。5は底部が柱状気味である。7は甕である。8は須恵器蓋、9・10は須恵器甕である。

## 遺構外遺物 (第8・12・46・194図、図版94)

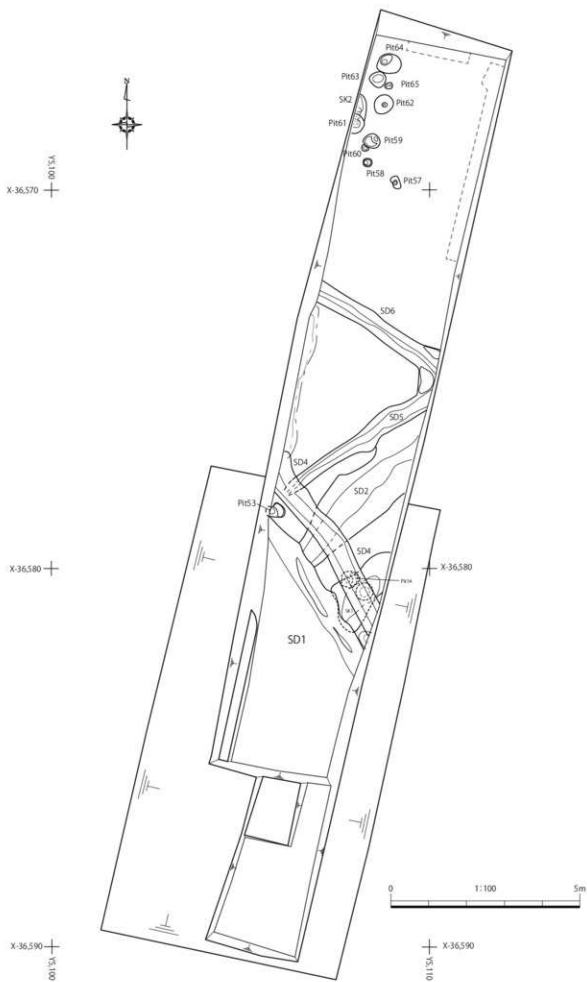
遺構外遺物は遺構検出面の上層の遺物包含層から出土している。出土遺物のうち7点を図示した。1はSI16南側付近で出土している。土師器の高環形をした手捏土器である。2はSI3東側付近で出土している。土師器高環である。3はSI3南側付近で出土している。土師器器台である。4はSD2南側付近で出土している。土師器蓋で摘み部に一對の穴がある。5はSD1北側付近で出土している。土師器の注口付土器の注口部と思われる。6はSI16南側付近で出土している。須恵器壺である。7はSD2南側付近で出土している。須恵器壺である。8はSD17東側付近で出土している。鉛製の鉄砲玉である。



第5図 遺構全体図(1)



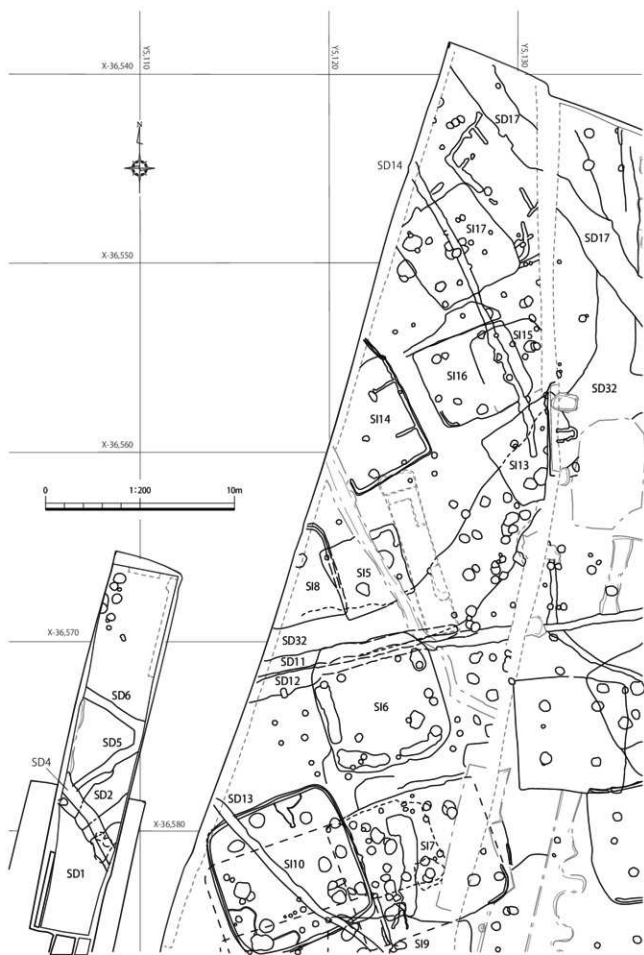
第6図 地形図



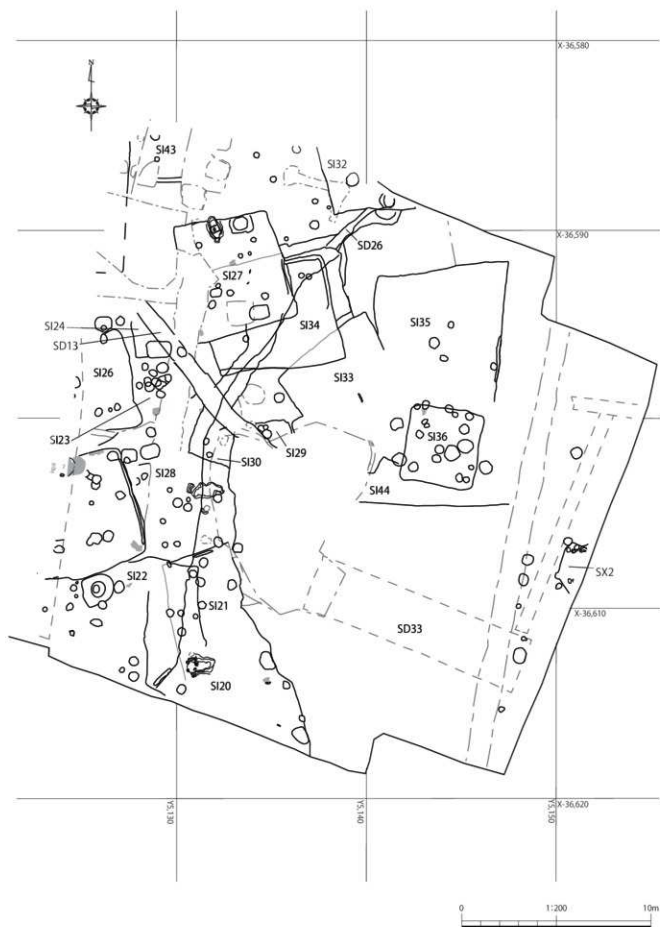
第7図 遺構全体図(2)



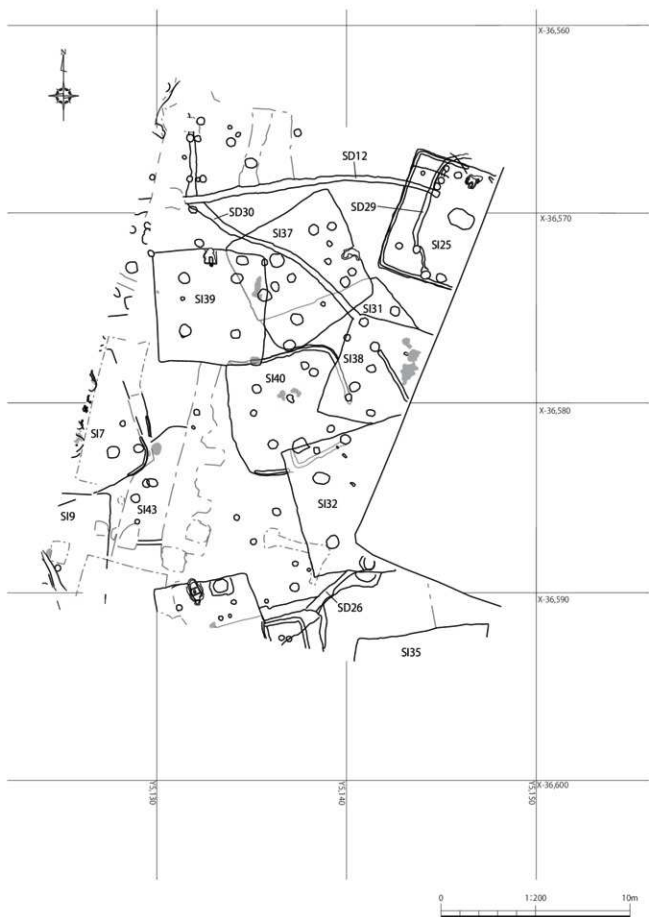
第8図 遺構全体図(3)



第9図 遺構全体図(4)

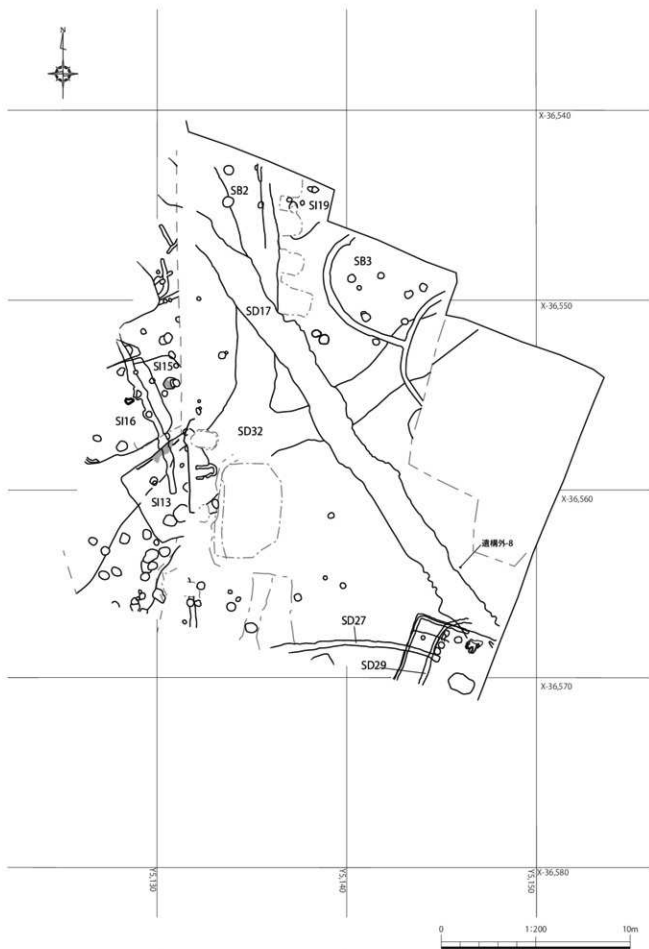


第10図 遺構全体図(5)

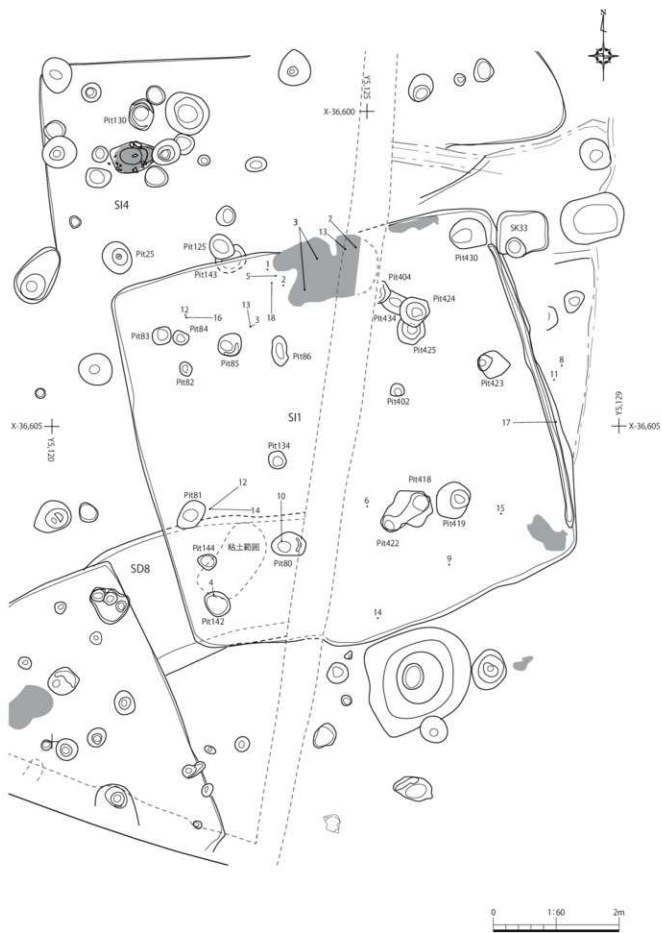


第11図 遺構全体図(6)

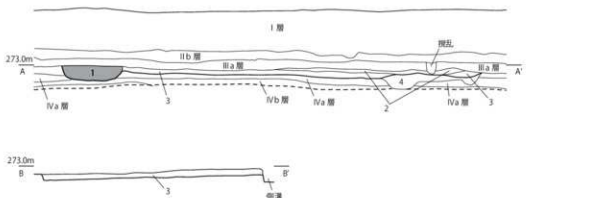




第12図 遺構全体図(7)



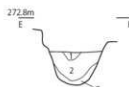
第13図 S11(1)



S11

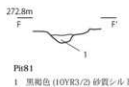
- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト  
炭化物・焼土粒 10% [カマド]
- 2 黒褐色に炭化物うすく層状に 30%混
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 1%
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物・焼土粒 3% [SD8]

- I 層 砂石・瓦礫ゴミ混入 [造成土]
- IIb 層 灰色 (7.5Y4/1) 粘土 [近現代]
- IIIa 層 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
炭化物少量 径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%  
[古墳包含層]
- IVa 層 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト [地山]
- IVb 層 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土 [地山]



Pit80

- 1 灰褐色 (10YR5/2) 粘土質シルト
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%
- 3 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土



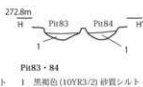
Pit81

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒状 3%



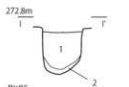
Pit82

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒状 3%



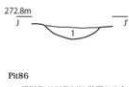
Pit83・84

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%



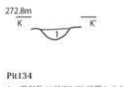
Pit85

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%
- 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土



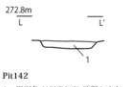
Pit86

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%



Pit134

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト



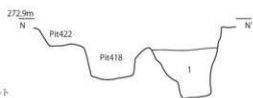
Pit142

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
炭化物・焼土粒少量



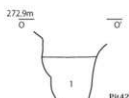
Pit144

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
炭化物少量含む  
焼土粒 1%



Pit419

- 1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1 mm 白色粒 3%  
径 2 mm 黄色粒 2%  
径 1 mm 炭化粒 1%

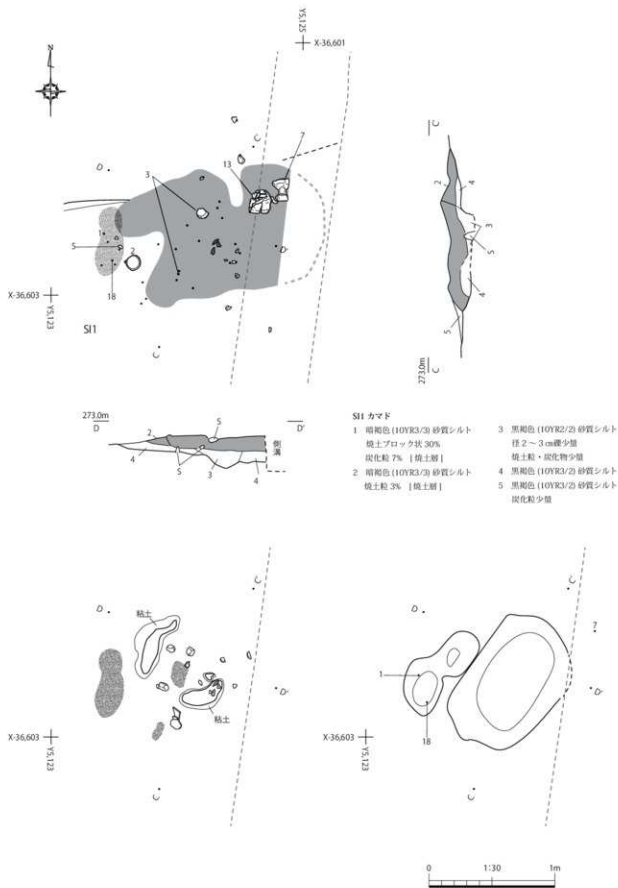


Pit424

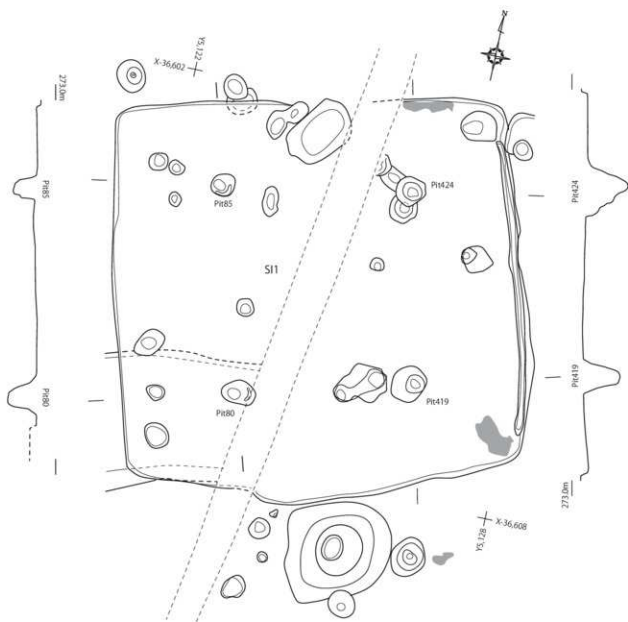
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 5 mm 焼土粒 2%  
径 1 mm 白色粒 2%  
径 1 mm 黄色粒 1%



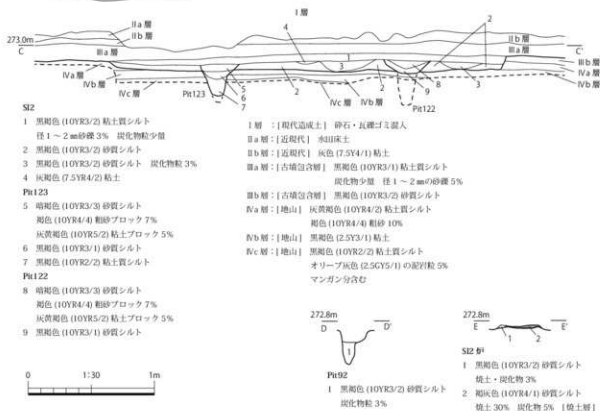
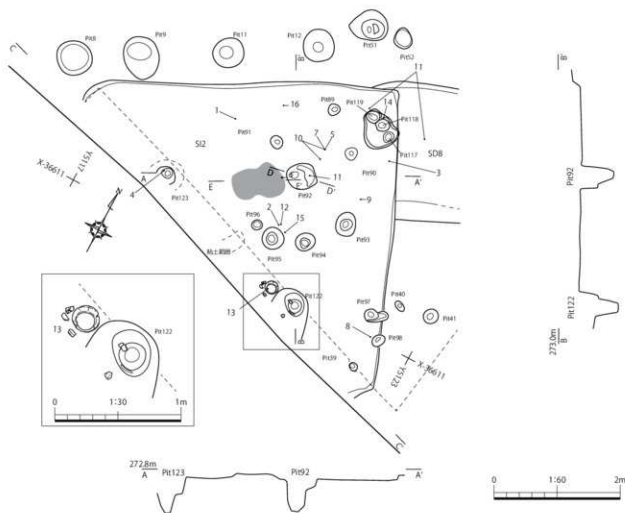
第14図 S11(2)



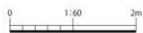
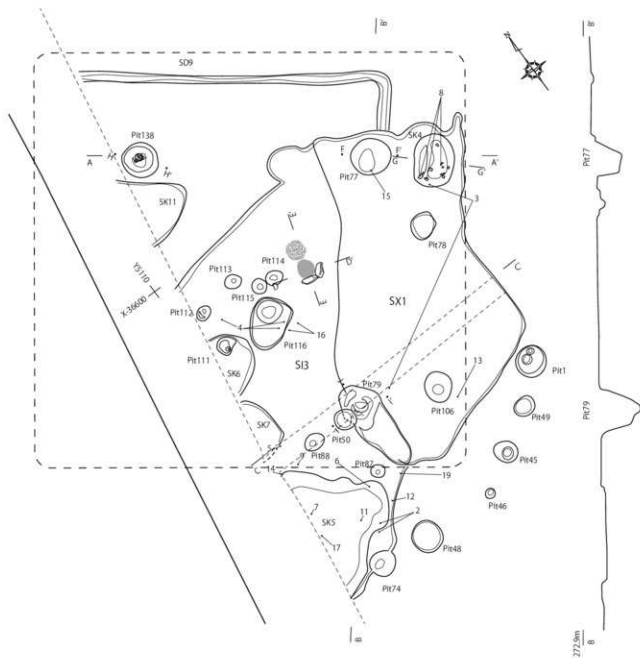
第15図 S11(3)



第16図 S11(4)

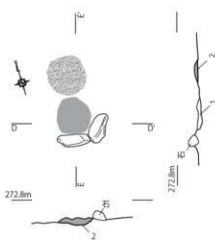


第17図 SI2



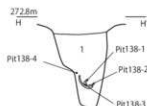
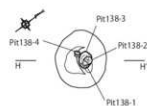
- SX1・S13
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト  
炭化物・土器小片少量 肥粒粒 3% [SX1]
  - 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト  
炭化物少量 肥粒粒 5% [S13]
  - 3 黒褐色 (10YR2/2) 粘土 [Pit88 上層]
  - 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト  
炭化物粒 3% 粘性あり [Pit79 上層]
- IVc層 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト  
肥粒粒 10% [地山]

第18図 S13(1)



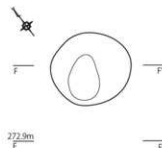
S13 4P

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト  
炭化物粒 7% [炭化物層]
- 2 濃い赤褐色 (5YR4/3) シルト  
綿まり強 [粘土層]



Pit138

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化炭分粒 3%

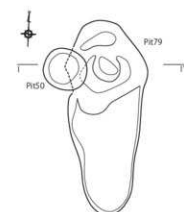


272.9m

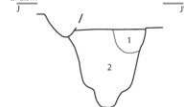


Pit77

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 3% 炭化物粒少量
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト

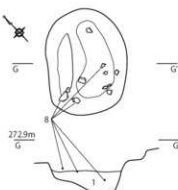


272.8m



Pit79

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルトをブロック状に 30% 含む  
炭分粒 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
炭分粒 3%



272.9m



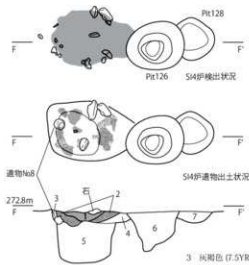
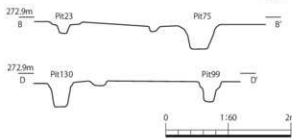
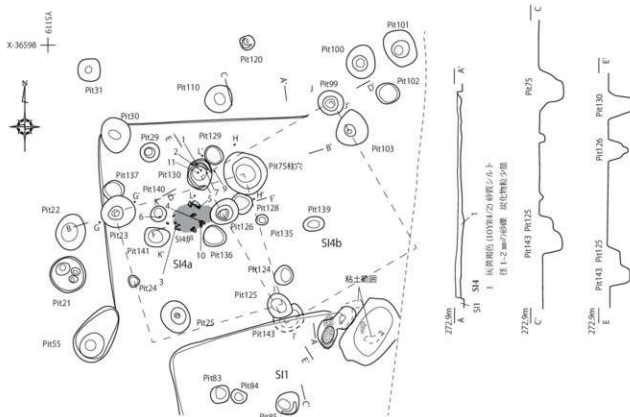
SK4

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
炭化物粒 3% 土塊小片少量



第19図 S13(2)





**S14 群 - Pt126・127**  
 1 褐色 (7.5YR4/3) シルト  
 粘土ブロック 30% 炭化物粒 7%  
 [粘土層・S14 群]  
 2 褐色 (7.5YR4/3) シルト  
 粘土ブロック 30% 炭化物 30%  
 [粘土・炭化物層・S14 群]

3 灰褐色 (7.5YR4/2) シルト  
 炭化物 10% [S14 群]  
 4 褐色 (7.5YR4/3) シルト [S14 群]  
 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 壁面沿いに炭化物・粘土を粒状に 3% 含む  
 [Pt127・重なる別建物の柱穴]  
 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト [Pt126]  
 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 泥径粒 1% [Pt128]

**Pt23 (S14a)**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
 炭化物少量

**Pt125 (S14a)・143 (S14b)**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 灰褐色 (10YR5/2) 粘土粒 7%  
 炭化物粒少量 [Pt125]  
 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
 炭化物粒 1%  
 泥径粒 3% [Pt143]  
 遺物No6

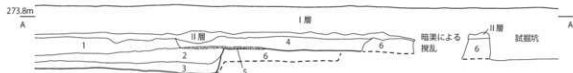
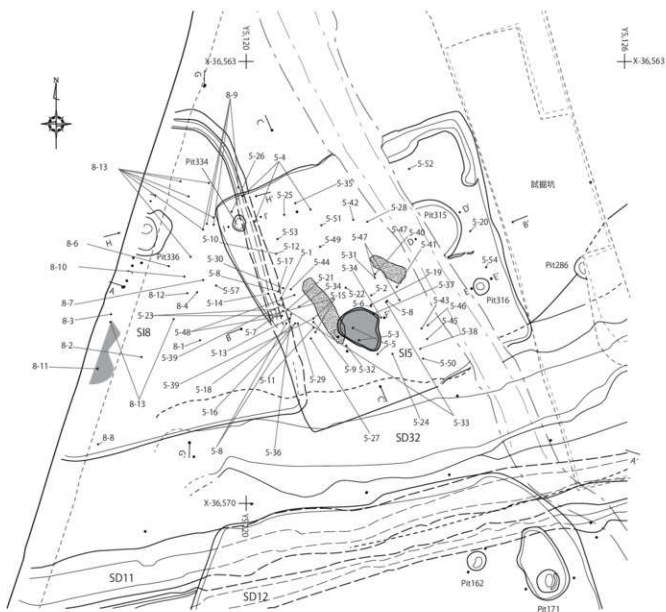
**Pt140・141**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 粘土・炭化物層 1%

**Pt75 (S14a)**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
 炭化物少量 泥径粒少量

**Pt99 (S14b)**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 炭化物粒少量

**Pt130 (S14b)**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト

第20図 S14



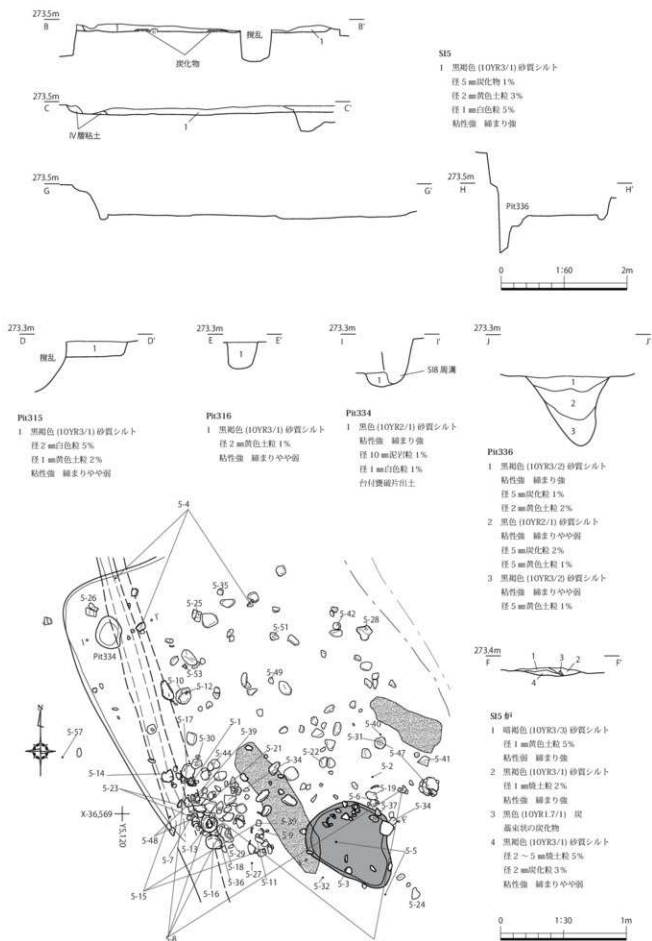
I層：造成土 砂礫層  
 上層：砕石  
 下層：砕石に径10～30cm石多く含む  
 II層：水田床土 5Y4/2 灰オリーブ色粘土

S18  
 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
 径1～2mm砂礫10%  
 炭化物粒3% 炭化物粒少量  
 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
 径1～2mm砂礫1%  
 炭化物粒1% 炭化物粒少量  
 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 粘まり弱

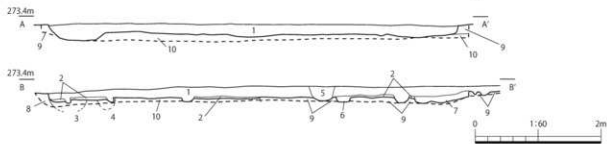
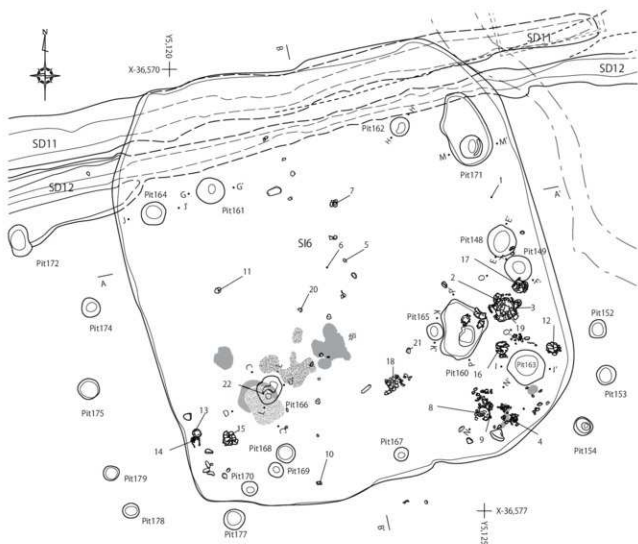
S15  
 4 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト  
 径1～2mm砂礫7%  
 炭化物粒5%  
 土器小片・焼土粒3% [S15 堆積土]  
 5 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト  
 径1～2mm砂礫7%  
 炭化物粒30% [S15 表面炭化物層]  
 SD32  
 6 に近い黒褐色 (10YR4/3) 粗砂



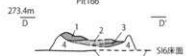
第21図 S15・8(1)



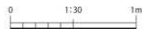
第22図 S15・8(2)



- 1 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト  
径1~2mm砂礫5% 径5~10mm配岩礫1%
- 2 灰黒褐色(10YR4/2)粘土 [S16床面]
- 3 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト  
径1~2mm砂礫10% [SD11]
- 4 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト  
径1~2mm砂礫10% [SD12]
- 5 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土粒3% [S16壁]
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト
- 7 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト
- 8 によい黄褐色(10YR4/3)砂  
径2~5cmの礫多く含む [SD32・S16地山]
- 9 黒褐色(10YR2/2)粘土 [S16地山]
- 10 暗褐色(10YR3/3)砂  
径1~2mm砂礫7%  
径5mm配岩礫7%  
[SD32の影響を受けた層・S16地山]



- S16 壁上
- 1 黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト 焼土ブロック30% [焼土層]
  - 2 黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト 炭化物30% [炭化物層]
  - 3 黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト 焼土粒30% [焼土層]
  - 4 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト [S16埋積土]



第23図 S16(1)

273.4m



Pit 148

- 1 灰色 (5Y4/1) 粘土 [II層ベース]
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
任 1 ~ 2 mm 砂礫 7%  
炭化物粒 1%
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
にふく黄褐色 (10YR5/4) 30%

273.4m



Pit 149

- 1 灰色 (5Y4/1) 粘土 [II層ベース]
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
任 1 ~ 2 mm 砂礫 7%  
炭化物粒 1%

273.1m



Pit 161

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
細まり弱

273.1m



Pit 162

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
細まり弱

273.1m



Pit 163

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
任 1 ~ 2 mm 砂礫・炭化物粒 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
細まり弱

273.1m



Pit 164

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
任 1 ~ 2 mm の砂礫 3%

273.1m



Pit 165

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状 30%
- 2 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト

273.1m



Pit 166

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
任 1 ~ 2 mm 砂礫 7%

273.2m



Pit 171

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
任 1 ~ 2 mm 砂礫 5%

273.1m



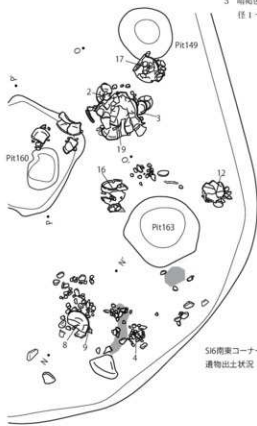
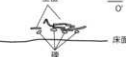
Pit 160

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 粘土
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト 細まり弱
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
任 1 ~ 2 mm の砂礫・炭化物粒 3%

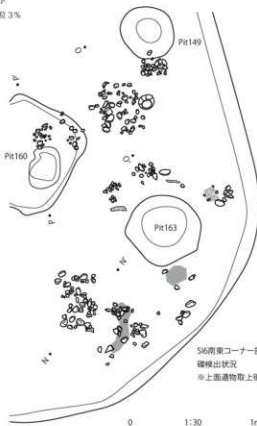
273.4m



273.4m



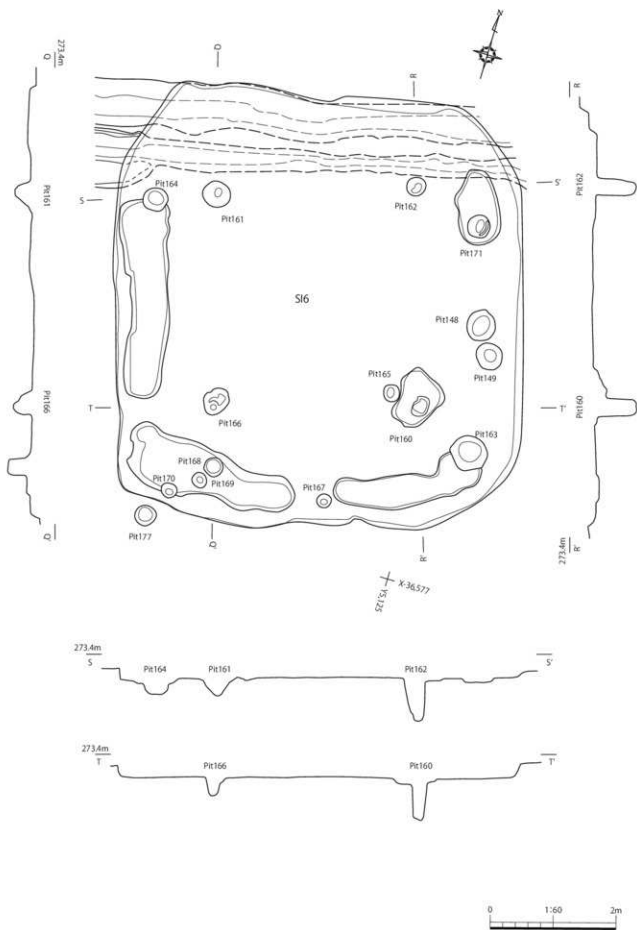
S16南東コーナー部  
遺物出土状況



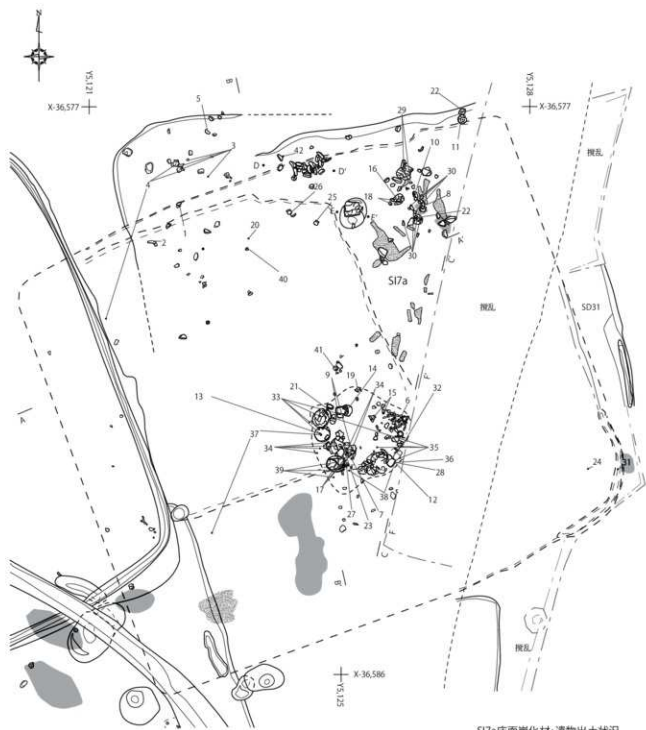
S16南東コーナー部  
確認状況  
※上層遺物取上後

0 1:30 1m

第24図 S16(2)

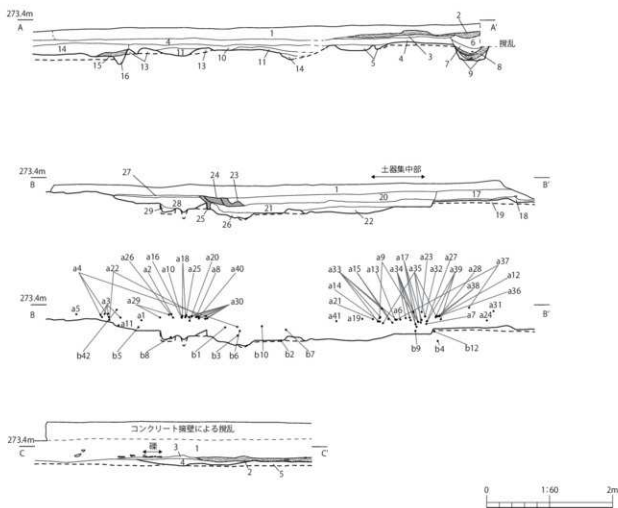


第25図 SI6(3)



SI7a床面炭化材・遺物出土状況

第26図 SI7(1)

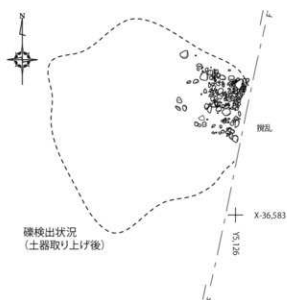
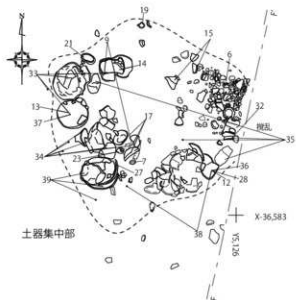
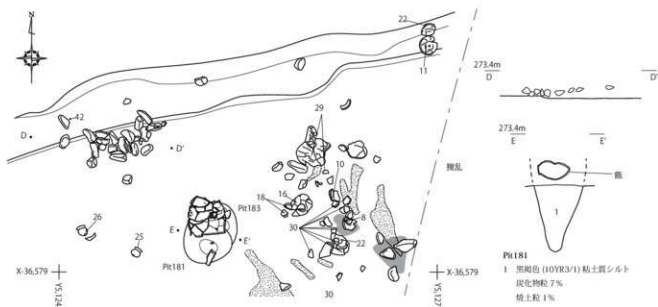


S17a・b

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p>1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 10%</p> <p>2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%<br/>炭化物 7% [炭化物層]</p> <p>3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト<br/>暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 30%<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%<br/>硬く締まる [S17a 床面]</p> <p>4 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 3 mm の砂礫 10%</p> <p>5 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 3 mm の砂礫・泥岩粒 7%</p> <p>6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 3 mm の砂礫 10% [Pt180]</p> <p>7 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト<br/>焼土粒状に 1%<br/>炭化物粒状に 3% [Pt180]</p> <p>8 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト<br/>炭化物粒状に 10%<br/>焼土ブロック状に 7% 含む<br/>土層片多く含む [Pt180・炭化物層]</p> <p>9 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト [Pt180]</p> | <p>10 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>焼土粒 10%</p> <p>11 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト<br/>焼土粒 7%</p> <p>12 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト</p> <p>13 にふい黄褐色 (10YR5/4) 粗砂<br/>細れた泥岩多量に含む</p> <p>14 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%<br/>炭化物粒 3% [S10 堆積土]</p> <p>15 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>炭化物粒 30%<br/>[S10 堆積土・炭化物層]</p> <p>16 暗褐色 (10YR3/1) 砂質シルト [S10 堆積土]</p> <p>17 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%</p> <p>18 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト</p> <p>19 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト</p> <p>20 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5% 土層断片含む</p> | <p>21 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 3% [堆積土]</p> <p>22 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト [埋積土]</p> <p>23 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>にふい褐色 (7.5YR6/4) シルト<br/>焼土ブロック 30% [焼土層]</p> <p>24 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>にふい褐色 (7.5YR6/4) シルト<br/>焼土ブロック 10% [焼土層]</p> <p>25 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>にふい褐色 (7.5YR6/4) シルト<br/>焼土粒 5% [焼土層]</p> <p>26 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト</p> <p>27 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト<br/>締まり強 [S17a 床面]</p> <p>28 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト</p> <p>29 暗褐色 (10YR4/1) 砂質シルト<br/>炭化物・焼土 5% 締まり面 [Pt194]</p> |
|--|---|---|

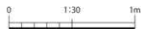
第27図 S17(2)



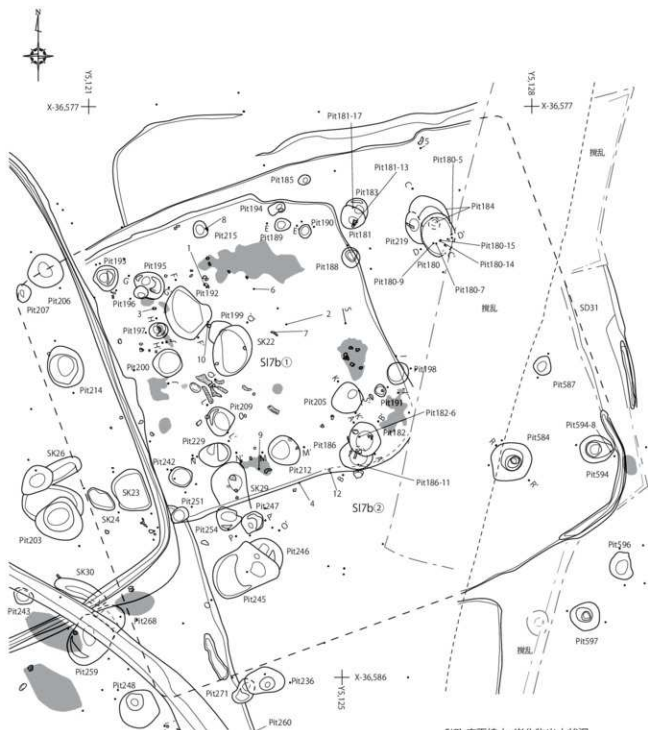


S17

- 1 黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 10%
- 2 にぶい黒褐色 (10YR4/3) 砂質シルト  
黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 30% 含む  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%  
細まり礫 [S17a 床面]
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 3 mm 砂礫 10%
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1 ~ 3 mm 砂礫・泥岩粒 7%



第28図 S17(3)



S17b床面焼土・炭化物出土状況

273.2m  
5

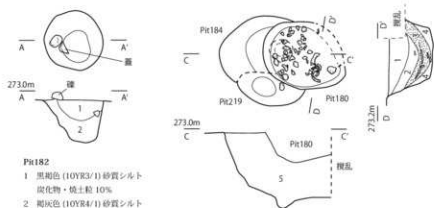


S17b Ⅱ

- 1 に深い黄褐色 (10YR7/3) 粘土
- 2 暗赤褐色 (5YR3/6) シルト 焼土層
- 3 に深い黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト 焼土 10% (焼土層)
- 4 赤褐色 (5YR4/6) 砂質シルト 焼土層
- 5 に深い黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト

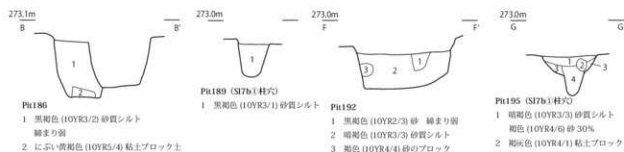
0 1:60 2m

第29図 S17(4)



- Pit182**
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
炭化物・焼土粒 10%
  - 2 期灰色 (10YR4/1) 砂質シルト

- Pit180**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1~3mm 砂礫 10%
  - 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
焼土粒 1%  
炭化物粒 3%
  - 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
炭化物粒 10%  
焼土ブロック 7%  
土器片多く含む [炭化物層]
  - 4 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト
- Pit184 (SI7b-2柱穴)**
- 5 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト

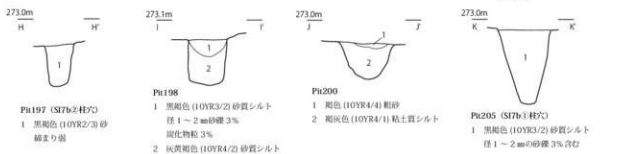


- Pit186**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
締まり弱
  - 2 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘土ブロック土

- Pit189 (SI7b-1柱穴)**
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト

- Pit192**
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 締まり弱
  - 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
  - 3 褐色 (10YR4/4) 砂のブロック

- Pit195 (SI7b-1柱穴)**
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
褐色 (10YR4/6) 砂 30%
  - 2 期灰色 (10YR4/1) 粘土ブロック
  - 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
  - 4 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
締まり弱

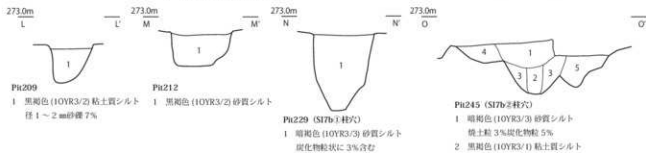


- Pit197 (SI7b-2柱穴)**
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂  
締まり弱

- Pit198**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1~2mm 砂礫 3%  
炭化物粒 3%
  - 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト

- Pit200**
- 1 褐色 (10YR4/4) 粗砂
  - 2 期灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト

- Pit205 (SI7b-1柱穴)**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1~2mm の砂礫 3% 含む

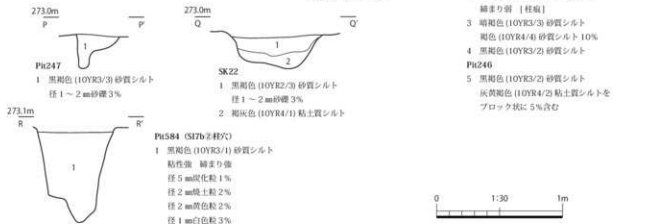


- Pit209**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
径 1~2mm 砂礫 7%

- Pit212**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト

- Pit220 (SI7b-1柱穴)**
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
炭化物粒状に 3% 含む

- Pit245 (SI7b-2柱穴)**
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
焼土粒 3% 炭化物粒 5%
  - 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
締まり弱 [柱痕]
  - 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
褐色 (10YR4/4) 砂質シルト 10%
  - 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト



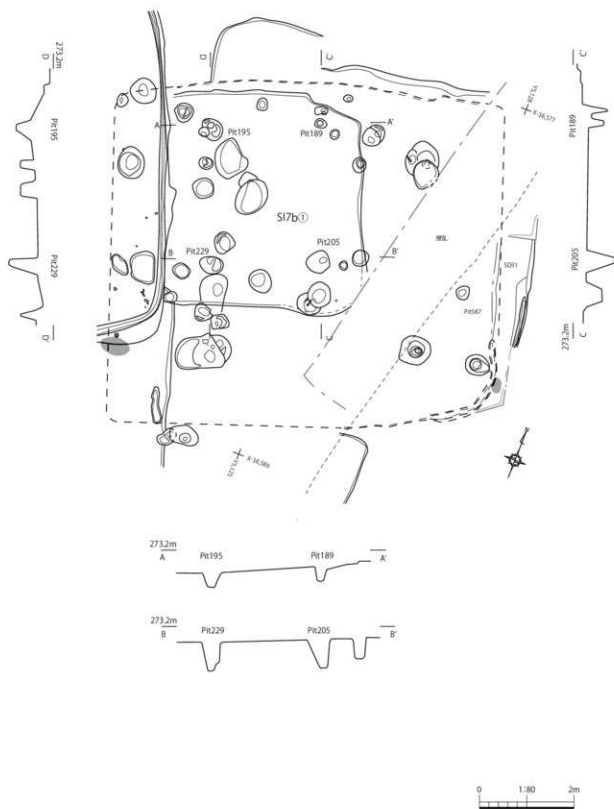
- Pit247**
- 1 黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1~2mm 砂礫 3%

- SK22**
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト  
径 1~2mm 砂礫 3%
  - 2 期灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト

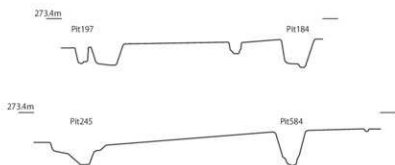
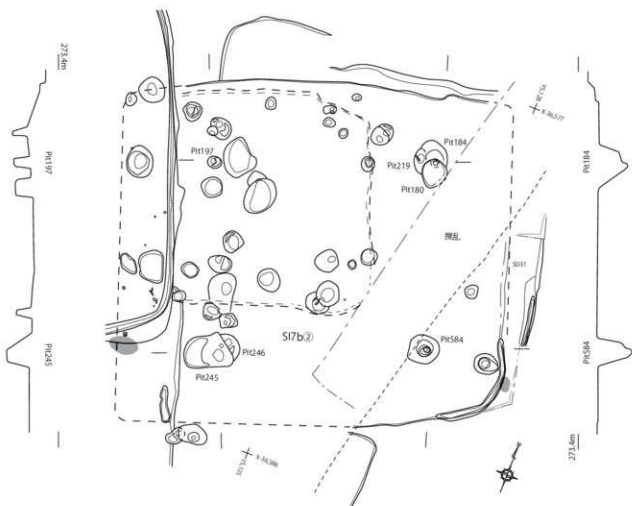
- Pit584 (SI7b-2柱穴)**
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 5mm 炭化物粒 1%  
径 2mm 焼土粒 2%  
径 2mm 黒色粒 2%  
径 1mm 白色粒 3%



第30図 SI7(5)

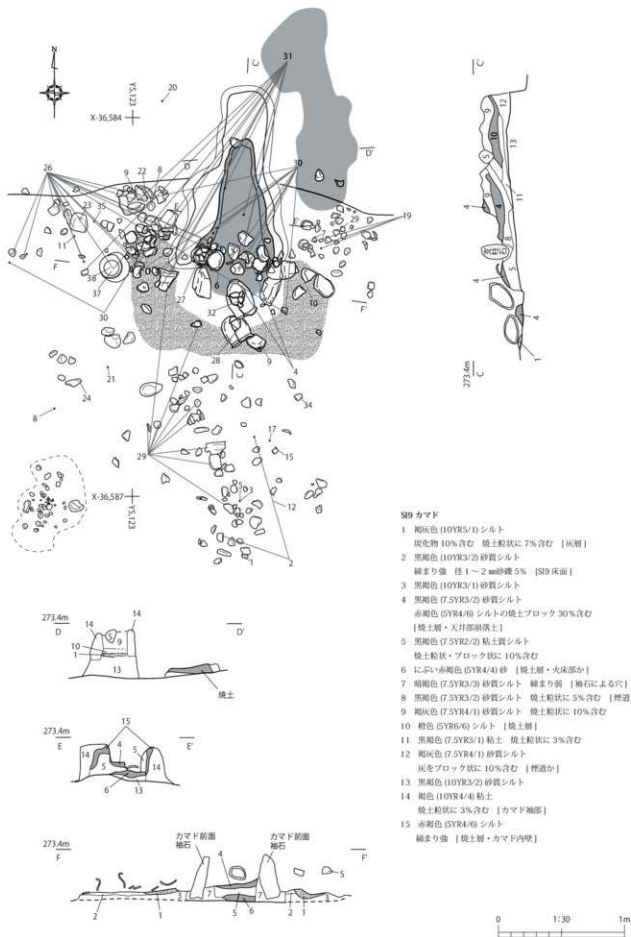


第31圖 S17(6)



第32図 SI7(7)

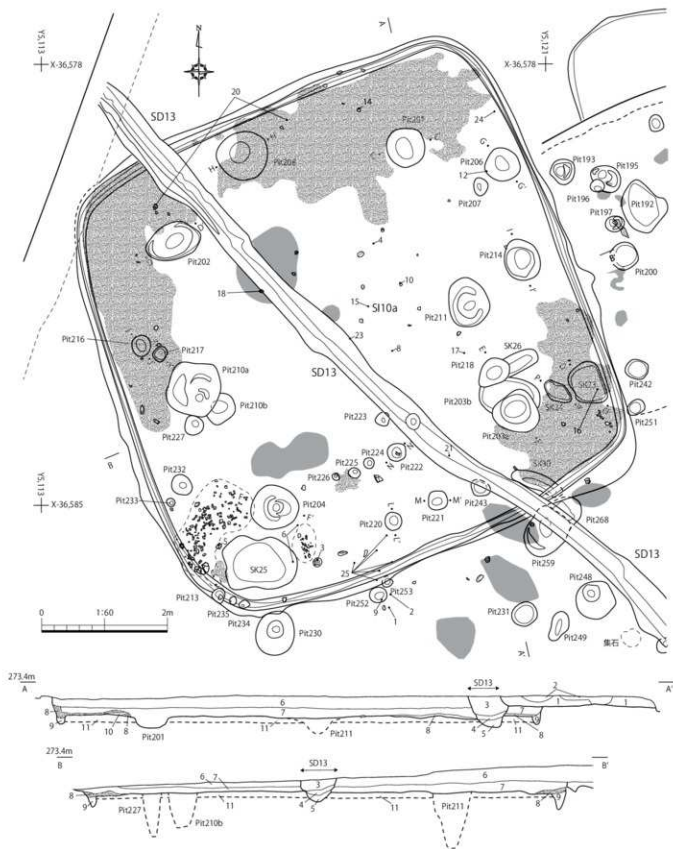




**S19 カマド**

- 1 黒灰色 (10YR5/1) シルト  
炭化物 10% 含む 焼土粒状に 7% 含む [炭屑]
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
結まり強 径 1 ~ 2 mm 砂礫 5% [S19 床面]
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
- 4 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト  
赤褐色 (5YR4/6) シルトの焼土ブロック 30% 含む  
[焼土層・天井部崩落土]
- 5 黒褐色 (7.5YR2/2) 粘土質シルト  
焼土粒状・ブロック状に 10% 含む
- 6 に近い赤褐色 (5YR4/4) 砂 [焼土層・火床部分]
- 7 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂質シルト 結まり弱 [輪石による穴]
- 8 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト 焼土粒状に 5% 含む [標識か]
- 9 黒灰色 (7.5YR4/1) 砂質シルト 焼土粒状に 10% 含む
- 10 褐色 (5YR6/6) シルト [焼土層]
- 11 黒褐色 (7.5YR3/1) 粘土 焼土粒状に 3% 含む
- 12 褐色 (7.5YR4/1) 砂質シルト  
灰をブロック状に 10% 含む [標識か]
- 13 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- 14 褐色 (10YR4/4) 粘土  
焼土粒状に 3% 含む [カマド底部]
- 15 赤褐色 (5YR4/6) シルト  
結まり強 [焼土層・カマド内壁]

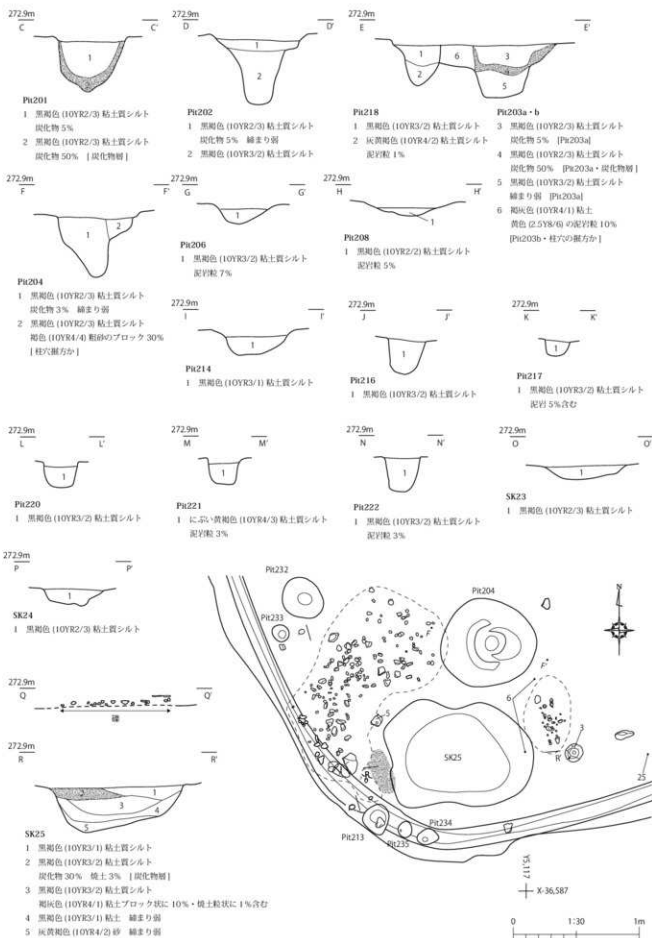
第34図 S19(2)



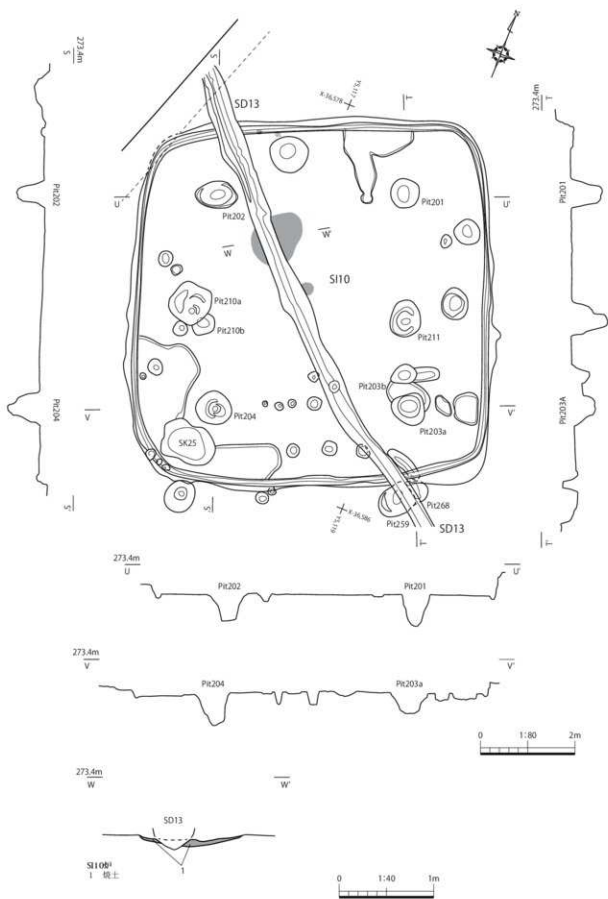
- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 3%<br>[S9 埋積土]           | 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト<br>径 5 ~ 10 cm の石多く含む [SD13]           | 7 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%<br>炭化物粒 3% [S10 埋積土]      | 9 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト<br>[S10 埋積土]        |
| 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 3%<br>粘土粒 7%<br>[S9 埋積土] | 4 黒灰色 (2.5Y4/1) 砂 [SD13]                                     | 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%<br>炭化物粒 30%<br>[S10 炭化物層] | 10 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br>炭礫粒 10%         |
|   | 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 [SD13]                                     |   | 11 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト<br>炭礫粒 7% [地山・B層] |
|   | 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%<br>炭化物粒 1% [古墳包含層] |   |   |

第35図 S110a(1)・SD13

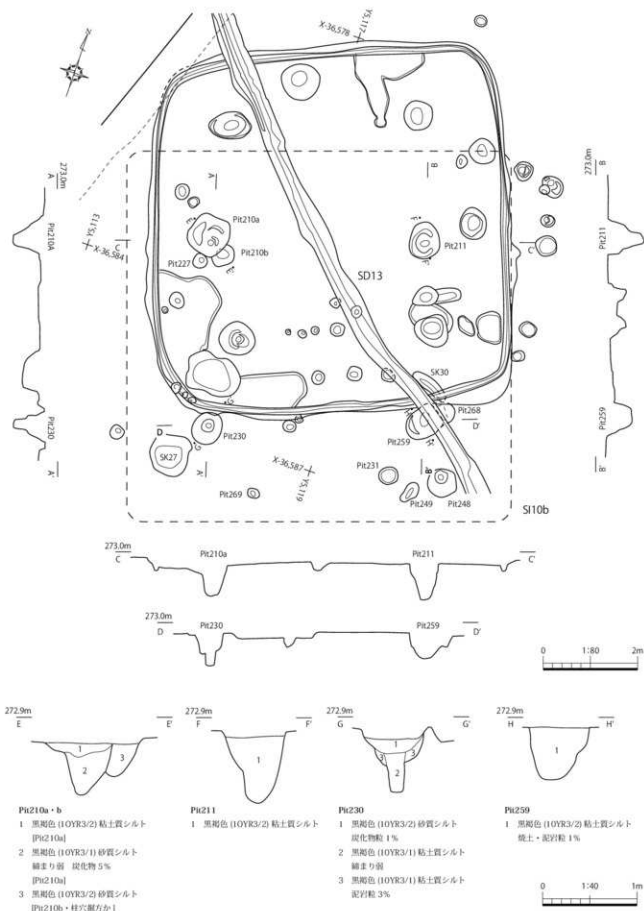




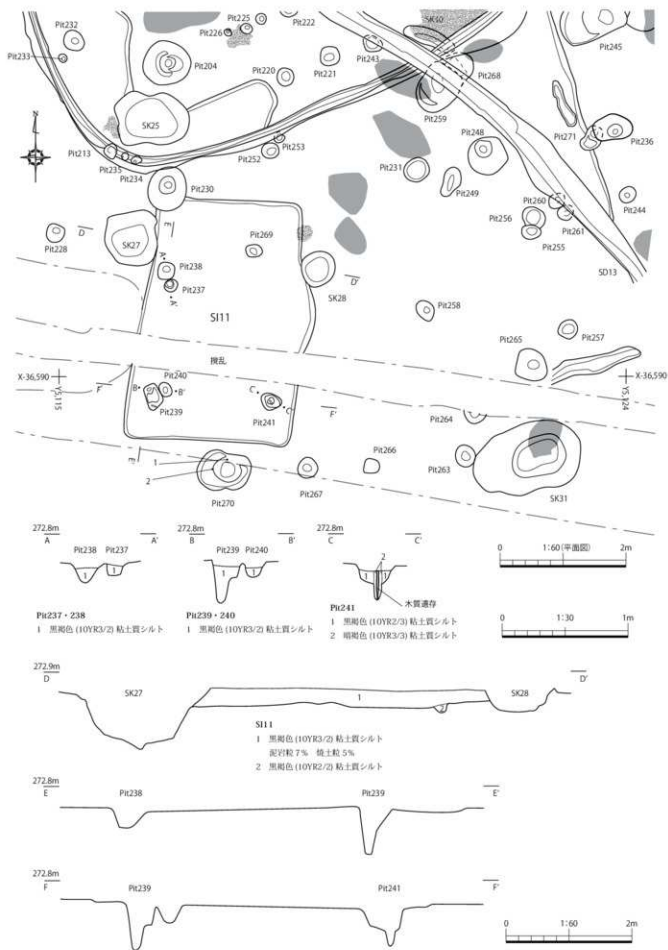
第36図 S I 10a(2)



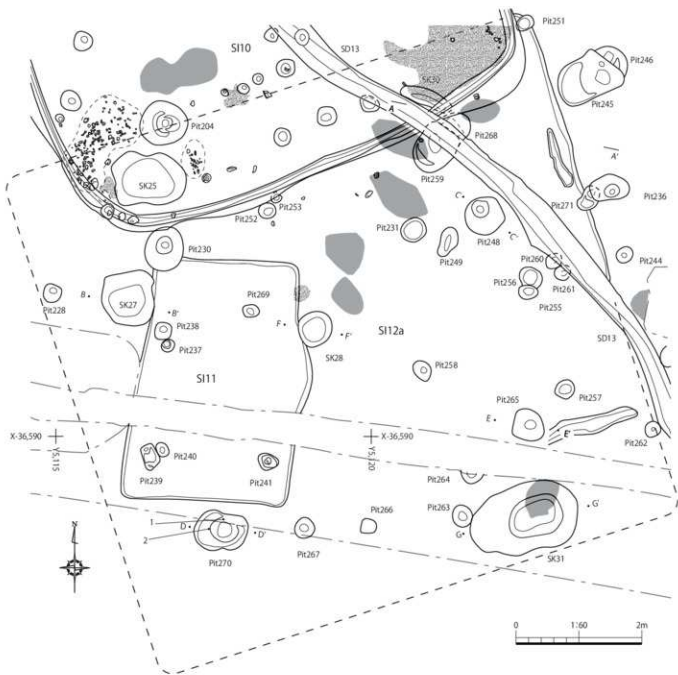
第37图 S110a(3)



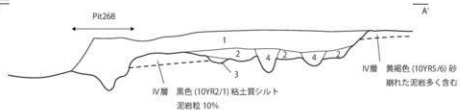
第38図 S I 10b



第39図 S111



273.4m  
A

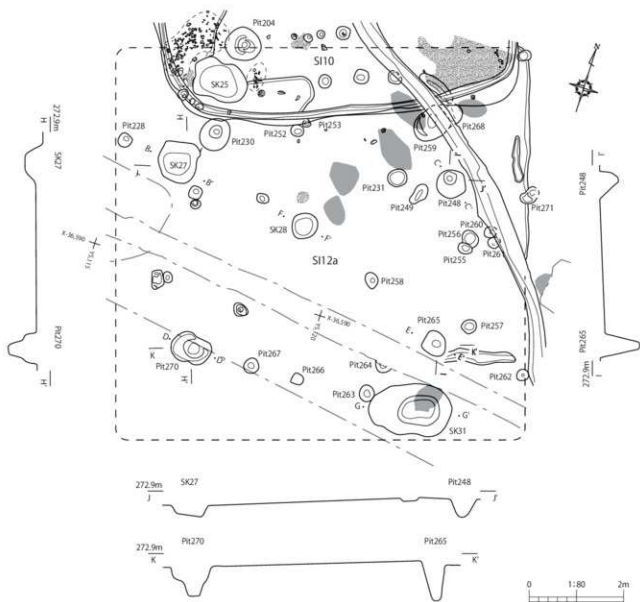
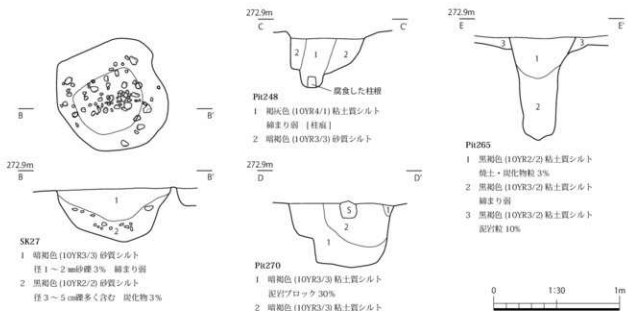


S112

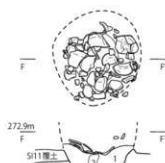
- 1 黄褐色 (10YR3/4) 砂質シルト
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭粉粒 10%
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト

0 1:30 1m

第40図 S112a(1)

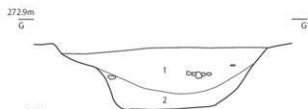


第41図 S I 12a(2)



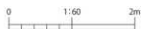
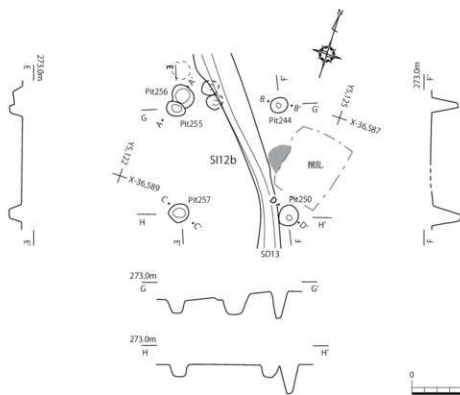
SK28

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
粘土粒 10% 炭化物粒状に 7%
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/2) 粘土



SK31

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
炭化物粒 3% 断面沿いに径 5 ~ 10 cm の礫多く出土
- 2 黒褐色 (2.5Y2/1) 粘土質シルト



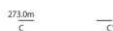
Pit 255

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
粘土・炭化物粒 1%
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト
- 3 黒褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト



Pit 244

- 1 暗褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト  
粘土・炭化物粒 7%
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト



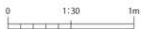
Pit 257

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト  
粘土・炭化物粒 3%

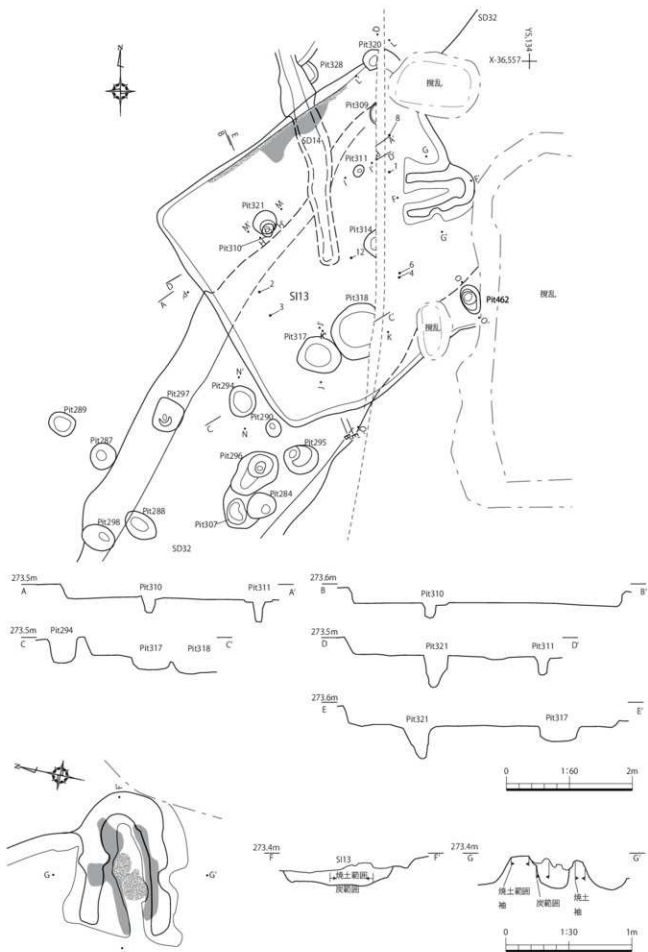


Pit 250

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト
- 2 粘土ブロック



第42図 S112a(3)・S112b



第43圖 S 113(1)





Pit310

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 締まり弱  
径 2mm 黄色土粒 2%



Pit311

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒 2%
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂  
粘性なし 締まりなし



Pit317

- 1 黒色 (10YR2/1) シルト質砂 粘性弱 締まり強  
径 5mm 焼土粒 1% 径 3mm 黄色土粒 1%  
※SI13 の床下で検出 地山は川の覆土の砂



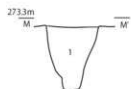
Pit318

- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト質砂 粘性弱 締まり弱  
径 2-5mm 黄色土粒 3% 径 1mm 焼土粒 1%  
※SI13 の床下で検出 地山は川の覆土の砂



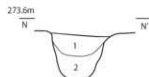
Pit320

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
2mm 黄色土粒・焼土粒 2% 径 1mm 炭化粒 1%  
※SI13 の北壁を切っている



Pit321

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒 3% 径 2mm 砂 2%



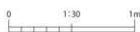
Pit294

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
2 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂



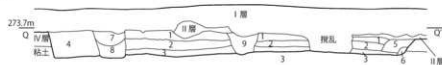
Pit462

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト



SI13

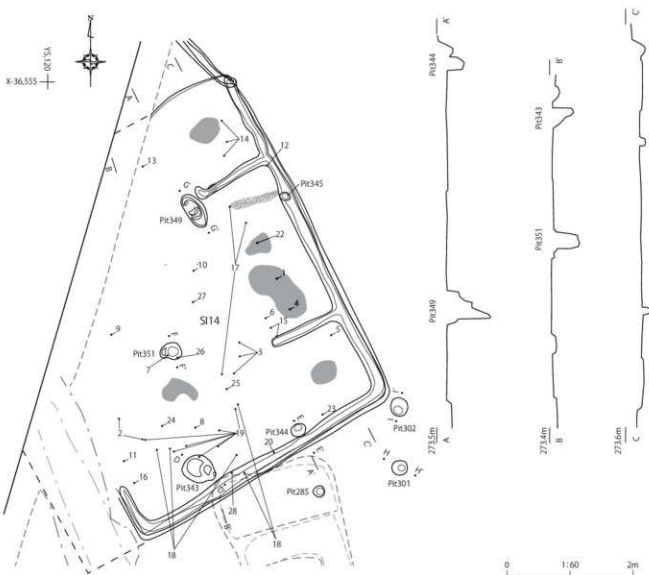
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5mm 炭化物 1% 径 2mm 白色粒 5%  
径 1mm 黄色土粒 2%
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 黄色土粒 2%
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 焼土粒 1%  
径 5mm 炭化物粒 1%



- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
にふい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂 30%
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 砂 50%
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 2mm 白色粒・黄色土粒 5% [Pit309]
- 8 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 2% [Pit309]
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 焼土粒・黄色土粒 1% [Pit314]



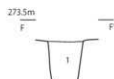
第44図 SI13(2)



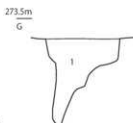
**Pit343**  
 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径1mm白3色粒3%  
 径2mm黄色土粒・炭化粒・焼土粒1%



**Pit344**  
 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 糊まりや中糊  
 径10mm炭化粒1% 径2mm黄色土粒2%



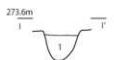
**Pit351**  
 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 糊まり強  
 径1mm白色粒2% 径2mm黄色土粒1% 径5mm炭化粒1%



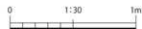
**Pit349**  
 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 糊まり強  
 径1mm黄色土粒・焼土粒2%



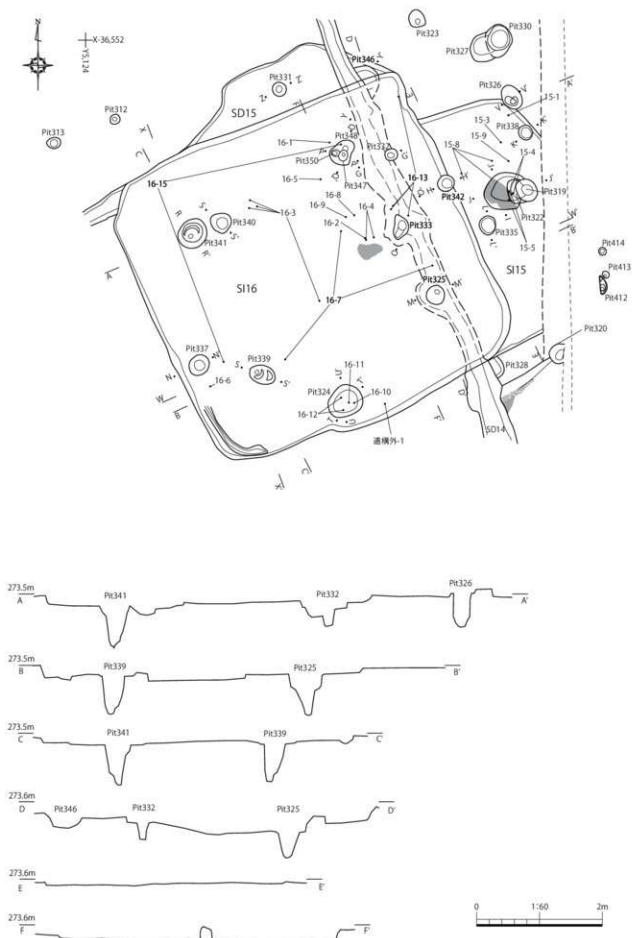
**Pit301**  
 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト  
 径1~2mmの砂粒7%



**Pit302**  
 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト  
 径1~2mmの砂粒5%



第45図 S114



第46圖 S115-16(1)



Pit332

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm 黄色土粒 3% 径 1 mm 白色粒 1%



Pit342

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2 mm 白色粒・黄色土粒 2% 径 1 mm 焼土粒 1%



S115 砂礫・Pit319・322

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 5 mm 炭化粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 2% [Pit319]  
2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm 黄色土粒 1%  
3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2 mm 黄色土粒・焼土粒 5%  
4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm 焼土粒 5%  
5 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm 焼土粒 5% 径 2 mm 黄色土粒 1% [Pit322]



Pit338

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 炭化粒 1%



Pit335

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1 mm 白色粒 5% 径 2 mm 焼土粒・黄色土粒 2%



Pit325

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 5 mm 焼土粒 1%  
※SD14 を切る S116 の南東 Pit



Pit337

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1 mm 白色粒・焼土粒 5% 径 1 mm 黄色粒 2%  
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm 黄色土粒 2%



Pit333

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm 黄色土粒 3% 径 5 mm 炭化物 5% 径 1 mm 白色粒 1%



Pit347・350

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 3%  
径 2 mm 焼土粒・黄色土粒 1% [Pit347]  
2 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒・炭化粒 1% [Pit350]



Pit347・350

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 3%  
径 2 mm 焼土粒・黄色土粒 1% [Pit347]  
2 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒・炭化粒 1% [Pit350]



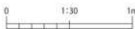
Pit341

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり弱  
径 2 mm 焼土・炭化物・黄色土粒 1%  
2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm 黄色土粒・白色粒 2%



Pit340

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 1 mm 白色粒 5% 径 2 mm 黄色土粒・炭化粒 1%



273.6m  
S



Pit330

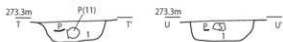
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 白色粒 0% 径 1mm 焼土粒 1%

273.6m  
Y



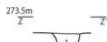
Pit346

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 10mm 焼土粒 1% 径 5mm 炭化粒 1% 径 2mm 黄色土粒 2%  
径 1mm 白色粒 3% [Pit346]  
2 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒・白色粒 1% [SD14]



Pit342

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 5% 径 1mm 焼土粒 1%



Pit331

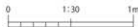
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 5% 径 1mm 焼土粒 1%

273.6m  
V



Pit326

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2mm 白色粒 5%  
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 粘性 締まり強 径 5mm 黄色土粒 1%



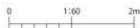
S116・S15・SD14

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2mm 白色粒 5% 径 2mm 黄色土粒・炭化粒 1% [S15]  
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 3% [S16]  
3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 5% 径 5mm 黄色土粒・焼土粒 1% [S16]  
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 5mm 褐鉄鉱粒 1% [S16]  
5 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 径 2mm 黄色土粒・白色粒 1% [SD14]

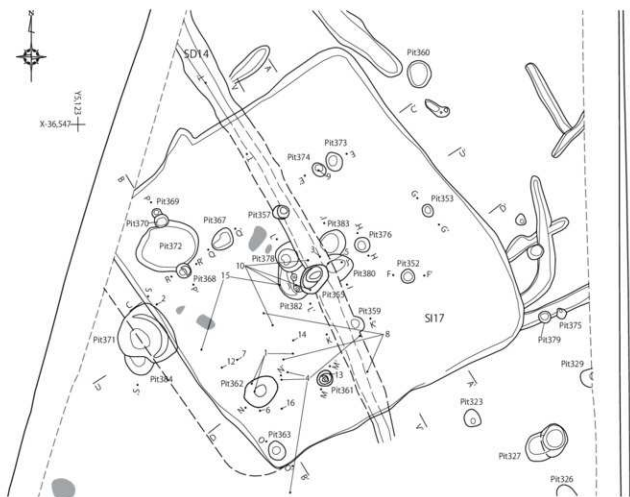


S116

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2mm 黄色土粒 5% 径 1mm 炭化粒 1% 径 1mm 白色粒 5% [S16]  
2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 5% 径 5mm 黄色土粒・焼土粒 1% [S16]  
3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 5mm 褐鉄鉱粒 1% [S16]  
4 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 3% 径 5mm 黄色土粒・焼土粒 1% 径 5mm 褐鉄鉱粒 1% [S16]

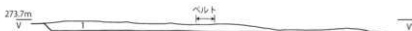


第48図 S115・16(3)



SI17 東西セクション

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 5% 径 2mm 黄色土粒 3% 径 1mm 炭化粒 1%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2mm 白色粒 1%
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 10% 径 2mm 黄色土粒 3%
- 4 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2mm 炭化粒 3% 径 2mm 黄色土粒 2% [Pit371]
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱 径 10mm 黄色土粒 5%
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2mm 黄色土粒 10%



SI17 南東セクション

- 1 黒褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 5% 径 2mm 黄色土粒 3% 径 1mm 炭化粒 1%

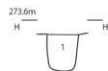


第49図 S117(1)



Pic373・374

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5mm 黄色土粒 2% 径 10mm 炭化粒 1%  
径 1mm 白色粒 1% [Pic373]
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 3%  
径 2mm 炭化粒 1% [Pic374]



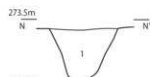
Pic376

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 2%



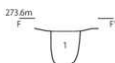
Pic355

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5mm 黄色土粒 5% 径 5mm 炭土粒 1% [Pic355]
- 2 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒・白色粒 1% [SD14]



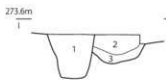
Pic362

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強



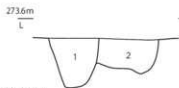
Pic352

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 5% 径 2mm 黄色土粒 2%  
径 1mm 炭土粒 1%



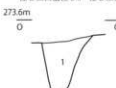
Pic359

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2mm 炭土粒 1% 径 1mm 白色粒 3% 径 2mm 黄色土粒 1% [Pic359]
- 2 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒・白色粒 1% [SD14]



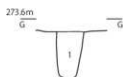
Pic378・382

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 3% 径 2mm 白色粒 2% [Pic378]
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 白色粒 5% 径 2mm 黄色土粒・炭土粒 1% [Pic382]



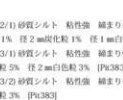
Pic363

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒 3%



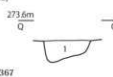
Pic353

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質  
粘性強 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 1%



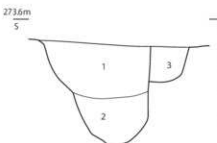
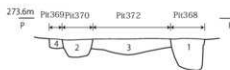
Pic361

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 5mm 炭化粒 2%  
径 1mm 白色粒 1%



Pic367

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5mm 炭化粒 1% 径 3mm 黄色土粒 3%  
径 2mm 炭土粒 1%



Pic363

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 炭土粒 1% 径 1mm 黄色土粒 1% 径 1mm 白色粒 1%
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 1%
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒 2%
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 炭土粒 1% 径 2mm 黄色土粒 3% 径 2mm 白色粒 3%

Pic371・384

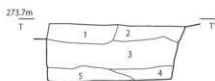
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 炭化粒 3% 径 2mm 黄色土粒 2% [Pic371]
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 10mm 黄色土粒 5% [Pic30 日71]
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 黄色土粒 10% [Pic384]



Pic368

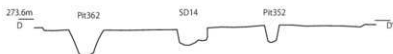
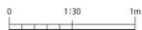
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 炭土粒 1% 径 1mm 白色粒 1%  
径 1mm 黄色土粒 1% 径 1mm 白色粒 1%





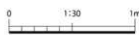
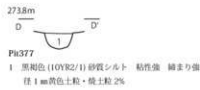
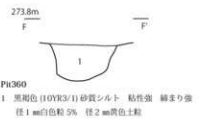
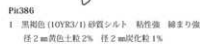
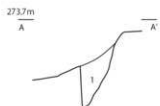
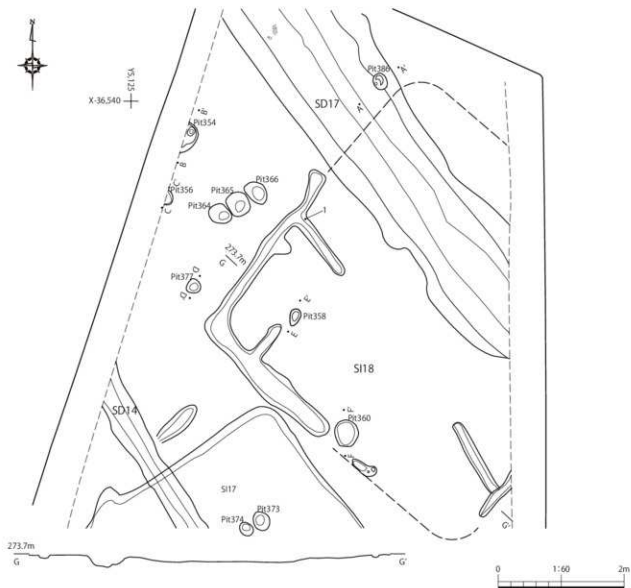
SI17・SD14

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒5% 径5mm黄色土粒5% 径2mm焼土粒1% [SI17]  
 2 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒5% 径1mm黄色土粒・小礫1% [SD14]  
 3 黒褐色(10YR2/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径1mm白色粒・黄色土粒1% [SD14]  
 4 黒褐色(10YR1.7/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒1% [SD14]  
 5 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土1% [SD14]

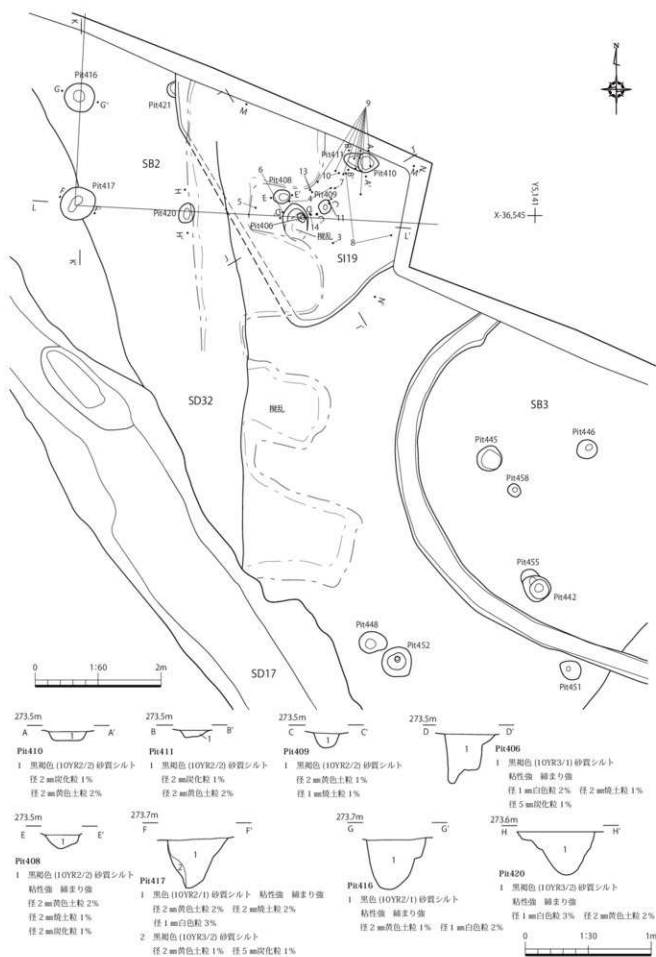


第51図 S I 17(3)

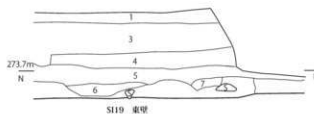
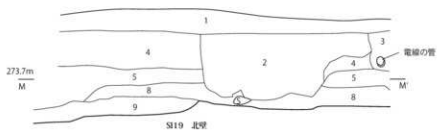




第52図 S118

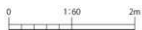
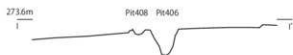


第53図 S I19・SB2(1)

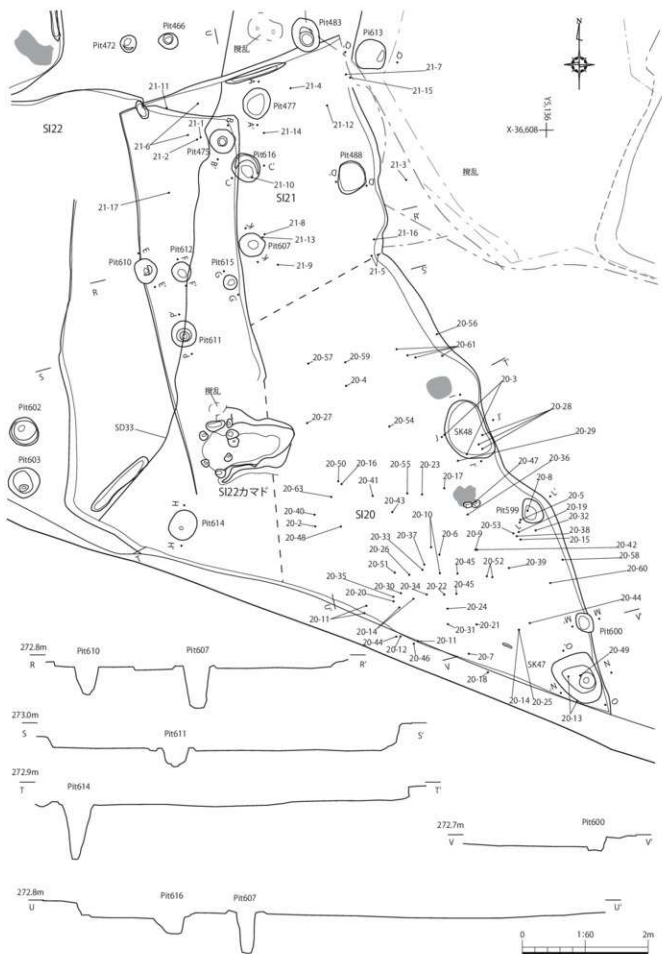


SI19・北壁・東壁

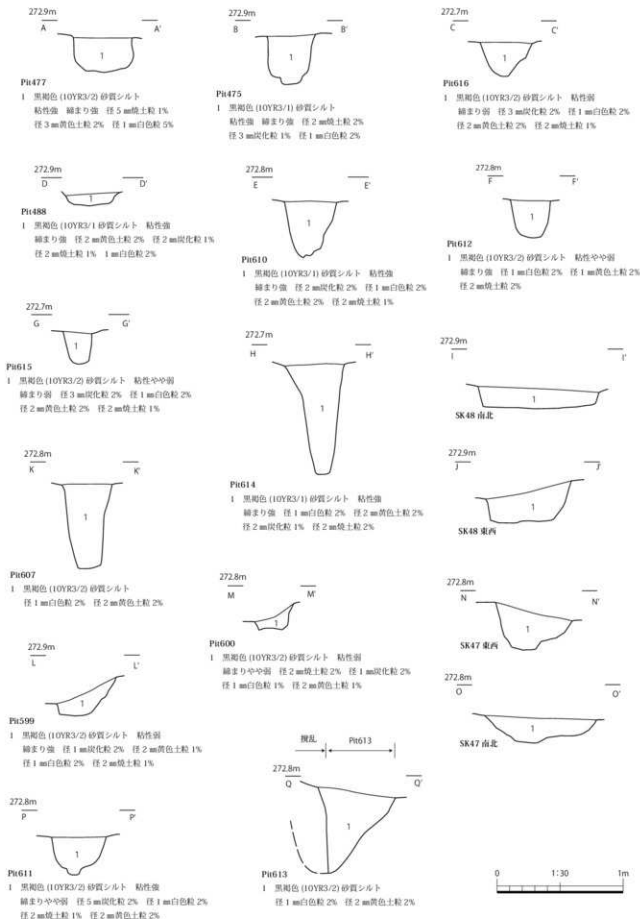
- 1 砕石層（人孔蓋（テニスコート）の下のアスファルトの下の砕石）
- 2 灰色（7.5Y4/1）砂質シルト [観風]
- 3 黒褐色（10YR3）砂質シルト [観風]
- 4 黄灰色（2.5Y4/1）砂質シルト [観風・造成土]
- 5 黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト [観風・造成土]
- 6 黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト [観風]
- 7 暗褐色（10YR3/3）砂質シルト [観風]
- 8 黒褐色（10YR2/1）砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒3%  
径2mm焼土粒1% 径5mm炭化粒1% 径1mm白色粒2% [SI19 覆土]
- 9 黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土 径5mm黄色土粒5%（肥野殿の地山） [地山]



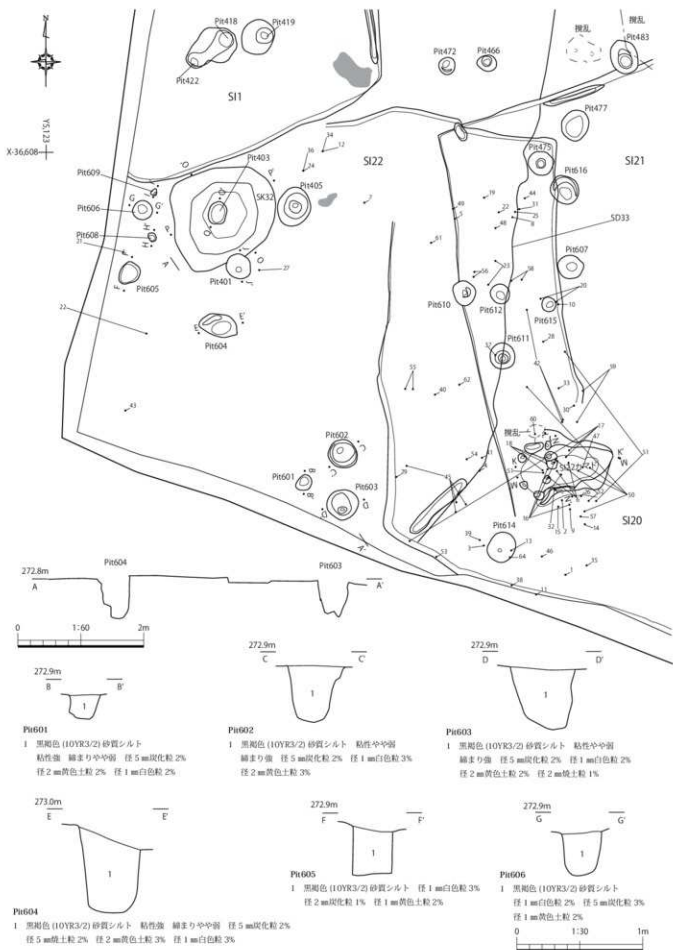
第54図 S | 19・SB 2 (2)



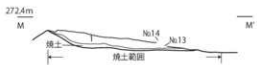
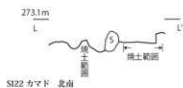
第55図 S I 20-21(1)



第56図 S I 20・21 (2)



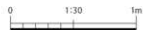
第57図 S122(1)



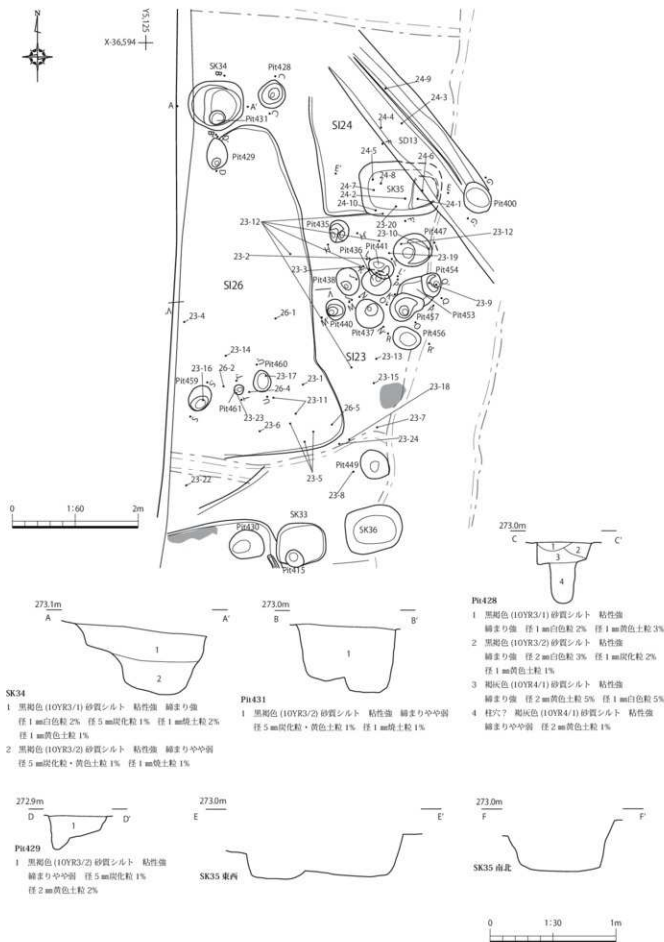
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強 径 10 mm 焼土ブロック 3%  
 径 2 mm 黄色土粒 1%



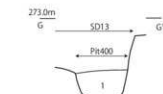
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性弱 締まり強  
 径 5 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 5% 径 2 mm 黄色土粒 2%  
 2 褐色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 1%



第58図 S | 22(2)

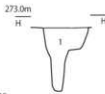






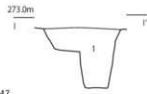
Pit400

1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱



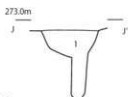
Pit435

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 5% 径 1mm 黄色土粒 2%



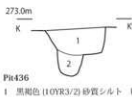
Pit447

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 炭化粒 1% 径 1mm 焼土粒 2% 2mm 黄色土粒 1%  
径 1mm 白色粒 3%



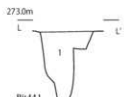
Pit438

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 5% 径 2mm 黄色土粒 2% 径 2mm 焼土粒 1%

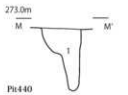


Pit436

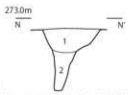
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1mm 白色粒 2% 径 2mm 炭化粒 2%  
径 2mm 黄色土粒 3%  
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱 径 1mm 白色粒 2%



Pit441

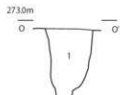


Pit440



Pit437

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 焼土粒・炭化粒 1% 径 2mm 黄色土粒 1%  
径 1mm 白色粒 5%  
2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2mm 黄色土粒 1%



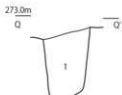
Pit457

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱 径 1mm 白色粒 3%



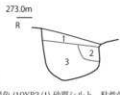
Pit453

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 炭化粒 1% 径 1mm 白色粒 3% 径 2mm 黄色土粒 3%



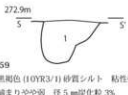
Pit454

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり弱  
径 1mm 炭化粒 3% 径 1mm 白色粒 2%  
径 2mm 黄色土粒 3% 径 1mm 焼土粒 1%



Pit456

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 3% 径 2mm 黄色土粒 2% 径 1mm 炭化粒 1%  
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 3% 径 2mm 黄色土粒 5%  
3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 1mm 黄色土粒 1%



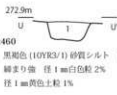
Pit459

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 5mm 炭化粒 3%  
径 2mm 焼土粒 1% 径 1mm 黄色土粒 1%



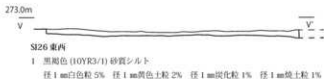
Pit461

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 1mm 炭化粒 2%  
径 1mm 白色粒 1% 径 50mm 暗褐色土ブロック 5%



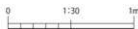
Pit460

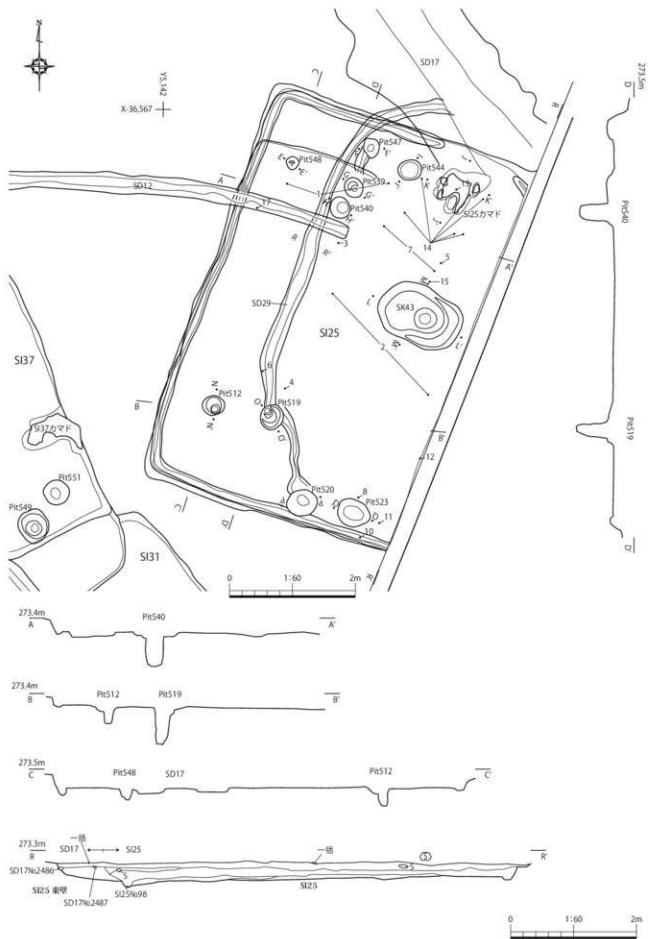
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 2%  
径 1mm 黄色土粒 1%



SI26 東西

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
径 1mm 白色粒 5% 径 1mm 黄色土粒 2% 径 1mm 炭化粒 1% 径 1mm 焼土粒 1%





第61図 S125(1)



Pit548

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まり強 径 1mm 白色粒 3%  
 径 2mm 黄色土粒 2%



Pit547

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まり強 径 5mm 炭化粒 1% 径 1mm 白色粒 3%  
 径 5mm 黄色土粒 3%



Pit539

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まり強 径 2mm 炭化粒 1% 径 2mm 黄色土粒 2%  
 径 2mm 炭化粒 1% 径 1mm 白色粒 2%



Pit540

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まり強 径 5mm 黄色土粒 2% 径 2mm 炭化粒 1%  
 径 1mm 白色粒 2% 径 1mm 炭化粒 1%



Pit544

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まり強 径 5mm 炭化粒 2% 径 5mm 焼土粒 10%  
 径 3mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 3%



SI25 カマド北南 SI25 カマド



SI25 カマド西東 SI25 カマド



SK43 西東

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
 径 5mm 炭化粒 1% 径 5mm 黄色土粒 2% 径 3mm 焼土粒 1% 径 2mm 白色粒 2%



SK43 北南



Pit512

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まり強 径 10mm 炭化粒 1% 径 3mm 焼土粒 1%  
 径 2mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 3%



Pit519



Pit520

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まり強 径 1mm 白色粒 5% 径 5mm 炭化粒 2%  
 径 2mm 炭化粒 2% 径 2mm 黄色土粒 1%  
 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性弱 縮まり強  
 径 2mm 黄色土粒 2%

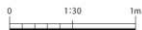


Pit523

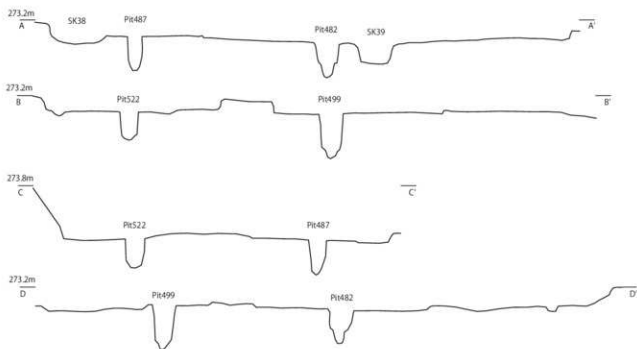
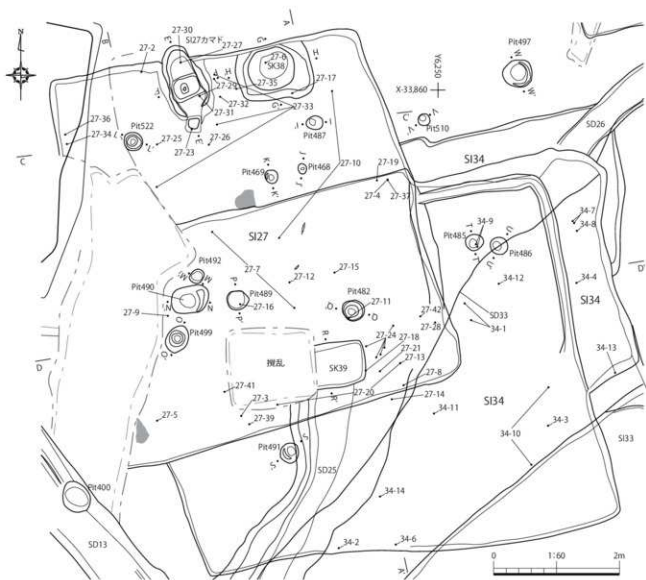
1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強  
 縮まりやや弱 径 5-10mm 焼土粒 10% 径 5-10mm 炭化粒 5%  
 径 5mm 黄色土粒 2% 径 1mm 白色粒 2%



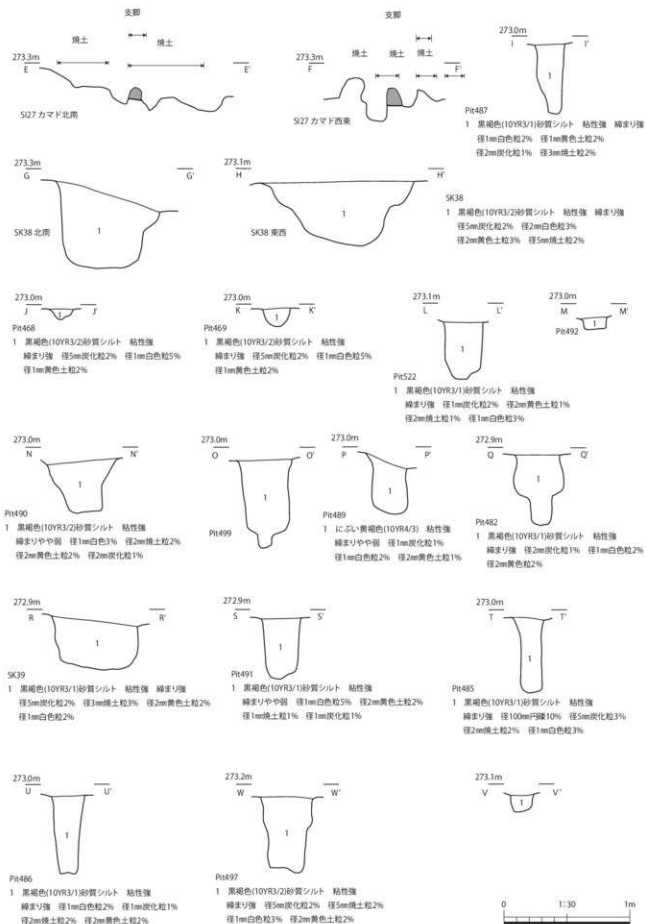
SD29



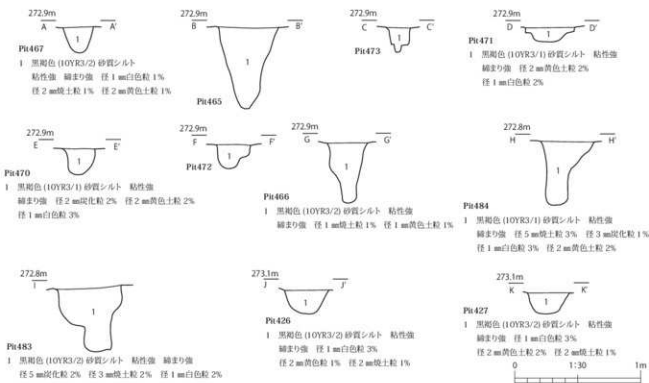
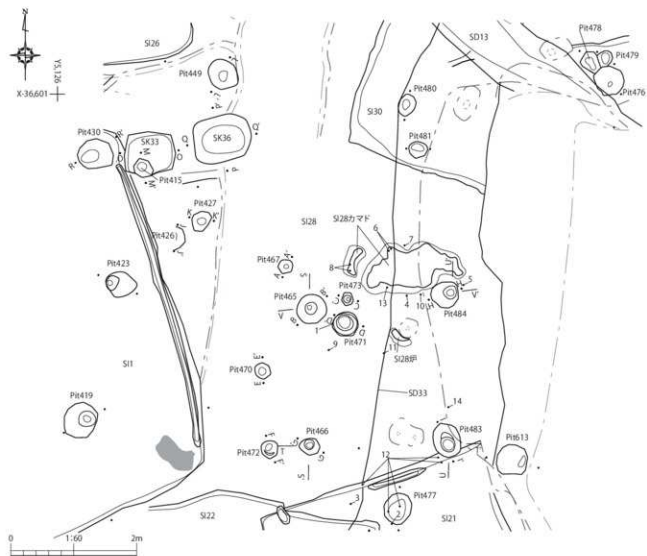
第62図 S I 25(2)



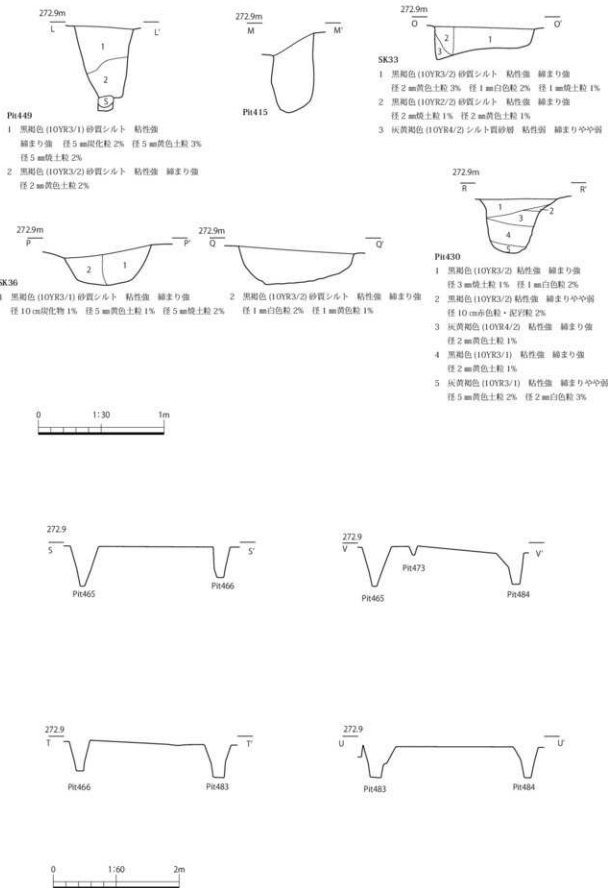
第63図 S I 27・34(1)



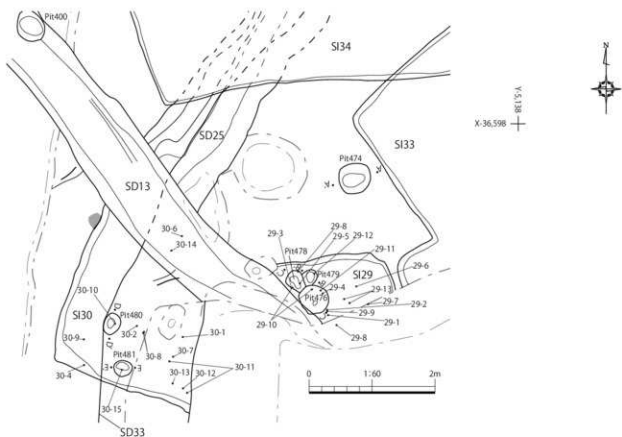
第64図 S I 27・34(2)



第65図 S128(1)



第66図 S128(2)



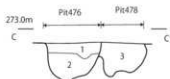
Pr474

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱  
径5mm炭化粒1%



Pr479

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径5mm炭化粒1% 径3mm焼土粒1% 径1mm白色粒3%



Pr476・478

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径5mm炭化粒1% 径3mm焼土粒1% 径1mm白色粒3% [Pr476]  
2 にぶい黒褐色(10YR4/3)砂質シルト 粘性弱 締まり強  
径2mm黄色土粒1% 径3mm炭化粒1% [Pr476]  
3 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径5mm炭化粒1% 径3mm炭化粒1% 径1mm白色粒2% [Pr478]



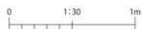
Pr480

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト  
粘性強 締まりやや弱  
径3mm炭化粒1% 径2mm黄色粒2%  
径1mm白色粒1%



Pr481

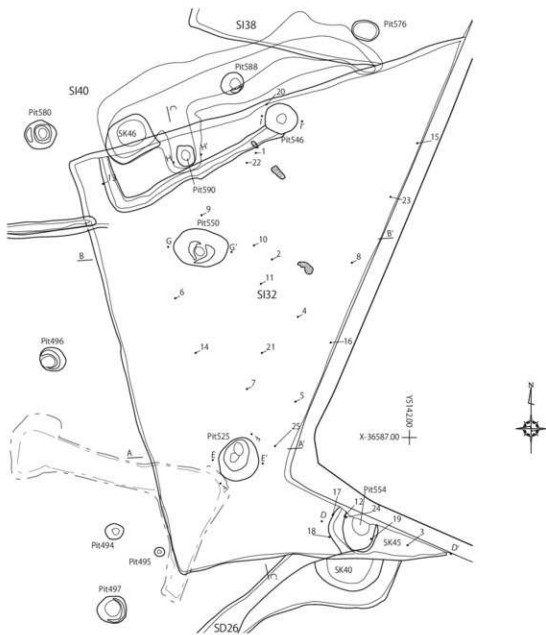
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト  
粘性強 締まりやや弱  
径3mm炭化粒1% 径2mm黄色粒2%  
径1mm白色粒1%



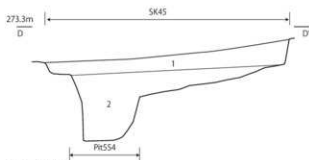
第67図 S I 29-30





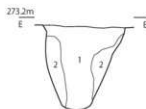


第69圖 S132(1)



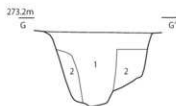
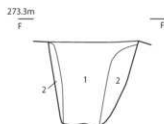
SK45・Pit554

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径5mm炭化粒2% 径1mm白色粒1% 径2mm黄色土粒2% 径2mm焼土粒2%
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
 径2mm白色粒3% 径2mm黄色土粒2% 径2mm焼土粒2%



Pit525

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径2mm炭化粒2% 径2mm白色粒3% 径2mm黄色土粒3%
- 2 黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土 粘性強 締まり弱  
 径2mm黄色土粒1% 径1mm焼土粒1%



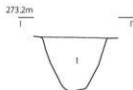
Pit550

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径5mm炭化粒1% 径1mm白色粒3% 径3mm黄色土粒2% 径2mm焼土粒1%
- 2 黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土 粘性強 締まりやや弱  
 径1mm白色粒2%



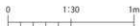
Pit590

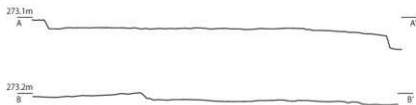
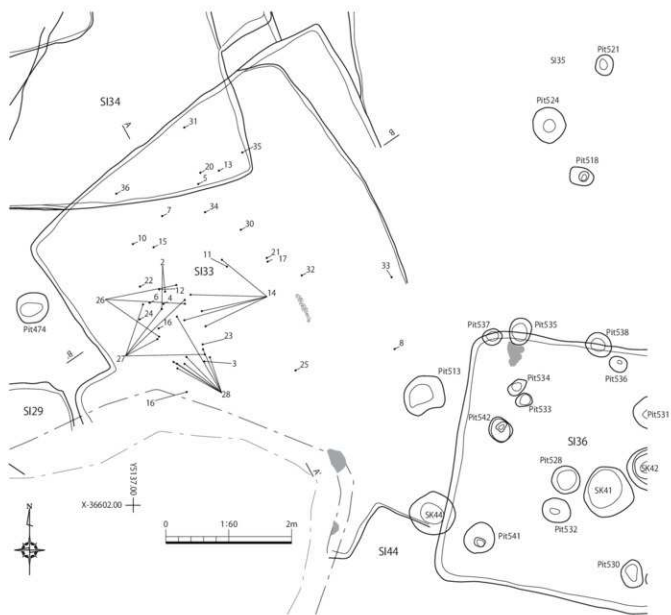
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径5mm炭化粒2% 径1mm白色粒3% 径2mm黄色土粒2% 径5mm焼土粒1%



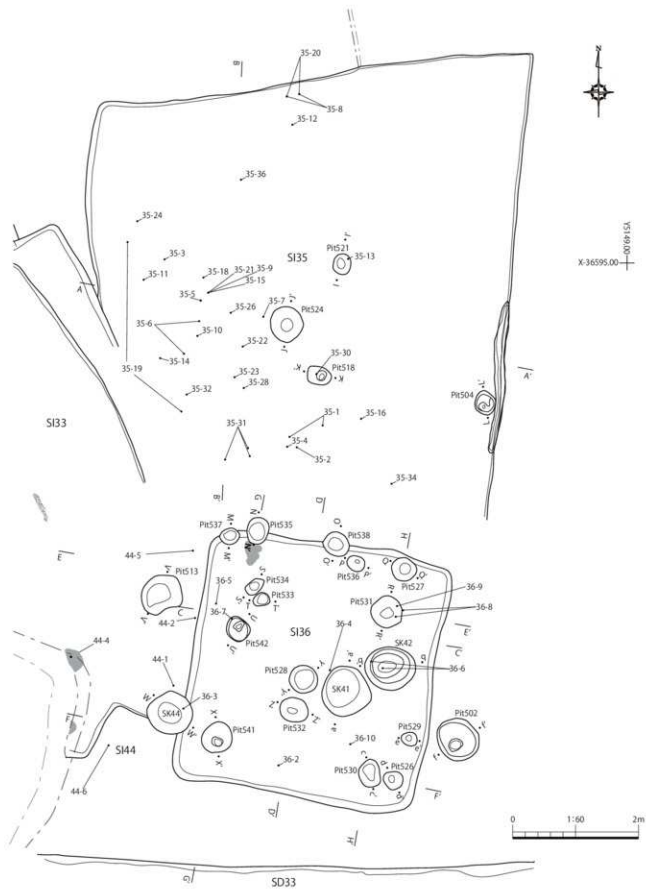
Pit546

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径5mm炭化粒2% 径1mm白色粒3% 径2mm黄色土粒2% 径2mm焼土粒3%

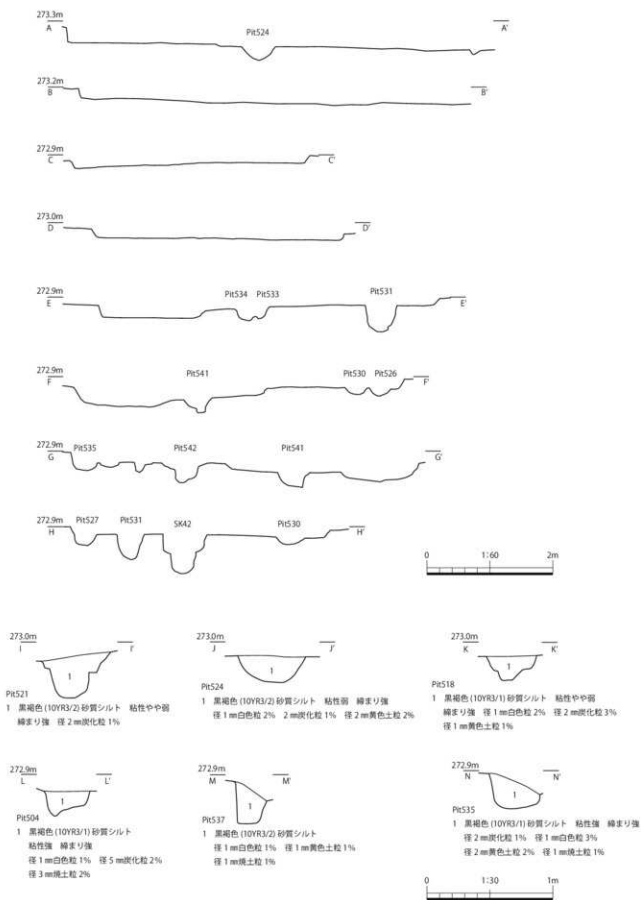




第71図 S I 33



第72图 S 135·36·44(1)



第73図 S | 35・36・44(2)

273.0m  
O ——— O'



Pt536  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 1mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 3%  
径 2mm黄土粒 2%

272.9m  
P ——— P'



Pt536  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2mm炭化粒 2% 径 2mm黄色土粒 1%  
径 2mm焼土粒 1%

272.9m  
Q ——— Q'



Pt527  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 3%  
径 1mm焼土粒 1%

272.9m  
R ——— R'



Pt531  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5mm炭化粒 2% 径 1mm白色粒 2%  
径 2mm黄色土粒 1% 径 1mm焼土粒 3%

272.8m  
S ——— S'



Pt534  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5mm炭化粒 1% 径 2mm黄色土粒 1%

272.8m  
T ——— T'



Pt533  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 1%

272.8m  
U ——— U'



Pt542  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2mm炭化粒 2% 径 1mm白色粒 2%  
径 2mm黄色土粒 1%

272.8m  
V ——— V'



Pt513  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 1%  
径 2mm黄色土粒 2% 径 2mm焼土粒 1%

272.7m  
W ——— W'



SK44  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1mm白色粒 1% 径 2mm黄色土粒 2%  
径 2mm焼土粒 2%

272.7m  
X ——— X'



Pt541  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 2%  
径 1mm黄色土粒 1%

272.8m  
Y ——— Y'



Pt528  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性弱 締まり強  
径 1mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 3%  
径 2mm黄色土粒 1%

272.8m  
Z ——— Z'



Pt532  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 1mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 3% 径 2mm焼土粒 1%

272.9m  
a ——— a'



SK41  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1mm白色粒 3% 径 2mm黄色土粒 1%  
径 2mm焼土粒 1%

272.9m  
b ——— b'



SK42

272.8m  
c ——— c'



Pt530  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径 5mm炭化粒 2% 径 1mm白色粒 3% 径 2mm黄色土粒 2%

272.8m  
d ——— d'



Pt526  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 3%  
径 2mm黄色土粒 1%

272.8m  
e ——— e'

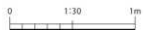


Pt529  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 1mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 3%  
径 2mm焼土粒 1%

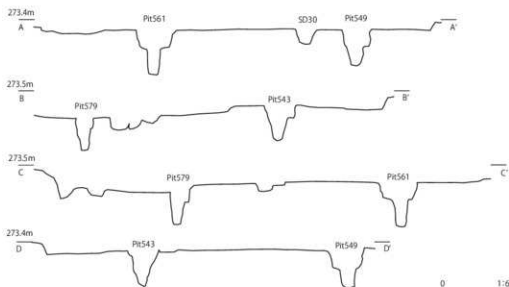
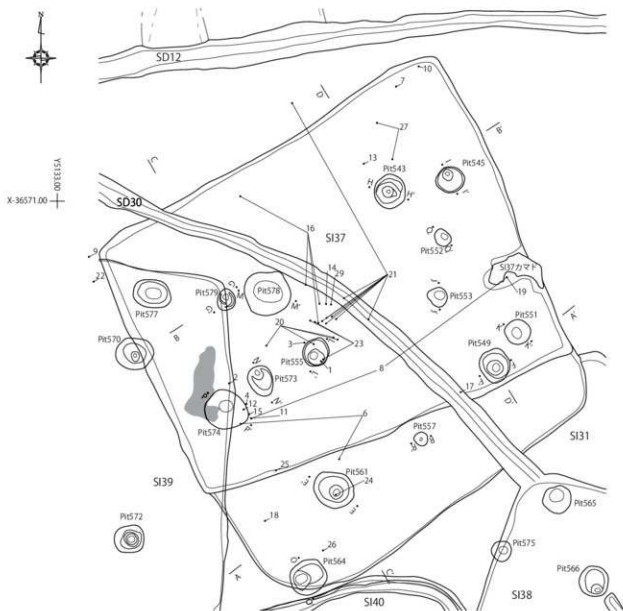
273.0m  
f ——— f'



Pt502  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2mm炭化粒 2% 径 1mm白色粒 3%  
径 2mm黄色土粒 1% 径 2mm焼土粒 1%

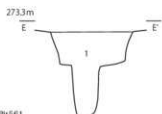


第74図 S I 35・36・44(3)



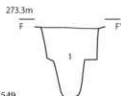
第75図 S137(1)





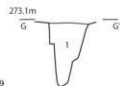
Pit561

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 3% 径 5mm 炭化粒 1%  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 5mm 焼土粒 1%



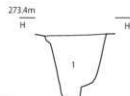
Pit549

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 白色粒 3% 径 5mm 炭化粒 1%  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 5mm 焼土粒 1%



Pit579

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 2% 径 5mm 炭化粒 1%  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 2mm 焼土粒 3%



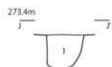
Pit543

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 白色粒 3% 径 5mm 炭化粒 1%  
径 2mm 黄色土粒 3% 径 2mm 焼土粒 1%



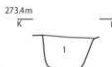
Pit545

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 3% 径 2mm 炭化粒 2%  
径 2mm 黄色土粒 3% 径 2mm 焼土粒 1%



Pit553

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
締まり強 径 2mm 白色粒 3% 径 2mm 黄色土粒 2%  
径 2mm 焼土粒 1%



Pit551

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 白色粒 3% 径 3mm 黄色土粒 3% 径 2mm 焼土粒 1%



Pit555

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 白色粒 3% 径 2mm 炭化粒 1% 径 2mm 黄色土粒 1%  
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 2mm 白色粒 2% 径 2mm 黄色土粒 3%



Pit578

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 2% 径 5mm 炭化粒 3%  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 2mm 焼土粒 2%



Pit573

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1mm 白色粒 3% 径 2mm 黄色土粒 3% 径 2mm 焼土粒 1%



Pit564

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
締まり強 径 2mm 焼土粒 1% 径 1mm 白色粒 2%  
径 2mm 黄色土粒 3% 径 5mm 炭化粒 1%



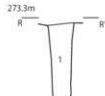
Pit574

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
締まり強 径 1mm 白色粒 3% 径 3mm 炭化粒 1%  
径 2mm 黄色土粒 2% 径 2mm 焼土粒 2%



Pit552

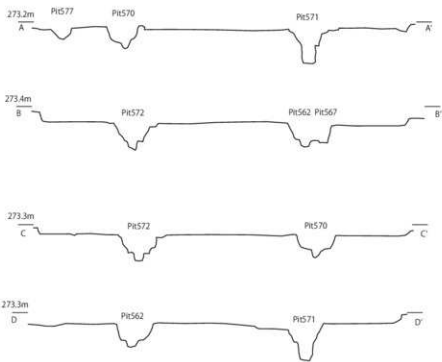
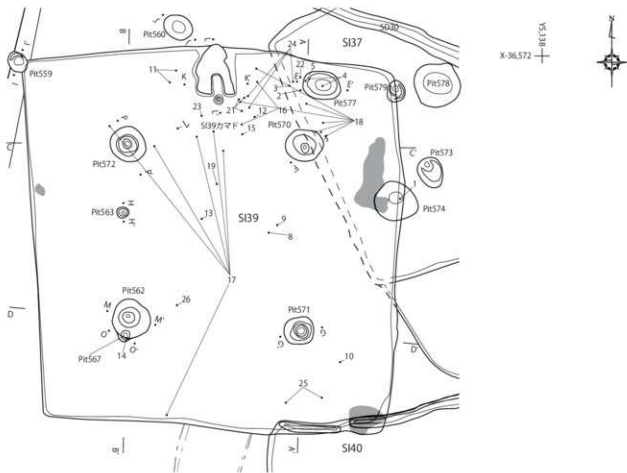
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
締まり強 径 1mm 白色粒 2%  
径 1mm 黄色土粒 2% 径 2mm 焼土粒 2%



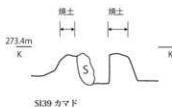
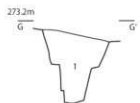
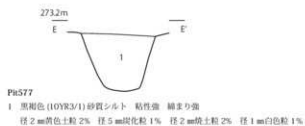
Pit557

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm 白色粒 3% 径 5mm 炭化粒 1%  
径 2mm 黄色土粒 3%

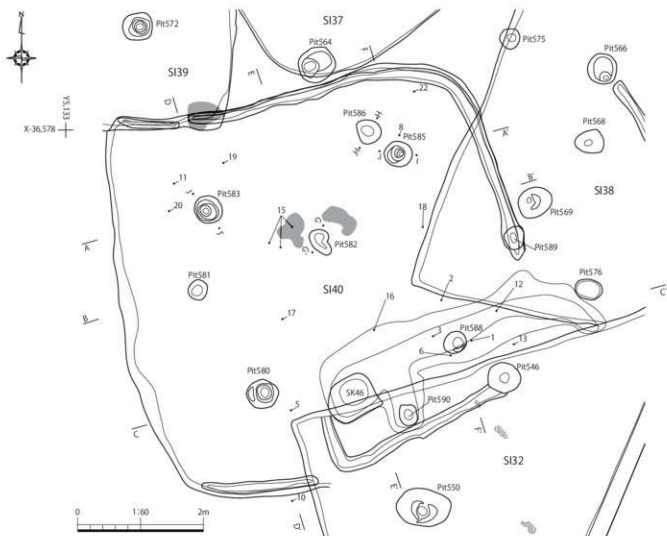




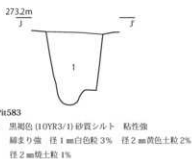
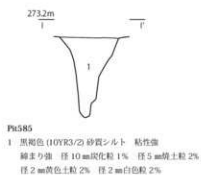
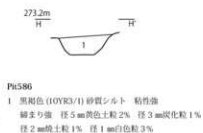
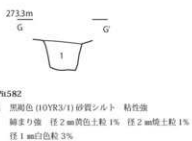
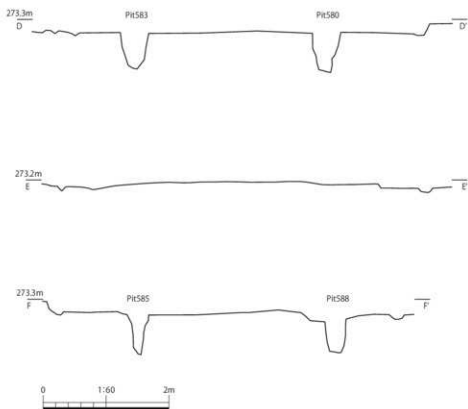
第77図 S139(1)



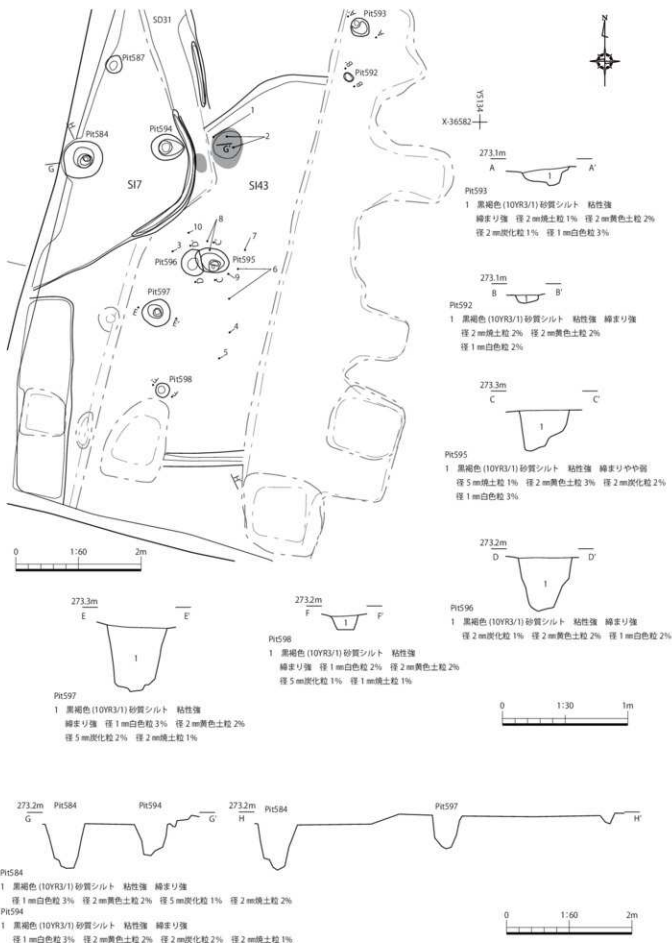
第78図 S139(2)



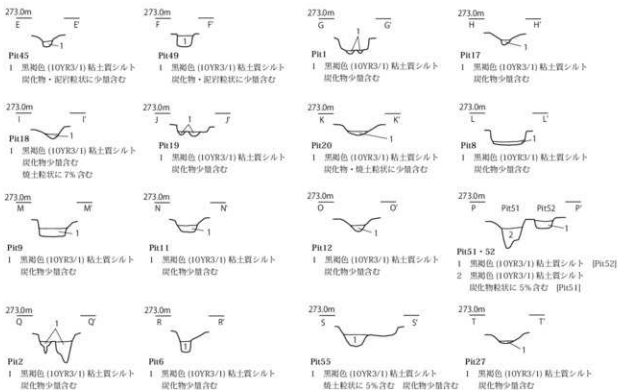
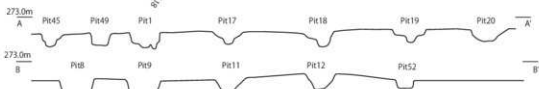
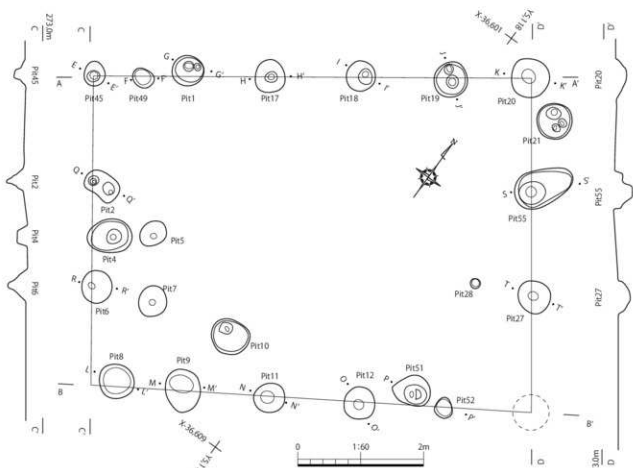
第79图 SI40(1)

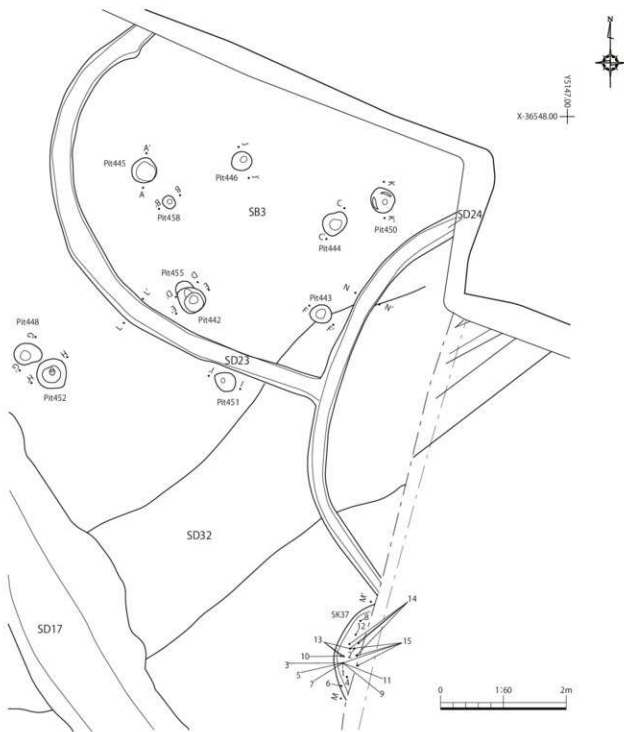


第80図 S I 40 (2)



第81図 S 143





第83図 SB3・4(1)





Pit 445

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径2mm黄色土粒5%  
 径1mm白色粒3%



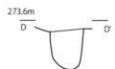
Pit 458

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
 締まりやや弱 径2mm黄色土粒3%  
 径1mm白色粒3% 径3mm炭化粒1%

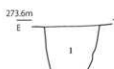


Pit 444

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱  
 締まり強 径2mm黄色土粒3%  
 径1mm白色粒5%

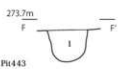


Pit 455



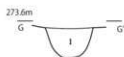
Pit 442

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径1mm黄色土粒3%  
 径1mm白色粒5% 径5mm焼土粒2%



Pit 443

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱  
 締まり強 径2mm黄色土粒3%  
 径1mm白色粒5%



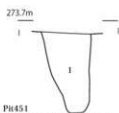
Pit 448

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径2mm黄色土粒2%  
 径1mm白色粒3% 径1mm焼土粒1%



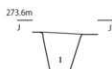
Pit 452

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径2mm黄色土粒2%  
 径1mm白色粒5% 径2mm焼土粒1%  
 径2mm炭化粒1%



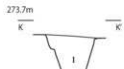
Pit 451

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径50mm大の暗褐色土ブロック5%  
 径2mm黄色土粒2% 径1mm焼土粒1%  
 径1mm白色粒3%



Pit 446

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径5mm黄色土粒2%  
 径1mm白色粒2% 径2mm焼土粒1%



Pit 450

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
 締まりやや弱 径50mm大の暗褐色土ブロック5%  
 径2mm黄色土粒2% 径1mm焼土粒1%  
 径1mm白色粒3%



SB3

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径1mm白色粒3%  
 径1mm黄色土粒2% 径1mm焼土粒1%  
 2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径50mm黄色土ブロック10%  
 径2mm黄色土粒3% 径1mm焼土粒1%

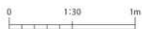


SB4

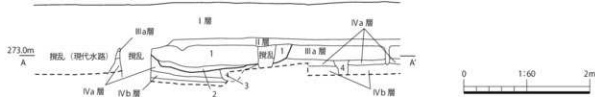
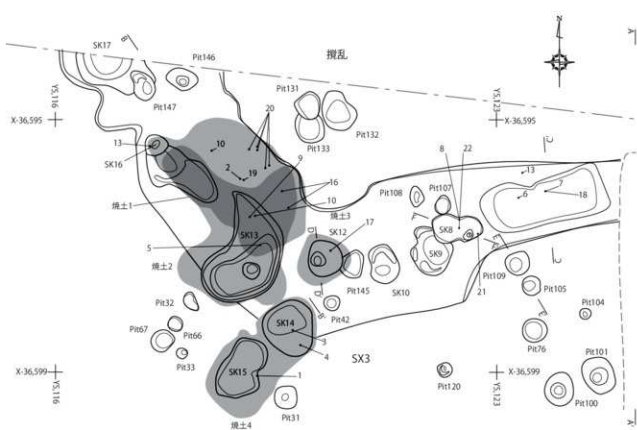
1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径1mm白色粒5%  
 径2mm黄色土粒5% 径1mm炭化粒2%



SK37



第84図 SB3・4(2)

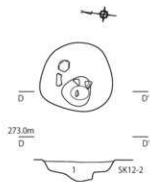
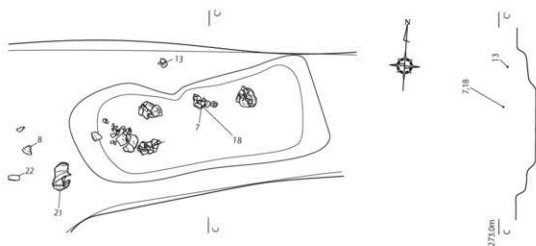


- |  |  |
|--|--|
| <p>I層：造成土 砂石・瓦礫がミ混入</p> <p>II層：近現代 灰色(7.5Y4/1)粘土 水田床土</p> <p>IIIa層：包合層 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト<br/>炭化物少量含む 径1～2mmの砂礫5%含む</p> <p>IIIb層：包合層 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト<br/>炭化物少量含む 径1～2mmの砂礫5%含む</p> <p>IVa層：地山 黄灰色(2.5Y3/1)砂質シルト</p> <p>IVb層：地山 黒褐色(2.5Y3/1)粘土</p> | <p>1 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト<br/>土層片含む 焼土粒状に3%含む [SX3]</p> <p>2 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト<br/>明黄褐色(10YR6/6)粗砂30%含む<br/>土層片含む 焼土粒状に3%含む [SX3]</p> <p>3 黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルト</p> <p>4 黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルト<br/>炭化物・土層片含む</p> |
|--|--|

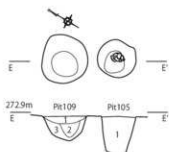


- SX3
- |  |
|--|
| <p>1 黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト<br/>焼土ブロック状に30%含む 炭化物少量含む [焼土1]</p> <p>2 黄灰色(10YR4/1)砂質シルト<br/>焼土粒状に7%含む 炭化物少量含む [焼土2]</p> |
|--|

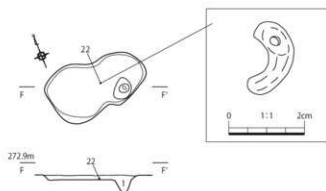
第85図 SX3(1)



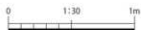
SK12  
1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト



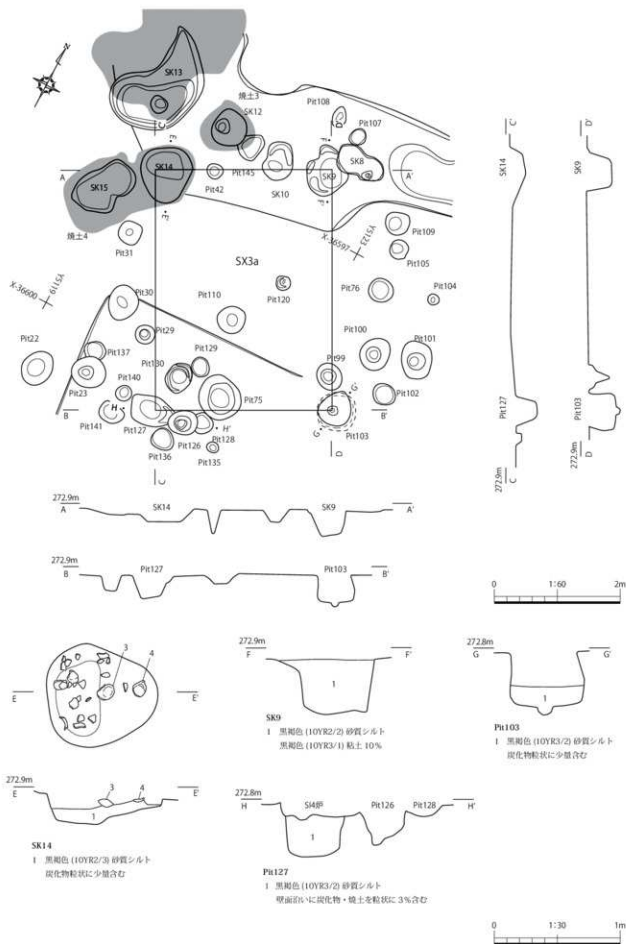
Pit105・109  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒径極く少量含む  
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
炭化物粒 5% 綿まり弱  
3 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト



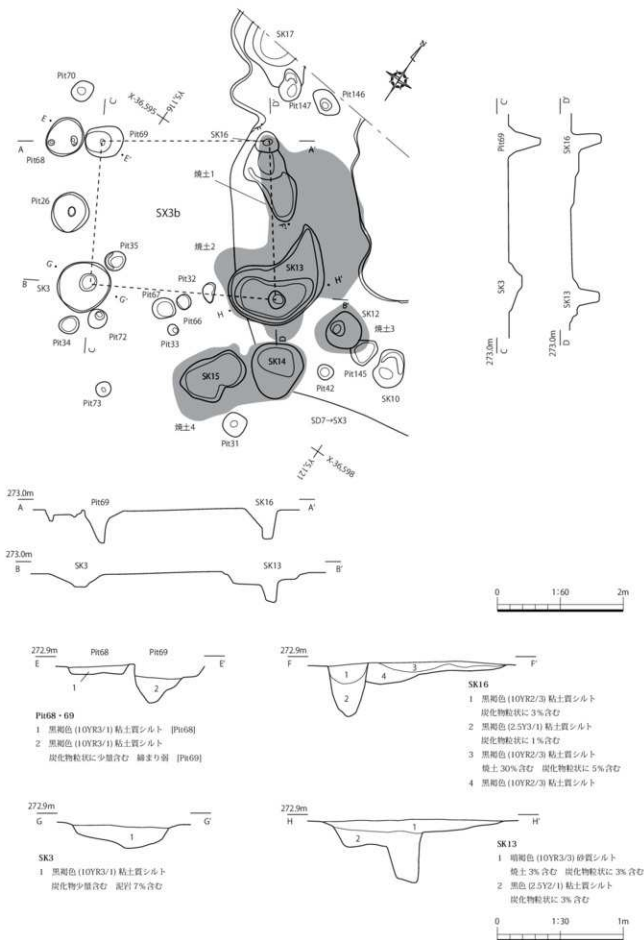
SK8  
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
黒褐色 (10YR3/1) 粘土 10%  
酸化鉄分粒 3%  
滑石製勾玉出土



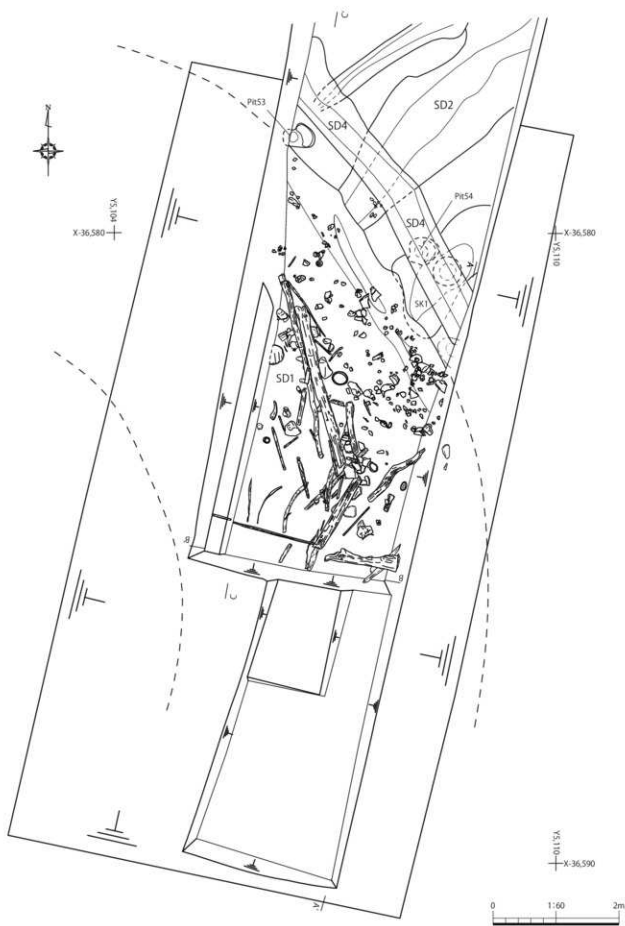
第86図 SX3(2)



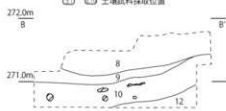
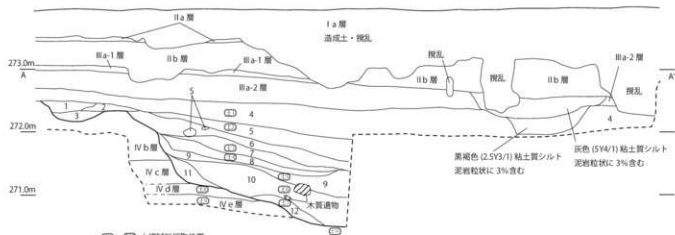
第87図 SX 3a



第88図 SX3b



第89図 SD1(1)



- I層 造成土・攪乱  
 II a層 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘土  
 II b層 灰色 (7.5Y4/1) 粘土  
**古墳包含層**  
 III a-1層 黒褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト  
 酸化鉄分粒状に5%含む 炭化物粒状に少量含む  
 III a-2層 灰褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト  
 酸化鉄分粒状に7%含む  
 III b層 黒褐色 (7.5YR3/2) 粘土質シルト  
 酸化鉄分粒状に7%含む 泥質粒状に7%含む  
 地山・自然堆積層  
 IV b層 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂  
 酸化鉄分多量に含む 径1~2mm砂礫5%  
 径5~10mm黄褐色 (10YR5/8) シルト粒10%  
 IV c層 灰色 (7.5Y7/1) 砂質シルト  
 IV d層 灰色 (N7) シルト  
 IV e層 黒色 (7.5Y2/1) 粘土

黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
 泥質粒状に3%含む  
 灰色 (5Y4/1) 粘土質シルト  
 泥質粒状に3%含む

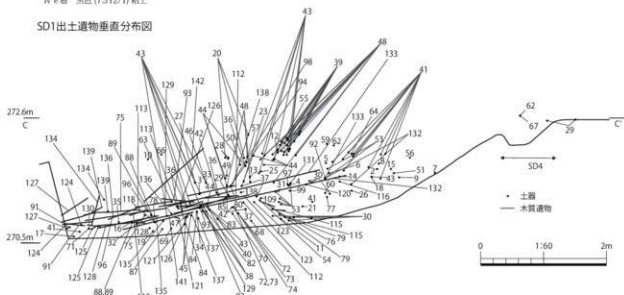
#### SD4

- 1 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂 泥質粒状に5%含む
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト 泥質粒状に3%含む
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト 泥質粒状に1%含む

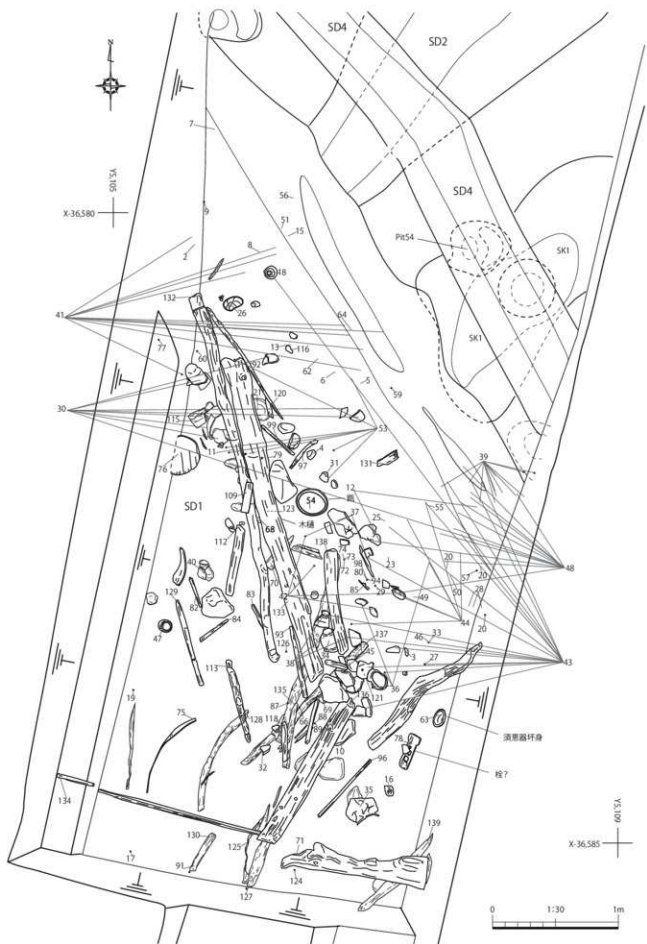
#### SD1

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
泥質粒状に3%含む
- 2 黒褐色 (10Y R 3/2) 砂質シルト  
径1~2mmの砂礫5%含む 泥質粒状に5%含む
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 粗砂 泥質粒状に10%含む
- 5 黒色 (5Y2/1) 粘土 灰色 (5Y4/1) 砂 30%混
- 6 灰色 (5Y4/1) 砂 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土 10%
- 7 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土 灰色 (5Y4/1) 砂 10%含む  
木質遺物・腐食した植物遺体含む
- 8 灰色 (5Y4/1) 砂  
オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土 7%含む 腐食した植物遺体含む
- 9 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土 灰色 (5Y4/1) 砂 10%含む  
腐食した植物遺体多く含む

SD1出土遺物垂直分布図

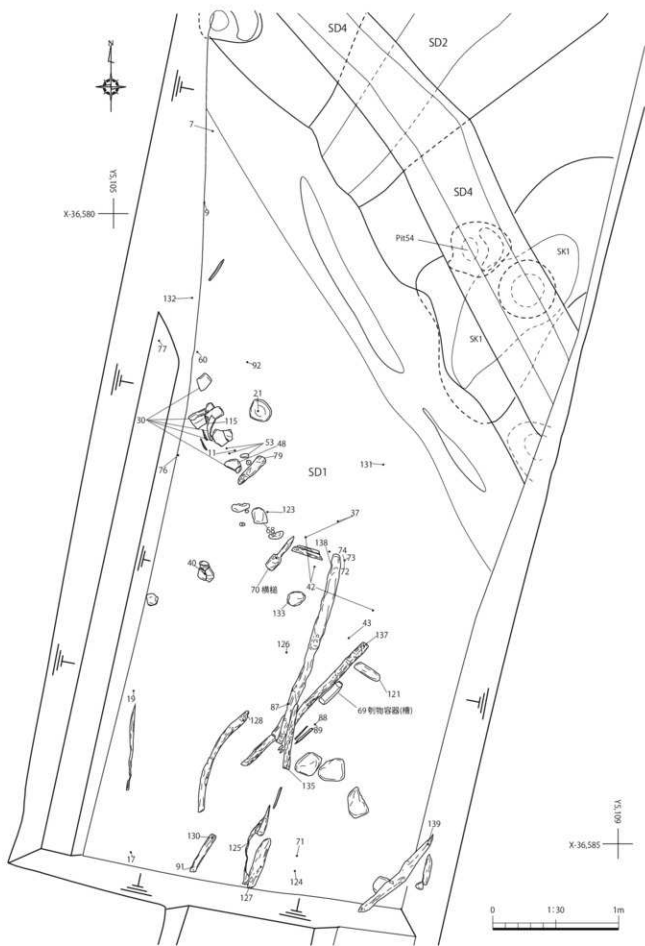


第90図 SD1(2)

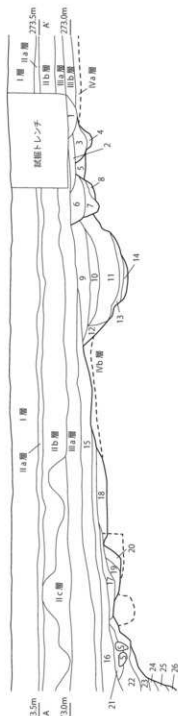
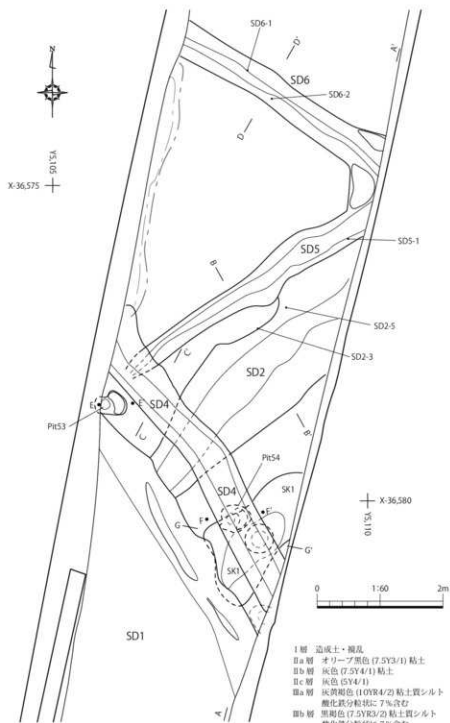


第91图 SD1(3)





第92図 SD1(4)



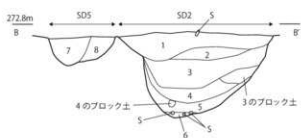
- Ⅱa層 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト  
径2～10mmの砂礫10%含む  
腐期色(10YR5/8)シルト粒の配り5%含む  
硬く締まる
- Ⅱb層 黄灰色(2.5Y4/1)砂  
径1～2mmの砂礫5%含む 酸化鉄分多量に含む  
腐期色(10YR5/6)シルト粒の配り10%含む

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂  
径5mmの配り粒状に少量含む
- 2 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト  
黒褐色(10YR2/3)砂30%含む
- 3 黒褐色(10YR3/2)砂  
腐期色(10YR5/6)シルト粒の配り30%含む [SDH]
- 4 黒褐色(2.5Y3/2)粘土 [SDH]
- 5 黒褐色(10YR4/1)粘土質シルト
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂  
土層小片・配り粒状に少量含む [SD5]

- 7 暗褐色(10YR4/1)粗砂  
配り粒状に少量含む [SD5]
- 8 にぶい腐期色(10YR4/3)砂 粘性あり [SD5]
- 9 黒褐色(10YR3/1)砂 径1～2mmの砂礫多く含む  
配り粒状に3%含む [SD2]
- 10 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト  
粘土質30%含む [SD2]
- 11 灰黄褐色(10YR5/2)粗砂  
径5～10mmの礫5%含む [SD2]
- 12 灰黄褐色(10YR5/2)砂 [SD2]
- 13 暗褐色(10YR4/1)粘土 [SD2]
- 14 灰黄褐色(10YR5/2)粗砂 [SD2]  
径2～5mmの礫30%含む [SD2]
- 15 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト  
配り粒状に3%含む

- 16 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト  
径1～2mmの砂礫5%含む  
配り粒状に5%含む
- 17 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト  
にぶい腐期色(10YR4/3)粗砂30%含む
- 18 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト  
配り粒状に7%含む [SK1 覆土上層]
- 19 灰色(2.5Y2/1)粘土 [SD4]
- 20 Ⅱb層に18を30%含む [SD4]
- 21 黒褐色(2.5Y3/1)砂 [SD1]
- 22 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 粘性あり [SD1]
- 23 黒褐色(2.5Y3/2)粗砂  
配り粒状に10%含む [SD1]
- 24 灰色(5Y2/1)粘土 [SD1]
- 25 灰色(5Y4/1)砂  
オリブ黒色(5Y3/1)粘土10%含む [SD1]
- 26 黒色(5Y3/1)粘土 [SD1]

第93図 SD2・4・5・6(1)



- SD2
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂  
黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状に 7% 含む  
径 2 ~ 5 mm の砂礫多く含む 土礫片含む
  - 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
土礫片含む 炭化物少量含む
  - 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂
  - 4 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
  - 5 褐灰色 (10YR5/1) 粘土
  - 6 黒褐色 (10YR3/1) 粗砂 径 2 ~ 3 cm の礫含む
- SD5
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂
  - 黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状に 3% 含む [SD5]
  - 8 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂  
黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状に 10% 含む [SD5]



- SD4
- 1 黒色 (10YR2/1) 粘土



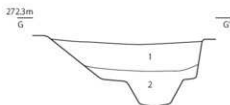
- SD6
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂  
灰黄褐色粘土質シルト 30% 含む [SD6]
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土 [SD6]



- Pit53
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂  
黄褐色 (10YR5/6) の泥岩粒状に 10% 含む



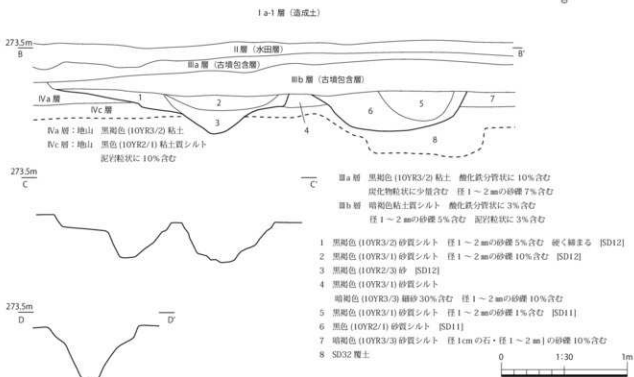
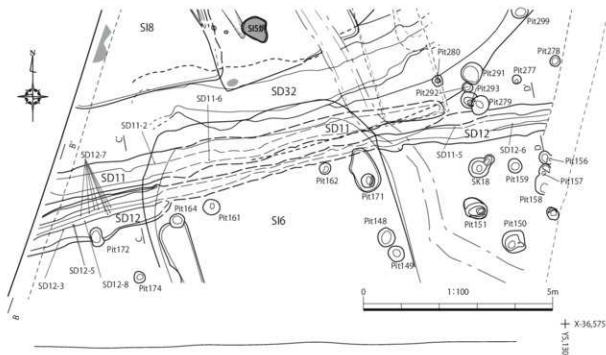
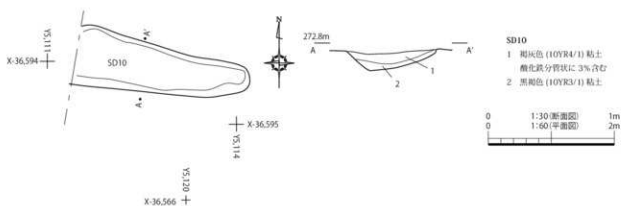
- Pit54
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
泥岩粒状に 10% 含む



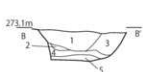
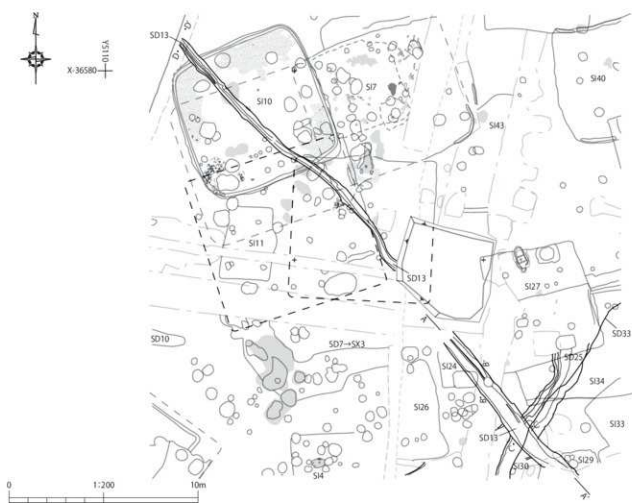
- SK1
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
泥岩粒状に 7% 含む
  - 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト  
泥岩粒状に 3% 含む



第94図 SD2・4・5・6 (2)

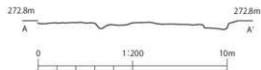
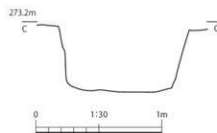


第95図 SD10・11・12

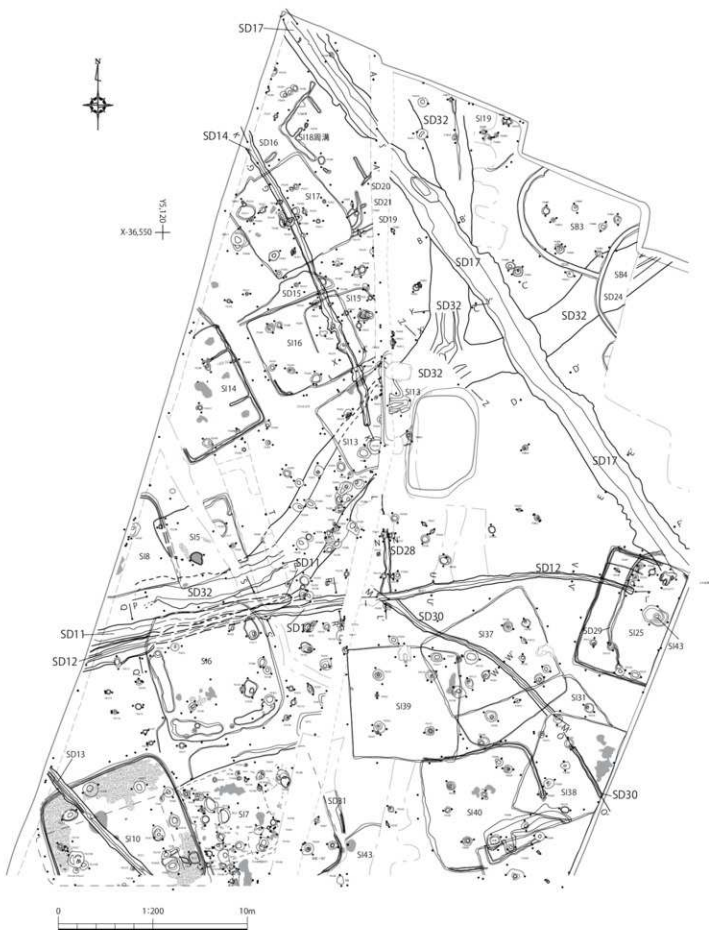


**SD13**

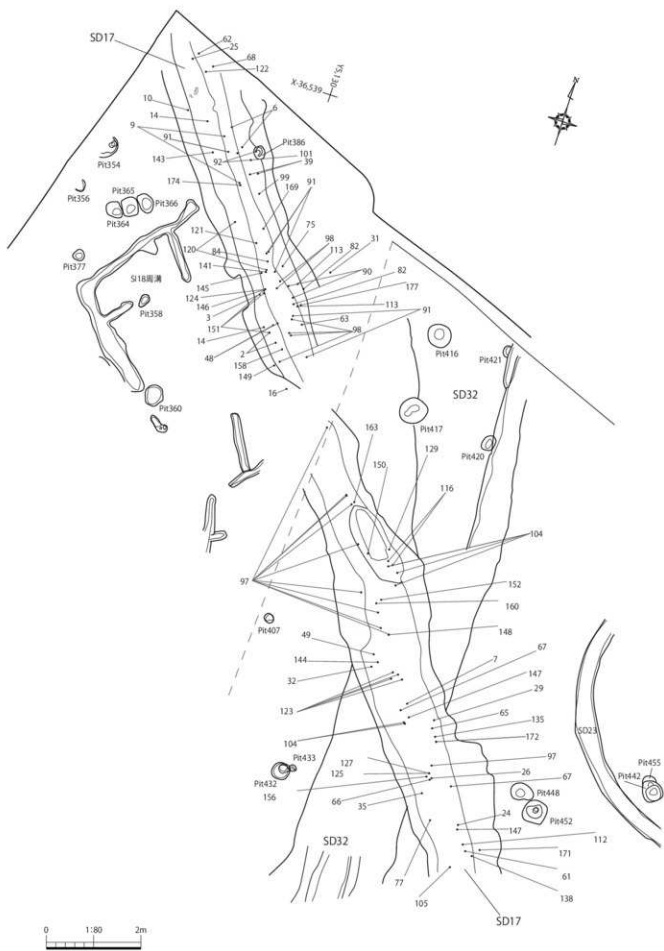
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘や中弱 締まり強 径 2mm 白色粒 5% 径 2mm 黄色粒・焼土粒 1%
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘や中弱 締まり強 径 1mm 黄色土粒 1%
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘や中弱 締まり強 径 2mm 灰土粒・黄色土粒 1%
- 4 (地山) 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘や中弱 締まり強 径 5mm 黄色土粒 5%
- 5 (地山) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘強 締まり強 径 5mm 黄色土粒 2% 径 5mm 褐鉄鉱粒 3%



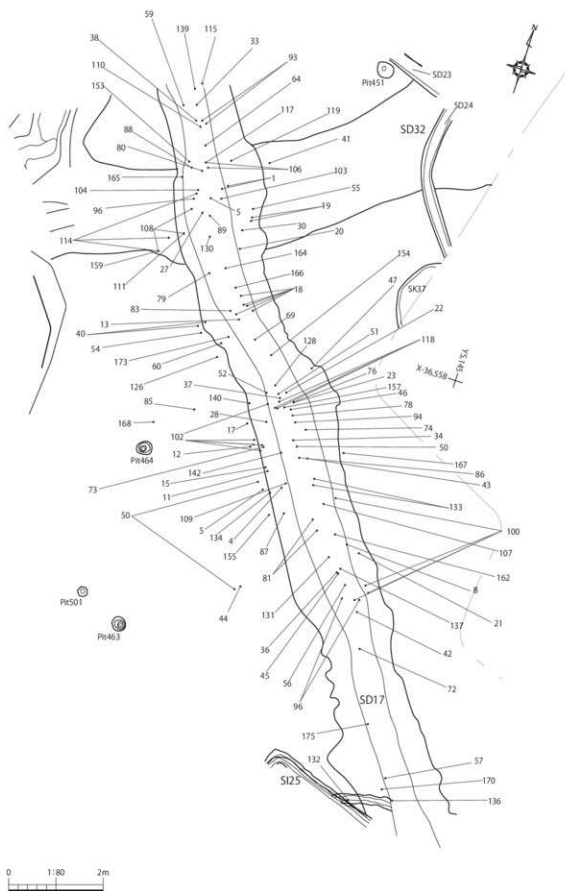
第96図 SD13



第97図 S D11・12・14・17・27・28・30・32(1)

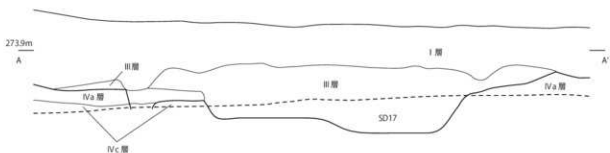


第98图 S D 11·12·14·17·27·28·30·32 ( 2 )



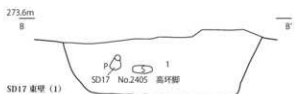
第99图 S D11·12·14·17·27·28·30·32(3)





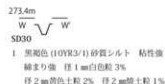
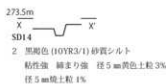
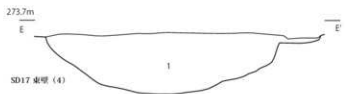
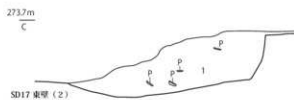
**SD17 東壁**

- I 層 造成土(礫乱・砂石)
  - IVa 層 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径1~2mm砂礫7%
  - IVa 層 黒褐色(10YR3/2)粘土
  - IVc 層 褐色(10YR4/1)粘土
- に深い黄色シルト(2.5Y6/4)の混在を粒状に10%含む



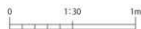
**SD17**

- I 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強
- 径1mm白色粒2% 径1mm黄色土粒2% 径5mm炭化粒1%

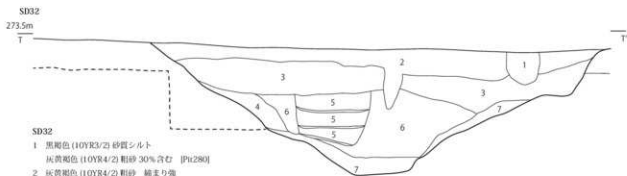


**SD11・SD14**

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒5% 径5mm黄色土粒5% 径2mm炭土粒1%
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒5% 径1mm黄色土粒・小礫1%
- 3 黒褐色(10YR2/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径1mm白色粒・黄色土粒1%
- 4 黒褐色(10YR1.7/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒1%
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒1%



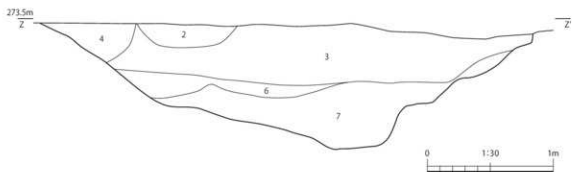
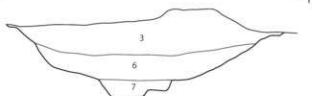
第100図 SD11・12・14・17・27・28・30・32(4)



SD32

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂 30% 含む [Pt280]
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂 締まり強  
径 5mm 石 1%
- 3 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂 締まり強  
径 1 ~ 2cm の石 5% 含む
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 粗砂 締まり弱  
黒色 (10YR2/1) 粘土が薄く層状に混じる
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 細砂  
径 1 ~ 2cm 石 2% 含む
- 7 褐色 (10YR4/4) 細砂 締まり弱  
※水による錆で変色

273.5m  
Y



SD12

273.4m



SD17

273.4m



SD14

273.3m



SD28

273.4m



SD30

273.3m



SD30

273.2m



SD32

272.4m



SD11-12

273.3m



SD12

273.4m



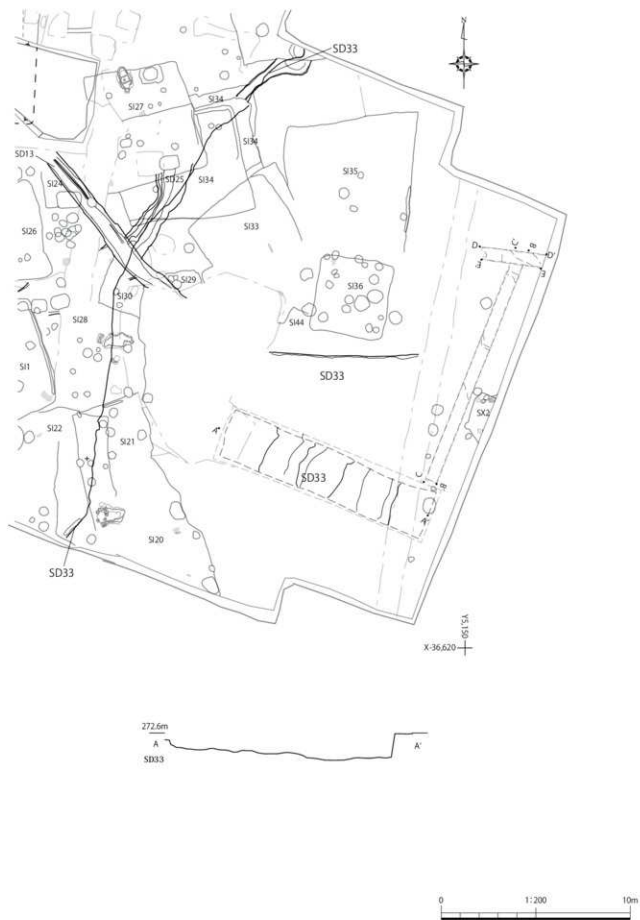
SD11-12

273.3m

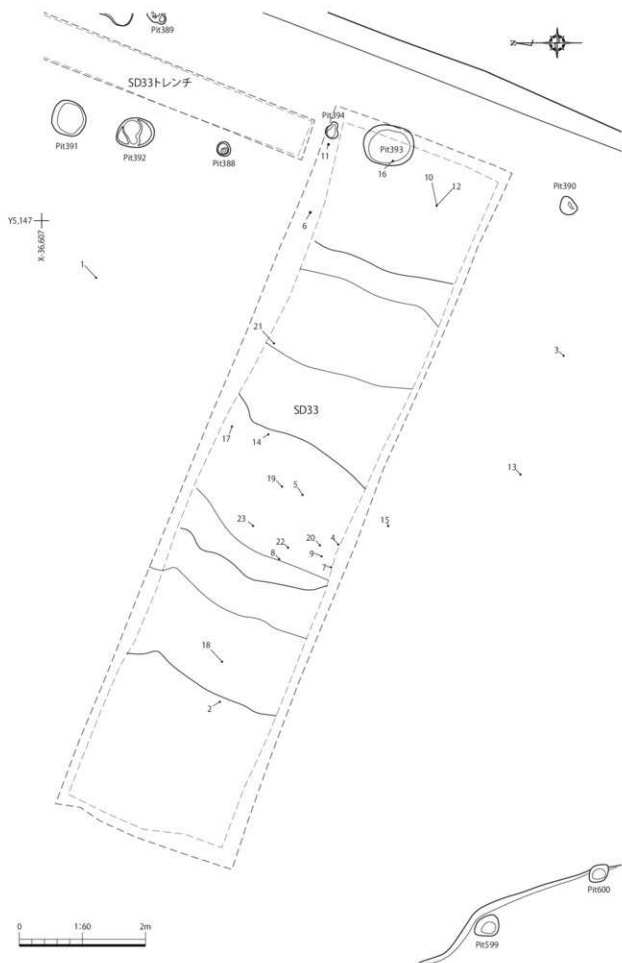


0 1:200 10m

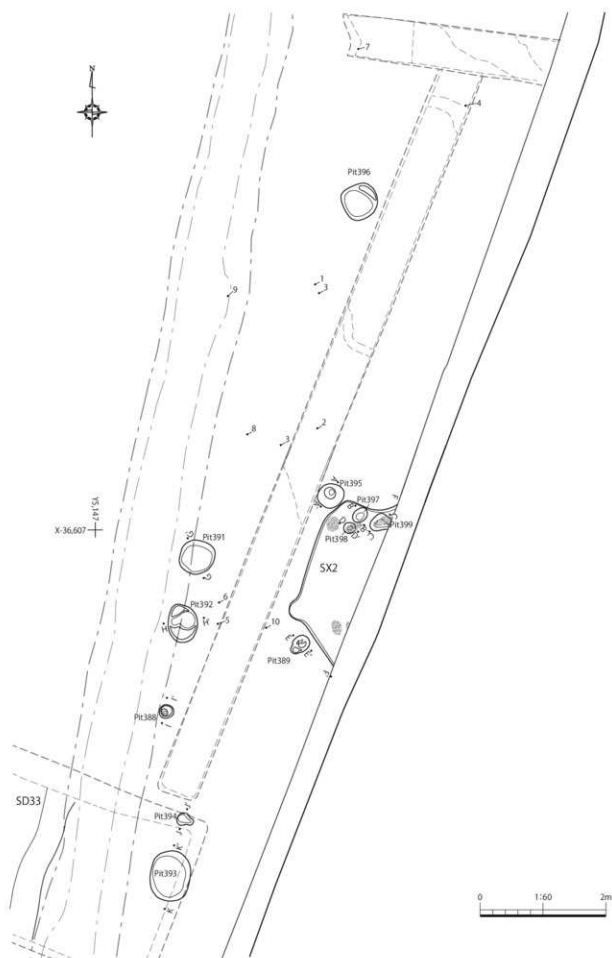
第101図 S D 11・12・14・17・27・28・30・32 (5)



第102図 SD33-SX 2 (1)

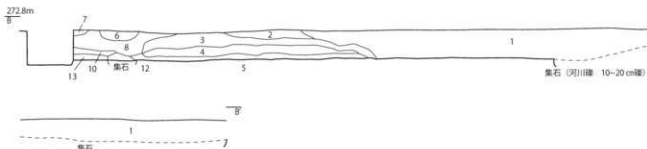


第103図 SD33・SX 2 (2)

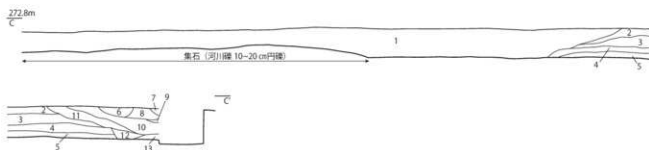


第104図 SD33・SX2(3)

## SD33 東壁



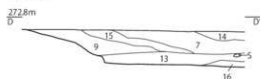
## SD33 西壁



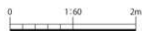
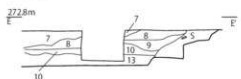
## SD33 西壁

- 1 黒灰色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性弱 締まり強 河川の礫の上に堆積した土層 流れ込みの遺物を含む
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性弱 締まり強 径1mm白色粒10%
- 3 黒灰色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性弱 締まり強
- 4 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト 粘性弱 締まり強
- 5 灰色 (7.5Y5/1) 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒10% 径2mm黄色土粒5% 径2mm炭化粒1%
- 7 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径1mm白色粒20% 径2mm黄色土粒5%
- 9 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒・炭化粒1%
- 10 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強 径1mm白色粒10% 径2mm黄色土粒5% 径5mm炭化粒1%
- 11 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径5mm炭化粒2% 径2mm黄色土粒・白色粒2%
- 12 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱 径2~10mm礫20%
- 13 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 14 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強 径1mm白色粒・黄色粒20% 径1mm炭化粒2%
- 15 黄灰色 (2.5Y6/1) 細粒砂層 粘性無し 締まりやや弱
- 16 褐色 (10YR4/4) 砂粒 径1mm大の砂粒 粘性無し 締まり強 (10YR5/1 褐色砂が踏びて褐色になっている)

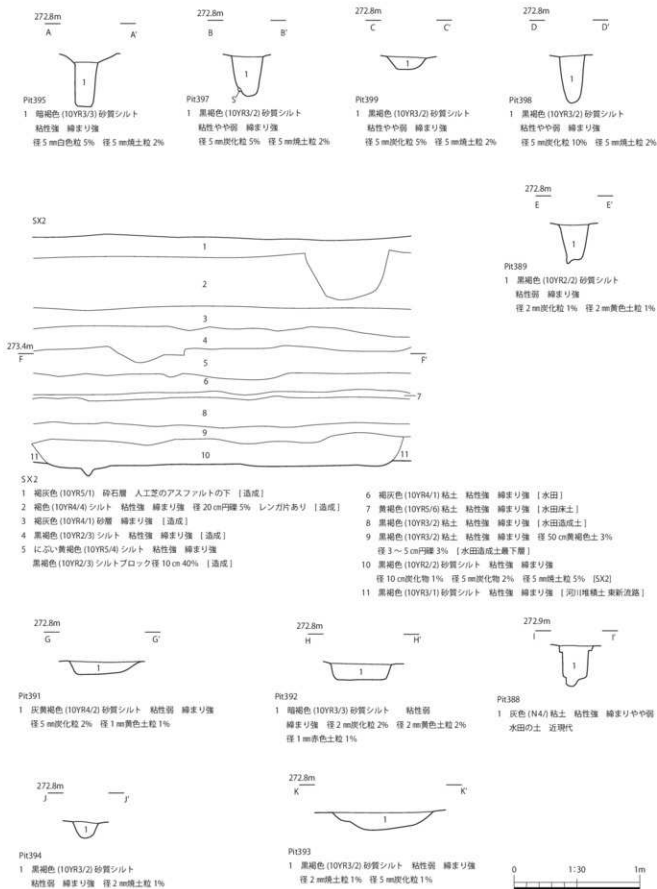
## SD33 北壁



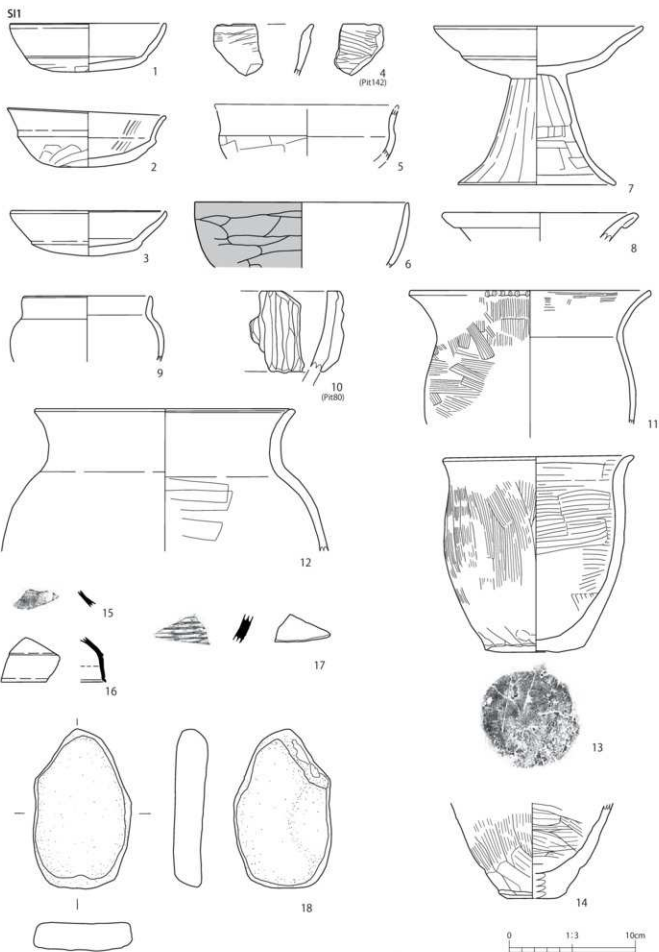
## SD33 南壁



第105図 SD33・SX2(4)

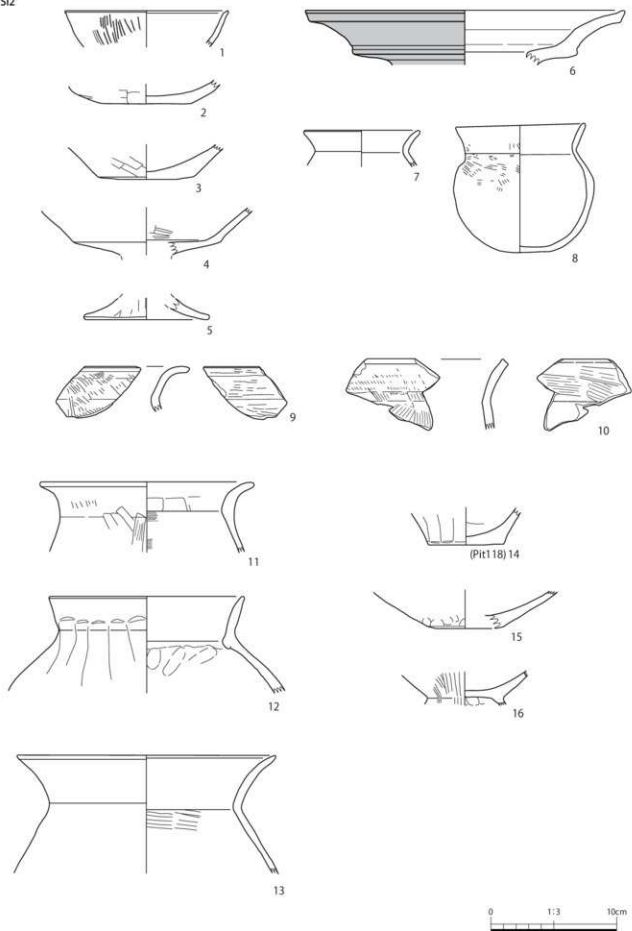


第106図 SD33・SX 2 (5)

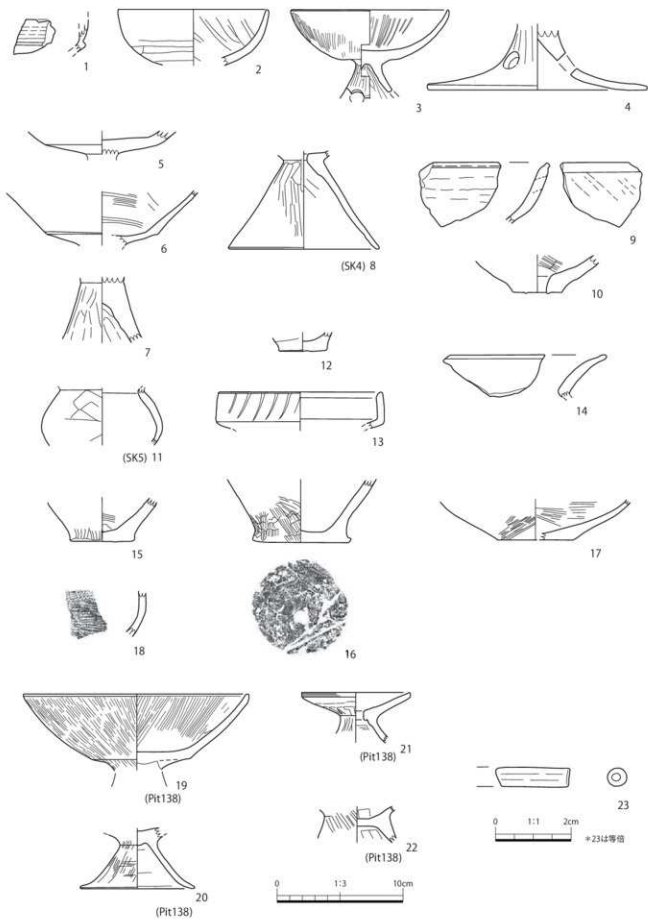


第107图 S11出土遺物

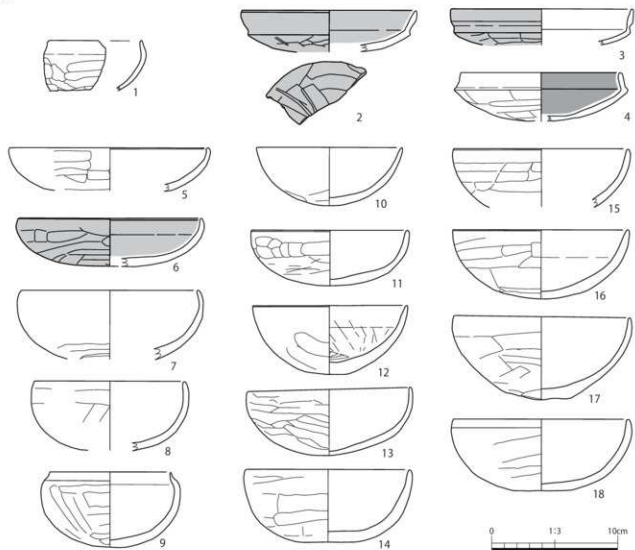
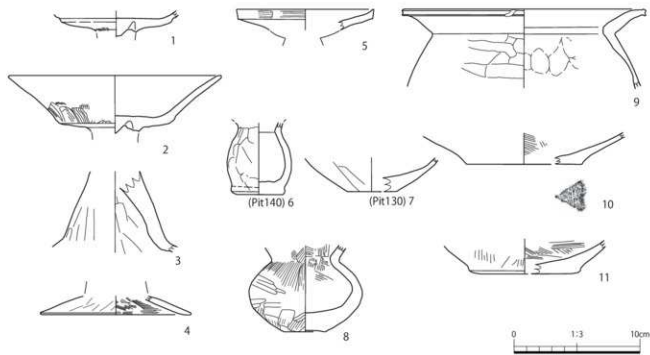




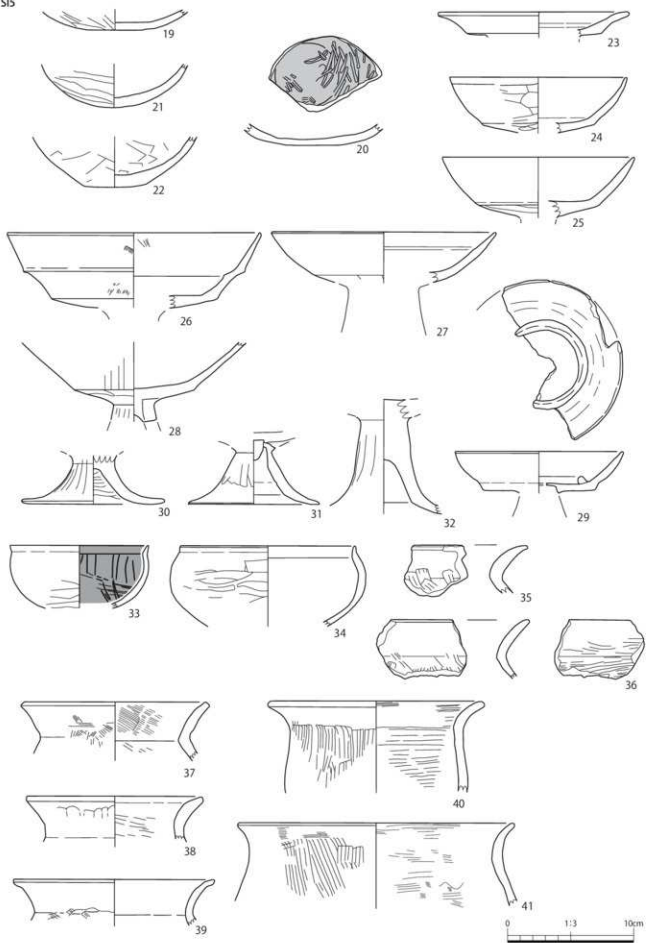
第108图 S12出土遗物



第109図 S13出土遺物

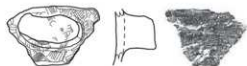


第110图 S14・S15(1) 出土遺物



第111圖 S15(2)出土遺物

S15



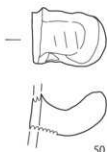
49



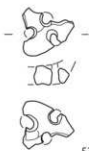
51



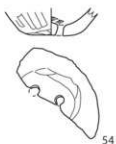
52



50



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



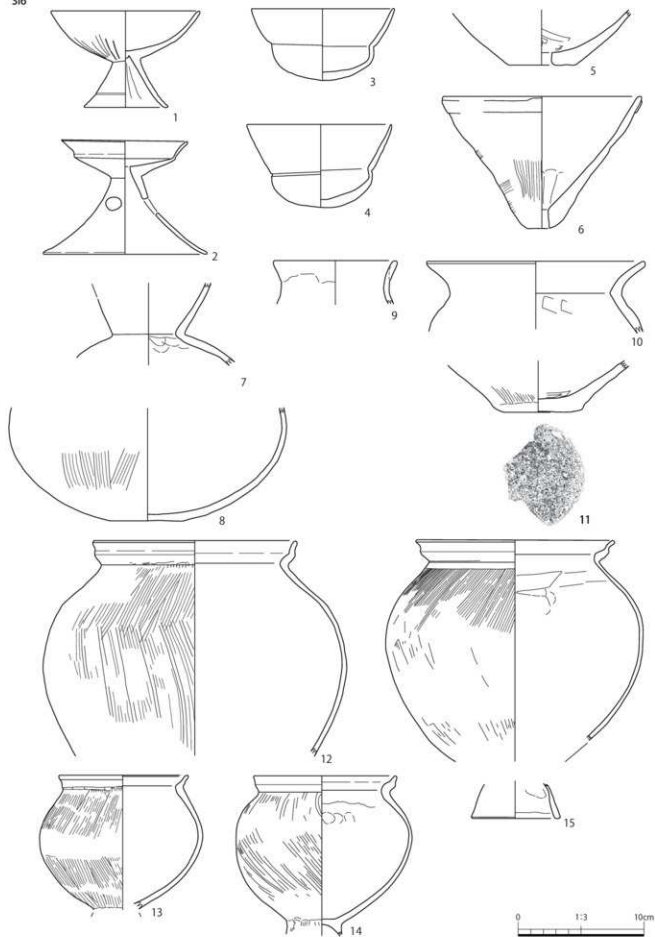
64



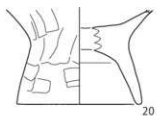
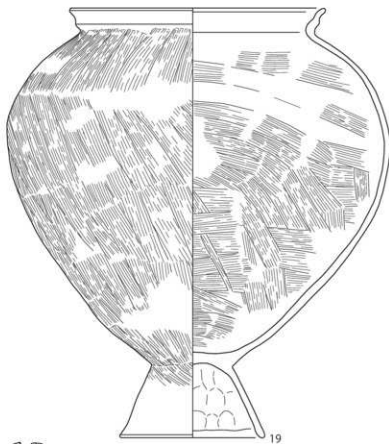
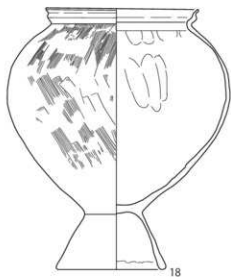
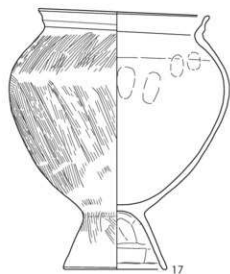
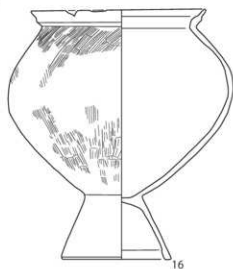
65



第112図 S15(3)出土遺物



第113図 S16(1)出土遺物



\*21・22は3/4縮尺

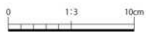
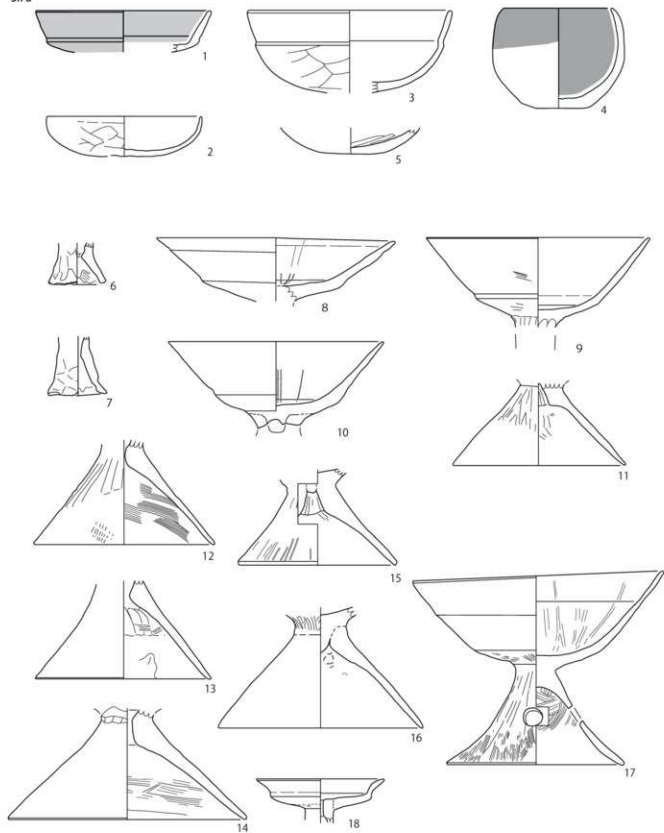


0 3:4 5cm

0 1:3 10cm

第114図 S16(2)出土遺物

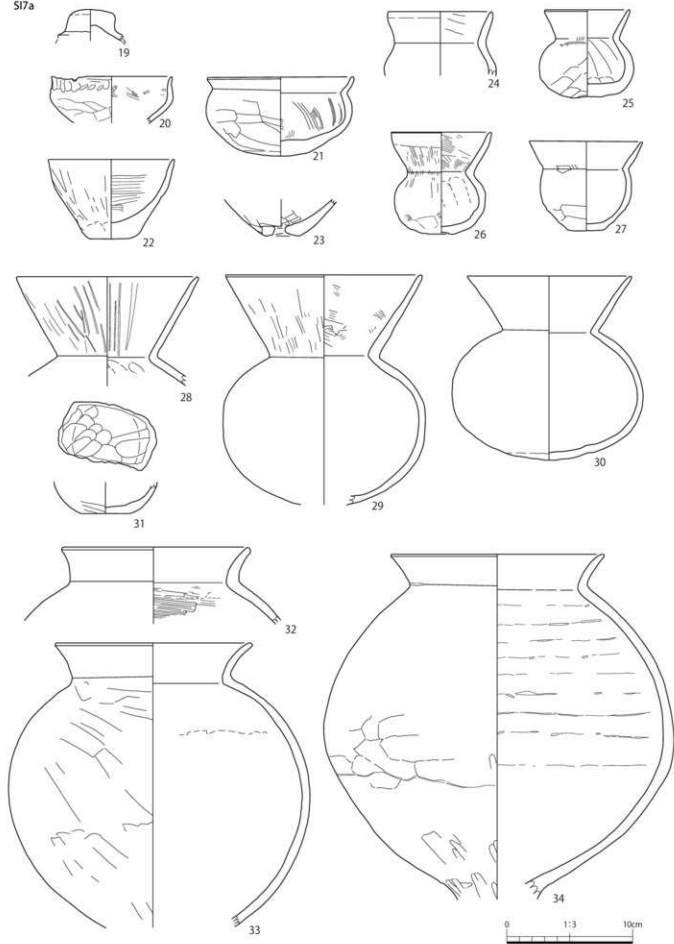
SI7a



第 115 図 SI7a(1) 出土遺物

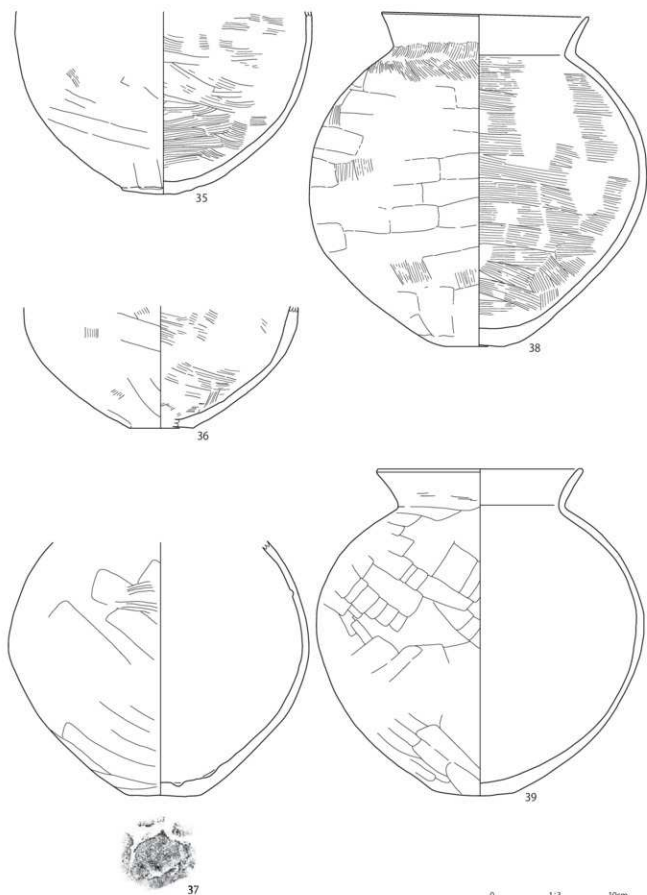


S17a



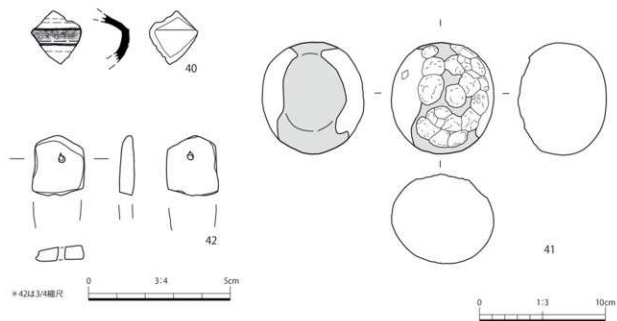
第116図 S17a(2) 出土遺物

S17a

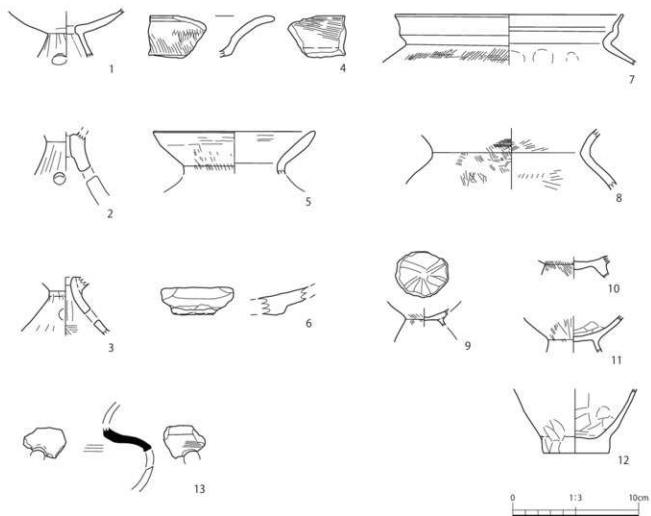


第117図 S17a(3) 出土遺物

S17a

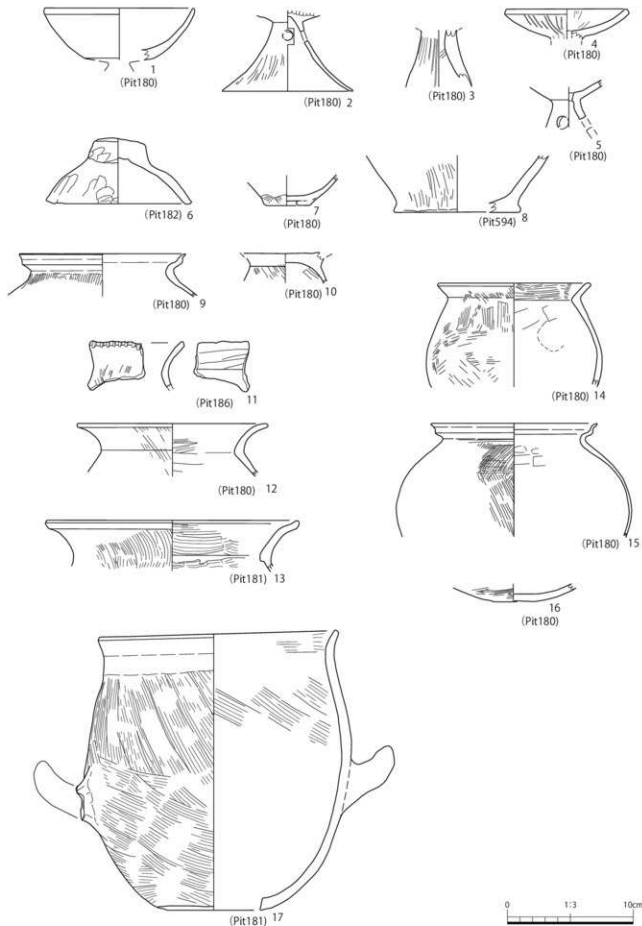


S17b



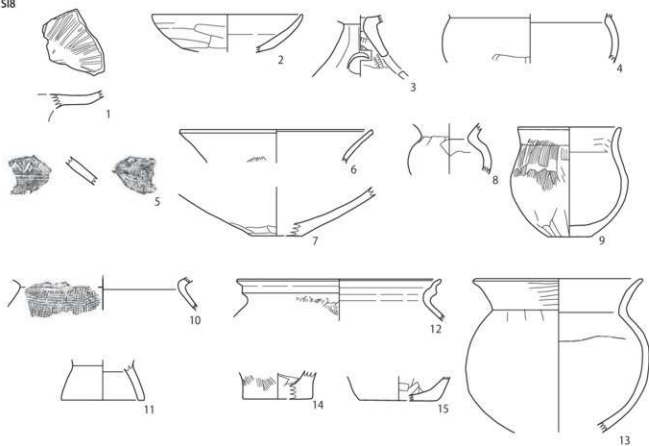
第118图 S17a(4)・S17b出土遺物

S17Pit

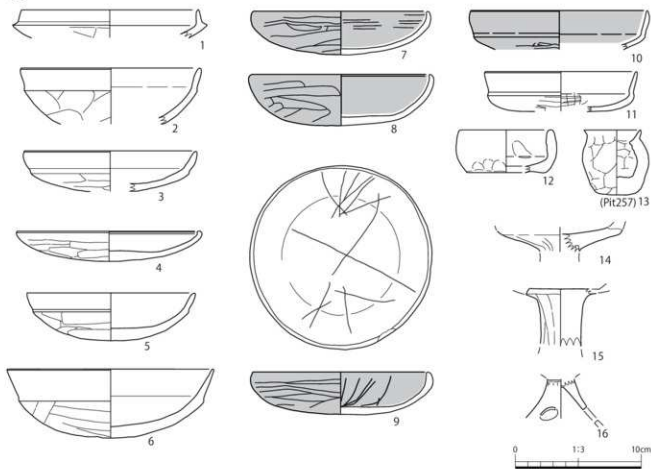


第119图 S17Pit出土遗物

S18

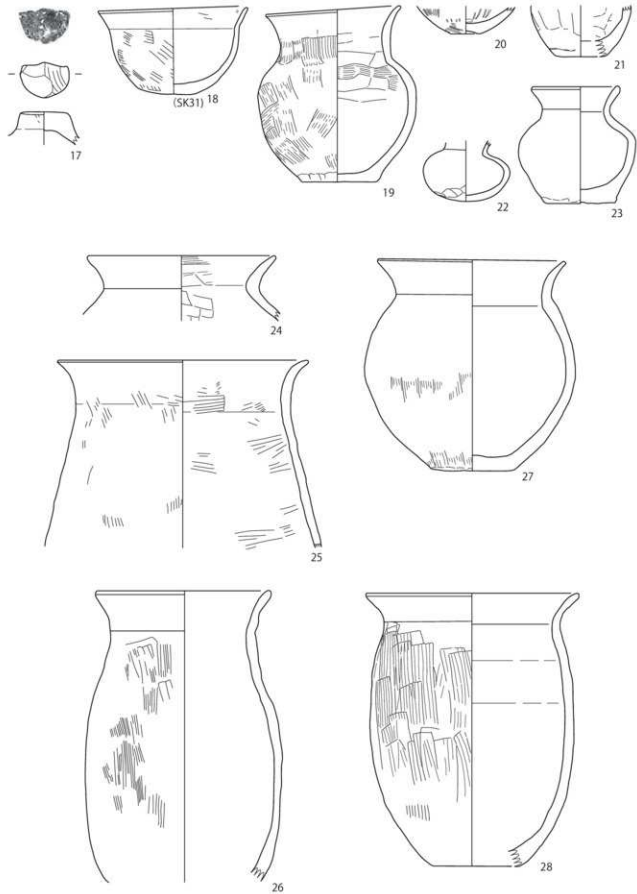


S19



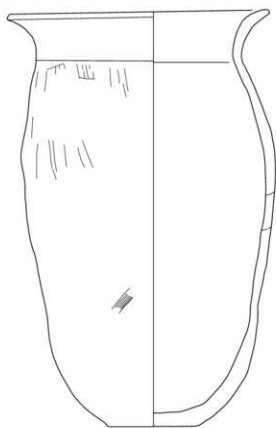
第120图 S18·S19 (1) 出土遺物

S19

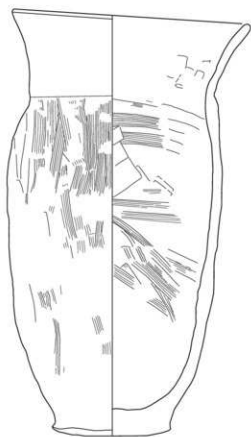


第121図 S19出土遺物(2)

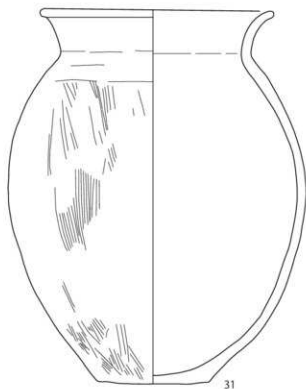




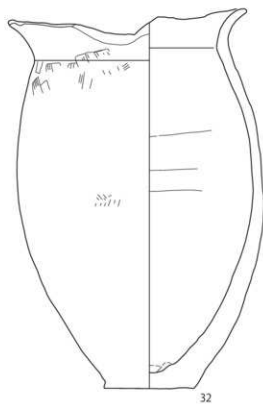
29



30



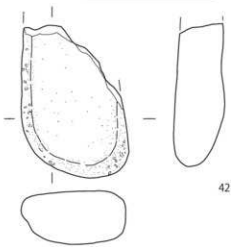
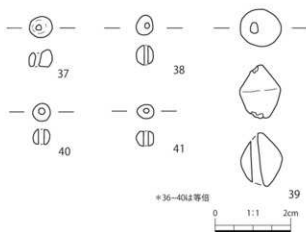
31



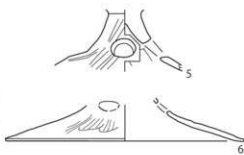
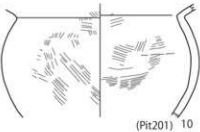
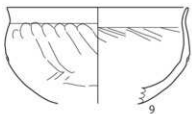
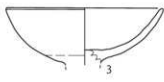
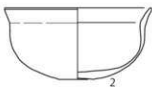
32

第122図 S19(3)出土遺物

S19

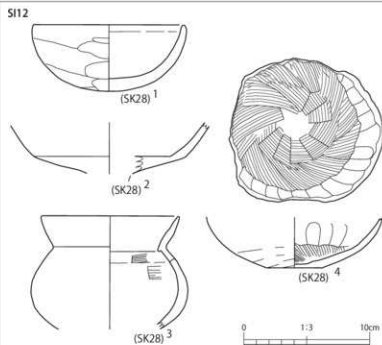
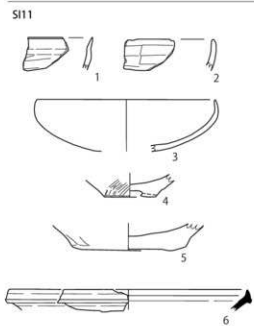
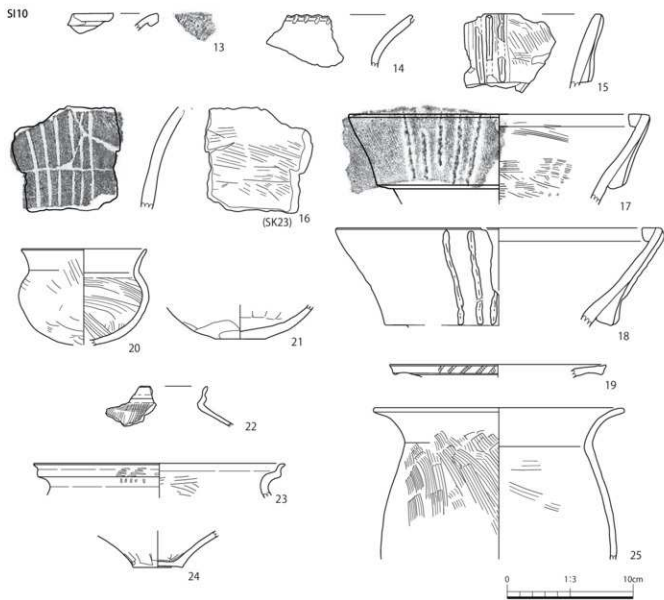


S110

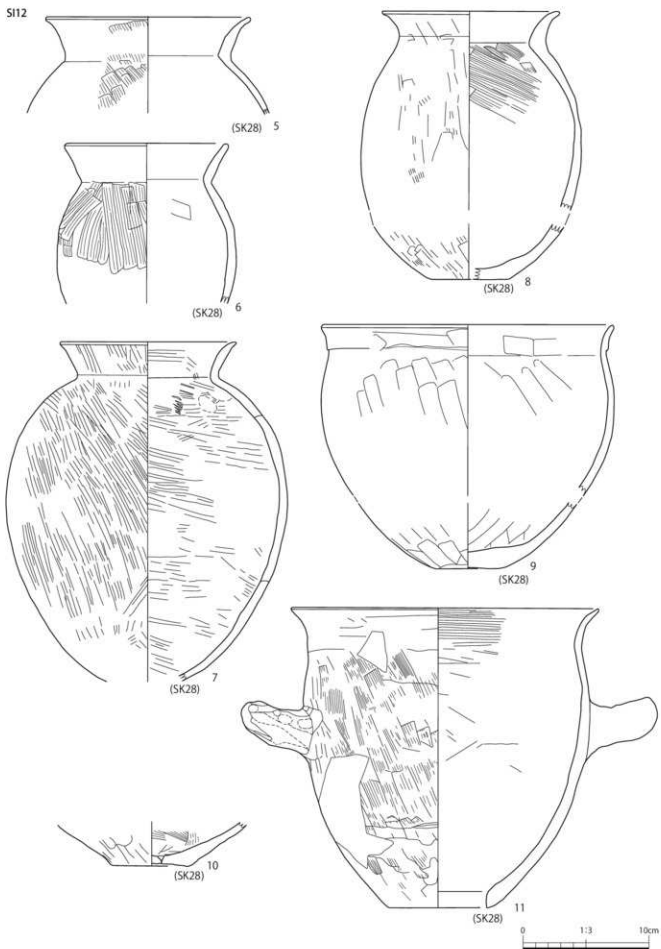


第123図 S19(4)・S110(1)出土遺物



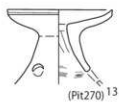
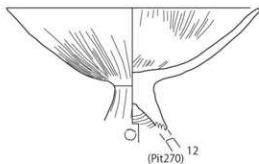


第124図 S I 10 (2)・S I 11・S I 12 (1) 出土遺物

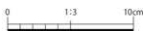
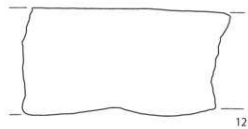
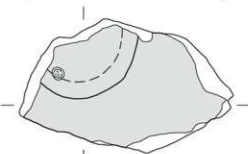
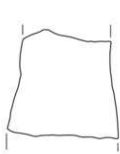
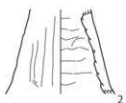
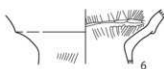


第 125 図 S 112 (2) 出土遺物

S112

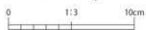
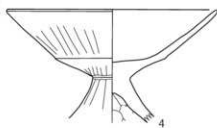
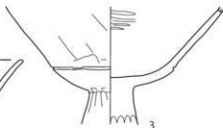
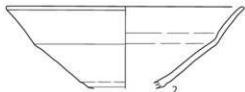


S113

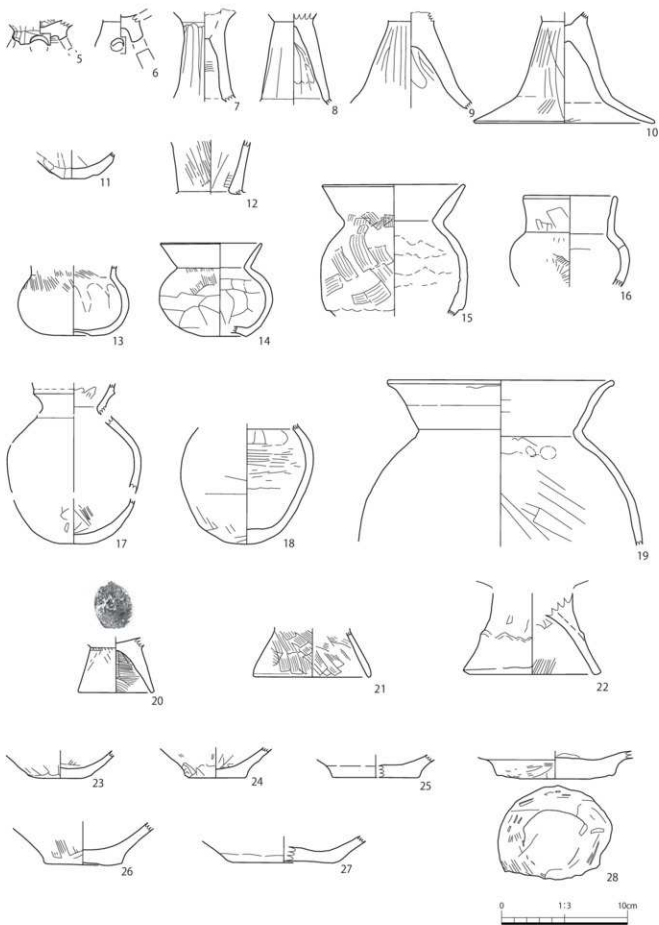


12

S114

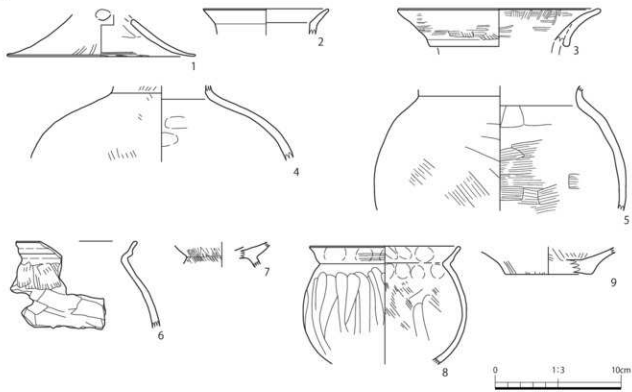


第 126 図 S112 (3)・S113・S114 (1) 出土遺物

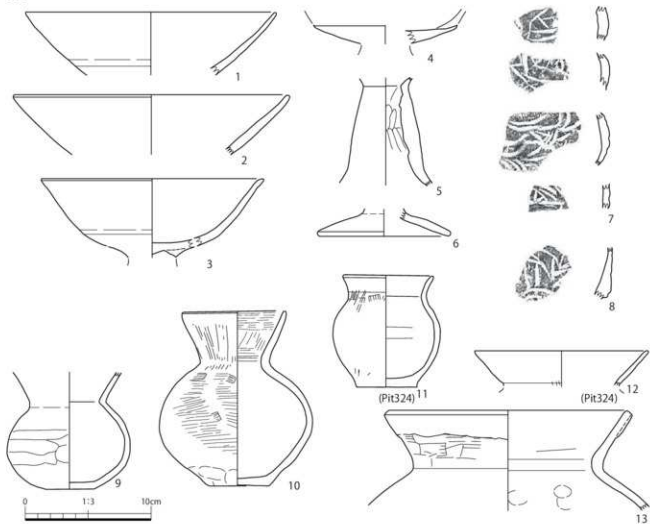


第127图 S114(2)出土遗物

SI15

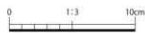
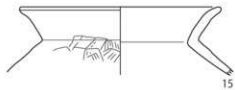
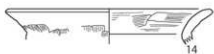


SI16

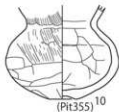
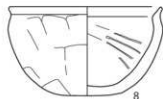
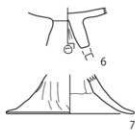
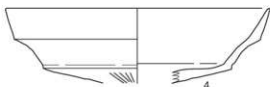
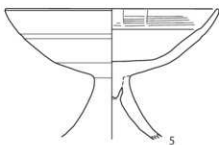


第128図 SI15・SI16 (1) 出土遺物

S116



S117



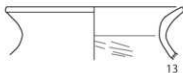
(Pit355)



(Pit362)



12



13



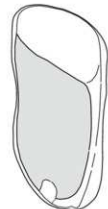
14



15



1



16



S118



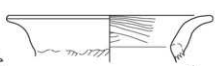
1



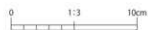
(Pit358)



3

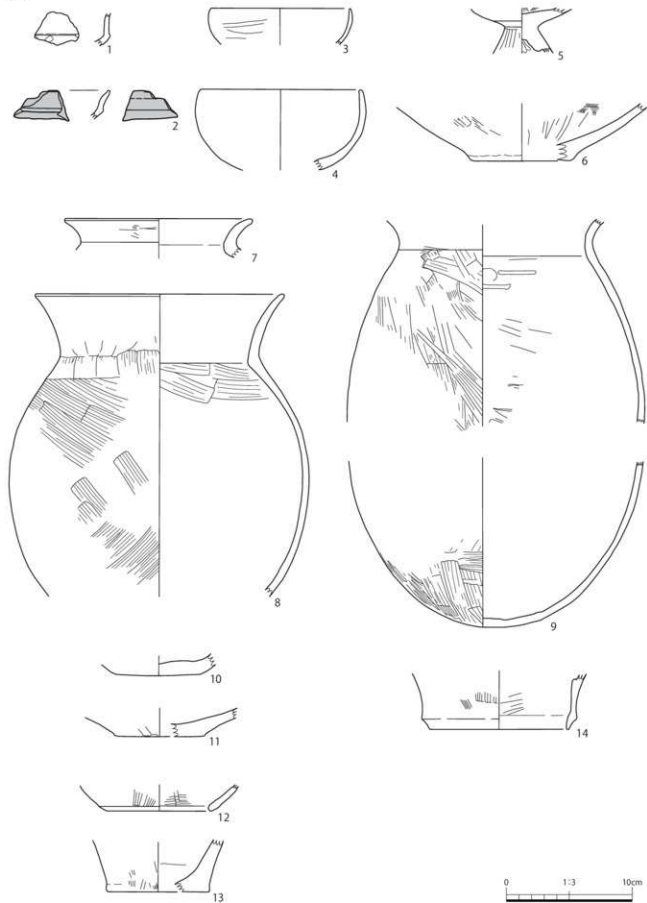


4

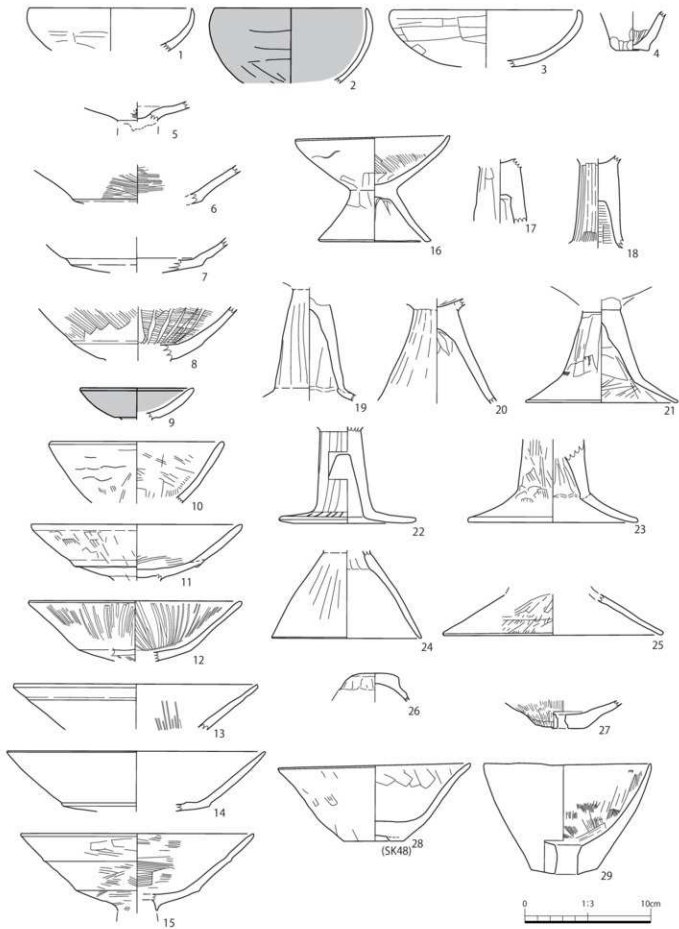


第129图 S I 16 (2) · S I 17 · S I 18 出土遗物

S119



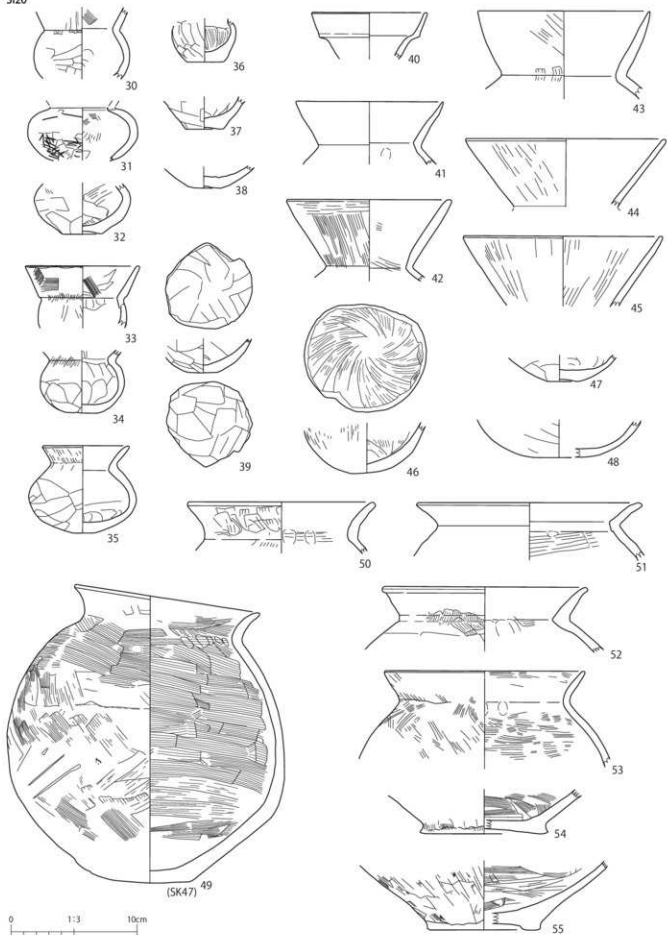
第 130 图 S 119 出土遺物



第131图 S120(1)出土遗物

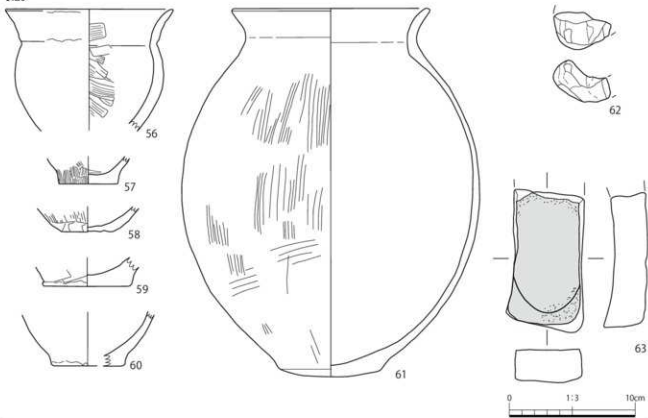


S120

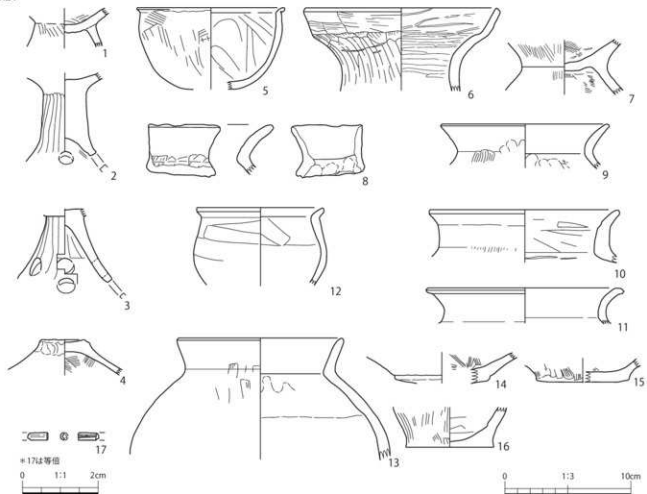


第132图 S120(2) 出土遺物

S120

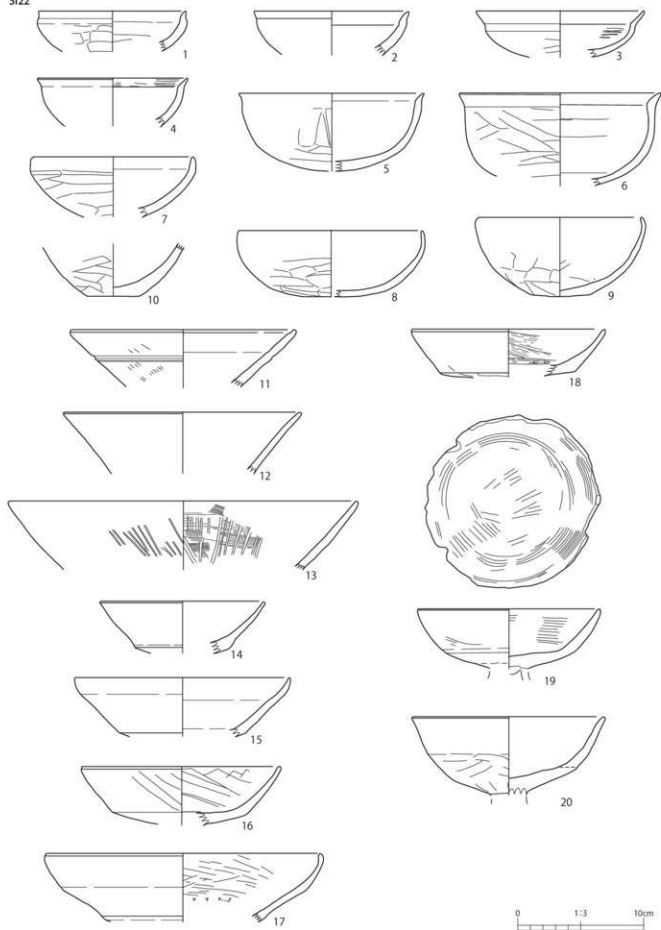


S121

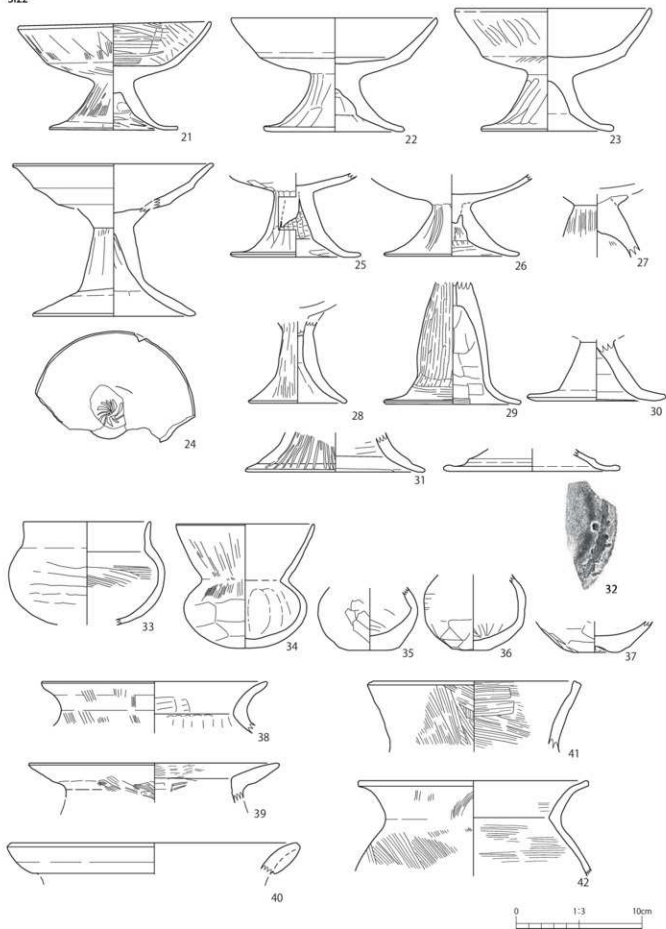


第133図 S120(3)・S121出土遺物

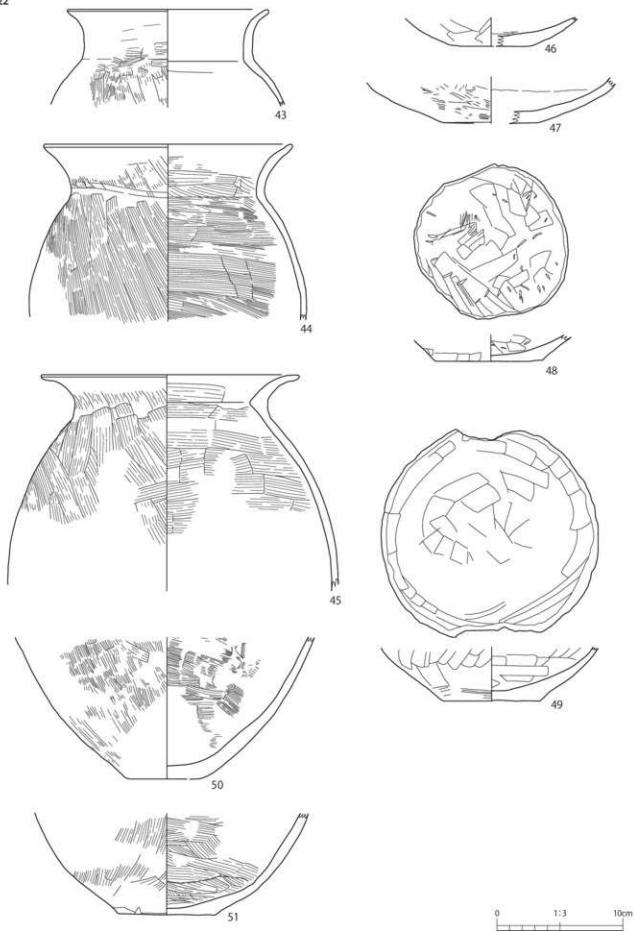
S122



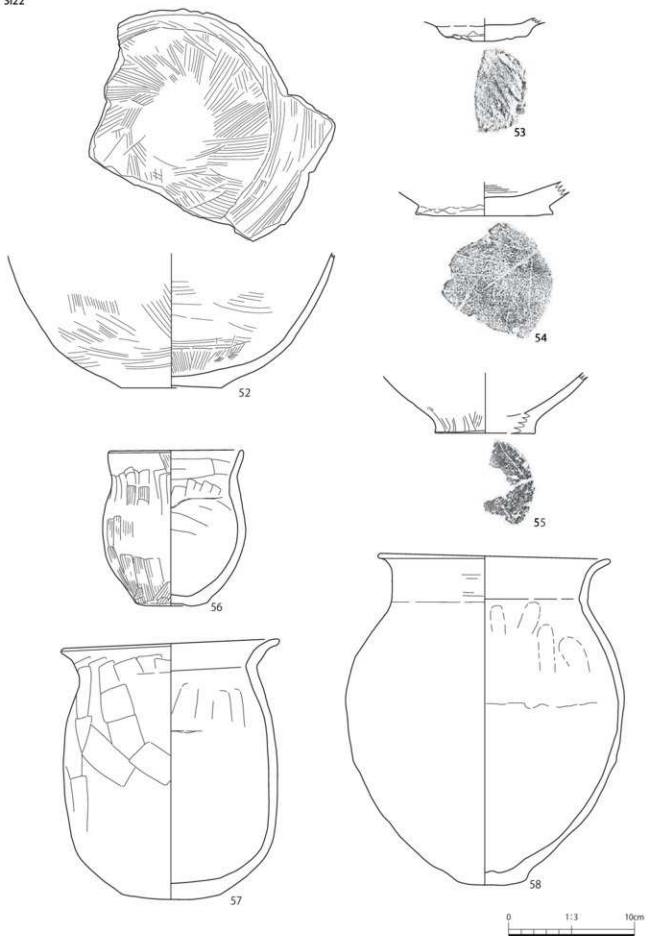
第134図 S122(1)出土遺物



第 135 圖 S I 22 (2) 出土遺物

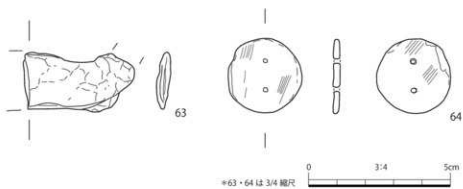
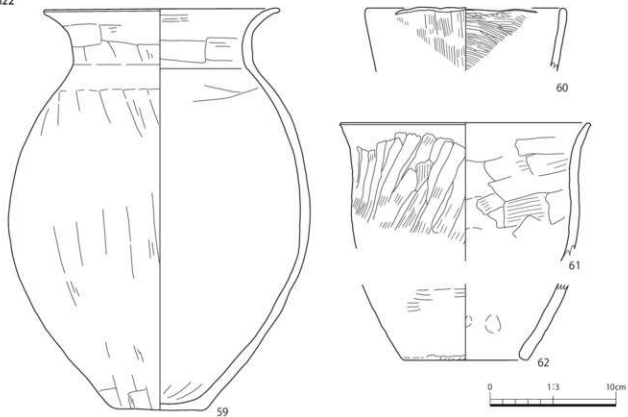


第 136 図 S122 (3) 出土遺物

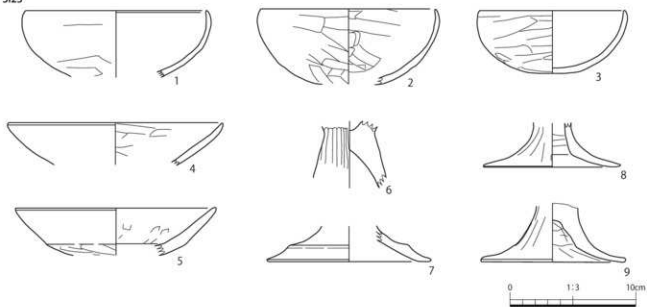


第137図 S122(4)出土遺物

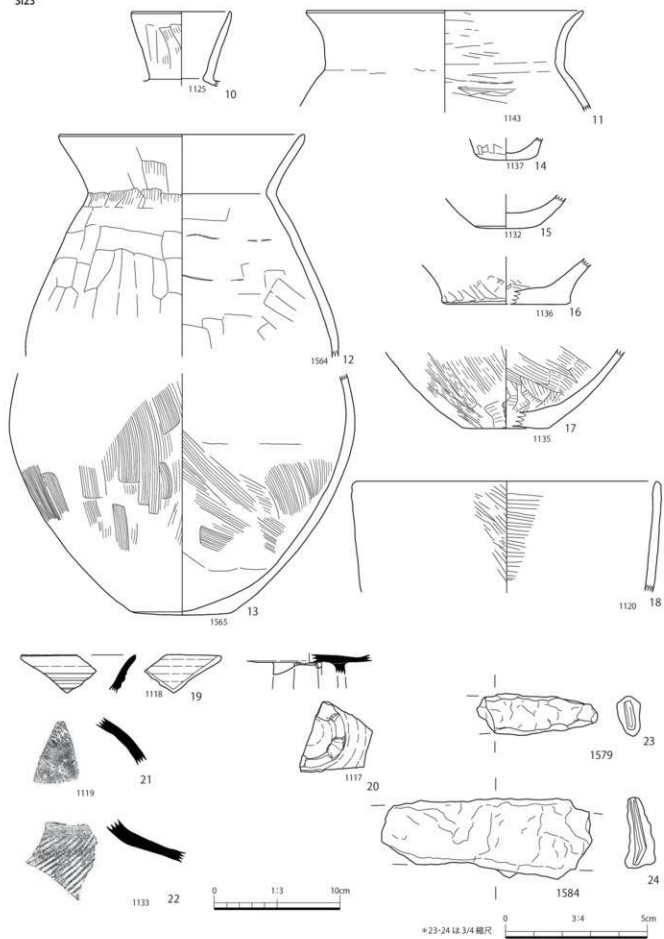
SI22



SI23



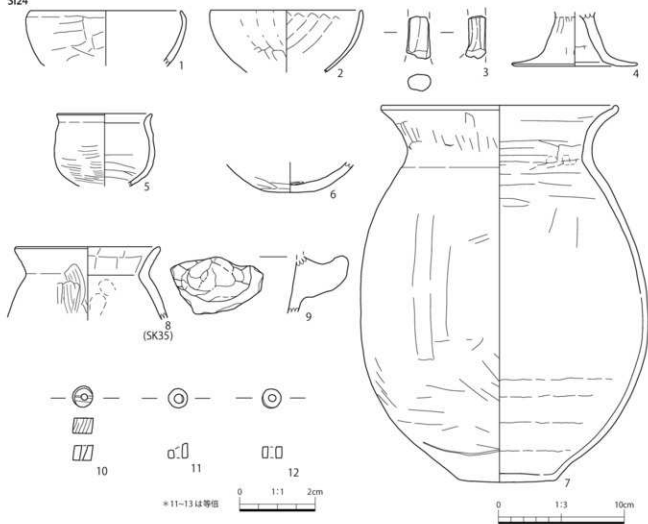
第138図 SI22(5)・SI23(1)出土遺物



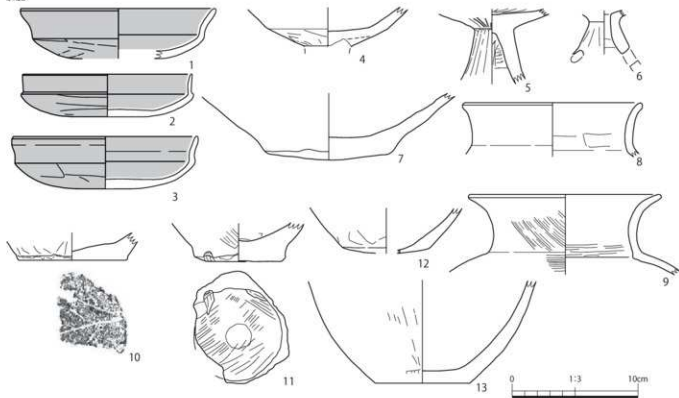
第139図 SI23(2)出土遺物



S124

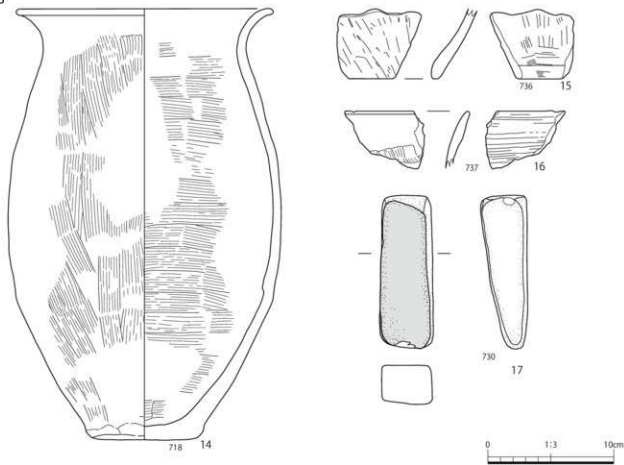


S125

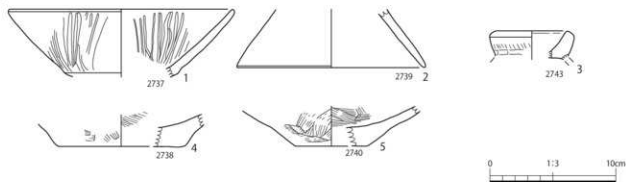


第140图 S124·S125(1)出土遗物

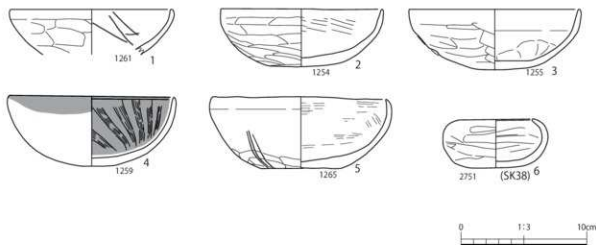
S125



S126

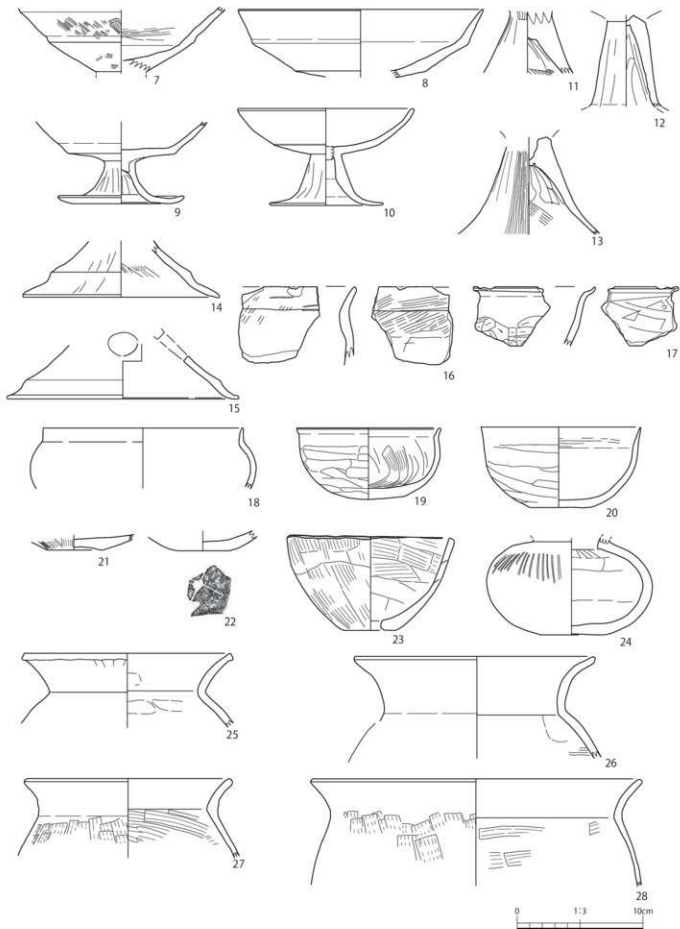


S127

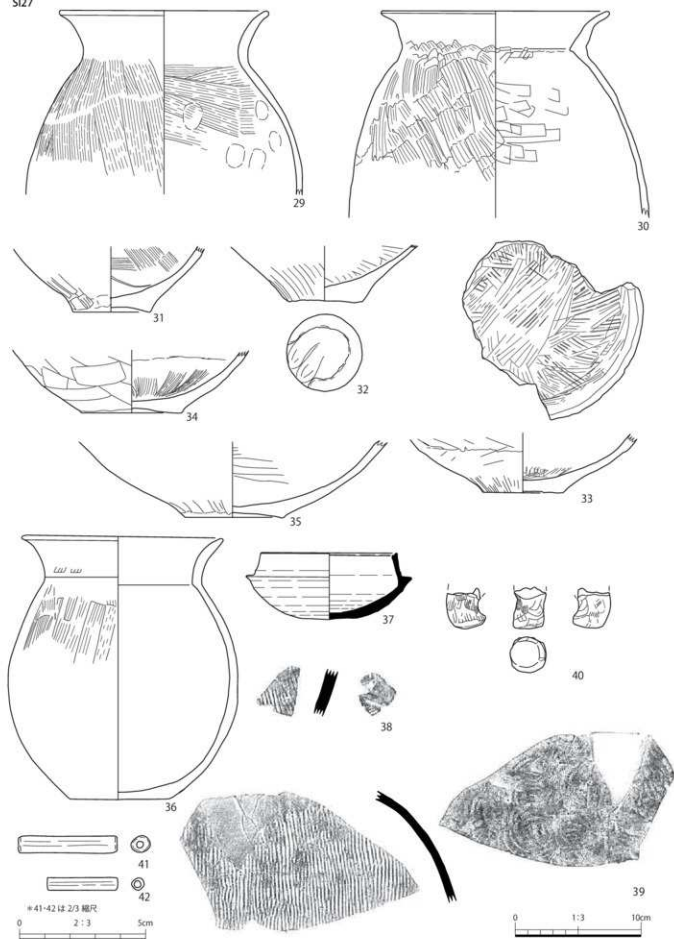


第 141 図 S I 25 ( 2 ) ・ S I 26 ・ S I 27 ( 1 ) 出土遺物

S127

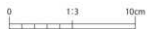
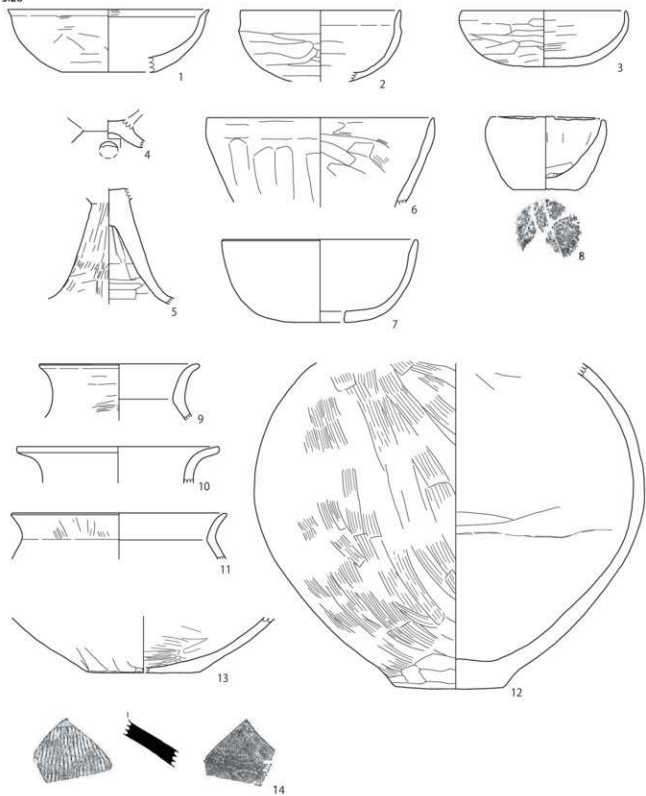


第142图 S127(2)出土遗物



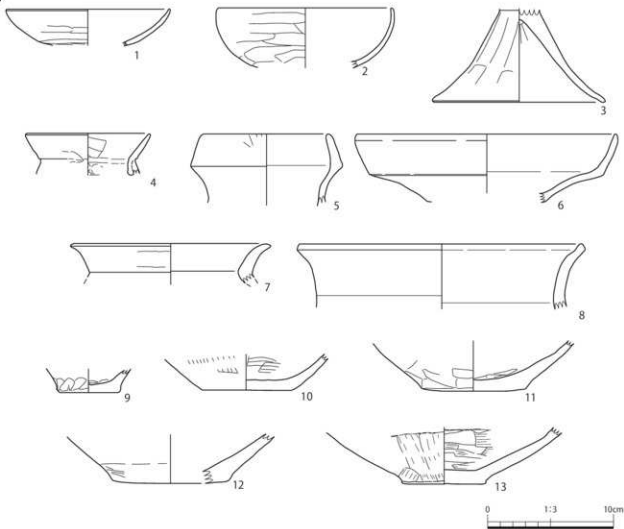
第143図 S127(3)出土遺物

SI28

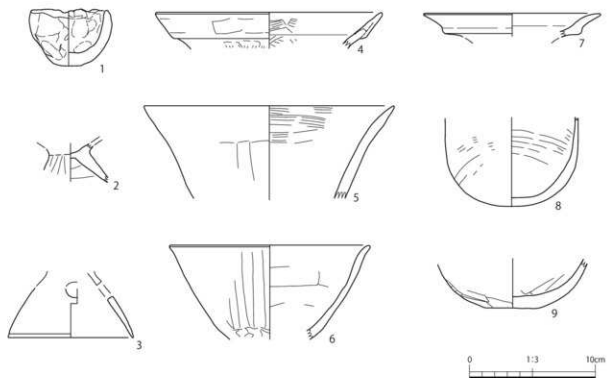


第 144 図 S I 28 出土遺物

S129

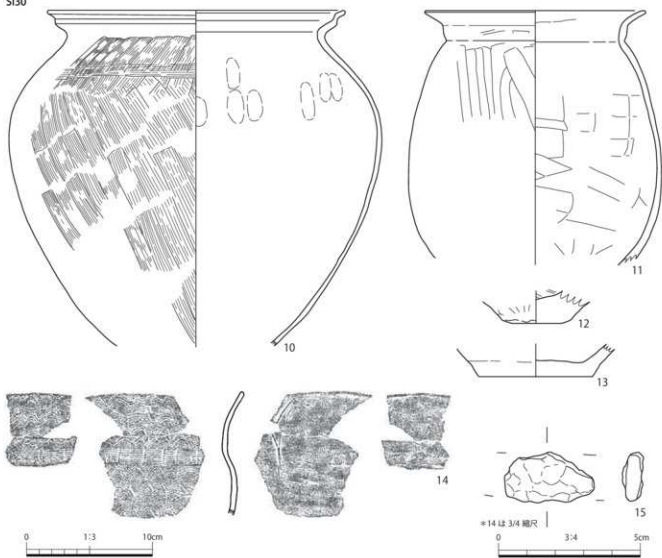


S130

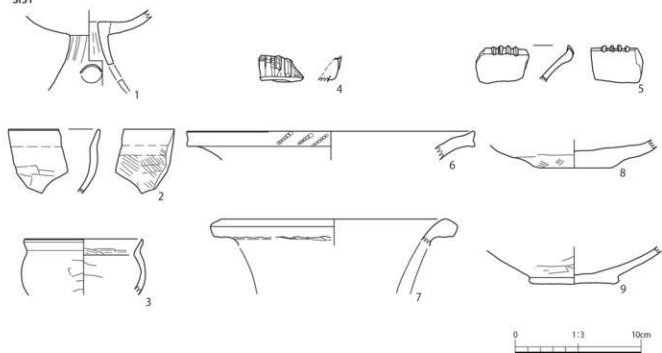


第145图 S129·S130(1)出土遗物

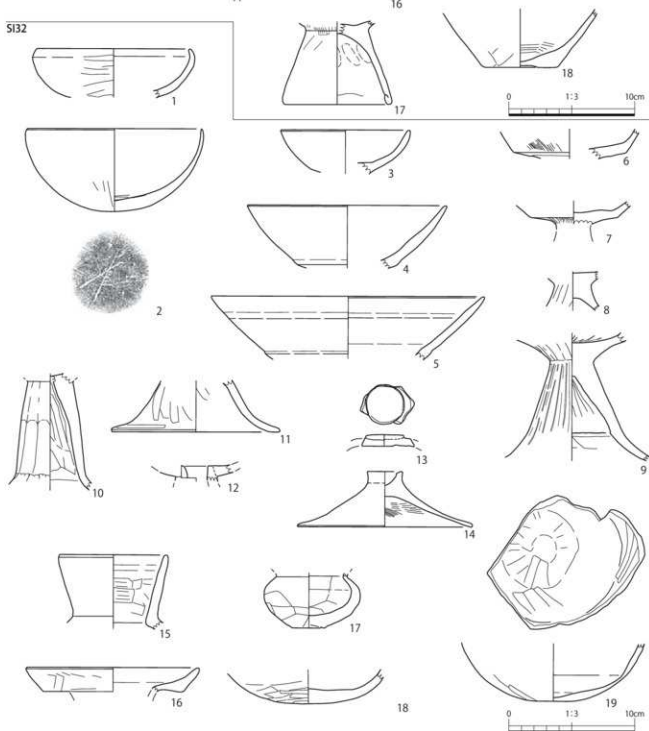
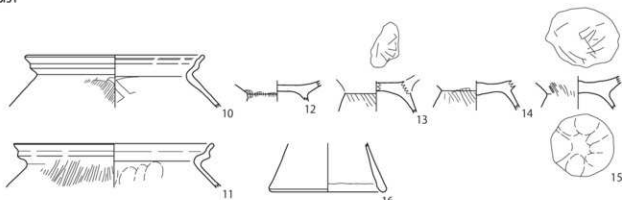
S130



S131



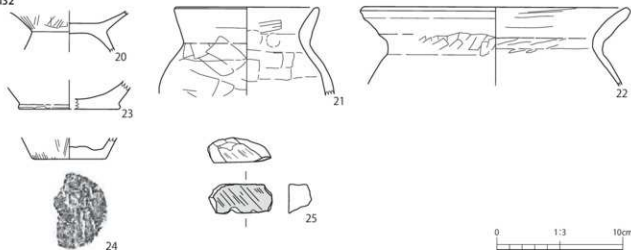
第 146 図 S I 30 (2)・S I 31 (1) 出土遺物



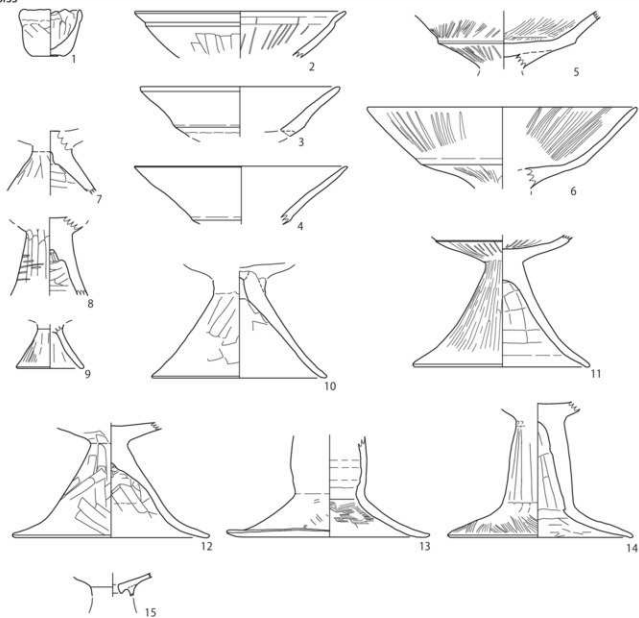
第147图 S131(2)·S132(1)出土遗物



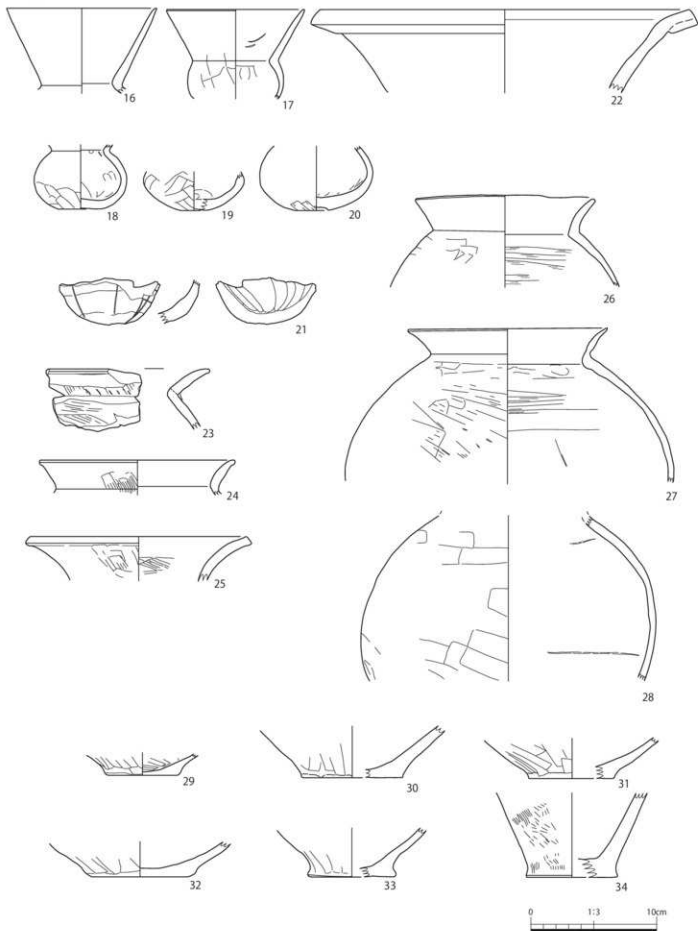
S132



S133

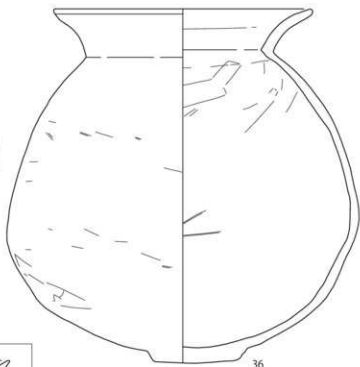
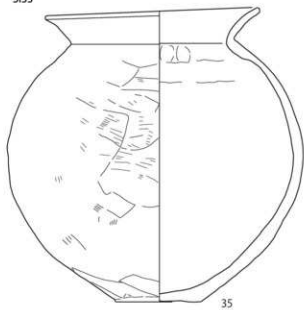


第148圖 S132(2)・S133(1)出土遺物

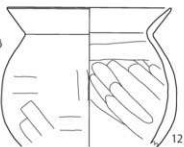
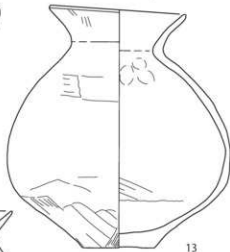
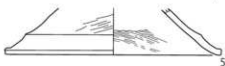
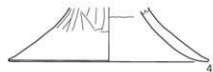
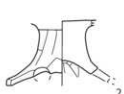
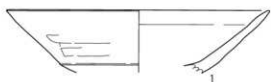


第149図 S | 33 (2) 出土遺物

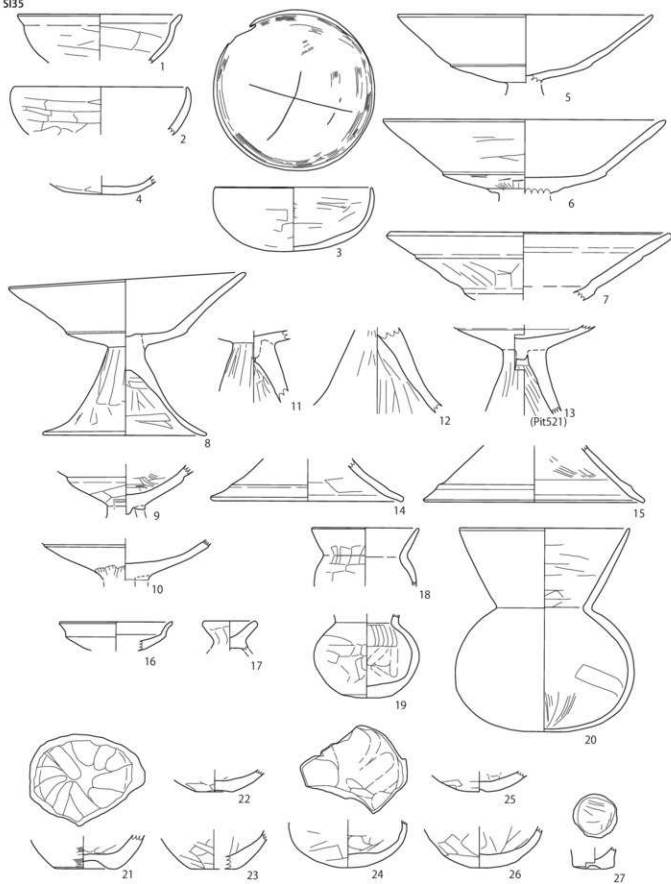
S133



S134



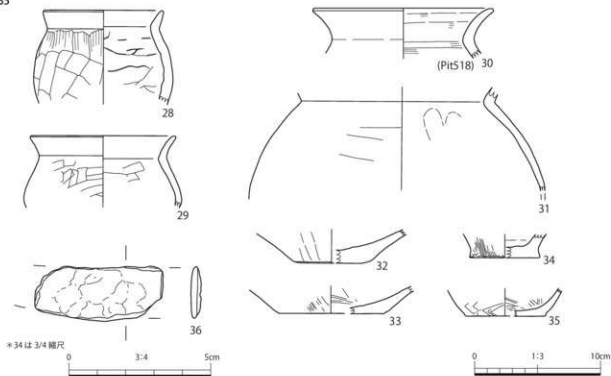
第150图 S133(3)·S134出土遗物



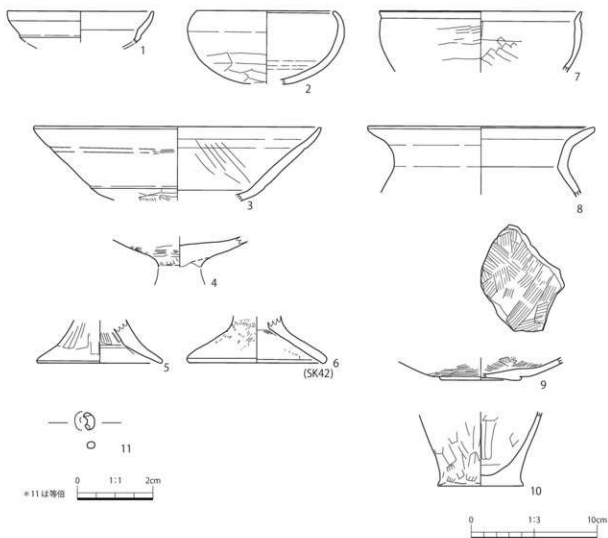
第151图 S135(1)出土遺物



SI35

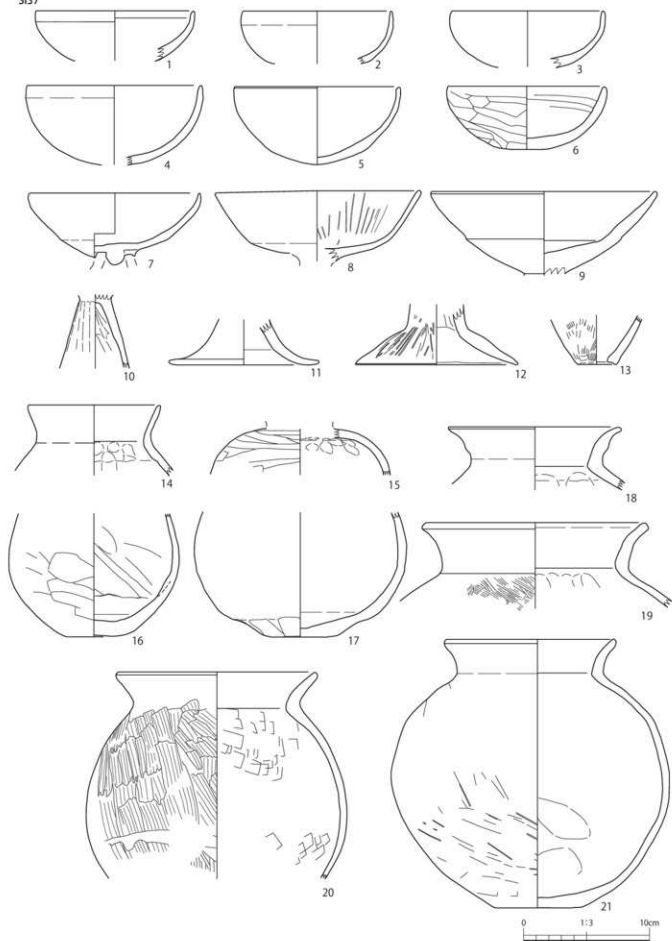


SI36



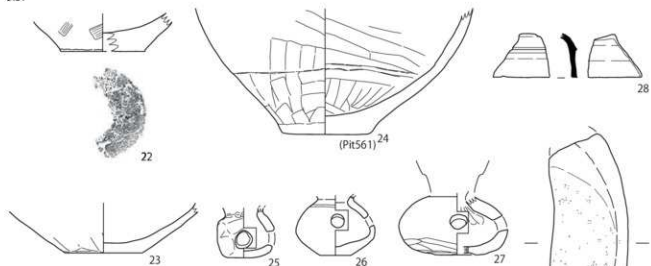
第152図 S I 35 (2)・S I 36 出土遺物

SI37

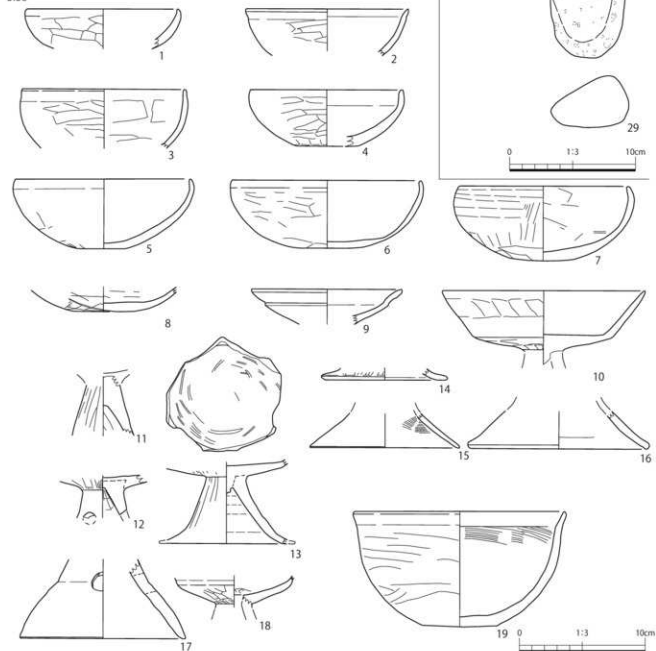


第153图 SI37(1) 出土遗物

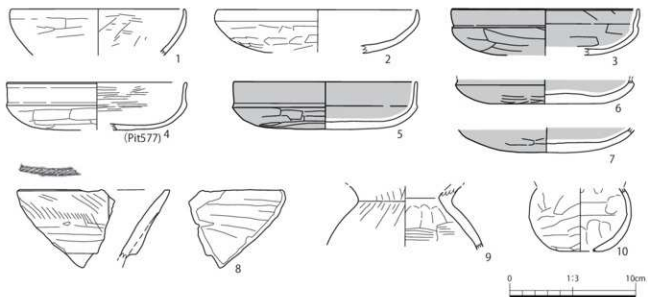
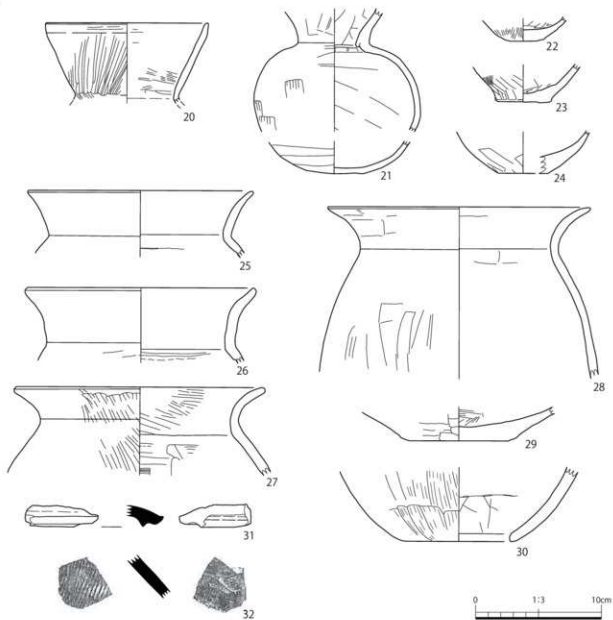
S137



S138

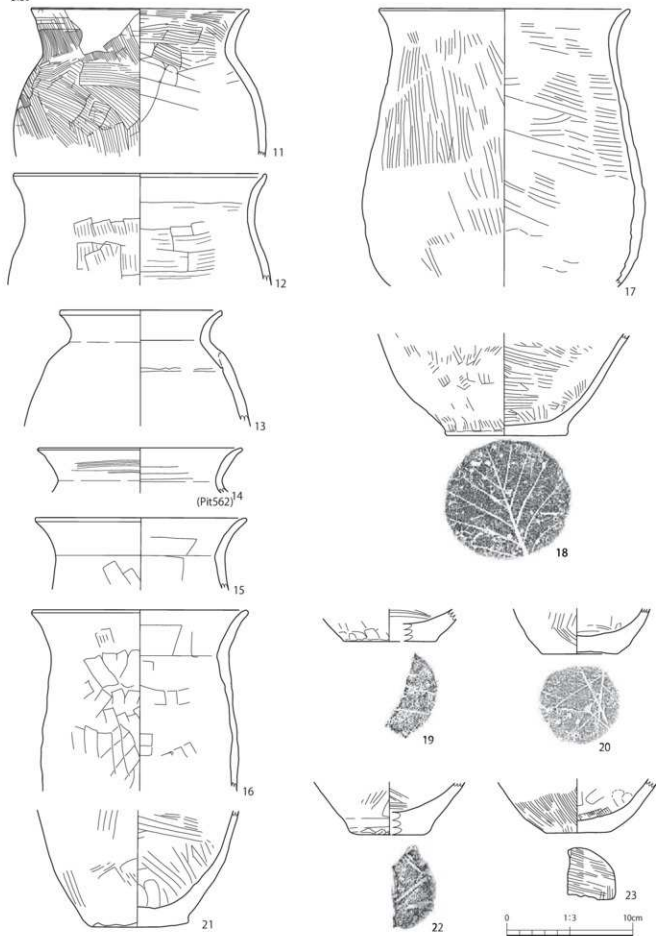


第154図 S137(2)・S138(1)出土遺物

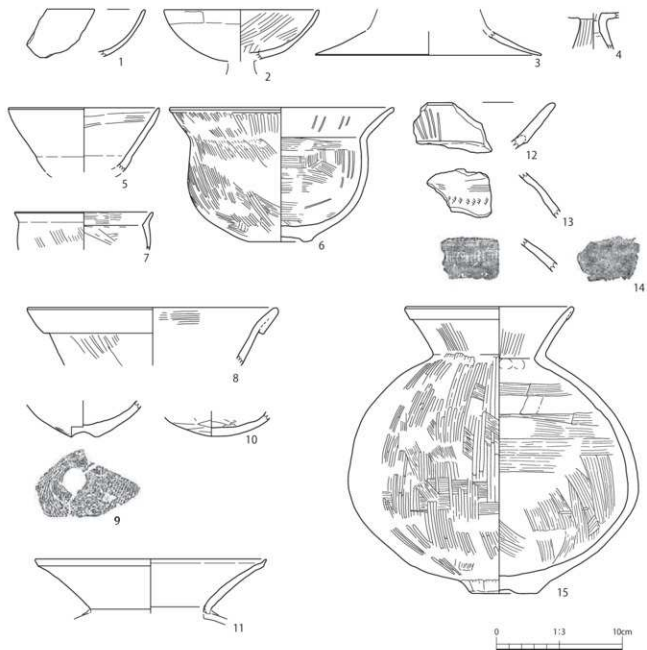
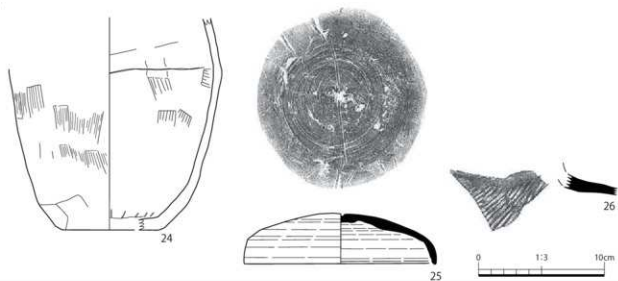


第155图 S138 (2) · S139 (1) 出土遗物



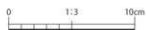
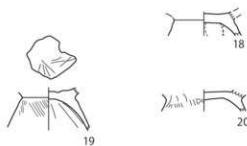
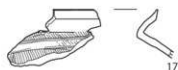
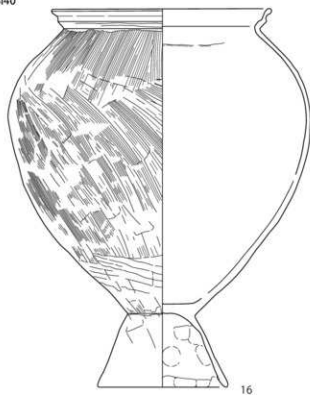


第156图 S139(2)出土遗物

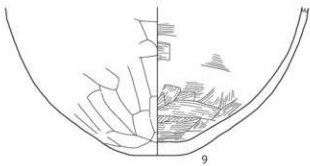
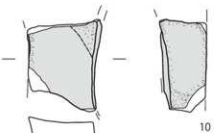
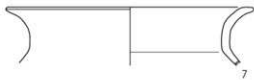
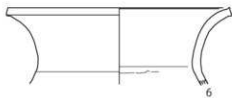
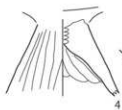
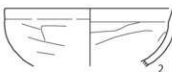
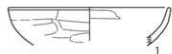


第157图 S139 (3)·S140 (1) 出土遗物

S140

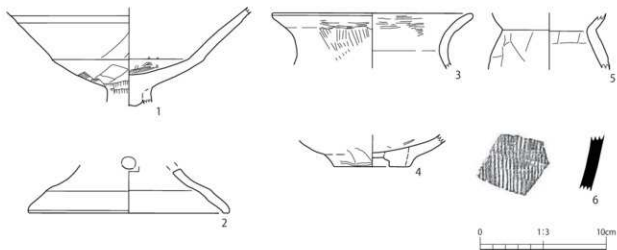


S143

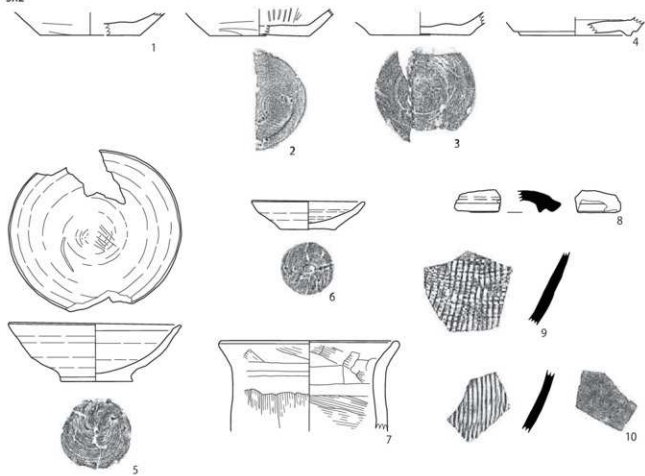


第158图 S140(2)·S143出土遺物

SI44

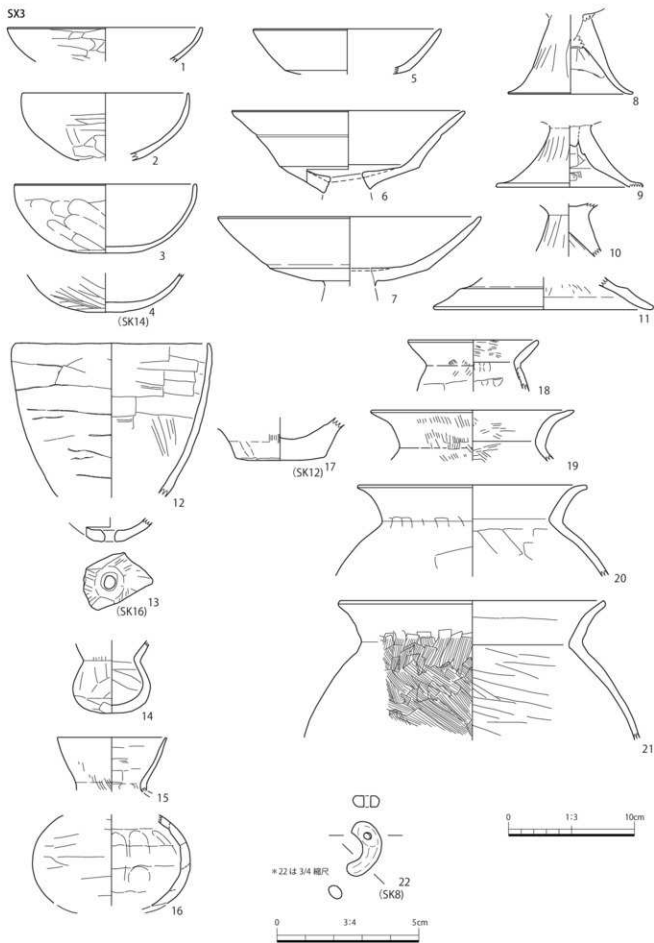


SX2

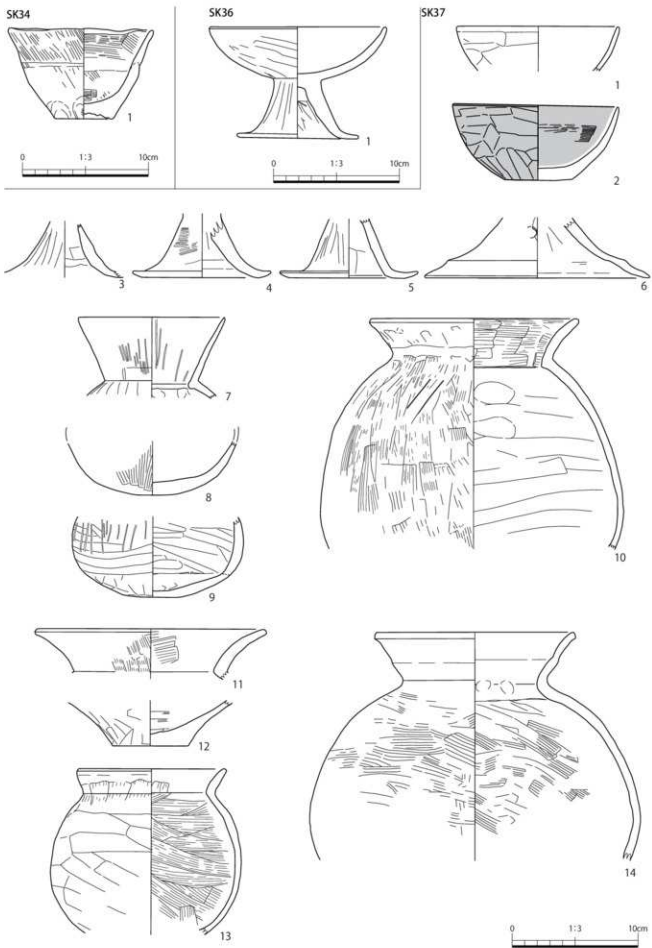


第 159 图 SI44·SX2 出土遗物

SX3

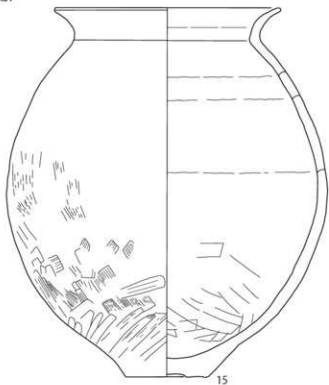


第 160 图 SX3 出土遗物



第 161 图 SK34・SK36・SK37 (1) 出土遺物

SK37



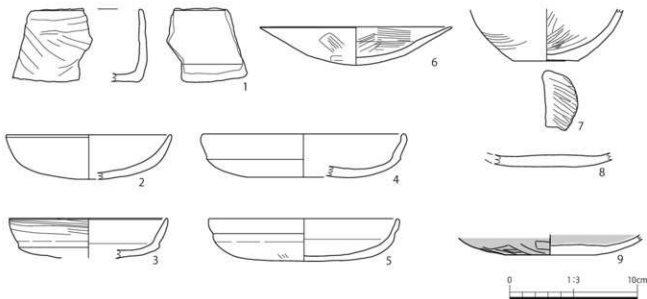
Pit284



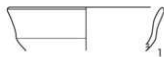
Pit291



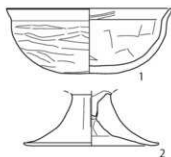
SD1



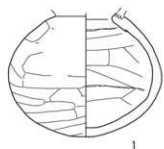
Pit12



Pit61



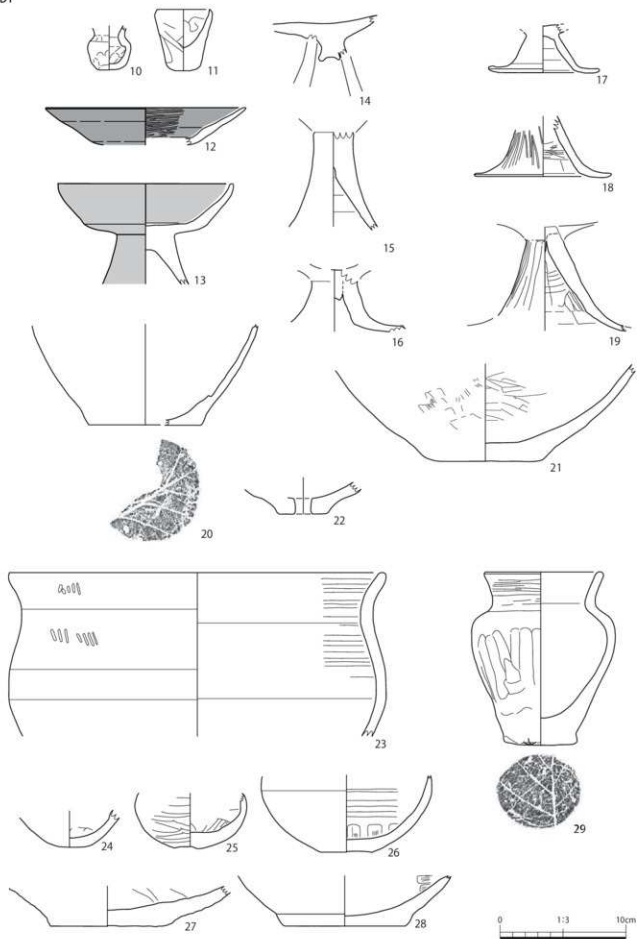
Pit105



Pit292

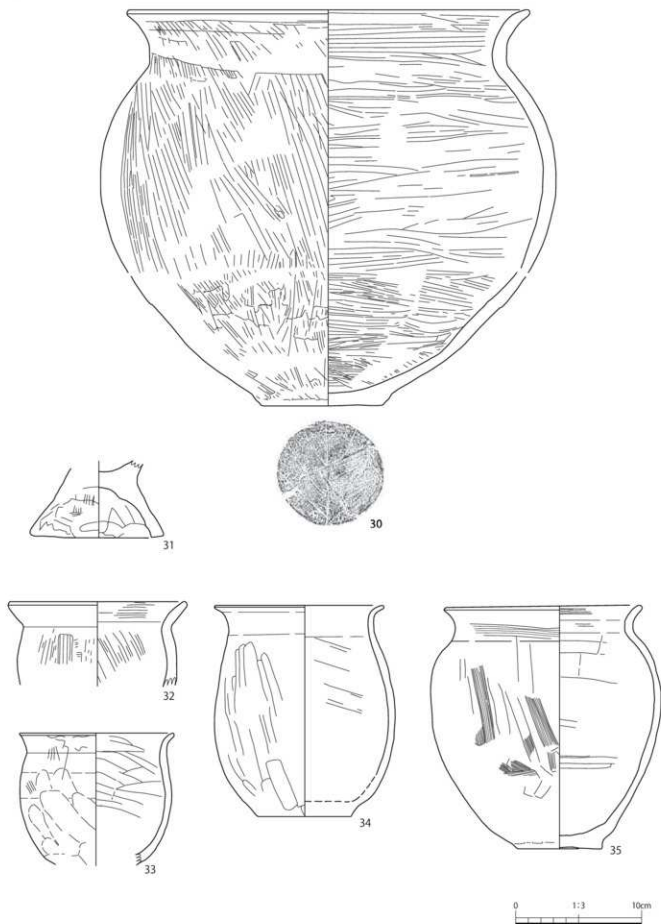


第162図 SK37 (2)・Pit・SD1 (1) 出土遺物



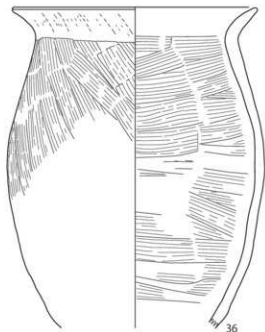
第163圖 SD1 (2) 出土遺物



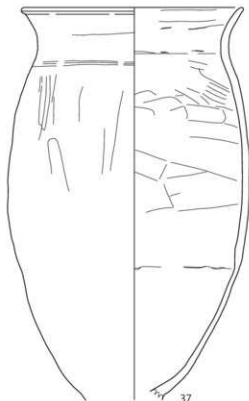


第164図 SD1(3)出土遺物

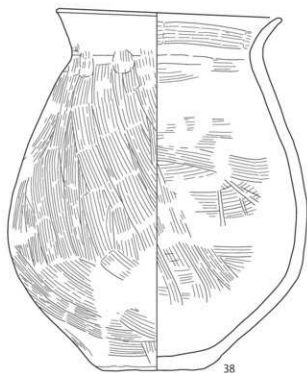
SD1



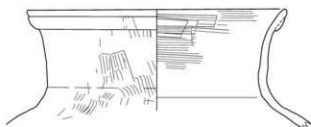
36



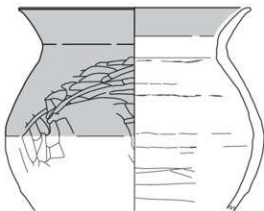
37



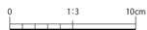
38



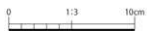
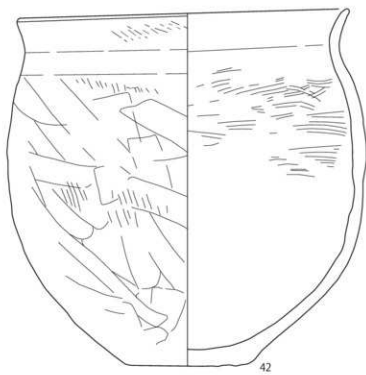
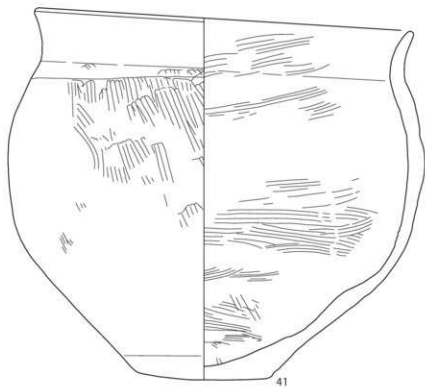
39



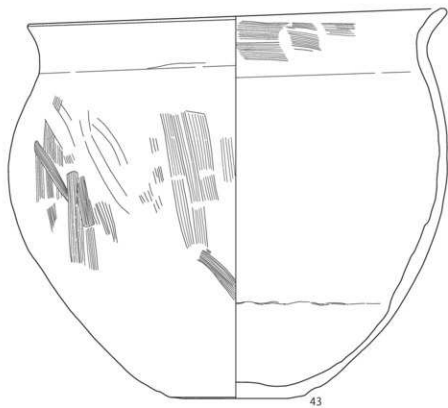
40



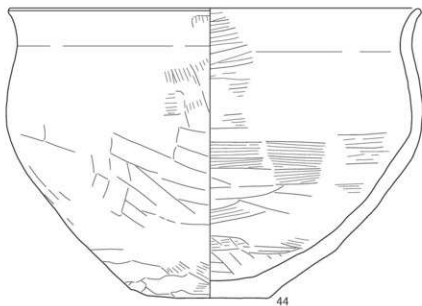
第165図 SD1(4)出土遺物



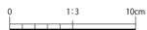
第166図 SD1 (5) 出土遺物



43

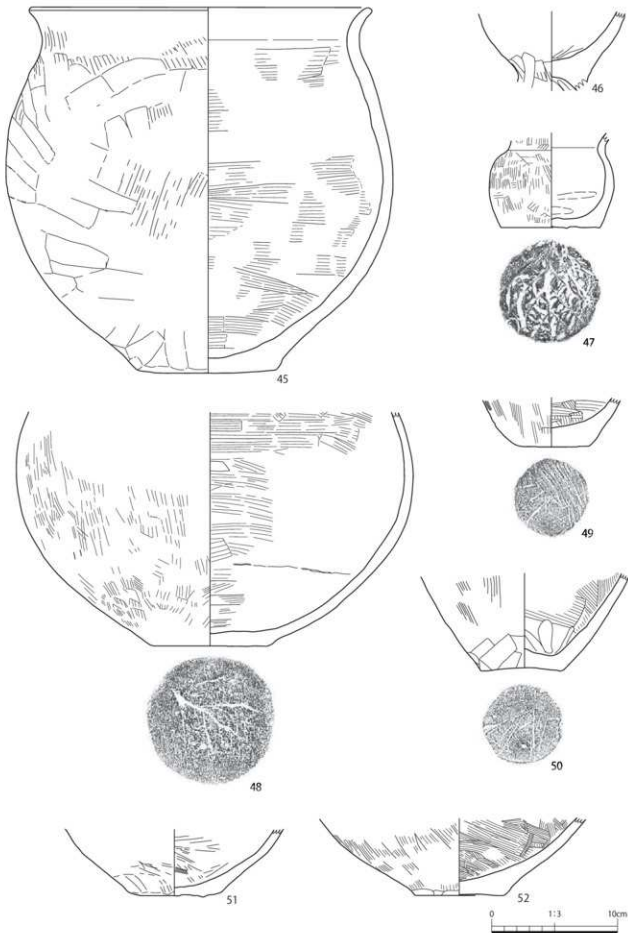


44



第 167 図 SD 1 (6) 出土遺物

SD1

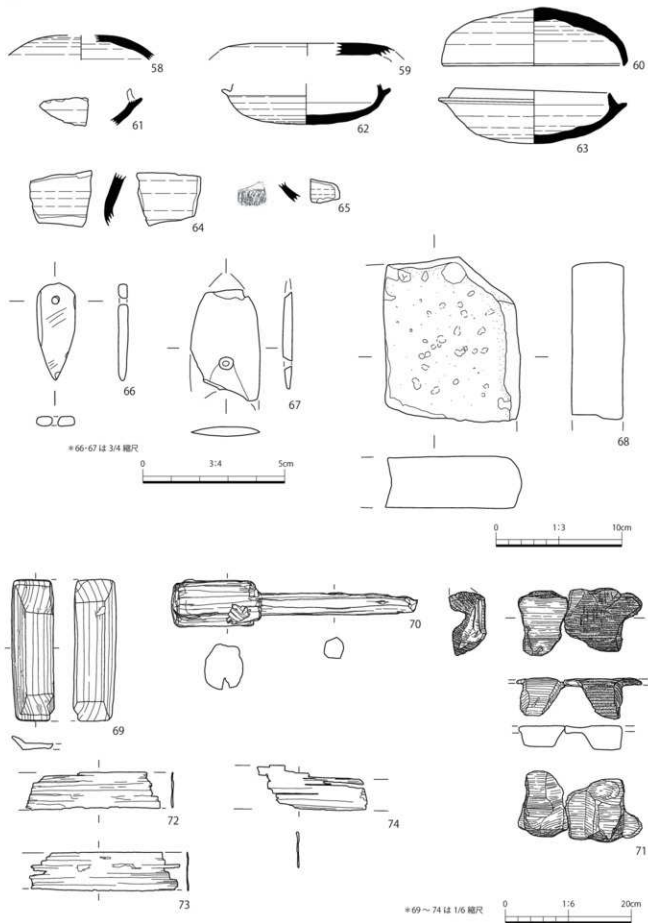


第168図 SD1(7)出土遺物



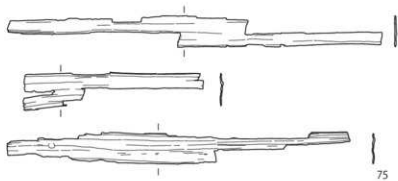
第169图 SD1(8)出土遺物

SD1

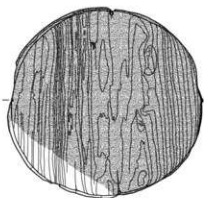


第170図 SD1(9)出土遺物

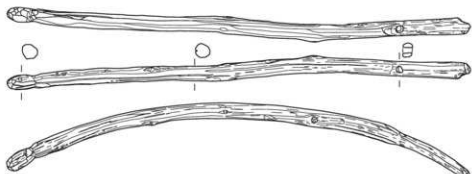
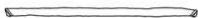
SD1



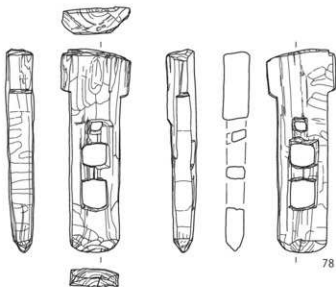
75



76



77



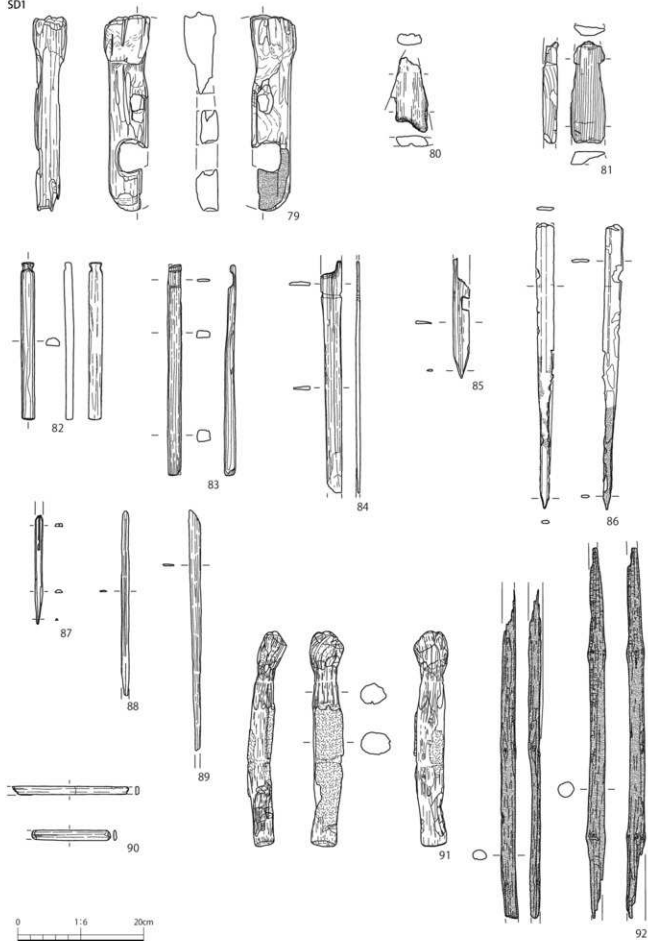
78



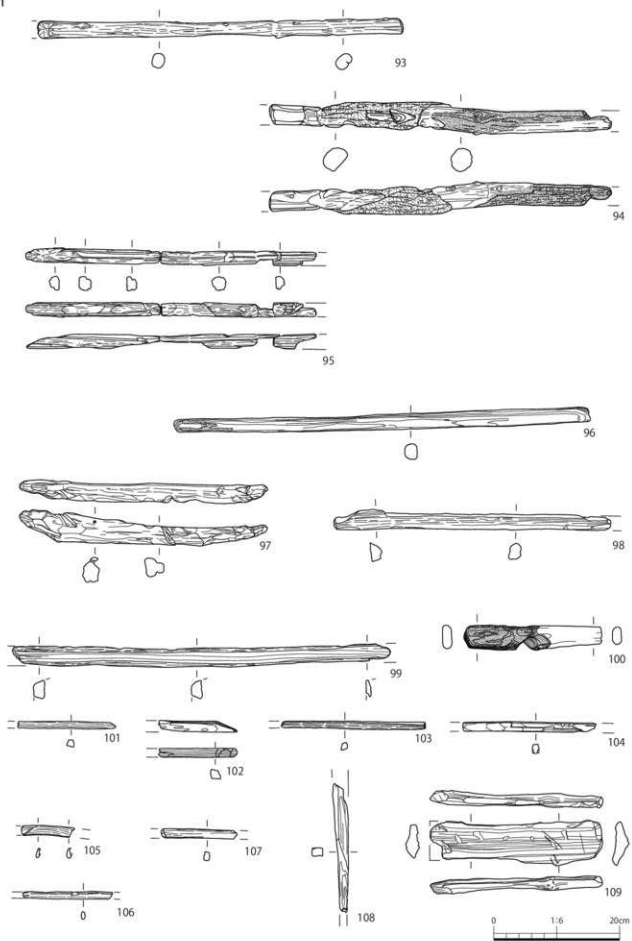
第171図 SD1 (10) 出土遺物



SD1

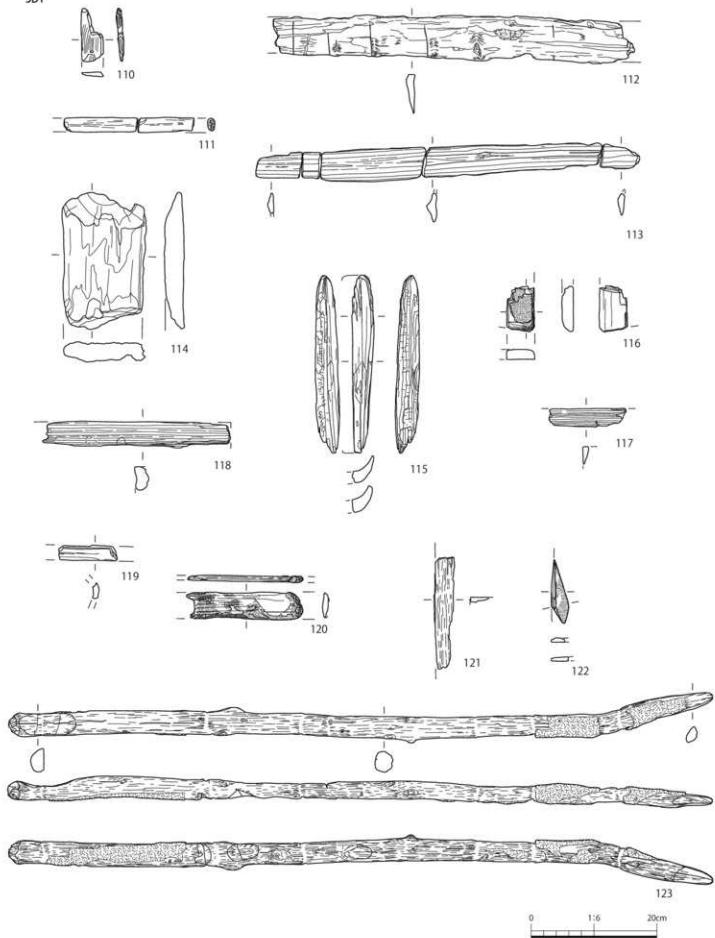


第 172 图 SD 1 (11) 出土遗物



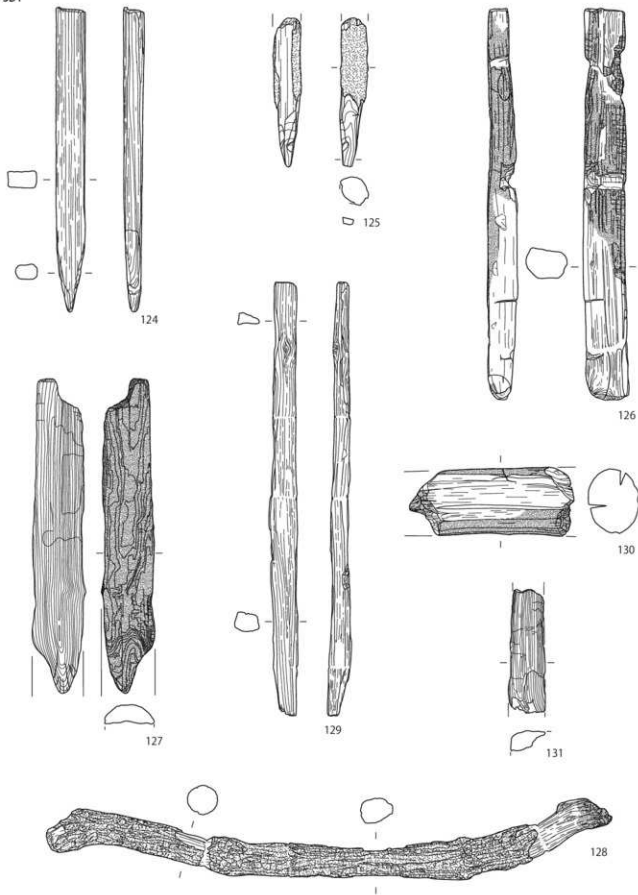
第173図 SD1 (12) 出土遺物

SD1



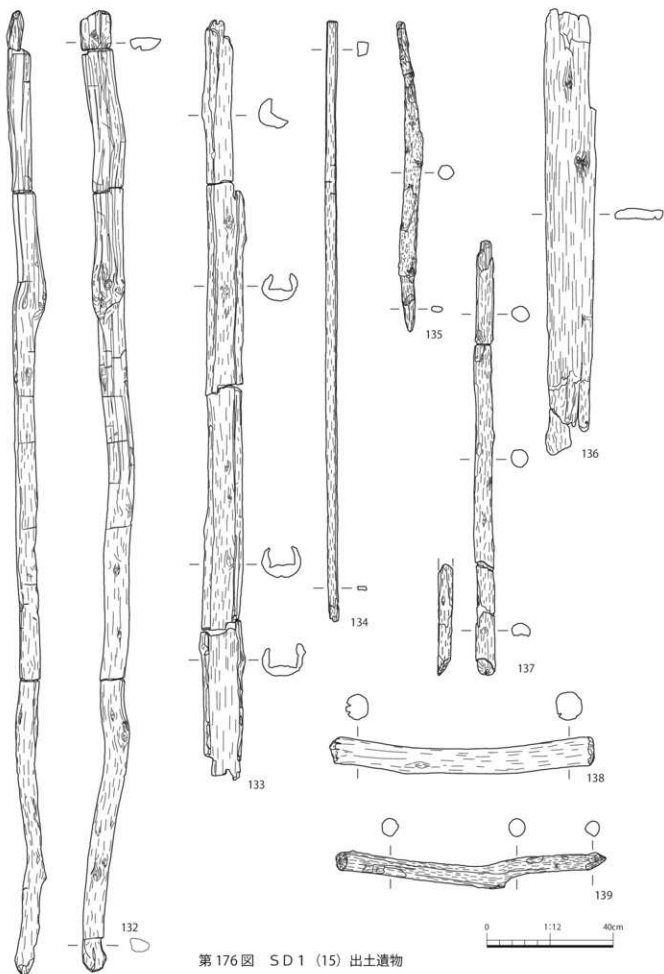
第 174 図 SD 1 (13) 出土遺物

SD1

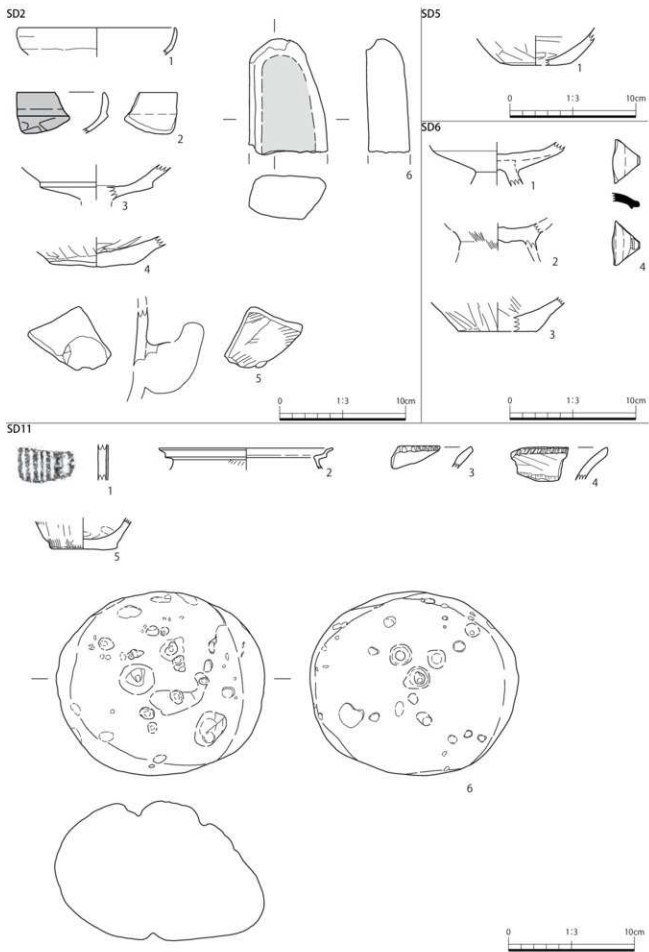


第175図 SD1 (14) 出土遺物

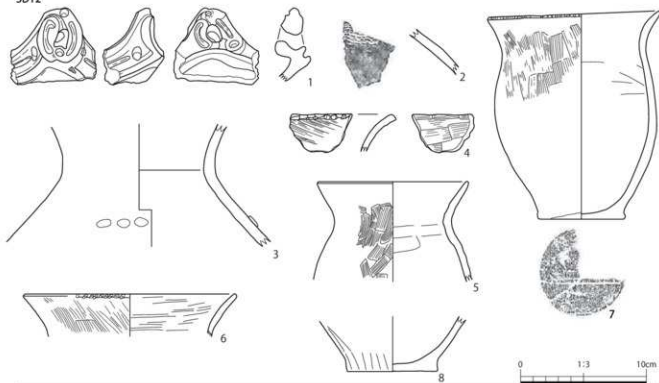
SD1



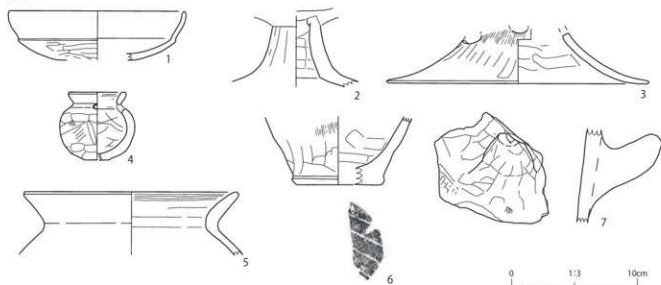
第176图 SD1 (15) 出土遺物



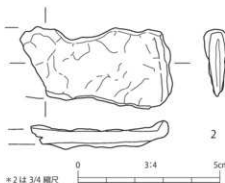
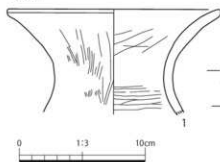
SD12



SD13

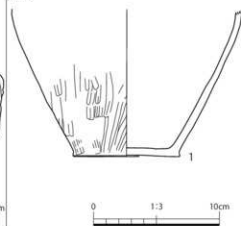


SD14



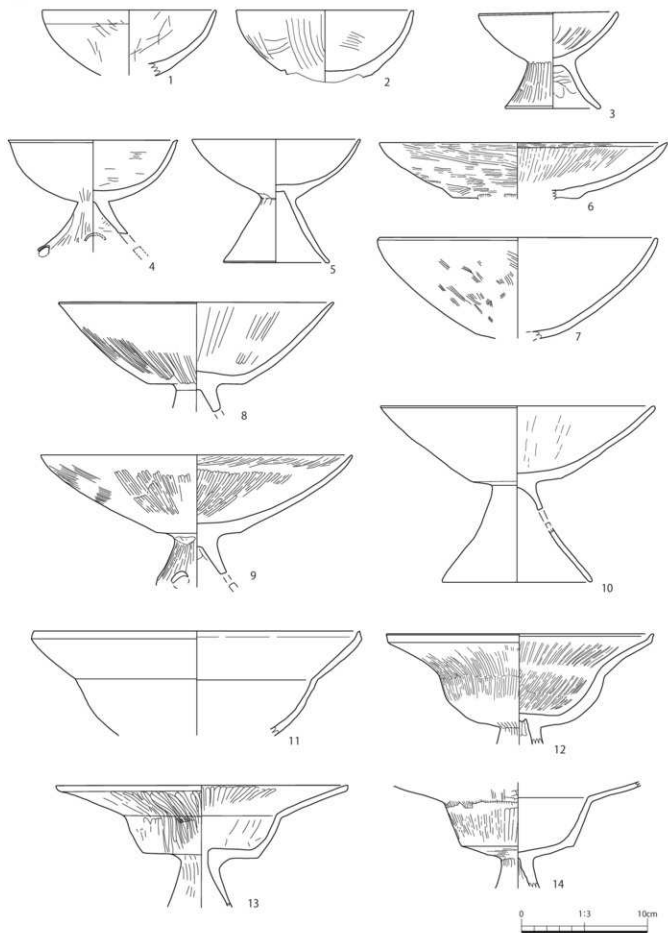
※2は3/4縮尺

SD28



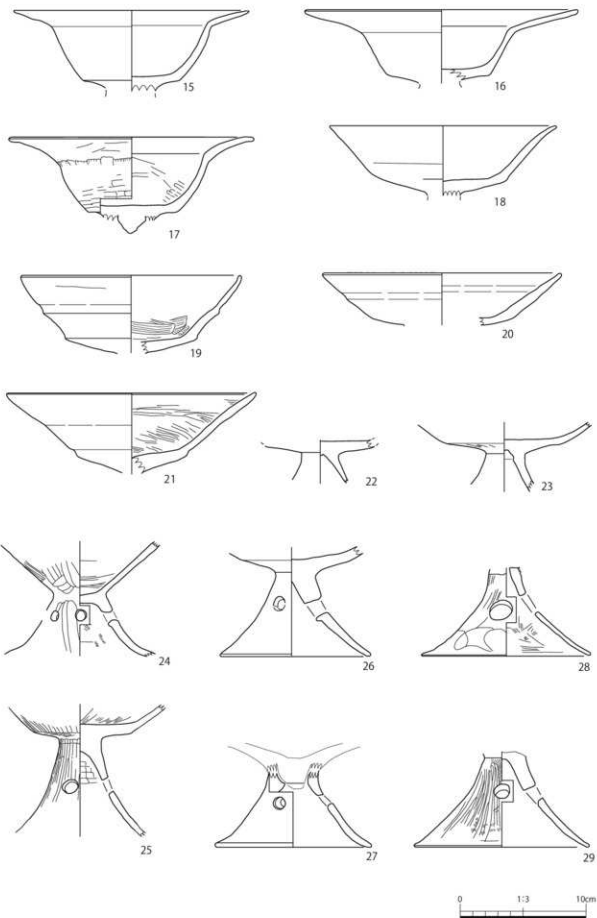
第178図 SD12・SD13・SD14・SD28 出土遺物

SD17



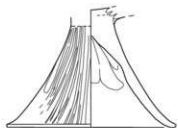
第 179 图 SD17 (1) 出土遺物





第180図 SD17(2)出土遺物

SD17



30



31



32



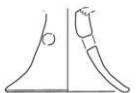
33



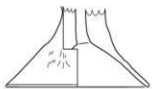
34



35



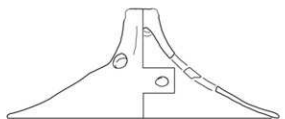
36



37



38



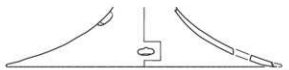
39



42



43



40

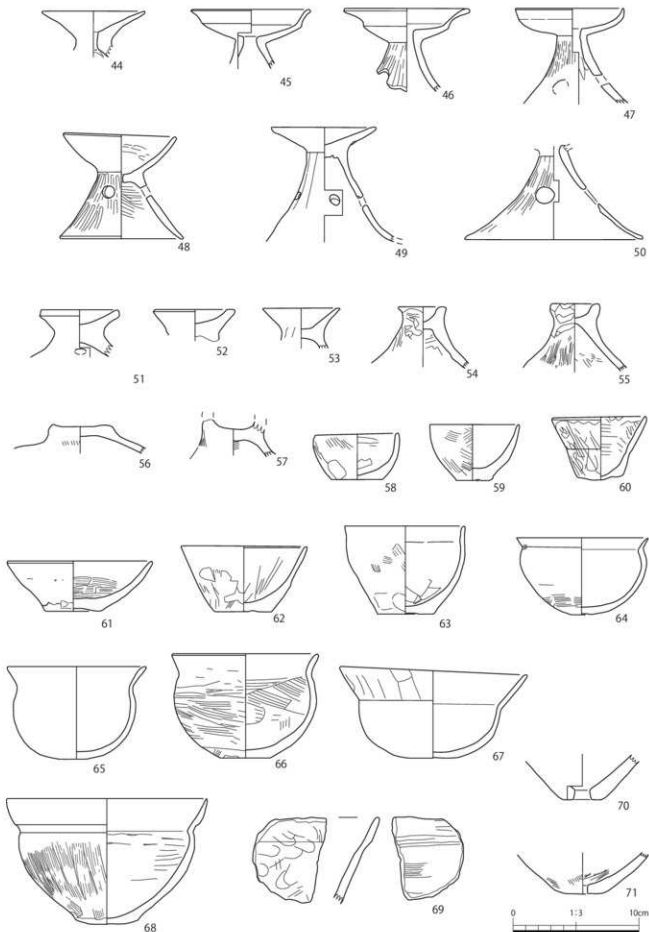


41

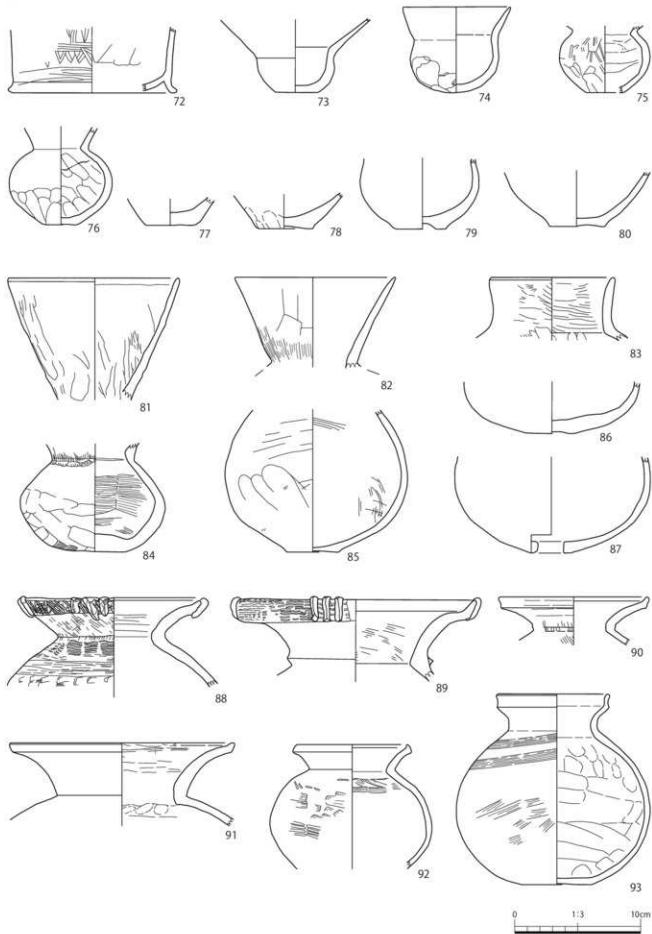


第181图 SD17(3)出土遗物

SD17

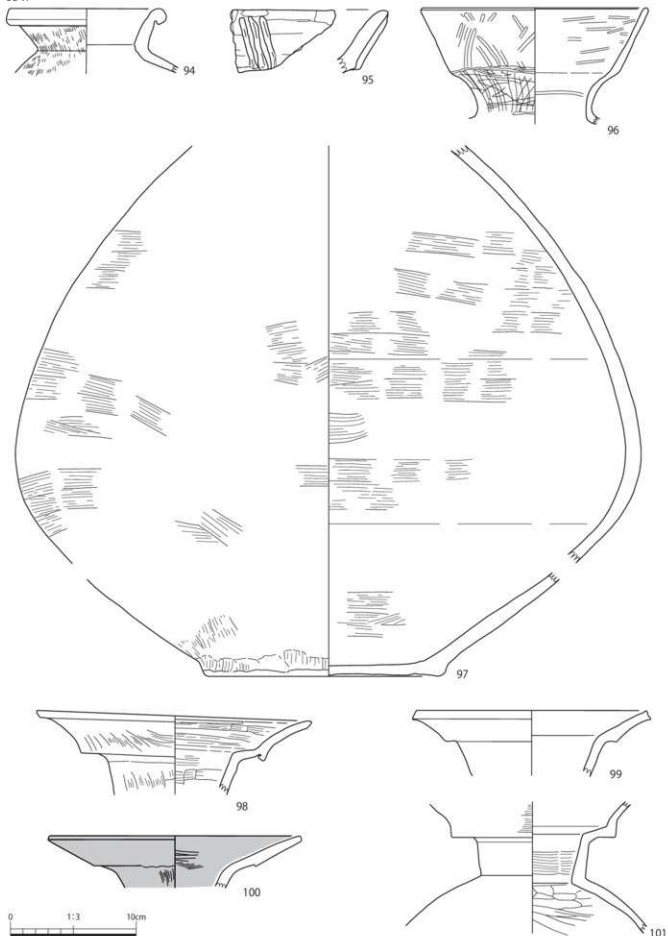


第 182 図 SD17 (4) 出土遺物



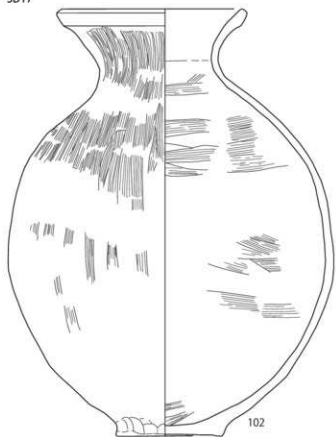
第 183 图 SD17 (5) 出土遺物

SD17

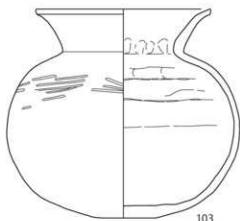


第184図 SD17(6)出土遺物

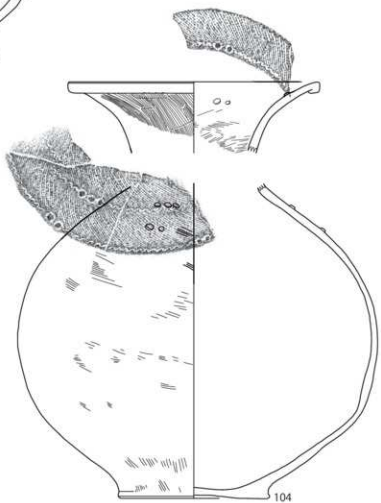
SD17



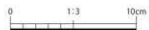
102



103

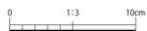
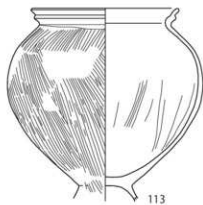
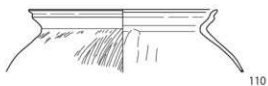
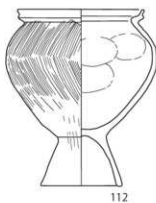
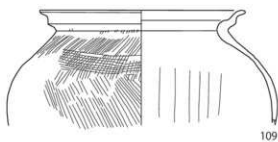
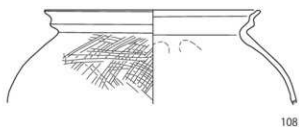
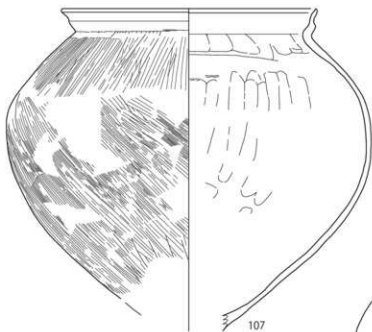
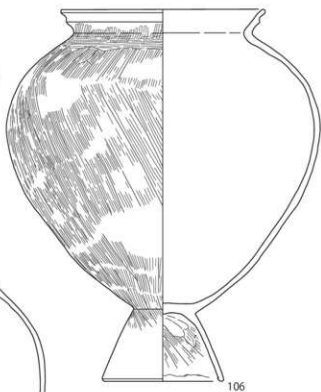


104



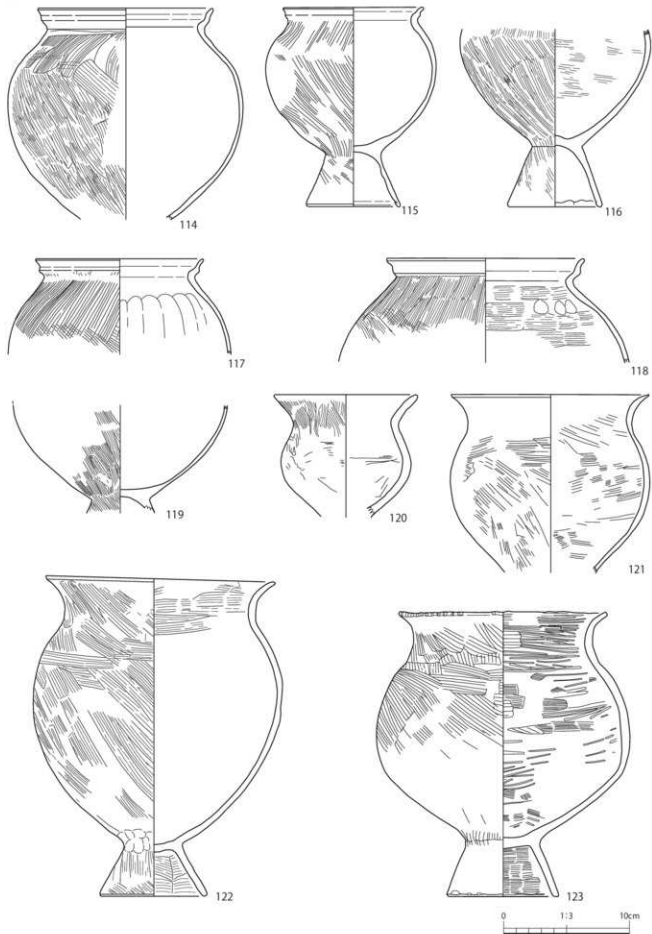
第 185 図 SD17 (7) 出土遺物

SD17



第186图 SD17 (8) 出土遗物

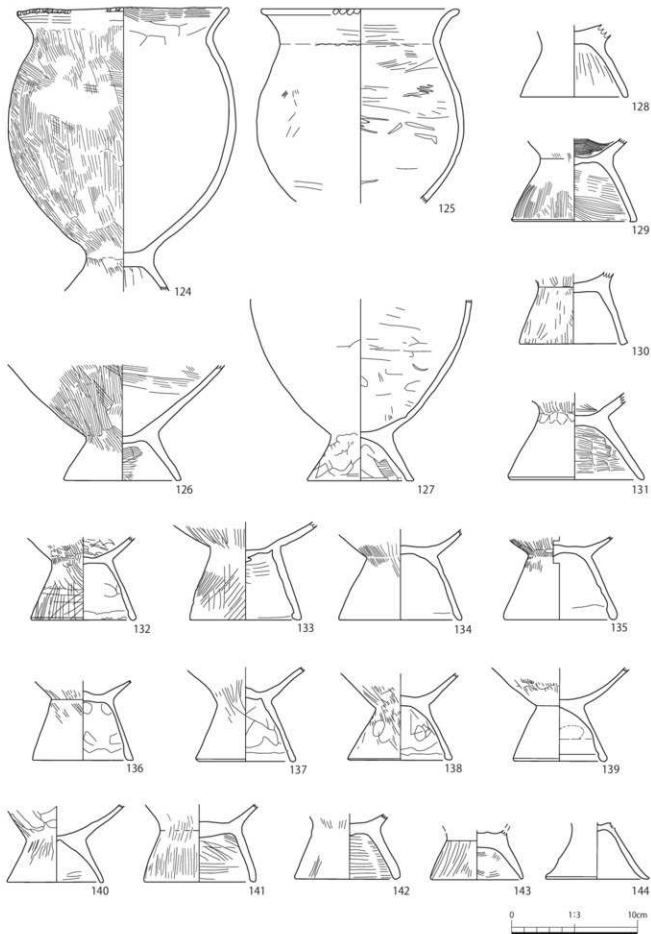
SD17



第 187 图 SD17 (9) 出土遺物

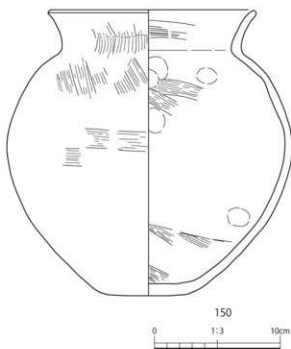
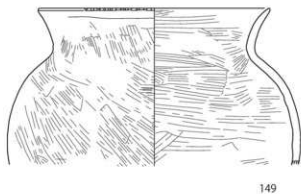
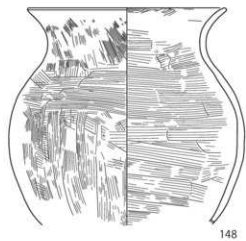
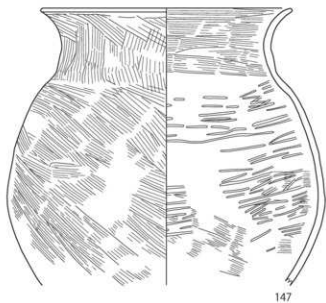
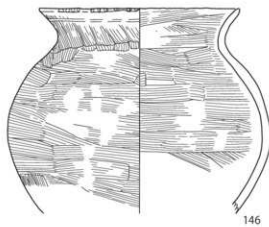
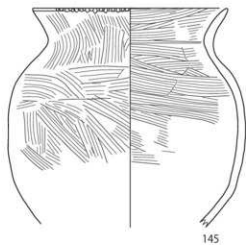


SD17



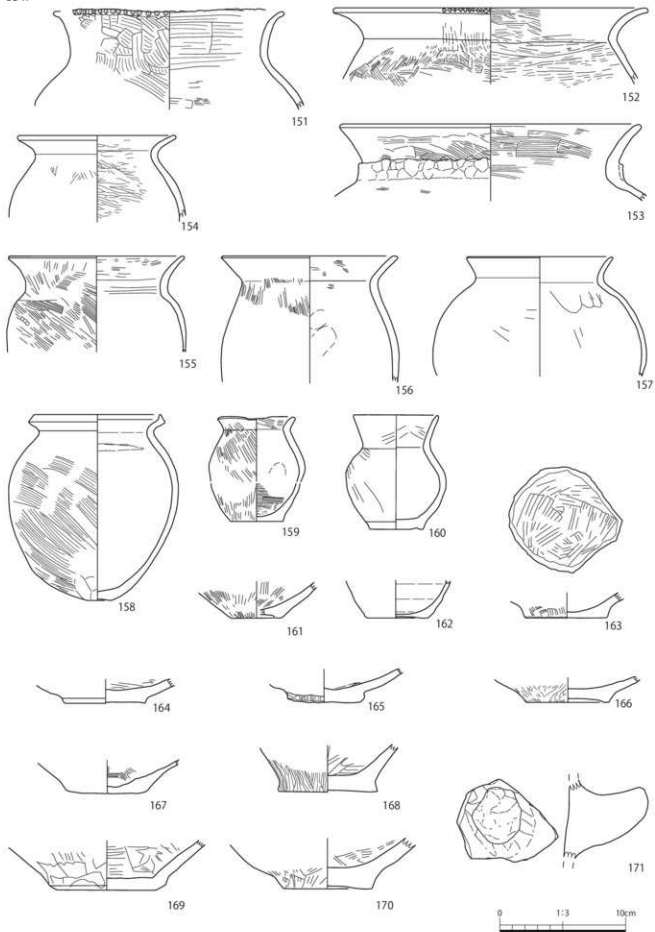
第 188 图 SD17 (10) 出土遺物

SD17

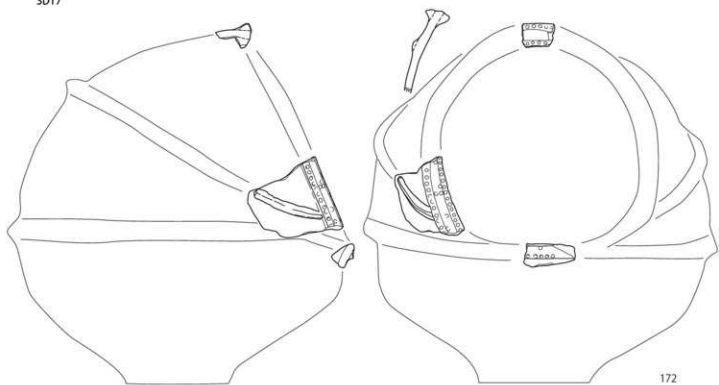


第189図 SD17 (11) 出土遺物

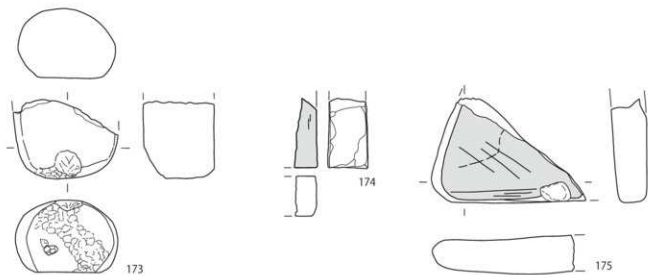
SD17



第 190 図 SD17 (12) 出土遺物



172

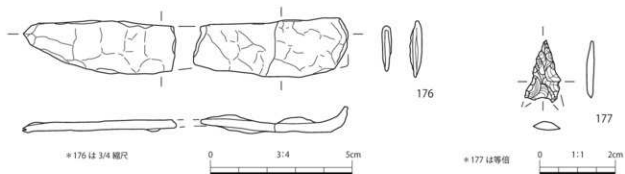


173

174

175

0 1:4 10cm



\*176は3/4縮尺

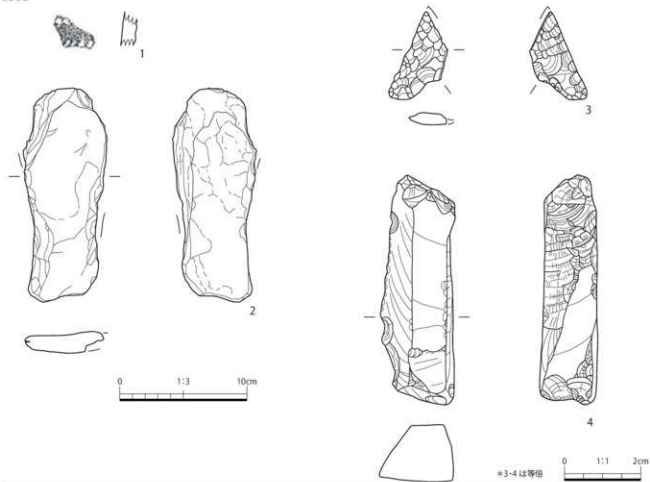
0 3:4 5cm

\*177は等倍

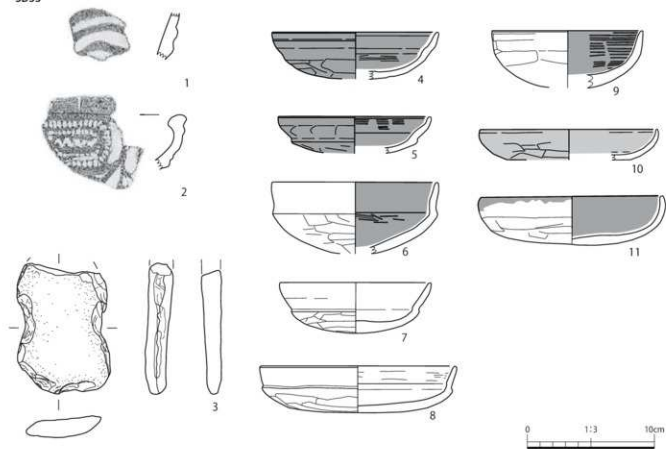
0 1:1 2cm

第191図 SD17 (13) 出土遺物

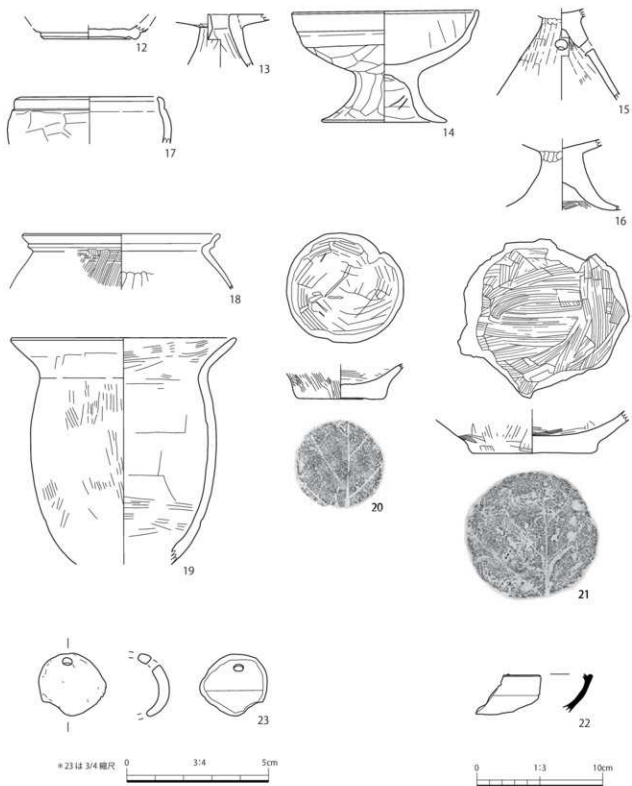
SD32



SD33

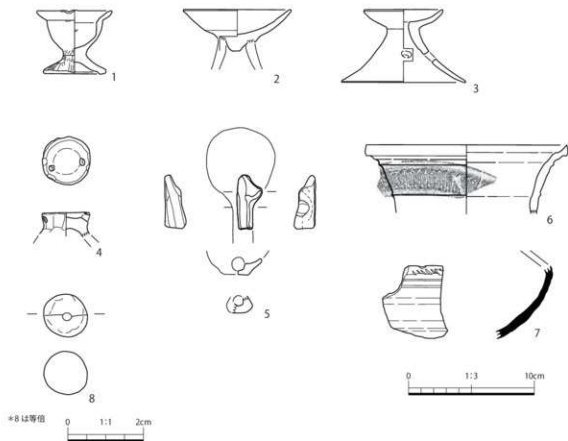


第192図 SD32・SD33 (1) 出土遺物



第 193 図 SD33 (2) 出土遺物

遺構外



第194図 遺構外出土遺物

表1 遺物観察表

図 番号	図名	遺物 番号	種類	認識	口径 (cm)	高さ <深>	部位	色調	構成	胎土	備考
107	S1	1	土師器	杯	12.5	9.7	口打定形	曜子斑柄	良好	細砂粒含む 赤色胎・赤褐色釉	外周部(底面)→中央部 内面→外
107	S1	2	土師器	杯	12.4	8.6	口縁1/2～底面	にじみ模文(S)斑/3	良好	赤褐色胎・白色釉	外周部(口)→中央部 内面→外
107	S1	3	土師器	杯	12.4	2.9	口縁1/2～底面	曜子斑柄/6	良好	細砂粒含む 赤褐色胎・赤褐色釉	外・内面→外
107	S1	4	土師器	鉢	—	<4.1>	口縁小～体部小	外周部(にじみ模文)(S)斑/2 内面・底面(白)斑/1	良好	細砂粒含む 赤色胎・白色胎・赤石 石灰・赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	5	土師器	鉢	—	<4.0>	口縁部小	にじみ模文(S)斑/4	良好	赤褐色胎	外周部(口)→中央部 内面→外
107	S1	6	土師器	鉢	17.0	—	口縁部1/4	にじみ模文(S)斑/4	良好	細砂粒含む 赤色胎・赤褐色胎	外周部(口)→中央部 内面→外
107	S1	7	土師器	高杯	16.6	12.4	口縁1/4～底面1/2	にじみ模文(S)斑/3	良好	赤褐色胎・赤褐色胎	外周部(口)→中央部 内面→外
107	S1	8	土師器	有足杯?	15.0	—	口縁部1/3	曜子斑柄/6	良好	細砂粒含む 赤色胎・赤褐色胎 赤褐色胎・赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	9	土師器	鉢	10.0	—	口縁1/5～体部小	にじみ模文(S)斑/4	良好	赤褐色胎・赤褐色胎 赤褐色胎・赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	10	土師器	壺	—	<6.5>	口縁部小	明曜子斑柄/6	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	11	土師器	壺	13.0	—	口縁部1/8	明曜子斑柄/6	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	12	土師器	壺	12.0	—	口縁2/3～体部	にじみ模文(S)斑/7	良好	赤褐色胎・赤褐色胎 赤褐色胎・赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	13	土師器	壺	14.8	2.9	口縁1/3～底面	にじみ模文(S)斑/4	良好	細砂粒含む 白色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	14	土師器	壺	—	(4.2)	体部～底面1/4	にじみ模文(S)斑/4	良好	細砂粒含む 赤色胎・赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	15	須恵器	高杯?	—	<1.3>	体部小	灰白斑/7	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	16	須恵器	壺	—	<2.9>	体部小	灰白斑/7	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	17	須恵器	壺	—	<2.1>	体部小	灰白斑/7	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
107	S1	18	石製品	碓石?	12.6	2.8	碓石(S)斑/7	—	良好	—	—
108	S2	1	土師器	杯	12.0	—	口縁部小	にじみ模文(S)斑/7	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	2	土師器	杯	—	(7.0)	底面1/4	曜子斑柄/6	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	3	土師器	杯	—	(4.8)	体部小～底面小	にじみ模文(S)斑/4	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	4	土師器	高杯	—	<3.8>	体部1/6	曜子斑柄/6	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	5	土師器	高杯	—	<1.7>	脚部	曜子斑柄/6	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	6	土師器	壺	(2.0)	—	口縁部1/6	にじみ模文(S)斑/4	良好	細砂粒含む 赤色胎・赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	7	土師器	壺	(6.0)	—	口縁部1/3	にじみ模文(S)斑/3	良好	赤褐色胎・赤褐色胎 赤褐色胎・赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	8	土師器	壺	16.3	3.5	口縁1/3～底面	曜子斑柄/6	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	9	土師器	壺	—	<3.6>	口縁部小	にじみ模文(S)斑/4	良好	赤褐色胎	外周部(口)→外 内面→外
108	S2	10	土師器	壺	—	<3.7>	口縁部小	にじみ模文(S)斑/4	良好	細砂粒含む 白色胎	外周部(口)→外 内面→外

8 (数値)は単位なし、<数値>は約値



6 (数量) は毎元値、<数量は>は元値

原 品 番号	区名	品名	種別	設備	口径 (mm)	長さ (mm)	部高 (mm)	部位	色調	形状	胎土	備考
108	52	11	土師器	甕	117.0	<5.8>	—	口縁1/8～体部小	灰黄緑2.0X65.4	良好	底 長石	外周1/3寸 内周1/3寸 2寸 口部部3寸径
108	52	12	土師器	甕	118.2	<7.1>	—	口縁部小	曜石.0766.6	良好	底 長石・金色雲母	外周1/3寸径 内周1/3寸 幅縁直
108	52	13	土師器	甕	20.6	<9.4>	—	口縁～体部	に品・曜石.0681.4	良好	底 長石・金色雲母	外周1/3寸 内周1/3寸 2寸
108	52	14	土師器	甕	—	6.0	<3.0>	底部1/2	に品・黄緑.00767.4	良好	細砂粒含む 赤色胎・長石・金色雲母	外・内周1/3寸径
108	52	15	土師器	甕	—	6.0	<3.0>	体部小～底部小	明赤焼.0185.8	良好	砂粒含む 白色胎	外周1/3寸 内周1/3寸 幅縁直 西周1/3寸 見込部1/3寸径
108	52	16	土師器	台付甕	—	—	<2.7>	体部小～脚部小	曜石.077.8	良好	細砂粒含む 白色胎・透明胎・赤色雲母	外周1/3寸 内周1/3寸 幅縁直.0185.8
109	53	1	土師器	杯	—	—	<2.8>	体部小	底焼.127.2	良好	底	外・内周1/3寸 幅縁直.0185.8
109	53	2	土師器	杯	112.0	<4.5>	—	口縁部1/4	に品・曜石.0367.3	良好	細砂粒含む 赤色胎	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径
109	53	3	土師器	高杯	12.3	<7.0>	—	口縁1/2～脚部	明赤焼.0185.6	良好	細砂粒含む 赤色胎・白色胎	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径 穴3寸所
109	53	4	土師器	高杯	—	(17.4)	<3.2>	脚部	曜石.077.8	良好	底 赤色胎・長石	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 穴3寸所
109	53	5	土師器	高杯	—	—	<1.8>	体部小	曜石.0367.8	良好	底 赤色胎・白色胎	外・内周1/3寸
109	53	6	土師器	高杯	—	—	<4.3>	体部小	明赤焼.2.0365.8	良好	底 金色雲母	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸
109	53	7	土師器	高杯	—	—	<5.2>	脚部小	明赤焼.2.0365.8	良好	底 赤色胎・白色胎・金色雲母	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径
109	53	8	土師器	高杯	—	(11.7)	<1.8>	脚部	曜石.0366.8	良好	底 長石	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径
109	53	9	土師器	鉢	—	—	<4.8>	口縁部小	曜石.0366.8	良好	細砂粒含む 赤色胎・白色胎・石黄	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径
109	53	10	土師器	有口鉢	—	(4.0)	<3.0>	底部	に品・曜石.0365.4	良好	細砂粒含む 赤色胎・長石	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径
109	53	11	土師器	甕	—	—	<4.5>	体部1/4	に品・曜石.0367.4	良好	底 赤色胎	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径
109	53	12	土師器	小甕?	—	3.8	<1.3>	底部	外周1/3寸.0367.2 内周1/3寸.曜石.0365.4	良好	細砂粒含む 赤色胎・長石・石黄	外・内周1/3寸
109	53	13	土師器	甕	(12.8)	—	<3.1>	口縁1/6～体部	に品・曜石.0365.4	良好	細砂粒含む 赤色胎・長石・金色雲母	外周1/3寸 幅縁直 内周1/3寸
109	53	14	土師器	甕	—	—	<3.4>	口縁部小	底焼.02388.4～曜石.068.6	良好	細砂粒含む 白色胎・赤色雲母	外・内周1/3寸
109	53	15	土師器	甕	—	(7.0)	<3.5>	体部小～底部1/4	曜石.0366.6	良好	細砂粒含む 赤色胎・白色胎	外周1/3寸 内周1/3寸 2寸 底部1/3寸径
109	53	16	土師器	甕	—	7.6	<3.0>	体部小～底部	曜石.0366.6	良好	細砂粒含む 赤色胎・白色胎・長石	外周1/3寸 2寸 内周1/3寸 幅縁直.0185.8
109	53	17	土師器	甕	—	6.0	<3.2>	底部	曜石.0366.8	良好	底	外・内周1/3寸
109	53	18	土師器	甕	—	—	<3.7>	体部小	曜石.0366.8	良好	底 長石	外周1/3寸 幅縁直.0185.8 内周1/3寸
109	53	19	土師器	高杯	18.0	—	<6.2>	口縁～体部	曜石.0367.8	良好	底 赤色胎・長石	外・内周1/3寸 幅縁直
109	53	20	土師器	高杯	—	9.0	<4.8>	脚部.5/4	曜石.0366.8	良好	底 赤色胎・白色胎	外周1/3寸 2寸径 内周1/3寸 2寸径 底部.0185.8 内周.0185.8
109	53	21	土師器	甕	8.7	—	<4.0>	口縁～脚部小	に品・黄緑.00767.3	良好	底 赤色胎	外・内周1/3寸
109	53	22	土師器	台付甕	—	(8.3)	<2.9>	脚部	曜石.0366.8	良好	底 長石	外周1/3寸 内周1/3寸

表 1 (数値) は数値、< 数値は> 範囲

区分	区名	種別	種目	規格	口径	底径	高さ	部位	色調	構成	粘土
109	S3	23	砂製品	管玉	1.85	0.5	0.5	ナリ~灰色:5YR6/1			黒色<10Mg> 砂質 褐色
110	S4	1	土磁器	高坏	—	—	<1.1>	体部1/2	に品:4M5YR7/4	良好	赤色赤~白色赤:石黄
110	S4	2	土磁器	高坏	0.46	—	<4.5>	口縁1/8~体部1/5	に品:4M5YR6/4	良好	赤色赤~白色赤:石黄
110	S4	3	土磁器	高坏	—	—	<6.4>	胴部	褐色30B/6	良好	細砂状含む 赤色赤~長石:石黄
110	S4	4	土磁器	高坏	—	(11.0)	<1.45>	胴部	褐色15R/7.8	良好	赤色赤~白色赤:石黄
110	S4	5	土磁器	器台2	0.10	—	<1.6>	口縁1/2~体部	褐色30B/6	良好	赤色赤~長石
110	S4	6	土磁器	器	—	4.0	<5.7>	体部~底面	褐色30B/6	良好	細砂状含む 赤色赤~白色赤:赤色黒点
110	S4	7	土磁器	器	—	<4.0>	<2.7>	底面1/4	褐色30B/6	良好	細砂状含む 赤色赤
110	S4	8	土磁器	器	—	3.4	<6.9>	体部~底面	灰褐色10B/5.2	良好	赤色赤~白色赤:石黄
110	S4	9	土磁器	器	0.60	—	<6.4>	口縁1/8~体部小	灰褐色10B/5.2	良好	細砂状含む 赤色赤~白色赤:長石:石黄
110	S4	10	土磁器	器	—	9.0	<2.5>	体部~底面1/8	明褐色10B/5.6	良好	赤色赤~白色赤:石黄
110	S4	11	土磁器	器	—	8.8	<2.7>	底面1/5	に品:黄褐色10YR6/4	良好	赤色赤~白色赤:石黄
110	S5	1	土磁器	杯	—	—	<4.0>	口縁小~体部小	に品:黄褐色10YR6/3	良好	赤色赤~白色赤:赤色黒点
110	S5	2	土磁器	杯	0.340	—	<3.3>	口縁部1/4	に品:4M5YR6/3	良好	赤色赤~白色赤
110	S5	3	土磁器	杯	0.8.0	—	<2.9>	口縁1/2~体部小	に品:4M5YR5.7~灰褐色	良好	赤色赤~白色赤
110	S5	4	土磁器	杯	0.25.0	—	<3.4>	口縁1/2~体部1/3	褐色30B/8	良好	赤色赤~白色赤
110	S5	5	土磁器	杯	0.6.0	—	3.8	口縁~底面1/2	褐色30B/8	良好	細砂状含む 赤色赤~長石
110	S5	6	土磁器	杯	0.4.0	—	<5.5>	口縁部1/4	褐色30B/8	良好	赤色赤
110	S5	7	土磁器	杯	0.2.0	—	<5.5>	口縁1/2~体部1/2	褐色30B/8	良好	赤色赤
110	S5	8	土磁器	杯	0.6.0	0.0	6.0	口縁1/2~底面	に品:黄褐色10YR7/4	良好	赤色赤~長石
110	S5	9	土磁器	杯	0.1.6.0	3.0	4.7	口縁1/2~底面	に品:4M5YR6/4	良好	赤色赤
110	S5	10	土磁器	杯	12.4	—	4.4	口縁1/2~底面	に品:4M5YR6/4	良好	赤色赤
110	S5	11	土磁器	杯	12.2	4.2	5.5	底面	に品:4M5YR7/4	良好	細砂状含む 赤色赤~白色赤:赤色黒点
110	S5	12	土磁器	杯	12.9	灰褐色	3.4	底面	褐色30B/8	良好	赤色赤~白色赤
110	S5	13	土磁器	杯	0.34.0	<4.0>	<5.7>	口縁1/2~底面1/2	褐色30B/8	良好	赤色赤~長石
110	S5	14	土磁器	杯	0.4.0	—	<4.6>	口縁1/3~底面	褐色30B/6	良好	細砂状含む 赤色赤~長石
110	S5	15	土磁器	杯	0.6.0	6.7	3.5	口縁1/3~底面	褐色30B/6	良好	細砂状含む 赤色赤~長石

※(数値)は単位元、<数値>は>既存値

原 形 番号	区名	種別	設備	口径 (mm)	水深 (mm)	最高 水深 (mm)	部位	色調	状況	粘土	備考
110	S5 17	土砂器	杯	14.0	5.9	6.7	口縁1/3~底面	明赤褐色R5/8	良好	赤褐色/白色配	外面口縁部分へへへへ 内面1/2へ 底面黄赤
110	S5 18	土砂器	杯	11.0	<4.3>	<4.3>	口縁1/4~底面1/2	明赤褐色R5/8	良好	赤褐色/赤石	外面1/3へへへへ 内面1/2へ
111	S5 19	土砂器	杯	—	4.3	<1.6>	体部小~体部1/2	明赤褐色R5/8	良好	赤褐色/白色配	外面へへへへ 内面1/2へ
111	S5 20	土砂器	杯	—	4.2	<1.7>	底面	に赤・黄褐色R6/4	良好	赤褐色/赤石・赤色雲母	外面1/2へ 内面1/3へ 全面赤赤
111	S5 21	土砂器	杯	—	底面	<3.5>	体部~底面	外面に赤・黄褐色R7/2 内面:褐色R1/1	良好	赤褐色/褐色配/白色配	外面へへへへ 内面1/2へ 底面へへへへ黄赤
111	S5 22	土砂器	高杯? 身?	11.0	—	<2.9>	口縁小~体部	に赤・褐色R6/4	良好	赤褐色	外面へへへへ 内面1/2へ
111	S5 24	土砂器	高杯	11.0	—	<4.4>	口縁小~体部小	褐色R6/8	良好	赤褐色/白色配	外面へへへへ 内面1/2へ
111	S5 25	土砂器	高杯	11.0	—	<4.8>	口縁1/4~体部1/4	褐色R6/8	良好	赤褐色/赤石	外面1/2へへへへ 内面1/2へ(注4)黄赤黄赤で不明瞭)
111	S5 26	土砂器	高杯	20.0	—	<6.0>	口縁小~体部小	明褐色R5/6	良好	赤褐色/白色配	外・内面1/2へへへ
111	S5 27	土砂器	高杯	17.0	—	<5.9>	口縁1/5~体部	外面:褐色R7/2/R8/3 内面:褐色R7/6	良好	赤褐色	外面へへへへ 内面へへへへへ
111	S5 28	土砂器	高杯	—	—	<6.2>	体部1/3	或黄褐色R8/6	良好	赤褐色	外面へへへへ 内面1/2へ
111	S5 29	土砂器	高杯? 身?	13.0	—	<3.3>	口縁1/2~体部1/2	に赤・黄褐色R7/2	良好	赤褐色/赤石	外・内面1/2へへへ 脚部は赤・赤石
111	S5 30	土砂器	高杯	—	11.2	<3.8>	脚部	に赤・黄褐色R7/3	良好	赤褐色	外面へへへへ 内面1/2へへへ
111	S5 31	土砂器	高杯	—	10.0	<5.1>	脚部	褐色R6/8	良好	赤褐色	外面1/2へへへへ 内面1/2へ
111	S5 32	土砂器	高杯	—	—	<9.1>	脚部	褐色R7/6	良好	赤褐色	外面1/2へへへへ 内面1/2へ
111	S5 33	土砂器	鉢	10.0	—	<5.9>	口縁1/4~体部1/4	外面:褐色R6/8 内面:褐色R7/2	良好	赤褐色	外面へへへへ 内面1/2へ 全面赤赤で不明瞭
111	S5 34	土砂器	鉢	13.7	—	<6.4>	口縁1/4~体部1/4	に赤・褐色R6/4	良好	赤褐色	外面上半分へへへへ 下半分へへへ 内面1/2へ 5(付着)
111	S5 35	土砂器	甕	—	—	<3.8>	口縁部小	に赤・褐色R7/4	良好	赤褐色/赤石・赤色雲母	外面1/2へへへへ 内面1/2へ
111	S5 36	土砂器	甕	—	—	<4.7>	口縁部小	に赤・褐色R8/4	良好	赤褐色/赤石・赤色雲母	外・内面1/2へへ
111	S5 37	土砂器	甕	11.0	—	<4.65>	口縁部1/8	褐色R8/6	良好	赤石	外・内面1/2へへ
111	S5 38	土砂器	甕	12.0	—	<3.6>	口縁部小	に赤・赤褐色R7/4	良好	赤褐色/白色配	外面1/2へへへへ 内面1/2へへ
111	S5 39	土砂器	甕	11.0	—	<3.7>	口縁部小	に赤・褐色R7/4	良好	赤褐色/白色配	外面1/2へへへ 内面1/2へ
111	S5 40	土砂器	甕	17.0	—	<7.2>	口縁1/5~体部	褐色R7/8	良好	赤石・赤色雲母	外・内面1/2へへ
111	S5 41	土砂器	甕	12.0	—	<6.55>	口縁部1/5	明赤褐色R5/6	良好	赤色雲母	外・内面1/2へ
112	S5 42	土砂器	甕	—	4.4	<2.7>	体部~底面	に赤・褐色R8/4	良好	赤褐色/赤石・赤色雲母	外面1/2へへへ 内面1/2へ 外・内面赤赤
112	S5 43	土砂器	甕	—	6.0	<3.1>	体部~底面1/4	褐色R8/4	良好	赤石・赤色雲母	外・内面1/2へ
112	S5 44	土砂器	甕	—	3.0	<3.2>	体部小~底面	赤褐色R8/6	良好	赤褐色/白色配	外面1/2へへへへ 内面1/2へ

図番	図名	図号	種類	仕様	口径 (mm)	長さ (mm)	高さ (mm)	部位	色調	組成	備考
112	S5	45	土師器	甕	—	4.8	<2.2>	胴口内面1/4	黒2.5GY6	良好	赤褐色・白色配 外面1/21/2 → 内面1/2
112	S5	46	土師器	甕	—	6.0	<3.1>	胴部小～胴部1/2	黒2.5GY6.6	良好	細砂粒含む・白色配・赤色黒点 外面1/21/2 → 内面1/21/2 → 底面1/2外2/3
112	S5	47	土師器	甕	—	10.0	<4.0>	口縁～胴部	黒2.5GY6.6 内面・黒2.5GY6.6	良好	赤・赤色黒点 外・内面1/21/2
112	S5	48	土師器	甕	—	2.5	<3.0>	胴部小～胴部3/4	赤黒2.5GY6.6	良好	赤褐色・白色配 外面1/21/2 → 内面1/21/2
112	S5	49	土師器	甕	—	—	<3.5>	把手	黒2.5GY4	良好	赤・赤色黒点 外・内面1/21/2
112	S5	50	土師器	甕	—	—	<3.5>	把非	二色・黒褐色1GY7/3	良好	赤褐色・長石 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2 → 脚1/2
112	S5	51	土師器	甕	—	—	<4.4>	胴部小	赤黒2.5GY7/4 内面・黒2.5GY7/4	良好	細砂粒含む・赤褐色・白色配・赤色黒点 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2 → 脚1/2
112	S5	52	土師器	甕	—	—	<6.7>	胴部小	二色・黒褐色1GY7/3	良好	赤褐色・白色配 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2
112	S5	53	土師器	有孔鉢	—	—	—	胴部小	二色・黒褐色1GY7/3	良好	赤褐色・白色配 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2
112	S5	54	土師器	有孔鉢	—	15.0	<2.4>	体縁～底面	二色・黒褐色1GY7/4	良好	赤褐色・白色配 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2 → 底孔の有孔鉢
112	S5	55	土師器	有孔鉢	—	0.35	0.2	体縁～底面	緑灰色1GY5/1	良好	黒2.5<0.03>
112	S5	56	土師器	有孔鉢	—	0.6	4.5	体縁～底面	赤子1/2紫色2.5GY7/1	良好	黒2.5<0.10> > 石付 滑石
112	S5	57	土師器	有孔鉢	—	0.6	0.7	体縁～底面	赤子1/2紫色2.5GY7/1	良好	黒2.5<0.34> > 石付 滑石 500μm焼結土上の層厚0.5出土
112	S5	58	土師器	有孔鉢	—	0.35	0.6	体縁～底面	黒2.5GY2/1	良好	黒2.5<0.13> > 石付 滑石
112	S5	59	土師器	有孔鉢	—	0.5	0.5	体縁～底面	赤子1/2紫色2.5GY3/1	良好	黒2.5<0.15> > 石付 滑石
112	S5	60	土師器	有孔鉢	—	0.5	0.3	体縁～底面	赤子1/2紫色2.5GY3/1	良好	黒2.5<0.10> > 石付 滑石
112	S5	61	土師器	有孔鉢	—	0.45	2.5	体縁～底面	赤子1/2紫色2.5GY4/1	良好	黒2.5<0.09> > 石付 滑石
112	S5	62	土師器	有孔鉢	—	0.4	0.2	体縁～底面	黒2.5GY1	良好	黒2.5<0.09> > 石付 滑石
112	S5	63	土師器	有孔鉢	—	0.5	0.2	体縁～底面	黒2.5GY1	良好	黒2.5<0.09> > 石付 滑石
112	S5	64	土師器	有孔鉢	—	0.4	0.35	体縁～底面	黒2.5GY2/1	良好	黒2.5<0.09> > 石付 滑石
112	S5	65	土師器	有孔鉢	—	0.35	0.35	体縁～底面	黒2.5GY2/1	良好	黒2.5<0.04> > 石付 滑石
113	S6	1	土師器	高杯	11.8	6.8	7.7	口縁～胴部1/2	赤2.5GY6.6	良好	細砂粒含む・赤褐色・黒色配 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2
113	S6	2	土師器	高杯	16.0	12.8	9.1	口縁2/3～胴部	赤2.5GY6.6	良好	赤褐色・赤褐色 外・内面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2 → 底面1/2外2/3
113	S6	3	土師器	鉢	11.2	7.8	5.7	口縁～底面	赤2.5GY6.6	良好	赤褐色・赤褐色 外・内面1/21/21/2
113	S6	4	土師器	鉢	11.4	8.0	6.6	底部	赤2.5GY6.6	良好	赤褐色・赤褐色 外・内面1/21/21/2
113	S6	5	土師器	有孔鉢	—	15.0	<4.3>	胴部小～胴部1/4	赤2.5GY6.6	良好	細砂粒含む・赤褐色・白色配・赤色黒点 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2 → 2/3
113	S6	6	土師器	有孔鉢	116.0	2.4	16.5	口縁1/4～底面	二色・黒褐色1GY7/3	良好	赤褐色・赤褐色・赤褐色 外面1/21/21/2 → 脚1/2 → 内面1/21/21/2 → 口縁底面上部1/21/2
113	S6	7	土師器	甕	—	—	<6.5>	体縁1/2	赤2.5GY7/6	良好	赤褐色・赤褐色 外面1/21/21/2 → 内面1/21/21/2 → 脚1/2 → 内面1/21/21/2 → 底面1/2外2/3

※ (数値) は数値元、<数値>は>数値

図 番号	図名	材料	仕様	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	部位	色調	質感	加工	備考
113	S96	土師器	甕	—	6.0	<9.0>	体高1/4～底面4/5	にぶ、暗2.5YR7/4	良好	赤褐色/赤色/赤	外面→赤褐色 内面→赤
113	S96	土師器	甕	9.0	—	<3.3>	口縁部1/4	明赤褐色2.5YR5.8	良好	細砂粒含む 長石・赤色葉状	外→内面→赤
113	S96	土師器	甕	17.0	—	<5.2>	口縁小～体部小	にぶ、暗2.5YR7/4	良好	赤褐色/白色	外面→赤 内面→赤→赤
113	S96	土師器	甕	—	3.4	<4.1>	体部小～底面2/3	灰黄色10YR5/2	良好	赤褐色/赤色/赤色葉状	外面→赤 外→内面→赤→赤
113	S96	土師器	付付篋	16.0	—	<11.1>	口縁1/4～体部1/4	暗3YR6/6	良好	赤褐色/白色/長石・石葉・赤色葉状	外面→赤 赤 内面→赤
113	S96	土師器	付付篋	11.1	—	<10.7>	口縁～体部	暗3YR6/6	良好	赤褐色/赤褐色/赤褐色	外面→赤 赤 内面→赤
113	S96	土師器	付付篋	11.1	—	<12.7>	口縁1/3～体部小	にぶ、暗2.5YR7/4	良好	赤褐色/赤褐色/赤褐色	外面→赤 赤 内面→赤
113	S96	土師器	付付篋	15.6	7.1	<12.6>	口縁～体部3/4	外面→暗2.5YR6/4～ 内面→暗2.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤褐色/白色	外面→赤(体部付付篋は)赤褐色 内面→赤
114	S96	土師器	付付篋	13.7	8.7	19.7	口縁～底面	暗2.5YR7/6	良好	赤褐色/赤褐色	外面→赤 赤 内面→赤
114	S96	土師器	付付篋	13.5	8.1	20.7	口縁1/4～体部1/2	暗3YR6/6	良好	細砂粒含む 赤褐色/白色/赤褐色	外面→赤 赤 内面→赤 内面→赤
114	S96	土師器	付付篋	12.0	8.3	20.6	口縁1/3～台部1/4	にぶ、暗2.5YR6/4～ 2.5YR5.2/3～灰黄色7.5YR5.2	良好	赤褐色/白色/赤褐色/石葉・赤色葉状	外面→赤 赤 内面→赤 付付篋 内面→赤
114	S96	土師器	付付篋	26.2	11.2	34.1	口縁～体部	暗3YR6/6	良好	細砂粒含む 赤褐色/白色/赤褐色	外面→赤 赤 内面→赤 赤 内面→赤
114	S96	土師器	付付篋	—	10.0	<7.7>	体部小～底面1/4	にぶ、暗2.5YR7/3	良好	砂粒含む 赤褐色	外面→赤→赤 内面→赤
114	S96	土師器	甕	<4.3>	2.0	0.7		青灰96/1		底径<6.62> 高さ? 底径<13.14>	
114	S96	土師器	甕	2.1	3.0	0.85		暗2.5YR6/6	良好	赤褐色	外面→赤 赤褐色/赤褐色
114	S96	土師器	甕	13.0	—	3.3	口縁1/4～体部	暗2.5YR6/6	良好	赤褐色/赤褐色	外面→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	11.2	6.4	3.2	口縁小～底面1/4	にぶ、暗2.5YR7/3	良好	赤褐色/赤褐色/白色	外面→赤→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	16.0	17.0	<6.6>	口縁1/3～底面小	灰黄色7.5YR5/4	良好	赤褐色/赤褐色/長石・赤褐色	外面→赤→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	6.0	3.6	8.0	口縁1/3～底面	にぶ、暗2.5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤褐色/白色	外面→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	—	5.4	<2.0>	体部小～体部1/2	暗2.5YR6/6	良好	赤褐色	内面→赤
115	S97a	土師器	付付篋(外)	—	4.4	<3.3>	脚部3/4	にぶ、暗2.5YR7/4	良好	赤褐色/白色/長石・石葉・赤褐色	外面→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	付付篋(外)	—	4.8	<4.7>	脚部	暗3YR6/6	良好	赤褐色/赤褐色	外→内面→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	15.0	—	<5.0>	口縁1/2～体部	暗2.5YR6/6	良好	赤褐色/赤褐色/長石・石葉・赤褐色	外面→赤→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	17.8	—	<7.1>	口縁～体部	暗2.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤褐色/赤褐色	外面→赤→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	17.2	—	<6.8>	脚部1/2	にぶ、暗3YR6/4	良好	細砂粒含む 赤褐色/白色	外→内面→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	—	13.4	<6.5>	脚部	暗3YR6/6	良好	赤褐色	外→内面→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	—	14.4	<6.5>	脚部	にぶ、暗2.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤褐色/白色/赤褐色	外面→赤 赤褐色/赤褐色
115	S97a	土師器	甕	—	14.0	<13.9>	脚部	暗3YR6/6	良好	細砂粒含む 赤褐色/長石・石葉	外面→赤 赤褐色/赤褐色

※（数値）は概算値、<数値>は<現存値>

図名 番号	種別	部種	口径 (長)	底径 (短)	高さ (厚)	部位	色調	地味	胎土	備考
113 S7a	土師器	高杯	—	18.8	<8.7>	胴部1/4	曜文SV07/8	良好	赤長石	外面1/4寸 内面1/4寸以下
113 S7b	土師器	高杯	—	12.4	<7.6>	胴部	曜文SV07/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・黄色粒・長石・赤褐色雲母	外面1/4寸 内面1/4寸以下
113 S7c	土師器	高杯	—	16.0	<9.6>	胴部3/4	曜文SV06/6	良好	赤 赤色粒・白色粒・長石・赤褐色雲母	外面 上面部分合面以下等 内面1/4寸 胴上部に工具痕
113 S7d	土師器	高杯	26.0	14.0	15.4	口縁～底部	曜文SV06/6	良好	赤 赤色粒・長石	内面 外・内面 1/4寸以下に等しい等 胴部 外面1/4寸以下に等しい等
113 S7e	土師器	部台	16.2	—	<3.3>	口縁1/4～体部	曜文SV06/6	良好	赤 赤色粒・白色粒	外面1/4寸 胴部 内面1/4寸
116 S7a	土師器	甕	3.5	—	2.5	つよみ上部	曜文SV08/1	良好	赤 赤色粒・長石	外面 上面部分？ 内面1/4寸
116 S7b	土師器	鉢	19.0	—	3.7	口縁1/4～体部	曜文SV08/3	良好	赤 赤色粒・白色粒・長石・赤褐色雲母	外面1/4寸以下 胴部 内面1/4寸以下
116 S7c	土師器	鉢	15.4	3.6	6.3	口縁1/2～底部	明赤焼02SV05/6	良好	赤 赤色粒・白色粒・長石・赤褐色雲母	外面1/4寸以下 胴部 内面1/4寸以下
116 S7d	土師器	鉢	16.0	4.0	6.3	体部1/2～底部	明赤焼02SV05/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・赤褐色雲母	外面1/4寸以下 胴部 内面1/4寸以下
116 S7e	土師器	有口鉢	—	2.8	<2.9>	底部	明赤焼02SV05/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面1/4寸以下 胴部 内面1/4寸以下
116 S7f	土師器	甕	8.2	—	<5.1>	口縁1/4～体部	曜文SV08/6	良好	赤 赤色粒・長石・赤褐色雲母	外面1/4寸以下 胴部 内面1/4寸以下
116 S7g	土師器	甕	6.6	1.6	7.0	口口笠部	明赤焼02SV06/6	良好	赤 赤色粒・長石	外面1/4寸 胴付ノコギリ
116 S7h	土師器	甕	18.0	2.0	<8.1>	口縁1/2～底部	曜文SV07/8	良好	赤 赤色粒・長石	外面1/4寸 胴付ノコギリ
116 S7i	土師器	鉢	9.0	13.0	7.2	口縁～底部	にぶ・曜文SV07/4～外縁部SV01/4	良好	赤 赤色粒	外面1/4寸以下 胴付ノコギリ 内面1/4寸
116 S7j	土師器	甕	11.3	—	<8.7>	口縁2/3～体部	にぶ・曜文SV07/4	良好	赤 赤色粒	外面1/4寸 胴付ノコギリ
116 S7k	土師器	甕	15.4	丸底	<18.3>	口縁～底部小	曜文SV07/8～にぶ・曜文SV07/4	良好	赤 赤色粒	外面1/4寸 胴付ノコギリ 外面1/4寸 胴部 1/4寸
116 S7l	土師器	甕	13.0	丸底	14.6	口縁～底部	曜文SV07/8～にぶ・曜文SV07/4	良好	赤 赤色粒	外面1/4寸 胴付ノコギリ 外面1/4寸 胴部 1/4寸
116 S7m	土師器	甕	3.8	<2.5>	—	底部3/4	曜文SV07/8	良好	赤 赤色粒	外面1/4寸以下 内面1/4寸
116 S7n	土師器	甕	34.6	—	<8.1>	口縁～底部小	曜文SV08/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・赤褐色雲母	外面1/4寸 胴付ノコギリ 内面1/4寸 胴部 1/4寸
116 S7o	土師器	甕	15.4	—	<22.6>	口縁～体部	にぶ・曜文SV07/4	良好	赤 赤色粒・白色粒・赤褐色雲母	外面1/4寸 胴付ノコギリ 内面1/4寸 胴部 1/4寸
116 S7p	土師器	甕	16.8	—	<27.1>	口縁～底部小	曜文SV06/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・赤褐色雲母	外面1/4寸 胴付ノコギリ 内面1/4寸 胴部 1/4寸
117 S7a	土師器	甕	—	5.7	<14.5>	体部1/4～底部	反焼02SV05/2～にぶ・曜文SV07/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・赤褐色雲母	外面1/4寸以下 胴付ノコギリ 内面1/4寸 胴部 1/4寸
117 S7b	土師器	甕	—	15.0	<9.7>	体部～底部1/4	外面・反焼02SV08/4 内面・曜文SV08/1	良好	赤 赤色粒・長石	外面1/4寸以下 胴付ノコギリ 内面1/4寸 胴部 1/4寸
117 S7c	土師器	甕	—	6.1	<30.1>	体部1/2～底部	曜文SV07/4	良好	砂礫含む 白色粒・赤褐色雲母	外面1/4寸以下 内面1/4寸 胴部 1/4寸以下 外面1/4寸 胴部 1/4寸
117 S7d	土師器	甕	16.4	4.6	26.2	口縁～底部	にぶ・曜文SV07/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面1/4寸以下 内面1/4寸 胴部 1/4寸以下 外面1/4寸 胴部 1/4寸
117 S7e	土師器	甕	16.1	6.8	26.0	口縁～底部	曜文SV06/6	良好	赤 赤色粒	外面1/4寸以下 内面1/4寸 胴部 1/4寸以下 外面1/4寸 胴部 1/4寸
118 S7a	土師器	甕	—	—	<4.2>	体部小	反白8/8	良好	赤 赤色粒	胴部厚み 胴部1/4寸 外面1/4寸
118 S7b	土師器	甕	8.8	8.2	7.0	胴6	反白8/8	良好	赤 赤色粒・長石	胴部厚み 胴部1/4寸 外面1/4寸

※(数値)は数値域、<数値は>が下限、<数値以上>が上限

品名 番号	品名	種別	仕様	口径 (φ)	直径 (mm)	高さ (mm)	部位	色調	焼成	粘土	備考
118	S7a	42	石灰化品	<2.1>	1.8	0.5	灰白色(0)88/1	良好	密	赤褐色・白色配	重量<3.6g> 石灰 赤石 外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	1	土師器	—	<3.9>	—	腹部小<胴部小	良好	密	赤褐色・白色配	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	2	土師器	—	<3.5>	—	胴部	良好	密	赤褐色	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	3	土師器	—	<4.5>	—	胴部	良好	密	赤褐色	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	4	土師器	—	<3.3>	—	口縁部小	良好	密	赤褐色・白色配・赤石・右黄	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	5	土師器	0.60	<3.4>	—	口縁部小<体部1/4	良好	密	赤褐色	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	6	土師器	—	<2.2>	—	胴部小	良好	密	赤褐色・白色配・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	7	土師器	付付巻	0.82	<4.0>	口縁部1/4	良好	密	細砂粒含む 赤褐色・黒色配・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	8	土師器	付付巻	—	<3.3>	口縁部<体部	良好	密	赤褐色	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	9	土師器	付付巻	—	<1.4>	口縁部<体部	良好	密	赤褐色	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	10	土師器	付付巻	—	<1.8>	体部小<胴部小	良好	密	細砂粒含む 赤褐色・白色配・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	11	土師器	付付巻	—	<3.0>	体部小<胴部小	良好	密	赤褐色配・白色配・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	12	土師器	巻	—	3.2	体部小<胴部	良好	密	赤褐色配・白色配	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
118	S7b	13	土師器	巻	—	<1.8>	体部小	良好	密	赤褐色	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	1	土師器	高坏	12.0	<4.1>	口縁部1/2<胴部1/4	良好	密	赤石・右黄・赤色裏目	外面:1344 内面:1344
119	S7P	2	土師器	高坏	—	(10.0)	胴部1/3	良好	密	赤褐色・白色配	外面:1344(赤黄) 内面:1344 断面:1344 石灰 外面:1344 内面:1344
119	S7P	3	土師器	高坏	—	<4.5>	胴部小	良好	密	細砂粒含む 赤石・右黄・赤色裏目	外面:1344 内面:1344 断面:1344
119	S7P	4	土師器	器台	0.40	<2.4>	口縁部1/4<胴部1/4	良好	密	赤褐色・白色配・赤色裏目	外面:1344(赤黄) 内面:1344(赤黄) 断面:1344(赤黄)
119	S7P	5	土師器	器台	—	<3.2>	体部<胴部	良好	密	赤褐色・赤石	断面:1344 石灰(赤黄) 石灰(赤黄) 断面:1344(赤黄)
119	S7P	6	土師器	巻	11.7	4.1	口縁部	良好	密	白色配	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	7	土師器	巻	—	3.5	体部小<胴部	良好	密	赤褐色・白色配	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	8	土師器	巻	—	(10.0)	体部小<胴部1/4	良好	密	赤褐色・白色配	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	9	土師器	付付巻	13.1	<3.4>	口縁部	良好	密	細砂粒含む 赤石	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	10	土師器	付付巻	—	<2.5>	胴部	良好	密	赤褐色・白色配・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	11	土師器	巻	—	<3.5>	口縁部小	良好	密	赤石・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	12	土師器	巻	(17.2)	<4.2>	口縁部1/4<体部	良好	密	赤石・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	13	土師器	巻	(10.0)	<4.0>	口縁部1/4	良好	密	赤褐色・白色配・赤色裏目・赤石	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)
119	S7P	14	土師器	巻	(11.8)	<8.2>	口縁部1/2<体部1/2	良好	密	赤石・赤色裏目	外面:777,77777 内面:777,7777 断面:777(石灰)赤褐色で4 か所(0.7)

区分	項目番号	種類	設備	口径 (mm)	低圧 (kg)	高さ (mm)	部位	色調	傷欠	耐土	備考
	119	SEPB	15 土保護 付付壁	113.0	—	<3.0>	口縁1/2～体部小	型I.SY87/8	良好	密色配・白色配・黒色配・長石・ 石灰・黄色黒炭	外面1/2～ 内面1/3付* 内面1/3* 外面1/2
	119	SEPB	16 土保護 壁	18.7	3.5	<1.4>	体部～底部	型I.SY87/8	良好	密色配・長石	外面1/2
	119	SEPB	17 土保護 壁	18.7	7.4	22.2	口縁～底部	成長時2.SY88/4 内面:成長時2.S2E白	良好	細砂状含む 赤色配・白色配	外+内面1/2付*
	120	SB	1 土保護 面外	—	—	<1.4>	体部小	型I.SY87/8	良好	密 長石	外面1/3* 内面1/3*
	120	SB	2 土保護 面外	112.0	—	<3.0>	口縁部1/4	型I.SY87/8	良好	密 赤色配	外面1/3付* 内面1/3付*
	120	SB	3 土保護 面付	—	—	<4.0>	体部	型I.SY87/8	良好	密	外面1/3付* 内面1/3付* 外側面赤色
	120	SB	4 土保護 面付	—	—	<3.7>	体部小	型I.SY87/8	良好	密 赤色黒炭	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	5 土保護 面付	—	—	<3.1>	体部小	型I.SY87/8	良好	外周 垂直状文	外面1/3*
	120	SB	6 土保護 面付	113.0	—	<2.4>	口縁部小	1.2品・型I.SY88/4	良好	密 長石・石膏	外面1/3付* 内面1/3*
	120	SB	7 土保護 面付	—	14.0	<3.0>	口縁部1/4	型I.SY87/8	良好	密 白色配・赤色黒炭	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	8 土保護 面付	—	—	<4.0>	体部小	明物地2.SY88.6	良好	細砂状含む 赤色配・白色配	外面1/2付* 付* 外面1/3*
	120	SB	9 土保護 面付	16.2	3.4	8.7	口縁1/2～体部	型I.SY87/6	良好	密	外面1/2付* 付* 外面1/3* 内面1/3付* 外側面赤色
	120	SB	10 土保護 面付	—	—	<2.8>	体部小	1.2品・型I.SY88/4	良好	密 長石・赤色黒炭	外面1/2
	120	SB	11 土保護 面付	—	16.0	<3.2>	側部	型I.SY87/8	良好	密 赤色配・長石・黄色黒炭	外+内面1/3*
	120	SB	12 土保護 面付	116.0	—	<3.3>	口縁部1/7	型I.SY87/6	良好	密 赤色配・白色配・長石・石膏・ 黄色黒炭	外面1/2付* 付* 外面1/3*
	120	SB	13 土保護 面付	13.2	—	<12.2>	口縁～体部	型I.SY88/8	良好	細砂状含む 白色配	外面1/2付* 付* 外面1/3*
	120	SB	14 土保護 面付	—	18.0	<2.1>	体部小～底部1/3	1.2品・型I.SY88/4	良好	細砂状含む 白色配	外面1/2付* 付* 外面1/3*
	120	SB	15 土保護 面付	—	16.0	<1.9>	体部小～底部1/4	成長時2.SY88.7	良好	細砂状含む 白色配・赤色黒炭	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	1 土保護 面付	112.0	—	<2.0>	口縁1/4～体部	1.2品・型I.SY88.4	良好	密 赤色配・長石	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	2 土保護 面付	114.2	—	<4.4>	口縁部1/4	型I.SY87/8	良好	密 赤色配	外面1/3付* 付* 内面1/3*
	120	SB	3 土保護 面付	116.0	—	<3.2>	口縁1/4～体部	1.2品・型I.SY88.4	良好	密 赤色配・長石・石膏・赤色黒炭	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	4 土保護 面付	116.0	<2.0>	2.4	口縁1/2～底部	型I.SY88/8	良好	細砂状含む 赤色配・長石・赤色黒炭	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	5 土保護 面付	115.2	失底	3.8	口縁3/4～底部	型I.SY88/6	良好	密 赤色配・白色配	外面1/3付* 付* 内面1/3*
	120	SB	6 土保護 面付	16.4	1.9	5.5	口縁3/4～底部	型I.SY87/8	良好	細砂状含む 赤色配・長石・赤色黒炭	外面1/2付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	7 土保護 面付	<14.0>	<2.0>	3.5	口縁3/4～底部	型I.SY87/8	良好	細砂状含む 赤色配・長石	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	8 土保護 面付	14.2	3.4	4.1	口縁3/4～底部	型I.SY88/8	良好	細砂状含む 赤色配・長石	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	9 土保護 面付	14.0	3.4	3.4	完整(口縁-底部)	型I.SY88/8	良好	細砂状含む 赤色配・長石	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*
	120	SB	10 土保護 面付	116.0	—	<3.1>	口縁1/7～体部1/7	1.2品・型I.SY87/4	良好	密 赤色配・白色配・長石・赤色黒炭	外面1/3付* 外側面赤色 外側面赤色部 内面1/3*



表 6 (単位) は括弧内、<数値は>は付着

国 番号	区名	産物 番号	種類	芯種	口径 (mm)	直径 (mm)	壁高 (mm)	部位	色調	焼成	胎土	備考
120	59	11	土磁器	片	(12.0)	—	<3.1>	口縁1/8~体部小	曜2.5/06.8	良好	赤・赤色胎・白色胎・長石・金色薬白	外面1/3? ~2/3? 内面1/3? 厚み2?
120	59	12	土磁器	片管土器	—	6.4	3.4	体部~底面1/4	二品・曜2.5/07.4	良好	赤・赤色胎・石黄	外・内面1/3? 胎面調
120	59	13	土磁器	片管土器	4.4	2.9	5.1	口縁1/2~底面	明赤胎0.9/07.6	良好	細砂粒含む・白色胎	外・内面1/3? 胎
120	59	14	土磁器	高杯	—	—	<1.8>	体部1/2	曜2.5/07.6	良好	赤・赤色胎	外面1/3? 1/3? 内面1/3? 胎面調は二品式
120	59	15	土磁器	高杯	—	—	<4.5>	胎面	浅黄胎1.0/08.7	良好	赤・赤色胎・長石	外面1/3? 内面1/3?
120	59	16	土磁器	高杯	—	—	<3.1>	胎面小	曜2.5/08.6	良好	赤・赤色胎・白色胎	外・内面1/3?
121	59	17	土磁器	皿	3.0	—	<2.8>	口縁1/2~体部	曜2.5/08.6	良好	赤・赤色胎・長石・石黄	外面1/3? ~2/3? 内面1/3?
121	59	18	土磁器	皿	31.9	2.0	6.9	口縁1/4~体部	曜2.5/07.8	良好	赤・赤色胎・長石	外面1/3? ~2/3? 内面1/3? 胎
121	59	19	土磁器	皿	16.6	5.8	<14.0>	口縁1/2~底面	明赤胎2.3/05.8	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外・内面1/3? 胎
121	59	20	土磁器	皿	—	2.4	<2.2>	体部小~底面	曜2.5/07.8	良好	細砂粒含む・赤色胎・石黄	外面1/3? 胎 内面1/3? 胎
121	59	21	土磁器	皿	—	4.0	4.1	体部小~底面1/4	曜2.5/08.6	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外面1/3? ~2/3? 内面1/3? 胎
121	59	22	土磁器	皿	—	4.6	<4.8>	体部	曜2.5/07.6	良好	赤	外面1/3? ~2/3? 内面1/3?
121	59	23	土磁器	皿	6.8	5.4	9.3	口縁1/2~底面	明赤胎2.2/05.8	良好	細砂粒含む・赤色胎・長石・石黄	外・内面1/3?
121	59	24	土磁器	甕	(15.0)	—	<5.2>	口縁1/4~体部	二品・曜2.5/06.4	良好	赤・赤色胎・長石・金色薬白	外面1/3? 内面1/3? ~2/3?
121	59	25	土磁器	甕	(21.8)	—	<14.9>	口縁小~体部1/8	明赤胎0.6/07.8	良好	赤・長石・金色薬白	外面1/3? 胎 内面1/3? ~2/3?
121	59	26	土磁器	甕	(13.4)	—	<23.2>	口縁小~体部	明赤胎0.6/05.8	良好	赤・長石・金色薬白	外・内面1/3? 胎
121	59	27	土磁器	甕	14.7	6.7	16.8	口縁~底面	明赤胎2.5/05.9	良好	細砂粒含む・白色胎	外面1/3? 胎 内面1/3? 胎面調は二品調(不明)
121	59	28	土磁器	甕	16.4	<6.8>	21.7	口縁~底面小	曜2.5/06.8~二品・曜2.5/07.4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎・石黄・金色薬白	外面1/3? 胎 内面1/3? 胎面調
122	59	29	土磁器	甕	26.5	7.2	20.0	口縁1/8~底面	曜2.5/07.8~非曜10/06.8	良好	赤	外面1/3? 胎 内面1/3? 胎面調
122	59	30	土磁器	甕	18.6	9.5	24.0	口縁1/2~底面	曜2.5/07.6~非曜2.5/02.4	良好	赤・長石・金色薬白	外面1/3? 胎 内面1/3? 胎面調は二品調
122	59	31	土磁器	甕	18.6	9.0	26.9	口縁~底面	明赤胎0.6/05.8	良好	赤	外・内面1/3? 胎
122	59	32	土磁器	甕	19.0	7.2	31.2	口縁1/4~底面	曜2.5/07.8	良好	赤	外面1/3? 胎 内面1/3? 胎 二品? 胎
123	59	33	土磁器	甕	—	(5.0)	<2.7>	体部小~底面小	二品・曜2.5/06.4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎・金色薬白	外面1/3? 内面1/3?
123	59	34	土磁器	甕	—	—	<5.3>	口縁部小	曜2.5/08.8	良好	赤・赤色胎・長石・金色薬白	外・内面1/3?
123	59	35	土磁器	甕	—	—	<2.9>	体部小	明赤胎0.7/07.1	良好	赤	外面胎面調は二品 内面胎面調は二品
123	59	36	土磁器	甕	—	—	<3.8>	体部小	灰白? 胎	良好	赤	外面胎面調は二品 内面胎面調は二品
123	59	37	土製品	土瓦	0.6	0.58	0.45	—	黒色胎・白胎1	不良	黒色<0.1μ>	片調部有胎付調中心出土
123	59	38	土製品	土瓦	0.6	0.45	0.5	—	黒色胎2.2/00.1	不良	黒色<0.09μ>	—

検 査 番 号	品 名	品 種	容 積	口 径 (長)	底 径 (短)	深 さ <深>	部 位	色 調	焼 成	施 士	備 考
123	S9	39	土製品	土玉	1.4	1.1	1.0	不良	不良	黒色<1.1kg>	
123	S9	40	土製品	土玉	0.5	0.45	0.4	不良	不良	黒色<0.08kg>	
123	S9	41	土製品	土玉	0.45	0.4	0.4	不良	不良	黒色<0.06kg>	
123	S9	42	石製	台6	(24.3)	(17.1)	8.6	良好	良好	長石	
123	S10	1	土製品	杯	(13.6)	—	<5.3>	良好	良好	褐色・白色・白色	外・内面ナリ へナリ 内面ナリ ナリ
123	S10	2	土製品	杯	11.6	2.8	5.8	良好	良好	褐色	外・内面ナリ 表面磨耗無し
123	S10	3	土製品	酒杯	12.4	—	4.5	良好	良好	褐色・長石	外・内面ナリ 表面磨耗無し
123	S10	4	土製品	酒杯	—	—	<1.3>	良好	良好	粗砂粒含む 褐色・白色	外・内面ナリ 全面非面 杯部内面・全面非面
123	S10	5	土製品	酒杯	—	—	<4.85>	良好	良好	褐色	外・内面ナリ 全面ナリ 全面非面
123	S10	6	土製品	酒杯	(18.8)	2.8	—	良好	良好	褐色・長石	外・内面ナリ ナリ 内面ナリ ナリ 穴(全体磨滅不明)
123	S10	7	土製品	蓋?	—	<3.8>	1.4	良好	良好	細砂粒含む 白色・長石・石膏	外・内面ナリ
123	S10	8	土製品	蓋	(4.0)	—	<2.5>	良好	良好	褐色・白色・長石	外・内面ナリ
123	S10	9	土製品	鉢	14.4	—	7.6	良好	良好	褐色	外・内面ナリ 内面ナリ ナリ
123	S10	10	土製品	鉢	—	—	<9.0>	良好	良好	褐色	外・内面ナリ
123	S10	11	土製品	有孔鉢	(4.2)	2.6	—	良好	良好	褐色	外・内面ナリ 内面ナリ ナリ 全面ナリナリ
123	S10	12	土製品	有孔鉢	—	4.8	<1.9>	良好	良好	白色・白色・褐色・石膏	外・内面ナリ ナリ 全面・全面非面
124	S10	13	土製品	蓋	—	—	<1.4>	良好	良好	褐色・白色・白色・石膏	全面・全面非面(全面・全面非面)
124	S10	14	土製品	蓋	—	—	<4.8>	良好	良好	粗砂粒含む 褐色・白色	外・内面ナリ ナリ 全面非面
124	S10	15	土製品	蓋	—	—	<5.9>	良好	良好	白色・褐色	外・内面ナリ 全面非面
124	S10	16	土製品	蓋	—	—	<8.2>	良好	良好	褐色・石膏	外・内面ナリ 全面非面
124	S10	17	土製品	蓋	(24.8)	—	<1.2>	良好	良好	褐色・長石	外・内面ナリ 全面非面
124	S10	18	土製品	蓋	(22.8)	—	<7.9>	良好	良好	粗砂粒含む 褐色・白色	外・内面ナリ 全面非面
124	S10	19	土製品	蓋	(17.2)	—	1.0	良好	良好	褐色・褐色	外・内面ナリ
124	S10	20	土製品	蓋?	(16.0)	—	7.6	良好	良好	褐色・長石・褐色・石膏	外・内面ナリ
124	S10	21	土製品	付付盤	—	(4.0)	2.7	良好	良好	褐色	外・内面ナリ
124	S10	22	土製品	付付盤	—	—	<3.1>	良好	良好	褐色・白色・長石・石膏・褐色	外・内面ナリ(全面・全面)
124	S10	23	土製品	付付盤	(18.9)	—	<2.7>	良好	良好	褐色・白色・白色・石膏・褐色・褐色	外・内面ナリ(全面・全面)
124	S10	24	土製品	蓋	—	4.0	2.9	良好	良好	褐色・長石	外・内面ナリ ナリ

6 (数値) は部元値、<数値は>は付値

原 形 番号	原 名	種別	設備	口径 (mm)	高さ (mm)	部高 (mm)	部位	色調	加工	備考
124	S10	土師器	甕	116.0	—	<12.0>	口縁1/5~体部小	灰褐色/赤5/2	良好	外面1/3付<付> 内面1/3付<付> 甕根1/3付<付>
124	S11	土師器	杯	—	—	<2.4>	口縁部小	褐色/赤5/1	良好	外面1/3付<付> 内面1/3付<付>
124	S11	土師器	杯	—	—	<1.2>	口縁部小	にじみ・褐色/赤5/4	良好	外面1/3付<付> 内面1/3付<付>
124	S11	土師器	杯	114.1	—	<4.1>	口縁部小	褐色/赤5/6	良好	外・内面1/3付<付>
124	S11	土師器	甕	—	0.0	<1.3>	体部小~底面1/4	明赤褐色/赤5/8	良好	細砂粒含む 赤色胎・白色胎・赤色底胎
124	S11	土師器	甕	—	19.0	<1.3>	口縁部1/8	赤5/9/6/1	良好	砂粒含む 赤色胎・白色胎
124	S12	土師器	杯	112.0	<1.6>	<5.3>	口縁1/5~底面1/2	褐色/赤5/8	良好	細砂粒含む 赤色胎・赤石
124	S12	土師器	高杯	—	—	<4.1>	体部小	褐色/赤5/6	良好	外面1/3付<付> 内面1/3付<付>
124	S12	土師器	甕	111.0	—	<9.0>	口縁1/4~体部	褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石・赤石胎・赤石底胎
124	S12	土師器	甕	—	4.4	<4.0>	底面	褐色/赤5/8	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
125	S12	土師器	甕	116.0	—	<7.6>	口縁1/4~体部小	灰白/赤5/2	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
125	S12	土師器	甕	116.0	—	<12.7>	口縁1/8~体部1/6	にじみ・灰褐色/赤5/3	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
125	S12	土師器	甕	116.0	—	<27.0>	口縁1/8~体部	外面・にじみ・灰褐色/赤5/3 内面・灰褐色/赤5/2・褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
125	S12	土師器	甕	116.6	16.2	<4.4>	口縁1/5~底面1/4	明赤褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
125	S12	土師器	甕	124.0	15.0	13.6 4.2	口縁1/5~底面1/2	明赤褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
125	S12	土師器	甕	—	6.4	<3.6>	体部小~底面	明赤褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
125	S12	土師器	甕	124.0	7.8	25.8	口縁1/5~底面	にじみ・黄褐色/赤5/3	良好	細砂粒含む 赤色胎・赤色胎
126	S12	土師器	高杯	26.2	—	<9.7>	口縁~体部小	にじみ・褐色/赤5/4	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S12	土師器	器台	8.3	—	<5.9>	口縁~器部	褐色/赤5/2	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	杯	111.2	—	<3.4>	口縁~体部1/4	褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	高杯	—	—	<6.7>	体部	褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	高杯	—	11.0	<2.4>	体部小	褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	高杯	—	17.0	<7.6>	体部1/8	明赤褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	有孔杯	—	14.0	<1.1>	底面1/2	明赤褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	甕	—	—	<4.3>	口縁部小	褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	甕	—	12.0	<1.6>	体部~底面	赤褐色/赤5/6	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎
126	S13	土師器	甕	—	15.2	<1.9>	体部小~底面1/3	褐色/赤5/3	良好	砂粒含む 赤石胎・赤石胎・赤石胎

※(数値)は表示元、<数値は>表示前

役 番号	動物 番号	種別	22種	口徑 (mm)	底径 (mm)	高さ <深>	部位	色調	毛土	備考
126	S03	9	野鹿型	鹿	(2.2)	—	体部小	灰白N71	良好	鹿
126	S03	10	野鹿型	鹿	(3.0)	—	体部小	灰白N71	良好	鹿
126	S03	11	野鹿型	鹿	(4.3)	—	体部小	灰白N71	良好	鹿
126	S03	12	石壁	竹台	(16.9)	<8.8>	体部1/4	灰白N7	良好	鹿
126	S04	1	土鹿型	鹿坪	—	<3.1>	体部1/4	にじみ・縞Z・S076/4	良好	鹿
126	S04	2	土鹿型	鹿坪	(19.0)	—	口縁部1/6	縞Z・S076/6	良好	鹿
126	S04	3	土鹿型	鹿坪	—	<9.3>	体部～胴部	明赤縞S076/6	良好	鹿
126	S04	4	土鹿型	鹿坪	(16.7)	—	口縁～胴部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	5	土鹿型	鹿坪	—	<5.19>	胴部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	6	土鹿型	鹿坪	—	<2.7>	胴部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	7	土鹿型	鹿坪	—	<1.1>	体部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	8	土鹿型	鹿坪	—	<2.2>	胴部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	9	土鹿型	鹿坪	—	<7.8>	体部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	10	土鹿型	鹿坪	—	<8.8>	体部～尻部小	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	11	土鹿型	鹿	—	(1.2)	体部1/4～尻部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	12	土鹿型	鹿	—	1.9	体部1/2～尻部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	13	土鹿型	鹿	(8.0)	(3.5)	口縁1/2～尻部	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	14	土鹿型	鹿	(11.1)	<10.5>	口縁1/4～体部小	縞Z・S076/6	良好	鹿
127	S04	15	土鹿型	鹿	(7.2)	—	口縁1/5～体部	にじみ・縞Z・S076/3	良好	鹿
127	S04	16	土鹿型	鹿	—	<2.3>	口縁部小	尻縞縞S076/2	良好	鹿
127	S04	16	土鹿型	鹿	—	<6.1>	体部1/2	にじみ・縞Z・S076/4	良好	鹿
127	S04	16	土鹿型	鹿	—	(2.1)	尻部	縞Z・S076/6～縞Z・S076/1	良好	鹿
127	S04	17	土鹿型	鹿	—	3.9	体部	にじみ・縞Z・S076/4	良好	鹿
127	S04	18	土鹿型	鹿	(17.8)	—	口縁1/2～体部1/4	にじみ・縞Z・S076/4	良好	鹿
127	S04	19	土鹿型	鹿	—	<4.3>	胴部1/5～体部	にじみ・縞Z・S076/4	良好	鹿
127	S04	20	土鹿型	竹付鹿	—	(6.0)	胴部	にじみ・縞Z・S076/3	良好	鹿
127	S04	21	土鹿型	竹付鹿	—	(9.0)	胴部1/3	にじみ・縞Z・S076/2	良好	鹿
127	S04	22	土鹿型	竹付鹿	—	(10.0)	胴部	にじみ・縞Z・S076/3	良好	鹿

表 6 (数値) は毎元値、<数値は>は円値

原 形 番号	品名 番号	種別	設備	口径 (mm)	高さ (mm)	部材	色調	構成	粘土	備考
127	S14	土師器	甕	—	33.0	底径5.4	なし・黄緑0YR6/3	良好	赤色配・白色配・赤色・金色葉目	外・内面→ナナ
127	S14	土師器	甕	—	4.4	底面	黒0Y2・なし・黄緑0YR6/4	良好	赤・赤褐色配・白色配・赤色葉目	外・内面→ナナ ナナ
127	S14	土師器	甕	—	6.0	底径1.2	なし・黒0YR6/4	良好	赤・赤褐色・赤石・石葉	外面→ナナ 内面→ナナ 底面→ナナ
127	S14	土師器	甕	—	6.1	底径1.2	黒0YR6/6	良好	細赤褐色・赤色配・長石・石葉	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ
127	S14	土師器	甕	—	6.2	体部小～底径1/A	なし・黄緑0YR6/3	良好	細赤褐色・白色配・赤色葉目	外・内面→ナナ ナナ
127	S14	土師器	甕	—	6.3	底径1/3	なし・黄緑0YR6/3	良好	赤・赤褐色配・白色配・赤色葉目	外・内面→ナナ ナナ
128	S15	土師器	高杯	—	110.0	胴部	黒0YR6/8	良好	赤・赤褐色	外面→ナナ 内面→ナナ ナナ
128	S15	土師器	鉢	10.0	—	口縁部1/8	黒0YR6/7	良好	細赤褐色・赤色配・長石	外・内面→ナナ
128	S15	土師器	皿	5.9	—	口縁部小	なし・黄緑0YR6/4	良好	赤	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ
128	S15	土師器	皿	—	<6.0>	体部1/8	黒0YR6/7	良好	赤石	外面→ナナ 内面→ナナ 指頭面
128	S15	土師器	甕	—	<9.9>	体部	なし・黄緑0YR6/4	良好	細赤褐色・白色配	外・内面→ナナ
128	S15	土師器	付付盤	—	<6.9>	口縁小～体部小	黒0YR6/3/2	良好	細赤褐色・赤色配・白色配・長石・石葉・赤色葉目	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ 指・付付盤 指縁
128	S15	土師器	付付盤	—	<2.0>	胴部小	外面→黒0YR6/8 内面→赤褐色0YR4/1	良好	細赤褐色・赤色配・白色配・赤色葉目	外面→ナナ 内面→ナナ
128	S15	土師器	甕	11.8	—	口縁～体部	なし・黄緑0YR6/4	良好	赤	外面→黒0YR6/8 内面→ナナ
128	S16	土師器	高杯	126.0	—	口縁1/8～体部	明赤褐色0YR5/6	良好	赤・赤褐色・長石・赤色葉目	外・内面→ナナ
128	S16	土師器	高杯	121.0	—	口縁部小	明赤褐色0YR5/6	良好	赤	外・内面→ナナ
128	S16	土師器	高杯	117.0	—	口縁～体部小	なし・黄緑0YR6/4	良好	細赤褐色・白色配・赤色葉目	外・内面→ナナ 指・付付盤 指頭面
128	S16	土師器	高杯	—	<2.0>	体部小	明赤褐色0YR5/6	良好	赤・赤褐色・長石	外・内面→ナナ
128	S16	土師器	高杯	—	<8.0>	体部	黒0YR6/8	良好	赤	外面→ナナ 内面→ナナ
128	S16	土師器	高杯	—	10.8	胴部1/A	なし・黄緑0YR5/4	良好	赤	外面→ナナ 内面→ナナ
128	S16	土師器	甕	—	<3.3>	体部小	黒0YR6/7/6	良好	赤	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ
128	S16	土師器	甕	—	<3.3>	体部小	黒0YR6/7/6	良好	赤	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ
128	S16	土師器	甕	—	<4.0>	口縁小～底面	赤0YR6/8	良好	赤	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ
128	S16	土師器	甕	8.9	4.7	口縁～底面	黒0YR6/8	良好	細赤褐色・赤色配・長石	外・内面→黒0YR6/8 ナナ
128	S16	土師器	甕	7.2	4.8	底面	黄緑0YR6/7/8	良好	赤石	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ
128	S16	土師器	甕	11.8	—	口縁1/4～体部	なし・黄緑0YR7/3	良好	赤・赤褐色・長石・赤色葉目	外面→黒0YR6/8 内面→ナナ
128	S16	土師器	甕	116.0	—	口縁～底面1/A	なし・黄緑0YR6/3	良好	細赤褐色・赤色配・長石	外面→ナナ ナナ 内面→ナナ 指頭面

設 番号	品名 番号	種類	仕様	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	部位	色調	組成	備考
129	S16	14	土師器 甕	(14.0)	—	<2.8>	口縁部1/4	にぶ、黒褐色の90%、 白磁土	黒磁土含む、赤色配・白色配・長石・ 石灰・金色葉目	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/2?、外 内面1/2
129	S16	15	土師器 甕	(14.0)	—	<5.1>	口縁部1/4	にぶ、褐色の98%、 4-一般の9%、 赤の9%	細砂粒含む、赤色配・白色配・赤色葉目	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/2?、外 内面1/2
129	S17	2	土師器 高坏	(8.9)	—	<4.2>	口縁・体部	明赤褐色の5%	細砂粒含む、赤色配・白色配	外・内面1/3 外・内面1/3
129	S17	2	土師器 高坏	(8.9)	(9.8)	<2.3>	体部1/5	—	長石	外・内面1/3
129	S17	3	土師器 高坏	(22.6)	—	<5.8>	口縁小・体部1/5	褐色の9%	良好 砂礫含む、赤色配・黒色配・赤色葉目	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	4	土師器 高坏	(21.0)	—	<6.9>	口縁小・体部1/2	褐色の9%	良好 赤色配・白色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	5	土師器 高坏	(16.8)	—	<10.4>	口縁小・体部	褐色の9%	良好 赤色配・白色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	6	土師器 高坏	—	—	<3.2>	体部	—	良好 赤色配	外・内面1/3 外・内面1/3
129	S17	7	土師器 高坏	—	(10.0)	<3.1>	脚部	にぶ、褐色の98%、 4	良好 赤色配・白色配	外・内面1/3 外・内面1/3
129	S17	8	土師器 杯?、林?	12.0	3.6	7.1	口縁・底面	明赤褐色の95%、 赤の5%	良好 細砂粒含む、赤色配・白色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	9	土師器 小甕	(7.0)	—	6.3	口縁小・底面	褐色の9%	良好 細砂粒含む、赤色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	10	土師器 甕	—	2.2	<7.3>	体部・底面	褐色の9%	良好 細砂粒含む、赤色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	11	土師器 甕?	—	(5.2)	<2.3>	体部小・底面小	褐色の98%、 4	良好 細砂粒含む、白色配・赤色葉目	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	12	土師器 甕	—	—	<4.5>	口縁部小	にぶ、赤褐色の95%、 4	良好 赤色配・白色配・長石・ 石灰・金色葉目	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	13	土師器 甕	(14.0)	—	4.2	口縁部小	にぶ、赤褐色の95%、 4	良好 赤色配・白色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	14	土師器 甕	—	(3.8)	<1.2>	底面1/5	黒N1.5、 灰白の97%、 赤の3%	良好 赤色配・白色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	15	土師器 甕	—	(6.0)	<2.1>	体部小・底面小	明赤褐色の98%	良好 砂礫含む、白色配・赤色葉目	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S17	16	石器 砥石	15.9	7.5	3.8	1/3底面形	—	良好 砂礫含む、白色配・赤色葉目	実山石
129	S18	1	土師器 高坏	—	—	<3.3>	脚部	褐色の9%	良好 黒色配・長石	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
129	S18	2	土師器 高坏	—	—	<4.7>	脚部1/4	褐色の97%	良好 細砂粒含む、赤色配・白色配	外・内面1/3?、外 内面1/2 外・内面1/3?、外 内面1/2
129	S18	3	土師器 高坏	—	(13.6)	<2.3>	脚部	にぶ、褐色の98%、 4	良好 赤色配・白色配・赤色葉目	外・内面1/3 外・内面1/3
129	S18	4	土師器 甕	(16.4)	—	<5.3>	口縁部小	にぶ、黒褐色の97%、 赤の3%	良好 砂礫含む、白色配・赤色葉目	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
130	S19	1	土師器 杯	—	—	<2.6>	体部小	明赤褐色の98%	良好 赤色配・白色配・長石・石灰	外・内面1/3?、外 内面1/2 外・内面1/3?、外 内面1/2
130	S19	2	土師器 杯	—	—	<2.2>	口縁部小	褐色の9%	良好 赤色配	外・内面1/3?、外 内面1/2 外・内面1/3?、外 内面1/2
130	S19	3	土師器 杯	(11.1)	—	<2.9>	口縁部小	褐色の9%	良好 赤色配	外・内面1/3?、外 内面1/2 外・内面1/3?、外 内面1/2
130	S19	4	土師器 杯	(13.0)	—	<6.4>	口縁1/4・体部	にぶ、黒褐色の97%、 赤の3%	良好 長石	外・内面1/3?、外 内面1/2 外・内面1/3?、外 内面1/2
130	S19	5	土師器 高坏	—	—	<3.6>	脚部	褐色の9%	良好 細砂粒含む、赤色配	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2
130	S19	6	土師器 甕	—	(8.2)	<4.0>	底面1/4	灰白の98%、 2	良好 細砂粒含む、	外面1/3?、外 内面1/2 外面1/3?、外 内面1/2

表 6 (数値) は毎元値、<数値は>は元値

原 形 番号	原 名	品 目	設 備	口 径 (mm)	成 績 (個)	設 高 (mm)	部 位	色 調	質 地	備 考
130	S19	土師器	甕	(14.8)	—	<3.1>	口縁部1/8	褐色SV97/6	密	外・内面1/1寸
130	S19	土師器	甕	(10.8)	—	<3.1>	口縁～体部	二品・黄褐色100/60.0～褐色SV97/3	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面1/1寸 寸
130	S19	土師器	甕	—	—	1<13.6> 2<13.2>	1・口縁～体部1/4 2・体部～底部	褐色粒2 SV97/3	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 下部1/1寸 下部1/1寸
130	S19	土師器	甕	—	(6.0)	(1.5)	体部小～体部1/2	明赤褐色2 SV93/8	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 下部1/1寸
130	S19	土師器	甕	—	(6.0)	<2.3>	体部1/4	褐色SV96/6	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
130	S19	土師器	甕	—	(8.2)	<2.1>	胴部小	褐色SV96/8	良好	外・内面1/1寸 寸
130	S19	土師器	甕	—	(8.0)	(4.2)	胴部	褐色SV96/8	良好	外・内面1/1寸 寸 内面1/1寸
130	S19	土師器	甕	—	(10.0)	<4.7>	底部小	二品・褐色SV97/4	良好	外面1/1寸 寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	杯	(13.0)	—	<3.4>	口縁部小	二品・黄褐色100/67.3	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
131	S20	土師器	杯	(12.0)	—	<6.0>	口縁1/4～体部1/4	褐色SV97/6	良好	外面 上面1/1寸 外面1/1寸 外面1/1寸 外面1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	杯	(14.0)	—	<4.6>	口縁～体部	褐色SV97/8	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
131	S20	土師器	半貯土器	—	2.7	<3.1>	体部～底部	赤褐色SV94/6	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<1.6>	胴部	赤100/6.8	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<3.1>	体部1/6	二品・褐色SV97/3	良好	外・内面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<2.8>	体部小	赤100/6.8	良好	外・内面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<4.3>	体部	二品・褐色SV98/4	良好	外面1/1寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
131	S20	土師器	高杯	(9.0)	—	<2.6>	口縁部小	褐色SV96/6	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
131	S20	土師器	高杯	(13.7)	—	<4.9>	口縁1/3～体部	黄褐色100/68/6	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	(16.0)	—	<4.5>	口縁部1/3	二品・褐色SV97/4	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	(16.0)	—	<4.8>	口縁部1/3	褐色SV96/6	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	(28.0)	—	<3.6>	口縁部1/4	褐色SV96/8	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	(28.0)	—	<4.8>	口縁～体部	褐色SV96/6	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	(16.0)	—	<6.1>	口縁小～体部小	明赤褐色1/6	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	12.2	8.3	8.5	口縁～体部	二品・褐色SV98/4	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<5.1>	体部	明赤褐色2 SV95/8	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<6.8>	胴部	赤褐色SV94/6	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸 外面1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<9.0>	体部	褐色SV96/8	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸
131	S20	土師器	高杯	—	—	<8.3>	胴部	褐色SV98/6	良好	外面1/1寸 寸 外面 上面1/1寸 下部1/1寸

※(数値)は表示範囲、<数値は>は表示

検 査 番 号	品 名	品 種	容 積	口 径 (長)	底 径 (短)	深 さ (長)	部 位	色 調	検 査 結 果	備 考
131	S20	21	土師器	高坏	—	12.1	<8.4>	外面:櫻L508/6 内面:櫻L507/6	良好	細砂粘含む 長石・赤紫・金色葉目 外面:○>○>○> 卍 内面:○>○>○> 卍>○>○> 卍
131	S20	22	土師器	高坏	—	11.0	<8.0>	赤L08/6	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:○>○>○> 卍>○>○> 卍
131	S20	23	土師器	高坏	—	13.4	<6.6>	に染・櫻L508/4~櫻L508/6	良好	外面:上層部:○> 下部:○> 内面:下部:○>○> 卍
131	S20	24	土師器	高坏	—	12.0	<7.9>	黄緑L07/6	良好	外面:卍> 卍>○>○> 内面:卍>
131	S20	25	土師器	高坏	—	—	<3.2>	櫻L508/6	良好	外面:○> 卍> 内面:卍>
131	S20	26	土師器	甕	—	1.7	<2.3>	櫻L508/6~に染・櫻L507/4	良好	外・内面:卍>
131	S20	27	土師器	有孔鉢	—	4.0	2.2	明赤L08/6	良好	外面:○> 内面:卍> 底面:穴は付いた外へ穿孔
131	S20	28	土師器	鉢	15.4	5.0	6.2	櫻L507/6	良好	外面:○> 卍>○> 卍> 内面:○>○> 卍>
131	S20	29	土師器	有孔鉢	14.0	5.4	<8.9>	櫻L507/6	良好	外面:卍> 内面:○> 卍> 底面:穴は付いた外へ穿孔
132	S20	30	土師器	甕	—	—	<5.7>	に染・櫻L508/4	良好	外面:○> 卍>○>○> 内面:○> 卍>
132	S20	31	土師器	甕	—	—	<4.2>	櫻L507/6	良好	外面:卍> 卍>○>○> 内面:卍>
132	S20	32	土師器	甕	—	13.0	<4.0>	に染・櫻L507/4	良好	外面:○>○>○> 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	33	土師器	甕	16.0	—	<5.0>	に染・櫻L507/4	良好	外面:○> 卍>○>○> 内面:○> 卍> 卍>
132	S20	34	土師器	甕	—	2.6	3.0	櫻L508/6	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	35	土師器	甕	6.8	2.1	7.0	に染・櫻L508/4	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	36	土師器	甕	—	2.7	<3.3>	に染・櫻L507/4	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	38	土師器	甕	—	13.0	<2.8>	黄緑L08/2	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	39	土師器	甕	—	2.5	<1.8>	外面:櫻L508/1 内面:明赤L208/2	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	40	土師器	甕	10.0	—	<3.7>	に染・明赤L208/2	良好	外・内面:卍>
132	S20	41	土師器	甕	11.7	—	<3.0>	に染・櫻L508/6	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	42	土師器	甕	13.0	—	<6.5>	櫻L508/6	良好	外面:上層部:○>○> 下部:○> 内面:卍> 卍> 卍>
132	S20	43	土師器	甕	13.6	—	<7.0>	櫻L508/6	良好	外面:○> 卍> 内面:卍>
132	S20	44	土師器	甕	13.6	—	<5.4>	櫻L508/6	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	45	土師器	甕	16.0	—	<5.8>	櫻L507/6	良好	外・内面:卍>
132	S20	46	土師器	甕	—	—	<4.0>	櫻L508/6	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	47	土師器	甕	—	2.6	<2.1>	櫻L508/6	良好	外面:○>○>○> 卍 卍 内面:卍> 卍>
132	S20	48	土師器	甕	—	—	<4.0>	外面:黄緑L108/3 内面:櫻L507/6	良好	外・内面:卍>



6 (数値) は毎元値、<数値は>は元値

原 産 地 番号	品名	種類	芯種	口径 (mm)	長さ (mm)	芯高 (mm)	部位	色調	硬度	粘土	備考
132	S20 69	土師器	甕	14.8	6.9	22.8	口縁部1/3 口縁部1/8	外面：黒褐色0/05/2 内面：土色、黒褐色0/08/4 外部：黒6/6～土5.5、黄褐色0/05/4	良好	相模軟含む 長石・石英・金色雲母	外面1/3> 内面1/3> 土部に黒褐色
132	S20 90	土師器	甕	(14.6)	—	<4.1>	口縁部1/8	土色、黒褐色0/07/4	良好	細砂軟含む 赤色鉄・白色鉄・金色雲母	外面1/3> 内面1/3> 黒褐色
132	S20 51	土師器	甕	(13.0)	—	<4.0>	口縁部小	土色、黒褐色0/07/4	良好	赤色鉄・白色鉄・金色雲母	外面1/3> 内面1/3> 黒褐色
132	S20 52	土師器	甕	(16.0)	—	<5.2>	口縁部1/8	土色、黒褐色0/07/4	良好	相模軟含む 赤色鉄・白色鉄・長石・石英・金雲母	外面1/3> 内面1/3> 黒褐色
132	S20 53	土師器	甕	(13.6)	—	<7.6>	口縁～体部	土色、黒褐色0/08/4	良好	赤	外面1/3> 土部 内面1/3> 黒褐色
132	S20 54	土師器	甕	—	(11.2)	<3.3>	体部小～体部1/4	褐色0/06/6	良好	相模軟含む 白色鉄・赤色鉄・赤色雲母	外面1/3> 土部 内面1/3> 黒褐色
132	S20 55	土師器	甕	—	—	<5.3>	体部～体部	外面：赤0/08/6 内面：黒7.5/07.8	良好	相模軟含む 赤色鉄・長石・石英	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・黒褐色
132	S20 56	土師器	甕	(13.2)	—	<9.7>	口縁小～体部1/8	褐色0/06/8	良好	相模軟含む 赤色鉄・白色鉄・長石・石英	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・黒褐色
132	S20 57	土師器	甕	—	4.7	<2.2>	底面1/2	灰褐色0/07/2	良好	赤 白色鉄・赤色雲母	外面1/3> 内面1/3>
132	S20 58	土師器	甕	—	4.0	<2.0>	底面1/2	土色、黄褐色0/05/3～黒1.7/1	良好	赤	外面1/3> 土部 内面1/3>
132	S20 59	土師器	甕	—	6.8	<2.3>	底面	土色、黒褐色0/07/3	良好	赤 赤色鉄・白色鉄・赤色雲母	外・内面1/3> 土部 内面1/3>
132	S20 60	土師器	甕	—	(5.4)	<4.3>	底面小	土色、黒褐色0/05/4	良好	赤 赤色鉄・白色鉄・赤色雲母	外・内面1/3>
132	S20 61	土師器	甕	(15.4)	8.0	<20.4>	口縁～底面	土色、黒褐色0/07/4	良好	赤	外面1/3> 土部 内面1/3>
132	S20 62	土師器	甕	4.5	3.0	3.3	口縁～底面	褐色0/06/6	良好	相模軟含む 赤色鉄・白色鉄	外面1/3> 土部 内面1/3>
132	S20 63	土師器	甕	<(11.3)>	<(6.2)>	3.0	口縁～底面	灰褐色0/1	良好	赤	上面に土質断面に於ける断面小片使っている。砂質
132	S21 1	土師器	高坏	—	—	<3.2>	体部小～体部小	褐色0/06/6	良好	相模軟含む 白色鉄・赤色雲母	外面1/3> 體部 内面1/3> 赤・土部
132	S21 2	土師器	高坏	—	—	<6.6>	体部	褐色0/07/8	良好	赤	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・土部 脚土仕
132	S21 3	土師器	高坏	—	—	<5.8>	体部	黄褐色0/07/8	良好	赤	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・土部 脚土仕
132	S21 4	土師器	蓋	—	(3.4)	<2.8>	口縁部～体部	外面：土色、黒褐色0/07/2 内面：黒7.5/07.8	良好	赤 赤褐色0/07/2	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・土部
132	S21 5	土師器	鉢	(11.6)	—	<6.5>	口縁1/4～体部	土色、黒褐色0/07/4	良好	赤	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・土部
132	S21 6	土師器	蓋	15.2	—	<6.6>	口縁～体部	明赤褐色0/05/6	良好	相模軟含む 赤色鉄・白色鉄	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・土部
132	S21 7	土師器	台付甕	—	—	<4.1>	体部	褐色0/06/8	良好	赤 長石	外・内面1/3>
132	S21 8	土師器	甕	—	—	<4.0>	口縁部小	土色、赤褐色0/03/4	良好	相模軟含む 赤色鉄・白色鉄・長石・石英	外面1/3> 土部 内面1/3> 黒褐色
132	S21 9	土師器	甕	(13.4)	—	<3.5>	口縁部小	褐色0/07/8	良好	相模軟含む 赤色鉄・白色鉄・長石・石英・赤色雲母	外面1/3> 土部 内面1/3> 黒褐色
132	S21 10	土師器	甕	(13.0)	—	<4.1>	口縁部	土色、赤褐色0/03/3～黒褐色0/2	良好	相模軟含む 白色鉄・赤色雲母	外面1/3> 土部 内面1/3> 赤・土部
132	S21 11	土師器	甕	(13.4)	—	<2.8>	口縁部小	明赤褐色0/05/6	良好	赤 赤色鉄・白色鉄・赤色雲母	外・内面1/3> 口縁部小の赤褐色化、土中に泥質赤褐色が散在、甕底に赤褐色土質が見える。
132	S21 12	土師器	甕	(9.8)	—	<6.2>	口縁～体部	褐色0/06/8	良好	相模軟含む 赤色鉄・白色鉄	外・内面1/3>
132	S21 13	土師器	甕	(13.0)	—	<9.7>	口縁小～体部小	褐色0/06/8	良好	相模軟含む 白色鉄・赤色鉄	外面1/3> 土部 内面1/3> 土部 内面1/3> 黒褐色

④ (数値)は表示元、<数値>は表示値

検 査 番 号	品名	種類	形状	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	部位	色調	硬度	検査 項目	検査 結果
133	SZ1 14	土師器	甕	—	17.0	<3.5>	重2.9817/1	底部小	黒色配・白色配・黄色葉目	良好	表面形状	内面→外
133	SZ1 15	土師器	甕	—	15.0	<1.9>	明彩:0.65/8	底部1/2	赤褐色配・白色配・黄色葉目	良好	表面形状	内面→外
133	SZ1 16	土師器	甕	—	7.0	<3.2>	明彩:0.6/6	底部1/2	赤褐色配・白色配・石灰・黄色葉目	良好	表面形状	内面→外
133	SZ1 17	石製品	碧玉	<1.8>	0.8	—	明彩:黄色0.02/1	—	赤褐色配	良好	重量	0.6g > 0.4g 測定
134	SZ2 1	土師器	杯	11.0	—	<3.2>	に.品:赤褐色0.04/4	口縁小～体部小	細砂粒含む 白色配・黄色葉目	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 2	土師器	杯	11.0	—	<3.3>	に.品:赤褐色0.04/4	口縁小～体部小	細砂粒含む 白色配・黄色配・黄色葉目	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 3	土師器	杯	13.0	—	<3.7>	重:0.20/1	口縁小～体部小	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外 12/9
134	SZ2 4	土師器	杯	12.0	—	<3.8>	明彩:0.6/8	口縁小～体部小	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外 12/9
134	SZ2 5	土師器	杯	14.0	—	<6.2>	明彩:0.06/8	口縁小～体部	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 6	土師器	杯	16.0	—	<7.1>	明彩:0.07/8	口縁小～体部	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 7	土師器	杯	12.8	—	<4.8>	明彩:0.07/8	口縁小～体部小	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 8	土師器	杯	14.8	<4.0>	<3.3>	赤褐色0.06/8	口縁小～体部小/4	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外 12/9
134	SZ2 9	土師器	杯	13.0	0.8	<6.3>	明彩:0.6/5→に.品:0.23/06/4	口縁小～体部	赤褐色配・白色配・黄色葉目	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 10	土師器	杯	—	14.2	<4.2>	明彩:0.06/6	体部小～底部1/2	赤褐色配・白色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 11	土師器	高杯	17.8	—	<4.6>	明彩:0.07/8	口縁1/8～体部	赤褐色配・黒石	良好	表面形状	→外側→外 内面→外 口縁部だけ磨
134	SZ2 12	土師器	高杯	19.0	—	<4.9>	明彩:0.07/8	口縁1/2	赤褐色配・黒石	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 13	土師器	高杯	22.0	—	<5.5>	明彩:0.07/8	口縁小～体部小	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外 12/9
134	SZ2 14	土師器	高杯	13.0	—	<4.1>	明彩:0.08/6	口縁部	赤褐色配・白色配・黄色葉目	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 15	土師器	高杯	19.0	<10.0>	<3.0>	明彩:0.07/8	口縁小～体部小	赤褐色配・黒石	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 16	土師器	高杯	15.8	—	<4.7>	に.品:0.23/07/4	口縁部2/3	赤褐色配・白色配・長石・石灰・黄色葉目	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 17	土師器	高杯	22.0	—	<5.5>	明彩:0.07/8	口縁1/4～体部	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 18	土師器	高杯	13.0	—	<3.8>	明彩:0.08/6	口縁～体部	細砂粒含む 赤褐色配・白色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
134	SZ2 19	土師器	高杯	14.0	—	<4.75>	明彩:0.08/8	口縁～体部	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外 磨5分
134	SZ2 20	土師器	高杯	13.0	—	<6.2>	に.品:黄褐色0.07/3	口縁1/8～体部小	細砂粒含む 赤褐色配・白色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外 磨5分
135	SZ2 21	土師器	高杯	15.2	16.2	8.6	明彩:0.07/6	光面	細砂粒含む 赤褐色配・白色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
135	SZ2 22	土師器	高杯	16.0	11.2	<8.1>	に.品:0.23/07/4	口縁1/8～底部1/2	細砂粒含む 赤褐色配・白色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
135	SZ2 23	土師器	高杯	15.4	16.2	9.8	明彩:0.07/6	口縁1/2～底部	赤褐色配	良好	表面形状	→外側→外 内面→外
135	SZ2 24	土師器	高杯	—	13.0	<6.7>	に.品:0.23/07/4	口縁1/2	赤褐色配・黒石	良好	表面形状	→外側→外 内面→外

※(数値)は数値元頭、<数値は>は存続

原 形 番号	原 名	種別	設備	口径 (mm)	直径 (mm)	最高 流速 (m/s)	部位	色調	噴水	粘土	備考
135	S22	土砂設備	高圧	116.0	—	<3.8>	口輪~体部	にぶ、黒ZJVKT/4	良好	赤色粘土・長石	外・内面ZJV
135	S22	土砂設備	高圧	—	19.0	<6.1>	体部~胴部	黒ZJV06/6	良好	赤	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV
135	S22	土砂設備	高圧	—	16.8	<6.3>	体部~底盤	黒ZJV06/6	良好	赤色粘土	外面→ZJVZ ZJV → 内面ZJV
135	S22	土砂設備	高圧	—	—	<5.0>	胴部	黒ZJV7/8	良好	赤色粘土・長石	外・内面ZJV →
135	S22	土砂設備	高圧	—	17.6	<6.6>	胴部Z/2	にぶ、黒ZJV06/4	良好	赤黒相混粘土・赤色雲母	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV 胴部ZJV
135	S22	土砂設備	高圧	—	110.0	<4.3>	胴部	黒ZJV06/6	良好	赤	外面ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV 胴部ZJV
135	S22	土砂設備	高圧	—	114.0	<5.1>	胴部Z/6	黒ZJV07/6	良好	赤色粘土・赤色雲母	外面ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV 胴部ZJV
135	S22	土砂設備	高圧	114.0	—	<1.8>	胴部	黒ZJVKT/6	良好	赤 長石・赤色雲母	外面ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV
135	S22	土砂設備	棒?	116.0	—	<6.2>	口輪小~体部Z/4	黒ZJV7/8	良好	赤色粘土・長石	外面ZJVZ →ZJVZ 内面ZJV →
135	S22	土砂設備	盤	116.0	—	<3.9>	口輪Z/2~底盤	黒ZJV06/8	良好	赤 長石	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV 胴部ZJV
135	S22	土砂設備	盤	—	3.1	<5.0>	体部Z/2~底盤	にぶ、黒ZJV06/4	良好	赤 赤黒相混粘土・白色粘土・赤色雲母	外面ZJVZ →ZJVZ 内面ZJV →ZJV
135	S22	土砂設備	筒	—	1.8	<6.0>	体部Z/4~底盤	黒ZJVKT/6	良好	赤 赤黒相混粘土・白色粘土	外面ZJVZ → 内面ZJV →ZJV
135	S22	土砂設備	筒	—	<4.0>	<2.4>	底盤	黒ZJV7/8	良好	赤色粘土・長石	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV
135	S22	土砂設備	筒	116.0	—	<4.1>	口輪部Z/4	赤黒相混粘土・赤色粘土・長石	良好	赤黒相混粘土・赤色粘土・長石	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV → 胴部ZJV
135	S22	土砂設備	筒	126.0	—	<5.1>	口輪~胴部Z/8	にぶ、黒ZJV07/4	良好	赤 赤黒相混粘土・白色粘土	外面ZJVZ → 内面ZJV → 胴部ZJV
135	S22	土砂設備	筒	122.0	—	<2.8>	口輪部小	黒ZJV06/8	良好	赤 赤黒相混粘土・白色粘土・長石	外・内面ZJV → 口輪部ZJV
135	S22	土砂設備	筒	116.0	—	<5.8>	口輪部小	黒ZJV7/8	良好	赤色粘土・長石	外・内面ZJV →
135	S22	土砂設備	筒	118.2	—	<7.8>	口輪部Z/4	黒ZJV06/8	良好	赤 長石	外・内面ZJV → 胴部ZJV
136	S22	土砂設備	筒	116.0	—	<2.1>	口輪小~体部Z/4	にぶ、黒ZJV06/4	良好	赤色粘土・長石	外・内面ZJV → 胴部ZJV
136	S22	土砂設備	筒	119.6	—	<14.0>	口輪~体部Z/4	外面→黒ZJV06/4 内面→にぶ、黒ZJV06/4	良好	赤黒相混粘土・長石・右赤・赤色雲母	外・内面ZJV → 口輪部ZJV →ZJV
136	S22	土砂設備	筒	26.4	—	<11.2>	口輪Z/2~体部	黒ZJV06/6	良好	赤黒相混粘土・白色粘土	外・内面ZJV → ZJV
136	S22	土砂設備	筒	—	13.0	<2.3>	体部小~底盤部小	黒ZJV06/6	良好	赤 赤黒相混粘土・白色粘土・赤色雲母	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV
136	S22	土砂設備	筒	—	12.0	<3.1>	体部小~底盤部小	黒ZJV06/6	良好	赤 赤色粘土・白色粘土・右赤・赤色雲母	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV
136	S22	土砂設備	筒	—	8.4	<2.1>	体部小~底盤部	外面→黒ZJV06/6 内面→にぶ、黒ZJV06/6	良好	赤 長石・赤色雲母	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV
136	S22	土砂設備	筒	—	7.6	<4.3>	底盤	黒ZJV07/6	良好	赤	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV →ZJV
136	S22	土砂設備	筒	—	6.6	<11.3>	体部~底盤	外面→黒ZJV7/6 内面→にぶ、黒ZJV07/4	良好	赤 長石	外面→ZJVZ ZJV 内面ZJV → ZJV
136	S22	土砂設備	筒	—	3.8	<6.1>	体部~底盤	黒ZJV06/8	良好	赤黒相混粘土・白色粘土	外・内面ZJV → 胴部ZJV

設 番号	品名 番号	品名 番号	種類	仕様	口径 (長)	底径 (短)	長さ (mm)	重量 (g)	部位	色調	組成	加工
137	SZ22	52	土師器	甕	—	8.0	<10.7>	—	底部	褐色	赤長石	良好
137	SZ22	53	土師器	甕	—	(1.6)	<1.8>	—	底部	褐色	赤色配・白色配・赤色雲母	良好
137	SZ22	54	土師器	甕	—	8.0	<2.7>	—	底部	褐色	赤色配・白色配・赤色雲母	良好
137	SZ22	55	土師器	甕	—	(8.0)	<1.8>	—	側壁～底部小	褐色	赤色・長石・石英・赤色雲母	良好
137	SZ22	56	土師器	甕	16.5	5.7	12.4	—	口縁～底部	褐色	細砂状含む・赤色配・白色配	良好
137	SZ22	57	土師器	甕	16.9	9.0	26.7	—	口縁～底部	褐色	細砂状含む・赤色配・白色配	良好
137	SZ22	58	土師器	甕	(16.2)	5.4	<26.5>	—	口縁1/2～底部	褐色	赤長石	良好
138	SZ22	59	土師器	甕	16.8	7.1	32.1	—	口縁～底部	褐色	細砂状含む・白色配	良好
138	SZ22	60	土師器	甕	(16.0)	—	<5.1>	—	口縁	褐色	赤色・長石	良好
138	SZ22	61	土師器	甕	(15.5)	—	<11.0>	—	口縁1/2～体部1/6	褐色	赤色・白色配・長石・石英・赤色雲母	良好
138	SZ22	62	土師器	甕	—	(10.0)	<6.1>	—	体部小～底部1/6	褐色	細砂状含む・赤色配・白色配・石英	良好
138	SZ22	63	土師器	甕	<13.9>	2.1	0.5	—	—	—	—	—
138	SZ22	64	土師器	甕	有孔円板	2.6	2.6	0.2	—	—	—	—
138	SZ23	1	土師器	杯	(14.3)	—	<5.3>	—	口縁1/6～体部小	褐色	白色配・赤色雲母	良好
138	SZ23	2	土師器	杯	(14.0)	—	<6.0>	—	口縁1/2～体部1/3	褐色	細砂状含む・赤色配・白色配・長石・石英・赤色雲母	良好
138	SZ23	3	土師器	杯	11.6	<2.0>	3.0	—	口縁～底部	褐色	赤色配	良好
138	SZ23	4	土師器	高杯	(11.2)	—	<3.3>	—	口縁～底部小	褐色	赤色配	良好
138	SZ23	5	土師器	高杯	(16.0)	—	<3.7>	—	口縁1/4～体部1/4	褐色	赤長石	良好
138	SZ23	6	土師器	高杯	—	—	<5.3>	—	体部	褐色	赤長石	良好
138	SZ23	7	土師器	高杯	—	(12.8)	<2.8>	—	側壁	褐色	赤長石	良好
138	SZ23	8	土師器	高杯	—	(11.0)	<3.5>	—	側壁1/2	褐色	赤長石	良好
138	SZ23	9	土師器	高杯	—	31.5	<4.7>	—	側壁	褐色	細砂状含む・赤色配	良好
138	SZ23	10	土師器	甕	(12.0)	—	<3.9>	—	口縁部1/4	褐色	赤色・白色配・赤色雲母	良好
138	SZ23	11	土師器	甕	(22.0)	—	<5.0>	—	口縁～体部1/4	褐色	赤色・長石・石英	良好
138	SZ23	12	土師器	甕	(16.0)	—	<11.7>	—	口縁～体部	褐色	細砂状含む・赤色配・白色配	良好
138	SZ23	13	土師器	甕	—	8.0	<19.2>	—	体部～底部	褐色	赤長石	良好
138	SZ23	14	土師器	甕	—	1.8	<1.8>	—	底部	褐色	赤色配・白色配・石英	良好
138	SZ23	15	土師器	甕	—	3.1	<2.7>	—	底部1/3	褐色	赤色・白色配・赤色雲母	良好

表 6 (数値) は毎元値、<数値は>は円値

原 形 番号	原 名	原料 番号	種別	設備	口径 (mm)	口径 (mm)	長さ (mm)	部材	色調	形状	胎土	備考
139	SD3	16	土師器	甕	—	17.0	<3.7>	底部1/4	黒2.5Y06/6	良好	赤褐色胎・白色胎・赤色雲母	外・内面1/2寸 → 2寸
139	SD3	17	土師器	甕	—	17.0	<6.3>	体部～底部	に赤い縞2.5Y08/3 → 灰黒縞 10Y06/2	良好	細砂粒含む 白色胎・赤色雲母	外・内面1寸
139	SD3	18	土師器	甕	14.0	—	<8.8>	口縁部小	黒2.5Y06/6	良好	赤褐色胎・白色胎	外・内面1寸
139	SD3	19	土師器	杯	—	—	<3.0>	口縁部小	灰黒2.5Y06/6	良好	赤褐色胎	外・内面1.5寸
139	SD3	20	土師器	高杯	—	13.8	<1.7>	体部～底部小	赤い縞2.5Y08/3 内面・灰黒2.5Y06/6	良好	赤褐色胎	外面1寸1/2寸 内面1.5寸胎付 胎付は灰黒胎
139	SD3	21	土師器	甕	—	—	<3.7>	体部小	灰2.5Y05/1	良好	赤褐色胎	外面1寸1/2寸 内面1.5寸胎付
139	SD3	22	土師器	甕	—	—	<3.4>	体部小	灰白色2.5Y07/1	良好	赤褐色胎	外面1.5寸胎付 胎付
139	SD3	23	土師器	丸埴子	<4.2>	1.5	0.8	口縁部小	に赤い縞2.5Y08/4	良好	赤褐色胎・白色胎・赤色雲母	外面1寸 → 2寸 内面1寸
139	SD3	24	土師器	丸埴子	<7.4>	2.9	1.0	口縁1/2～体部小	に赤い縞2.5Y08/3	良好	赤褐色胎・白色胎	外面1寸 → 2寸胎付 内面1寸胎付胎付
140	SD1	3	土師器	肥子打輪?	<3.4>	<1.9>	<1.6>	肥子	に赤い縞2.5Y08/4	良好	赤褐色胎・赤色雲母	
140	SD1	4	土師器	高杯	—	10.0	<1.3>	口縁部	に赤い縞黒10Y06/3	良好	赤褐色胎・白色胎・赤色雲母	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 胎付 胎付
140	SD1	5	土師器	鉢?	17.0	—	<3.8>	口縁部小～体部小	に赤い縞2.5Y08/4	良好	赤褐色胎含む 赤褐色胎・白色胎	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸
140	SD1	6	土師器	甕	—	14.0	<2.4>	口縁部1/4	黒2.5Y06/8	良好	赤褐色胎・赤褐色胎・赤色雲母	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸
140	SD1	7	土師器	甕	18.6	7.8	29.9	ほぼ器部	に赤い縞黒10Y07/3	良好	細砂粒含む 長石・赤褐色胎	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 胎付 胎付
140	SD1	8	土師器	甕	11.4	—	3.8	口縁1/4～体部小	明赤黒5Y05/8	良好	胎付 白色胎・長石・赤褐色胎	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 胎付 胎付
140	SD1	9	土師器	甕	—	—	<4.5>	肥子	に赤い縞黒10Y06/3	良好	細砂粒含む 白色胎	内面1寸
140	SD1	10	土師器	甕	0.5	0.5	0.4	灰2.5Y07/1	灰2.5Y07/1	良好	赤褐色胎含む 白色胎	黒色<0.1縞> 石粒 赤褐色胎部1.5寸胎付
140	SD1	11	土師器	甕	0.5	0.5	0.4	灰10S/2	灰10S/2	良好	赤褐色胎含む 白色胎	黒色<0.1縞> 石粒 赤褐色胎部1.5寸胎付
140	SD1	12	土師器	甕	0.5	0.5	0.3	灰10S/2	灰10S/2	良好	赤褐色胎含む 白色胎	黒色<0.1縞> 石粒 赤褐色胎部1.5寸胎付
140	SD2	1	土師器	杯	11.6	—	<4.0>	口縁部1/4	黒2.5Y06/8	良好	細砂粒含む 赤褐色胎	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 赤褐色胎部
140	SD2	2	土師器	杯	14.0	<6.8>	<3.1>	口縁1/4～底部	黒2.5Y06/8	良好	細砂粒含む 赤褐色胎・赤色雲母	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 赤褐色胎部
140	SD2	3	土師器	杯	14.8	3.0	4.2	口縁1/2～底部	黒2.5Y06/8	良好	細砂粒含む 赤褐色胎	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 赤褐色胎部
140	SD2	4	土師器	高杯	—	—	<3.1>	体部	黒2.5Y06/8	良好	赤褐色胎	外面1寸胎付 胎付
140	SD2	5	土師器	高杯	—	—	<6.0>	体部～脚部	に赤い縞10Y06/4	良好	細砂粒含む 赤褐色胎	外・内面1.5寸 → 2寸
140	SD2	6	土師器	器台	—	—	<3.1>	体部	黒2.5Y06/8	良好	赤褐色胎	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 胎付
140	SD2	7	土師器	甕	—	<10.0>	<5.3>	底部1/4	外面・明赤黒5Y05/8 内面・明赤黒5Y07/2	良好	細砂粒含む 赤褐色胎・長石・赤色雲母	外面1寸 → 2寸 内面1寸 → 2寸 胎付

設 番号	図 番号	種 目	2次 種目	口 径 (mm)	底 径 (mm)	深 さ (mm)	部 位	色 調	地 質	備 考	
140	SZ5	8	土砂部	11.0	—	<4.3>	口縁部1/3	に5.5#砂質シルト	密 赤色粘・白色粘・長石・石膏・ 黄色土	外面1/3部 赤 内面1/3部 赤/白	
140	SZ5	9	土砂部	11.0	—	<6.1>	口縁1/6～体部小	砂質シルト	粗砂粘含む 赤色粘・白色粘・長石・ 石膏・黄色土	外内面1/6部 赤	
140	SZ5	10	土砂部	—	8.0	<2.2>	体部～底面1/4	成層シルト	密 長石・黄色土	外内面1/4部 赤	
140	SZ5	11	土砂部	—	7.2	<3.1>	体部小～底面1/4	砂質シルト	密 赤色粘・長石・黄色土	外面1/4部 赤/白 内面1/4部 赤/白	
140	SZ5	12	土砂部	—	12.0	<3.6>	底面1/3	外面:明赤砂質シルト 内面:成層シルト	粗砂粘含む 赤色粘・長石・黄色土	外面1/3部 赤 内面1/3部 赤	
140	SZ5	13	土砂部	—	7.5	<6.2>	体部小～底面	成層シルト/4～砂質シルト/8	密 赤色粘・白色粘・石膏・黄色土	外面1/8部 赤/白 内面1/8部 赤/白	
141	SZ5	14	土砂部	100.0	8.0	34.4	口縁1/4～底面1/2	明赤砂質シルト	粗砂粘含む 白色粘・黄色土	外面1/2部 赤 内面1/2部 赤	
141	SZ5	15	土砂部	—	—	<4.6>	体部小	—	密 白色粘・黄色土	外面1/3部 赤/白 内面上部1/3部 下部赤	
141	SZ5	16	土砂部	—	—	<4.6>	口縁部小	に5.5#砂質シルト	粗砂粘含む 赤色粘・白色粘・長石・ 石膏・黄色土	外面1/6部 赤 内面1/6部 赤	
141	SZ5	17	石質土	6.6	3.8	3.9	底	泥	密 黒色粘	突出部	
141	SZ6	1	土砂部	高坪	11.7	—	口縁～体部	に5.5#泥質シルト	密	外内面1/3部 泥	
141	SZ6	2	土砂部	高坪	—	<14.0>	側面1/4	砂質シルト	密 赤色粘・長石・黄色土	外内面1/4部 赤	
141	SZ6	3	土砂部	高	—	<2.1>	→北側	砂質シルト	密 赤色粘・白色粘・黄色土	外面1/6部 赤/白 内面1/6部 赤	
141	SZ6	4	土砂部	集	—	10.0	底面1/4	砂質シルト	密 長石	外面1/6部 赤 内面1/6部 赤	
141	SZ6	5	土砂部	集	—	13.0	体部～底面	明赤砂質シルト	粗砂粘含む 赤色粘・白色粘・黄色土	外内面1/4部 赤	
141	SZ7	1	土砂部	坪	11.0	—	口縁1/4～体部小	砂質シルト	密	外面1/4部 赤/白 内面1/4部 黒/白/赤	
141	SZ7	2	土砂部	坪	12.8	4.6	131E体部	砂質シルト	密 赤色粘	外面1/4部 赤/白 内面1/4部 赤	
141	SZ7	3	土砂部	坪	13.6	3.9	4.8	口縁1/2～体部1/4	砂質シルト	密	外面1/2部 赤/白 内面1/2部 赤
141	SZ7	4	土砂部	坪	13.1	2.9	5.6	口縁～底面	粗砂粘含む 赤色粘	外面1/3部 赤/白 内面1/3部 赤	
141	SZ7	5	土砂部	坪	13.7	6.5	3.4	完部	明赤砂質シルト	外面1/3部 赤/白 内面1/3部 赤	
141	SZ7	6	土砂部	坪	5.9	3.9	完部	砂質シルト	粗砂粘含む 赤色粘	外面1/4部 赤/白 内面1/4部 赤	
142	SZ7	7	土砂部	高坪	—	<5.1>	体部	に5.5#砂質シルト	密 赤色粘・黄色土	外面1/6部 赤 内面1/6部 赤	
142	SZ7	8	土砂部	高坪	18.4	—	口縁小～体部小	砂質シルト	粗砂粘含む 赤色粘	外内面1/3部 赤 内面1/3部 赤	
142	SZ7	9	土砂部	高坪	—	10.0	体部～側面	砂質シルト	密 赤色粘	外面1/3部 赤/白 内面1/3部 赤	
142	SZ7	10	土砂部	高坪	13.9	9.0	7.7	口縁1/4～底面1/4	砂質シルト	密 赤色粘・長石	外面1/4部 赤/白 内面1/4部 赤
142	SZ7	11	土砂部	高坪	—	<4.9>	側面	砂質シルト	粗砂粘含む 白色粘・黄色土	外内面1/3部 赤 内面1/3部 赤	
142	SZ7	12	土砂部	高坪	—	<7.9>	側面	砂質シルト	粗砂粘含む 赤色粘・長石・石膏	外面1/3部 赤/白 内面1/3部 赤	
142	SZ7	13	土砂部	高坪	—	<7.7>	側面	砂質シルト	粗砂粘含む 赤色粘	外面1/3部 赤/白 内面1/3部 赤	

※(数値)は数値元、<数値は>数値

国名	通称番号	種類	登録	口径 (mm)	長さ (mm)	最高 速度 (km/h)	部位	色調	形状	粘土	備考
142	S27	土師器	高杯	—	114.0	<4.5>	胴部～底面1/8	褐色Y206/6	良好	赤褐色	外面はナリ、赤々、内面ナリ、ナリ
142	S27	土師器	高杯	—	114.0	<4.3>	胴部	褐色Y206/6	良好	赤褐色	外・内面ナリ
142	S27	土師器	鉢	—	—	<6.2>	口縁部小	褐色Y207/8	良好	黒褐色	外・内面ナリ、ナリ
142	S27	土師器	鉢	—	—	<4.7>	口縁小～体部小	赤・白・褐色Y205/4	良好	赤・白色・白色・赤・白色・赤・白色・赤・白色	外面はナリ、ナリ、内面はナリ、ナリ
142	S27	土師器	鉢	114.0	—	<4.8>	口縁～体部	褐色Y207/8～赤・白・褐色Y207/4	良好	赤褐色	外・内面ナリ
142	S27	土師器	鉢	114	3.7	—	口縁部	褐色Y206/6	良好	赤褐色	外面ナリ、ナリ、内面ナリ、ナリ
142	S27	土師器	鉢	124	3.0	6.4	口縁1/2～底面1/4	褐色Y207/8	良好	赤褐色	外面はナリ、ナリ、内面はナリ、ナリ、赤・白・褐色
142	S27	土師器	鉢	—	4.3	<1.2>	体部小～底面1/2	褐色Y206/6	良好	細粒状含む赤褐色	外面はナリ、内面はナリ、底面はナリ
142	S27	土師器	鉢	—	14.0	<1.6>	体部～底面1/2	褐色Y206/6	良好	細粒状含む赤褐色	外・内面ナリ、底面はナリ
142	S27	土師器	有足鉢	12.7	4.0	7.6	口縁～底面	赤・白・黄褐色Y207/3	良好	細粒状含む白色	外面はナリ、褐色、内面はナリ、ナリ、褐色
142	S27	土師器	甕	—	4.8	<7.7>	体部～底面	褐色Y206/6	良好	細粒状含む赤褐色	外面はナリ、ナリ、下部はナリ、ナリ、ナリ
142	S27	土師器	甕	14.0	—	<5.9>	口縁部1/3	赤・白・褐色Y207/4	良好	赤褐色・白色	外・内面ナリ、口縁外縁～内面はナリ、ナリ
142	S27	土師器	甕	19.0	—	<8.1>	口縁1/8～体部2/8	褐色Y206/6	良好	赤褐色	外面ナリ、内面ナリ、底面はナリ
142	S27	土師器	甕	16.0	—	<6.3>	口縁部1/2	赤・白・黄褐色Y207/3	良好	赤褐色・白色・赤・白色・赤・白色	外・内面ナリ、ナリ
142	S27	土師器	甕	28.0	—	<6.3>	口縁1/8～体部小	赤・白・黄褐色Y206/4	良好	赤褐色・白色・赤・白色・赤・白色	外・内面ナリ、ナリ
142	S27	土師器	甕	16.4	—	<14.0>	口縁～体部2/8	褐色Y206/6	良好	細粒状含む赤褐色・白色	外・内面ナリ、底面はナリ
143	S27	土師器	甕	17.9	—	<16.4>	口縁～体部	灰白Y208/2	良好	赤褐色・白色・赤・白色・赤・白色	外面はナリ、ナリ、内面はナリ、ナリ
143	S27	土師器	甕	—	6.1	<5.2>	体部小～底面	赤・白・褐色Y207/4	良好	細粒状含む赤褐色	外面はナリ、ナリ、底面はナリ、ナリ
143	S27	土師器	甕	—	3.9	<4.3>	体部小～底面	赤・白・黄褐色Y207/3	良好	細粒状含む白色・赤褐色	外面はナリ、内面はナリ、底面はナリ、ナリ
143	S27	土師器	甕	—	6.4	<4.7>	体部1/4～底面	外面は褐色Y205/8 内面は褐色Y207/6	良好	細粒状含む赤・白色・赤・白色	外面はナリ、ナリ、内面はナリ、ナリ
143	S27	土師器	甕	—	7.8	3.0	体部～底面	外面は褐色Y205/1 内面は赤・白・黄褐色Y207/3	良好	細粒状含む白色	外面はナリ、ナリ、内面はナリ、ナリ
143	S27	土師器	甕	—	8.0	6.1	体部～底面	赤・白・褐色Y207/4	良好	赤褐色・赤	外面はナリ、ナリ、内面はナリ、ナリ
143	S27	土師器	甕	15.6	8.0	21.0	口縁部	口縁は褐色Y208/3 体部は褐色Y208/1 底面は褐色Y207/6	良好	赤褐色	外面はナリ、ナリ、内面はナリ、ナリ
143	S27	土師器	甕	17.7	4.0	3.3	底部	灰白Y207/2	良好	赤褐色	外面ナリ、内面ナリ、底面はナリ
143	S27	土師器	甕	—	—	<3.7>	体部小	褐色Y206/6	良好	赤褐色	外面はナリ、内面はナリ、底面はナリ
143	S27	土師器	甕	—	—	<8.3>	体部小	褐色Y206/6	良好	赤褐色	外面はナリ、内面はナリ、底面はナリ
143	S27	土師器	足付	<3.3>	<2.3>	<3.0>	片足	赤・白・褐色Y207/4	良好	赤褐色・赤・白	外面はナリ、内面はナリ、底面はナリ
143	S27	土師器	甕	3.5	9.7	9.6	甕	褐色Y206/6	良好	赤褐色・赤・白	外面はナリ、内面はナリ、底面はナリ

設 番号	品名	品目	仕様	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	容積 (ml)	部位	色調	組成	粘土	備考
143	SZ7	42	分装品 第三	2.5	0.45	0.45		黒色の2分1				重量<100g> 61片 厚さ<1.0mm>
144	SZ8	1	土磁器 杯	<16.0>	<7.0>	<5.0>		口径小~底部小	に高>2.0mm/2	良好	非樹形色<長石>・金色葉目	外面<1>~>2分1 >3分1 内面<1>~>2分1
144	SZ8	2	土磁器 杯	(12.8)	—	<5.1>		口径1/4~体部小	に高>2.0mm/4	良好	密 白色	外面<1>~>3分1 内面<1>~>4分1
144	SZ8	3	土磁器 杯	13.0	3.0	4.3		口径1/2~底径1/4	に高>2.0mm/2~に高>4.0mm/4	良好	非樹形色<白色>・金色葉目	外面<1>~>3分1 内面<1>~>4分1
144	SZ8	4	土磁器 高杯	—	—	<2.2>		体部小~側部小	底径0.7mm	良好	粗樹形色含む 非樹形色<白色>・6葉目	外<内面>1分1 高さ0.7mm
144	SZ8	5	土磁器 高杯	—	—	<9.2>		側部1/2	側部高2.0mm/6	良好	粗樹形色含む 長石	外面<1>~>8の間に3葉目 内面<1>~>4分1 1分1
144	SZ8	6	土磁器 鉢	(16.0)	—	<7.1>		口径部小	に高>2.0mm/2	良好	非樹形色<白色>・金色葉目	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1
144	SZ8	7	土磁器 有足鉢	(14.0)	—	6.6		口径~底径	底径0.5mm/8	良好	密	外面<1>~>4分1 底径0.6mm
144	SZ8	8	土磁器 鉢?	—	5.3	<5.6>		体部小~側部	底径0.10mm/2	良好	粗樹形色含む 非樹形色<白色>	外面<1>~>4分1 底径0.10mm
144	SZ8	9	土磁器 甕	(12.0)	—	<4.3>		口径部	底径0.10mm/2	良好	密 長石・金色葉目	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1
144	SZ8	10	土磁器 甕	(16.0)	—	<2.9>		口径部1/6	粗樹形色含む 非樹形色<白色>・長石	良好	粗樹形色含む 非樹形色<白色>・長石	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1
144	SZ8	11	土磁器 甕	(16.8)	—	<3.7>		口径部小片	底径0.8mm	良好	密 長石	外<内面>1分1
144	SZ8	12	土磁器 甕	—	8.4	<5.9>		体部~底径	底径0.8mm/2~に高>2.0mm/2	良好	粗樹形色含む 非樹形色<白色>・金色葉目	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1 輪縁直
144	SZ8	13	土磁器 甕	—	<9.0>	<4.3>		底径1/4	外面>2.0mm/8 内面>2.0mm/8	良好	密 非樹形色<長石>・金色葉目	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1
144	SZ8	14	土磁器 甕	—	—	<3.7>		体部小	底径0.6mm	良好	密	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1 同心円当高直
145	SZ9	1	土磁器 杯	13.0	—	<2.9>		口径部1/4	底径0.6mm	良好	非樹形色<長石>	外<内面>1分1
145	SZ9	2	土磁器 杯	(14.0)	—	<4.9>		口径部1/4	底径0.6mm	良好	非樹形色<長石>	外<内面>1分1
145	SZ9	3	土磁器 高杯	—	13.6	<7.4>		側部	に高>4mm	良好	粗樹形色含む 非樹形色	外面<1>~>3分1 1分1 側径0.6
145	SZ9	4	土磁器 甕	(9.8)	—	<3.3>		口径部	底径0.7mm/6	良好	粗樹形色含む 非樹形色	外面<1>~>3分1 1分1 輪縁直
145	SZ9	5	土磁器 甕	(16.0)	—	<5.7>		口径1/8~体部1/6	底径0.10mm/2	良好	密 非樹形色<長石>・長石	外面<1>~>3分1 1分1 輪縁直
145	SZ9	6	土磁器 甕	(20.0)	—	<4.7>		口径部1/6	底径0.6mm	良好	密 長石	外<内面>1分1
145	SZ9	7	土磁器 甕	(16.0)	—	<3.4>		口径1/8~体部小	底径0.6mm	良好	粗樹形色含む 非樹形色	外面<1>~>3分1 1分1 内面<1>~>3分1
145	SZ9	8	土磁器 甕	(23.0)	—	<5.2>		口径1/4~体部	底径0.10mm/2	良好	非樹形色<白色>・金色葉目	外<内面>1分1 1分1 底径0~>3分1
145	SZ9	9	土磁器 甕	—	4.6	<1.8>		体部小~底径1/2	底径0.3mm/4	良好	粗樹形色含む 非樹形色<白色>・6葉目	外<内面>1分1 1分1 底径0~>3分1
145	SZ9	10	土磁器 甕	—	(2.0)	<2.9>		底径小	底径0.5mm/8~側部高5.8	良好	非樹形色<白色>・長石・金色葉目	外<内面>1分1 1分1 底径0~>3分1
145	SZ9	11	土磁器 甕	—	(5.0)	<4.0>		底径小	に高>2.0mm/2	良好	密 非樹形色<白色>・金色葉目	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1
145	SZ9	12	土磁器 甕	—	(4.0)	<3.9>		底径小	に高>2.0mm/2	良好	密 非樹形色<白色>・金色葉目	外面<1>~>4分1 内面<1>~>4分1
145	SZ9	13	土磁器 甕	—	6.8	<4.0>		体部~底径	に高>2.0mm/2~側径0.6mm/4	良好	粗樹形色含む 白色	外面<1>~>4分1 輪縁直 内面<1>~>4分1 輪縁直



6 (費品) は部元値、<費品は>部元値

原 形号	品名	品物 番号	種別	設備	口径 (mm)	長さ (mm)	部高 (mm)	部位	色調	形状	粘土	備考
143	S30	1	土師器	平唇土器	6.1	2.1	4.4	先形	灰黒色の0308/2	良好	細砂粘土・赤色配・長石・石英	外・内面滑り・散面皿
143	S30	2	土師器	高弁	—	—	<3.1>	体部小~体部小	明褐色の0306/6	良好	細砂粘土・白色配・赤色雲母	外面→外口? (→外口?) 内面滑り→外口?
143	S30	3	土師器	高弁	—	(10.0)	<3.9>	脚部	褐色047/8	良好	赤色配・長石・赤色雲母	外・内面滑り? 穴の形状 散面皿不明
143	S30	4	土師器	鉢	(18.0)	—	<2.9>	口縁部小	明赤色の0305/6~(2.5)赤褐色0381/3	良好	赤色配・長石・赤色雲母	外面→外口? →? 内面→?
143	S30	5	土師器	鉢	(26.0)	—	<2.4>	口縁部/A	明赤色の0305/6 内面→散面皿 外底→散面皿	良好	赤色配・長石・赤色雲母	外面滑り→外口? 内面→? →外口? →外口?
143	S30	6	土師器	鉢	(13.8)	—	<2.5>	口縁~体部	灰黒色の0308/2	良好	赤色配・長石・赤色雲母	外面→外口? →外口? 散面皿 内面滑り? →外口?
143	S30	7	土師器	蓋	(14.0)	—	<1.9>	口縁部小	(2.5)→散面皿0381/4	良好	赤色配・白色配・長石・石英	外・内面滑り? 散面皿
143	S30	8	土師器	蓋	—	—	<2.1>	体部~底面	灰黒色の0308/4	良好	赤	外面→? →外口? 内面→? →?
143	S30	9	土師器	蓋	—	4.0	<3.9>	体部~底面	内面→(2.5)→散面皿0381/3	良好	赤石	外面→外口? →外口? →? 内面→? →?
146	S30	10	土師器	台付壺	(23.6)	—	<3.7>	口縁~体部	(2.5)→散面皿0381/4	良好	細砂粘土・赤色配・白色配・赤色雲母	外面→? →外口? →? 内面滑り 散面皿
146	S30	11	土師器	壺	(17.4)	—	<20.3>	口縁/小~体部/A	(2.5)→黄褐色0381/4	良好	赤	外面→? →外口? →? 内面→散面皿 散面皿
146	S30	12	土師器	壺	—	4.0	<2.6>	底面	(2.5)→散面皿0381/4	不良	赤色配・白色配・長石	外面→外口? →? 内面滑り? →?
146	S30	13	土師器	壺	—	(9.0)	<2.6>	底面/B	褐色036/8	良好	赤色配・白色配・長石・赤色雲母	外・内面滑り? 底面内面滑り(底面)
146	S30	14	赤土器	赤土壺	—	—	—	口縁~体部小	外面→散面皿0381/3 内面→散面皿0381/1	良好	細砂粘土・白色配・赤色雲母	外面→散面皿散状文 内面→? →?
146	S30	15	陶製品	埴子	<3.2>	1.8	0.7	—	褐色047/8	良好	赤色配	壺高<6.6(仮)>
146	S31	1	土師器	高弁	—	—	<6.0>	体部~脚部	褐色047/8	良好	赤	外面滑り? →外口? 内面滑り? 散面皿036/9
146	S31	2	土師器	鉢	—	—	<5.1>	口縁~体部小	(2.5)→散面皿0381/4	良好	赤	外面滑り? 内面滑り? 下面散面皿
146	S31	3	土師器	鉢	(9.3)	—	<4.5>	口縁/小~体部小	外面→(2.5)→散面皿0381/4 内面→散面皿0381/3	良好	赤色配・長石・石英	外面→外口? →? 内面滑り? →外口?
146	S31	4	土師器	蓋	—	—	<2.1>	体部小	明褐色0307/6	良好	赤	粘土層間付付付 散面皿 入散状
146	S31	5	土師器	蓋	—	—	<2.9>	口縁部小	褐色036/8	良好	赤色配・長石・赤色雲母	外・内面滑り? 口縁部 粘土層間付付
146	S31	6	土師器	蓋	(22.8)	—	<2.4>	口縁部小	灰黒色の0306/6	良好	赤石	外・内面滑り?
146	S31	7	土師器	蓋	(18.0)	—	<2.1>	口縁部小	褐色047/8	良好	赤色配・赤色雲母	外面滑り? →外口? →? 内面滑り? →外口?
146	S31	8	土師器	蓋	—	3.8	<2.3>	口縁/小~体部小	黒褐色0303/1	良好	赤色配・白色配	外面→外口? →外口? 内面滑り?
146	S31	9	土師器	蓋	—	6.6	<3.0>	体部~底面/B	黒褐色0303/1	良好	赤石・赤色配・赤色雲母	外面→外口? →? 内面滑り?
147	S31	10	土師器	台付壺	(14.0)	—	<4.2>	口縁/小~体部小	外面→散面皿0381/3 内面→(2.5)→散面皿0381/2	良好	赤色配・白色配・長石・石英・赤色雲母	外面滑り? →? 内面滑り? →外口?
147	S31	11	土師器	台付壺	(16.0)	—	<3.5>	口縁/小~体部小	褐色0306/6	良好	赤石・赤色雲母	外面滑り? →? 内面滑り? 散面皿
147	S31	12	土師器	台付壺	—	—	<1.6>	体部	(2.5)→散面皿0381/4	良好	細砂粘土・赤色配・白色配・赤色雲母	外面滑り? →? 内面滑り?
147	S31	13	土師器	台付壺	—	—	<2.4>	体部	褐色047/8	良好	細砂粘土・長石・赤色雲母	外面滑り? →外口?

設 番号	品名 番号	種別	仕様	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	部位	色調	組成	加工	備考
147	S31	14	土師器 付付巻	—	—	<2.3>	体部	惣S306.5/内径S304.2	細砂粘土・白色配・金色葉目	外面→外→内面→外	内面→外
147	S31	15	土師器 付付巻	—	—	<2.6>	体部	惣S306.8	惣	外面→外	内面→外→外
147	S31	16	土師器 付付巻	—	6.0	<4.1>	胴部～底部	惣S306.6	粗砂粘土・赤色配・白色配・金色葉目	外面→外→外	内面→外→外
147	S31	17	土師器 付付巻	—	0.0	<3.9>	胴部口	に呂・惣S307.4～惣S306.6	細砂粘土・白色配・金色葉目	外→内面→外	内面→外
147	S31	18	土師器 巻	—	—	<6.6>	底部	惣S307.6	惣 長石・金色葉目	外面→外→外	内面→外
147	S32	1	土師器 片	01.4	—	<3.9>	口縁1/2～体部	惣S306.8	惣 赤色配・長石	外面→外→外	内面→外
147	S32	2	土師器 片	01.8	—	3.6	口縁1/2～底部	外面・惣S307.8 内面・惣S306.8	細砂粘土・赤色配	外→内面→外→外	内面→外
147	S32	3	土師器 底片	04.4	—	<3.3>	口縁部口	外面・粗砂粘土S308.4 内面・黒砂S307.8	惣 赤色配	外→内面→外	内面→外
147	S32	4	土師器 底片	03.6	—	<3.0>	口縁部口/A	惣S306.8	惣 赤色配・長石・金色葉目	外→内面→外	内面→外
147	S32	5	土師器 底片	02.6	—	<5.0>	口縁1/2～体部	惣S306.8	惣 赤色配	外→内面→外	内面→外
147	S32	6	土師器 底片	—	—	<2.4>	体部小	に呂・惣S306.3	細砂粘土・赤色配・白色配・赤色配・金色葉目	外面→外→外	内面→外
147	S32	7	土師器 底片	—	—	<1.8>	体部小	に呂・惣S307.4	惣 長石・金色葉目	外面→外	内面→外
147	S32	8	土師器 底片	—	—	<3.1>	体部	惣S307.8	惣 赤色配	外面→外→外	内面→外
147	S32	9	土師器 底片	—	—	<0.2>	体部～胴部	惣S306.6	粗砂粘土・赤色配	外面→外→外	内面→外
147	S32	10	土師器 底片	—	03.4	<4.1>	胴部～底部1/3	に呂・惣S306.4	粗砂粘土・赤色配・長石	外面→外→外	内面→外
147	S32	11	土師器 底片	—	—	<1.1>	体部	惣S306.8	惣 赤色配・長石・赤色葉目	外面→外→外	内面→外
147	S32	12	土師器 底片	—	—	<1.3>	体部	惣S306.8	惣 赤色配・赤葉	外→内面→外	内面→外
147	S32	13	土師器 底片	3.9	—	<0.9>	→上外面	惣S306.8	惣 赤色配・白色配	外面→外	内面→外
147	S32	14	土師器 底片	2.8	13.8	4.4	口縁～底部1/3	惣S306.6	惣 赤色配・長石	外面→外	内面→外
147	S32	15	土師器 底片	8.6	—	<3.9>	口縁部	惣S306.8	惣 赤色配	外面→外	内面→外
147	S32	16	土師器 底片	03.6	—	<3.0>	口縁部小	惣S306.8	惣 赤色配・白色配・金色葉目	外面→外→外	内面→外
147	S32	17	土師器 底片	—	02.0	<5.4>	体部～底部	惣S307.8	粗砂粘土・赤色配・長石	外面→外→外	内面→外
147	S32	18	土師器 底片	—	—	<2.7>	底部	黒砂S307.8	惣 赤色配	外面→外→外	内面→外
147	S32	19	土師器 底片	—	2.5	<4.7>	底部	成黒砂S306.4	惣 赤色配	外面→外→外	内面→外
148	S32	20	土師器 付付巻	—	—	<3.1>	体部	惣S306.8	惣 長石	外面→外→外	内面→外
148	S32	21	土師器 巻	01.4	—	<6.9>	口縁1/2～体部1/2	外面・粗砂粘土S305.8 内面・惣S306.6	粗砂粘土・赤色配・長石・赤葉	外面→外→外	内面→外
148	S32	22	土師器 巻	02.0	—	<6.3>	口縁1/2～体部小	に呂・惣S307.4	粗砂粘土・赤色配・白色配・赤色配・長石・赤葉・赤色葉目・赤色葉目	外面→外→外	内面→外
148	S32	23	土師器 巻	—	0.0	<2.3>	体部～底部1/3	粗砂粘土S305.6	惣 赤色配・長石・赤色葉目	外→内面→外	内面→外

※（数値）は毎元値、＜数値は＞は付存

品名 番号	区分	通称	類別	設備	口径 (mm)	高さ (mm)	長さ (mm)	部材	色調	構造	新工	備考
148	S32	24	土師器	壺	—	5.8	<1.2>	胴部・底面1/2	明褐色J308/6	良好	赤・赤色配・長石・赤色薬目	外面1/2> 内面1/2> 底面1/2> 底面
148	S32	25	6器品	瓶石	5.0	2.4	1.8	口縁小～底面	灰白J2308/2		赤・赤色配・赤色薬目	外面1/2> 内面1/2> 口縁小～底面
148	S33	1	土師器	手取土器	14.0	2.5	3.7	口縁小～底面	相J308/6	良好	赤・赤色配・赤色薬目	外面1/2> 内面1/2> 口縁小～底面
148	S33	2	土師器	高杯	(16.8)	—	<3.7>	口縁1/3～胴部小	に白・相J308/7	良好	赤・赤色配・赤色薬目	外面1/2> 内面1/2> 内面1/2>
148	S33	3	土師器	高杯	(13.6)	—	<4.6>	口縁1/3～胴部小	相J307/6	良好	赤・赤色配	外・内面1/2>
148	S33	4	土師器	高杯	(17.0)	—	<4.6>	口縁部1/4	相J308/8	良好	赤・赤色配・長石	外・内面1/2> 全体・胴部
148	S33	5	土師器	高杯	—	—	<4.6>	胴部～胴部	に白・相J308/4	良好	細砂配含む 赤色配	外・内面1/2> 全体・胴部
148	S33	6	土師器	高杯	(21.6)	—	<6.3>	口縁1/3～胴部	に白・相J2308/6/4	良好	赤・赤色配	外・内面1/2> 全体・胴部
148	S33	7	土師器	高杯	—	—	<5.1>	胴部	相J308/8	良好	赤・赤色配	外・内面1/2>
148	S33	8	土師器	高杯	—	—	<6.3>	胴部	相J308/6	良好	細砂配含む 赤色配・白色配	外面1/2(口縁方向のみ) > 内面1/2 > 内面1/2 >
148	S33	9	土師器	高杯	—	<5.0>	<3.7>	胴部1/2	明赤褐色J308/8	良好	赤・赤色配・長石	外面1/2> 内面1/2 > 内面1/2 > 胴部
148	S33	10	土師器	高杯	—	(13.6)	<8.3>	胴部1/4	に白・相J2308/6/4	良好	細砂配含む 赤色配・白色配・長石・赤色薬目	外・内面1/2> 胴部
148	S33	11	土師器	高杯	—	13.8	<10.3>	胴部2/3～胴部小	相J308/6	良好	細砂配含む 赤色配	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 > 外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 >
148	S33	12	土師器	高杯	—	13.2	<9.2>	胴部2/3	相J308/6	良好	赤・赤色配・白色配・長石・赤色薬目	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 > 外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 >
148	S33	13	土師器	高杯	—	16.7	<8.1>	胴部～胴部	相J308/6	良好	赤・赤色配	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 > 外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 >
148	S33	14	土師器	高杯	—	14.5	<10.7>	胴部～胴部	相J308/6	良好	赤・赤色配・赤色薬目	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 > 外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2 >
148	S33	15	土師器	器台	—	—	<1.9>	体部	相J308/6	良好	赤・長石	外・内面1/2> 胴部
149	S33	16	土師器	器台	—	—	<6.8>	口縁部	相J308/8	良好	赤・赤色配	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	17	土師器	壺	12.0	—	<6.8>	口縁部	相J308/8	良好	赤・赤色配	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	18	土師器	壺	(11.0)	—	<7.1>	口縁～胴部	に白・相J308/7/4	良好	細砂配含む 赤色配・白色配	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	19	土師器	壺	—	(3.6)	<5.3>	体部1/2～底面1/2	相J308/6	良好	細砂配含む 赤色配・白色配	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	20	土師器	壺	—	(2.0)	<3.1>	体部小～底面1/3	に白・相J308/7/3	良好	赤・赤色配・白色配・長石・赤色薬目	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	21	土師器	壺	—	2.2	<5.1>	体部小～底面	相J308/6	良好	細砂配含む 赤色配・白色配・赤色薬目	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	22	土師器	壺	—	—	<3.3>	体部1/3	相J307/6	良好	赤・赤色配	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	23	土師器	壺	(29.2)	—	<6.6>	口縁部小	に白・相J2308/7/3	良好	細砂配含む 長石・赤色薬目	外・内面1/2>
149	S33	24	土師器	壺	—	—	<4.8>	口縁部小	相J308/6	良好	細砂配含む 赤色配・白色配・赤色薬目	外・内面1/2> 胴部一部分(口縁のみ)
149	S33	25	土師器	壺	(13.0)	—	<2.8>	口縁部小	相J308/6	良好	細砂配含む 赤色配・白色配・赤色薬目	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	26	土師器	壺	(17.0)	—	<3.6>	口縁部小	相J308/6	良好	細砂配含む 赤色配・白色配・長石・赤色薬目	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部
149	S33	26	土師器	壺	14.0	—	<7.2>	口縁小(口縁部小)	に白・相J2308/7/4	良好	赤・赤色配・赤色薬目	外面1/2(口縁のみ) > 内面1/2(口縁のみ) > 胴部

設 番号	品名	規格	22種	口径 (mm)	底径 (mm)	総高 （mm）	部位	色調	組成	富士
149	S33 27	土師器	甕	11.6	—	<11.2>	口縁1/4～体部1/4	外面:紺S306/6 内面:灰白S302/2	良好	紺赤粘含む 長石・石灰・赤色雲母
149	S33 28	土師器	甕	—	13.0	<11.2>	体部	紺S306/6	良好	紺赤粘含む 赤色粘・白色粘・赤色雲母
149	S33 29	土師器	甕	—	13.0	<11.8>	体部～底縁1/2	紺S306/6	良好	紺 紺色粘・長石
149	S33 30	土師器	甕	—	10.0	<11.1>	底縁1/4	紺S306/6	良好	紺赤粘含む 赤色粘・長石・石灰・赤色雲母
149	S33 31	土師器	甕	—	16.0	<3.2>	体部1/4～底縁	外面:紺S306/8 内面:黒紺10X32/2	良好	紺赤粘含む 赤色粘・長石・石灰
149	S33 32	土師器	甕	—	17.0	<2.8>	体部小～底縁1/3	紺L308/6	良好	紺 赤色粘・白色粘・石灰
149	S33 33	土師器	甕	—	6.0	<3.9>	体部小～底縁1/4	紺赤S305/6	良好	紺赤粘含む 白色粘・赤色雲母
149	S33 34	土師器	甕	—	17.0	<6.1>	体部小～底縁1/4	に灰・紺S306/4	良好	紺赤粘含む 赤色粘・白色粘・赤色雲母
149	S33 35	土師器	甕	16.8	7.0	25.4	口縁1/2～底縁	に灰・紺S307/4	良好	紺赤粘含む 赤色粘・白色粘・赤色雲母
150	S33 36	土師器	甕	26.4	6.8	26.2	口縁1/2～底縁	に灰・黒紺10X7/4	良好	紺赤粘含む 長石・赤色雲母
150	S34 1	土師器	高坏	12.0	—	<5.0>	口縁1/4	紺L308/8	良好	紺 赤色粘・長石・赤色雲母
150	S34 2	土師器	高坏	—	—	<5.2>	胴部	紺L308/6	良好	紺 赤色粘・白色粘
150	S34 3	土師器	高坏	—	—	<7.8>	胴部	紺S307/8	良好	紺 赤色粘
150	S34 4	土師器	高坏	—	13.0	<1.2>	胴部	紺S306/8	良好	紺 赤色粘・長石
150	S34 5	土師器	高坏	—	17.0	<3.1>	胴部小	に灰・紺L307/4	良好	紺 赤色粘・白色粘
150	S34 6	土師器	甕	8.7	2.3	8.6	口縁1/2～底縁	紺L308/6	良好	紺赤粘含む 白色粘
150	S34 7	土師器	甕	18.0	2.8	9.0	口縁1/2～底縁	紺L307/6	良好	紺 赤色粘・長石
150	S34 8	土師器	甕	11.2	1.8	12.3	口縁1/4～体部1/4	紺L307/6	良好	紺赤粘含む 赤色粘・白色粘・赤色雲母
150	S34 9	土師器	甕	—	3.0	<1.9>	体部1/2～底縁	に灰・紺L305/4～紺S303/0	良好	紺 赤色粘・白色粘・赤色雲母
150	S34 10	土師器	甕	—	12.0	<2.9>	体部小～体部小	紺L307/6～紺S306/6	良好	紺 赤色粘・白色粘・赤色雲母
150	S34 11	赤土器?	甕?	18.0	—	<3.0>	口縁小～体部小	に灰・紺L308/4	良好	紺赤粘含む 赤色粘・白色粘・赤色粘・赤色雲母
150	S34 12	土師器	甕	13.0	—	<11.1>	口縁1/4～体部1/4	外面:黒紺10X7/8 内面:に灰・紺L307/4	良好	紺 赤色粘・長石
150	S34 13	土師器	甕	16.7	3.6	19.3	口縁～底縁	に灰・紺L307/4～に灰・紺S3/4	良好	紺 赤色粘・白色粘・赤色雲母
150	S34 14	土師器	甕	—	16.0	<2.7>	底縁1/3	に灰・紺L308/4	良好	紺 赤色粘・白色粘・赤色雲母
151	S35 1	土師器	杯	13.2	—	<3.9>	口縁部	紺L307/6	良好	紺 赤色粘
151	S35 2	土師器	杯	13.0	—	<3.8>	口縁部	紺L307/6	良好	紺 赤色粘
151	S35 3	土師器	片	12.4	—	3.1	口縁部	外面:灰白S328/2 内面:紺L307/8	良好	紺赤粘含む 赤色粘
151	S35 4	土師器	片	—	6.0	<1.3>	体部小～底縁	紺S307/6	良好	紺赤粘含む 赤色粘・赤色雲母

※(数値)は概元値、<数値>は概存値

原 形 番号	原 名	種別	設備	口径 (mm)	高さ (mm)	部材	色調	形状	胎土	備考
151	S35 5	土師器	高坏	28.0	<5.1>	口縁1/4~胴部	にぶ、暗LJY086/4	良好	相模粘土・赤色配	外・内面1/4~胴部
151	S35 6	土師器	高坏	22.0	<5.0>	口縁~胴部	にぶ、暗LJY086/4	良好	相模粘土・赤色配・白色配	外・内面1/4~胴部
151	S35 7	土師器	高坏	19.0	<5.1>	口縁1/3~体部	にぶ、暗LJY086/4	良好	赤・赤色配・赤・赤色黒目	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 8	土師器	高坏	18.8	13.0	口縁1/2~底面1/2	暗LJY087/6	良好	赤・赤色配・白色配	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 9	土師器	高坏	—	<5.1>	体部	暗LJY087/8	良好	赤・赤色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 10	土師器	高坏	—	<5.3>	体部	暗LJY087/8	良好	相模粘土・赤色配・白色配	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 11	土師器	高坏	—	<5.7>	胴部	外面:暗LJY086/8 内面:黒暗LJY082/2	良好	赤・赤色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 12	土師器	高坏	—	<6.7>	胴部	暗LJY086/8	良好	赤・赤色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 13	土師器	高坏	—	<7.5>	体部小~胴部小	暗LJY086/8	良好	相模粘土・白色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 14	土師器	高坏	—	13.0	胴部~底面1/5	にぶ、暗LJY086/4	良好	赤・赤色配・赤・石黄	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 15	土師器	高坏	—	17.2	胴部1/2~底面	暗LJY086/8	良好	赤・赤色配・黒石	外・内面1/4~胴部
151	S35 16	土師器	器付9	9.1	<2.3>	口縁部小	暗LJY086/8	良好	赤・赤色配・白色配	外・内面1/4~胴部
151	S35 17	土師器	甕	4.0	<2.4>	つば小皿	明赤黒LJY085/8	良好	赤・赤色配・白色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 18	土師器	甕	8.0	<4.7>	口縁1/8~体部小	にぶ、黄暗LJY086/4	良好	赤・赤色配・白色配	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 19	土師器	甕	—	4.2	体部~底面	暗LJY087/8	良好	赤・赤色配	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 20	土師器	甕	13.5	—	口縁~底面	暗LJY086/8	良好	赤	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 21	土師器	甕	—	3.7	体部~底面	暗LJY086/8	良好	赤・赤色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 22	土師器	甕	—	3.0	体部小~底面	暗LJY086/8	良好	相模粘土・赤色配・白色配	外・内面1/4~胴部
151	S35 23	土師器	甕	—	0.0	体部小~底面	にぶ、暗LJY087/4	良好	赤・赤色配・白色配	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 24	土師器	甕	—	<5.8>	底面	暗LJY086/8	良好	赤・赤色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 25	土師器	甕	—	1.6	底面	にぶ、暗LJY085/3	良好	赤	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 26	土師器	甕付	—	1.6	体部小~底面	暗LJY087/8	良好	赤・赤色配・白色配	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
151	S35 27	土師器	甕	—	3.2	底面	暗LJY087/8	良好	相模粘土・赤色配・長石・赤色黒目	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
152	S35 28	土師器	甕	9.0	<7.1>	口縁1/3~体部	にぶ、暗LJY086/4	良好	相模粘土・赤色配	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
152	S35 29	土師器	甕	11.0	<5.7>	口縁1/6~体部小	にぶ、暗LJY087/4	良好	赤・赤色配・白色配・長石・黒石	外・内面1/4~胴部
152	S35 30	土師器	甕	11.4	<4.0>	口縁1/3~体部小	暗LJY086/8	良好	相模粘土・白色配・赤色配・黒石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
152	S35 31	土師器	甕	—	<6.2>	体部	暗LJY086/8	良好	相模粘土・長石	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部
152	S35 32	土師器	甕	—	15.0	体部小~底面1/2	暗LJY086/8	良好	赤・赤色配・赤色黒目	外面1/4~胴部、内面1/4~胴部

検 体 番号	品名	原料 番号	種類	2次種	口径 (長)	底径 (短)	長さ (mm)	部位	色調	性状	粘土
152	S35	33	土砂器	甕	—	6.23	<2.2>	体部小～底部小	にしろ・赤褐色/035/4	良好	赤褐色・白色版 外面→外寸 内面→心
152	S35	34	土砂器	甕	—	15.6	<1.9>	体部小～底部小	褐色/06/6	良好	細砂状含む・白色版 外面→外寸 内面→心
152	S35	35	土砂器	甕	—	6.4	<2.2>	体部小～底部1/3	にしろ・褐色/2/035/4	良好	赤褐色・赤色版 外面→外寸 内面→心
152	S35	36	陶製品	刀子・鎌?	<1.3>	2.8	0.4	—	—	—	黒色<0.3> 1段目の?
152	S36	1	土砂器	杯	(11.6)	—	<2.5>	口縁1/6～体部	にしろ・褐色/2/035/3	良好	赤褐色・長石・赤色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	2	土砂器	杯	(11.0)	—	<3.8>	口縁1/4～体部	にしろ・褐色/2/037/3	良好	赤褐色 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	3	土砂器	高杯	(2.6)	—	<3.9>	口縁1/4	褐色/06/6	良好	赤褐色 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	4	土砂器	高杯	—	—	<2.1>	体部小～底部小	褐色/037/6	良好	赤褐色・黒色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	5	土砂器	高杯	—	(10.0)	<3.4>	胴部	褐色/2/037/6	良好	赤褐色 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	6	土砂器	高杯	—	(11.0)	<3.7>	胴部	褐色/2/037/6	良好	赤褐色・長石 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	7	土砂器	鉢	(16.0)	—	<4.9>	口縁小～体部小	明赤褐色/035/6	良好	赤褐色・白色版・石灰・赤色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	8	土砂器	甕	(18.2)	—	<3.8>	口縁1/4～体部	にしろ・褐色/2/037/4	良好	赤褐色・長石・赤色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	9	土砂器	甕	—	6.23	<1.8>	底部1/3～体部小	外面→白・褐色/036/4 内面→黒	良好	細砂状含む・白色版 外面→外寸 内面→心
152	S36	10	土砂器	甕	—	6.8	3.9	体部～底部	外面→褐色/2/037/6 内面→白・褐色/037/2	良好	赤褐色・長石・石灰 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
152	S36	11	土製品	土器白土立	<0.43>	<0.3>	0.2	—	黒褐色/2/030/2	不良	黒色<0.08>
153	S37	1	土砂器	杯	(12.6)	—	<4.9>	口縁1/6～体部	褐色/06/6	良好	赤褐色・長石 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	2	土砂器	杯	(11.6)	—	<4.2>	口縁1/6～体部	褐色/06/6	良好	赤褐色 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	3	土砂器	杯	(12.0)	—	<4.3>	口縁1/6～体部	にしろ・褐色/036/4	良好	長石・赤色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	4	土砂器	杯	(14.0)	—	<6.3>	口縁1/6～底部小	明赤褐色/2/035/6	良好	白色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	5	土砂器	杯	13.2	—	6.2	体部1/2	褐色/06/6	良好	細砂状含む・赤色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	6	土砂器	杯	(12.6)	4.2	3.0	口縁1/2～底部	褐色/2/036/8	良好	細砂状含む・赤色版・白色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	7	土砂器	高杯	(13.4)	—	<5.7>	口縁1/6～胴部	褐色/06/6	良好	細砂状含む・赤色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	8	土砂器	高杯	16.2	—	<3.6>	口縁～底部	にしろ・褐色/2/037/4	良好	赤褐色・白色版・石灰 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	9	土砂器	高杯	(17.8)	—	<6.7>	口縁1/2～体部1/2	褐色/037/6	良好	黒色版・長石 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	10	土砂器	高杯	—	—	5.9	胴部	褐色/037/6	良好	細砂状含む・赤色版 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	11	土砂器	高杯	—	(12.0)	<3.8>	胴部1/6	褐色/06/6	良好	赤褐色・石灰 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	12	土砂器	高杯	—	(12.8)	<4.8>	胴部1/3	外面→褐色/037/6 内面→褐色/037/6	良好	赤褐色 外面→外寸 内面→外寸 内面→心
153	S37	13	土砂器	有孔鉢	—	—	3.0	体部～底部1/4	にしろ・褐色/2/037/4	良好	赤褐色 外面→外寸 内面→外寸 内面→心

表 6 (数値) は毎元値、<数値は>は元値

原 名	品名 番号	種類	仕様	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	部位	色調	質感	胎土	備考
153	S37	土師器	甕	116.0	—	5.6	口縁1/4~体部	二色・黄緑/赤6/4	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
153	S37	土師器	甕	—	—	<3.7>	体部小	二色・黄緑/赤6/4	良好	細粒粘土 赤色配・赤色配	外面1/3以下 内面胎面無
153	S37	土師器	甕	—	5.0	<9.8>	体部1/2~底面	二色・黄緑/赤6/4	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
153	S37	土師器	甕	—	6.0	<9.9>	体部1/3~底面	二色・黄緑/赤6/4	良好	赤 赤色配・赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
153	S37	土師器	甕	13.4	—	<5.0>	口縁1/2~体部1/4	黄緑/赤6/8	良好	赤	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
153	S37	土師器	甕	17.0	—	<6.7>	口縁1/4~体部	二色・黄緑/赤6/7/3	良好	赤 赤色配・白色配・石黄	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
153	S37	土師器	甕	13.0	—	<6.4>	口縁1/4~体部1/3	二色・黄緑/赤6/8/4	良好	細粒粘土 赤色配・白色配・長石・石黄・赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
153	S37	土師器	甕	13.2	6.9	21.4	口縁1/4~底面	外面:明黄緑/赤6/5/6 内面:黄緑/赤6/5/1	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	—	16.8	<3.0>	体部小~底面1/2	黄緑/赤6/6	良好	細粒粘土 赤色配・長石・石黄	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	—	6.0	<4.0>	体部~底面1/2	二色・黄緑/赤6/4	良好	赤 長石・石黄	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	—	6.8	<10.0>	体部~底面	黄緑/赤6/6	良好	細粒粘土 白色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	—	1.6	<4.0>	体部~底面	黄緑/赤6/6/2~黄緑/赤6/6/6	良好	赤	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	—	2.4	<4.8>	口縁小~体部	黄緑/赤6/6	良好	細粒粘土 赤色配・白色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	—	0.0	<4.4>	体部~底面1/4	黄緑/赤6/6	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	—	—	<3.4>	体部	灰白/赤	良好	赤	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S37	土師器	甕	<16.6>	6.3	4.2	口縁1/2	赤1/1~黄緑/赤6/2~黄緑/赤6/4	良好	赤	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	11.0	—	<3.2>	口縁部1/6	外面:二色・黄緑/赤6/7/3 内面:黄緑/赤6/6	良好	赤 赤色配・赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	13.0	—	<3.7>	口縁部小	二色・黄緑/赤6/4	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	13.0	—	<4.7>	口縁部1/4	外面:黄緑/赤6/7/8 内面:黄緑/赤6/7/8/4	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	12.0	<5.0>	<4.5>	口縁1/4~底面1/4	黄緑/赤6/8	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	14.0	3.8	5.6	口縁~体部1/4	黄緑/赤6/6	良好	赤 赤色配・白色配・長石	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	15.0	4.0	5.4	口縁1/2~底面	黄緑/赤6/7/8	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	13.5	3.2	3.9	底面	黄緑/赤6/6	良好	細粒粘土 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	杯	—	5.0	<2.0>	体部小~底面	外面:黄緑/赤6/8/8 内面:黄緑/赤6/7/8	良好	細粒粘土 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	高杯	12.0	—	<2.8>	口縁小	黄緑/赤6/6	良好	赤 赤色配・白色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	高杯	10.0	—	<3.8>	口縁1/3~体部小	黄緑/赤6/6	良好	赤 赤色配	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	高杯	—	—	<4.7>	体部	黄緑/赤6/6	良好	赤	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無
154	S38	土師器	高杯	—	—	<3.4>	脚部	黄緑/赤6/6	良好	細粒粘土 赤色配・長石	外面1/3以下 内面1/3以下 胎面無

設 番号	品名	品物 番号	種類	芯種	口径 (長)	底径 (短)	長さ (mm)	部径	部位	色調	組成	備考
154	S38	13	土師器	高坏	—	<6.5>	—	胴部	胴部	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内面→赤褐色 内径→赤褐色 身欠
154	S38	14	土師器	高坏	—	(16.0)	<0.9>	胴部上1/5	胴部上1/5	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
154	S38	15	土師器	高坏	—	(12.0)	<2.1>	胴部～底部1/5	胴部～底部1/5	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
154	S38	16	土師器	高坏	—	(14.0)	<3.0>	胴部～底部1/8	胴部～底部1/8	にぶい褐色S36/4	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
154	S38	17	土師器	高坏	—	—	<6.3>	胴部	胴部	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色・白色配・赤褐色 赤褐色
154	S38	18	土師器	器付	—	—	<2.8>	体部小	にぶい褐色S36/4	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色・白色配 胴部小
154	S38	19	土師器	鉢	(17.0)	6.0	9.1	口縁1/2～底部1/2	口縁1/2～底部1/2	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	20	土師器	蓋	(12.0)	—	<6.4>	口縁部小	口縁部小	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	21	土師器	蓋	—	6.7	13.2	体部～底部	体部～底部	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	22	土師器	蓋	—	2.1	<1.9>	体部小～底部	体部小～底部	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色・白色配・赤褐色
155	S38	23	土師器	蓋	—	4.6	<3.0>	体部小～底部	体部小～底部	にぶい褐色S37/3	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	24	土師器	蓋	—	(4.0)	<3.1>	底部1/2	底部1/2	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	25	土師器	甕	(17.0)	—	<5.3>	口縁部1/2	口縁部1/2	にぶい褐色S37/4	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	26	土師器	甕	(18.0)	—	<6.0>	口縁1/8～体部小	口縁1/8～体部小	にぶい褐色S37/4	良好	外面→赤褐色・白色配・赤褐色・赤褐色
155	S38	27	土師器	甕	(18.0)	—	<7.0>	口縁1/4～体部	口縁1/4～体部	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	28	土師器	甕	—	(8.0)	<2.7>	口縁1/4～体部小	口縁1/4～体部小	褐色S37/4	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	30	土師器	甕	—	(4.2)	<5.9>	体部～底部	体部～底部	にぶい褐色S37/4	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	31	土師器	甕	—	—	<1.7>	口縁部小	口縁部小	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S38	32	土師器	甕	—	—	<3.1>	体部小	体部小	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S39	1	土師器	杯	14.0	—	<3.7>	口縁部小	口縁部小	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色・白色配
155	S39	2	土師器	杯	(16.0)	—	<2.4>	口縁1/4～体部	口縁1/4～体部	外面→にぶい褐色S37/3 内径→褐色S36/3	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色 赤褐色
155	S39	3	土師器	杯	(14.8)	—	<3.7>	口縁1/4～体部	口縁1/4～体部	にぶい褐色S37/4	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色 赤褐色
155	S39	4	土師器	杯	14.2	—	<3.8>	口縁小～底部	口縁小～底部	褐色S37/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S39	5	土師器	杯	(14.0)	11.4	3.8	口縁1/2～底部1/2	口縁1/2～底部1/2	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S39	6	土師器	杯	—	9.0	<1.9>	体部小～底部3/4	体部小～底部3/4	にぶい褐色S37/4	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S39	7	土師器	杯	—	—	<2.0>	体部小～底部3/4	体部小～底部3/4	褐色S36/6	良好	外面→赤褐色 内径→赤褐色
155	S39	8	土師器	甕	—	—	<5.5>	体部小	体部小	にぶい褐色S37/3	良好	外面→赤褐色・白色配 口縁部小



6. (数値) は毎元値、<数値は>は元値

原 形 番号	品名	規格	仕様	口径 (mm)	高さ (mm)	部材	色調	形状	胎土	備考
155	S39	9	土師器 甕	—	<4.8>	甕	曜石肌	良好	粗砂灰含む・赤色配	外面<2>7寸×寸 内面<1>7寸×寸 胎面
155	S39	10	土師器 甕	—	<4.8>	体部小～底部小	二品・黄肌(0)07/3	良好	粗砂灰含む・白色配	外面<2>5寸 内面<1>5寸×寸 胎面
156	S39	11	土師器 甕	17.1	<11.8>	口縁～体部	曜石肌	良好	粗砂灰含む・赤色配・長石・赤色葉目	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸×寸 胎面
156	S39	12	土師器 甕	28.0	<8.9>	口縁<1>8～体部小	明赤肌(5)05/6	良好	粗砂灰含む・赤色配・白色配・長石・赤色葉目	外・内面<1>7寸×寸
156	S39	13	土師器 甕	31.6	<9.2>	口縁<1>4～体部	曜石肌	良好	粗砂灰含む・赤色配・白色配・赤色配・長石	外面<1>7寸×寸 内面<1>7寸×寸
156	S39	14	土師器 甕	16.2	<3.6>	口縁部<1>4	二品・黄肌(0)07/4	良好	粗砂灰含む・赤色配・赤色配・長石	外・内面<1>7寸×寸 内面<1>7寸×寸
156	S39	15	土師器 甕	16.6	<3.7>	口縁<1>4～体部	二品・黄肌(0)08/4	良好	粗砂灰含む・赤色配・赤色配	外・内面<1>7寸×寸 内面<1>7寸×寸
156	S39	16	土師器 甕	17.0	<14.1>	口縁<1>4～体部	二品・黄肌(5)07/4	良好	粗砂灰含む・赤色配・白色配・長石・赤石・赤色葉目	外面<1>6寸(厚)寸 内面<1>6寸(厚)寸 胎面
156	S39	17	土師器 甕	19.8	<22.0>	口縁<1>3～体部<1>2	曜石肌(8)	良好	粗砂灰含む・赤石	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸 胎面
156	S39	18	土師器 甕	—	9.5	体部～底面	曜石肌	良好	粗砂灰含む・赤石・赤色葉目	外・内面<1>寸 胎面・木葉肌
156	S39	19	土師器 甕	—	17.0	体部小	二品・黄肌(0)06/3	良好	粗砂灰含む・赤色配・白色配・赤色配	外面<1>7寸×寸 内面<1>寸 胎面・木葉肌
156	S39	20	土師器 甕	—	8.1	体部小～底面	二品・黄肌(0)06/4	良好	粗砂灰含む	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸 胎面・木葉肌
156	S39	21	土師器 甕	—	8.0	体部小～底面	明赤肌(5)05/6	良好	粗砂灰含む・赤色配・白色配・赤色葉目	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸 胎面
156	S39	22	土師器 甕	—	13.0	底部<1>3	曜石肌	良好	粗砂灰含む・赤石	外面<1>6寸×寸 内面<1>寸 胎面・木葉肌
156	S39	23	土師器 甕	—	13.0	体部～底面<1>4	曜石肌	良好	粗砂灰含む・赤石	外面<1>6寸×寸 内面<1>寸 胎面
157	S39	24	土師器 甕	—	17.3	体部～底面	明赤肌(2)05/6	良好	粗砂灰含む・赤色配・長石	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸 胎面
157	S39	25	土師器 甕	13.2	<16.0>	体部	青灰色肌(1)	良好	粗砂灰含む	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸 胎面
157	S39	26	土師器 甕	—	4.0	底面	曜石肌(0)08/1	良好	粗砂灰含む	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸 胎面
157	S40	1	土師器 甕	—	<4.0>	体部小	曜石肌(0)08/1	良好	粗砂灰含む	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸 胎面
157	S40	2	土師器 甕	—	<3.9>	口縁～体部小	曜石肌(6)	良好	粗砂灰含む・白色配	外面<1>7寸×寸×寸 内面<1>6寸
157	S40	3	土師器 甕	12.1	<4.1>	口縁～体部	二品・黄肌(5)08/6	良好	粗砂灰含む・赤色配・赤色葉目	外面<1>7寸×寸×寸 内面<1>6寸
157	S40	4	土師器 甕	—	<18.0>	底面<1>4	曜石肌(8)	良好	粗砂灰含む・赤石	外・内面<1>寸
157	S40	5	土師器 甕	—	<2.9>	体部～脚部	二品・黄肌(0)07/8	良好	粗砂灰含む	外面<1>5寸 内面<1>5寸×寸
157	S40	6	土師器 甕	—	(12.0)	口縁～体部	曜石肌(8)	良好	粗砂灰含む・赤石	外面<1>5寸×寸 内面<1>5寸×寸
157	S40	7	土師器 甕	17.7	4.9	口縁～体部	曜石肌(8)	良好	粗砂灰含む・赤色配・長石	外面<1>6寸×寸 内面<1>6寸×寸
157	S40	8	土師器 甕	16.8	<3.0>	口縁部小	曜石肌(7)	良好	粗砂灰含む・白色配	外面<1>7寸×寸 内面<1>6寸 胎面・口縁
157	S40	9	土師器 甕	28.0	<4.6>	口縁部<1>8	曜石肌(7)	良好	粗砂灰含む	外面<1>7寸×寸 内面<1>6寸 胎面・口縁
157	S40	10	土師器 甕	—	2.8	体部～底面	曜石肌(3)	良好	粗砂灰含む・赤石	外面<1>7寸×寸 内面<1>6寸 胎面・口縁
157	S40	10	土師器 甕	—	<2.0>	底面	二品・黄肌(5)08/4～黒肌(0)02/1	良好	粗砂灰含む・赤色配・白色配・赤色配・長石・赤色葉目	外面<1>5寸 内面<1>7寸

※ (数値) は表示元、<数値は>表示直

項 番号	品名 番号	類別	仕様	口径 (mm)	高さ <mm>	部位	色調	地味	仕上げ	備考
157	S80 11	土師器	皿	(18.3)	<4.3>	口縁部小	明色焼095/6	良好	紺 紺色配・白色配	外・内面：ナシ
157	S80 12	土師器	皿	—	<3.7>	口縁部小	にじみ・焼097/4	良好	紺 紺色配・金色葉目	外面：口縁部腹方向のみナシ 内面：ナシ
157	S80 13	土師器	皿	—	<3.5>	体部小	焼097/6	良好	紺 長石・金色葉目	外面：口縁部 内・外 内面：ナシ 内面：ナシ
157	S80 14	土師器	皿	—	<2.8>	体部小	にじみ・焼098/4	良好	紺 長石・石莖	外面：側面腹状 内面：ナシ
157	S80 15	土師器	皿	(13.1)	3.3	口縁部～底面	焼098/6	良好	紺 紺色配・長石	外面：ナシ 体部：内面：ナシ 口縁部：白色配
158	S80 16	土師器	付付篋	17.2	10.2	笠部	焼097/8	良好	紺 紺色配・長石・金色葉目	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S80 17	土師器	付付篋	—	<4.3>	口縁小～体部小	深黒焼095/2	良好	紺 紺色配・白色配・長石・石莖・金色葉目	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S80 18	土師器	付付篋	—	<1.9>	体部	焼098/8	良好	紺 紺色配	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S80 19	土師器	付付篋	—	<3.4>	体部	焼097/8	良好	紺 長石	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S80 20	土師器	付付篋	—	<1.7>	体部	にじみ・焼097/4	良好	紺 紺色配・長石・金色葉目	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S80 21	土師器	付付篋	—	(7.0)	脚部	焼097/6	良好	紺 紺色配・白色配・金色葉目	外・内面：ナシ
158	S80 22	土師器	付付篋	—	(11.0)	脚部	焼097/6	良好	紺 長石・金色葉目	外・内面：ナシ
158	S83 1	土師器	杯	(14.0)	—	口縁部1/8	焼098/8	良好	紺 紺色配・長石	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S83 2	土師器	杯	(13.4)	—	口縁1/4～体部小	焼097/8	良好	紺	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S83 3	土師器	高杯	—	<7.8>	脚部1/2	焼097/6	良好	紺 紺色配・長石・白色配	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S83 4	土師器	高杯	—	<6.1>	脚部	にじみ・焼097/4	良好	紺 紺色配・白色配・長石・石莖	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S83 5	土師器	壺	—	<3.8>	体部小～底面1/4	焼097/8	良好	紺 紺色配・長石・石莖	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S83 6	土師器	壺	(17.8)	<9.8>	口縁1/4～体部	外面：にじみ・深黒097/4 内面：にじみ・深黒097/3	良好	紺 紺色配	外面：ナシ 内面：ナシ
158	S83 7	土師器	壺	(19.0)	—	口縁小～体部小	にじみ・深黒097/4	良好	紺 紺色配・長石・石莖	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
158	S83 8	土師器	壺	(20.0)	—	口縁部1/4	にじみ・深黒097/4	良好	紺 長石	外・内面：ナシ
159	S83 9	土師器	壺	—	4.6	体部～底面	焼098/8	良好	紺 紺色配・長石	外・内面：ナシ
158	S83 10	石製品	碓石	<7.2>	<3.9>	3.8	にじみ・深黒098/3	良好	紺 長石	全面採用 碓石 碓石
159	S84 1	土師器	高杯	—	7.8	体部～脚部	焼098/6	良好	紺 紺色配・長石	外面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ 内面：ナシ
159	S84 2	土師器	高杯	—	(13.0)	脚部小	焼098/8	良好	紺 紺色配	外・内面：ナシ
159	S84 3	土師器	壺	(18.0)	—	口縁部小	焼097/8	良好	紺 紺色配・白色配・金色葉目	外・内面：ナシ
159	S84 4	土師器	壺	—	(6.0)	体部1/4～底面1/4	深黒焼098/4	良好	紺 長石	外・内面：ナシ
159	S84 5	土師器	壺	—	<4.3>	体部	焼097/8	良好	紺 紺色配	外・内面：ナシ
159	S84 6	酒器器	壺	—	<4.4>	体部小	深黒097	良好	紺 長石	外面：平白面・長石



設 番号	図 名	種 目	区 種	口 径 (mm)	底 径 (mm)	深 さ (mm)	部 位	色 調	地 質	備考
100	S53	19	土砂部	18(2)	—	<4.0>	口縁1/4～体部	褐色S53	粘土	外・内面:土
100	S53	20	土砂部	18(2)	—	<7.2>	口縁1/3～体部	褐色粘土・赤色配・白色配	粘土	外面:土・砂・内面:土・砂
100	S53	21	土砂部	12(0)	—	<11.1>	口縁1/4～体部小	褐色粘土・赤色配・白色配・長石	粘土	外面:土・砂・内面:土・砂
100	S53	22	6製品	1.8	1.2	0.4	—	褐色 S1.2	粘土	断面<1.2mm> 石灰 褐色
101	SK24	1	土砂部	11.7	4.8	7.3	突部	褐色S707/6	粘土	断面:土 断面:土 断面:土 断面:土 断面:土
101	SK26	1	土砂部	13.9	9.5	8.9	1/3位置部	褐色S707/6	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配・赤色累層
101	SK27	1	土砂部	13(0)	—	<3.5>	口縁1/4～体部	褐色S707/7/4	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
101	SK27	2	土砂部	13.2	5.0	6.1	突部(口縁一部大径)	褐色S707/6	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
101	SK27	3	土砂部	—	—	<4.5>	胴部	褐色粘土・赤色累層	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
101	SK27	4	土砂部	—	<10.8>	<5.1>	胴部1/2	褐色S706/8	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
101	SK27	5	土砂部	—	11(0)	<4.8>	胴部	褐色S706/8	粘土	断面:土・砂・赤色配
101	SK27	6	土砂部	—	16(0)	<4.8>	胴部1/3	褐色S707/8	粘土	断面:土・砂・赤色配
101	SK27	7	土砂部	11.6	—	<6.4>	口縁1/3～体部小	褐色S706/6	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配・赤色累層
101	SK27	8	土砂部	—	14(0)	<3.5>	体部小～底部小	褐色S706/6	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
101	SK27	9	土砂部	—	4.5	<6.4>	体部1/2～底部	褐色S706/7/3	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配
101	SK27	10	土砂部	16.2	—	<10.3>	口縁～体部	外面:明赤褐色S705/6 内面:明赤褐色S705/6	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石・赤色累層
101	SK27	11	土砂部	18(0)	—	<4.0>	口縁部小	褐色S706/8	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配・長石・石灰
101	SK27	12	土砂部	—	16(0)	<5.8>	体部～底部1/3	褐色S706/5/4	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
101	SK27	13	土砂部	11.6	—	<13.2>	口縁～体部	明赤褐色S705/6	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
101	SK27	14	土砂部	13(0)	—	<10.0>	口縁1/5～体部1/2	褐色S706/8	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配・赤色累層
102	SK27	15	土砂部	17(0)	6.4	<20.9>	口縁1/2～底部	黄褐色S707/赤・褐色S705/1	粘土	断面:土・砂・赤色配・長石
102	PK12	1	土砂部	12(0)	—	<5.4>	口縁部1/5	褐色S706/5/4	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配
102	PK61	1	土砂部	12(0)	14(0)	5.1	口縁1/4～体部	褐色S706/4	粘土	断面:土・砂・赤色配
102	PK61	2	土砂部	—	16(0)	<4.3>	胴部1/2	明赤褐色S705/8	粘土	断面:土・砂・赤色配
102	PK65	1	土砂部	—	1.7	<9.7>	体部～底部	褐色S706/8	粘土	断面:土・砂・赤色配
102	PK204	1	土砂部	—	—	—	体部小	褐色S707/4	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配・赤色累層
102	PK201	1	土砂部	—	—	<4.3>	体部小	褐色S706/8	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配
102	PK202	1	土砂部	—	—	<5.0>	口縁部小	褐色S706/8	粘土	断面:土・砂・赤色配・白色配

※(数値)は毎元値、<数値は>=割合値

原 産 地 番号	区名	種別	設備	口径 (mm)	口径 (mm)	深さ (mm)	部位	色調	構成	粘土	備考
102	S01	土師器	鉢?	—	—	3.7	口縁~底面	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	赤・金色雲母	外面→マダマ
102	S01	土師器	杯	13.0	<2.4>	3.5	口縁部1/4	明赤鉄を含む・赤色鉄・長石	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・長石	外・内面マダマ
102	S01	土師器	杯	12.0	—	<3.1>	口縁1/4~体部	灰緑Y086/2	良好	赤・長石・金色雲母	外面→マ
102	S01	土師器	杯	13.0	—	<3.4>	口縁小~底面小	にぶ、黄緑色Y087/4	良好	赤・赤色鉄・赤色雲母	外面上縁マダマ/下縁マダマ/ 内面マダマ/ 外・内面にも厚層付混入
102	S01	土師器	杯	13.0	9.0	3.3	口縁1/4~体部	黄Y086/6	良好	赤・赤色鉄・長石・金色雲母	外面→マ
102	S01	土師器	杯	13.0	7.0	3.0	口縁1/2~底面1/2	にぶ、黄緑色Y087/4	良好	赤・金色雲母	外面→マダマ/ 内面→マ 逆生
102	S01	土師器	杯	—	0.0	<4.1>	体部~底面1/4	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	赤・金色雲母	外・内面混入マ
102	S01	土師器	杯	—	<5.0>	<1.1>	底面	黄緑色Y086/4	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・長石・石炭	外・内面マダマ
102	S01	土師器	杯	—	7.2	<1.6>	体部~底面3/4	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	赤・赤色鉄・長石・金色雲母	外面→マダマ/ 内面マダマ/ 外・内面混入赤部
103	S01	土師器	平背土器	—	0.0	<3.5>	体部~底面	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	赤・長石	外面マダマ/ 内面マダマ 逆生
103	S01	土師器	平背土器	14.0	1.4	4.9	口縁1/2~底面	明赤鉄Y087/2	良好	赤・赤色鉄・白色鉄・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ/ 外・内面混入赤部
103	S01	土師器	高杯	13.0	—	<3.0>	口縁1/5~体部小	黄Y086/2	良好	赤・白色鉄・石炭	外面マダマ/ 内面マダマ 逆生
103	S01	土師器	高杯	14.0	—	<8.0>	口縁~底面1/3	にぶ、黄緑色Y087/4	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・長石・金色雲母	外・内面マダマ/ 外・内面混入赤部
103	S01	土師器	高杯	—	—	<3.7>	体部小	明赤鉄Y086/6	良好	赤・赤色鉄	外面マダマ/ 内面マダマ/ 逆生
103	S01	土師器	高杯	—	—	<7.5>	胴部	明赤鉄Y086/6	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ
103	S01	土師器	高杯	—	<4.9>	—	胴部~底面小	にぶ、黄緑色Y087/3	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ
103	S01	土師器	高杯	—	7.5	<3.7>	胴部~底面1/2	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	赤・金色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ
103	S01	土師器	高杯	—	0.0	<4.8>	胴部~底面2/3	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ
103	S01	土師器	高杯	—	<8.3>	—	胴部1/2	にぶ、黄緑色Y086/3	良好	赤・赤色鉄・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ/ 身土のみ 中層の混入
103	S01	土師器	甕	—	<9.0>	<8.0>	体部~底面1/2	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	赤・赤色鉄・長石・金色雲母	底面・本層混
103	S01	土師器	甕	—	9.4	<7.7>	体部小~底面	にぶ、黄緑色Y086/3	良好	赤・赤色鉄・白色鉄・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ/ 身土のみ 中層の混入 内面混入マダマ/ 外・内面マダマ/ 逆生
103	S01	土師器	有芯鉢	10.0	—	<2.5>	体部~底面	にぶ、黄緑色Y087/3	良好	赤・長石	外・内面マダマ
103	S01	土師器	甕	10.0	—	<1.0>	口縁部1/4	明赤鉄Y086/6	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・長石	外面マダマ/ 内面マダマ
103	S01	土師器	甕	—	2.0	<2.9>	体部~底面	にぶ、黄緑色Y086/4	良好	赤・長石・金色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ
103	S01	土師器	甕	—	2.2	<4.4>	体部小~底面	にぶ、黄緑色Y086/3	良好	赤・赤色鉄・白色鉄	外面マダマ/ 内面マダマ/ 外・内面混入赤部マダマ
103	S01	土師器	甕	—	<4.2>	<6.1>	体部小~底面	にぶ、黄緑色Y086/3	良好	赤・赤色鉄・白色鉄・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ
103	S01	土師器	甕	—	<9.0>	<3.2>	底面	外面マダマ/ 内面マダマ/ 逆生 内面マダマ/ 外・内面混入赤部	良好	細赤鉄を含む・赤色鉄・長石・赤色雲母	外面 加層 内面 加層マ
103	S01	土師器	甕	—	<10.0>	<4.0>	底面3/4	黄Y086/6	良好	細赤鉄を含む・赤色雲母	外面マダマ/ 内面マダマ/ 逆生

※（数値）は質量元、<数値>は質点値

採 集 番 号	採 取 地 名	種 類	岩 種	口 径 ( $\phi$ )	底 径 ( $\phi$ )	深 さ ( $\phi$ )	部 位	色 調	地 質	備 考
163	S01	29	土砂部	16.0	5.8	13.8	口縁小～底部	灰緑色S16/2	悪	外面小～内面小
164	S01	30	土砂部	13.8	5.8	<31.4>	口縁小～底部	褐色S16/6	良好	外面(体部)部分 内面小
164	S01	31	土砂部	—	10.8	<6.1>	脚部	にんじょう黄褐色S16/3	良好	外面小～内面小
164	S01	32	土砂部	14.4	—	<6.8>	口縁部(1/4～体部1/4)	外面(にんじょう黄褐色)S16/3	良好	外面(にんじょう黄褐色) 内面(小)部分
164	S01	33	土砂部	12.0	—	<10.5>	口縁小～体部	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
164	S01	34	土砂部	13.2	7.4	16.8	口縁小～底部	にんじょう黄褐色S16/3	良好	外面(小)部分
164	S01	35	土砂部	15.9	6.6	19.4	口縁小～底部	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(体部)部分 内面(小)部分
165	S01	36	土砂部	19.3	—	<23.3>	口縁小～体部	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(体部)部分 内面(小)部分
165	S01	37	土砂部	17.0	—	<31.3>	口縁小～底部	明褐色S16/6	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
165	S01	38	土砂部	17.7	8.0	26.8	口縁小～底部(1/2)	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
165	S01	39	土砂部	28.2	—	<8.1>	口縁部3/4	褐色S16/6	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
165	S01	40	土砂部	16.2	—	<16.2>	口縁小～体部	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
166	S01	41	土砂部	26.6	10.6	26.6	口縁小～底部	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
166	S01	42	土砂部	26.1	19.6	26.4	口縁小～底部(2/3)	にんじょう黄褐色S16/3	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
167	S01	43	土砂部	32.8	10.3	31.0	口縁小～底部	黄褐色S16/7/8	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
167	S01	44	土砂部	12.0	9.6	25.1	口縁小～底部	明褐色S16/5/6	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
168	S01	45	土砂部	18.7	11.1	26.1	口縁小～底部	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
168	S01	46	土砂部	—	—	<6.4>	体部小	明褐色S16/7/2	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
168	S01	47	土砂部	—	8.0	<7.5>	体部小～底部	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
168	S01	48	土砂部	—	9.5	<10.6>	体部小～底部	明褐色S16/6/6	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
169	S01	49	土砂部	—	6.0	<3.9>	体部小～底部	にんじょう黄褐色S16/3	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
168	S01	50	土砂部	—	7.0	<7.7>	体部小～底部	明褐色S16/4/6	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
168	S01	51	土砂部	—	13.2	<5.3>	体部小～底部(1/2)	にんじょう黄褐色S16/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
168	S01	52	土砂部	—	7.1	6.1	体部小～底部	明褐色S16/6/6	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
169	S01	53	土砂部	12.0	8.8	25.3	口縁小～底部	明褐色S16/7/2	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
169	S01	54	土砂部	23.5	8.5	27.0	口縁小～底部	灰黄褐色S16/6/2	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
169	S01	55	土砂部	116.0	—	3.4	口縁小～底部	外面(脚部)部分 内面(小)部分	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分
169	S01	56	土砂部	—	—	<11.7>	口縁小～底部	にんじょう黄褐色S16/7/4	良好	外面(脚部)部分 内面(小)部分

表 6 (数値) は単位なし、<数値は>は百分値

国 番号	品名 番号	原料 番号	種類	設備	口径 (mm)	直径 (mm)	長さ (mm)	部位	色調	質感	粘土	備考
109	S01	57	土砂器	甌	—	—	<14.3>	口縁~体部	二色(黒・灰)SY985-4	良好	赤色灰・長石	
110	S01	58	滑石器	甌	—	—	<2.0>	体部小	黄灰(SY91)	良好	赤	外面(彫刻・内) 自然釉付着 内面(SY91?)
119	S01	59	滑石器	甌	—	<9.0>	<1.0>	体部小	灰白(S)	良好	赤 長石	外面(彫刻・内)?? 内面(SY91?)
119	S01	60	滑石器	甌	—	14.3	4.6	口縁(S)	RC56/	良好	赤 長石	外+内面(SY91?)
119	S01	61	滑石器	杯	—	—	<2.2>	口縁小~体部小	RC56/	良好	赤	外+内面(SY91?)
119	S01	62	滑石器	杯	13.4	—	3.2	口縁(S)	RC109(5)	良好	赤 長石	外面(SY91?)
119	S01	63	滑石器	杯	12.4	2.0	4.4	口縁~体部	RC56/	良好	赤 長石	外+内面(SY91?) 底面(凹面・凸?)
119	S01	64	滑石器	甌	—	—	<4.5>	口縁~体部小	RC56/	良好	赤	外(SY91?) 内面(SY91?) 自然釉付着
119	S01	65	滑石器	甌	—	—	<2.2>	体部小	黄灰(SY96/1)	良好	赤	
119	S01	66	石製伝用品	磨器	3.5	1.3	0.3	—	赤子~灰(7.5)986-1	良好	赤	長さ<2.1mm> 石付 滑石
119	S01	67	石器	磨製石器	<3.4>	<2.5>	<0.4>	—	磨石子~灰(色)3577/1		赤	長さ<4.5mm> 石付 磨製片岩 磨石時代?
119	S01	68	石製品	甌	13.0	10.0	4.1	—	RC109(6)	良好	赤 長石	
119	S01	69	木製品	榎	<23.5>	<6.8>	2.1	—			榎	長さ<19.7cm> 榎木皮0
119	S01	70	木製品	榎	<30.0>	7.3	6.1	—			榎	長さ<17.4mm> 芯付材・断面(凹面中)打製痕?
119	S01	71	木製品	榎子	<10.0>	11.2	<1.0>	—			榎	長さ<4.7mm> 芯付材・断面(凹面)
119	S01	72	木製品	曲物(側板)	<21.3>	<6.0>	0.35	—			榎	長さ<26.0cm> 榎目
119	S01	73	木製品	曲物(側板)	<23.9>	<6.2>	0.3	—			榎	長さ<31.4cm> 榎目
119	S01	74	木製品	曲物(側板)	<17.5>	<6.0>	0.3	—			榎	長さ<22.3cm> 榎目
111	S01	75	木製品	曲物(側板)	112.5	6.3	0.5	—			榎	長さ<9.7cm> 榎目
111	S01	76	木製品	曲物(側板)	30.3	31.0	1.5	—			榎	長さ<98.9cm> 榎目・一部(凹)・榎目・赤丹痕
111	S01	77	木製品	弓状木製品	73.5	2.8	2.4	—			榎	長さ<31.5cm> 弓状保存?一部(凹)・榎目・赤丹痕
111	S01	78	木製品	部材(径子)	32.3	11.0	4.4	—			榎	長さ<80.2cm> 芯付材・断面(一部(凹)化)
112	S01	79	木製品	部材(径子)	<31.1>	<7.2>	3.0	—			榎	長さ<61.5cm> 芯付材・断面(一部(凹)化)
112	S01	80	木製品	磨石(磨石)	<10.2>	<5.5>	1.7	—			榎	長さ<69.5mm> 芯付材・断面(一部(凹)化)
112	S01	81	木製品	磨石(磨石)	<18.2>	<5.3>	2.3	—			榎	長さ<114.1mm> 芯付材・断面(一部(凹)化)
112	S01	82	木製品	神代木製品	25.0	2.2	1.3	—			榎	長さ<37.8cm> 榎目
112	S01	83	木製品	神代木製品	33.4	2.2	1.9	—			榎	長さ<88.0cm> 芯付材・断面(一部(凹)化)
112	S01	84	木製品	赤丹	<36.8>	<3.2>	0.6	—			榎	長さ<43.6cm> 榎目・一部(凹)化

※（数値）は表示範囲、<数値は>表示範囲

検 査 番 号	品名	品物 番号	種類	芯材	口徑 (長)	底径 (短)	長さ <長>	部位	色調	組成	樹種/材	備考
172	S01 85	木製品	傘巾	傘巾	<10.1>	2.5	0.4					長さ<0.0g> 板目
172	S01 86	木製品	傘巾	傘巾	46.2	7.9	0.6					長さ<43.3g> 板目・表面一部硬化
172	S01 87	木製品	傘巾	傘巾	17.3	1.3	0.5					長さ<7.9g> 板目
172	S01 88	木製品	傘巾	傘巾	<29.2>	1.1	0.2					長さ<3.3g> 板目
172	S01 89	木製品	傘巾	傘巾	<38.2>	1.8	0.3					長さ<12.1g> 板目
172	S01 90	木製品	傘巾	傘巾	<18.3>	1.4	0.5					長さ<13.0g> 板目
172	S01 90	木製品	傘巾	傘巾	<12.5>	1.6	0.5					長さ<8.0g> 板目
172	S01 91	木製品	棒状木製品	棒状木製品	34.1	4.2	3.4					長さ<32.3g> 芯材材・加工済
172	S01 92	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<58.8> <32.2>	3.0 2.6	2.4 1.6					長さ<50.5.0g> 先端部硬化
173	S01 93	木製品	棒状木製品	棒状木製品	58.2	3.2	2.5					長さ<20.1g> 芯材材
173	S01 94	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<54.4>	<3.2>	3.8					長さ<52.12g> 芯材材・加工済・一部硬化
173	S01 95	木製品	棒状木製品	棒状木製品	46.2	2.4	2.2					長さ<11.4g> 芯材材
173	S01 96	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<66.2>	<2.3>	<3.0>					長さ<22.0.6g> 頭部のみ硬化
173	S01 97	木製品	棒状木製品	棒状木製品	39.4	5.1	2.0					長さ<29.0.4g> 芯材材・穿孔・加工済
173	S01 98	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<44.2>	<3.0>	<1.1>					長さ<13.5.0g> 芯材材
173	S01 99	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<59.9>	<3.1>	<1.8>					長さ<21.7g> 芯材材
173	S01 100	木製品	棒状木製品	棒状木製品	21.9	4.0	1.5					長さ<19.0g> 芯材材・長さ5分
173	S01 101	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<13.6>	1.1	1.2					長さ<16.0g> 板目
173	S01 102	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<12.5>	1.4	1.3					長さ<18.5g> 板目
173	S01 103	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<22.8>	1.1	1.0					長さ<16.0g> 板目・頭部硬化
173	S01 104	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<21.2>	<1.5>	<1.0>					長さ<21.8g> 板目・頭部硬化
173	S01 105	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<8.4>	<1.5>	<0.8>					長さ<5.2g> 芯材材
173	S01 106	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<14.3>	1.0	0.6					長さ<6.0g> 芯材材
173	S01 107	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<12.0>	1.5	0.8					長さ<13.2g> 板目
173	S01 108	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<20.3>	<2.2>	<1.3>					長さ<28.1g> 板目・頭部硬化
173	S01 109	木製品	板状木製品	板状木製品	27.40	7.25	2.15					長さ<106.6g> 芯材材・工具済
174	S01 110	木製品	板状木製品	板状木製品	<8.3>	<3.6>	<0.8>					長さ<11.0g> 板目
174	S01 111	木製品	棒状木製品	棒状木製品	<28.1>	2.1	1.1					長さ<43.4g> 芯材材



9. (數值) 以每元值, <數值止> 為存值

區 別	區名	區別 數字	種類	名稱	口徑 (吋)	長度 (呎)	最高 <呎>	部位	色澤	層次	粘土	備考
174	S01	112	木製品	硬木木製品	57.6	7.0	1.4					重量<342> 硬木+加工木
174	S01	113	木製品	硬木木製品	<60.4>	<3.2>	1.5					重量<225.9> 硬木
174	S01	114	木製品	硬木木製品	<21.6>	13.0	3.1					重量<696.6> 芯材材
174	S01	115	木製品	軟木木製品	26.2	<3.5>	4.2					重量<103.5> 芯材材+硬木木製品
174	S01	116	木製品	硬木木製品	<7.2>	<4.4>	<1.8>					重量<44.3> 芯材材+硬木木製品
174	S01	117	木製品	硬木木製品	<12.3>	<2.9>	<0.9>					重量<22.6> 硬木
174	S01	118	木製品	硬木木製品	<20.9>	<4.1>	<2.3>					重量<151.2> 芯材材
174	S01	119	木製品	硬木木製品	<9.4>	<2.4>	<0.9>					重量<14.7> 硬木
174	S01	120	木製品	硬木木製品	<18.5>	4.4	<0.9>					重量<31.6> 硬木+工具類+一部硬化
174	S01	121	木製品	硬木木製品	<17.8>	<3.0>	<0.8>					重量<34.6> 硬木
174	S01	122	木製品	硬木木製品	<11.0>	<2.7>	<0.7>					重量<9.5> 硬木+一部硬化
174	S01	123	木製品	硬木木製品	111.7	4.2	2.8					重量<872.3> 芯材材+高纖維硬化+ 硬木+高纖維
175	S01	124	木製品	紙	48.4	4.7	2.7					重量<337.1> 硬木+高纖維
175	S01	125	木製品	紙	<23.6>	<4.3>	<4.3>					重量<214.6> 芯材材+高纖維硬化+高纖維
175	S01	126	木製品	膠材	62.3	7.3	4.8					重量<1316.5> 芯材材+表面硬化+半硬木+高纖維
175	S01	127	木製品	膠材	<40.8>	<6.35>	<3.1>					重量<486.2> 芯材材
175	S01	128	木製品	膠材	<96.1>	12.9	4.8					重量<744.3><1093.2> 芯材材+加工木下+一部硬化
175	S01	129	木製品	膠材	<69.0>	4.6	3.1					重量<342.5> 內材
175	S01	130	木製品	膠材	<28.2>	11.0	8.1					重量<696> 芯材材+加工木+一部硬化
175	S01	131	木製品	膠材	<136.0>	<5.9>	<3.2>					重量<179.6> 芯材材
176	S01	132	木製品	膠材	303.9	10.2	6.4					芯材材 高纖維加工
176	S01	133	木製品	木類	<230.0>	14.0	4.1					硬木取用
176	S01	134	木製品	硬木木製品	(189.7)	(4.0)	<4.3>					硬木 芯材材 高纖維
176	S01	135	木製品	紙	96.0	5.8	4.5					芯材材 高纖維加工木
176	S01	136	木製品	硬木木製品	<136.0>	<16.0>	3.2					硬木 高纖維硬化
176	S01	137	木製品	膠材	137.3	6.2	3.5					芯材材 加工木下
176	S01	138	木製品	膠材	<84.0>	8.8	8.0					芯材材
176	S01	139	木製品	膠材	163.0	(12.1)	<5.2>					芯材材+高纖維

検 査 番 号	品名 番号	種別	芯種	口径 (長)	底径 (短)	長さ <短>	部位	色調	組成	粘土	備考
-	S01 140	自然木	-							樹種：ナラ属	
-	S01 141	木製品	膠材							樹種：ナラ属の仲間	
-	S01 142	自然木	-							樹種：ナラ属の仲間	
177	S02 1	土師器	片	(16.0)	-	<2.3>	口縁部1/8	褐色S027/6	良好	赤	外→内面ナラ→ナラナ
177	S02 2	土師器	片	-	-	<3.3>	口縁小～体部小	褐色S027/6	良好	赤 赤色胎・白色胎	外内面ナラ→ナラナ 赤胎 内面ナラナ
177	S02 3	土師器	高杯	-	-	<2.8>	体部小	にぶい褐色S027/4	良好	赤 赤色胎・白色胎	外→内面ナラ
177	S02 4	土師器	甕	-	7.6	<2.4>	底部	黒褐色S027/1	良好	黒胎粘土・白色胎・石灰	外→内面黒陶→ナラナ 灰面厚肉直縁式
177	S02 5	土師器	甕	-	-	<4.2>	把手	灰褐色S027/4	良好	赤 赤石	外→内面赤胎 把子→ナラ属直縁
177	S02 6	木製品	椀・6	<9.1>	<6.2>	<3.4>		灰白S027/2	良好		
177	S05 1	土師器	片	-	-	<2.4>	底縁1/4	褐色S057/6	良好	赤 赤色胎・赤石	外内面ナラ→ナラナ 内面ナラナ→ナラナ
177	S06 1	土師器	高杯	-	-	<3.2>	体部	明褐色S067/6	良好	赤 赤色胎	外→内面黒陶→ナラナ 細口
177	S06 2	土師器	台付甕	-	-	<2.1>	胴部	褐色S067/8	良好	細砂粘土・赤色胎・赤石・赤色雲母	外内面ナラ→ナラナ 内面ナラナ
177	S06 3	土師器	甕	-	-	<2.3>	体部小～底部	明赤褐色S065/6	良好	赤 白色胎・赤色雲母	外内面ナラナ→ナラナ 内面赤胎 直縁→ナラ属
177	S06 4	瓦器器	蓋	-	-	<1.2>	口縁部小	灰N4.0	良好	赤	外→内面ナラナ
177	S08 1	縄文土器	深鉢	-	-	<4.1>	体部小	灰褐色S087/2	良好	赤 赤色胎・赤石・赤色雲母	埴輪 赤胎 中腹縦溝 貫孔式
177	S09 1	土師器	台付甕	(13.0)	-	<1.2>	口縁部小	にぶい褐色S097/4	良好	赤 赤色胎・白色胎・赤色雲母	外内面ナラ→ナラナ 内面ナラナ
177	S09 2	土師器	甕	-	-	<1.8>	体部小	にぶい褐色S097/4	良好	赤 赤色胎・赤石	外内面ナラ 口唇部縁部小 内面ナラナ
177	S09 4	土師器	甕	-	-	<2.6>	口縁部小	細砂粘土・白色胎	良好	細砂粘土・白色胎	外内面ナラ 口唇部縁部小 内面ナラナ
177	S09 5	土師器	甕	-	15.0	<2.5>	体部小～底部	にぶい褐色S097/4	良好	細砂粘土・白色胎	外内面ナラ→ナラナ 内面ナラ
177	S09 6	石器	石槌	14.6	16.6	10.8	完整			安山岩	
178	S012 1	縄文土器	注口土器?	-	-	<6.1>	把手	明赤褐色S057/6	良好	赤 赤石	器之形式? 注口土器? 横溝直縁
178	S012 2	土師器	甕	-	-	<3.6>	体部小	褐色S012/6	良好	赤 赤色胎・赤石・赤石	外内面ナラ 軀部縁部赤文 内面ナラナ
178	S012 3	土師器	甕	-	-	<9.8>	体部	褐色S012/6	良好	白色胎	外→内面ナラ 胴部ニシテ・底縁ナラナの形に近縁直縁部小
178	S012 4	土師器	甕	-	-	3.1	口縁部小	にぶい褐色S012/3	良好	細砂粘土・白色胎・赤色雲母	外内面ナラ 口唇部縁部小 内面ナラ
178	S012 5	土師器	甕	(11.0)	-	<8.0>	口縁1/7～体部小	細砂粘土・赤色胎・白色胎・赤石・赤色雲母	良好	細砂粘土・赤色胎・白色胎・赤石・赤色雲母	外内面ナラ 口唇部縁部小 内面ナラ
178	S012 6	土師器	甕	(16.7)	-	<3.4>	口縁部1/4	褐色S012/7/8	良好	赤 赤石	外内面ナラ 口唇部縁部小 内面ナラ
178	S012 7	土師器	甕	13.6	6.8	16.3	口縁直縁	褐色S067/6	良好	細砂粘土・赤石・赤石・赤色雲母	外内面ナラ 内面ナラナ 口唇部縁部小
178	S012 8	土師器	甕	-	7.2	<4.4>	底部1/2	外褐色S012/7/8 内面にぶい褐色S065/3	良好	細砂粘土・赤石・赤石・赤色雲母	外内面ナラナ→ナラナ 内面ナラ

表 6 (数値)は単位元値、<数値は>は付値

国 番号	品名	規格	仕様	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	部位	色調	地味	粘土	備考
178	S013	1 土師器	杯	11.60	—	<3.3>	口縁1/6~体部	にみ・黄緑0302/3	良好	赤・赤色配・白色配・長石・石葉・白色	外面1/17~1/23 内面1/17~1/23
178	S013	2 土師器	高杯	—	—	<3.7>	胴部	橙2.5Y07/6	良好	赤色配・白色配	外面1/29Y3 1/29Y3 内面1/29Y3 1/29Y3
178	S013	3 土師器	高杯	—	<20.3>	<4.3>	胴部	にみ・黄緑0302/4	良好	細砂粒含む 赤色配	外面1/28 内面1/27 1/27Y3 穴段 遺散不明
178	S013	4 土師器	皿	14.0	11.80	5.4	白釉1/4~底面1/2	黄緑2.5Y07/8	良好	泥	外面1/28Y3 1/28 内面1/27Y3 胴底2/29
178	S013	5 土師器	甕	17.00	—	<5.6>	口縁部1/4	黄緑0306/8	良好	細砂粒含む 赤色配・長石・赤色雲母	外面1/27Y3 1/27 内面1/27Y3
178	S013	6 土師器	甕	—	6.40	<5.4>	体部~底面	にみ・黄緑0305/4	良好	粗砂粒含む 赤色配・白色配	外面1/27Y3 1/27 内面1/27Y3 底面 木炭燻
178	S013	7 土師器	肥子	—	—	<7.2>	肥子	にみ・黄緑0306/4	良好	粗砂粒含む 赤色配・白色配	外面1/27 1/27Y3 内面1/27Y3
178	S014	1 土師器	甕	16.80	—	<8.4>	口縁1/4~体部	橙2.5Y02/6	良好	泥	外面1/28 1/28Y3 内面1/28Y3
178	S014	2 陶製品	罐	<5.4>	2.6	0.8	口縁1/4~体部	—	良好	重量<15.98g 断面方	重量<15.98g 断面方
179	S017	1 土師器	高杯	13.00	—	5.2	口縁1/4~体部	橙2.5Y02/6	良好	赤・赤色配・赤色配	外面1/25Y3 内面1/27Y3
179	S017	2 土師器	高杯	14.0	—	<5.7>	口縁2/3~体部2/3	粗砂030/6	良好	赤雲母含む 赤色配・白色配・赤色配	外・内面1/27Y3
179	S017	3 土師器	高杯	11.6	7.3	7.7	口縁1/2~胴部	粗砂030/6	良好	細砂粒含む 赤色配・白色配	胴外面1/28Y3 胴内面1/28Y3 全体に表面劣化
179	S017	4 土師器	高杯	13.4	—	<8.8>	口縁1/2~胴部小	粗砂030/6	良好	泥 赤色配	外・内面1/27Y3 1/28Y3
179	S017	5 土師器	高杯	13.3	8.30	9.8	口縁2/3~底面1/2	にみ・黄緑0303/4	良好	泥 赤色配	外・内面1/27Y3 底面1/29Y3
179	S017	6 土師器	高杯	12.80	—	<4.3>	口縁~体部	粗砂030/6	良好	粗砂粒含む 赤色配・白色配	外面1/28 1/28Y3 内面1/28Y3
179	S017	7 土師器	高杯	22.4	—	<8.0>	白釉1/4~体部1/2	明赤焼0305/8~にみ・黄緑0306/4	良好	粗砂粒含む	外面 障文 内面1/27Y3 1/28
179	S017	8 土師器	高杯	19.80	—	<8.7>	口縁1/4~体部	黄赤焼0308/6	良好	泥 赤色配・長石	外・内面1/27 1/28 穴口+底
179	S017	9 土師器	高杯	12.80	—	<10.5>	口縁1/3~胴部小	外面 明赤焼0305/8 内面 黄緑0303/2	良好	粗砂粒含む 長石・赤色雲母	外・内面1/27 1/28Y3 底面1/29Y3 断面2/29Y3
179	S017	10 土師器	高杯	21.8	—	<10.5>	口縁~胴部1/2	粗砂030/6~にみ・黄緑0302/3	良好	粗砂粒含む 赤色配・白色配・赤色雲母	外・内面1/27Y3 1/28Y3 断面2/29Y3
179	S017	11 土師器	高杯	28.00	—	<8.3>	口縁1/4~体部小	粗砂030/6	良好	粗砂粒含む 赤色配・白色配・赤色雲母 石葉・赤色雲母・赤色雲母	外・内面1/27Y3
179	S017	12 土師器	高杯	21.2	—	<8.7>	口縁1/2~胴部小	明赤焼0305/6	良好	細砂粒含む 赤色配	外・内面1/28Y3 胴底
179	S017	13 土師器	高杯	12.40	—	<9.2>	口縁1/3~胴部小	粗砂030/6	良好	泥 赤色配・白色配・赤色雲母	外・内面1/27Y3 1/28Y3
179	S017	14 土師器	高杯	—	—	<8.4>	体部~胴底	粗砂030/6	良好	粗砂粒含む 赤色配・白色配	外面1/27Y3 1/28
180	S017	15 土師器	高杯	18.80	—	6.4	口縁1/4~体部	にみ・黄緑0302/4	良好	泥 赤色配・赤色雲母	外面1/27 1/28 内面1/28Y3
180	S017	16 土師器	高杯	11.80	—	<5.8>	口縁1/4~体部	粗砂030/6	良好	泥 赤色配・赤色雲母	外面1/27 1/28 内面1/28Y3
180	S017	17 土師器	高杯	19.20	—	<7.2>	口縁~体部	にみ・黄緑2.5Y02/4	良好	粗砂粒含む 赤色配	外面1/27 1/28 内面1/28Y3
180	S017	18 土師器	高杯	18.0	—	<5.0>	体部	粗砂030/6	良好	泥 赤色配・白色配・赤色雲母	外・内面1/27Y3
180	S017	19 土師器	高杯	12.30	—	<6.2>	白釉1/4~体部1/4	外面 黄緑0306/2 内面 黄緑0307/8	良好	泥 赤色配・白色配・長石・石葉・赤色雲母	外面1/27Y3 1/27 内面1/27Y3 1/28



6. (数値) は次元値、<数値>は寸法値

図 番号	図名 番号	種別	仕様	口径 (mm)	長さ (mm)	高さ (mm)	部位	色調	備考
182	S017-08	土師器	器台	8.8	9.8	8.4	口縁3/4~胴部	明赤色085/6	胎土 細砂粘土・赤色粘・長石・石膏・ 金胎器質
182	S017-09	土師器	器台	8.3	—	<9.1>	口縁1/2~胴部小	にぶ・黄褐色086/4	器外周:長石・内周:赤・器外周:赤・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-10	土師器	器台	—	(14.0)	<7.3>	胴部1/2	明赤色087/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-11	土師器	蓋	6.0	—	<3.7>	つまみ部1/2~体部小	明赤色085/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-12	土師器	蓋	—	<6.4>	<2.5>	胴部	明赤色087/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-13	土師器	蓋	6.2	—	<3.2>	つまみ部小~体部	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-14	土師器	蓋	—	3.6	<4.8>	つまみ部~体部小	明赤色085/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-15	土師器	蓋	—	3.2	<5.3>	つまみ部~体部小	明赤色085/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-16	土師器	蓋	—	4.5	<2.3>	つまみ部~体部小	にぶ・黄褐色087/4	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-17	土師器	蓋	—	—	<2.8>	つまみ部~体部小	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-18	土師器	鉢	8.7	4.9	3.7	口縁1/2~胴部	にぶ・黄褐色086/4	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-19	土師器	鉢	(7.2)	2.4	4.4	口縁1/4~底面3/4	にぶ・黄褐色087/4	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-20	土師器	鉢	7.4	3.7	3.1	先形	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-21	土師器	鉢	(11.0)	4.5	4.0	口縁1/4~底面	にぶ・黄褐色087/4~胴部 2.5/3/2	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-22	土師器	鉢	(10.0)	4.5	5.2	口縁小~底面	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-23	土師器	鉢	(9.0)	4.4	7.0	口縁1/4~底面	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-24	土師器	鉢	(10.3)	1.5	6.1	口縁小~底面	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-25	土師器	鉢	(10.8)	—	7.4	口縁小~底面	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-26	土師器	鉢	(11.6)	3.9	8.3	口縁小~底面	明赤色085/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-27	土師器	鉢	14.8	3.0	7.3	口縁~底面	にぶ・黄褐色087/4	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-28	土師器	鉢	(14.8)	15.0	10.0	口縁1/2~底面1/2	にぶ・黄褐色086/4	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-29	土師器	鉢	—	—	6.9	口縁~体部	明赤色087/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-30	土師器	有孔鉢	(12.0)	—	<4.0>	口縁小~底面1/4	明赤色087/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
182	S017-31	土師器	有孔鉢	—	—	<3.3>	体部小~底面	にぶ・黄褐色087/4	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
183	S017-72	土師器	鉢	—	(11.6)	<5.2>	底面	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
183	S017-73	土師器	鉢	—	3.4	<5.8>	体部~底面	明赤色087/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
183	S017-74	土師器	鉢	8.5	—	6.8	口縁~底面	明赤色087/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄
183	S017-75	土師器	蓋	—	(13.0)	<5.3>	体部~底面1/4	明赤色086/6	器外周:長石・内周:赤・赤3~黄 赤3~黄

※(数値)は算定値、<数値は>は付帯

設 番号	区 画 番号	種 別	2次 種	口 幅 (尺)	底 積 (㎡)	延 床 積 (㎡)	部 位	色 調	地 況	地 上	備 考
183	S017	26	土師器	量	—	2.4	<2.1>	明子焼085/8	良好	赤	外面→085/3 内面→陶磁
183	S017	76	土師器	量	—	4.0	<2.1>	体部1/3～底面	良好	細砂粒含む 長石・石英・金色葉目	外面→085/3 内面→陶磁
183	S017	77	土師器	量	—	4.4	<2.1>	体部1/3～底面	良好	細砂粒含む 長石・石英・金色葉目	外面→陶磁 外付着
183	S017	78	土師器	量	—	4.4	<2.1>	体部1/3～底面	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面→陶磁 外付着
183	S017	79	土師器	量	—	4.1	<5.6>	体部1/3～底面	良好	赤	赤
183	S017	80	土師器	量	—	4.3	<4.4>	体部1/3～底面	良好	赤	赤
183	S017	81	土師器	量	—	(13.6)	<9.7>	胴部1/2	良好	赤	赤
183	S017	82	土師器	量	12.7	—	<7.1>	口縁～体部	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面→085/3 外・内面→赤
183	S017	83	土師器	量	10.0	—	<3.9>	口縁1/4～体部	良好	赤 長石・石英	外面→085/3 内面→085/3 陶磁
183	S017	84	土師器	量	—	4.8	<6.7>	体部1/3～底面	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色葉目	外面→085/3 外付着
183	S017	85	土師器	量	—	2.0	<11.3>	体部2/3～底面	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・赤色葉目 長石・石英・金色葉目・赤色葉目	外面→085/3 外付着
183	S017	86	土師器	量	—	4.1	<4.1>	体部1/3～底面	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色葉目	外面→085/3 外付着
183	S017	87	土師器	量	—	3.0	<7.6>	体部3/4～底面	良好	赤 赤色粒・長石	外面→085/3 外付着
183	S017	88	土師器	量	14.0	—	<7.9>	口縁～体部1/3	良好	赤 長石・金色葉目	外面→085/3 外付着
183	S017	89	土師器	量	19.5	—	<6.7>	口縁～体部	良好	赤 赤色粒・長石	外面→085/3 外付着
183	S017	90	土師器	量	(12.0)	—	<3.8>	口縁1/2～体部小	良好	細砂粒含む 白色粒・平滑明粒	外面→085/3 外付着
183	S017	91	土師器	量	(17.6)	—	<6.6>	口縁1/4～体部	良好	赤	赤
183	S017	92	土師器	量	8.8	—	<9.9>	口縁1/4～体部	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面→085/3 外付着
183	S017	93	土師器	量	(8.6)	3.7	15.1	体部1/4～底面1/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色葉目	外面→085/3 外付着
184	S017	94	土師器	量	12.2	—	<5.2>	口縁～体部小	良好	赤 赤色粒・長石	外面→085/3 内面→赤
184	S017	95	土師器	量	—	—	<3.0>	口縁部小	良好	赤 赤色粒・白色粒・金色葉目	外・内面→赤
184	S017	96	土師器	量	(17.6)	—	<9.2>	口縁部2/3	良好	赤 赤色粒・白色粒・赤色葉目・長石・ 石英・金色葉目	外・内面→赤
184	S017	97	土師器	量	—	18.3	<4.1>	体部2/3～底面	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面→085/3 外付着
184	S017	98	土師器	量	21.6	—	<6.7>	口縁3/4～胴部	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面→085/3 外付着
184	S017	99	土師器	量	(10.0)	—	<5.2>	口縁1/4～体部	良好	赤 赤色粒・長石	外・内面→085/3 外付着
184	S017	100	土師器	量	(28.0)	—	<4.2>	口縁1/4	良好	赤 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色葉目	外・内面→085/3 外付着
184	S017	101	土師器	量	—	—	<10.4>	口縁～胴部	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面→085/3 外付着
185	S017	102	土師器	量	(14.3)	8.2	38.1	口縁1/3～底面	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面→085/3 外付着
185	S017	103	土師器	量	(14.0)	3.1	16.6	口縁1/4～底面	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面→085/3 外付着

表 6 (数値) は数元値、<数値は>は数付値

原 形 番号	原 名	品 種	規格	仕様	高さ (mm)	長さ (mm)	部位	色調	施工	備考
185	S017	104	土師器	甕	116	<14.0> <24.0>	口縁1/4～底面	彫2.SY07/6	底 長石	外面1/2～底面/2、内面1/2、口縁1/2、北縁付
186	S017	105	土師器	付付壺	—	<14.0>	口縁部小	二色・彫2.SY07/4	細砂粒含む・白色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部、口縁部向ふ小
188	S017	106	土師器	付付壺	16.2	9.5	口縁1/4～胴部	彫2.SY06/6	細砂粒含む・白色・赤色配	外面1/2
186	S017	107	土師器	付付壺	26.2	—	口縁～体部	外面・尻蓋彫10.SY1/2 内面・彫2.SY05/6	細砂粒含む・赤色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
186	S017	108	土師器	付付壺	17.0	—	口縁～体部小	彫2.SY06/6	細砂粒含む・赤色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
186	S017	109	土師器	付付壺	16.5	—	口縁～体部1/4	二色・彫2.SY06/4	細砂粒含む・赤色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
186	S017	110	土師器	付付壺	14.8	—	口縁部	尻蓋彫2.SY06/3	底 赤色・赤色配・赤色配・長石・石・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
186	S017	111	土師器	付付壺	13.8	—	口縁部	尻蓋彫2.SY06/3	底 赤色・赤色配・赤色配・長石・石・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
186	S017	112	土師器	付付壺	10.0	16.4	口縁1/2～胴部1/4	尻白の彫2	底 長石	外面1/2、内面1/2、口縁部
186	S017	113	土師器	付付壺	11.8	—	口縁～底面	彫2.SY06/6	底 赤色配	外面1/2、口縁部、内面1/2、口縁部
187	S017	114	土師器	付付壺	13.0	—	口縁1/2～体部1/2	彫2.SY06/6	底 赤色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	115	土師器	付付壺	11.0	7.4	口縁1/2～胴部	尻蓋彫2.SY06/6	底 長石・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	116	土師器	付付壺	—	17.2	体部1/4～胴部1/2	尻蓋彫2.SY07/4	底 赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	117	土師器	付付壺	13.2	—	口縁部1/2	二色・彫2.SY07/4	底 赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	118	土師器	付付壺	16.8	—	口縁部1/4～体部	彫2.SY06/6	底 赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	119	土師器	付付壺	—	—	体部～付付壺	外面1/2、二色・彫2.SY06/3～ 彫2.SY06/6、内面・彫2.SY06/6	底 赤色・赤色配・赤色配	外面1/2、口縁部、内面1/2、口縁部
187	S017	120	土師器	付付壺	11.4	—	口縁1/2～体部1/2	明赤彫2.SY05/6	底 赤色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	121	土師器	付付壺	13.0	—	口縁部小～体部1/2	彫2.SY04/4	底 白色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	122	土師器	付付壺	18.2	8.2	口縁～胴部1/4	彫2.SY04/4	底 白色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
187	S017	123	土師器	付付壺	16.4	8.8	口縁1/2～胴部	彫2.SY06/6	底 赤色・赤色配	外面1/2、口縁部、内面1/2、口縁部
188	S017	124	土師器	付付壺	16.6	—	口縁～体部	彫2.SY06/6	底 赤色・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
188	S017	125	土師器	付付壺	13.6	—	口縁～体部1/3	明赤彫2.SY03/2	底 白色・赤色配	外面1/2、口縁部
188	S017	126	土師器	付付壺	—	18.7	体部～底面1/4	明赤彫2.SY03/2	底 白色・赤色配	外面1/2、口縁部
188	S017	127	土師器	付付壺	—	8.4	体部～胴部	尻蓋彫2.SY04/2	底 赤色・赤色配	外面1/2、口縁部
188	S017	128	土師器	付付壺	—	<8.6>	胴部	彫2.SY06/6	底 赤色・赤色配	外面1/2、口縁部
188	S017	129	土師器	付付壺	—	<8.6>	胴部	二色・尻蓋彫10.SY1/3	底 長石	外面1/2、口縁部
188	S017	130	土師器	付付壺	—	8.4	胴部～底面	彫2.SY06/6	底 長石・赤色配	外面1/2、内面1/2、口縁部
188	S017	131	土師器	付付壺	—	10.5	胴部～底面	外面・彫2.SY07/6 内面・彫2.SY03/2	細砂粒含む・赤色・赤色配	外面1/2、口縁部

表 1 (数値)は表示なし、<数値>は存在、<無数値>は存在

区分	項名番号	種別	設備	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ <mm>	部位	色調	構成	耐土	備考
188	S017	132	土砂器 台付壺	—	18.0	<6.0>	体部小~胴部A/4	曜文S086/8	良好	赤・赤色配・白色配・長石・右赤・金色葉目	外面1面> 内面1面(内面A)は底面・胴面
188	S017	133	土砂器 台付壺	—	8.9	<7.8>	体部小~胴部B	曜文S086/6	良好	赤・赤色配・白色配・金色葉目	外面1面> 内面1面> 内面1面(内面A)は底面・胴面
188	S017	134	土砂器 台付壺	—	9.8	<7.2>	体部小~胴部B/1/2	曜文S087/6	良好	細砂粒含む・白色配・赤色配	外面1面> 内面1面(胴面)
188	S017	135	土砂器 台付壺	—	9.1	<6.0>	体部小~胴部B/1/4	二色・黄緑色の086/3	良好	細砂粒含む・白色配・赤色葉目	外面1面> 底面
188	S017	136	土砂器 台付壺	—	<8.0>	<6.3>	胴部	曜文S086/8	良好	赤・長石・赤色葉目	外・内面1面> 寸方
188	S017	137	土砂器 台付壺	—	7.8	<7.5>	体部小~胴部	成装束2/S086/6	良好	赤・赤色配・白色配・赤色葉目	外・内面1面> 寸方
188	S017	138	土砂器 台付壺	—	8.0	<8.9>	体部小~胴部	曜文S086/6	良好	赤・赤色配・白色配・赤色葉目	外・内面1面> 寸方
188	S017	139	土砂器 台付壺	—	7.4	<7.4>	体部~胴部	曜文S087/6	良好	赤・長石・赤色葉目	外面1面> 内面1面(胴面)
188	S017	140	土砂器 台付壺	—	7.7	<6.1>	胴部~底面	二色・曜文S087/4	良好	赤・赤色配・白色配	外面1面> 寸方
188	S017	141	土砂器 台付壺	—	8.3	<6.2>	体部小~底面	明赤配2/S086/6	良好	細砂粒含む・赤色配・白色配・右赤	外面1面> 寸方 内面1面> 寸方
188	S017	142	土砂器 台付壺	—	8.3	<5.2>	胴部	二色・曜文S087/4	良好	細砂粒含む・赤色配・白色配	外面1面> 寸方 内面1面> 寸方
188	S017	143	土砂器 台付壺	—	7.2	3.9	胴部	曜文S086/6	良好	赤・赤色配・長石・赤色葉目	外面1面> 寸方 内面1面> 寸方
188	S017	144	土砂器 台付壺	—	<8.2>	<5.3>	胴部	明赤配	良好	細砂粒含む	外面1面> 寸方 内面1面> 寸方
188	S017	145	土砂器 壺	15.4	—	<12.4>	口縁~体部3/4	二色・曜文S086/4~曜文S086/6	良好	細砂粒含む・赤色配・白色配・赤色葉目	外面1面> 口縁下部分> 内面1面> 口縁部(内面A)は底面
188	S017	146	土砂器 壺	15.8	—	<16.3>	口縁~体部	外面・胴部S083/1 内面・胴部S083/2	良好	細砂粒含む・赤色配・長石・赤色葉目	外面1面> 寸方
188	S017	147	土砂器 壺	19.0	—	<21.9>	口縁1/2~体部	曜文S086/6	良好	細砂粒含む・赤色配・長石・赤色葉目	外面1面> 寸方
188	S017	148	土砂器 壺	18.0	—	<17.2>	口縁1/2~体部1/4	外面・胴部S086/6 内面・胴部S087/6	良好	細砂粒含む・赤色配・長石・赤色葉目	外面1面> 寸方
188	S017	149	土砂器 壺	18.4	—	<12.5>	口縁~体部1/2	曜文S087/6	良好	細砂粒含む・赤色配・長石・右赤・赤色葉目	外・内面1面> 寸方
188	S017	150	土砂器 壺	16.1	6.2	22.7	口縁1/4~底面	二色・曜文S087/4	良好	細砂粒含む・赤色配・長石	外面1面> 内面1面> 胴面
188	S017	151	土砂器 壺	18.0	—	<8.0>	口縁1/2~体部小	曜文S087/6	良好	赤・赤色配・長石・赤色葉目	外・内面1面> 寸方
188	S017	152	土砂器 壺	25.0	—	<6.1>	口縁1/6~体部1/4	二色・曜文S087/4	良好	赤・赤色配・長石・赤色葉目	外面1面> 寸方 口縁部 底面
188	S017	153	土砂器 壺	22.0	—	<6.1>	口縁部1/2	曜文S086/6~二色・成装束2/S087/4	良好	赤・赤色配・白色配・赤色葉目	外面1面> 寸方 胴面 内面1面> 寸方
188	S017	154	土砂器 壺	12.4	—	<6.9>	口縁1/4~体部1/4	成装束2/S086/2	良好	細砂粒含む・赤色配・白色配・白色配・長石	外・内面1面> 寸方
188	S017	155	土砂器 壺	13.8	—	<7.6>	口縁部1/4	黄緑色のS087/8	良好	赤・赤色配	外・内面1面> 寸方
188	S017	156	土砂器 壺	13.6	—	<10.1>	口縁部1/4	曜文S086/6	良好	細砂粒含む・赤色配・白色配・赤色葉目	外面1面> 寸方 内面1面> 寸方
188	S017	157	土砂器 壺	11.4	—	<8.5>	口縁1/4~体部	曜文S086/6	良好	赤・赤色配・赤色葉目	外面1面> 寸方 内面1面(胴面)
188	S017	158	土砂器 壺	16.0	9.0	14.8	口縁1/4~底面	明赤配S086/6~黒配の083/1	良好	細砂粒含む・赤色配・長石・赤色葉目	外面1面> 寸方
188	S017	159	土砂器 壺	5.3	<4.2>	—	口縁1/4~底面	曜文S087/6	良好	赤・長石	外・内面1面> 寸方



9. (数値) は部元値、<数値>は<部元値>

原 形 番号	原 名	種別	仕様	口径 (mm)	長さ (mm)	部高 (mm)	部位	色調	加工	粘土	備考
106	S017	160	土師器 甕	6.6	4.2	9.1	口縁1/4～底縁	灰緑・JY052/2	良好	赤・赤色灰・赤色雲母	外・内面1/4～2/3 内面1/4～
106	S017	161	土師器 甕	—	4.0	<2.8>	体部3/4～底縁	外面:赤065/6 内面:灰JY07/6	良好	赤	外・内面1/4～
106	S017	162	土師器 甕	—	<3.0>	<3.0>	体部1/3～底縁	外面:明黄緑JY08/8 内面:白・黒色JY07/3	良好	細砂状含む・赤褐色灰	外・内面一部3/4付着
106	S017	163	土師器 甕	—	6.5	<2.0>	体部小～底縁	白・黒色JY07/4	良好	赤・赤色雲母	外・内面1/4～ 底面1/4付着調整
106	S017	164	土師器 甕	—	6.2	1.9	体部～底縁	白・黒色JY07/3	良好	赤・赤色灰	外・内面1/4～
106	S017	165	土師器 甕	—	3.9	<2.7>	体部小～底縁	白・黒色JY07/4	良好	細砂状含む・赤色灰・白色灰	外・内面1/4～
106	S017	166	土師器 甕	—	6.6	<2.0>	底縁	白・黒色JY07/3	良好	細砂状含む・赤色灰	外・内面3/4～
106	S017	167	土師器 甕	—	6.5	<2.7>	体部小～底縁	黒色JY08/3	良好	赤・白色灰・赤色雲母	内面1/4～ 底面調整
106	S017	168	土師器 甕	—	7.8	<3.7>	底縁	白・黒色JY07/4	良好	細砂状含む・赤色灰・黒色灰・長石・石英	外・内面1/4～ 底面・木蓋面
106	S017	169	土師器 甕	—	8.0	<3.9>	体部小～底縁	黒JY08/6	良好	赤・赤色灰・白色灰	外・内面1/4～
106	S017	170	土師器 甕	—	7.6	<4.0>	体部～底縁	外面:白・黒色JY07/3 内面:灰黒色JY08/6	良好	赤・長石・赤色雲母	外・内面1/4～
106	S017	171	土師器 甕	—	—	<6.2>	把手	黒JY08/6	良好	細砂状含む・赤色灰・長石・赤色雲母	外・内面1/4～
101	S017	172	土師器 手摺	<5.8>	—	—	口縁部小	黒JY08/6	良好	細砂状含む・赤色灰・長石	内面1/4～
101	S017	172	土師器 手摺	<2.3>	—	—	口縁部小	黒JY08/6	良好	細砂状含む・赤色灰・長石	内面1/4～
101	S017	172	土師器 手摺	<2.2>	—	—	口縁部小	黒JY08/6	良好	細砂状含む・赤色灰・長石	内面1/4～
101	S017	173	6器 甕	10.0	6.6	—	底縁	灰白 N7/	良好	赤	—
101	S017	174	6器 甕	<6.6>	<1.2>	3.8	—	—	良好	赤	—
101	S017	175	6器 甕	<10.0>	<13.6>	3.5	—	—	良好	赤	—
101	S017	176	6器 甕	<5.4> <5.2>	1.6 2.0	0.3 0.4	口縁部(底縁部を除く)の底縁 (中絶1/4～)	黒・透明	良好	赤	底縁部分に<底縁> 調整用 底縁部 調整用 片出調整
101	S017	177	6器 甕	1.6	0.95	0.2	—	—	良好	赤	外・内面1/4～2/3 内面1/4～
178	S028	1	土師器 甕	—	8.4	<11.7>	体部1/4～底縁	黒JY08/6	良好	細砂状含む・白色灰・長石・赤雲母・赤色雲母・黒色雲母	外・内面1/4～
182	S032	1	縄文土器 深鉢	—	<6.0>	<2.7>	体部小	外面:白・黒色JY08/4 内面:明黄緑JY08/6	良好	細砂状含む・白色灰・長石・赤雲母・赤色雲母・黒色雲母	外・内面1/4～
182	S032	2	6器 打製石片	<16.9>	<6.8>	1.8	—	—	良好	赤	縄文土器
182	S032	3	6器 打製石片	<2.3>	<1.5>	<0.3>	—	—	良好	赤	縄文土器
182	S032	4	6器 打製石片	6.1	1.9	1.5	—	—	良好	赤	縄文土器
182	S033	1	縄文土器 深鉢	—	—	<3.0>	体部	明赤褐色JY08/6	良好	赤	縄文土器 中国 後遺物形式
182	S033	2	縄文土器 深鉢	—	—	<4.3>	口縁部小	明赤褐色JY08/6	良好	赤色雲母	口縁部内側に2区区画に高脚文4区5 区画内は底縁の角付文 中間半重 扇状式
182	S033	3	6器 打製石片	<16.2>	7.4	1.9	底縁	灰JY07/1	良好	赤	447/639



## 第5章 自然科学分析

### 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadidze・黒沼保子

#### 1. はじめに

甲府市の塩部遺跡から出土した試料 6 点について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

#### 2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は、炭化材 5 点と炭化種実 1 点で、Pit180 から出土した炭化材 (木 55; PLD-37065) と、Pit203 から出土した炭化材 (木 58; PLD-37066)、SI10 から出土した炭化草本 (木 108; PLD-37067)、SI7a から出土した炭化材 (木 121; PLD-37068)、SI7b から出土した炭化材 (木 125; PLD-37069)、SK31 から出土した炭化種実 (種 55; PLD-37070) である。炭化材は、いずれも最終形成年輪が残存しておらず、部位不明であった。調査所見による遺構の推定時期は、Pit180 と Pit203、SK31 が古墳時代、SI10 と SI7b が古墳時代前期、SI7a が古墳時代中期である。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-37065	遺構: Pit180 試料No. 木55	種類: 炭化材 (ケヤキ) 試料の性状: 最終形成年輪以外、部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-37066	遺構: Pit203 試料No. 木58	種類: 炭化材 (コナラ属クスギ節) 試料の性状: 最終形成年輪以外、部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-37067	遺構: SI10 試料No. 木108	種類: 炭化草本 (イネ科) 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N) 処理備考: 状態悪い? 灰物混じり
PLD-37068	遺構: SI7a 試料No. 木121	種類: 炭化材 (コナラ属クスギ節) 試料の性状: 最終形成年輪以外、部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N) 処理備考: 状態悪い
PLD-37069	遺構: SI7b 試料No. 木125	種類: 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状: 最終形成年輪以外、部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-37070	遺構: SK31 試料No. 種55	種類: 炭化種実 (イネ種子) 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)

#### 3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦

年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代 (yrBP) の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差(±1σ)は、測定統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal4.3(較正曲線データ: IntCal13)を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ <sup>13</sup> C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	<sup>14</sup> C年代 (yrBP±1σ)	<sup>14</sup> C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-37065 Pit180 試料No. 木55	-24.39±0.23	1804±16	1805±15	144-154 cal AD ( 6.2%) 169-195 cal AD (19.3%) 210-245 cal AD (42.6%)	135-252 cal AD (94.6%) 308-311 cal AD ( 0.8%)
PLD-37066 Pit203 試料No. 木58	-28.82±0.26	1731±18	1730±20	256-300 cal AD (44.5%) 317-342 cal AD (23.7%)	250-358 cal AD (89.1%) 365-380 cal AD ( 6.3%)
PLD-37067 SI10 試料No. 木108	-23.13±0.24	1719±17	1720±15	259-281 cal AD (24.7%) 324-354 cal AD (31.7%) 366-380 cal AD (11.8%)	255-302 cal AD (37.2%) 315-387 cal AD (58.2%)
PLD-37068 SI7a 試料No. 木121	-29.99±0.15	1731±16	1730±15	257-298 cal AD (45.6%) 319-340 cal AD (22.6%)	250-358 cal AD (89.8%) 365-380 cal AD ( 5.6%)
PLD-37069 SI7b 試料No. 木125	-25.40±0.26	1861±17	1860±15	91- 99 cal AD ( 6.1%) 124-176 cal AD (44.9%) 191-212 cal AD (17.1%)	85-220 cal AD (95.4%)
PLD-37070 SK31 試料No. 種55	-27.03±0.18	1816±17	1815±15	143-155 cal AD (11.0%) 168-195 cal AD (26.6%) 209-237 cal AD (30.6%)	134-240 cal AD (95.4%)

#### 4. 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち2σ暦年代範囲(確率95.4%)に着目して、結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については藤尾(2013)、古墳時代の暦年代については赤塚(2009)を参照した。

Pit180から出土した炭化材(木55: PLD-37065)は、135-252 cal AD (94.6%)および308-311 cal AD (0.8%)であった。これは、弥生時代後期～古墳時代前期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代に対して整合的である。

Pit203 から出土した炭化材 (木 58 : PLD-37066) は、250-358 cal AD (89.1%) および 365-380 cal AD (6.3%) であった。これは、古墳時代前期～中期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代に対して整合的である。

S110 から出土した炭化草本 (木 108 : PLD-37067) は、255-302 cal AD (37.2%) および 315-387 cal AD (58.2%) であった。これは、古墳時代前期～中期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代前期に対して整合的である。

S17a から出土した炭化材 (木 121 : PLD-37068) は、250-358 cal AD (89.8%) および 365-380 cal AD (5.6%) であった。これは、古墳時代前期～中期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代中期に対して整合的である。

S17b から出土した炭化材 (木 125 : PLD-37069) は、85-220 cal AD (95.4%) であった。これは、弥生時代後期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代前期よりもやや古い年代であった。

SK31 から出土した炭化種実 (種 55 : PLD-37070) は、134-240 cal AD (95.4%) であった。これは、弥生時代後期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代よりもやや古い年代であった。

木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。今回の炭化材試料は、いずれも最終形成年輪が残存しておらず、残っている最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。なお、草本試料は1年生と思われるため、測定結果は枯死した年代を、種実試料の測定結果は種実の結実年代を示す。

#### 引用・参考文献

- 赤塚次郎 (2009) 弥生後期から古墳中期 (八王子古宮式から宇田式期) の暦年代。日本文化財科学会第 26 回大会実行委員会編「日本文化財科学会第 26 回大会研究発表要旨集」: 14-20, 日本文化財科学会。
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 藤尾慎一郎 (2013) 弥生文化像の新構築。275p, 吉川弘文館。
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」: 3-20, 日本第四紀学会。
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hafflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

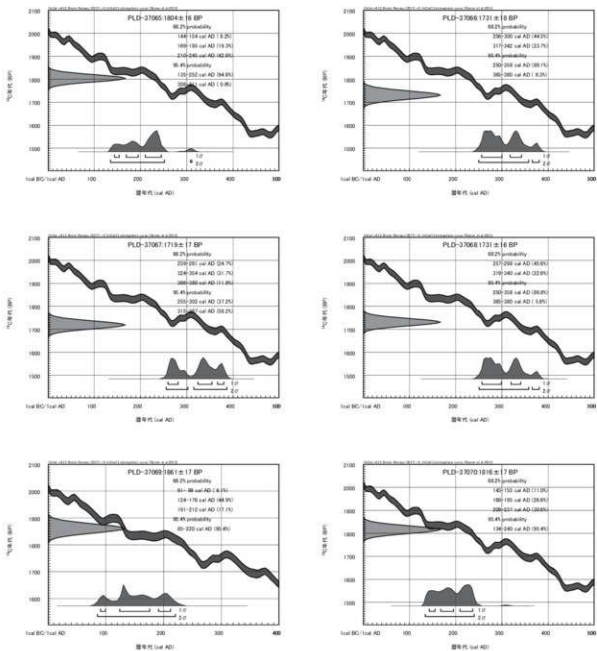


圖 1 曆年較正結果

## 1. はじめに

山梨県甲府市に所在する塩部遺跡の発掘調査では、集落内遺構の土壌水洗によって、住居址、土坑、溝などの遺構から動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

## 2. 試料と方法

試料はチェック付きポリ袋 68 袋である。1 つの袋につき 1 点ないし複数点の骨片が含まれていた。観察は肉眼と実体顕微鏡下で行い、標本との比較により同定した。

## 3. 結果と考察

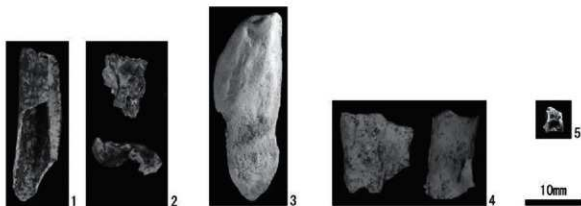
同定されたのは、哺乳綱 (Mammalia)、イノシシ (*Sus scrofa*)、シカ (*Cervus nippon*)、ウシ (*Bos taurus*)、コイ科 (Cyprinidae) の計 5 分類群である。

イノシシは、SI20 で右下顎第 2 切歯が 1 点、SI35、SI36、SK35 で臼歯破片が複数みられた。イノシシと同定した試料が、野生のイノシシであるか飼育されたブタであるかは不明である。

シカは、SI37 で骨角器の可能性がある焼けた角片 1 点が見られた。

ウシは、SI5 と Pit483 で臼歯破片が複数みられた。また、SI7a、SI7b、SI24、SI27、SI32、Pit181、Pit462、SD17 でウシの可能性のある歯の破片が複数みられた。塩部遺跡では、家畜としてウシが飼育されていたと考えられる。

コイ科は、SI38 で焼けた腹椎 1 点が見られた。河川や池沼で魚類が捕獲され、食用にされていたと考えられる。



図版1 塩部遺跡出土動物遺体

1. イノシシ右下顎第2切歯(骨21) 2. イノシシ臼歯(骨37) 3. シカ角, 骨角器?(骨41)  
4. ウシ臼歯(骨52) 5. コイ科腹椎(骨42)

表1 埴部遺跡動物遺体一覧

試料番号	遺構名	取上げ	備考	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
骨1	S11	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨2	S11	一括	SI21分	哺乳綱	頭蓋骨	—	破片	1	焼
骨3	S12	一括	Pit118付近	哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨4	S13	炉一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨5	S14	炉一括		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨6a	S15	一括		ウシ	臼歯	不明	破片	6	焼?
骨6b	S15	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	2	焼
骨7	S16	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨8a	S17a	No. 28		ウシ?	臼歯	不明	破片	23	焼?
骨8b	S17a	No. 28		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨9	S17b	一括		ウシ?	歯	不明	破片	10	焼
骨10	S19	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨11	S19	床下焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨12	S110	炉2一括	床下検出	哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨13	S110	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	20<	焼
骨14	S111	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨15	S113	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨16	S114	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	22	焼
骨17	S114	No. 3		哺乳綱	不明	不明	破片	40<	焼
骨18	S114	No. 4		哺乳綱	不明	不明	破片	30<	焼
骨19	S116	No. 6		哺乳綱	不明	不明	破片	100<	焼
骨20	S119	No. 76		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨21	S120	No. 627		イノシシ	下顎第2切歯	右	遊離歯	1	焼?
骨22	S120	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨23	S122	No. 241		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨24	S122	No. 295		哺乳綱	不明	不明	破片	5	焼
骨25	S123	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	13	焼
骨26	S124	No. 17		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨27a	S124	一括		ウシ?	臼歯	不明	破片	2	焼
骨27b	S124	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨28a	S125	カマド一括		哺乳綱	肋骨	不明	破片	1	焼
骨28b	S125	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	15	焼
骨29	S127	No. 77		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨30	S127	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	40<	焼
骨31a	S127	一括		ウシ?	臼歯	不明	破片	40<	焼?
骨31b	S127	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	5	焼
骨31c	S127	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	22	焼
骨32	S128	炉一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨33a	S128	一括		哺乳綱?	四肢骨	不明	骨幹	1	焼
骨33b	S128	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨34	S132	No. 105		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨35a	S132	一括		ウシ?	歯	不明	破片	11	焼?
骨35b	S132	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨36	S135	No. 26	土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨37	S135	No. 55		イノシシ	臼歯	不明	破片	70<	焼?
骨38	S136	No. 1		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨39	S136	No. 28		イノシシ	臼歯	不明	破片	39	焼?
骨40	S136	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨41	S137	一括		シカ	角	不明	破片、骨角器?	1	焼
骨42	S138	No. 133	土器の中	コイ科	腹椎	—	椎体	1	焼
骨43	S138	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	40<	焼
骨44a	S138	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	破片	9	焼
骨44b	S138	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	70<	焼
骨45	S139	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼、岩石片あり
骨46	SK16	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨47a	SK35	一括		イノシシ	臼歯	不明	破片	20<	焼?
骨47b	SK35	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨48	SK36	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	9	焼
骨49	Pit180	一括	SI7内	哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨50a	Pit181	No. 1	SI7内、土器の中	ウシ?	歯	不明	破片	2	焼
骨50b	Pit181	No. 1	SI7内、土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	8	焼
骨51	Pit462	一括	SI13内	ウシ?	臼歯	不明	破片	20<	焼?
骨52	Pit483	No. 1	SI28内	ウシ	臼歯	不明	破片	14	焼?
骨53	Pit566	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨54	SD1	No. 114	土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼



骨55	SD1	No. 159	土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨56	SD1	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨57a	SD17	一括		ウシ?	臼歯	不明	破片	5	焼?
骨57b	SD17	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨58	SD25	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨59a	SX3	No. 22	焼土1内	哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨59b	SX3	No. 22	焼土1内	哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨60	SX3	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10	焼
骨61	SY2	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨62	SY3	一括	SI22内	哺乳綱	不明	不明	破片	14	焼
骨63	SY4	一括	SI1内	哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨64	SY5	一括	SI23内	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨65	SY10	一括	SI36内	哺乳綱	不明	不明	破片	8	焼
骨66	IG1068	No. 1068		哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨67	IG1306	No. 1306		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨68	IG1325	No. 1325	SX1付近	哺乳綱	頭蓋骨?	不明	後頭骨?	1	

## 1. はじめに

山梨県甲府市塩部遺跡のSD01とされる川の堆積物中より得られた昆虫化石について、同定し、当時の古環境について推定した。なお、同一遺構で花粉分析やプラント・オーバーオール分析、大型植物遺体分析も行われている。

## 2. 試料と方法

分析試料は、試料1はSD01中に廃棄された瓶 (No. 159) 内の堆積物試料、試料2は同じくSD01中に廃棄された甕 (No. 207) 内の堆積物試料、試料3はSD01から出土した土器破片を一括し、水洗する過程で発見された試料である。試料1と2の水洗は、昭和測量株式会社によって行われた。水洗方法は、2.0mm目と0.85mm目の篩を上下に重ねて水洗した。水洗量は、No. 159が5711g、No. 207が848gである。試料の時期は、いずれも古墳時代後期である。

## 3. 結果

同定結果を表1に、また主な出現昆虫については、図版1に示した。以下に、明らかになった結果について述べる。

試料1には、計8点の昆虫化石が含まれていた。オオゴミムシ *Lesticus magnus* の右上翅片が1点と、エンマコガネ属 *Anthophagus* sp. の前胸背板片が2点、ハネカクシ科 Staphylinidae の胸部が1点、キンバエ属 *Lucilia* sp. の胴軸片が1点、ルリヒタゴミムシ *Dicranoncus femoralis* の右上翅が1点、オサムシ科 Carabidae の上翅片が2点であった。

エンマコガネ属は食糞性昆虫、キンバエ属は糞にも見られるが、多くは動物質の腐敗物に集まる昆虫である。ハネカクシ科は主に食糞性だが、雑食性の種類もある。ルリヒタゴミムシは、河原や水辺周辺の湿潤な表面上で観察される (WEB 図鑑「里山のゴミムシ」) が、ときにクマザサの葉上にもいることもある (土生, 1941) という。検出されたすべての昆虫が地表性昆虫に属し、地表面上に存在する肉質物や糞などを食べる種類であった。

試料2には、計19点の昆虫化石が含有されていた。オオゴミムシが2点、オオヒラタシデムシ *Eusilpha japonica* が5点、オサムシ科 (いずれも大型) が9点、アリ科 Formicidae が3点であった。

オオゴミムシは、成虫・幼虫ともに肉食性の大型の地表性歩行虫、オオヒラタシデムシは、食糞性の地表性歩行虫である。

オオゴミムシは、低地から山麓にかけて生息する平地性の食肉性歩行虫である。山地では、ほとんど採集されることはない。野原や畑・河原などに多く見られ、普通種である。日中石の下などに隠れていて夜間活動し、鱗翅目の幼虫などを好んで食べる。森林内や人気の少ないところを好まず、人里周辺に多い。

オオヒラタシデムシは、平地から山地までふつうに産する。成虫は土中で越冬して春から現れ、動物の死体をはじめ主に腐敗動物質を食する。多くのシデムシ類が森林内や自然度の高い地表面上に生活するのに対し、オオヒラタシデムシは人家に近いところに生息する擾乱環境の指標種である。

9点確認されたオサムシ科の昆虫片は、いずれも大型種に属するものであり、オオゴミムシに同定され

る可能性もあるが、分類・同定が困難な部位のため、詳細な同定はできなかった。試料1同様、得られたすべての昆虫が、地表性昆虫であった。

試料3には、計6点の昆虫化石が含まれていたが、検出された昆虫は試料1および2とは異なり、いずれも食植性昆虫であった。コガネムシ *Mimela splendens* の右上翅が1点、ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* の右上翅や前胸背板片などが計4点、コガネムシ科 Scarabaeidae に属する腹部腹板片が1点であった。

コガネムシは、主に河川敷や河川堤防など開けた場所（酒井・藤岡, 2007）に生える草木の葉を食する。一方、ヒメコガネは、ヒトが植栽した畑作物や果樹、二次林の樹葉などに集まる人里昆虫（森, 1999）である。

#### 4. 考察

出現昆虫のうち、古墳時代後期の土器内の堆積物から得られた試料はすべて地表性昆虫、一括土器と共に得られた試料はすべて陸生の食植性昆虫であった。

試料1および試料2から得られたオオゴミムシとオオヒラタシデムシは、共に森林内や標高の高い場所に棲むことがなく、平地を代表する地表性歩行虫である。この結果、遺跡は、周囲が開けた平地や台地のような場所に展開していた可能性が考えられる。

また、両昆虫ともに人里周辺の攪乱地表面上に多い昆虫であるため、遺跡一帯に腐敗動物質や生活ゴミなどが散在する畑のような環境であったと想定される。こうした推定は、食糞性のエンマコガネ属や腐敗動物質に多いキンバエ属、多くが食糞性の地表性昆虫であるハネカクシ科やアリ科の出現によっても示される。

試料1および試料2に、まったく食植性昆虫が含まれていなかったため、遺跡の周囲には、あまり植物は生えていなかっただろう。

一方、SD01内の一括試料では、主に畑作物を害するヒメコガネや河川敷などに生活するコガネムシなど、ともに食葉性の昆虫が発見されたことが注目される。この結果により、遺跡からやや離れた場所にヒトが植栽した畑作物や果樹などが存在したと考えられる。

#### 引用文献

- 土生和申 (1941) 数種の北海道産歩行虫に就いて. 昆虫界, 9 (91), 651-655.
- 日本産環境指標ゴミムシ類データベース作成グループ WEB 図鑑「里山のゴミムシ」. 滋賀県立琵琶湖博物館. ([www.biawahaku.jp/research/data/gomimushi/](http://www.biawahaku.jp/research/data/gomimushi/) 2018年11月23日参照)
- 森 勇一 (1999) 昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史. 歴朝国際シンポジウム「過去1万年間の陸域環境の変遷と自然災害史」国立歴史民俗博物館研究報告第81集, 311-342, 国立歴史民俗博物館.
- 酒井 香・藤岡昌介 (2007) 日本産コガネムシ上科図説 (第2巻食葉群1), 173p, 昆虫文献六本脚.

表1 甲府市塩部遺跡から産出した昆虫化石

## 試料1:SD01(No.159)

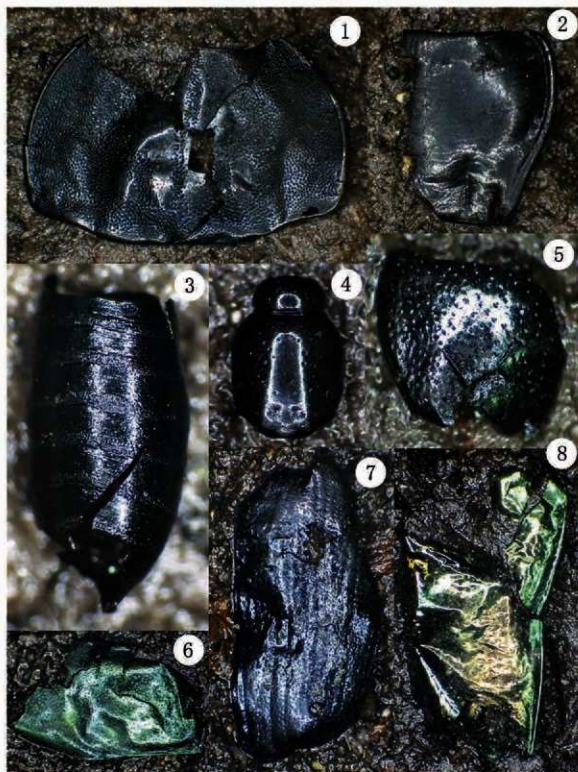
昆虫和名	昆虫学名	部位	食性	生息環境	大きさ (mm)
1 オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motschulsky)	右上翅片	食肉性	地表性	11.5
2 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部	食屑性	地表性	2.2
3 エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	前胸背板片	食糞性	地表性	2.8
4 キンバエ属	<i>Lucilia</i> sp.	頭部片	食糞性	地表性	4.8
5 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	2.8
6 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	2.6
7 ルリヒラタゴミムシ	<i>Dicranoncus femoralis</i> Chaudoir	右上翅	食肉性	地表性	5.0
8 エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	前胸背板片	食糞性	地表性	1.8

## 試料2:SD01(No.207)

昆虫和名	昆虫学名	部位	食性	生息環境	大きさ (mm)
1 オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	前胸背板	食屑性	地表性	9.5
2 オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	前胸背板片	食屑性	地表性	8.0
3 オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	右上翅会合部	食屑性	地表性	5.2
4 オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板右半部	食肉性	地表性	5.1
5 オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motschulsky)	前胸背板下半部	食肉性	地表性	5.2
6 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板片	食肉性	地表性	6.2
7 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	後胸腹板片	食肉性	地表性	4.8
8 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	中胸腹板片	食肉性	地表性	6.4
9 オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	上翅片	食屑性	地表性	4.9
10 オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	上翅片	食屑性	地表性	5.9
11 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板	食肉性	地表性	5.5
12 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	雑食性	地表性	1.8
13 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	2.4
14 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	食肉性	地表性	3.4
15 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	4.4
16 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片	食肉性	地表性	5.4
17 オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	6.4
18 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	雑食性	地表性	1.8
19 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	雑食性	地表性	2.2

## 試料3:SD01 (一括)

昆虫和名	昆虫学名	部位	食性	生息環境	大きさ (mm)
1 コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> Gyllenhal	右上翅	食植性	植物上	8.5
2 ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	右上翅	食植性	植物上	10.5
3 ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	前胸背板片	食植性	植物上	5.2
4 ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	上翅片	食植性	植物上	2.4
5 ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	上翅片	食植性	植物上	5.6
6 コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片	食植性	植物上	7.2



図版1 塩部遺跡から産出した昆虫化石

1. オオヒラタシデムシ *Eusilpha japonica* (Motschulsky) 前胸背板 幅9.5mm (試料2)
2. オオゴミムシ *Lesticus magnus* (Motschulsky) 左上翅 幅5.1mm (試料2)
3. キンバエ属 *Lucilia* sp. 頭楕片 長さ4.8mm (試料1)
4. ハネカクシ科 Staphylinidae gen. et sp. indet. 胸部 長さ2.2mm (試料1)
5. エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. 前胸背板片 長さ2.8mm (試料1)
6. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky 前胸背板片 長さ5.2mm (試料3)
7. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky 右上翅 長さ10.5mm (試料3)
8. コガネムシ *Mimela splendens* Gyllenhal 右上翅 長さ8.5mm (試料3)

## 1. はじめに

甲府市塩部に所在する塩部遺跡は、甲府市中央部に流れる相川と荒川の両河川に挟まれた場所に立地する、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡である。ここでは、集落内に確認された古墳時代を主体とする堅穴住居跡や土坑などから回収された土壌中の大型植物遺体の同定結果を報告し、食用などに利用された植物、遺構周辺における栽培状況や植生について検討する。なお、一部の試料については、炭化材樹種同定や放射性炭素年代測定も行われている（別項参照）。

## 2. 試料と方法

試料は、水洗済みの堆積物試料が63試料である。堆積物試料は、堅穴住居跡(SI)、ピット(Pit)、土坑(SK)、溝(SD)、焼土(SY)、分類不明遺構(SX)、遺構外出土遺物(IG)から採取された。堆積物の水洗選別および炭化種実の抽出は、昭和測量株式会社により行われた。考古学的な所見による遺構の推定時期は、1試料を除き、いずれも古墳時代前期～後期の範疇である。遺構ごとの詳細な時期については、表1～5を参照されたい。

計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号で表記した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

## 3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のブドウ属A炭化種子とブドウ種子、モモ核・炭化核、スモモ核、ケヤキ炭化果実、クリ炭化果実、オニグルミ核・炭化核、ウルシ属—スルデ炭化内果皮、ムクロジ炭化種子の9分類群、草本植物ではヒルムシロ属核とヒエ属炭化種子(穎果)、イネ炭化種子(穎果)、コムギ炭化種子(穎果)、キケマン属種子、ダイズ炭化種子、ダイズ属炭化種子、ハギ属炭化種子、エンドウ属炭化種子、ササゲ属アズキ亜属(以下、アズキ亜属)炭化種子、アサ核、カナムグラ核、スイカ種子、メロン仲間種子・炭化種子、ヒョウタン仲間種子・炭化種子、スマレ属炭化種子、ヤナギタデ果実・炭化果実、ウナギツカミ炭化果実、シソ属炭化果実、オナモミ総苞・炭化総苞、ヤブジラミ総苞の21分類群の、計30分類群が得られた(表1～5)。この他に、科以上の同定ができなかった炭化種実を不明A炭化種実とし、不明の炭化芽を不明炭化芽として一括した。また、科以上の絞り込みに必要な識別点を持たない一群を同定不能炭化種実とした。大型植物遺体以外に昆虫遺体と骨片が見られたが、同定の対象外とした。

以下に、産出した主な大型植物遺体について遺構別に記載する。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠し、APGⅢリストの順とした。

SI1: オナモミがわずかに得られた。

SI3: 同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

SI4: イネがわずかに得られた。

表1 施設周辺集塵内の塵埃から抽出した大型結晶体分析 (1) (貯蔵内(3期集塵))

施設番号	種別	成分												
		種1	種2	種3	種4	種5	種6	種7	種8	種9	種10	種11	種12	
検出率	Si1	Si2	Si3	Si4	Si5	Si6	Si7	Si8	Si9	Si10	Si11	Si12	Si13	
採取位置	カマド-前	伊-前	伊-前	伊-前	伊-前	伊-前	伊-前	伊-前	カマド-前	カマド+前	伊-前	倉庫-前	倉庫-前	倉庫-前
採取位置	倉庫中層-奥													
分析種別	時期	古墳前期-前期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	
イネ	炭化種子							1				(1)	(1)	
ヤナギ	炭化葉											13 (10)	4 (12)	
ウツギ属-ヌルギ	炭化葉											3		
ムクロジ	炭化種子											(2)		
トウモロコシ	炭化種子											1		
イネ	炭化種子		(2)	2 (12)	(1)			4 (12)	1 (2)			8 (12)	12 (26)	
ダイズ属	炭化種子					1						(12)		
エンドウ属	炭化種子												(2)	
ササゲ属/ズキ亜属	炭化種子						(1)							
スズノ目	炭化種子											1		
ヤナギタケ	炭化葉												(1)	
ソノチチ	炭化葉												1	
特定不能	炭化種子			(1)									(1)	
不明	炭化葉						(2)						(1)	

表2 施設周辺集塵内の塵埃から抽出した大型結晶体分析 (2) (貯蔵内(3期集塵))

施設番号	種別	成分											
		種14	種15	種16	種17	種18	種19	種20	種21	種22	種23	種24	種25
検出率	Si14	Si15	Si16	Si17	Si18	Si19	Si20	Si21	Si22	Si23	Si24	Si25	Si26
採取位置	北倉-前	一	前	カマド-前	前	前	前	前	カマド	カマド+前	カマド-前	カマド-前	カマド-前
採取位置	土跡の中												
分析種別	時期	古墳前期	古墳中期-前期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期
アワノ属	炭化種子	1											
イネ	炭化種子	(2)	1					1					
イネ	炭化葉			(2)									
イネ	炭化種子	18 (17)	1 (6)	2 (10)	(1)				2 (6)			2 (11)	1 (3)
イネ	炭化種子	1			(1)								
ダイズ属	炭化種子											2 (10)	
ハズル	炭化種子	1		1									
ササゲ属/ズキ亜属	炭化種子												1
ササノケ	炭化葉	2											
特定不能	炭化種子	(1)					(6)		(1)			(11)	
不明	炭化葉	1											

表3 施設周辺集塵内の塵埃から抽出した大型結晶体分析 (3) (貯蔵内(3期集塵))

施設番号	種別	成分											
		種27	種28	種29	種30	種31	種32	種33	種34	種35	種36	種37	種38
検出率	Si27	Si28	Si29	Si30	Si31	Si32	Si33	Si34	Si35	Si36	Si37	Si38	Si39
採取位置	カマド-前	伊-前	伊-前	伊-前	カマド-前	カマド-前	カマド-前	カマド-前	カマド-前	カマド-前	カマド-前	カマド-前	カマド-前
採取位置	土跡の中												
分析種別	時期	古墳中期-前期	古墳中期-前期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期
アワノ属	種子		1										
オシロイ	炭化葉							1		(2)			
イネ	炭化種子	2 (2)	(1)	1 (1)	1			1 (1)	2 (6)	1 (2)		(1)	(6)
ダイズ	炭化種子												1
エンドウ属	炭化種子												
ササゲ属/ズキ亜属	炭化種子					1				1			
特定不能	炭化葉	(1)											(1)

表4 施設周辺集塵内の塵埃から抽出した大型結晶体分析 (4) (貯蔵内(3期集塵))

施設番号	種別	成分											
		種40	種41	種42	種43	種44	種45	種46	種47	種48	種49	種50	種51
検出率	Si40	Si41	Si42	Si43	Si44	Si45	Si46	Si47	Si48	Si49	Si50	Si51	Si52
採取位置	倉庫内	倉庫の中	倉庫の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中	土跡の中
分析種別	時期	古墳中期-前期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期
イネ	炭 (北倉)											6	
	炭 (倉庫奥)				(1)							2 (2)	
	炭 (土跡)											(2)	
	炭 (蔵内)				(1)							(2)	
	炭 (土)												
イネ	炭化葉												
ヤナギ	炭		2 (1)			(1)							
オシロイ	炭 (土跡)											(1)	
	炭 (土跡)											(1)	
	炭 (土跡)											(1)	
ヒルムシロ属	炭										1		
イネ	炭化種子	1 (1)	1									(1)	1 (1)
ルウレン属	種子								(2)				
ダイズ	炭化種子										1		
ダイズ属	炭化種子										(1)		
ササゲ属/ズキ亜属	炭化種子						(1)						
アネ	炭												
ササノケ	炭				7 (2)	(1)			2 (6)	1	1 (1)		
スイカ	種子							2					
メロン/柿	種子											(1)	
ヒョウタン/柿	種子				4 (2)								
	炭化種子				1								
ヤナギタケ	葉								1				
ウナギタケ	炭化葉								1				
オシロイ	炭				10 (2)				1			1	
	炭化葉				1								
ヤブツバキ	炭				7 (2)	2			2				
不明	炭化葉				1								
特定不能	炭化葉												(1)
不明	炭化葉				1								

SI5：少量のイネが得られた。

SI6：イネがわずかに得られた。

SI7a：イネとダイズ属、アズキ亜属がわずかに得られた。

表5 気田遺跡集落内の遺構から採集した大型植物遺体分析 (3) (部属内は横書き)

発掘番号	種53	種54	種55	種56	種57	種58	種59	種60	種61	種62	種63
遺構名	SD17	SK25	SK31	SK47	SK5	SK2	SK1	SK4	SK8	SK10	SK46
種別名	イネ	イネ	イネ	イネ	イネ	イネ	イネ	イネ	イネ	イネ	イネ
採取位置	-	SI109内	SI109内、土器の 中央	SI209内、 壁	機土1内	-	SI229内	SI179	SI279内	SI369内	川風原
分析種	時期	古墳前期	古墳前期～ 中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期～ 後期	古墳中期～ 後期	古墳中期～ 後期	古墳前期以 降
ブドウ	種子							(56)			
モモ	炭化種子	1									
クサ	炭化種子		(1)								
イネ	炭化種子	1 (2)	1	1	(1)	2 (6)	1 (1)		1	1	
イネの仲間	炭化種子							(6)			
不明A	炭化種子							1			
同定不能	炭化種子										(1)

SI8：モモがわずかに得られた。

SI9：イネが少量とオナモミがわずかに得られた。

SI10：イネが多く、ケヤキとダイズ属が少量、ブドウ属Aとモモ、ウルシ属-スルデ、ムクロジ、ヒエ属、ダイズ属、ハギ属、エンドウ属、スマレ属、ヤナギタデ、シソ属がわずかに得られた。

SI11：イネが少量、ケヤキとダイズ属がわずかに得られた。

SI13：イネが少量とコムギがわずかに得られた。

SI14：イネがわずかに得られた。

SI16：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

SI17：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

SI21：モモがわずかに得られた。

SI22：少量のイネとダイズ属が得られた。

SI24：少量のイネが得られた。

SI25：イネとアズキ亜属がわずかに得られた。

SI27：イネが少量、ブドウとケヤキがわずかに得られた。

SI28：イネがわずかに得られた。

SI38：ブドウとイネ、アズキ亜属がわずかに得られた。

SI39：イネがわずかに得られた。

SI40：イネが少量、ブドウとオニグルミ、エンドウ属がわずかに得られた。

SI43：同定可能な炭化種実は何れも得られなかった。

Pit140：イネがわずかに得られた。

Pit180：ダイズがわずかに得られた。

Pit186：イネがわずかに得られた。

Pit324：イネがわずかに得られた。

SD1：カナムグラがやや多く、モモとオナモミ、ヤブジラミが少量、スモモとオニグルミ、ヒルムシロ属、キケマン属、ダイズ、ダイズ属、アズキ亜属、アサ、スイカ、メロン仲間、ヒョウタン仲間、ヤナギタデ、ウナギツカミ、不明Aがわずかに得られた。

SD17：モモとイネがわずかに得られた。

SK25：イネがわずかに得られた。

SK31：クリとイネがわずかに得られた。

SK47：イネがわずかに得られた。



- SX3: イネがわずかに得られた。  
 SY2: イネがわずかに得られた。  
 SY3: ブドウが少量とイネがわずかに得られた。  
 SY4: メロン仲間と不明 A がわずかに得られた。  
 SY8: イネがわずかに得られた。  
 SY10: イネがわずかに得られた。  
 IG646: 同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) ブドウ属 *Vitis* sp. A 炭化種子 ブドウ科

上面観は楕円形、側面観は基部が尖る倒卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に1本の縦筋が走り、その両側に細長く深い溝孔が2つある。種皮は薄く硬い。長さ3.6mm、幅2.5mm、厚さ2.2mm。ヤマブドウ以外の野生ブドウ属である。

(2) ブドウ *Vitis vinifera* L. 種子 ブドウ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。基部は太く円柱状に突出し、先端が丸い。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に1本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝孔が2つある。種皮は薄く硬い。長さ6.4mm、幅4.4mm、厚さ2.8mm。基部が太く円柱状に突出し、先端が丸いため、栽培種のブドウと同定した。

(3) モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形～紡錘形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面には不規則な深い皺があり、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。炭化核は、表面の一部が炭化していた。完形の核の大きさは、長さ23.4mm、幅20.5mm、厚さ16.1mm、動物食痕のある個体は、長さ24.5mm、残存幅17.5mm、厚さ15.2mm、半割の個体は、長さ21.0mm、幅19.0mm、残存厚8.1mm、炭化核は、残存長17.8mm、幅19.2mm、厚さ13.5mm。SD1から出土した10点のモモ核の大きさを表6に示した。

表6 モモ核の大きさ (単位: mm)

番号	長さ	幅	厚さ	形態
SD1、種49	23.4	20.5	16.1	完形
	23.8	19.6	15.0	完形
	23.2	18.1	13.9	完形
	25.3	21.5	16.2	完形
	24.0	19.2	14.1	完形
	20.4	19.0	14.9	完形
	24.5 (17.5)	20.0	15.2	動物食痕
	(20.5)	20.0	16.7	動物食痕
	19.1	19.2	(6.7)	半割
	21.0	19.0	(8.1)	半割
最小	19.1	18.1	13.9	
最大	25.3	21.5	16.7	
平均	22.7	19.6	15.3	
標準偏差	2.1	1.0	1.0	

括弧は破片値を示す

(4) スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科

淡褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな楕円形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。残存高13.9mm、残存幅7.2mm。

(5) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。下端に鱗状の殻斗着痕があるが、残存していない。果皮内面には、いわゆる渋皮が厚く付着する。残存高2.3mm、残存幅3.4mm。

(6) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核・炭化核クルミ科

黄褐色で、側面観は広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に浅い縦方向の

縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多い。内部は二室に分かれる。半割の個体は残存高 27.3mm、幅 23.8mm、残存厚 11.9mm、打撃痕のある個体は高さ 32.7mm、幅 26.3mm、残存厚 13.7mm。

(7) ウルシ属-ヌルデ *Toxicodendron* spp. - *Rhus javanica* L. 炭化内果皮 ウルシ科

上面観は中央がやや膨らむ扁平、側面観は中央がややくびれた広楕円形で、片方がやや膨れる。ざらついた質感がある。表面および断面構造の詳細な検討が行えなかったため、実体顕微鏡下でのウルシ属-ヌルデの同定に留めた。長さ 2.9mm、幅 3.5mm、厚さ 2.3mm。

(8) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. 炭化種子 ムクロジ科

球形。表面は平滑で木質。基部は残存しないが、平らでやや凹み、果実着痕が縦方向の溝となつてみられる。残存長 10.4mm、残存幅 11.0mm、残存厚 9.5mm。

(9) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子 (穎果) イネ科

細長い円形。胚は幅が広いうちわ型で、長さは全長の 2/3 程度と長い。内穎は膨らまない。種子の大きさは、長さ 1.8mm、幅 1.5mm。

(10) イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子 (穎果) イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が残る。両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 4.0mm、幅 2.5mm (図版 1-14) と長さ 4.8mm、幅 2.8mm (図版 1-15)。

(11) コムギ *Triticum aestivum* L. 炭化種子 (穎果) イネ科

上面観は円形、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい形状である。断面形状は腹面側が窪み、背面側が円形となる。またコムギの場合、側面観で最も幅の広い部分が基部付近に来る。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが、一般的に日本産コムギと呼称しているのはパンコムギである。ここでは、一般的な呼称で記載した。残存長 3.1mm、幅 2.9mm、厚さ 2.3mm。

表7 ダイズ属炭化種子の大きさ

番号	長さ	幅	厚さ
SI7a、種6	2.9	2.4	1.6
SI10、種14	3.3	2.5	2.0
SI11、種16	3.5	2.2	1.9
SI22、種23	4.2	2.9	2.3
	3.7	2.7	1.9
最小	2.9	2.2	1.6
最大	4.2	2.9	2.3
平均	3.5	2.5	1.9
標準偏差	0.5	0.3	0.3

(単位: mm)

(12) ダイズ *Glycine max* (L.) Merr. subsp. *max* 炭化種子 マメ科

変形しているが、上面観は楕円形、側面観は片側の側面が窪む楕円形。臍の長さは全体の 2/3 未満で、長楕円形と考えられるが、痕跡のみが残る。長さ 11.2mm、幅 8.4mm、厚さ 6.0mm (図版 2-17)、長さ 11.3mm、幅 6.7mm、厚さ 5.7mm (図版 2-18)。小畑 (2008) に示された現生種と比較すると、栽培種の大きさに近い。

(13) ダイズ属 *Glycine* spp. 炭化種子 マメ科

変形が著しいが、本来の上面観は楕円形、側面観は長楕円形か。へそは側面のほぼ中央にあり、長楕円形で、全長の 1/3 未満、片側に寄る。長さ 3.3mm、幅 2.5mm、厚さ 2.0mm。それ以外のダイズ属炭化種子の大きさを表 7 に示す。

(14) エンドウ属 *Pisum* spp. 炭化種子 マメ科

球形に近い広楕円体。臍側はやや扁平。表面は平滑で、にぶい光沢がある。側面の全体に長楕円形

の臍がある。臍の大きさは、全長の3/4程度。臍の中央には縦溝がある。長さ2.1mm、幅2.0mm、厚さ2.0mm。

(15) ササゲ属アズキ亜属 *Vigna subgenus Ceratotropis* spp. 炭化種子 マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、片側に寄ると推定されるが、残存していない。長さ4.6mm、残存幅2.5mm、厚さ3.6mm。

(16) アサ *Cannabis sativa* L. 核 アサ科

黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で、側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。完形ならば表面には脈状の模様がある。長さ4.0mm、幅3.2mm。

(17) スイカ *Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum. et Nakai 種子 ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚がわずかに見られる。長さ10.6mm、残存幅5.5mm。

(18) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子・炭化種子 ウリ科

淡褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1~8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。長さ8.0mm、幅4.0mm。SD1から産出した種子の大きさは、長さ7.8mm、幅3.9mmで、大ききで分類するとマクワウリ・シロウリ型であった。

(19) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子・炭化種子 ウリ科

やや淡黄褐色~褐色で、上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象。先端はW字状で、浅く広い溝2本が基部から先端まで走る。壁はややスポンジ質。長さ9.8mm、幅5.1mm。

(20) シソ属 *Perilla* spp. 炭化果実 シソ科

いびつな球形。下端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.3mm、幅1.2mm。

(21) 不明 A Unknown A 炭化種実

上面観は楕円形、側面観は狭倒卵形。状態が悪く、へそなどの特徴は見えなかった。長さ5.3mm、幅2.6mm。

#### 4. 考察

古墳時代の遺構などから出土した炭化種実を検討した結果、栽培植物のモモとスモモ、イネ、コムギ、エンドウ属、アサ、ダイズ、メロン仲間、ヒョウタン仲間、スイカが得られた。このうち、エンドウ属とスイカについては古墳時代以前の種子の確実な出土例がない(石田ほか, 2016)。ブドウは栽培種であるが、生の種実が残らない遺構から生の種実が出土しているため、後世からの混入の可能性が高いため、除外した。また、栽培植物の組成には時期による顕著な差はみられなかった。メロン仲間は、藤下(1984)の分類でいうマクワウリ・シロウリ型の大きさの種子であった。多産したイネは、種子のみが得られた。また、このほかに食用可能な種実として、ブドウ属Aとクリ、オニグルミ、ムクロジが見出された。ムクロジは食用のほか、石鹸などにも利用可能な種実である。オニグルミの核は、頂部などに打撃痕がみられる個体も確認された。核が割られて中身の子葉が取り出された可能性

がある。ウルシ属-ヌルデとダイズ属、アズキ亜属には、栽培種と野生種の両方が含まれるが、形態からは両者の区別ができなかった。

食用などに利用できないケヤキは、堅穴住居の周辺に生育していて、果実が遺構内に堆積したと考えられる。その他の樹木は、食用にもなる有用樹であり、遺跡周辺から採取されて持ち込まれた可能性も考慮すると、周辺にはほとんど林分がなかったと考えられる。

草本植物では、乾いた草地や荒地、道端に生育する種類が多かった。これらのうち、カナムグラやキケマン属などは畑地にも生育する種類であるため、上記の栽培植物を栽培する畑が存在した可能性もある。ヒエ属は、形態から判断して、野生種に近いと思われる。

回収された種実のうち、多産した種実のほとんどは、食用や他の用途に利用可能な種実であった。遺構内には遺物などが廃棄されており、これらに混ざって食用や他の用途に利用された後の種実も廃棄されたと考えられる。

モモ核については、山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津(1999)によると、時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代では比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。また、鎌倉期では大きさの変異幅が大きく、江戸時代後期になると大型になり、平均核長2.69cm、最大で3.8cm程度の核がみられるという。今回の古墳時代後期のSD1出土のモモ核は、長さ平均2.27±0.1cm、幅平均1.96±0.10cmで、縦長の個体が多かった。

以下、時期別に検討する。

#### [古墳時代前期以前]

遺構外出土遺物のIG646からは、同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

#### [古墳時代前期]

古墳時代前期では、堅穴住居跡4棟、Pit1基、溝1条、土坑1基の種実を検討した。これらの遺構のうち、堅穴住居跡1棟を除くすべての遺構からイネが得られた。多種類の炭化種実が得られたSI10からは、栽培植物としてイネとモモ、エンドウ属が、栽培種の可能性のある植物としてウルシ属-ヌルデとダイズ属、野生種の可能性のあるブドウ属Aが得られた。食用にならないハギ属やスマレ属、ヤナギタデなどは、堅穴住居の屋根や周辺に生育していたものが、住居の焼失に伴って炭化し、堆積した可能性がある。また、SI10とSI40の2棟から得られたエンドウ属については、これまでに古墳時代以前の確実な出土例がないため、時期の確認が必要である。

#### [古墳時代前期～中期]

古墳時代前期～中期では、堅穴住居跡1棟、Pit1基、土坑1基の種実を検討した。いずれの遺構も炭化種実の含有量はわずかであったが、栽培植物のモモとダイズ、イネ、食用可能なクリが得られた。

#### [古墳時代中期]

古墳時代中期では、堅穴住居跡9棟、Pit1基、性格不明遺構1基、焼土2基の種実を検討した。これらの遺構のうち、堅穴住居跡3棟からは大型植物遺体が得られなかった。この堅穴住居跡3棟以外の遺構すべてからイネが得られた。また、イネのほかには、栽培植物のコムギ、栽培植物の可能性のあるダイズ属とアズキ亜属が得られた。

[古墳時代中期～後期]

古墳時代中期～後期では、竪穴住居跡7棟、焼土3基の種実を検討した。竪穴住居跡7棟のうちの1棟からは大型植物遺体が得られなかった。イネは5棟の竪穴住居跡から得られた。この時期の遺構からは、ほかに栽培植物のメロン仲間（マクワウリ・シロウリ型）、栽培植物の可能性のあるダイズ属などが得られた。

[古墳時代後期]

古墳時代後期では、竪穴住居跡3棟、溝1条の種実を検討した。イネは、竪穴住居跡3棟すべてから得られた。そのほかには、栽培植物の可能性のあるアズキ亜属が得られた。溝であるSD1からは、栽培植物のモモとスモモ、アサ、ダイズ、スイカ、メロン仲間、ヒョウタン仲間、栽培植物の可能性のあるダイズ属とアズキ亜属が得られた。また、乾いた草地に生育するカナムグラやヤブジラミ、オナモミが目立ち、古墳時代後期にはSD1の周辺は開けた環境であったと推定される。

今回、回収された種実はほとんどが食用などとして利用可能な種実であり、栽培植物が多数を占めた。古墳時代における塩部遺跡の遺構周辺は、食料の栽培や利用のためにかなり人の手が加わった環境であったと推定される。

引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」：638-654、同朋舎出版。

石田糸絵・工藤雄一郎・百原 新（2016）日本の遺跡出土大型植物遺体データベース。植生史研究、24、18-24。

新津 健（1999）遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—。山梨考古学論集 IV、361-374。

小畑弘己（2008）マメ科種子同定法。小畑弘己編「極東先史古代の穀物3」：225-252、熊本大学。

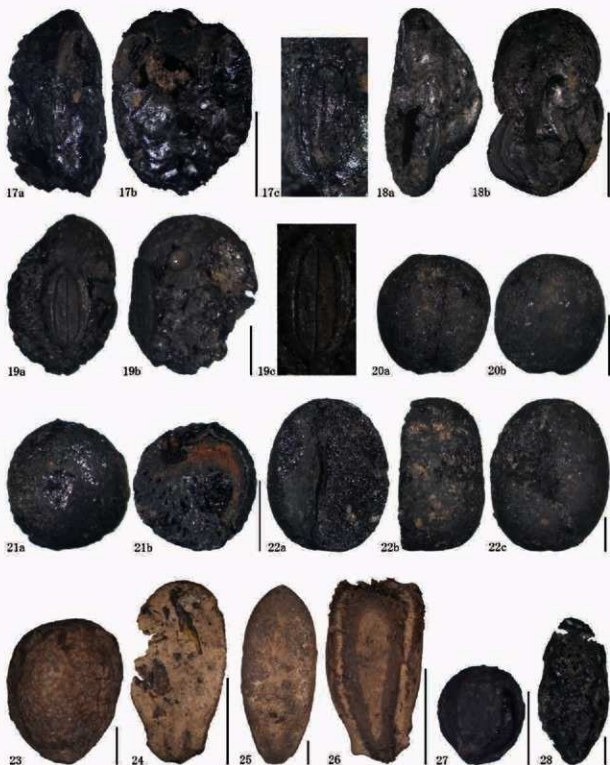
米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名—学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



図版1 塩部遺跡集落内出土した大型植物遺体分析 (1)

スケール 1, 2, 8, 11, 13-16:1mm, 3-10, 12:5mm

1. ブドウ属A炭化種子 (SI10、種14)、2. ブドウ種子 (SI38、種32)、3. モモ核充形 (SD1、種49)、4. モモ核動物食痕 (SD1、種49)、5. モモ核半割 (SD1、種49)、6. モモ炭化核 (SI8、種7)、7. スモモ核 (SD1、種43)、8. クリ炭化果実 (SK31、種55)、9. オニグルミ核半割 (SD1、種49)、10. オニグルミ核打撃痕 (SD1、種49)、11. ウルシ属-スルダ炭化内果皮 (SI10、種11)、12. ムクロジ炭化種子 (SI10、種11)、13. ヒメ黒炭化種子 (SI10、種12)、14. イネ炭化種子 (SI10、種12)、15. イネ炭化種子 (SK31、種55、PLD-37070)、16. コムギ炭化種子 (SI13、種17)



スケール 17a-b, 18, 24, 26:5mm, 19a-b, 20-23, 25, 27, 28:1mm, 17c, 19cは任意

図版2 塚部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (2)

17. ダイズ炭化種子 (Pit180、種38)、18. ダイズ炭化種子 (SD1、種48)、19. ダイズ炭化種子 (SI10、種14)、20. エンドウ属炭化種子 (SI40、種35)、21. エンドウ属炭化種子 (SI10、種12)、22. ササゲ属アズキ亜属炭化種子 (SI38、種31)、23. アサoca核 (SD1、種43)、24. スイカ種子 (SD1、種45)、25. メロン仲間種子 (SD1、種47)、26. ヒョウタン仲間種子 (SD1、種43)、27. シソ属炭化果実 (SI10、種12)、28. 不明A炭化種実 (SD1、種43)

### 1. はじめに

甲府市塩部に所在する塩部遺跡は、甲府市中央部を流れる相川と荒川の両河川に挟まれた場所に立地する、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡である。ここでは、古墳時代後期の土器や木器が大量に出土した河川跡から得られた大型植物遺体の同定結果を報告し、食用などに利用された植物、遺構周辺における栽培状況や植生について検討する。なお、同一試料を用いて花粉分析とプラント・オパール分析も行われている (別項参照)。

### 2. 試料と方法

試料は、地山・自然堆積層と河川跡のSD1から採取された堆積物試料、計10試料である (堆積物の詳細については花粉分析とプラント・オパール分析の項目を参照、試料採取位置は第90図を参照)。

水洗は、パレオ・ラボにて300ccの堆積物を計量し、0.5mm目の篩を用いて行った。大型植物遺体の抽出および同定、計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号で表記した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

### 3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のブドウ属 A 種子とキイチゴ属核、クワ属核、サンショウ種子、マタタビ属種子、ニワトコ核の6分類群、草本植物ではヘラオモダカ果実とオモダカ果実・種子、ツユクサ種子、コナギ種子、ウキヤガラ炭化果実、スゲ属アゼスゲ節果実、スゲ属 A 果実、スゲ属 B 果実、カワラスガナ果実、カヤツリグサ属果実・炭化果実、ヒメクグ果実、ハリイ属果実、ホタルイ属果実、メヒシバ属有ふ果、ヒエ属炭化種子 (穎果)、イネ穀殻・炭化穀殻・小軸軸・炭化小軸軸・炭化種子 (穎果)、エノコログサ属有ふ果、イネ科 A 炭化種子 (穎果)、キケマン属種子、クサネム果実、マメ科 A 炭化種子、オランダイチゴ属-ヘビイチゴ属果実、カナムグラ核、メロン仲間種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、オトギリソウ属種子、ヤナギタデ果実、イヌタデ果実、イシミカワ果実、ウシハコベ種子、アカザ属種子、ヤエムグラ属種子、ナス属種子・炭化種子、トウバナ属果実、メハジキ属果実、シソ属果実、ニガクサ属果実・炭化果実、メナムミ属果実、オナムミ炭化総苞、キク科 A 果実、キク科 B 果実、セリ果実、ヤブジラミ総苞の44分類群の、計50分類群が見いだされた。このほかに、残存状態が悪く、科以上の細分に必要な識別点が残存していない一群を同定不能炭化種実とした。炭化種実以外には、炭化した子嚢菌や昆虫遺体が多量に得られたが、同定の対象外とした (表1)。

以下、産出した主な種実について、層位別に記載する (同定不能炭化種実を除く)。

土1: 同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

土2: ニワトコがわずかに得られた。

土3: アカザ属がわずかに得られた。

土4: アカザ属が少量、スゲ属 A とスゲ属 B、カヤツリグサ属、カナムグラ、オトギリソウ属、ウシ



表1 墳前遺跡の河川跡 (SD1) における大型植物遺体分析 (括弧内は破片数)

分類群	番号	SD1									
		T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	T10
採取位置	遺物目録番号	SD1									
		期名	4	6	7	8	9	11	IVd	IVe	9b
分類群	水産量 (cc)	古墳時代後期									
		300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
ブドウ属A	種子					(1)					(1)
キイチゴ属	核				(1)	(1)					
タウ属	核							2			
サンショウ	種子							(1)			(1)
マタタビ属	種子				(1)						
ニワトコ	核	1									
ヘラオモダカ	果実				1		1	1			
オモダカ属	果実				1						
ツユクサ	種子				1	1	1				
コナギ	種子				1			1			
ウキヤガラ	炭化果実				1						
スゲ属Aゼスゲ節	果実				1						1
スゲ属A	果実				5 (3)	6	3	1			
スゲ属B	果実				4		1	3			
カワラスガナ	果実				7	1	1	7			
カヤツリダサ属	果実				7	1	1	4			1
	炭化果実				2	1					
ヒメタグ	果実				2						
ハリイ属	果実							1			
ホタルイ属	果実				1			1			3
メヒシバ属	有ふ果										
ヒユ属	炭化種子				1						
イネ	籾殻						(1)	(2)	(++)		(3)
	炭化粗粒								(+)		
	小穂軸								10		1
	炭化小穂軸						3	3	4		
	炭化種子							(2)			
エノコログサ属	有ふ果										1
イネ科A	炭化種子										
キケマン属	種子					7 (5)	9 (2)	26 (4)			
クサネム	果実							6 (6)			
マメ科A	炭化種子				1						
オランダイチョウ属-ヘビイチゴ属	果実				1						1 (1)
カナムグラ	核				(5)	(25)	6 (30)	1	(22)		(5)
メロン仲間	種子								2 (5)		
カタバミ属	種子					1	1	3			
エノキグサ属	種子							(2)			
オトギリソウ属	種子				5			1	(1)		
ヤナギタグ	果実						6 (34)	6 (16)	2 (1)		
イヌタデ	果実							1	(1)		
イシミカワ	果実							1	(2)		
ウシハコベ	種子				7	4	10 (4)	11			1
アカザ属	種子				3 (4)	17 (13)	42 (38)	60 (1)	46 (2)	1 (2)	1 (2)
ヤエムダ属	種子					2 (2)	(2)	2 (2)	2		
ナス属	炭化種子				1						
トウバナ属	果実										1
メハジキ属	果実					5 (2)	35 (9)	14	2		
シソ属	果実					(5)	(1)	1	1 (2)		(3)
ニガクサ属	果実										4
	炭化果実				2						
メナモミ属	果実						1		(3)		1 (3)
オナモミ	炭化総苞					(2)					
キク科A	果実						1	3	3		
キク科B	果実								1		
セリ	果実				3						
ヤブジラミ	総苞						(7)	2 (17)	2 (9)		
同定不能	炭化種実	(2)			(4)				(1)	(4)	(3)
子葉菌	炭化子葉				1		2				
不明	昆虫遺体	(+)	(+)	(-)	(++)	(-)	(++)	(++)	(+)	(++)	

\*\*1-9, \*\*10-49

ハコベ、ナス属、メハジキ属、シソ属、セリがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土5: アカザ属がやや多く、キケマン属とカナムグラ、イヌタデ、メハジキ属が少量、スゲ属A、イネ、ウシハコベ、ヤブジラミがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土6: アカザ属がやや多く、キケマン属とカナムグラ、イヌタデ、ウシハコベ、メハジキ属、ヤブジラミが少量、スゲ属Aとイネ、ナス属、キク科Aがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土7: イネとキケマン属、カナムグラ、ウシハコベ、アカザ属、ヤブジラミが少量、スゲ属Bとカワラスガナ、カヤツリダサ属、クサネム、メロン仲間、カタバミ属、イヌタデ、イシミカワ、シソ属、メナモミ属、キク科Aがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土8：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

土9：エノコログサ属とアカザ属がわずかに得られた。

土10：ブドウ属Aとサンショウ、スゲ属アゼスゲ節、カヤツリグサ属、ホタルイ属、イネ、オランダイチゴ属ーヘビイチゴ属、カナムグラ、ウシハコベ、アカザ属、トウバナ属、シソ属、ニガクサ属、メナモミ属がわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APGⅢリストの順とした。なお、ブドウ属Aの記載は、集落内の遺構から産出したブドウ属Aに対応する。

(1) クワ属 *Morus* spp. 核 クワ科

赤褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚く、やや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ 2.2mm、幅 1.8mm。

(2) サンショウ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. 種子 ミカン科

黒褐色で、上面観は卵形、側面観は楕円形ないし倒卵形。縦方向に中央部まで伸びる稜線があり、短い臍が斜め下を向く。網目状隆線は、低く細かい。種皮は厚く硬い。残存長 2.7mm、残存幅 2.6mm。

(3) ニワトコ *Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) H. Hara var. *sieboldiana* Miq. 核 レンブクソウ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形で基部がやや尖る。基部に小さな着点があり、縦方向にやや反る。波状の凹凸が横方向に走る。残存長 2.3mm、幅 1.4mm。

(4) コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm. f.) C. Presl ex Kunth 種子 ミズアオイ科

明赤黄色で、上面観は円形、側面観は楕円形。表面には縦方向の低い隆起があり、隆起の間には横方向の線が密に入る。長さ 1.0mm、幅 0.6mm。

(5) スゲ属A *Carex* sp. A 果実 カヤツリグサ属

黄褐色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる倒狭卵形。表面には非常に微細な網目状隆線がある。長さ 1.3mm、幅 0.9mm。

(6) スゲ属B *Carex* spp. B 果実 カヤツリグサ属

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。表面に微細な網目状隆線がある。長さ 1.5mm、幅 1.0mm。

(7) カヤツリグサ属 *Cyperus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、上面観は三稜形、側面観は狭倒卵形。頂部と基部が突出する。表面には微細な網目状の文様がある。やや光沢がある。長さ 1.1mm、幅 0.7mm。

(8) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子 (穎果) イネ科

細長い円形。胚は幅が広いうちわ型で、長さは全長の 2/3 程度と長い。内穎は膨らまない。種子の大きさは、長さ 1.8mm、幅 1.3mm。

(9) イネ *Oryza sativa* L. 粃殻・炭化粃殻・小穂軸・炭化小穂軸・炭化種子 (穎果) イネ科

粃殻は橙褐色で、側面観は長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長 1.8mm、残存幅 0.8mm。小穂軸は残存長 1.7mm、残存幅 1.1mm。

炭化小穂軸は残存長 1.5mm、残存幅 0.9mm。種子（穎果）は破片であるが、本来の種子の形態は上面観が両凸レンズ形、側面観が楕円形。一端に胚があった凹みがあり、両面に縦方向の 2本の浅い溝がある。残存長 2.4mm、幅 2.7mm。

(10) エノコログサ属 *Setaria* sp. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、上面観は楕円形、側面観は紡錘形。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ 1.6mm、幅 1mm。

(11) イネ科 A Poaceae sp. A 炭化種子 イネ科

長楕円形で、上端はやや扁平。下端に全長の 1/3 程度の長さのうちわ型の胚がある。栽培種ではない。長さ 1.9mm、幅 0.7mm。

(12) マメ科 A Fabaceae sp. A 炭化種子 マメ科

変形しており状態が悪いが、上面観は楕円形、側面観はいびつな楕円形。臍は小さく楕円形で、種瘤がみられる。臍は、側面の 1/3 程度の長さで中央部に付くと推定される。表面は平滑。長さ 2.5mm、幅 2.3mm、厚さ 1.7mm。

(13) カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 核 アサ科

灰黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は円形。一端に黄白色で心形の着点がある。壁は薄く、やや硬い。長さ 4.4mm、幅 4.2mm、厚さ 3.2mm。

(14) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下 (1984) は、種子の大きさからおおむね次の 3 群に分けられるとしている。長さ 6.0mm 以下の雑草メロン型、長さ 6.1~8.0mm のマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上のモモルディカメロン型である。今回、塩部遺跡の SD1 から出土したメロン仲間の種子は、長さ 8.0mm、幅 3.9mm で、マクワウリ・シロウリ型である。

(15) ナス属 *Solanum* spp. 種子 ナス科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。表面には畝状突起の細かい網目状隆線がある。着点の一端がやや突出する。ここでいうナス属とは、ナス以外のナス属である。長さ 1.8mm、幅 2.1mm。

(16) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

黒褐色で、いびつな球形。下端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ 1.3mm、幅 1.2mm。

#### 4. 考察

河川跡である SD1 が形成される以前の堆積物（土 10~8）については、土 10 以外は大型植物遺体がほとんど残存していなかったため、詳細は不明である。土 10~8 でわずかに得られた大型植物遺体の種類をみると、河川跡の堆積物である土 7 以上でみられる草本植物主体の組成とほぼ同様のため、分析を行った堆積層の下位層から上位層にかけては植生の変化がほとんどなかったと考えられる。土 10 ではホタルイ属といった抽水植物もみられたが、乾いた草地に生育する分類群が多かった。花粉分析の結果でも、下位層から上位層にかけて花粉組成の顕著な変化は確認されておらず、大型植物遺体の結果と整合的であった。なお、栽培植物としては、イネがわずかに得られたが、水田雑草など、大型

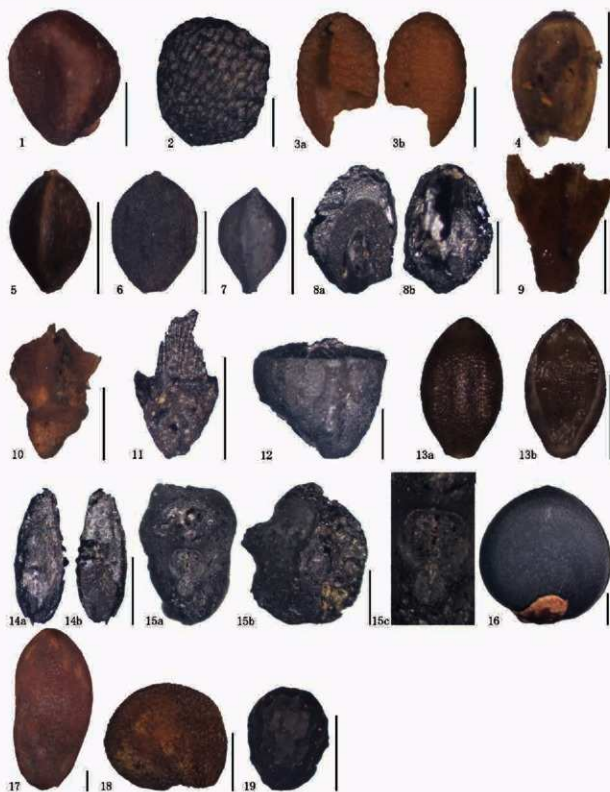
植物遺体から水田の存在を示す草本植物の組成はみられなかった。

SD1の堆積物(土7~2)では、土7~4にかけて多くの大型植物遺体が得られた。上位層の試料である土3と土2には大型植物遺体がほとんど含まれていないため、大型植物遺体が堆積しなかった可能性や、水位が下がって乾燥状態になるなどしたために生の大型植物遺体が遺存しにくい埋蔵環境であった可能性などが考えられる。SD1から得られた大型植物遺体は、一般的に草本植物が主体の組成である。木本植物では、ブドウ属Aやキイチゴ属、クワ属、サンショウ、マタタビ属、ニワトコといった食用になるしょう果類のみが産出しており、河川跡周辺は人為的な関与が高い植生であった可能性がある。水生植物では抽水植物や沈水植物が多く、ヘラオモダカやコナギといった水田にも生える雑草も産出するため、ごく近くに水田が存在した可能性が高い。水田や流路の淀んだ場所には抽水植物のホタルイ属や湿生~抽水~沈水植物のハリイ属など、湿地にはスゲ属アゼスグ節やカワラスガナ、ヒメグなどが生育していたと考えられる。イネは、粳穀や種子(いわゆるコメ)が土7~5にかけて産出している。また、土7では栽培植物であるメロン仲間が産出している。イヌタデやウシハコベといった畑地雑草(笠原, 1971)にもなる乾いた草地に生育する草本植物が多産しており、河川付近には畑も存在した可能性がある。土4から産出したマメ科の詳細な同定はできなかったが、炭化しており、利用された可能性がある。

土1からは、生の大型植物遺体は全く検出されなかった。古墳時代の遺物包含層の堆積時期には、大型植物遺体が残りにくい乾燥した環境であったと推定される。

#### 引用文献

- 笠原安夫(1971)山野草、人里植物、帰化植物、雑草および作物の種類群と相互関係。雑草研究, 1971-12, 23-27.
- 藤下典之(1984)出土遺体よりみたり科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」: 638-654, 同朋舎出版。
- 米倉浩司・梶田 忠(2003-) BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



図版1 塩部遺跡の河川跡 (SD1) における大型植物遺体分析  
スケール 1-15a-b, 16, 18, 19:1mm, 17:5mm, 15cは任意

1. クワ属核 (SD1, 11層, 土7)、2. サンショウ種子 (SD1, 11層, 土7)、3. ニワトコ核 (SD1, 4層, 土2)、4. コナギ種子 (SD1, 7層, 土4)、5. スズ属A果実 (SD1, 7層, 土4)、6. スズ属B果実 (SD1, 9層, 土6)、7. カヤツリグサ属果実 (SD1, 7層, 土4)、8. ヒモ属炭化種子 (SD1, 7層, 土4)、9. イネ籾殻 (SD1, 11層, 土7)、10. イネ小穂軸 (SD1, 11層, 土7)、11. イネ炭化小穂軸 (SD1, 11層, 土7)、12. イネ炭化種子 (SD1, 9層, 土6)、13. エノコログサ属有ふ果 (地山・自然堆積層, IVe層, 土9)、14. イネ科A炭化種子 (SD1, 9層, 土6)、15. マメ科A炭化種子 (SD1, 7層, 土4)、16. カナムグサ核 (SD1, 9層, 土6)、17. メロン仲間種子 (SD1, 11層, 土7)、18. ナス属種子 (SD1, 7層, 土4)、19. シソ属果実 (SD1, 9層, 土6)

## 1. はじめに

甲府市に所在する塩部遺跡において、集落内遺構の土壌水洗で得られた炭化材と生材、および住居跡出土の炭化材の樹種同定を行った。

## 2. 試料と方法

試料は、土壌水洗で得られた試料と、現地取り上げされた試料である。SI7a と SI7b、SI10 の炭化材の一部は、現地取り上げされた炭化材である。残りの住居跡や土坑、溝、焼土、不明遺構や、遺構外では、土壌の水洗選別が行われ、炭化材と生材が抽出された。なお、土壌の水洗選別は昭和測量株式会社で行われた。遺構の時期は、いずれも古墳時代前期～後期と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

## 3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹ではモミ属とマツ属複雑管束亜属、ヒノキ、イヌガヤ、広葉樹ではクスノキ科、モモ、サクラ属、ケヤキ、エノキ属、クワ属、クリ、コナラ属クスギ節（以下、クスギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、オニグルミ、ハンノキ属ハンノキ亜属（以下、ハンノキ亜属）、カバノキ属、クマシデ属イヌシデ節（以下、イヌシデ節）、シラキ、ヤナギ属、ムクロジ、キハダ、ミズキ、タイミンタチバナ、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節）、トネリコ属トネリコ節（以下、トネリコ節）、ムラサキシキブ属、単子葉類のイネ科の、27分類群が確認された。そのほかに、状態が悪いために針葉樹、広葉樹、樹皮までの同定に留めた試料や、同定不能の試料、微細破片のため同定不可の試料もあった。樹種同定結果を表1、結果の一覧を付表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、顕微鏡写真を図版に示す。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a-1c (木45)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織で数珠状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1~4個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロ

表1 樹種同定結果

樹種	計
モミ属	1
マツ属複雑管束亜属	3
ヒノキ	17
イヌガヤ	2
針葉樹	1
クスノキ科	2
モモ	1
サクラ属	4
ケヤキ	12
エノキ属	5
エノキ属?	1
クワ属	3
クワ属?	1
クリ	1
コナラ属クスギ節	44
コナラ属コナラ節	24
コナラ属コナラ節?	1
オニグルミ	1
ハンノキ属ハンノキ亜属	2
カバノキ属	3
クマシデ属イヌシデ節	1
シラキ	1
ヤナギ属	2
ムクロジ	1
キハダ	1
ミズキ	1
タイミンタチバナ	1
トネリコ属シオジ節	1
トネリコ属トネリコ節	1
ムラサキシキブ属	1
広葉樹	9
樹皮	1
イネ科	14
同定不能	2
総計	166

モミヤシラベ、トドマツなど約5種がある。材は軽軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

(2) マツ属複維管東亜属 *Pinus* subgen. *Diploxyton* マツ科 図版1 2a-2c (木61)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管東亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、韌性は太である。

(3) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版1 3a-3c (木107-2)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、腐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

(4) イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K. Koch var. *harringtonia* イヌガヤ科 図版 4a-4c (木69-2)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。仮道管は薄壁で、晩材部の幅は非常に狭い。樹脂細胞は早材・晩材を通じて均等に分布する。放射組織は単列で2～5細胞高、分野壁孔はトウヒ型で、1分野に1～2個存在する。仮道管にらせん肥厚がある。

イヌガヤは岩手県以南の暖帯から温帯に生育する常緑の低木または小高木である。材は堅硬および緻密である。

(5) 針葉樹 Coniferous wood

仮道管と放射組織を有する針葉樹である。状態が悪く、これ以上の同定は困難であった。

(6) クスノキ科 Lauraceae 図版1 5a-5c (木3-1)

やや小型の道管が、単独ないし2～4個複合してまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、1～3列幅である。

クスノキ科は熱帯から温帯に分布する常緑または落葉の高木もしくは低木である。ニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属など8属がある。

(7) モモ *Amygdalus persica* L. バラ科 図版1・2 6a-6c (木106-2)

半環孔性の散孔材で、年輪のはじめにやや大きな道管が1～3列程度並ぶ。晩材部では道管が単独で散在する。道管に着色物質を含むものがあり、穿孔は単一である。放射組織は異性で、1～7列幅である。

モモは温帯に分布する落葉高木である。材は重硬である。

(8) サクラ属 (広義) *Prunus* s.l. バラ科 図版 7a-7c (木4-2)

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に2～3個複合する散孔材である。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1～5列幅である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属は、さらにサクラ亜属やスモモ亜属、モモ亜属、ウワミズザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモ

とバクチノキ以外は識別困難なため、この2種を除いたサクラ属とする。材は、比較的重硬および緻密だが、加工は容易である。

(9) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版2 8a-8c (木55)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3~5列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や浜畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

(10) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版2 9a-9c (木3-2)

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状~翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3~8列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において、放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯から温帯に分布する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

(11) クワ属 *Morus* クワ科 図版2 10a-10c (木44)

大型で丸い道管が年輪のはじめに配列し、晩材では徐々に径を減じた小道管が単独もしくは数個複合して斜線方向に配列する半環孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は周囲状から翼状となる。放射組織は3~5列幅で、上下端の1~2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

クワ属は亜熱帯から温帯に分布する落葉高木で、ケグワとマグワ、ヤマグワなどがある。材は堅硬で、靱性に富む。

(12) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版2・3 11a-11c (木95-3)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(13) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版3 12a-12c (木14)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

(14) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版3 13a-13c (木1)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。



コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(15) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. クルミ科 図版3 14a-14c (木95-4)

やや大型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して散在し、晩材部で径を減ずる半環孔材である。軸方向柔組織は線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で、1~4列幅である。

オニグルミは暖帯から温帯に分布する落葉高木で、川沿いなど湿気の多いところに生育する。材はやや軽軟で粘りがあるが、保存性は低い。

(16) ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科 図版3 15a-15c (木36)

小型の道管が放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は10~20段程度の階段状である。放射組織は単列同性で、集合放射組織が存在する。

ハンノキ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ハンノキやヤマハンノキなど7種がある。材は全般に硬さおよび重さが中庸で、加工は容易である。

(17) カバノキ属 *Betula* カバノキ科 図版3 16a-16c (木10)

やや小型で丸い道管が、ほぼ単独でまばらに分布する散孔材である。道管の穿孔は10~20段程度の階段状である。放射組織はほぼ同性で、1~3列幅である。道管相互壁は交互状で極めて小さく、密に分布する。

カバノキ属は温帯から亜寒帯に分布する落葉高木もしくは低木で、カバノキやミズメなど11種がある。材は一般的にやや重厚で、切削および加工は中庸である。

(18) クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版4 17a-17c (木95-7)

やや小型から中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は晩材部で1列幅の接線状となる。放射組織は同性で1~3列幅、集合放射組織がみられる。

イヌシデ節は暖帯から温帯の低山地に分布する落葉中高木で、イヌシデとイワシデ、アカシデがある。材は重硬で韌性が大きく、割裂しにくい。

(19) シラキ *Neoshirakia japonica* (Siebold et Zucc.) Esser トウダイグサ科 図版4 18a-18c (木49)

径が中型でやや厚壁の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは線状で、道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ単列で、平伏細胞、方形細胞、直立細胞が混在する異性である。

シラキは暖帯から温帯下部に分布する落葉小高木で、日当たりの良い山腹に生育する。材はやや重硬であるが、切削加工は困難ではない。

(20) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版4 19a-19c (木101-2)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯から寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケシヨウヤナギやコゴメヤナギ、シダレヤナギなど、日本では90種ほどがある。材は全般に軽軟で、強度は低いが韌性があり、切削加工は容易である。

(21) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 図版4 20a-20c (木103)

大型でやや厚壁の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では小道管が数個放射方向に複合して散在する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管の内腔にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔組織は周囲状～帯状となる。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性で、3～5列幅のややいびつな紡錘形である。

ムクロジは茨城県と新潟県以南の亜熱帯から暖帯に分布する落葉高木である。材はやや重硬から中庸程度である。

(22) キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 図版4 21a-21c (木27-2)

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材部ではごく小型で薄壁の小道管が集団をなして帯状～斜線状に配列する環孔材である。道管に赤褐色の樹脂が見られ、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、1～6列幅できれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易であり、水湿に強い。

(23) ミズキ *Cornus controversa* Hemsl. ex Prain ミズキ科 図版4・5 22a-22c (木95-5)

小型の道管が、単独もしくは数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は20段程度の階段状である。放射組織は縁辺部に方形もしくは直立細胞が2～4程度ある異性で、細胞幅は5列程度である。

ミズキは落葉中高木で、温帯亜から寒帯に広く分布する。材はやや硬いが、加工は比較的容易である。

(24) タイミンタチバナ *Myrsine seguinii* H. Lév. ヤブコウジ科 図版5 23a-23c (木98)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は10列幅以上ある異性で、細胞高も非常に高い。

タイミンタチバナは千葉県以西の亜熱帯から暖帯に分布する、常緑の小高木である。沿海地に多く、常緑広葉樹林内によく生育する。材は耐朽性および保存性は高いが、反りや振れなどの狂いが生じやすい。

(25) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科 図版5 24a-24c (木105-3)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2～3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1～3列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

(26) トネリコ属トネリコ節 *Fraxinus* sect. *Ornus* モクセイ科 図版5 25a-25c (木69-4)

年輪のはじめに大型の道管が1列程度並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2～3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で1～3列幅である。

トネリコ節は温帯に分布する落葉高木で、トネリコやアオダモなど7種がある。材は中庸～やや重硬で、切削加工は容易、保存性は中庸である。

(27) ムラサキシキブ属 *Callicarpa* シソ科 図版5 26a-26c (木75)

小型の道管が、単独もしくは数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は随伴散在状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、1~4列幅である。

ムラサキシキブ属は熱帯から温帯にかけて分布する落葉または常緑の低木または小高木で、ヤブムラサキやムラサキシキブなど11種がある。

(28) 広葉樹 Broadleaf wood

道管と放射組織を有する広葉樹である。状態が悪く、これ以上の同定は困難であった。

(29) 樹皮 Bark

師細胞および篩部放射組織からなる二次細胞および周皮で構成される樹皮である。樹皮は対象標本が少なく、同定には至っていない。

(30) イネ科 Poaceae 図版 27a (木108)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

#### 4. 考察

遺構の性格別の樹種同定結果を表2に、住居跡出土炭化材の時期別の樹種同定結果を表3に、全試料の時期別の樹種同定結果を表4に示す。

住居跡と、住居跡内の Pit と焼土では、クヌギ節とコナラ節を中心とした落葉広葉樹が多くみられ、ほかにはヒノキやモミ属といった針葉樹と、イネ科草本が確認された。水洗選別で得られた炭化材は用途不明であるが、炉やカマド、焼土から出土した炭化材は燃料材、そのほかの試料は建築部材や器具材であった可能性が考えられる。SI7a と SI7b の現地取上の炭化材は、サイズと形状が不明の試料が多いが、大型であり、建築部材であったと推測される。また、SI10 ではイネ科の稈が束になって出土しており、屋根材や壁材であった可能性が考えられる。山梨県で確認されている古墳時代の住居跡出土の炭化材では、クヌギ節とコナラ節を中心とした落葉広葉樹が多用される傾向がある (伊東・山田編, 2012)。今回の分析結果も同様の傾向を示したが、住居跡出土の炭化材を時期別にみると、古墳時代前期にはややコナラ節が多く、古墳時代中期以降になるとクヌギ節が多くなる傾向が見られた(表3参照)。

住居跡以外の遺構の試料をみると、溝の試料はクヌギ節が7点でやや多く、イネ科が5点、ヒノキとコナラ節が各3点、ケヤキが2点、マツ属複維管束亜属とイヌガヤ、クスノキ科、サクラ属、クワ属?、ヤナギ属、トネリコ節、ムラサキシキブ属、樹皮が各1点であった。川底炭では、イヌガヤとケヤキ、クリ、オニグルミ、カバノキ属、イヌシデ節、ミズギが各1点確認された。不明遺構では、ヒノキとコナラ節?が各1点確認された。自然流路や遺構外では、ヒノキが3点、マツ属複維管束亜属とヤナギ属、ムクロジ、タイミンタチバナが各1点確認された。全体を時期別でみると、住居跡出土の炭化材でクヌギ節とコナラ節の時期差がみられるほかは、時期による樹種の利用傾向の違いは確認できなかった(表4)。

なお、古墳時代後期の溝(河川跡)SD1で行われた花粉分析の結果によれば、遺跡周辺の丘陵地などにスギ林やナラ類からなる落葉樹林や、カシ類からなる照葉樹林など、さらにモミ属ツガ属が分

布していたと推測されており、河畔林を構成する分類群であるサワグルミ属-クルミ属やニレ属-ケヤキ属、トチノキ属なども確認されている（花粉分析の項参照）。溝や川底炭、自然流路などで確認された炭化材と木材でも、多様な広葉樹と針葉樹が確認されており、花粉分析の結果と矛盾しない。遺跡周辺に生育していた樹木が、燃料材もしくは加工材として利用されたと推測される。

#### 引用・参考文献

平井信二（1996）木の大本科，394p，朝倉書店。

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—，449p，海青社。

表2 遺構の性格別の樹種同定結果

樹種/遺構の種類	住居跡	Pit (住居内含む)	土坑 (住居内含む)	焼土 (住居内含む)	溝	川底炭	不明 遺構	自然流路 ・遺構外	総計
モミ属	1								1
マツ属推定管束亜属		1			1			1	3
ヒノキ	9		1		3		1	3	17
イヌガヤ					1	1			2
針葉樹								1	1
クスノキ科	1				1				2
モモ	1								1
サクラ属	3				1				4
ケヤキ	4	2	1	2	2	1			12
エノキ属	5								5
エノキ属?	1								1
クワ属	2		1						3
クワ属?					1				1
クリ						1			1
コナラ属クスギ節	26	5	2	4	7				44
コナラ属コナラ節	18	3			3				24
コナラ属コナラ節?							1		1
オニグルミ						1			1
ハンノキ属ハンノキ亜属	2								2
カバノキ属	1			1		1			3
クマシデ属イヌシデ節						1			1
シラネ	1								1
ヤナギ属					1			1	2
ムクロジ								1	1
キハダ	1								1
ミズキ						1			1
タイムンタチバナ									1
トネリコ属シオジ節	1							1	1
トネリコ属トネリコ節					1				1
ムラサキシキブ属					1				1
広葉樹	7							2	9
樹皮					1				1
イネ科	8		1		5				14
同定不能	1	1							2
総計	93	12	6	7	29	7	2	10	166

表3 住居跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種/時期	古墳時代前期	古墳時代前期～中期	古墳時代中期	古墳時代中期～後期	古墳時代後期	古墳時代	計
モミ属			1				1
マツ属複雑管束亜属			1				1
ヒノキ	5			5			10
クスノキ科			1				1
モモ	1						1
サクラ属	1			2			3
ケヤキ	1		4	3			8
エノキ属			5				5
エノキ属?	1						1
クワ属			3				3
コナラ属クスギ節	4		18	10	3		35
コナラ属コナラ節	10		5	5		1	21
ハンノキ属ハンノキ亜属		1	1				2
カバノキ属	1			1			2
シラキ	1						1
キハダ				1			1
トネリコ属シオジ節	1						1
広葉樹	2		1	3	1		7
イネ科	7			2			9
同定不能				1		1	2
総計	35	1	40	33	4	2	115

表4 時期別の樹種同定結果

樹種/時期	古墳時代前期以前	古墳時代前期	古墳時代前期～中期	古墳時代中期	古墳時代中期～後期	古墳時代後期	古墳時代	平安時代以前	古墳時代～平安時代	総計
モミ属				1						1
マツ属複雑管束亜属	1			2						3
ヒノキ		6		1	5	2			3	17
イヌガヤ	1					1				2
針葉樹								1		1
クスノキ科				1		1				2
モモ		1								1
サクラ属		2			2					4
ケヤキ	1	1	1	6	3					12
エノキ属				5						5
エノキ属?		1								1
クワ属				3						3
クワ属?						1				1
クリ	1									1
コナラ属クスギ節		8		19	10	5	2			44
コナラ属コナラ節		12		5	5	1	1			24
コナラ属コナラ節?				1						1
オニグルミ	1									1
ハンノキ属ハンノキ亜属			1	1						2
カバノキ属	1	1			1					3
クマシデ属イヌシデ節	1									1
シラキ		1								1
ヤナギ属						1			1	2
ムクロジ									1	1
キハダ					1					1
ミズキ	1									1
タミシタチバナ										1
トネリコ属シオジ節		1							1	1
トネリコ属トネリコ節						1				1
ムラサキシキブ属		1								1
広葉樹		2		1	3	1		1	1	9
樹皮						1				1
イネ科		7			2	5				14
同定不能					1		1			2
総計	8	44	2	46	33	20	4	2	7	166

付表1 塵埃測定結果一覧 (1)

番号	遺構名	取り上げ	種類	形状	残存径	残存年輪数	取上方法	時期	年代推定番号
木1	S11	カマド一括	コナラ属コナラ節	丸木?*	半径1.8cm	6	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木2	S12	カマド一括	—	燃燵破片	—	—	—	古墳時代中期	
木3-1	S14	カマド一括	クスノキ科	破片	4.3cm	10	土壌水洗	古墳時代中期	
木3-2	S14	カマド一括	エノキ属	破片	1.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木4-1	S15	一括	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木4-2	S15	一括	サクラ属	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木5	S15	No.147	コナラ属クスギ節	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木6	S15	No.148	ヒノキ	破片	1cm	10	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木7	S15	No.149	ヒノキ	破片	5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木8	S15	No.150	ヒノキ	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木9	S15	No.151	コナラ属クスギ節	破片	1cm	4	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木10	S16	カマド一括	カバノキ属	破片	0.3cm	不明	土壌水洗	古墳時代前期	
木11	S16	No.56	—	燃燵破片	—	—	土壌水洗	古墳時代前期	
木12-1	S19	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代後期	
木12-2	S19	カマド一括	広葉樹	破片	0.5cm	不明	土壌水洗	古墳時代後期	
木13-1	S111	櫓上一括	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	12	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木13-2	S111	櫓上一括	広葉樹	丸木?	直径0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木13-3	S111	櫓上一括	ヒノキ	破片	0.3cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木14	S113	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木15	S114	No.5	エノキ属	破片	1.5cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木16	S114	No.117	コナラ属クスギ節	破片	2.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木17	S114	No.118	エノキ属	破片	3.5cm	3?*	土壌水洗	古墳時代中期	
木18	S114	一括	エノキ属	破片	1.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木19	S115	カマド一括	エノキ属?	丸木? (節)	半径0.7cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木20	S119	No.73	コナラ属コナラ節	破片 (節)	2.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木21	S119	No.80	コナラ属クスギ節	破片	2.5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木22	S120	No.224	コナラ属コナラ節	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代中期	
木23	S122	No.240	コナラ属コナラ節	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代中期	
木24	S122	No.241	コナラ属クスギ節	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期	
木25	S122	No.295	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木26	S123	No.77	サクラ属	破片	3.5cm	5?*	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木27-1	S124	No.11	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木27-2	S124	No.17	キハダ	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木28	S125	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	6	土壌水洗	古墳時代後期	
木29	S126	No.5	コナラ属クスギ節	破片	3.5cm	不明	土壌水洗	古墳時代前期	
木30	S127	No.76	銅管玉	破片	3.5cm?	—	不明	古墳時代中期～後期	
木31	S127	No.158	コナラ属クスギ節	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木32	S127	カマド一括	広葉樹	破片	0.2cm	—	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木33	S128	カマド一括	広葉樹	破片	0.2cm	—	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木34	S128	一括	コナラ属コナラ節	破片	1cm	10	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木35	S129	No.47	イネ科	破片 (稈)	0.5cm	—	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木36	S130	一括	ハンノキ属ハンノキ亜属	丸木? (節)	半径3cm	5	土壌水洗	古墳時代前期～中期	
木37	S132	No.70	ケヤキ	丸木?	3cm	8	土壌水洗	古墳時代中期	
木38	S132	No.162	コナラ属クスギ節	破片	2cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木39-1	S133	No.45	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木39-2	S133	No.45	ハンノキ属ハンノキ亜属	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木40	S133	No.46	ケヤキ	破片	1.5cm	10	土壌水洗	古墳時代中期	
木41	S137	No.98	コナラ属コナラ節	割材?	6.5×2.8cm	55	土壌水洗	古墳時代中期	
木42	S137	No.99	広葉樹	不明	2.5cm?	不明	土壌水洗	古墳時代中期	
木43	S137	No.100	クスギ属	破片 (節)	4.5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期	
木44	S137	No.101	クスギ属	破片 (節)	1.5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期	
木45	S137	No.102	ヒノキ	丸木	直径2cm	16	土壌水洗	古墳時代中期	
木46	S138	櫓上一括	ケヤキ	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木47	S139	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代後期	
木48	S140	No.2	ヒノキ	破片	2cm	10	土壌水洗	古墳時代前期	
木49	S140	No.3	シラキ	破片	1.3cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木50	S140	No.4	広葉樹	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代前期	
木51	S140	カマド一括	—	燃燵破片	—	—	土壌水洗	古墳時代前期	
木52-1	S140	櫓石一括	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	5	土壌水洗	古墳時代前期	
木52-2	S140	櫓石一括	ケヤキ	破片	0.5cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木52-3	S140	櫓石一括	ヒノキ	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木53	P11613	一括 (S16内?)	コナラ属クスギ節	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木54	P1180	一括 (S17内)	コナラ属コナラ節	丸木?	半径1.5cm	39	土壌水洗	古墳時代中期	
木55	P1180	一括 (S17内)	ケヤキ	丸木?	半径1cm	3	土壌水洗	古墳時代前期～中期	PLD-37065
木56	P1182	一括 (S17内)	コナラ属クスギ節	破片	2cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木57	P1186	一括 (S17内)	コナラ属コナラ節	破片	1cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木58	P1203	一括 (S110内)	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	PLD-37066
木59	P1248	一括 (S19内?)	銅管玉	不明	—	—	土壌水洗	古墳時代	
木60	P1395	一括	コナラ属クスギ節	破片	1cm	13	土壌水洗	古墳時代	
木61	P1461	No.3(S137内)	マツ属縄文赤松属	破片	2cm	15	土壌水洗	古墳時代中期	
木62	P1473	一括 (S137内)	コナラ属コナラ節	破片	1cm	5	土壌水洗	古墳時代中期	
木63	P1464	一括 (S122内)	コナラ属クスギ節	破片	1.5cm	12	土壌水洗	古墳時代中期	
木64-1	P1464	No.1(S122内)	コナラ属クスギ節	破片	0.8cm	4	土壌水洗	古墳時代中期	
木64-2	P1464	No.1(S122内)	ケヤキ	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期	
木65-1	S81	No.114	イネ科	稈	直径0.3～0.4	—	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-1	S81	No.139	イネ科	稈	直径0.2～1cm	—	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-2	S81	No.139	ヒノキ	破片	1.5cm	20	土壌水洗	古墳時代前期	
木66-3	S81	No.159	サナギ属	丸木	直径0.5～1cm	1	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-4	S81	No.159	コナラ属クスギ節	丸木	直径1cm	2	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-5	S81	No.159	コナラ属コナラ節	丸木	直径1cm	3	土壌水洗	古墳時代後期	

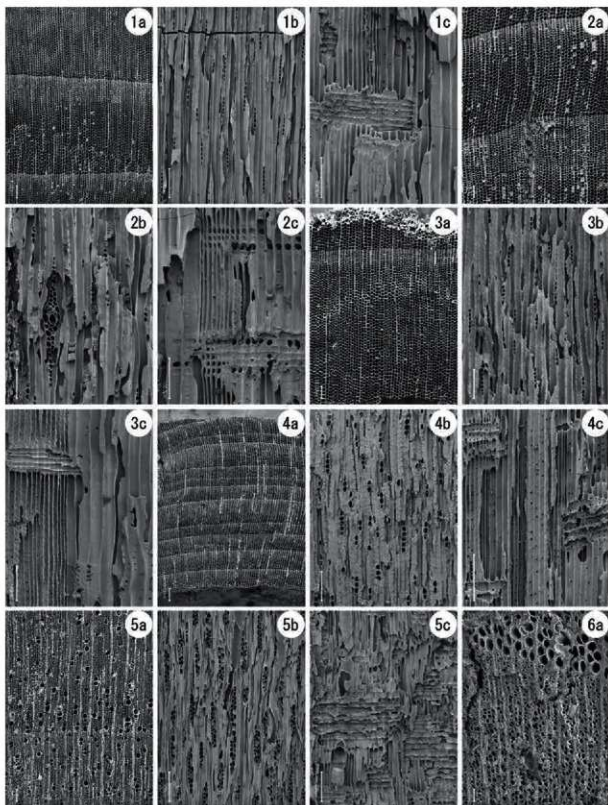
付表2 樹種特定結果一覧(2)

付表2	樹種特定結果一覧(2)	樹種名	取上り	樹種	形状	残存径	残存年輪数	取上り方法	時期	年代測定番号
A066-6	SD1	No. 159	クワ属	破片	0.5cm	2	+	土層水洗	古墳時代後期	
A066-7	SD1	No. 159	樹皮	破片	1cm	-	-	土層水洗	古墳時代後期	
A067	SD1	No. 161	イネ科	破片(桿)	0.5cm	-	-	土層水洗	古墳時代後期	
A068-1	SD1	No. 180	イネ科	桿	直径0.3~1cm	-	-	土層水洗	古墳時代後期	
A068-2	SD1	No. 180	コナラ属クヌギ空節	破片	1cm	4	+	土層水洗	古墳時代後期	
A069-1	SD1	No. 207	イネ科	桿	直径1~0.5cm	15	+	土層水洗	古墳時代後期	
A069-2	SD1	No. 207	イヌフナ	桿	直径1cm	14	+	土層水洗	古墳時代後期	
A069-3	SD1	No. 207	タヌキノキ	丸木	直径0.8cm	3	+	土層水洗	古墳時代後期	
A069-4	SD1	No. 207	トネリコ属トネリコ節	破片	1.3cm	6	+	土層水洗	古墳時代後期	
A70	SD1	一括	ヒノキ	加工木	3.0×1.0cm	-	-	土層水洗	古墳時代後期	
A71	S08	No. 3	コナラ属クヌギ空節	破片	2.5cm	5	+	土層水洗	古墳時代	
A72	SD13	No. 74	ケヤキ	破片	0.3cm	2	+	土層水洗	古墳時代中期	
A73	SD13	No. 75	ケヤキ	破片	3cm	3	+	土層水洗	古墳時代中期	
A74	SD13	No. 77	マツ属種雑草東重属	不明	不明	-	-	土層水洗	古墳時代中期	
A75	SD17	No. 694	ムラサキシギク属	破片	0.8cm	2	+	土層水洗	古墳時代前期	
A76	SD17	No. 781	コナラ属クヌギ空節	破片	1.5cm	7	+	土層水洗	古墳時代前期	
A77	SD17	No. 900	コナラ属クヌギ空節	破片	2.5cm	16	+	土層水洗	古墳時代前期	
A78	SD17	No. 901	コナラ属クヌギ空節	丸木	直径1.5cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期	
A79	SD17	No. 1414	コナラ属コナラ空節	破片	1.5cm	5	+	土層水洗	古墳時代前期	
A80	SD17	No. 1747	サクナ属	丸木	直径1.5cm	2	+	土層水洗	古墳時代前期	
A81	SD17	No. 2077	コナラ属クヌギ空節	破片	3cm	5	+	土層水洗	古墳時代前期	
A82	SD17	No. 2172	コナラ属コナラ空節	破片	2.5cm	6	+	土層水洗	古墳時代前期	
A83	SD17	No. 2189	ヒノキ	破片	4.5cm	5/9	+	土層水洗	古墳時代前期	
A84	SK28	一括(SI11)	イネ科	破片	0.3cm	-	-	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A85	SK35	一括(SI24内)	ケヤキ	破片	1.5cm	5	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A86	SK42	No. 2( SI36内)	コナラ属クヌギ空節	破片	1.5cm	3	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A87	SK42	No. 3( SI36内)	ヒノキ	破片	2.5cm	20	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A88-1	SK41	一括(SI20内)	コナラ属クヌギ空節	破片	0.3cm	1	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A88-2	SK47	No. 2( SI20内)	クワ属	破片	0.3cm	1	+	土層水洗	古墳時代中期	
A89-1	S33	一括	ヒノキ	破片	0.8cm	1	+	土層水洗	古墳時代中期	
A89-2	S33	一括	コナラ属コナラ空節	破片	0.3cm	1	+	土層水洗	古墳時代中期	
A90	S12	一括	コナラ属クヌギ空節	破片	0.5cm	4	+	土層水洗	古墳時代中期	
A91	S13	一括(SI22内)	-	微細破片	-	-	-	土層水洗	古墳時代中期	
A92-1	S14	一括(SI1内)	コナラ属クヌギ空節	破片	0.5cm	1	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A92-2	S14	一括(SI1内)	ケヤキ	破片	0.7cm	2	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A92-3	S14	一括(SI1内)	カバノキ属	破片	0.3cm	1	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A93-1	S18	一括(SI27内)	コナラ属クヌギ空節	破片	0.8cm	3	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A93-2	S18	一括(SI27内)	ケヤキ	破片(節)	0.7cm	2/9	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A94	S110	一括(SI36内)	コナラ属クヌギ空節	破片	0.5cm	2	+	土層水洗	古墳時代中期~後期	
A95-1	SD32	No. 646	イヌフナ	破片	1cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期以前	
A95-2	SD32	No. 646	ケヤキ	破片	0.8cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期以前	
A95-3	SD32	No. 646	グリ	破片	0.8cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期以前	
A95-4	SD32	No. 646	オニグルミ	破片	0.5cm	7/9	+	土層水洗	古墳時代前期以前	
A95-5	SD32	No. 646	ミズキ	破片	0.5cm	2	+	土層水洗	古墳時代前期以前	
A95-6	SD32	No. 646	カバノキ属	破片	0.8cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期以前	
A95-7	SD32	No. 646	クマツタ属イヌシダ節	破片	0.5cm	2	+	土層水洗	古墳時代前期以前	
A96	IG647	No. 647	マツ属種雑草東重属	不明	1.2cm	-	-	土層水洗	古墳時代前期以前	
A97	IG706	No. 706	広葉樹	不明	1.5cm <sup>9</sup>	不明	-	土層水洗	平安時代以前	
A98	IG822	No. 822	クワシダチバナ	破片	1.5cm	1/9	+	土層水洗	古墳時代~平安時代	
A99	IG836	No. 836	針葉樹	不明	不明	-	-	土層水洗	平安時代以前	
A100-1	IG909	No. 909	ヒノキ	破片	1cm	1	+	土層水洗	古墳時代~平安時代	
A100-2	IG909	No. 909	広葉樹	破片	1cm	不明	-	土層水洗	古墳時代~平安時代	
A101-1	IG970	No. 970	ヒノキ	破片	1cm	10	+	土層水洗	古墳時代~平安時代	
A101-2	IG970	No. 970	ヤナギ属	破片	1cm	2	+	土層水洗	古墳時代~平安時代	
A102	IG1024	No. 1024	ヒノキ	不明	3.0×1.3cm	-	-	土層水洗	古墳時代~平安時代	
A103	IG1037	No. 1037	ムクロジ	丸木	直径1.5cm	1	+	土層水洗	古墳時代~平安時代	
A104	S110	伊2一括	-	微細破片	0.2cm	-	-	土層水洗	古墳時代前期	
A105-1	S110	伊東一括	イネ科	桿	直径0.3~0.5cm	-	-	土層水洗	古墳時代前期	
A105-2	S110	伊東一括	ヒノキ	破片	1cm	2	+	土層水洗	古墳時代前期	
A105-3	S110	伊東一括	トネリコ属シオシダ節	破片	0.5cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期	
A106-1	S110	南東一括	イネ科	桿	直径0.5cm	-	-	土層水洗	古墳時代前期	
A106-2	S110	南東一括	モモ	破片	0.3cm	1	+	土層水洗	古墳時代前期	
A106-3	S110	南東一括	ヒノキ	破片	1cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期	
A106-4	S110	南東一括	広葉樹	破片	直径0.5cm	1	+	土層水洗	古墳時代前期	
A107-1	S110	北西一括	イネ科	桿	直径0.5cm	-	-	土層水洗	古墳時代前期	
A107-2	S110	北西一括	ヒノキ	破片	0.8cm	3	+	土層水洗	古墳時代前期	
A107-3	S110	北西一括	コナラ属クヌギ空節	破片	0.3cm	1	+	土層水洗	古墳時代前期	
A108	S110	原No. 2	イネ科	桿	直径0.5~1cm	-	-	現地取上	古墳時代前期	FD-37067
A109	S110	原No. 17	イネ科	桿	直径0.5~1cm	-	-	現地取上	古墳時代前期	
A110	S110	原No. 32	イネ科	桿	直径0.5~1cm	-	-	現地取上	古墳時代前期	
A111	S110	原No. 46	イネ科	桿	直径0.5~1cm	-	-	現地取上	古墳時代前期	
A112	S17a	伊東一括	コナラ属クヌギ空節	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	
A113	S17b	伊東一括	サクナ属	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	
A114	S17a	原No. 6	コナラ属クヌギ空節	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	
A115	S17a	原No. 7	コナラ属クヌギ空節	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	
A116	S17a	原No. 8	コナラ属クヌギ空節	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	
A117	S17a	原No. 11	コナラ属クヌギ空節	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	
A118	S17a	原No. 12	コナラ属クヌギ空節	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	
A119	S17a	原No. 15	コナラ属クヌギ空節	不明	不明	-	-	現地取上	古墳時代中期	

付表3 樹種同定結果一覧 (3)

番号	遺体名	取り上げ	樹種	形状	残存径	残存年輪数	取上方法	時期	年代推定番号
木120	SI7a	図No.17	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木121	SI7a	図No.23	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	PLD-37068
木122	SI7a	(a)0208-1	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木123	SI7a	(a)0208-2	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木124	SI7b	図No.1	コナラ属コナラ節	不明	5.0cm	1	現地取上	古墳時代前期	
木125	SI7b	図No.2-1	コナラ属コナラ節	不明	10cm	1	現地取上	古墳時代前期	PLD-37069
木126	SI7b	図No.3	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木127	SI7b	図No.4	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木128	SI7b	図No.5	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木129	SI7b	図No.6	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木130	SI7b	図No.7	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木131	SI7b	図No.8	コナラ属コナラ節	不明	5.0cm	1	現地取上	古墳時代前期	

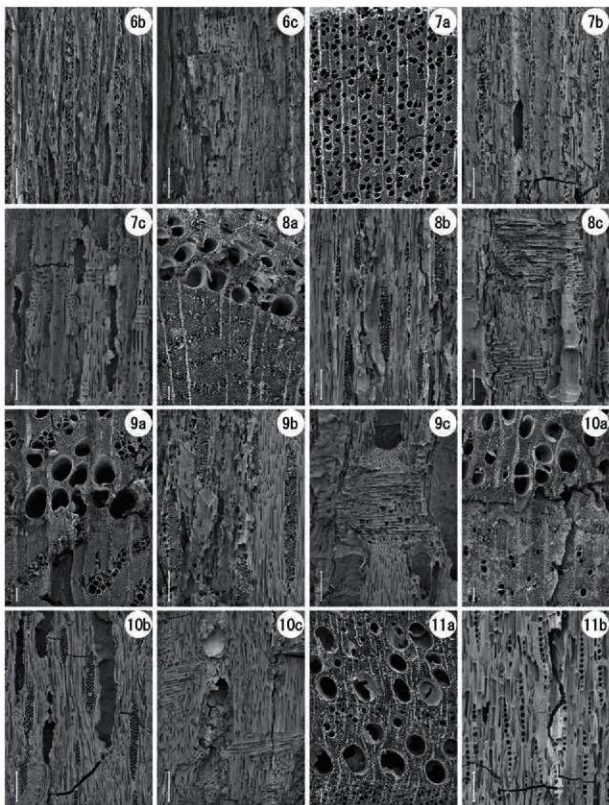




図版1 炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1a-1c. モミ属(木45)、2a-2c. マツ属複雑管束亜属(木61)、3a-3c. ヒノキ(木107-2)、4a-4c. イヌガヤ(木69-2)、5a-5c. クスノキ科(木3-1)、6a. モモ(木106-2)

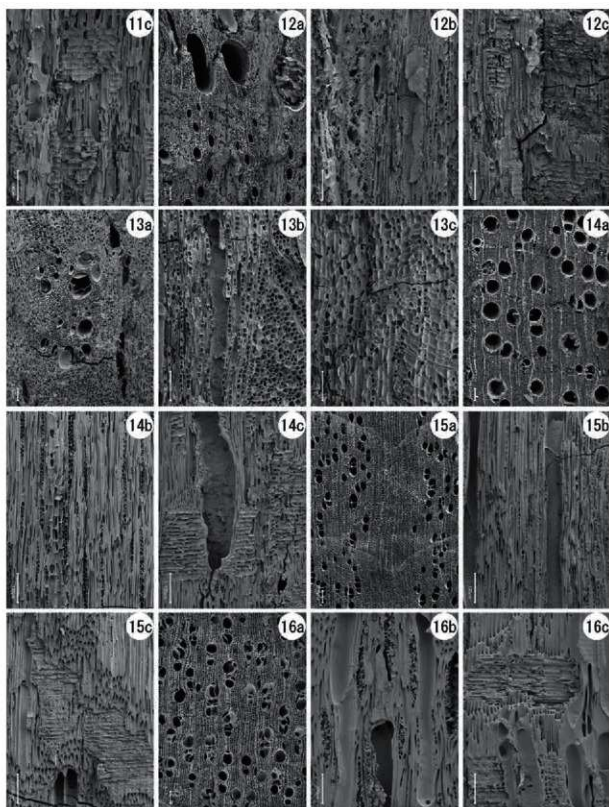
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版2 炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

6b-6c. モモ(木106-2)、7a-7c. サクラ属(木4-2)、8a-8c. ケヤキ(木55)、9a-9c. エノキ属(木3-2)、10a-10c. クワ属(木44)、11a-11b. クリ(木95-3)

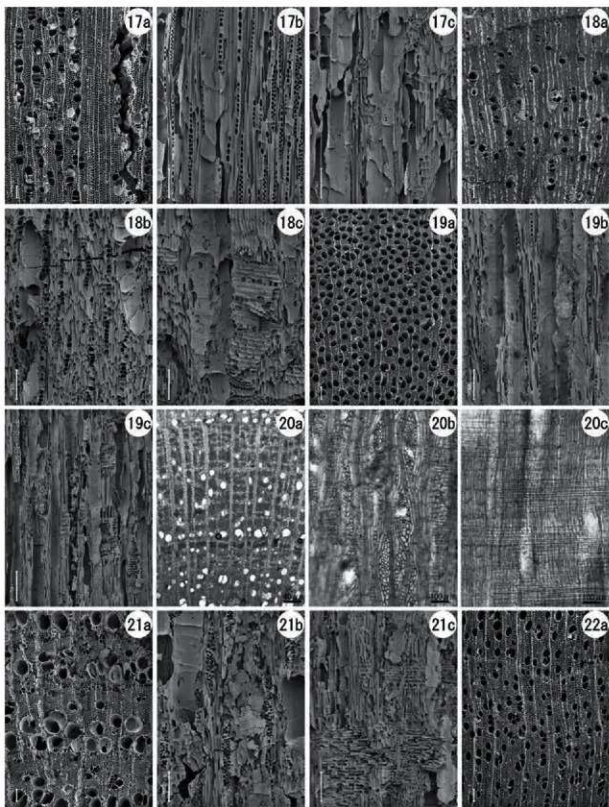
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版3 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (3)

11c. クリ (木95-3)、12a-12c. コナラ属クスギ節 (木14)、13a-13c. コナラ属コナラ節 (木1)、  
 14a-14c. オニグルミ (木95-4)、15a-15c. ハンノキ属ハンノキ亜属 (木36)、16a-16c. カバノキ  
 属 (木10)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

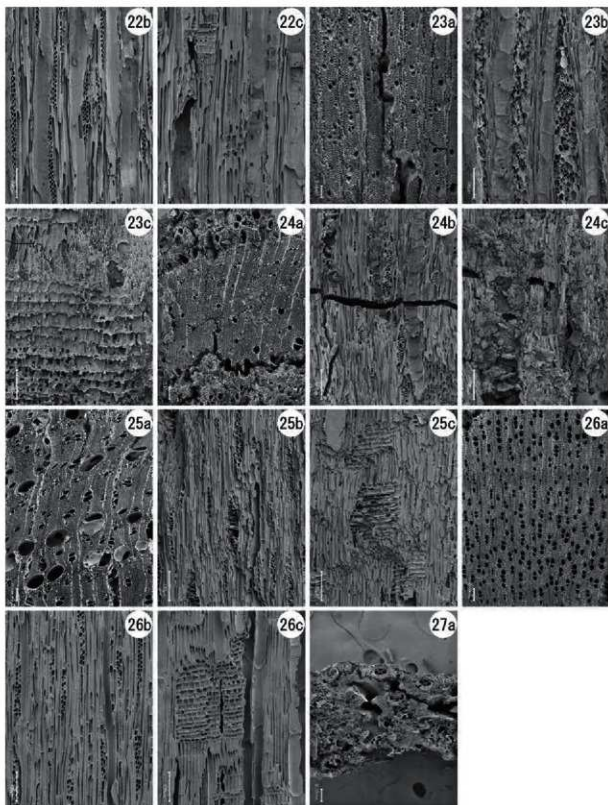


図版4 炭化材の走査型電子顕微鏡写真(4)

17a-17c. クマシデ属イヌシデ節(木95-7)、18a-18c. シラキ(木49)、19a-19c. ヤナギ属(木101-2)、20a-20c. ムクロジ(木103)、21a-21c. キハダ(木27-2)、22a. ミズキ(木95-5)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面





図版5 炭化材の走査型電子顕微鏡写真(5)

22b-22c. ミズキ(木95-5)、23a-23c. タイミンタチバナ(木98)、24a-24c. トネリコ属シオジ節(木105-3)、25a-25c. トネリコ属トネリコ節(木69-4)、26a-26c. ムラサキシキブ属(木75)、27a. イネ科草本(木108)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

## 1. はじめに

甲府市に所在する塩部遺跡から出土した木製品 27 点について樹種同定を行った。

## 2. 試料と方法

試料は、古墳時代後期の河川跡 SD1 から出土した木製品や自然木などの木質遺物、計 27 点である。

これらの試料について、木取りの確認後、剃刀を用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。プレパラートを光学顕微鏡で観察し、同定および写真撮影を行った。

## 3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のモミ属とヒノキ、スギ、アスナロ、広葉樹のクリとコナラ属クスギ節（以下、クスギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、アサダ、ヤナギ属、トネリコ属トネリコ節（以下、トネリコ節）の 10 分類群が確認された。結果の一覧を付表 1 に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 図版 1 1a-1c (木 81)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織で数珠状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 1~4 個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロモミやシラベ、トドマツなど約 5 種がある。材は軽軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版 1 2a-2c (木 88)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型~ヒノキ型で、1 分野に 2 個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

(3) スギ *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don ヒノキ科 図版 1 3a-3c (木 8)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に通常 2 個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

(4) アスナロ *Thujaopsis dolabrata* (L. f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 図版 1 4a-4c (木 102)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。樹脂細胞は晩材部に散在し、放射組織内も樹脂を豊富に含む。分野壁孔は小型のスギ型~ヒノキ型で、1 分野に不揃いに 3~4 個存在する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木である。材は、加工性や割裂性は中庸だが、耐朽性および保存

性が高い。

(5) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 5a-5c (木76-1)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(6) コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版1・2 6a-6c (木53)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クスギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クスギとアベマキがある。材は重硬および強韌で、加工困難である。

(7) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版2 7a-7c (木70)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(8) アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科 図版2 8a-8c (木35)

径が中型の道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1~4列幅である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。材は極めて重硬であり、切削加工および割裂は困難である。

(9) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版2 9a-9c (木90)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯から寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケショウヤナギやコゴメヤナギ、シダレヤナギなど、日本では90種ほどがある。材は全般に軽軟で、強度は低いが韌性があり、切削加工は容易である。

(10) トネリコ属トネリコ節 *Fraxinus* sect. *Ornus* モクセイ科 図版2 10a-10c (木10)

年輪のはじめに大型の道管が1列程度並び環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2~3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で1~3列幅である。

トネリコ節は温帯に分布する落葉高木で、トネリコやアオダモなど7種がある。材は中庸~やや重硬で、切削加工は容易、保存性も中庸である。

#### 4. 考察

器種別の樹種同定結果を表1に示す。横樋はコナラ節、着柄軸？はアサダであった。弓状木製品はアスナロ、椅子はスギ、曲物と曲物底板、槽、斎串はヒノキであった。木樋はクリ、杭はヒノキとコナラ節であった。部材はヒノキとスギ、コナラ節、クスギ節、トネリコ節、部材（栓？）はヒノキであった。板状木製品はモミ属、棒状木製品はヒノキであった。自然木はコナラ節とヤナギ属であった。

横樋や着柄軸？、木樋などで確認された広葉樹のクリやコナラ節、アサダは、いずれも重硬な材である。一方、弓状木製品と椅子、曲物と曲物底板、槽、斎串、部材（栓？）、板状木製品と棒状木製品には、モミ属やヒノキ、スギ、アスナロといった針葉樹が使用されていた。これらの針葉樹は、軽軟で加工容易である。杭や部材には針葉樹と広葉樹の両方が見られた。木製品の用途によって、適した材質の木材を選択していたと考えられる。

また、自然木はコナラ節とヤナギ属であった。コナラ節は木製品にも利用されており、二次林によく生育する樹種である。ヤナギ属は、河川など湿潤な土地に分布する樹種である。SD01は河川跡であり、河川沿いにヤナギ属が生育していたと推測される。

表1 器種別の樹種同定結果

樹種/器種	横樋	着柄軸？	弓状木製品	椅子	曲物	曲物底板	槽	斎串	木樋	杭	部材	部材(栓?)	板状木製品	棒状木製品	自然木	計
モミ属													1			1
ヒノキ					1	1	1	2		1	1	2		2		11
スギ				1							1					2
アスナロ			1													1
クリ									1							1
コナラ属クスギ節												2				2
コナラ属コナラ節	1								1	1	2				1	6
アサダ		1														1
ヤナギ属															1	1
トネリコ属トネリコ節											1					1
計	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	7	2	1	2	2	27

#### 参考文献

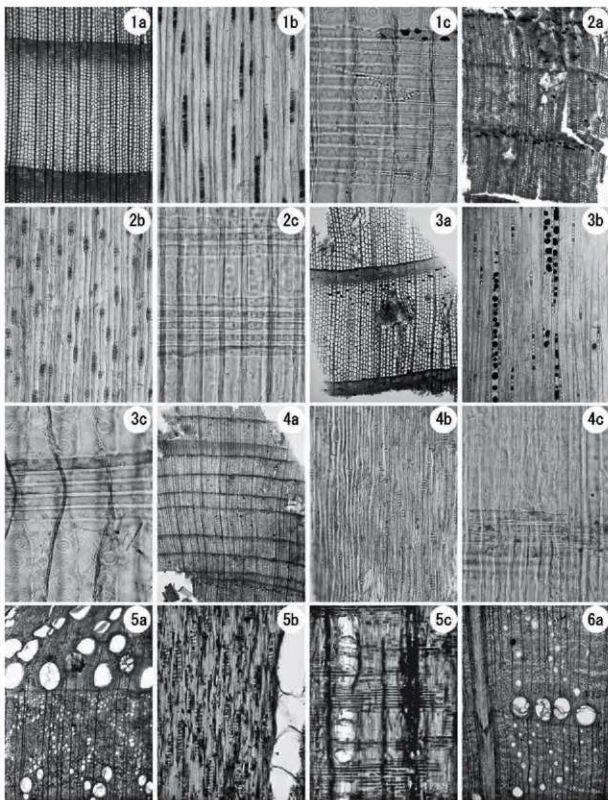
平井信二 (1996) 木の百科, 394p, 朝倉書店.


伊東隆夫・山田昌久編 (2012) 木の考古学—出土木製品用材データベース—, 449p, 海青社.



付表1 樹種判定結果一覧

No.	遺物番号	種別	樹種	備考
木1	SD1 No.85	釜串	ヒノキ	椀目
木2	SD1 No.78	部材(栓?)	ヒノキ	芯材・手斧痕
木3	SD1 No.82	棒状木製品	ヒノキ	椀目
木4	SD1 No.76	曲物底板	ヒノキ	椀目・一部炭化・撃痕・手斧痕
木7	SD1 No.84	釜串	ヒノキ	椀目・一部炭化
木8	SD1 No.83	部材	スギ	芯材・欠込み
木10	SD1 No.126	部材	トネリコ属トネリコ節	芯材・表面炭化・手斧痕
木14	SD1 No.71	栓子	スギ	芯材・表面炭化
木15	SD1 No.69	樽	ヒノキ	横木取り
木16	SD1 No.79	部材(栓?)	ヒノキ	芯材・表面一部炭化
木35	SD1 No.81	着柄軸?	アサダ	芯材
木37	SD1 No.70	標標	コナラ属コナラ節	芯材・柄部面取り・打撃痕?
木39	SD1 No.125	栓	コナラ属コナラ節	芯材・先端部面取り
木40	SD1 No.127	部材	ヒノキ	芯材
木48	SD1 No.72	曲物	ヒノキ	-
木53	SD1 No.139	部材	コナラ属クスギ節	芯材・欠込み
木70	SD1 No.138	部材	コナラ属コナラ節	芯材
木71	SD1 No.142	自然木	コナラ属コナラ節	-
木76-1	SD1 No.133	木槓	クリ	横木取り・片側部材による活木
木76-2	SD1 No.133	-	コナラ属コナラ節	木槓の活木か
木81	SD1 No.136	板状木製品	モミ属	椀目・先端部炭化
木86	SD1 No.132	部材	コナラ属コナラ節	芯材
木88	SD1 No.134	棒状木製品	ヒノキ	芯材・面取り
木90	SD1 No.140	自然木	ヤナギ属	-
木92	SD1 No.124	栓	ヒノキ	椀目・面取り
木97	SD1 No.141	部材	コナラ属クスギ節	芯材
木102	SD1 No.77	弓状木製品	アスナロ	弓弦残存・一部穿孔・面取り

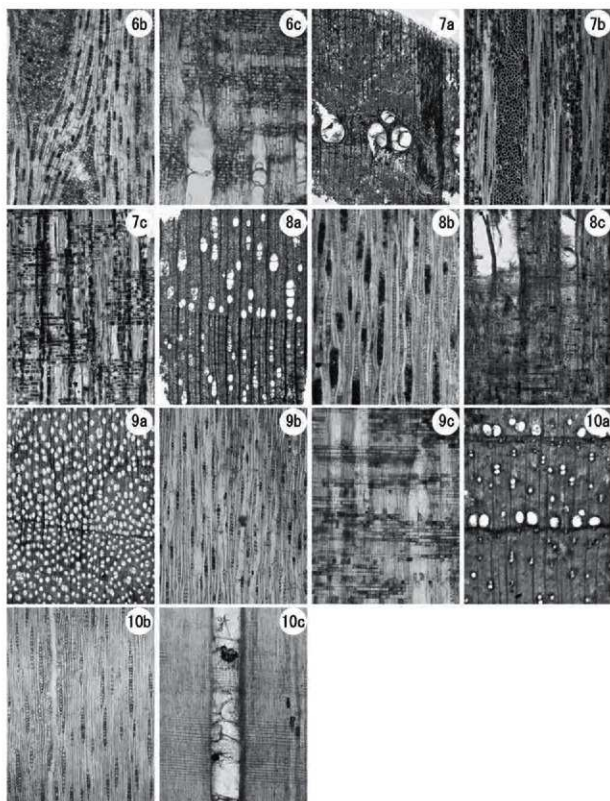


スケール： 

図版1 木材の光学顕微鏡写真(1)

1a-1c. モミ属(木81)、2a-2c. ヒノキ(木88)、3a-3c. スギ(木8)、4a-4c. アスナロ(木102)  
 5a-5c. クリ(木76-1)、6a. コナラ属クスギ節(木53)

a: 横断面(スケール=500 $\mu$ m)、b: 接線断面(スケール=200 $\mu$ m)、c: 放射断面(スケール=1-4:  
 50 $\mu$ m、5: 200 $\mu$ m)



スケール：■■■■

図版2 木材の光学顕微鏡写真(2)

6b-6c. コナラ属クスギ節(木53)、7a-7c. コナラ属コナラ節(木70)、8a-8c. アサダ(木35)、  
9a-9c. ヤナギ属(木90)、10a-10c. トネリコ属トネリコ節(木10)

a: 横断面(スケール=500 $\mu$ m)、b: 接線断面(スケール=200 $\mu$ m)、c: 放射断面(スケール=200 $\mu$ m)

## 1. はじめに

塩部遺跡で検出された竪穴建物跡のカマドの灰と、イネ科植物とみられる壁材を同定する目的で、植物珪酸体分析を行った。なお、一部の同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（別項参照）。以下に、分析結果を記す。

## 2. 試料と方法

試料は、竪穴建物跡 S17a の灰層 1 点（分析 No. 1）と S19 のカマドの灰 5 点（分析 No. 2～No. 6）と、S110 の壁材 4 点（分析 No. 7～No. 10）の、計 10 点である。遺構の時期は、S110 が古墳時代前期、S17a が古墳時代中期、S19 が古墳時代後期で、いずれも焼失住居跡である。なお、分析 No. 2 について放射性炭素年代測定が行われた結果、古墳時代前期の暦年代であった（PLD-37067）（別項参照）。

灰試料 6 点については、以下の手順で植物珪酸体の抽出を行った。土壌に混ざった微細な灰の塊部分をピンセットで採取し、グリセリンで封入したプレパラートを作製した後、生物顕微鏡（300～600 倍）で検鏡した。

一方、壁材については、炭化した状態であったため、まず、試料に付着する土壌を水と筆を用いて洗浄し、乾燥させた試料を管瓶にとり、電気炉を用いて灰化した。灰化する工程は、藤原（1976）を参考にした。はじめは毎分 5℃のペースで温度を上げ、100℃において 15 分ほどその温度を保ち、その後毎分 2℃のペースで 550℃まで温度を上げ、6 時間温度を保持し、灰化を行った。灰化した試料は、グリセリンで封入し、生物顕微鏡（300～600 倍）で検鏡した。

## 3. 観察の結果

観察の結果を表 1 に示す。

表 1 塩部遺跡の竪穴建物跡の灰試料と壁材の植物珪酸体の検出状況（◎：多く検出、○検出、△わずかに検出）

分析 No.	試料 No.	試料	遺構	遺構の時期	取り上げ	機動細胞珪酸体		短細胞珪酸体列		イネ科穀物の珪酸体	棒状型植物珪酸体
						イネ	ヨシ属	イネ型			
1	87	灰層	S17a	古墳時代中期	2017.2.8	○	—	△	—	—	○
2	39	カマド灰	S19	古墳時代後期	2017.2.3	—	—	△	—	—	○
3	40	カマド灰層前面	S19	古墳時代後期	2017.2.4	△	—	—	—	◎	○
4	43	カマド前面灰層	S19	古墳時代後期	2017.2.6	—	△	—	—	—	△
5	86	カマド前灰	S19	古墳時代後期	2017.2.8	—	—	—	—	△	◎
6	165	カマド煙道灰	S19	古墳時代後期	2017.2.10	△	—	—	—	—	◎
7	炭 No. 2	壁材	S110	古墳時代前期	2017.2.4	—	—	—	—	—	△
8	炭 No. 17	壁材	S110	古墳時代前期	2017.2.6	—	—	—	—	—	△
9	炭 No. 37	壁材	S110	古墳時代前期	2017.2.6	—	—	—	—	—	△
10	炭 No. 46	壁材	S110	古墳時代前期	2017.2.6	—	—	—	—	—	△

## 分析 No. 1（S17a：灰層）

イネの機動細胞珪酸体が検出された。また、イネ型の短細胞珪酸体列がわずかに検出された。イネ型短細胞珪酸体列は、8 の字型の短細胞珪酸体が細胞の形成方向に対して垂直方向に配列し、同様の配列がイネやヨシ、マコモなどにみられるため、分類群の特定は困難である。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。棒状型の植物珪酸体は、すべてのイネ科植物に類似した形態の植物珪酸体

が形成されるため（近藤，2010）、由来した分類群の同定は難しい。

分析 No. 2 (SI9：カマド灰)

イネ型の短細胞珪酸体列がわずかに観察された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。

分析 No. 3 (SI9：カマド灰層前面)

イネの穀殻に形成される珪酸体が多く観察された。また、イネの機動細胞珪酸体がわずかに検出された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。

分析 No. 4 (SI9：カマド前面灰層)

ヨシ属の機動細胞珪酸体がわずかに検出された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。

分析 No. 5 (SI9：カマド前灰)

イネの穀殻に形成される珪酸体がわずかに観察された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が多く観察された。

分析 No. 6 (SI9：カマド煙道灰)

イネの機動細胞珪酸体がわずかに検出された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が多く観察された。

分析 No. 7 (SI10：壁材)

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

分析 No. 8 (SI10：壁材)

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

分析 No. 9 (SI10：壁材)

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

分析 No. 10 (SI10：壁材)

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

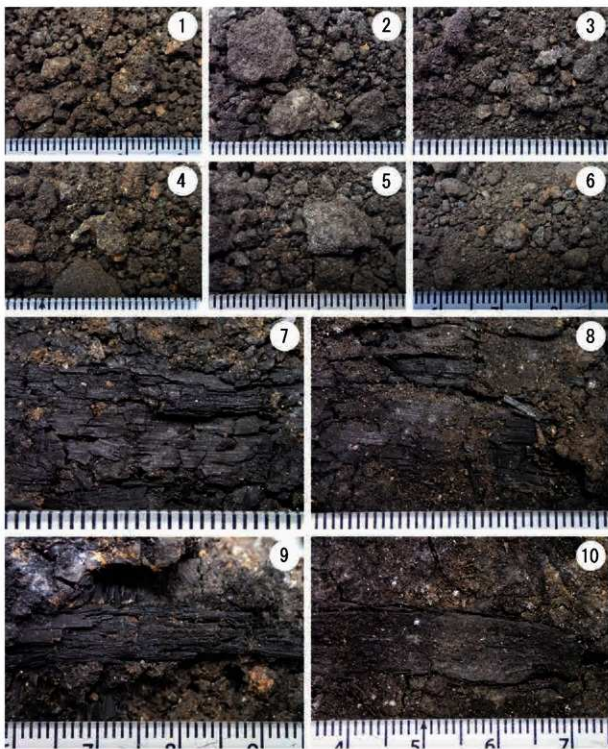
#### 4. 考察

竪穴建物跡の灰 6 試料について植物珪酸体分析を行った結果、SI7a の灰層（分析 No. 1）からは、イネの機動細胞珪酸体が検出された。また、イネ型短細胞珪酸体列がわずかに検出された。SI7a では、稲藁が着火材などとして利用された可能性がある。SI9 では、カマド灰層前面（分析 No. 3）とカマド煙道灰（分析 No. 6）からイネの機動細胞珪酸体がわずかに検出された。カマド灰層前面（分析 No. 3）とカマド前灰（分析 No. 5）からはイネ穀殻に形成される珪酸体を検出された。また、カマド前面灰層（分析 No. 4）からは、ヨシ属の機動細胞珪酸体がわずかに検出された。SI9 のカマドでは、稲藁や稲殻、ヨシ属（ヨシヤツルヨシなど）が着火材などとして利用された可能性がある。

一方、壁材の 4 試料からは、いずれも棒状型の植物珪酸体がわずかに検出されたのみであった。SI10 の壁材はイネ科植物である可能性があるが、今回の試料には機動細胞珪酸体や短細胞珪酸体が認められなかったため、詳細な分類群の同定は困難である。

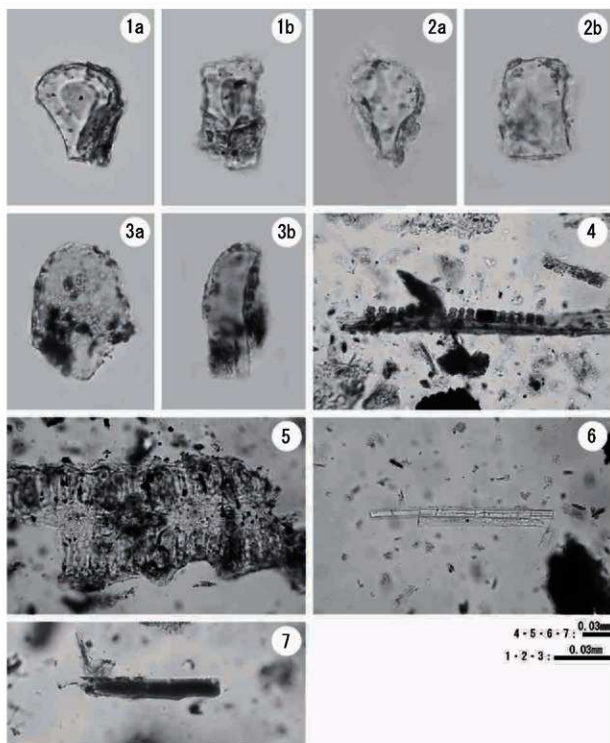
#### 引用文献

- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) 一数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法一、考古学と自然科学, 9, 15-29.
- 近藤錬三 (2010) プラント・オパール図譜, 167p, 北海道大学出版会.



図版1 塩部遺跡の墜穴建築物の灰試料と壁材

1. 分析No. 1、2. 分析No. 2、3. 分析No. 3、4. 分析No. 4、5. 分析No. 5、6. 分析No. 6、7. 分析No. 7、8. 分析No. 8、9. 分析No. 9、10. 分析No. 10



図取2 塚部遺跡の竈穴建物跡の灰試料と塚材の植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体 (分析No.1)、2. イネ機動細胞珪酸体 (分析No.6)、3. ヨシ属機動細胞珪酸体 (分析No.4)、4. イネ型短細胞珪酸体列 (分析No.2)、5. イネ初葉の珪酸体 (分析No.3)、6. 棒状型の植物珪酸体 (分析No.9)、7. 棒状型の植物珪酸体 (分析No.10)

a: 断面、b: 側面

## 1. はじめに

塩部遺跡において、古環境を検討するために土壌試料が採取された。以下では、試料に対して行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

## 2. 試料と方法

分析試料は、地山・自然堆積層と河川跡のSD1から採取された計10試料である(表1)。これらのうち、花粉分析には全試料を、プラント・オパール分析には5試料を供した。これらの試料について、次の手順で分析を実施した。

表1 分析試料一覧

試料No.	層位	岩質	備考	花粉	プラント・オパール
土1	IIIb	黒褐色 (7.5)R3/2) 粘土質シルト	古墳包層	○	
土2	4	黒褐色 (10)R3/2) 砂質シルト		○	○
土3	6	黒褐色 (2.5)Y3/2) 粗砂		○	
土4	7	黒色 (5)Y2/1) 粘土		○	○
土5	8	灰色 (10)Y4/1) 砂		○	
土6	9	オリーブ黒色 (5)Y3/1) 粘土		○	○
土7	11	オリーブ黒色 (5)Y3/1) 粘土		○	
土8	IVd	灰色 (7N/1) シルト		○	○
土9	IVe	黒色 (7.5)Y2/1) 粘土	地山・自然堆積層	○	○
土10	9b	砂礫		○	

## 2-1. 花粉分析

試料(湿重量約4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、十分な量の花粉化石が得られない試料については、プレパラート1枚の全面を検鏡するに留めた。さらに、保存状態の良好な花粉化石を選んで単体標本(PLC.2637~2643)を作製し、写真を図版1に載せた。

## 2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、図版2に載せた。

## 3. 結果

## 3-1. 花粉分析

10試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉25、草本花粉24、形態分類のシダ植物



表2 産出花粉・胞子一覧表

学名	和名	土1	土2	土3	土4	土5	土6	土7	土8	土9	土10
<b>樹木</b>											
<i>Podocarpus</i>	マキ属	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Abies</i>	ヒノキ属	11	33	8	7	16	21	8	-	-	22
<i>Tsuga</i>	ツガ属	24	17	4	2	4	5	7	-	-	14
<i>Picea</i>	トウヒ属	6	3	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Pinus subgen. Diplostylon</i>	マツ属椎葉節東亜属	9	1	-	-	6	1	-	-	-	4
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	60	71	17	15	73	58	9	-	-	51
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イチスガヤ科-ヒノキ科	-	-	2	1	7	-	-	-	-	6
<i>Salix</i>	ヤナギ属	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
<i>Pterocarya-Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	9	7	1	1	4	9	1	-	-	5
<i>Carpinus-Obrya</i>	クマシダ属-アサダ属	3	-	1	1	4	6	-	-	-	8
<i>Betula</i>	カバノキ属	7	2	1	-	5	3	1	-	-	5
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2
<i>Fagus</i>	ブナ属	4	6	3	-	3	-	1	-	-	3
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	26	22	3	1	35	37	4	1	-	45
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	27	14	6	3	17	42	1	-	-	17
<i>Castanea</i>	クリ属	5	6	-	-	6	2	-	-	-	2
<i>Castanopsis-Panusia</i>	シノキ属マツバシバ属	1	8	-	-	2	-	-	-	-	2
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	2	10	3	1	5	2	1	-	-	3
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	9	6	-	-	-	4
<i>Rhus-Toxicodendron</i>	スズナ属-ウルシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Acer</i>	カエデ属	2	-	-	-	-	2	-	-	-	9
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	2	-	1	3	1	-	-	-	1
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<b>草本</b>											
<i>Trifolium</i>	ガムシ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Alisma</i>	サジメオモダカ属	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	4	1	1	-	1	-	-	-	-	-
Gramineae	イネ科	82	73	5	1	50	37	40	-	-	144
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	8	1	-	24	2	-	-	-	8
<i>Comelina</i>	ツユクサ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Moraceae	ケワ科	-	-	-	-	24	3	-	-	-	-
<i>Rhus</i>	ギンギン属	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>Polygonum sect. Porcariaria-Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	2	6	3	9	14	17	5	-	-	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-
Rosaceae	バラ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Leguminosae	マメ科	1	1	1	-	1	-	-	-	-	1
<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属	-	-	-	1	2	-	-	-	-	3
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Apiaceae	セリ科	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
<i>Menyanthes</i>	ミツガシバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Nyctagales</i>	アサギ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Labiatae	シソ科	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ambrosia-Kothisia</i>	ブタクサ属-オナモミ属	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
<i>Carthamus</i>	ペロハナ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	1	17	1	1	14	18	2	-	-	24
Tubuliflorae	キク亜科	2	1	-	1	-	1	-	-	-	3
<i>Liguliflorae</i>	タンポポ科	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<b>シダ植物</b>											
monolete type spore	単条溝胞子	19	5	3	1	5	1	1	-	-	10
trilete type spore	三条溝胞子	2	1	-	-	-	-	-	-	-	3
<b>Arboreal pollen</b>											
Arboreal pollen	樹木花粉	202	203	49	33	203	201	34	1	-	206
<b>Nonarboreal pollen</b>											
Nonarboreal pollen	草本花粉	115	111	13	13	134	84	47	-	-	189
<b>Spores</b>											
Spores	シダ植物胞子	21	6	3	1	5	1	1	-	-	13
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	338	320	65	47	342	286	82	1	-	408
<b>Unknown pollen</b>											
Unknown pollen	不明花粉	-	5	-	-	6	7	-	-	-	3

胞子2の、総計51である。これらの花粉・胞子の一覧表を表2に、花粉分布図を図1に示す。花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率、草本花粉・胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、そ

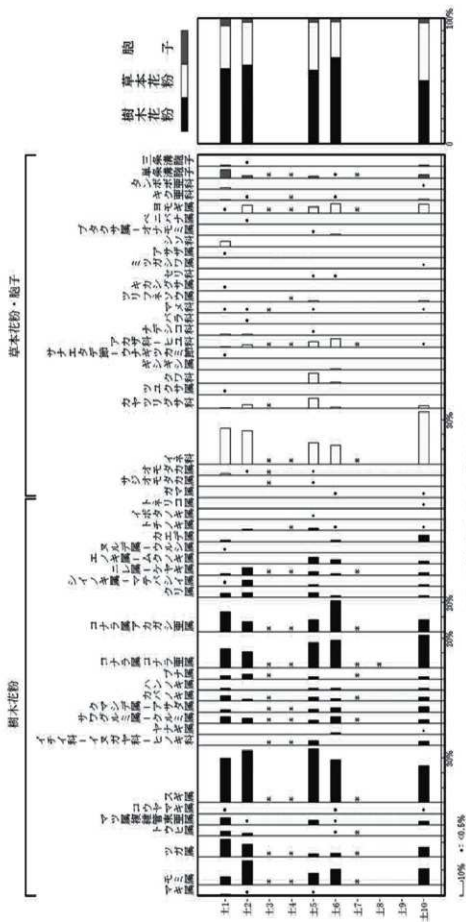


図1 植群落跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基數として百分率で算出した。  
\*は樹木花粉200個未満の試料について、検出した分類群を示す。

表3 試料1g当りのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	ポイント型 (個/g)
土2	38,700	1,300	42,500	1,300	7,700	16,800	42,500	24,500	5,200
土4	24,800	7,100	15,300	1,200	4,700	9,400	38,900	31,900	8,300
土6	27,400	16,100	38,700	1,600	12,900	17,800	88,800	50,100	3,200
土8	0	0	2,500	1,200	0	1,200	2,500	2,500	0
土9	2,800	0	2,800	0	0	5,500	6,900	15,200	0

これらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、土3, 4, 7, 8, 9の層準については十分な量の花粉化石が含まれていなかった。

### 3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピーズ個数の比率から、試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(表3)、分布図に示した(図2)。

検鏡の結果、5試料ではイネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の7種類の機動細胞珪酸体が確認できた。また、イネの初殻に形成されるイネ穎破片の産出も確認できた。

## 4. 考察

花粉分析の結果では、十分な量の花粉化石が得られていない層準があるものの、下位層から上位層にかけて、顕著な花粉組成の変化は見られなかった。よって、分析試料の堆積期間は顕著な植生の変化はなかったと考えられる。検出された花粉化石群集を見ると、樹木花粉ではスギ属やコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などの産出が目立つため、遺跡周辺の丘陵地などにはスギ林やナラ類からなる落葉樹林、カシ類からなる照葉樹林などが分布していたと考えられる。また、中間温帯林の構成種であるモミ属やツガ属などの産出も見られ、遺跡周辺の丘陵地に分布していたと思われる。さらに、サワグルミ属-クルミ属やニレ属-ケヤキ属、トチノキ属などは河畔林を構成する分類群として知られており、河川周辺の水分条件の良い場所に生育していた可能性がある。草本花粉ではイネ科やアカガシ科-ヒユ科、ヨモギ属などの産出が目立ち、これらの草本類が河川周辺に分布を広げていたと思われる。ただし、地山の土10では、イネ科の産出率が高く、他の草本類の産出率が低いため、河川が形成される前の遺跡周辺には、主にイネ科の草本類が分布を広げていたと考えられる。

イネ科については、プラント・オパール分析においてより詳細な種類がわかる。地山の土8, 9ではネザサ節型やヨシ属、キビ族、ウシクサ族などの機動細胞珪酸体が産出しているため、遺跡周辺の湿潤な場所には抽水植物のヨシ属が生育しており、やや乾燥した開けた場所にはネザサ節のササ類やキビ族、ウシクサ族などのイネ科植物が生育していたと思われる。土6以上の層準になると、各分類群の機動細胞珪酸体の産出量が増加する。土6以上の層準は、SD1の埋土であるため、河川には多くの葉身が集積していた状況が推測される。土6以上の層準においても、主に検出されるのがネザサ節型やヨシ属、キビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体であり、河川形成前と形成後で機動細胞珪酸体の産出量に違いがあるものの、試料採取地点周辺に分布していたイネ科植物の構成種は同様であったと考

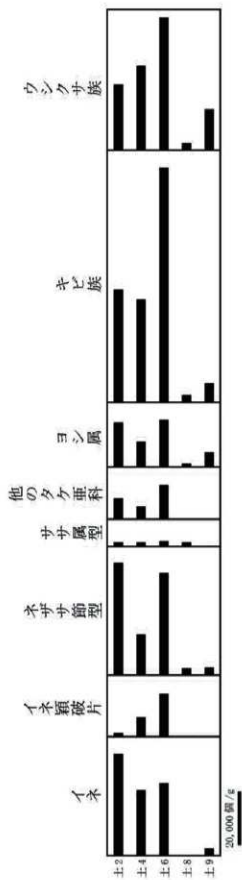


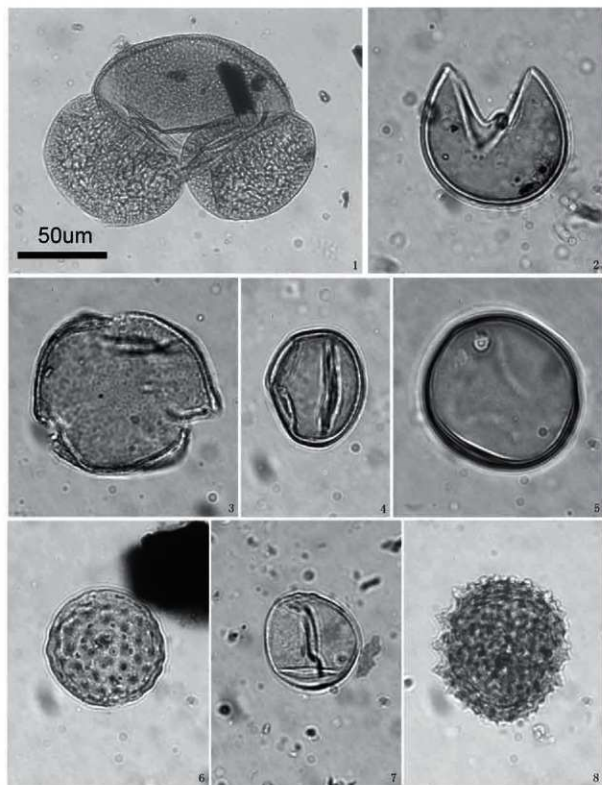
図2 埴田遺跡における植物ミクロ体分布図

えられる。

土6以上の層準ではイネ機動細胞珪酸体も産出量を増している。イネ機動細胞珪酸体の産出量については、試料1g当り5,000個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており（藤原, 1984）、試料1g当り5,000個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。この目安に照らし合わせると、地山層の土8と土9では、イネ機動細胞珪酸体が検出されていないか、検出されていても水田土壌の目安を下回るため、河川形成前の遺跡周辺にはイネは存在していたものの、水田などの集約されるような状況下になかったと考えられる。河川形成に伴い、イネの葉身が集積することで多くのイネ機動細胞珪酸体が産出するようになるが、花粉分析の結果では、土5以上の層準で水田雑草を含む分類群であるサジオモダカ属やオモダカ属、キカシグサ属などの産出が見られるため、河川周辺に水田が存在した状況も推測できる。さらに、土2ではベニバナ属花粉が検出された。土2堆積時は河川周辺においてベニバナ栽培も行われていた可能性がある。

#### 引用文献

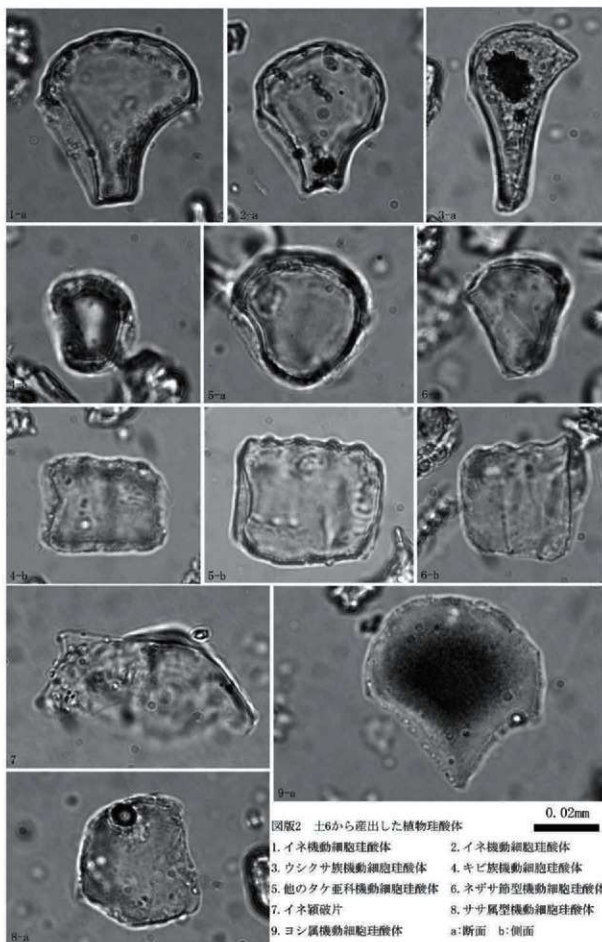
藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—, 考古学ジャーナル, 227, 2-7.



図版1 産出した花粉化石

1. モミ属 (土5 PLC.2637)
3. コナラ属コナラ亜属 (土5 PLC.2639)
5. イネ科 (土5 PLC.2641)
7. タワ科 (土5 PLC.2643)

2. スギ属 (土5 PLC.2638)
4. コナラ属アカガシ亜属 (土5 PLC.2640)
6. アカザ科-ヒユ科 (土5 PLC.2642)
8. ベニバナ属 (土2 PLC.2644)



## 第6章 まとめ

### 第1節 塩部遺跡の遺構と遺物

今回の発掘調査では古墳時代前期から後期の遺構・遺物が出土した。主な検出遺構は建物 52 軒（S11～40・43・44、SX3、SB1～4）と溝・流路（SD1・SD17・SD32・33）である。建物の内、竪穴建物 44 軒、掘立柱建物 2 軒、平地建物 6 軒である。遺物は主として古墳時代の土師器が出土し、古墳時代前期から後期まで見られる。土師器、須恵器に伴い、金属製品、ガラス製品、石製品、土製品、木製品、動植物遺体などが出土している。その他には縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・石製品、平安時代の土師器などが少量出土している。

主な遺構について遺物の時期別に区分すると大きく 7 区分することができる（第 195・196 図）。

I 期では S 字状の口縁部に刺突文が入り、胴部に斜め、肩部に横走するハケ目を持つ台付甕、口唇部に刻目を持つ単純口縁台付甕や幅広折り返し口縁壺や、単純口縁加飾壺などが出土している。山梨県史の I 期に比定すると思われる。S110 や SD17 などで出土している。

2 期では S 字状の口縁部に刺突文がなく、胴部に斜め、肩部に横走するハケ目を持つ台付甕、大形の高環、器台、単純口縁壺などが出土している。山梨県史の II 期に比定すると思われる。S140 や SD17 などで出土している。

3 期では S 字状の口縁部に刺突文がなく、肩部に横走するハケ目がなく、胴部に斜めのハケ目を持つ台付甕、単純口縁加飾壺、高環、器台、単孔の有孔鉢、丸底鉢などが出土している。山梨県史の III 期に比定すると思われる。S16・7b・8・15・21・31・40 などで出土している。

4 期では高環、丸底壺、壺、堦形の環、深めの半球型の環、鉢などが出土している。山梨県史の V 期に比定すると思われる。S12・14・16・17・26・34・35・38 などで出土している。

5 期では模倣土師製の壺、球形の甕、やや長胴形の甕、丸底壺、浅めの半球型の環、鉢、堦形の環などが出土している。山梨県史の VI 期に比定すると思われる。S14・13・18・32・37 などで出土している。

6 期では堦形の環、口縁部が外反する環、半球形の環、須恵器蓋環を逆転した形の環、須恵器環、低脚の高環、やや長胴化した甕などが出土している。山梨県史の VII 期から VIII 期に比定すると思われる。S15・19・22・23・24・27・28・29・36・43・44 などで出土している。

7 期では扁平な形態の半球型の環、須恵器蓋環を逆転した形の環、須恵器環、須恵器環蓋、多孔の有孔鉢、長胴化した甕、大きな口径でやや球胴の大甕、大形甕などが出土している。山梨県史の IX 期から X 期に比定すると思われる。S11、9、25、39、SD1 などが出土している。

次に時期別の遺構分布を 4 期に分けて示す（第 197 図）。古墳時代前期以前の様相として SD32 が前期以前の流路で調査区北側から西側へ北から南へ流れている。調査区西側では北から南へ流路 SD33 が北から南へ流れている。次に古墳時代前期では、遺構は調査区中央部ままとまっており、北側に区画溝 SD17 が北西から南東方向に位置している。古墳時代中期になると、遺構の分布は調査区内に均等に広がるようになる。古墳



時代後期になると流路SD1が調査区西側に、流路SD33が東側にそれぞれ北から南へ流れている。流路の間の微高地内に遺構が均等に分布している。流路SD33からは後期の遺物が中心として出土しているが、最上層で10世紀から11世紀の平安時代末の遺物が出土している。平安時代末までは流れがあったと考えられる。調査区内で検出した流路は塩部遺跡の過去の調査地点の平成6・7年度調査地点(第3図)の川・沼の南側にあたるため連続した流れの可能性がある。塩部遺跡の東側を流れている相川の旧流路と思われる。また、西側に隣接する平成13年度調査地点B地区を参照すると古墳時代前期の遺構は地区をまたいでまとまって分布している。中期と後期の遺構分布は平成13年度調査地点では少なく、今回の調査地点に集落の中心があると思われる。

#### 参考文献

- 山梨県教育委員会 1996『塩部遺跡』山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第123集  
山梨県 1999『山梨県史 資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)』  
甲府市教育委員会 2004『塩部遺跡Ⅰ』甲府市文化財調査報告24  
甲府市教育委員会 2005『塩部遺跡Ⅱ』甲府市文化財報告30  
甲府市教育委員会 2009『塩部遺跡』甲府市文化財調査報告44



1



2



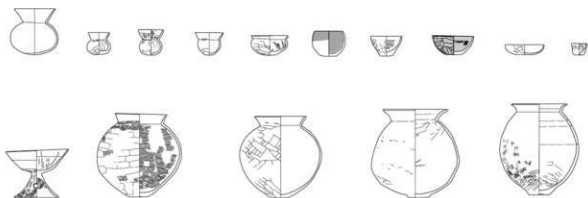
3



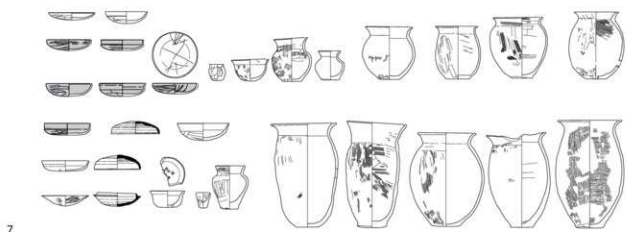
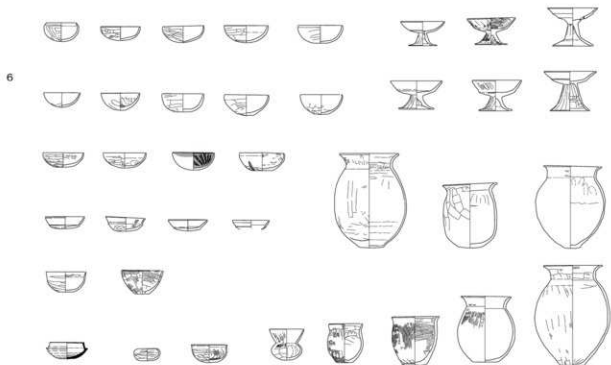
4



5



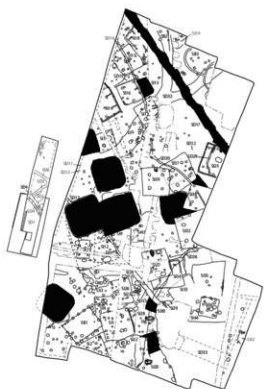
第 195 图 古墳時代土師器 (1)



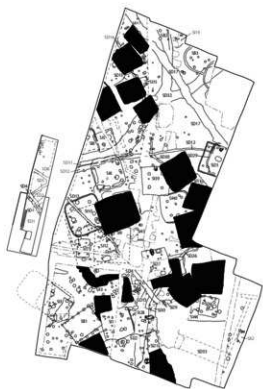
第 196 図 古墳時代土師器 (2)



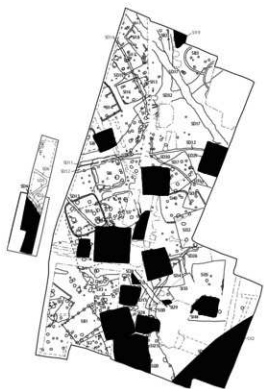
古墳時代前期以前



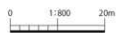
古墳時代前期



古墳時代中期



古墳時代後期



第197図 遺構変遷図

## 第2節 塩部遺跡の焼失建物について

調査区の中央部で検出したS17・10は古墳時代前期から中期にかけての焼失竪穴建物であった。現場では肉眼観察で遺存状態が良好と判断した炭化材を採取し、それとは別に土壌試料も採取した。それぞれの試料を整理選別後、株式会社パレオ・ラボに依頼し自然科学分析を行い大きな成果を得ている（第5章自然科学分析）。あらためて焼失建物が内包する情報の多さを痛感したが、現場調査時は建物がいつどのように焼失したか、それをどのように記録するかが課題であった。ここではその課題を踏まえつつ、焼失建物についてのこれまでの塩部遺跡の成果を簡潔に整理しておきたい。

竪穴建物・掘立柱建物など建物の種類にかかわらず、これまでに刊行された塩部遺跡の発掘調査報告書と当報告書に記載された建物の総数は148軒である。時代別では弥生時代後期から古墳時代が139軒、奈良・平安時代が9軒となる。このうち報告書上で炭化材や焼土の範囲が図示され、焼失状況に関する記載や所見があるものを焼失建物として表にまとめた。

### 1. 塩部遺跡の焼失建物の時期

表1は塩部遺跡の焼失建物一覧である。奈良・平安時代の焼失建物は検出されていない。弥生時代後期から古墳時代の建物139軒のうち焼失建物は29軒である。また弥生時代後期から古墳時代初頭に限定すると、建物の総数は35軒で、そのうち焼失建物は16軒である。焼失率は45.7%にのぼる。山梨県内の弥生6期の集落では、上の平遺跡59%、六科丘遺跡27%、平野遺跡44%、東山北遺跡57%（山梨県1999）と焼失率が高い傾向があり、この傾向は同時期の塩部遺跡でも同様であることが指摘されていた（甲府市教育委員会2005）がそれを裏付ける結果となった。また古墳時代前期から後期では、総数104軒のうち焼失建物は13軒で焼失率は12.5%であった。同じ塩部遺跡内の古墳時代と比べても焼失率の高さは顕著である。

### 2. 塩部遺跡の焼失建物の事例

報告書の記載から焼失状況を窺い知ることのできる事例として6軒の竪穴建物を取り上げ、どの時点で焼失したかに着目してみていく。

#### 事例1：塩部Ⅰ-7号竪穴

- ①壁面全体を焼土塊が覆っており、壁材として粘土を貼っていた。
- ②4号土坑で底部に近い覆土から炭化した材や遺物出土。建物機能時には開口か。
- ③多くの遺物が二次被熱を受けた状態で散乱。
- ④558号ピット（主柱穴）で火災による廃絶後に柱材を抜き取り、意図的に小壺を埋納。

①～③から建物の機能時に近い状態で焼失したと推定する。特に②の4号土坑は貯蔵穴の可能性が示唆されており、炭化した材や遺物が貯蔵物であるなら、建物機能時の焼失と考えたい。④は焼失状況の直接的な手がかりではないが、焼失後の建物の使用者の行為が特定できる。柱穴から柱材を抜き取り、土器を埋納したらしい事例は当報告書のS13の柱穴などでも報告している。S13は焼失建物ではなかったが、建物廃絶後にある程度普遍的に行われた行為であった可能性がある。

#### 事例2：塩部ⅡC地区-1号竪穴

- ①屋根材と考えられる建築部材が出土。
- ②炭化材より高い位置で出土した焼土塊は部分的に土を屋根材に使用していたものか。
- ③床面の炭化物層から炭化米を採取。

①～③から建物の機能時または機能停止直後の焼失と推定する。②からは少なくとも屋根が朽ち落ちる前に焼失したと推定でき、③からは米が土壌化する前の早い段階で焼失により炭化したと言える。

#### 事例3：塩部ⅡC地区-12号竪穴

①壁面に炭化材の痕跡。壁際に粘土で固定された板材が存在。

②ピット状の落ち込みの中に炭化物や焼土が入り込んでいた。

①②から建物の機能時または機能停止直後の焼失と推定する。②はピット状の落ち込みが開口した状態で建物が焼失した結果とみることができる

#### 事例 4：塩部ⅡC地区－16号竪穴（上層・下層）

①下層建物にムシロのような敷物痕跡。

②下層建物の壁面に炭化物と焼土塊の帯が形成。壁際に板材使用か。

③下層建物の遺物は火災による放置で残りが良い。完形品あり。

④上層建物は下層建物の焼失による建て替えか。

①～③から建物の機能時の焼失と推定する。特に③の遺物は器種も多彩であったとの記載があり、①のムシロ状の敷物痕跡と合わせて、家財道具がそのままの状態の意図しない焼失を考えたい。④は建物焼失後の使用者の行為が特定できる。

#### 事例 5：塩部Ⅲ－S15

①床面上で広範囲の炭化物粒と板状の炭化材を検出。

②炭化物・炭化材の上で遺物が出土。

①②から建物の機能停止後の焼失と推定する。①の板状の炭化材は建物の構築材の可能性があるが量的にはわずかで、主要な材はあらかじめ取り払われた後とみたい。②の遺物は炭化材の直上にまとまって出土しており、焼失後に投棄されたものである。建物の焼失は意図したものと考えたい。

#### 事例 6：塩部Ⅲ－S110a

①床面上で検出の炭化物の多くは分析の結果、屋根材または壁材に使用されたとみられるイネ科草本の程。柱材となるような太い材はほとんどない。

②柱穴の覆土に顕著な炭化物層が堆積する。柱穴が柱を取り除いた後の開口状態で建物が焼失か。

③遺物の出土量が少なく（報告書掲載は25点）、破片資料がほとんどである。

①～③から建物の機能停止後の焼失と推定する。①②からは建物の主要な構築材をあらかじめ取り払い、壁などを覆っていた藁状の材を不要物として焼却した状況を推測する。③は現場調査時の印象となるが、平面規模7.8m×7.8mと今回の調査では最も大形の竪穴建物で、床面まで35cmと遺構の遺存状態も良好であったことを考えると、相対的な遺物量が少なく出土位置も散在していた。必要な家財道具を持ち去った後の状況を想定でき、建物の焼失は意図した焼却と考えたい。

以上、建物がどの時点で焼失したかを推定しつつ6事例を取り上げた。出発点は塩部遺跡の現場で目にした多くの焼土や炭化材が建物の焼失によるもので、その建物はいつどのように焼失したか、火事なのか焼却なのかという疑問であった。ここではその解決の糸口となり得る事例を提示した。また、表中に掲載したのみで詳細に触れていないが平地建物や掘立柱建物など上部構造が異なる建物の焼失事例の蓄積と検討も今後の課題である。

#### 引用・参考文献

山梨県教育委員会 1996『塩部遺跡』山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第123集

山梨県 1999『山梨県史 資料編2 原始・古代2考古（遺構・遺物）』

甲府市教育委員会 2004『塩部遺跡Ⅰ』甲府市文化財調査報告24

甲府市教育委員会 2005『塩部遺跡Ⅱ』甲府市文化財報告30

甲府市教育委員会 2009『塩部遺跡』甲府市文化財調査報告44

表1 塩部遺跡の焼失建物一覧

報告書 地区※1	遺構番号	平面形	規模 ※2	主軸方向 ※2	伊・カマド	建物構造・出土遺物等	焼失状況に関する記載	時期 ※3
塩部	5801	小半形	4.5×3.9	—	伊	竪穴建物、柱76基検出。	床面近くに多量の灰土、炭化物散在。焼失家屋。	弥生時代末 中山山麓6期 (歴史学66期)
塩部 I	1号壁穴	長方形	3.5×3.0	N-26°-E	伊	柱穴不明。	床面全体に炭化物・焼土塊多量。火災により焼 毀。	—
塩部 I	6号壁穴	隅丸方形	南北6.0	N-72°-E	確認できず	主柱2基検出	竪土及び床面全体に炭化物・焼土塊散在。焼失し た床跡確認。土器の多くに焼物。	古墳時代後期 塩部 I-V 期 (5C後半～6C前半)
塩部 I	7号壁穴	隅丸方形	6.0×5.9	N-73°-E	カマド 煙道が建物外 に張り出す	4本主柱。柱材残存。編物用 石綿124個出土。	竪土及び床面全体に炭化物・焼土。焼失建物。壁 面全体に焼土。壁材に粘土。多くの遺物が焼 物。火災による炭酸化に伴って柱を抜き取り小窓を埋 め、4号土師の直前から炭化した材・遺物が出 土。建物機能は焼失後、閉鎖、貯蔵穴か。	古墳時代後期 塩部 I-V 期 (5C後半～6C前半)
塩部 II C地区	1号壁穴	小半形か 隅丸方形	[2.4]×4.5	N-45°-W	伊 (壁跡)	主柱2基検出。	全体に炭化物・焼土塊検出。火災により焼地。腐 敗材の建築部材の焼土を屋根材とした床跡確 認。床面炭化物層から炭化米採取。 下層建物の火災痕にはほぼ同規模で建て替え。	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	2号壁穴 上層	小半形	[3.2]×3.7	N-42°-E	伊	柱穴不明。	—	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	2号壁穴 下層	小半形	[3.0]×3.6	—	伊	小型の楕円	床面の広範囲に火災による炭化物層。	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	5号壁穴	小半形	[3.2]×4.3	N-25°-W	確認できず	主柱2基検出。主柱に3面の 腐蝕。建て替えか。	床面に炭化物層検出。火災による焼失。	弥生時代末 塩部 II-II 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	10号壁穴	小半形	[1.4]×[3.4]	(N-34°-W)	確認できず	主柱2基検出。柱穴の遺構2 面。建て替えか。	床面の広範囲に炭化物層。火災にあっていて、	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	12号壁穴	小半形	[1.6]×[4.4]	N-66°-E	確認できず	主柱1基検出。	全面炭化物と焼土塊検出。火災により焼地。壁面 に粘土で固定の腐材か。炭化物・焼土が入り込む 落ち込みあり。貯蔵穴か。	弥生時代末 塩部 II-II 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	13号壁穴	小半形	[4.5]×[5.0]	N-34°-W	伊	主柱2基検出。5本柱の建物 か。	床面全体に炭化物層。火災により焼失。	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	14号壁穴	隅丸方形	[2.4]×5.4	N-34°-W	伊	主柱2基検出。柱間溝存。建 物外周溝存。北窓系・伊 勢湾系土器共存。馬7出土。	床面全体から炭化物層及び炭化材検出。火災によ り焼失。壁面に腐材か。石も焼失して割片が散 在。	弥生時代末 塩部 II-II 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	16号壁穴 上層	小半形	[5.2]×5.8	N-30°-W	伊	主柱4基検出。	床面中央から北側を中心に炭化物層。火災による 焼失。下層建物の焼失による建て替えか。	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	16号壁穴 下層	小半形	[3.4]×5.0	N-30°-W	伊 小室楕円石2柱	主柱4基検出。柱間溝存。面 取りの角柱。	床面全体に炭化物層。火災により焼失。ムシ石の ような動物痕跡。壁面に腐材か。遺物は火災によ り放置の残り残りが良い。	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	17号壁穴 上層	小半形	[3.8]×5.4	N-35°-W	伊	主柱1基確認されぬ。伊勢 湾系土器共存。	—	弥生時代末 塩部 II-II 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	17号壁穴 下層	小半形	[4.5]×4.3	N-35°-W	伊	主柱3基検出。	壁面を中心に炭化物層。火災により焼失。	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	18号壁穴	小半形	[2.3]×[4.9]	(N-30°-W)	伊	主柱1基検出。	火災により焼失。	弥生時代末 塩部 II-I 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	1号平地	—	—	N-28°-W	伊	平地建物。6基の柱穴検出。	面的に炭化物層。付近にも炭化物の広がり。火災 により焼失。	—
塩部 II C地区	4号平地	—	[6.0]×[4.6]	N-36°-W	伊	平地建物。8基の柱穴検出。 丸太材の柱残存。多量の 炭化米・遊動器検出。	床面に火災によるとみられる炭化物を広範囲に確 認。	弥生時代末 塩部 II-II 期 (歴史学66期)
塩部 II C地区	1号壁穴	隅丸方形	[3.9]×[2.7]	N-28°-E	伊	楕円石	床面全体に炭化物。火災により焼失。	—
塩部 2009	6号住居址	—	[3.08]×[2.52]	—	カマド	竪穴建物。ビット3基確認。	竪土全体に焼土・炭化物が多く混入し。下層に炭 化材が多く混入。※4	古墳時代後期
塩部 2009	7号住居址	方形か	[2.7]×[2.68]	—	—	竪穴建物。柱穴不明。	竪土全体に焼土・炭化物が多く混入し。特に層 に炭化物が集中。焼失家屋。	古墳時代後期
塩部 2009	8号住居址	—	[4.3]×[3.15]	—	—	竪穴建物。柱穴不明。	竪土全体に焼土・炭化物混入。部分的に焼土・ 炭化材が集中。※4	古墳時代後期
塩部 515	隅丸方形	4.3×4.0	N-20°-W	伊	竪穴建物。床面検出。柱穴 不明。面出土	—	—	歴史学66期
塩部 517a	—	—	—	—	—	竪穴建物。北壁と床面を検 出。柱穴不明。	床面上で炭化物・焼失建物。出土遺物は炭化材 のみで出土。建物焼失後に放棄か。	歴史学66期
塩部 517b①	—	—	南北4.6m	N-23°-W	(伊)	竪穴建物。柱穴4基検出。	床面で敷石がわたって焼土塊・炭化材検出。焼 失建物。	歴史学66期
塩部 510a	隅丸方形	7.8×7.8	N-21°-W	伊	竪穴建物。柱穴4基検出。 S10bの建て替えか。	—	—	歴史学66期～IV期
塩部 5X3a	—	—	—	N-27°-W	—	平地建物か。柱穴4基検出。	広範囲にわたる焼土・炭化物を検出。焼土が柱穴 の上部に覆い被せる。	歴史学66期
塩部 5X3b	—	—	—	N-28°-W	—	平地建物か。柱穴4基検出。	広範囲にわたる焼土・炭化物を検出。焼土が柱穴 の上部に覆い被せる。	歴史学66期

※1 「塩部」は「塩部遺跡」山形県教育委員会1996。「塩部 I」は「塩部遺跡」山形県教育委員会2004。「塩部 II」は「塩部遺跡」山形県教育委員会2009。「塩部 III」は「塩部遺跡」山形県教育委員会2019年報告を示す。

※2 規模・主軸方向( )は推定値。[ ]は残存値を示す。主軸方向の数値はそれぞれの報告書の記載に従った。

※3 時期はそれぞれの報告書の記載に従い、可能な場合は「山形県史」弥生時代の編年、古墳時代の編年によるものを併記した。

※4 「塩部2009」では焼失家屋と記載があるのは7号住居址のみだが、記載内容と遺構図から焼失建物と判断した。

### 第3節 塩部遺跡の木製品について

今回の調査区では多様な木製品が出土した。例物容器の槽や横樋、椅子、曲物などの生活道具に加え両端にホゾを施した建築部材、導水施設の樋など大形の木製品もあり、全て古墳時代後期の流路SD1の下層から出土したものである。山梨県内では出土例が稀少で、各遺物の詳細な検討が必要だが、その前提として、これまでの塩部遺跡の発掘調査で出土した木製品の出土状況について概観しておきたい。

『塩部遺跡』1996 報告書に掲載された木製品は150点である。主な出土地点はNUMA、KAWA2とされた奈良・平安時代の流路である。板状・棒状の木製品が大半を占めるが皿・椀・曲物・下駄の他、人形木製品2点、斎串36点が出土している。人形木製品のうちの1点は墨書で顔が描かれる。報告書では人形木製品と斎串を律令期祭祀具と位置づけ考察している。

『塩部遺跡I』2004 報告書に掲載された木製品は13点で、全て1号溝跡から出土したものである。板状の木製品の他、端部に加工を施した棒状の木製品が出土している。下層の黒色土層から多量の土器に伴って出土しており、古墳時代中期の時期を主体とする。

『塩部遺跡II』2005 報告書に掲載された木製品は65点である。24号溝跡で15点、1号方形周溝墓で40点とその大半を占める。24号溝で織機部材とみられるものが3点、1号方形周溝墓で二又鎌が1点出土している。24号溝は集落の環濠の可能性が指摘される溝である。覆土中に周辺の火災処理に伴うとみられる炭化物層が堆積し、この層から多量の土器・木製品が出土した。多くは二次被熱している。時期は弥生時代末である。1号方形周溝墓では、二又鎌の他に金属で削られたとみられる板状・棒状の木製品が出土した。方形周溝墓の造営に関わる遺物と考えられている。時期は古墳時代初頭である。

『塩部遺跡』2010 報告書に掲載された木製品は2点である。いずれも4号溝から出土した板状木製品である。出土遺物の時期は古墳時代から平安時代である。

『塩部遺跡III』2019 本報告書で図示した木製品は71点である(第170～176図)。71点のうち14点には炭化部位が観察された。69～76は容器や工具など日常生活道具とみられるものである。77は当初、弓と考えたが一端部を穿孔しており何かの部品となる可能性が高い。78・79は栓と報告する例もあるが、材と材を接合するための部品か。84～90は板状の材の一端部を尖らせたもので斎串とした。132は両端にホゾを切った部材で、建物の建築材か。長さは3.03mである。133は木樋である。出土時点の残存長は2.7mであった。幅14cmの丸太状の材を断面口の字形に削り抜いたものである。これらの木製品はいずれもSD1の底面付近で出土した。出土地点は流路の湾曲部にあたるため、投棄された木製品が湾曲部で滞留して溜まったものと推測する。時期は、同じ層位の出土土器、上層の土器も古墳時代後期で、県史古墳編年ではX期段階にほぼ限定される。またこれらの遺物は隣接する集落から投棄されたものと考えたが、今回の調査で検出した集落にX期段階の建物はほとんど無く、これまでの塩部遺跡の調査でもあまり検出されていない。

塩部遺跡全体ではこれまでに弥生時代末から古墳時代初頭、古墳中期、奈良・平安時代のそれぞれの段階の木製品が報告されており、そこに今回の古墳後期の資料が新しく加わったこととなる。日常生活の道具に加え、斎串状の製品、建築部材や木樋など多様な木製品がまとめて出土しており、時期もほぼ限定される。古墳時代の塩部集落に暮らした人々の生活様式を検討する上で又とない貴重な資料である。引き続き、個々の遺物に詳細な検討を加え、塩部集落のどこで使用されたものかも解明していく必要がある。

#### 引用・参考文献

小学館 2003『考古資料大観 木・繊維製品』

甲府市教育委員会 2010『塩部遺跡』甲府市文化財調査報告53

※『塩部遺跡』1996、『塩部遺跡I』1994、『塩部遺跡II』2005は第2節の引用・参考文献参照。また塩部IIIは本報告書である。



#### 第4節 塩部遺跡出土植物種子とウシ骨についての一所見

各遺構の炭化物層や焼土層サンプルを水洗選別し、種子類や骨片等を抽出した。これらを株式会社パレオ・ラボにお願いして同定・分析を行った。その成果は「第5章自然科学分析」にて報告されたとおりである。ここではその成果をもとに現状での意義と課題について若干の検討を行う

##### 1 種子類について

佐々木由香氏、バンダリ・スタルシャン氏による「塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析」表1～表5から分かるように竪穴建物や溝等から多くの種子類が確認された。特にS1 10からは多くのイネを始めとしてヒエ属やダイズ属・エンドウ属等のマメ類、モモ、ブドウ属、シソ属等が報告された。この遺構は古墳時代前期の竪穴建物で、火災を受けたらしく壁面に沿うように炭化材や炭化物・焼土を含む層が土手状に堆積していた。調査担当者は焼け落ちた屋根根っこは壁材を想定している。この壁際を土手状に巡っている焼失層の北東辺、南東辺、南西辺、北西辺からそれぞれサンプルを採取し、水洗選別を行なった。その結果各辺のサンプルから上記の炭化種子が抽出されており、南西を除いた各辺とも種子類構成に共通性があることから、古墳時代前期の種子類として確実性は高いものと認められる。イネとともにダイズ属等のマメ類がみられることに注目したい。特にエンドウ属については佐々木氏の報告では古墳時代以前の確実な例がないとのことで時期の確認が求められている。しかし上記のとおり他の炭化種子と同じ地点からの抽出品であり時期的には問題ないと思われる。S1 10以外に同じ前期であるS1 40からもエンドウ属を抽出しており、この時期にイネ等の穀類や豆類がセットとして栽培されていた可能性は高い。

後世の攪乱が少ない流路であるSD1内堆積土から抽出した種子類にも注目したい。ここには複数のモモ核を始めスモモ、オニグルミがあり、ダイズ属に加えてスイカ、メロン仲間、ヒョウタン仲間等のウリ類も抽出されている。炭化種子もあるが多くは種子および核のままであり、やはり水流の関係で保存状況が良かったものと思われる。なおSD1では花粉等の分析用として採取した土壌サンプルからも、パレオ・ラボにての水洗選別によって種子類が検出されている（「塩部遺跡の河川跡（SD1）における大型植物遺体分析」参照）。多くは河川周辺の草本植物であるが、イネやメロン仲間等の栽培植物もわずかながら含まれ、ブドウ属やサンショウ等も見られた。

次にブドウ属についてもふれておく。山梨県内の出土例には南アルプス市大師東丹保遺跡から弥生中期3点、鎌倉～室町59点がある（山梨県教育委員会1997）。これらは野生とみられ、当時の環境を考える上で参考となる。一方、人が食用等に利用したかどうかは不明であるものの、その関わりは大きな課題といえる。ちなみに山梨はブドウの産地としてよく知られており、栽培起源についても上野晴朗氏による詳細な研究があり、法菓の一種として仏教の伝来と共に日本にやってきた可能性が説かれている（上野1962）。このような栽培種以前の状況を考える上で塩部遺跡の事例も参考となるが、現生種の混入についても慎重な検討が必要である。佐々木氏の報告ではブドウ属Aとブドウとの二種類に分類し、前者をヤマブドウ以外の野生ブドウ属とし、エビヅルの可能性も考えられるとのことである。後者については大きさ・形態から栽培種のブドウと同定した。まずブドウ属Aについてみると、焼失住居であるS1 10からイネやモモ等と共に炭化物として出土していることから遺構に伴うものとしてよからう。また流路SD1堆積土中の種子も当時のものがバックされた状態と見なされる。ブドウと同定された種子についてはS1 27、S1 38、S1 40、SY 3（S1 22内焼土）から出土しているが、生の種子であるとともに大きさや形状から現生栽培種の混入品の可能性が考えられる。特にS1 38例は近世以降の水田床土直下の焼土層出土、S1 40例は集石からの出土という点も考慮したい。なお本遺跡の上流地域の一つである山宮地区は江戸時代からのブドウ栽培地でもある。

このような状況にあってS1 10出土ブドウ属Aの事例は、栽培植物であるイネやモモ、マメ類とともに出土しており同時性のみならず有用植物としての位置づけを考える上で重要と言える。またエビヅル（エビカズラ）

も含めた蔓性植物については、古事記黄泉国の項にもあるように穢れを払い邪気を防ぐ役割があったことも考える必要があろう（新津 2017）。

## 2 動物骨について

中村賢太郎氏「塩部遺跡から出土した動物遺体」の報告ではイノシシ、シカ、ウシ、コイが同定されている（表 1）。このうちウシについてふれる。

ウシと同定されたのは全て臼歯を含む歯の破片であるが、古墳時代前期の竪穴建物 S I 7b・13、中期の 7a・32、中期～後期の 5・24・27・28 や前期の土器を多く含む溝 SD17 からの抽出であり、古墳時代の遺物として見てよい。中村氏は家畜として飼われていた可能性を報告している。

山梨県内でのウシの出土については南アルプス市百々遺跡がよく知られる。この遺跡からは骨や歯が出土しており確実なものとして 37 個体を数え、同時にウマも 45 個体ありウシ・ウマ区別不明も加えて総数 100 個体以上と報告されている（今福 2004b）。時期は 9 世紀前半から 12 世紀であり、ウシ・ウマともに祭祀に関わるような出土状況が窺われ、疫病対策や雨乞い等を含む殺牛馬儀礼が考えられている。ウマについては埋葬状況も報告されている。またウシの用途については古代甲斐国に課せられた税・貢物に「牛皮」とチーズに類する「蘇」があることから、今福氏はこれらの前提としてのウシの存在を考えている（今福 2004a）。百々遺跡一帯は中世の八田牧とされ、馬飼育の場であったことが推測されているが、平安時代に遡ってウシも伴いながら飼育が行なわれていた可能性が極めて強いことが指摘されている。

塩部遺跡のウシは百々遺跡例をさらに 400 年以上遡る、律令時代以前の古墳時代前期から中期の事例である。少ない個体数とはいえ複数の遺構から出土していることは、塩部集落において飼育されていた可能性は高いと思われる。加えて、今回の調査区の北に接する 1994 年の発掘調査では 4 世紀後半の方形周溝墓からウマの歯がまとまって出土しており（山梨県教育委員会 1996）、古墳時代前期にウシとウマとが塩部集落において飼われていたことになる。この時期のウマとしては甲斐国古墳発生の曾根丘陵地域である甲府市東山北遺跡の方形周溝墓からも出土しており（山梨県教育委員会 1993）、墓との関わりが強いことが考えられる。全国例では後期古墳にウシ埴輪も見られるが、集落遺跡からウシが出土することの意味も考えねばならない。牛革や蘇がこの時期にも求められていたのであろうか。いずれにしても前期古墳が集中する甲府盆地南部の曾根丘陵地域と向かい合った盆地北部の塩部一帯に、ウシ・ウマを保有する集団が存在していた可能性が窺われ、大きな問題を提示したことになる。

## 引用文献

- 今福利恵 2004a 『百々遺跡 2・4』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 212 山梨県教育委員会  
今福利恵 2004b 『百々遺跡 3・5』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 213 山梨県教育委員会  
上野晴朗 1962 『勝沼町と葡萄の歴史』『勝沼町誌』勝沼町誌刊行委員会  
新津 健 2017 『文化的景観の視点からみた山梨の歴史環境（4）～日川流域：勝沼周辺の歴史景観～』  
『山梨県考古学協会誌』25 山梨県考古学協会  
山梨県教育委員会 1993 『東山北遺跡 -1～3 次-』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 79  
山梨県教育委員会 1996 『塩部遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 123  
山梨県教育委員会 1997 『大師東丹保遺跡 I 区』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 131



調査区全景モザイク写真

図版 2



S1 完掘 南から



S11 カマド検出状況 南から



S11 カマド遺物出土状況 南から



S11 カマド堀方 南から



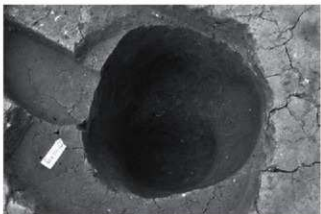
Pit80 (S11 柱穴) 完掘 南から



Pit85 (S11 柱穴) 完掘 南から



Pit419 (S11 柱穴) 完掘 東から



Pit424 (S11 柱穴) 完掘 北から



SI2 完掘 南から



SI2 完掘 北西から



SI2 炉検出土状況 南東から



SI2 遺物出土状況 南東から



SI2 遺物出土状況 北東から



Pit92 (SI2 柱穴) 完掘 南から



Pit122 (SI2 柱穴) 完掘 北から



Pit123 (SI2 柱穴) 完掘 北から



S13 完掘 南西から



S13 完掘 東から



S13 炉竈出土状況 北から



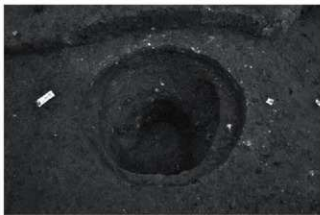
SK4 遺物出土状況 南から



Pit138 (S13 柱穴) 遺物出土状況 北から



Pit138 (S13 柱穴) 完掘 南から



Pit77 (S13 柱穴) 完掘 南から



Pit79 (S13 柱穴) 完掘 北から



S14 完掘 東から



S14 炉検出状況 南から



S14 遺物出土状況 北西から



Pit140 (S14内) 遺物出土状況 西から



Pit23 (S14a 柱穴) 完掘 北から



Pit75 (S14a 柱穴) 完掘 西から



Pit99 (S14b 柱穴) セクション 南西から



Pit125 (S14a 柱穴) 完掘 西から





Pit130 (S14b 柱穴) 遺物出土状況 西から



Pit143 (S14b 柱穴) 粘土塊出土状況 西から



S15 遺物出土状況 西から



S15 遺物出土状況 東から



S15 遺物出土状況 南東から



S15 炉セクション 南から



S16 床面検出状況 南西から

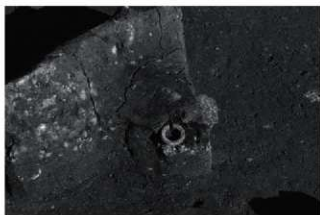


S16 掘方 西から





S16 炉検出土状況 西から



S16 金環出土状況 西から



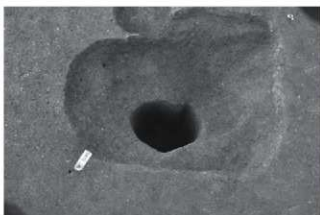
S16 床面遺物出土状況 南東から



S16 床面礫出土状況 西から



S16 集石出土状況 南から



Pit160 (S16 柱穴) 完掘 南から



Pit161 (S16 柱穴) 完掘 南から



Pit162 (S16 柱穴) 完掘 南から



Pit166 (S16 柱穴) 完照 東から



Pit163 (S16 内) セクション 南から



S17 掘方 南から



S17b 炉・炭化材出土状況 東から



S17a 遺物出土状況 北から



S17a 遺物出土状況 北から



S17a 土器集中部 北東から



S17a 遺物出土状況 北から



Pit181 上面 (SI7内) 甔出土状況 南から



Pit180 (SI7内) 遺物出土状況 北から



Pit182 (SI7内) 遺物出土状況 東から



Pit189 (SI7b①柱穴) 完掘 東から



Pit195 (SI7b①柱穴) 完掘 南から



Pit205 (SI7b①柱穴) 完掘 西から



Pit229 (SI7b①柱穴) 完掘 南から



Pit184 (SI7b②柱穴) 完掘 北から



Pit197 (S17b②柱穴) 完堀 南から



Pit245 (S17b②柱穴)・246 セクション 南から



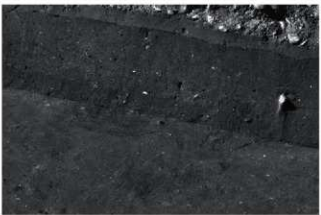
Pit584 (S17b②柱穴) 東から



SK22 (S17内) セクション 南東から



S18 遺物出土状況 南東から



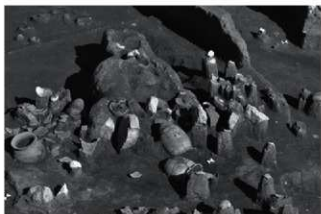
S18 焼土検出土状況 東から



S19 カマド遺物出土状況 南西から



S19 カマド遺物出土状況 南から



S19 カマド遺物出土状況 南から



S19 カマド遺物出土状況 南東から



S19 カマド遺物出土状況 南から



S19 カマド断割 南から



S19 カマド断割 南から



S19 カマド完堀 南から



S110 床面検出状況 南から



S110 炭化材検出状況 南西から



S110 炭化材検出状況 東から



S110 完掘 南から



S110 炉検出状況 南東から



S110 礫出土状況 西から



S110 遺物出土状況 北東から



SK25 (S110内) セクション 南から

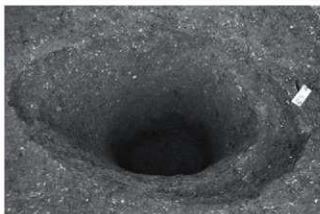


Pit201 (S110a 柱穴) セクション 南から



Pit201 (S110a 柱穴) 完掘 南から

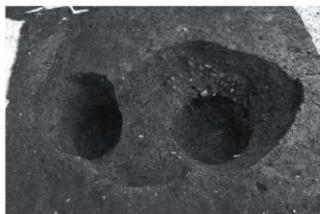




Pit202 (SI10a 柱穴) 完掘 南から



Pit203 (SI10a 柱穴) セクション 西から



Pit202・203 (SI10a 柱穴) 完掘 西から



Pit204 (SI10a 柱穴) 完掘 南から



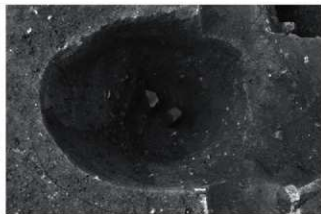
Pit210 (SI10b 柱穴) 完掘 西から



Pit211 (SI10b 柱穴) 完掘 西から



Pit230 (SI10b 柱穴) 完掘 東から



Pit259 (SI10b 柱穴) 遺物出土状況 南から



S111 完掘 南から



S111 完掘 南西から



S112a 完掘 南から



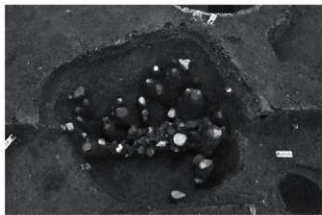
S112b 完掘 南から



S112a 伊換出土状況 南から



SK27 (S112 柱穴) セクション 南から



SK27 (S112a 柱穴) 礎出土状況 南から



SK28 (S112 内) 上面遺物出土状況 南から





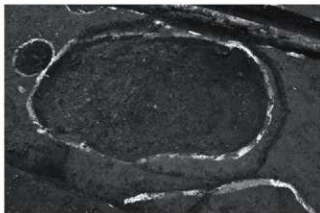
SK28 (SI12内) セクション 南から



SK31 (SI12内) セクション 南から



SK31 (SI12内) 遺物出土状況 南から



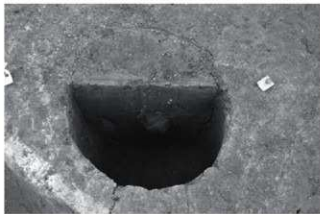
SK31 (SI12内) 完掘 南から



Pit244 (SI12b 柱穴) 完掘 南から



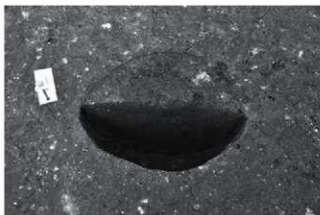
Pit248 (SI12a 柱穴) セクション 南西から



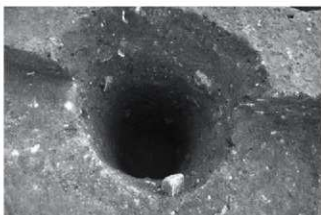
Pit250 (SI12b 柱穴) セクション 南から



Pit256・255 (SI12b 柱穴) セクション 南から



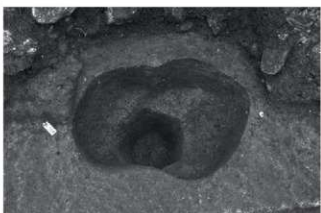
Pit257 (SI12b 柱穴) セクション 南から



Pit265 (SI12a 柱穴) 完掘 北から



Pit270 (SI12a 柱穴) 遺物出土状況 北から



Pit270 (SI12a 柱穴) 完掘 北から



SI13 セクション 北から



SI13 セクション 西から



SI13 遺物出土状況 西から



SI13 遺物出土状況 東から



SI13 カマド完掘 南から



SI13 完掘 東から



SI13 完掘 北から



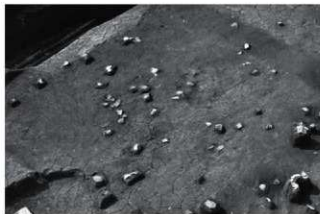
SI13 完掘 西から



SI14 セクション 南から



SI14 伊検出状況 西から



SI14 遺物出土状況 東から



SI14 完掘 南から



SI15・SI16 セクション 南から



SI15 遺物出土状況 西から



SI15 炉セクション 南から



SI15 炉遺物出土状況 南から



SI15 炉完掘 南から



SI15 炉火床部断割 南から



SI16 遺物出土状況 南から



SI16 遺物出土状況 東から



SI16 炉完掘 北から



SI16 炉を切る SD14 南から



SI16 (Pit324) 遺物出土状況 東から



SI15・SI16 完掘 南から



SI17 セクション 西から



SI17 遺物出土状況 南から



SI17 (Pit355) D14 遺物出土状況 東から



SD14 完掘 SI17 を切る 南から





S17・S18 完掘 南から



S17・S18 完掘 西から



S19 遺物出土状況 西から



S19 完掘 南から



S19 完掘 東から



S20 遺物出土状況 北から



S20 遺物出土状況 西から



S20・S21 完掘 北から



S122 遺物出土状況 南から



S122 遺物出土状況 北から



S122 遺物出土状況 南から



S122 カマドセクション 北から



S122 カマド遺物出土状況 南から



S122 カマド遺物出土状況 西から



S122 カマド完掘 西から



S122 完掘 西から



SI23 セクション 東から



SI23 遺物出土状況 南から



SI23 遺物出土状況 南から



SI23 遺物出土状況 西から



SI24 白玉出土状況 南から



SI24 セクション 南から



SI24 遺物出土状況 東から



SI24 (SK35) セクション 北から





SI24 (SK35) 遺物出土状況 東から



SI24 (SK35) 発掘 北から



SI25 遺物出土状況 西から



SI25 カマド遺物出土状況 西から



SI25 カマド発掘 南から



SI25 カマド発掘 南から



SI25 (SK43) 発掘 西から



SI25 発掘 南から



SI24・SI26 検出状況 西から



SI26 発掘 東から



SI27 管玉出土状況 北から



SI27 遺物出土状況 西から



SI27 遺物出土状況 北から



SI27 カマド遺物出土状況 西から



SI27 (SK38) セクション 南から



SI27 (SK39) 遺物出土状況 南から



SI27 カマドセクション 東から



SI27 カマド遺物出土状況 東から



SI27 カマド完掘 東から



SI27 完掘 東から



SI28 遺物出土状況 東から



SI28 遺物出土状況 西から



SI28 カマド検出状況 北から



SI28 完掘 東から



S129 遺物出土状況 東から



S129 遺物出土状況 南から



S130 遺物出土状況 東から



S130 遺物出土状況 東から



S130 完掘 西から



S129・S130 完掘 東から



S131 遺物出土状況 西から



S131 完掘 南から



SI32 遺物出土状況 北から



SI32 遺物出土状況 西から



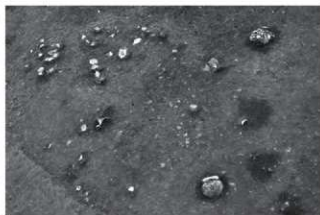
SI32・Pit554 完掘 南から



SI32 完掘 西から



SI33 セクション 東から



SI33 遺物出土状況 西から



SI33 完掘 東から



SI34 完掘 東から





SI35 遺物出土状況 東から



SI35 遺物出土状況 北から



SI35 遺物出土状況 西から



SI35 遺物出土状況 北から



SI35 遺物出土状況 南から



SI35 完掘 西から



SI36 遺物出土状況 南から



SI35・SI36 完掘 南から



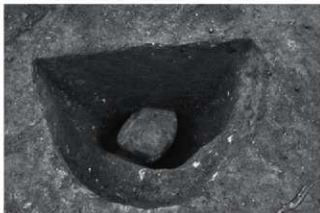
S137 セクション 北から



S137 セクション 北から



S137 (Pit561) 遺物出土状況 東から



S137 (Pit543) セクション 北から



S137 カマド完掘 西から



S137 完掘 東から



S138 遺物出土状況 南から



S138 完掘 西から



S139 遺物出土状況 南から



S139 カマド完掘 南から



S139 完掘 南から



S139 完掘 北から



S140 遺物出土状況 南から



S140 炉核出土状況 北から



S140 完掘 南から



S143 遺物出土状況 南から





S81 完掘 西から



Pit6 (S81 柱穴) 完掘 南から



Pit9 (S81 柱穴) 完掘 南から



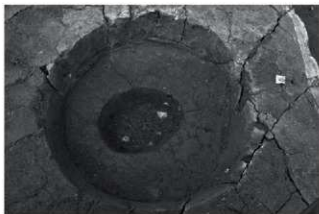
Pit11 (S81 柱穴) 完掘 南から



Pit17 (S81 柱穴) 完掘 南から



Pit18 (S81 柱穴) 完掘 南から



Pit27 (S81 柱穴) 完掘 南から



Pit55 (S81 柱穴) セクション 南から



SB2 完掘 北から



SB2 完掘 東から



SB3・SB4 検出状況 北から



SB3 (SD23) セクション 東から



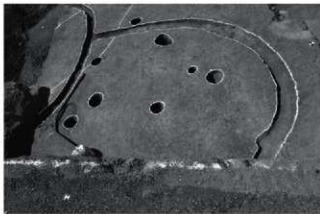
SB4 (SD24) セクション 南から



SB3 (SD23) 遺物出土状況 南から



SB4 (SD24) 遺物出土状況 南から



SB3 (SD23)・SB4 (SD24) 完掘 北から



SX2 完掘 西から



SX2 周辺遺物出土状況 西から



SX2 周辺遺物出土状況 南から



SX2 トレンチ遺物 西から



SX2 トレンチ完掘 西から



SX2 トレンチ完掘 北から



SX2 トレンチ完掘 南から



SX2 トレンチ完掘 南から



SK3 完照 東から



SK3 焼土検出状況 北東から



SK3 焼土検出状況 東から



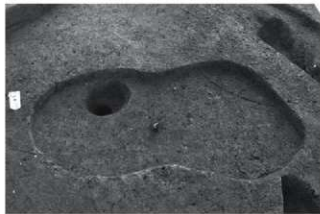
SK3 焼土検出状況 北から



SK3 遺物出土状況 東から



SK3 遺物出土状況 南から



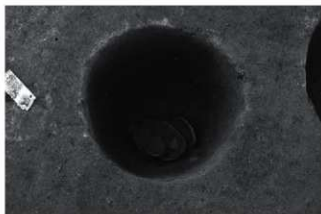
SK8 (SK3 内) 勾玉出土状況 北から



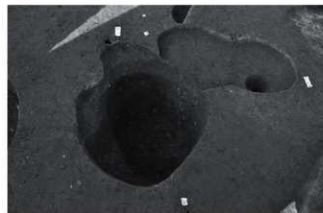
SK8 (SK3 内) 勾玉出土状況 北から



SK12 (SX3内) 遺物出土状況 東から



Pit105 (SX3内) 遺物出土状況 東から



SK9 (SX3a 柱穴) 完掘 南から



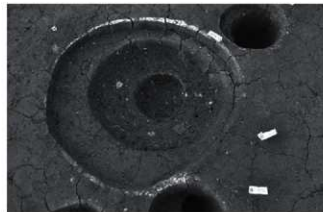
SK14 (SX3a 柱穴) 遺物出土状況 南から



Pit103 (SX3a 柱穴) 完掘 東から



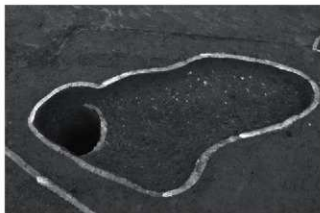
Pit127 (SX3a 柱穴・Si4 炉下) 完掘 南から



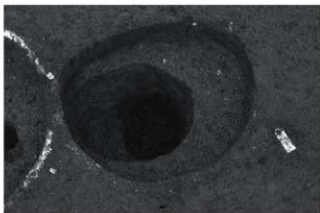
SK3 (SX3b 柱穴) 完掘 南から



SK13 (SX3b 柱穴) 遺物出土状況 南から



SK16 (SX3b 柱穴) 完掘 南西から



Pit69 (SX3b 柱穴) 完掘 南から



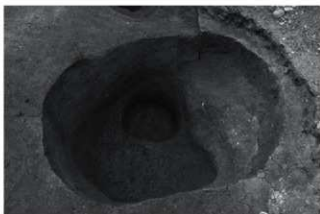
SK32 完掘 東から



SK33 (Pit415) 完掘 北から



SK34 遺物出土状況 北から



SK34 (Pit431) 完掘 北から



SK36 遺物出土状況 北から



SK37 遺物出土状況 南から





SD1 上層遺物出土状況 南から



SD1 上層遺物出土状況 西から



SD1 上層遺物出土状況 西から



SD1 上層遺物出土状況 南から



SD1 上層遺物出土状況 南から



SD1 上層石製品出土状況 西から



SD1 下層木製品出土状況 東から



SD1 下層木製品出土状況 南から



SD1 下層木製品出土状況 北から



SD1 下層木製品出土状況 南から



SD1 下層遺物出土状況 南から



SD1 下層横樋出土状況 南から



SD1 下層木製品出土状況 南から



SD1 下層木製容器出土状況 南から



SD2・5 発掘 南西から



SD2・5 セクション 南から





SD6 完掘 西から



SD6 遺物出土状況 西から



SD10 完掘 東から



SD10 セクション 東から



SD11・12 完掘 西から



SD11・12 完掘 東から



SD11 遺物出土状況 西から



SD12 遺物出土状況 北から



SD13 完掘 東から



SD13 完掘 北から



SD13 セクション 北から



SD13 遺物出土状況 北から



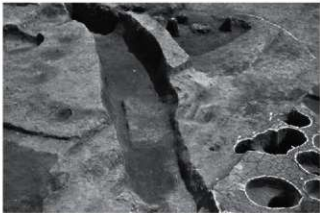
SD13 遺物出土状況 北から



SD13 完掘 西から



SD13 遺物出土状況 西から



SD13 完掘 西から



SD14 セクション 南から



SD25 発掘 南から



SD26 遺物出土状況 南から



SD27 遺物出土状況 東から



SD28 セクション 南から



SD30 セクション 北から



SD17 駿台甲府高校生徒体験発掘 南から



SD17 駿台甲府高校生徒体験発掘 東から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 南から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 東から



SD17 セクション 西から



SD17 発掘 西から



SD17 発掘 東から



SD17・SD32 交差点 西から



SD32 合流地点セクション 東から



SD32 セクション 西から



SD32 遺物出土状況 東から



SD32 発掘 西から

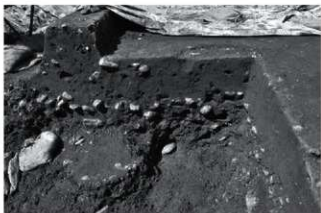


SD32 発掘 東から





SD33 検出状況 北から



SD33 遺物出土状況 南から



SD33 遺物出土状況 北から



SD33 遺物出土状況 西から



SD33 銅製品出土状況 西から



SD33 トレンチ完掘 東から



SD33 トレンチ完掘 東から

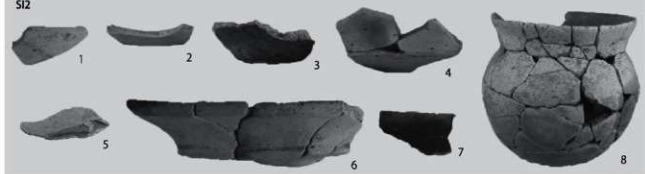


SD33 トレンチ完掘 北から

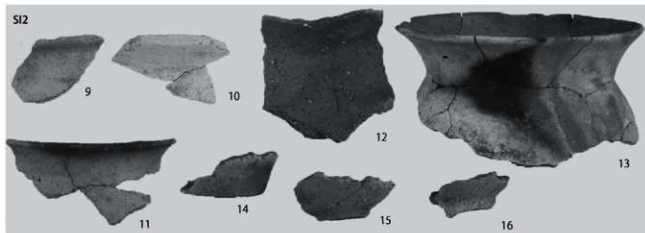
SI1



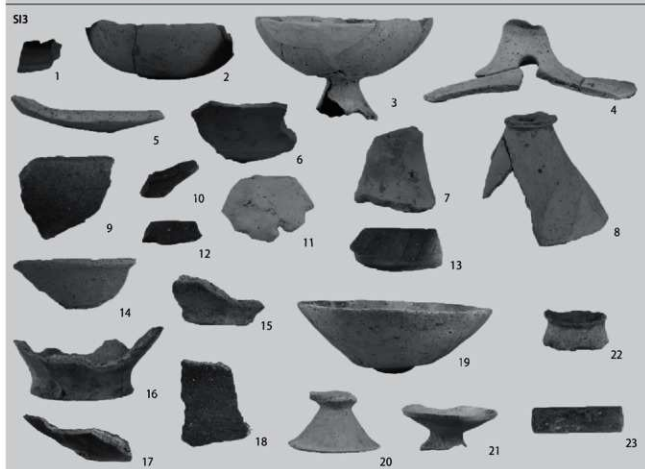
SI2



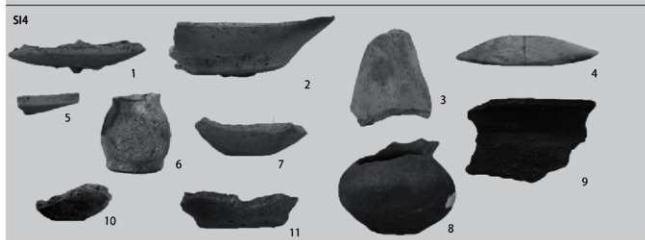
SI2



SI3

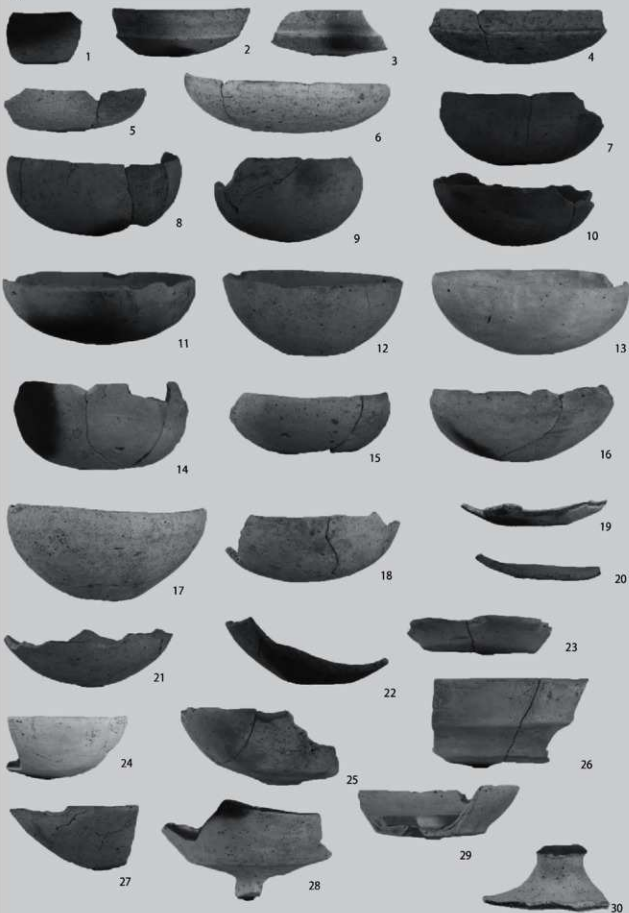


SI4

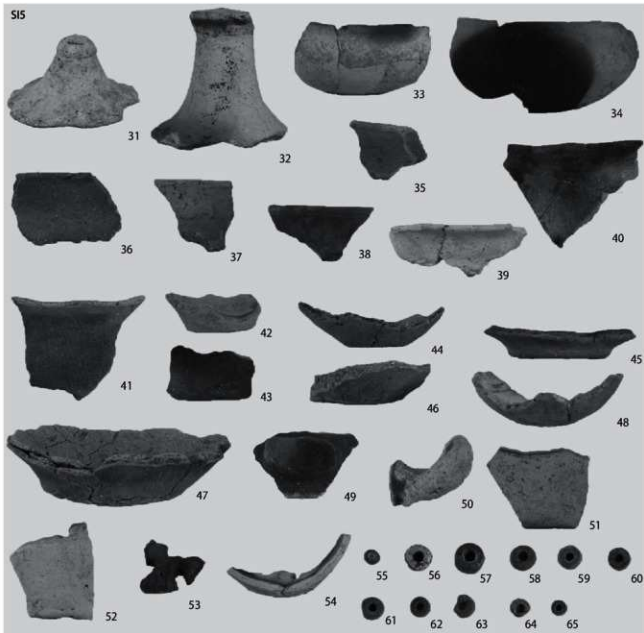




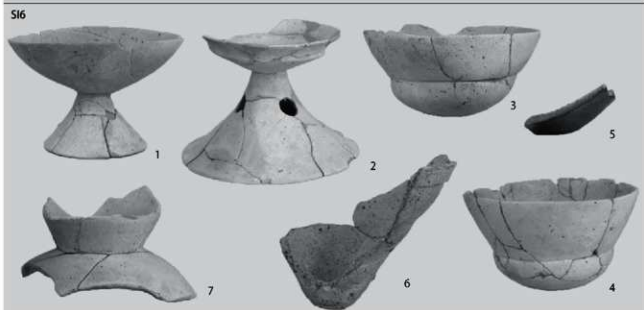
S15



S15



S16



SI6



S16



19



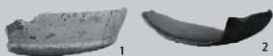
20

21



22

S17a



1

2



5

6



7



3



4



8



9



10



11



12



13

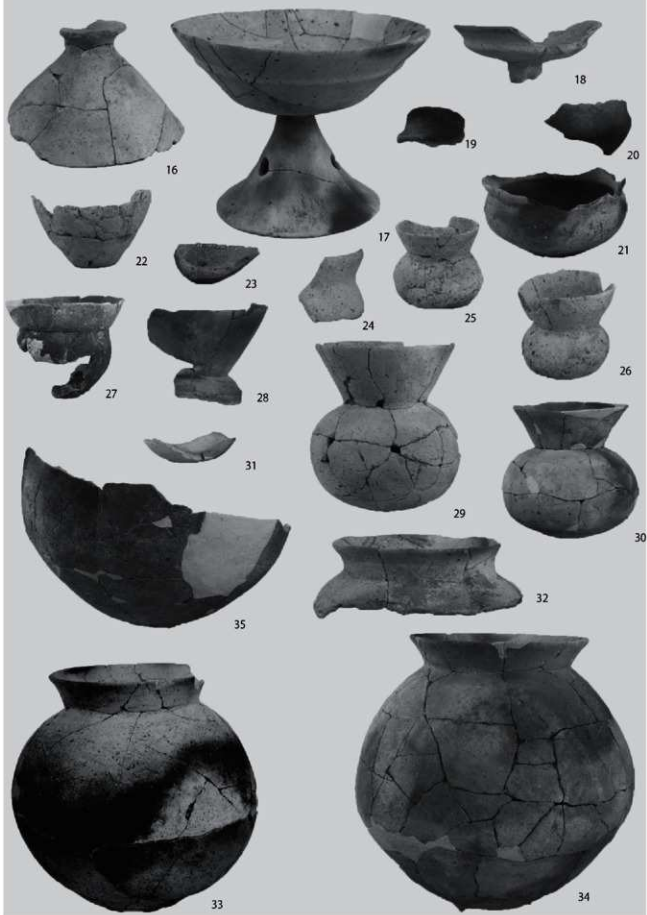


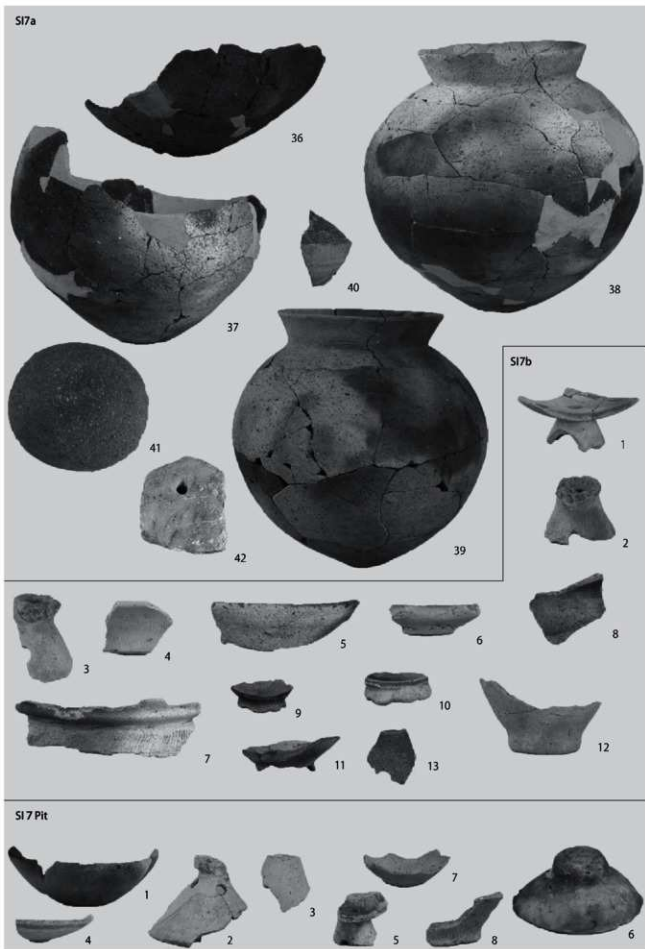
15



14

517a

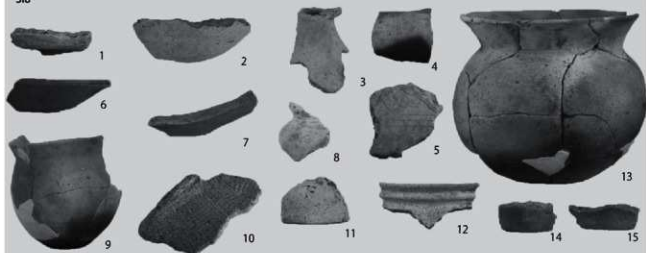




S17Pit



S18



S19



519

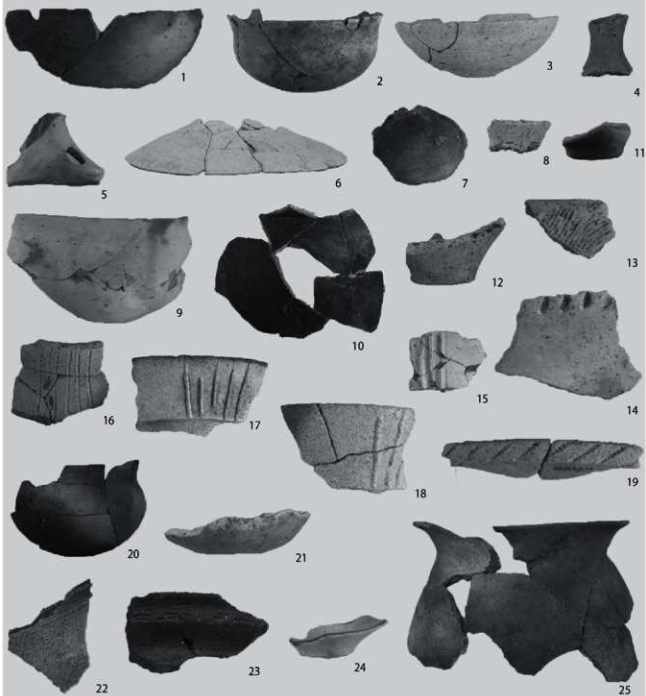




SI9



SI10



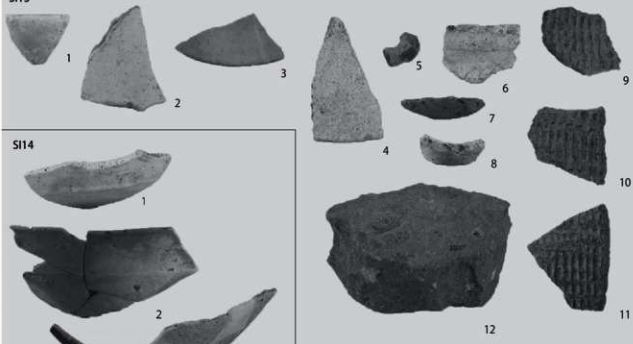
SI11



SI12



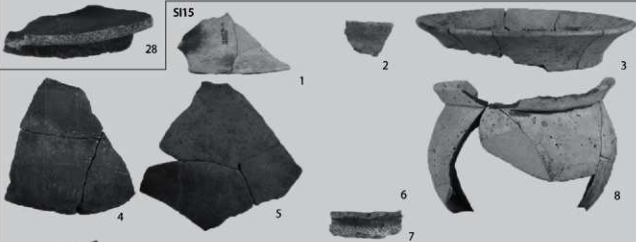
SI13



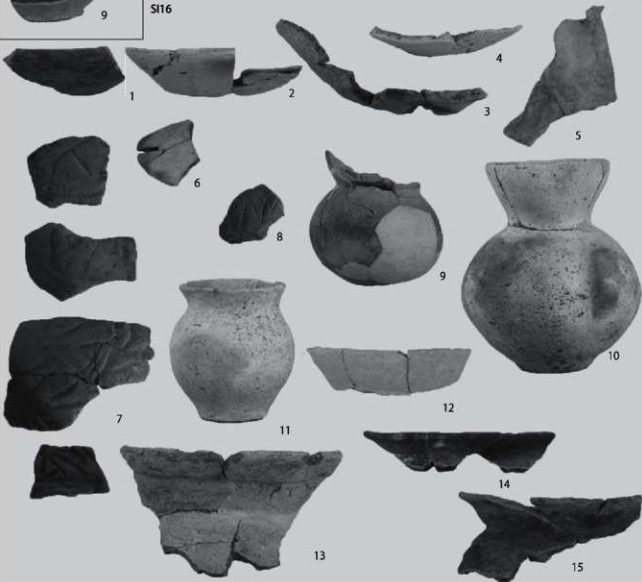
SI14



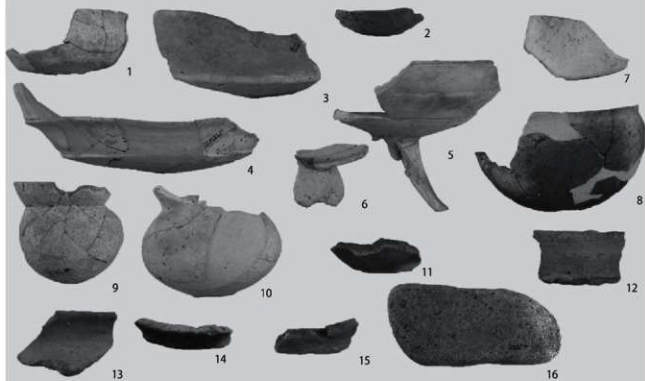
SI15



SI16



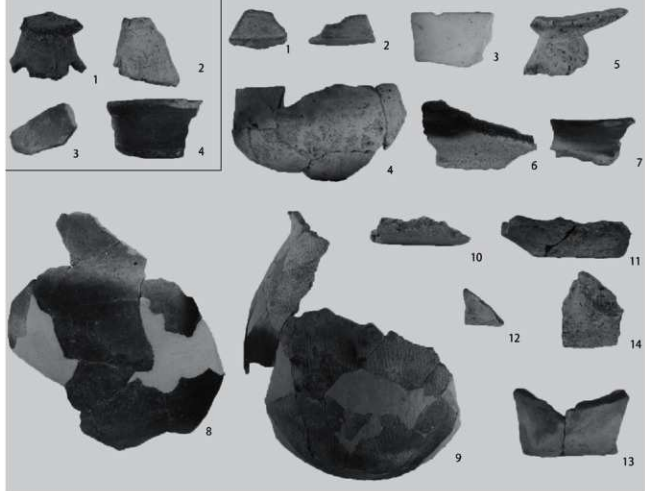
SI17



SI18



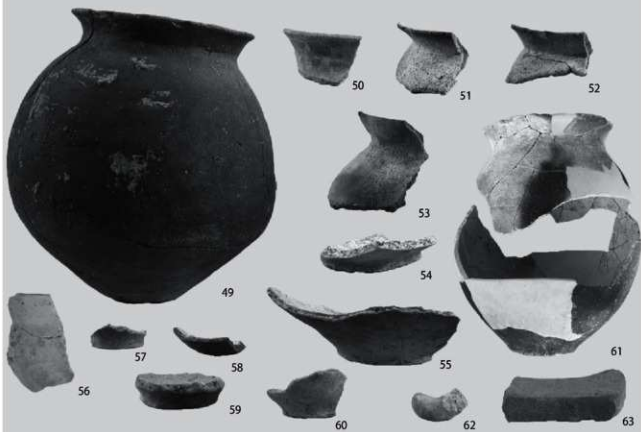
SI19



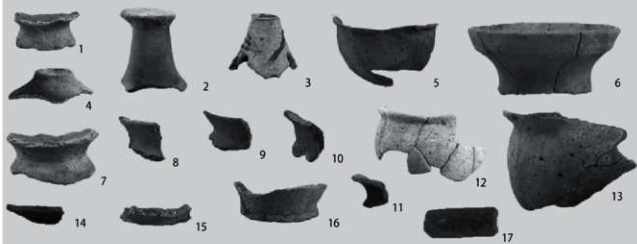
5120



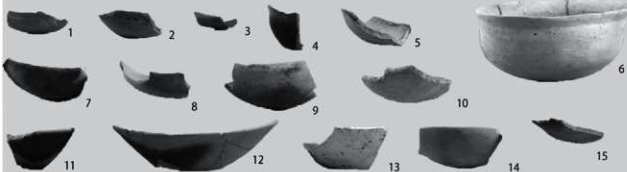
SI20



SI21



SI22



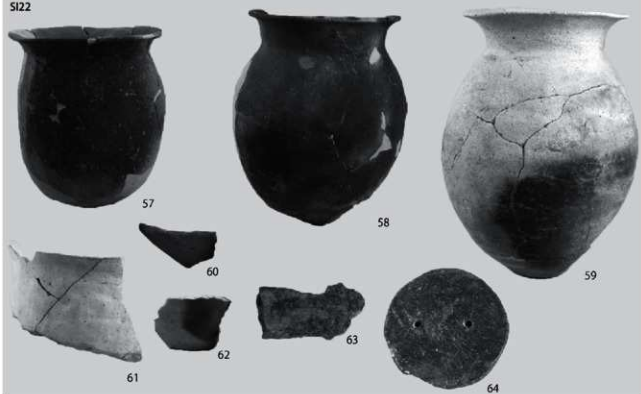
SI22



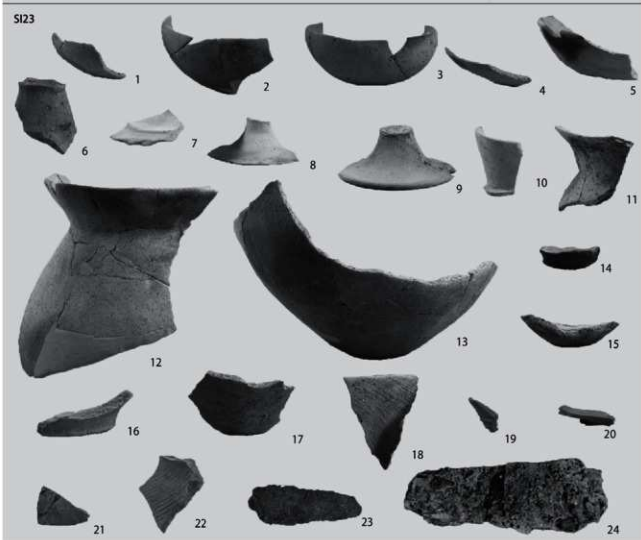
56



SI22



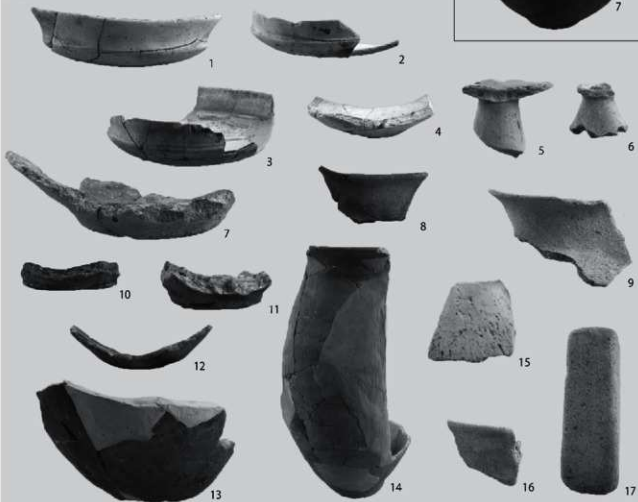
SI23



SI24



SI25



SI26



SI27



SI27



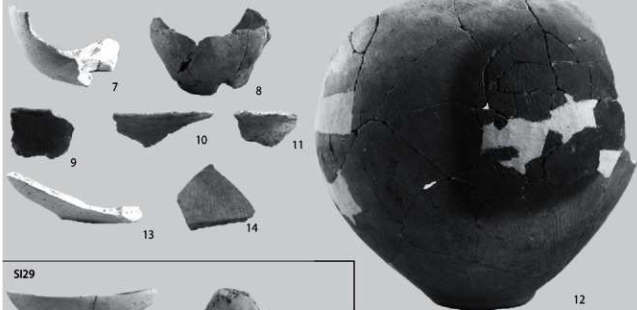
SI27



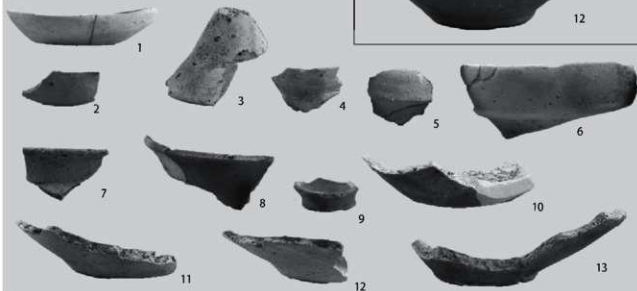
SI28



SI28

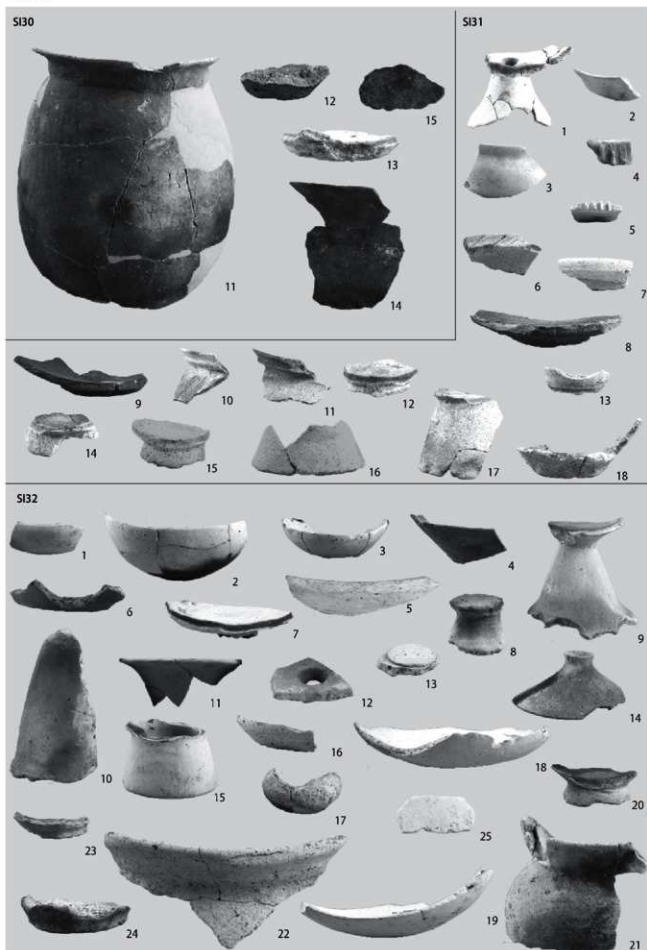


SI29

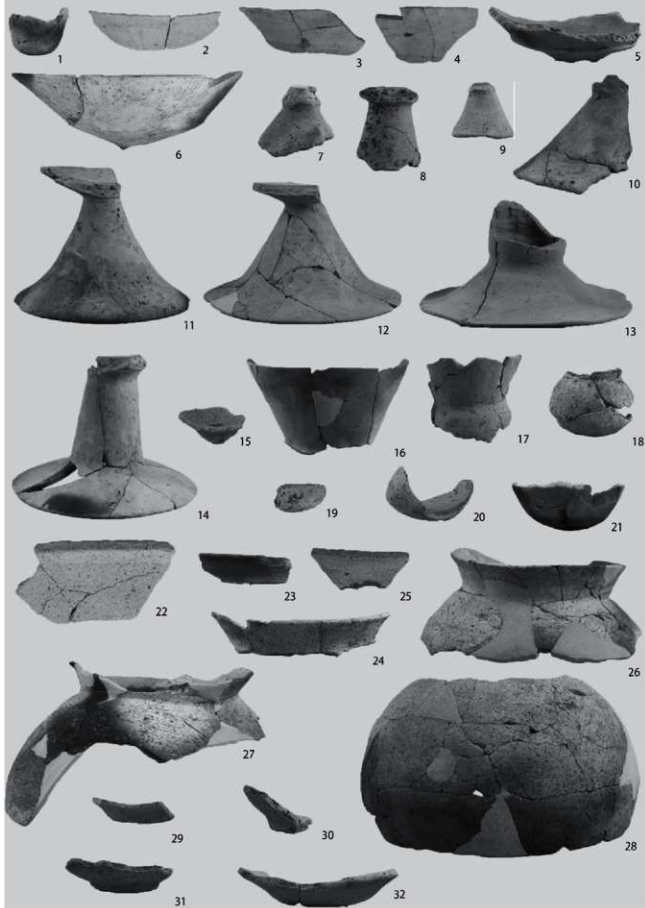


SI30





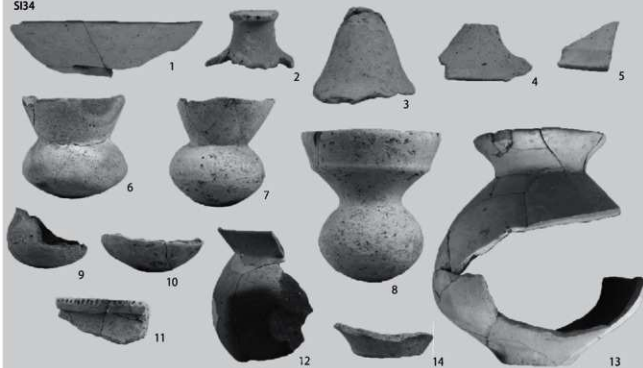
SI33



SI33



SI34



SI35





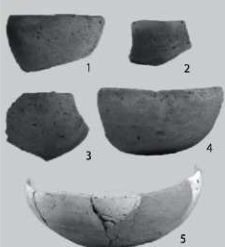
SI35



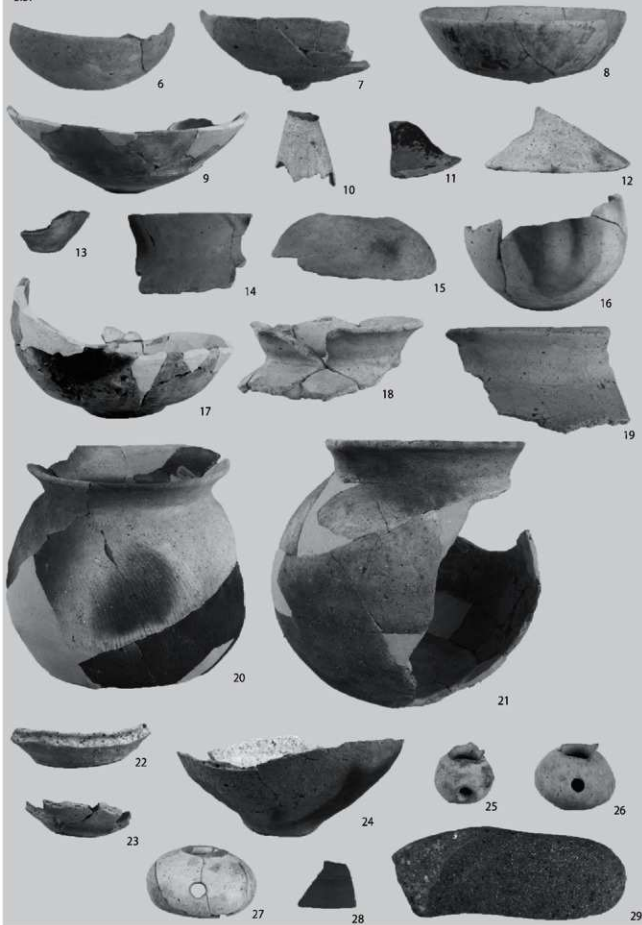
SI36



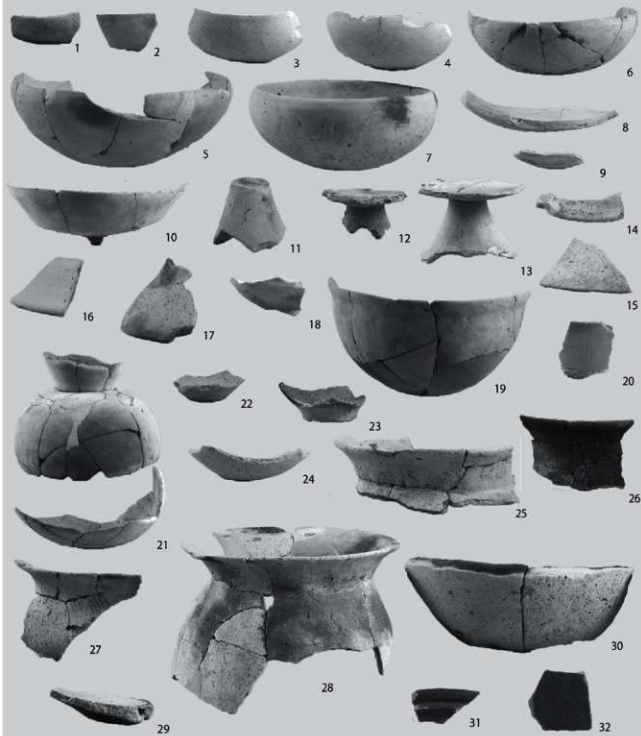
SI37



SI37



SI38



SI39



SI39



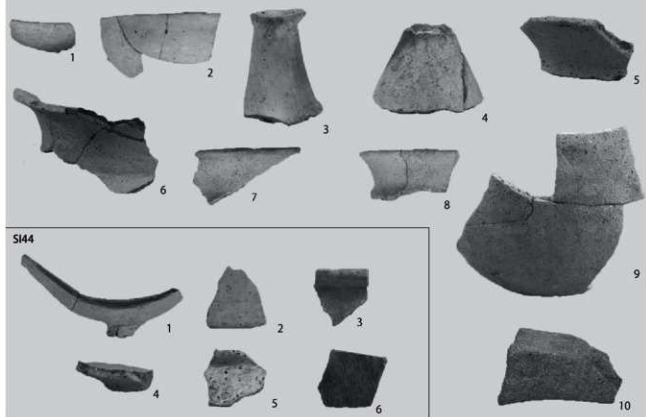
SI40



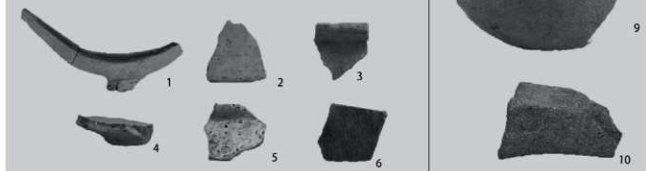
SI40



SI43



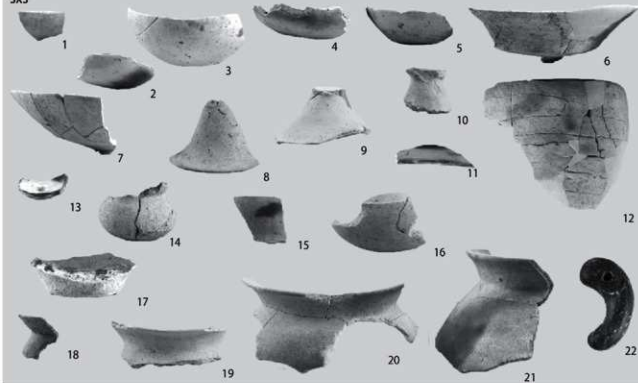
SI44



SX2



SX3



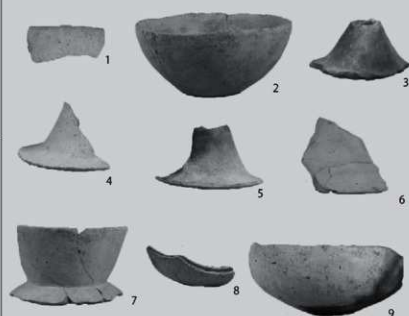
SK34



SK36



SK37



SK37



10



11



12



13



14



15

Pit12



1

Pit61

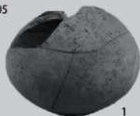


1



2

Pit105



1

Pit284



1

Pit291



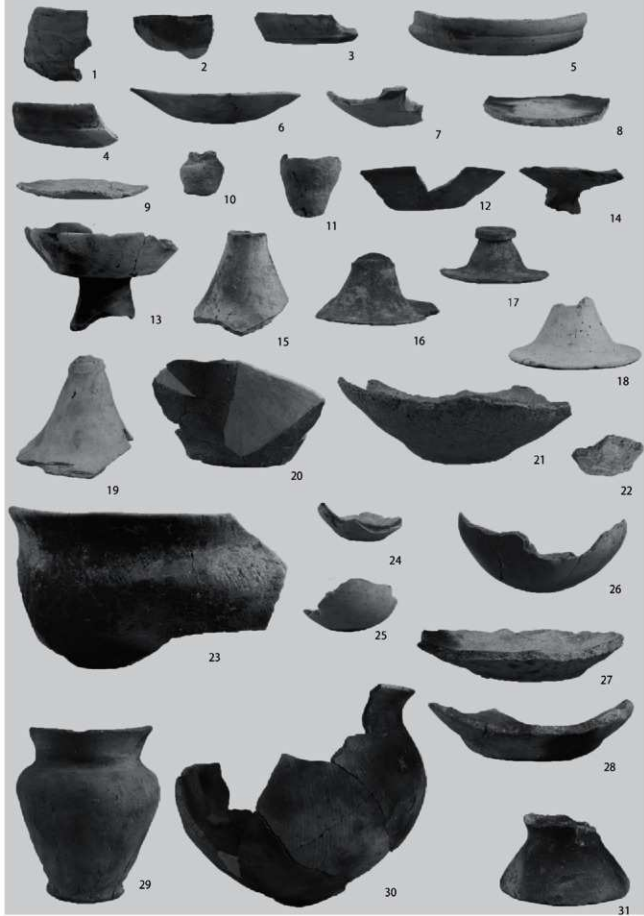
1

Pit292



1

SD1





SD1



32



34



35



33



36



37



38



39



40



41

SD1



42



43



44



45



46



47



50



48



49



51

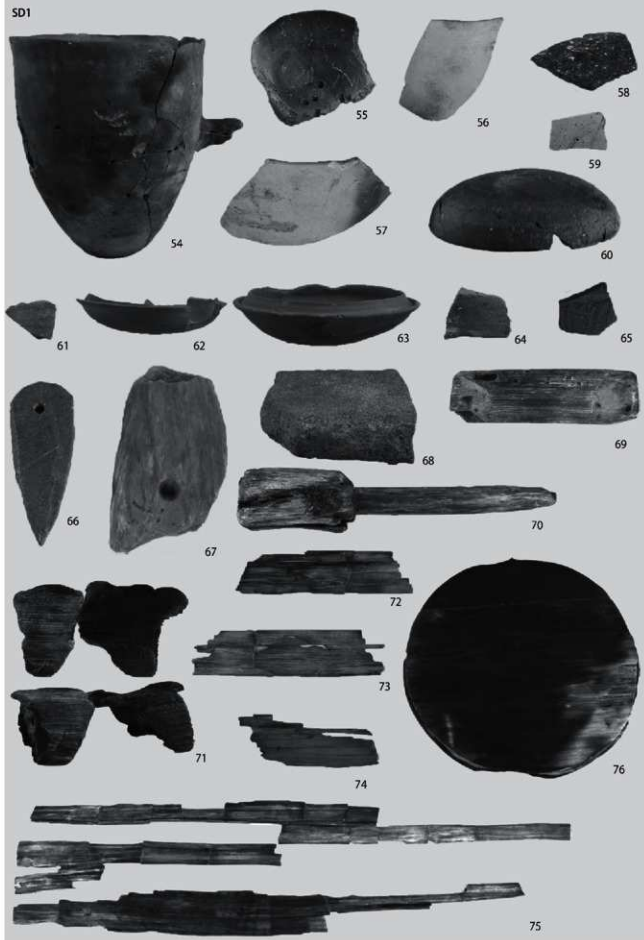


52



53

SD1



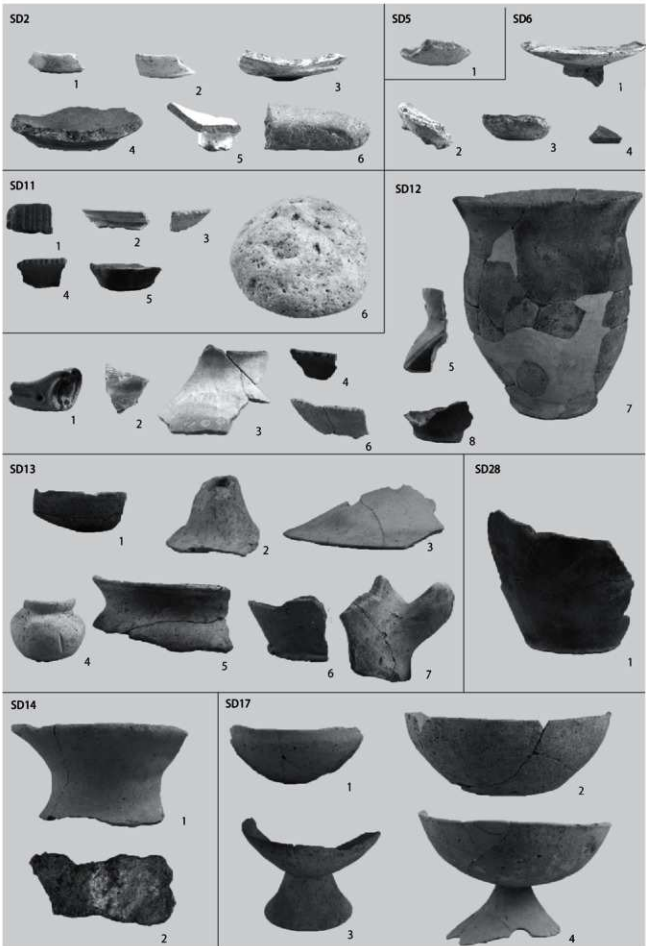
5D1



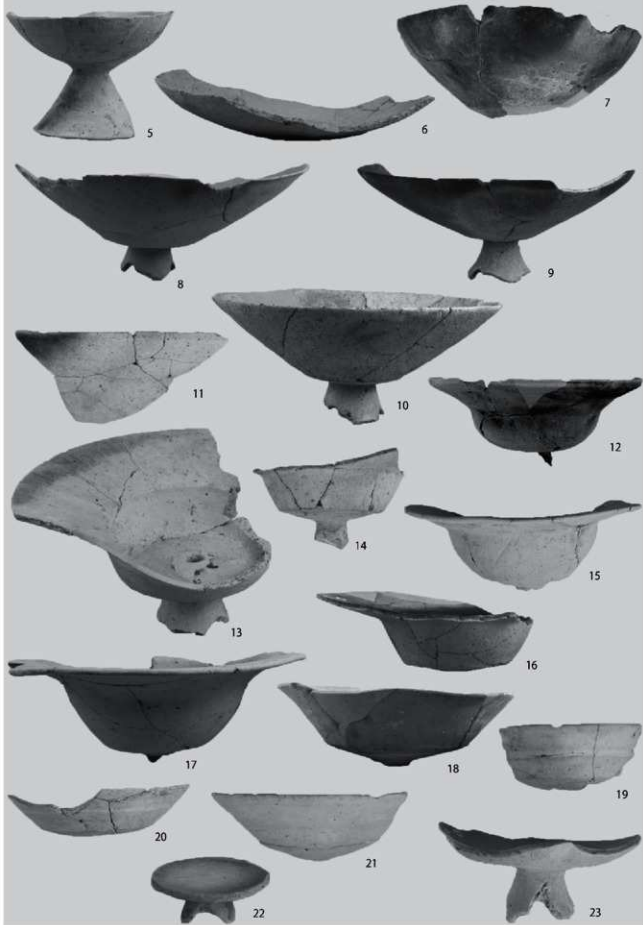
SD1







SD17





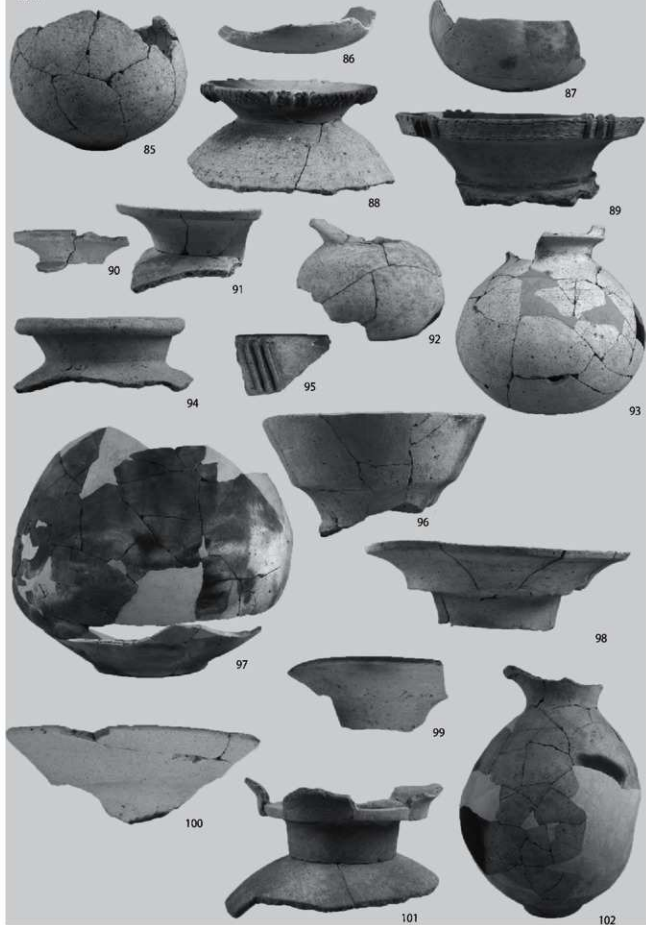
SD17



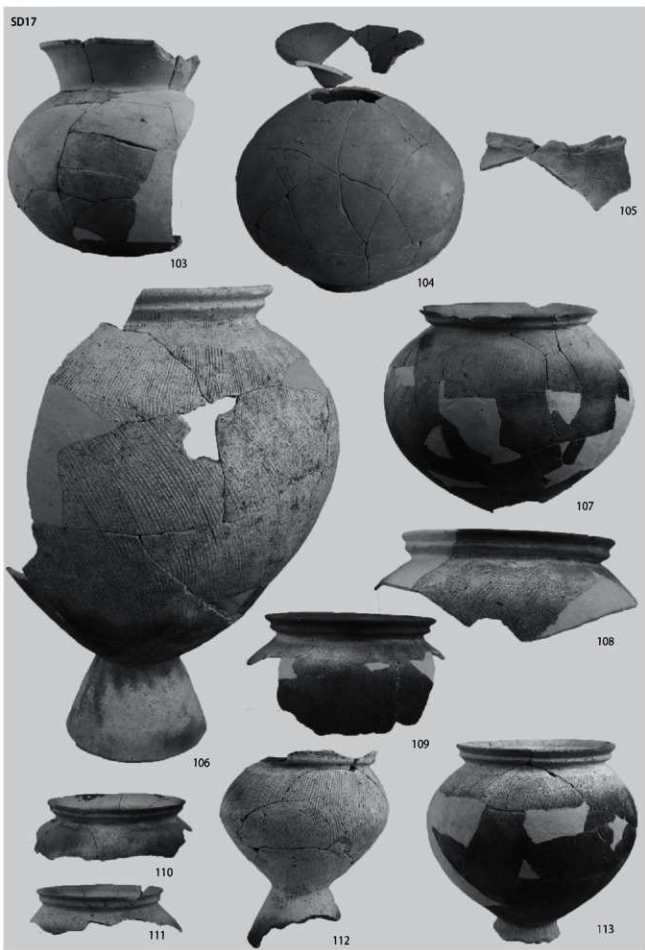
SD17



SD17



SD17



SD17



114



115



116



117



118



119



120



121



122



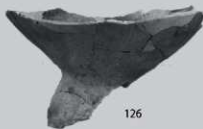
123



124



125

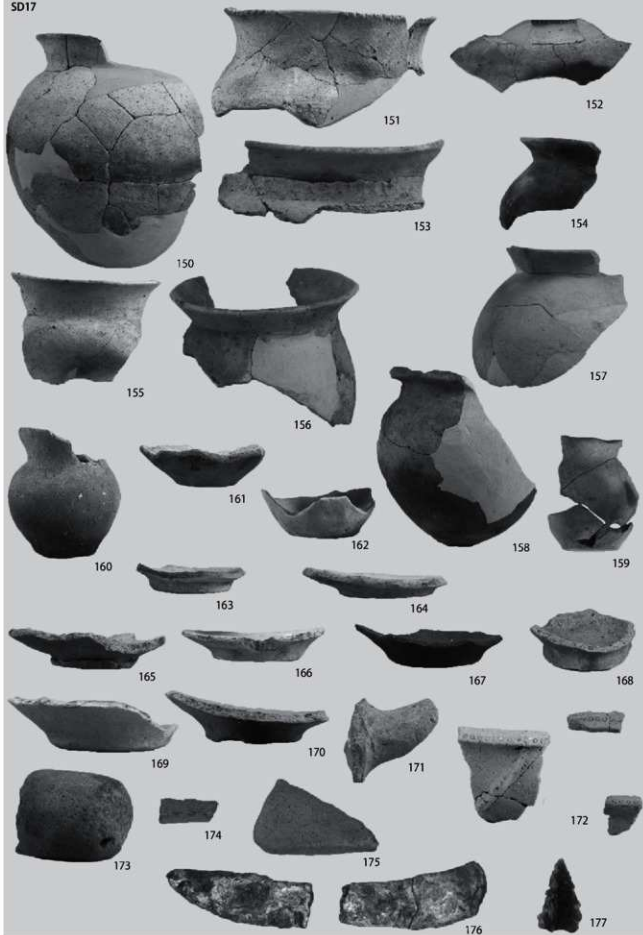


126

SD17



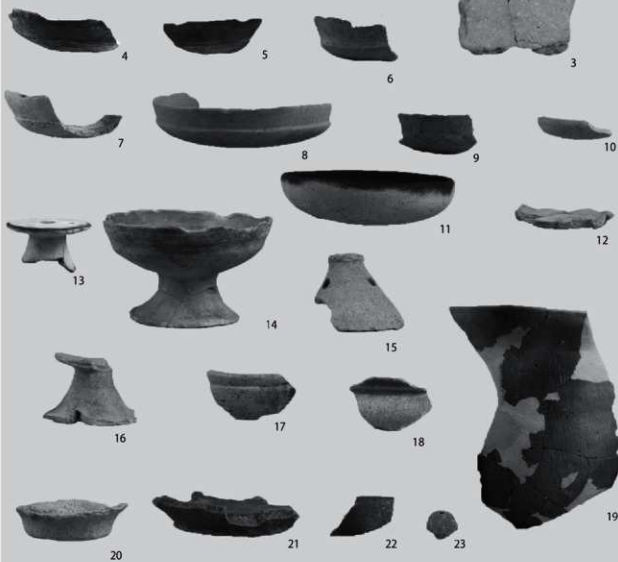
SD17



SD32



SD33



IG





# 報告書抄録

フリガナ	シオベイセキ							
書名	塩部遺跡Ⅲ							
副書名	学校法人駿台甲府学園 駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査報告書 (山梨県甲府市塩部二丁目1962-4番地他)							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告							
シリーズ番号	105							
編著者名	泉英樹・高野高潔							
編集機関	昭和測量株式会社							
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央3-11-27 ℡055-235-4448							
発行年月日	平成31年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シオベイセキ 塩部遺跡	ヤマナシケンコウフシ 山梨県甲府市 シオベニチョウイ 塩部二丁目 1962-4他	19201	74	35° 40' 13"	138° 33' 23"	H28. 10. 1 ～ H29. 9. 30	2,584	学校建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
シオベイセキ 塩部遺跡	集落跡	古墳時代	建物跡、溝・流路	土師器、須恵器 木製品、ガラス製品 金属製品、石製品 土製品		古墳時代前期から 後期の集落跡が確 認された。古墳時 代後期の木製品を 多数検出した。		

## 塩部遺跡Ⅲ

—学校法人駿台甲府学園駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査報告書—  
(山梨県甲府市塩部二丁目1962-4番地他)

発行日 平成31年3月31日  
編集 昭和測量株式会社  
〒400-0032 山梨県甲府市中央3-11-27 ℡055-235-4448  
発行 学校法人駿台甲府学園  
甲府市教育委員会  
昭和測量株式会社  
印刷 株式会社内田印刷所  
〒400-0032 山梨県甲府市中央2-10-18 ℡055-233-0188

---